岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第399集

泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書

一関遊水地事業関連遺跡発掘調査

（第１分冊）

国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書

（第１分冊）

序

本県には、旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、10,000カ所以上にも及ぶ遺跡が確認されております。先人の残した文化遺産を保護し、保存していくことは、私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、快適な生活を送るための地域開発と社会資本の充実もまた県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日における課題であり、財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を実施し、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、一関遊水地事業に係わる太田川堤防建設工事に関連して、平成８年度・11年度・12年度に実施した平泉町泉屋遺跡の調査結果をまとめたものであります。

発掘調査の結果、12世紀奥州藤原氏の時代に関係する遺物や遺構が多数発見され、貴重な資料を加えることができました。

この報告書が広く活用され、考古学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する関心と理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査ならびに報告書作成にご援助・ご協力を賜りました、国土交通省東北地方整備局・平泉町教育委員会をはじめとする多くの関係各位に衷心より謝意を表します。

平成15年２月

財団法人　岩手県文化振興事業団

理事長　合　田　　武

例　言

1．本報告書は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字泉屋23－８ほかに所在する、泉屋遺跡の第16次・19次・21次調査の製を収録したものである。

2．本遺跡の発掘調査は、一関遊水地事業太田川堤防工事に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会と国土交通省東北地方整備局との協議を経て（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3．岩手県遺跡登録台帳に記載されている遺跡番号はＮＥ76－1079、遺跡略号は調査次順にＩＹ－96－16・ＩＹ－99－19・ＩＹ－00－21である。

4．発掘調査は、平成８年度・11年度・12年度に実施した。各年度の調査期間・調査面積・調査担当者は次のとおりである。

＜第16次＞	平成８年４月９日～９月30日	1,760㎡	羽柴直人・杉沢昭太郎・千葉和弘
＜第19次＞	平成11年４月14日～11月12日	2,565㎡	佐々木務・吉川　徹・布谷義彦
＜第21次＞	平成12年５月18日～11月10日	1,875㎡	濱田　宏・吉川　徹・熊谷佳恵

調査面積合計　6,200㎡

5．室内整理期間・整理担当者は次のとおりである。

平成８年11月１日～平成９年３月31日　羽柴直人・千葉和弘
平成11年11月１日～平成12年３月31日　佐々木務・吉川　徹
平成12年11月１日～平成13年３月30日　濱田　宏・吉川　徹
平成13年４月１日～平成13年７月31日　濱田　宏

6．本報告書は執筆は、第16次調査分を羽柴が、第19・21次調査分を濱田・吉川が分担して行った。執筆者は文末に名前を付した。編集は、羽柴と濱田がそれぞれ行った。また、本報告書は整理の都合上、第16次調査分の報告と第19・21次調査分のそれを分離して二部構成としている。

7．各種出土遺物の分析・鑑定は次の方々に依頼した。（敬称略）

（１）石質鑑定	花崗岩研究会
（２）樹種同定	高橋利彦（木工舎「ゆい」）
（３）木製品・金属製品の保存処理	岩手県立博物館文化財科学
（４）ガラス玉の分析	岩手県立博物館文化財科学
（５）植物遺存体の分析	辻　誠一郎・辻　圭子（国立歴史民俗博物館）
（６）動物遺存体の鑑定	熊谷　賢（陸前高田市立博物館）
（７）火山灰分析	（株）パリノ・サーヴェイ
（８）国産陶器・中国産陶磁器の鑑定	八重樫忠郎（平泉町教育委員会）

8．本報告書作成にあたり、次の方々にご協力・ご指導いただいた。（敬称略）

飯村　均（福島県教育庁）、本澤慎輔・及川　司・八重樫忠郎・菅原計二・鈴木江利子・鹿野里絵（以上平泉町教育委員会）、辻　誠一郎・小野正敏（以上国立歴史民俗博物館）、及川真紀（前沢町教育委員会）、吉田　歓（東北大学）、岡田茂弘（東北歴史博物館）、久保智康（京都国立博物館）斎藤邦雄（柳之御所遺跡調査事務所）、国生　尚　国土交通省東北地方整備局　平泉町教育委員会

9．土層の観察は「新版標準土色帳」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、（財）日本色彩研究所監修 1989）を使用した。

10. これまでに、調査成果の一部を現地説明会試料や調査略報等に発表しているが、本書と記載事項が異なる場合はすべて本書が優先するものである。

11. 調査で得られた出土遺物や整理に係わる諸記録等については、すべて岩手県立埋蔵文化財センターが保管・管理している。

第1分冊目次

序

例言

第1章　調査に至る経過 …… 1

第2章　遺跡の立地と環境 …… 3

第1節　位置 …… 3

第2節　地形 …… 3

第3節　これまでの泉屋遺跡の調査 …… 6

第3章　調査と整理の方法 …… 7

第1節　調査の経過 …… 7

1　泉屋遺跡16次調査 …… 7

2　泉屋遺跡19次調査 …… 7

3　泉屋遺跡21次調査 …… 7

第2節　野外調査の方法 …… 7

第3節　室内整理の方法 …… 8

第4章　泉屋遺跡16次調査 …… 10

第1節　検出した遺構 …… 10

1　掘立柱建物 …… 10

2　柱列 …… 66

3　井戸 …… 69

4　土坑 …… 79

5　溝 …… 104

6　竪穴建物 …… 116

第2節　出土遺物 …… 118

1　古代の土師器、須恵器 …… 119

2　かわらけ …… 126

（1）手づくねかわらけ …… 126

（2）ロクロかわらけ …… 132

（3）内折れ、柱状高台かわらけ …… 132

（4）13～14世紀のかわらけ …… 132

3　国産陶器 …… 133

（1）常滑産陶器 …… 133

（2）渥美産陶器 …… 133

（3）須恵器系陶器 …… 133

（4）中世の瓷器系陶器 …… 142

4　中国産磁器 …… 142

（1）12世紀の中国産磁器 …… 142

（2）中世の中国産磁器 …… 142

5　瓦 …… 145

6　近世の陶磁器 …… 145

（1）近世の磁器 …… 145

（2）近世の陶器 …… 150

7　木製品 …… 157

8　石製品 …… 162

9　金属製品 …… 168

（1）銭貨 …… 168

（2）その他の金属製品 …… 171

10　その他の遺物 …… 174

11　縄文時代の遺物 …… 176

（1）縄文時代の土器 …… 176

（2）縄文時代の石器 …… 184

第3節　まとめ …… 209

1　遺構 …… 209

2　遺物 …… 210

第4節　泉屋遺跡16次調査におけるトイレ遺構分析 …… 212

写真図版 …… 224

〈図版・表目次〉

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　基本層序 …… 4
第３図　泉屋遺跡の周辺地形と調査区 …… 5

〔泉屋遺跡16次調査〕

第４図　泉屋遺跡16次調査全体図 …… 9
第５図　掘立柱建物①（16ＳＢ１～３） …… 11
第６図　掘立柱建物②（16ＳＢ４、５） …… 13
第７図　掘立柱建物③（16ＳＢ６） …… 15
第８図　掘立柱建物④（16ＳＢ６） …… 16
第９図　掘立柱建物⑤（16ＳＢ７～９） …… 18
第10図　掘立柱建物⑥（16ＳＢ10～13） …… 20
第11図　掘立柱建物⑦（16ＳＢ14～16） …… 22
第12図　掘立柱建物⑧（16ＳＢ17～19） …… 24
第13図　掘立柱建物⑨（16ＳＢ20～22） …… 26
第14図　掘立柱建物⑩（16ＳＢ23、24） …… 28
第15図　掘立柱建物⑪（16ＳＢ25～27） …… 30
第16図　掘立柱建物⑫（16ＳＢ28） …… 32
第17図　掘立柱建物⑬（16ＳＢ29） …… 33
第18図　掘立柱建物⑭（16ＳＢ30） …… 35
第19図　掘立柱建物⑮（16ＳＢ31） …… 36
第20図　掘立柱建物⑯（16ＳＢ32） …… 38
第21図　掘立柱建物⑰（16ＳＢ33） …… 40
第22図　掘立柱建物⑱（16ＳＢ34、35） …… 41
第23図　掘立柱建物⑲（16ＳＢ36、37） …… 43
第24図　掘立柱建物⑳（16ＳＢ38、39） …… 45
第25図　掘立柱建物㉑（16ＳＢ40～42） …… 47
第26図　掘立柱建物㉒（16ＳＢ43～45） …… 49
第27図　掘立柱建物㉓（16ＳＢ46～48） …… 51
第28図　掘立柱建物㉔（16ＳＢ49～51） …… 53
第29図　掘立柱建物㉕（16ＳＢ52～54） …… 55
第30図　掘立柱建物㉖（16ＳＢ55～58） …… 57
第31図　掘立柱建物㉗（16ＳＢ59～61） …… 59
第32図　掘立柱建物㉘（16ＳＢ62～64） …… 61
第33図　掘立柱建物㉙（16ＳＢ65～67） …… 63
第34図　掘立柱建物㉚（16ＳＢ68～69） …… 65
第35図　柱列（16柱列１～５） …… 67
第36図　井戸①（16ＳＥ１～３） …… 70
第37図　井戸②（16ＳＥ４、５） …… 72
第38図　井戸③（16ＳＥ６、７） …… 74
第39図　井戸④（16ＳＥ８～10） …… 75
第40図　井戸⑤（16ＳＥ11、12、14） …… 77
第41図　井戸⑥（16ＳＥ13） …… 78
第42図　土坑①（16ＳＫ１～８） …… 80
第43図　土坑②（16ＳＫ９～16） …… 83
第44図　土坑③（16ＳＫ17～20） …… 86
第45図　土坑④（16ＳＫ21～28） …… 88
第46図　土坑⑤（16ＳＫ29～36） …… 91
第47図　土坑⑥（16ＳＫ37～44） …… 94
第48図　土坑⑦（16ＳＫ48～59） …… 98
第49図　土坑⑧（16ＳＫ101～109） …… 102
第50図　溝①（16ＳＤ１～３、６） …… 106
第51図　溝②（16ＳＤ７～10） …… 108
第52図　溝③（16ＳＤ11、15、16） …… 110
第53図　溝④（16ＳＤ14、17～19） …… 112
第54図　溝⑥（16ＳＤ20、21） …… 114
第55図　溝⑥（16ＳＤ５、12、13） …… 115
第56図　古代の竪穴建物（16ＳＩ１、２） …… 117
第57図　古代の土師器、須恵器①（１～８） …… 120
第58図　古代の土師器、須恵器②（９～21） …… 121
第59図　古代の土師器、須恵器③（22～32） …… 122
第60図　古代の土師器、須恵器④（33～50） …… 123
第61図　古代の土師器、須恵器⑤（51～63） …… 124
第62図　古代の土師器、須恵器⑥（64～74） …… 125
第63図　古代の土師器、須恵器⑦（75～79） …… 126
第64図　12世紀のかわらけ①（1001～1021） …… 127
第65図　12世紀のかわらけ②（1022～1043） …… 128
第66図　12世紀のかわらけ③（1044～1068） …… 129
第67図　12世紀のかわらけ④（1069～1092） …… 130
第68図　12世紀のかわらけ⑤（1093～1116） …… 131
第69図　12世紀のかわらけ⑥
　　13、14世紀のかわらけ（1119～1125） …… 132
第70図　常滑産陶器①（2001～2011） …… 134
第71図　常滑産陶器②（2012～2023） …… 135
第72図　常滑産陶器③（2024～2036） …… 136
第73図　渥美産陶器①（2037～2052） …… 137
第74図　渥美産陶器②（2053～2066） …… 138
第75図　渥美産陶器③（2067～2081） …… 139
第76図　須恵器系陶器（2082～2091） …… 140
第77図　中世の瓷器系陶器（2092～2102） …… 141
第78図　中国産磁器①（3001～3018） …… 143
第79図　中国産磁器②（3019～3035） …… 144
第80図　中国産磁器③（3036～3039） …… 145
第81図　12世紀の瓦（4001～4007） …… 146
第82図　近世の磁器①（5001～5028） …… 147
第83図　近世の磁器②（5029～5046） …… 148
第84図　近世の磁器③（5047～5056） …… 149
第85図　近世の陶器①（5057～5073） …… 151
第86図　近世の陶器②（5074～5098） …… 152
第87図　近世の陶器③（5099～5117） …… 153
第88図　近世の陶器④（5118～5129） …… 154
第89図　近世の陶器⑤（5130～5136） …… 155
第90図　近世の陶器⑥（5137～5148） …… 156
第91図　木製品①（6001～6006） …… 158
第92図　木製品②（6007） …… 159
第93図　木製品③（6008～6009） …… 160
第94図　木製品④（6010～6011） …… 161
第95図　木製品⑤（6011） …… 162
第96図　石製品①（7001～7005） …… 163
第97図　石製品②（7006～7012） …… 164
第98図　石製品③（7013～7020） …… 165
第99図　石製品④（7021～7022） …… 166
第100図　石製品⑤（7023、7024） …… 167
第101図　石製品⑥（7025） …… 168
第102図　石製品⑦（7026） …… 169
第103図　銭貨①（8001～8011） …… 170
第104図　銭貨②（8012～8014） …… 171

第105図　銭貨③（8015～8026）…… 172
第106図　金属製品（8027～8043）…… 173
第107図　鉄滓（8044～8050）…… 174
第108図　その他の遺物（8051～8053）…… 175
第109図　縄文時代の土器①（9001～9007）…… 177
第110図　縄文時代の土器②（9008～9021）…… 178
第111図　縄文時代の土器③（9022～9030）…… 179
第112図　縄文時代の土器④（9031～9050）…… 180
第113図　縄文時代の土器⑤（9051、9069）…… 181
第114図　縄文時代の土器⑥（9070～9081）…… 182
第115図　縄文時代の土器⑦（9082～9085）…… 183
第116図　縄文時代の石器①（9101～9116）…… 185
第117図　縄文時代の石器②（9117～9127）…… 186
第118図　縄文時代の石器③（9128～9135）…… 187
第119図　縄文時代の石器④（9136～9141）…… 188
第120図　縄文時代の石器⑤（9142～9148）…… 189
第121図　縄文時代の石器⑥（9149～9155）…… 190
第122図　縄文時代の石器⑦（9156～9164）…… 191
第123図　縄文時代の石器⑧（9165～9172）…… 192
第124図　縄文時代の石器⑨（9173～9178）…… 193
第125図　縄文時代の石器⑩（9179～9184）…… 194
第126図　縄文時代の石器⑪（9185～9186）…… 195
第127図　縄文時代の石器⑫（9187～9188）…… 196
第128図　縄文時代の石器⑬（9189～9191）…… 197
第129図　縄文時代の石器⑭（9192）…… 198
第130図　縄文時代の石器⑮（9193）…… 199

柱穴計測表①…… 200
柱穴計測表②…… 201
柱穴計測表③…… 202
柱穴計測表④…… 203
柱穴計測表⑤…… 204
柱穴計測表⑥…… 205
柱穴計測表⑦…… 206
柱穴計測表⑧…… 207
柱穴計測表⑨…… 208

付図　泉屋遺跡16次調査遺構配置図

〈泉屋遺跡16次調査写真図版〉

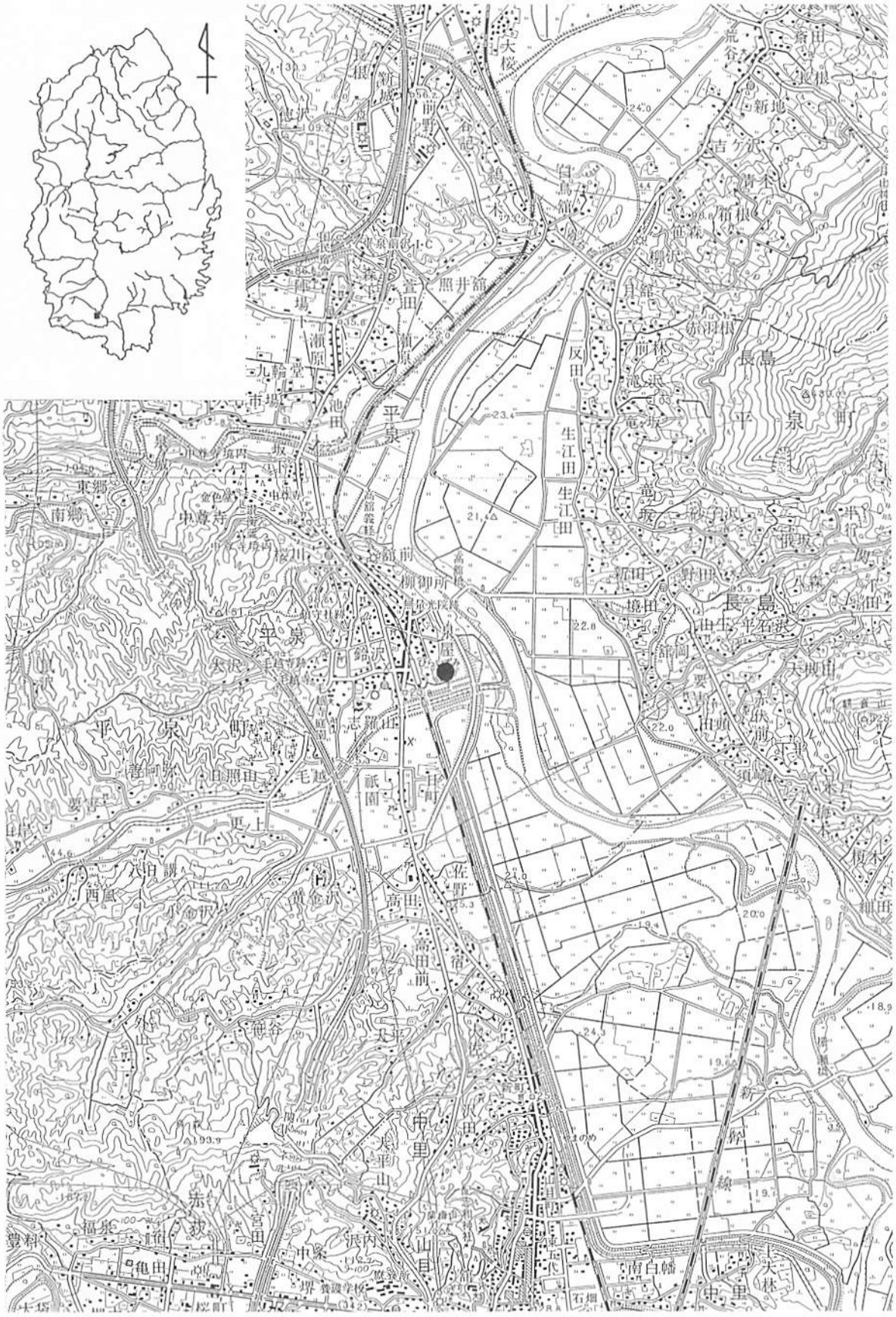
写真図版１　調査区遠景…… 226
写真図版２　調査区航空写真…… 227
写真図版３　掘立柱建物①…… 228
写真図版４　掘立柱建物②…… 229
写真図版５　掘立柱建物③…… 230
写真図版６　掘立柱建物④…… 231
写真図版７　掘立柱建物⑤…… 232
写真図版８　掘立柱建物⑥…… 233
写真図版９　掘立柱建物⑦…… 234
写真図版10　掘立柱建物⑧・井戸①…… 235
写真図版11　井戸②…… 236
写真図版12　井戸③…… 237
写真図版13　井戸④…… 238
写真図版14　井戸⑤…… 239
写真図版15　井戸⑥・土坑①…… 240
写真図版16　土坑②…… 241
写真図版17　土坑③…… 242
写真図版18　土坑④…… 243
写真図版19　土坑⑤…… 244
写真図版20　土坑⑥…… 245
写真図版21　土坑⑦…… 246
写真図版22　土坑⑧…… 247
写真図版23　土坑⑨…… 248
写真図版24　土坑⑩…… 249
写真図版25　土坑⑪…… 250
写真図版26　土坑⑫…… 251
写真図版27　土坑⑬…… 252
写真図版28　土坑⑭…… 253
写真図版29　土坑⑮…… 254
写真図版30　土坑⑯・溝①…… 255
写真図版31　溝②…… 256
写真図版32　溝③…… 257
写真図版33　溝④…… 258
写真図版34　溝⑤…… 259
写真図版35　溝⑥…… 260
写真図版36　溝⑦…… 261
写真図版37　竪穴建物…… 262
写真図版38　古代の土師器、須恵器①（１～９）… 263
写真図版39　古代の土師器、須恵器②（10～22）… 264
写真図版40　古代の土師器、須恵器③（23～37）… 265
写真図版41　古代の土師器、須恵器④（38～52）… 266
写真図版42　古代の土師器、須恵器⑤（53～65）… 267
写真図版43　古代の土師器、須恵器⑥（66～79）… 268
写真図版44　かわらけ①（1001～1016）…… 269
写真図版45　かわらけ②（1017～1031）…… 270
写真図版46　かわらけ③（1032～1052）…… 271
写真図版47　かわらけ④（1053～1081）…… 272
写真図版48　かわらけ⑤（1082～1111）…… 273
写真図版49　かわらけ⑥・常滑産陶器①
（1112～1125、2001～2010）…… 274
写真図版50　常滑産陶器②（2011～2024）…… 275
写真図版51　常滑産陶器③・
渥美産陶器①（2025～2041）…… 276
写真図版52　渥美産陶器②（2042～2049）…… 277
写真図版53　渥美産陶器③（2050～2062）…… 278
写真図版54　渥美産陶器④（2063～2074）…… 279
写真図版55　渥美産陶器⑤・
須恵器系陶器（2075～2091）…… 280
写真図版56　中世の瓷器系陶器（2092～2102）…… 281
写真図版57　中国産磁器①（3001～3019）…… 282
写真図版58　中国産磁器②（3020～3039）…… 283
写真図版59　近世の磁器①（5001～5034）…… 284

写真図版60　近世の磁器②（5035～5056）…… 285
写真図版61　近世の陶器①（5057～5076）…… 286
写真図版62　近世の陶器②（5077～5100）…… 287
写真図版63　近世の陶器③（5101～5117）…… 288
写真図版64　近世の陶器④（5118～5125）…… 289
写真図版65　近世の陶器⑤（5126～5134）…… 290
写真図版66　近世の陶器⑥（5135～5146）…… 291
写真図版67　近世の陶器⑦（5147～5148）…… 292
写真図版68　木製品（6001～6005、6007、6008、6010、6011）…… 293
写真図版69　石製品①（7001～7013）…… 294
写真図版70　石製品②（7014～7021）…… 295
写真図版71　石製品③（7022、7023）…… 296
写真図版72　石製品④（7024～7026）…… 297
写真図版73　銭貨①（8001～8014）…… 298
写真図版74　銭貨②（8015～8024）・漆紙（8042）・ 299
写真図版75　縄文時代の土器①（9001、9002、9005～9010、9012、9013、9016、9017）…… 300
写真図版76　縄文時代の土器②（9022、9030、9051～9053、9057～9061、9066、9070～9072）・ 301
写真図版77　縄文時代の土器③（9073～9077、9080、9082～9085）…… 302
写真図版78　縄文時代の土器④（9082）…… 303
写真図版79　縄文時代の石器①（9101～9126）…… 304
写真図版80　縄文時代の石器②（9127～9138）…… 305
写真図版81　縄文時代の石器③（9139～9148）…… 306
写真図版82　縄文時代の石器④（9149～9157）…… 307
写真図版83　縄文時代の石器⑤（9158～9159）…… 308
写真図版84　縄文時代の石器⑥（9160～9164）…… 309
写真図版85　縄文時代の石器⑦（9165～9175）…… 310
写真図版86　縄文時代の石器⑧（9176～9186）…… 312
写真図版87　縄文時代の石器⑨（9187～9193）…… 313

第１章　調査に至る経過

一関遊水地事業は、北上川上流改修の一大プロジェクトとして、岩手県一関市・平泉町地区を洪水から守るため、二線堤方式のよる遊水地の建設をするもので、上流ダム群とともに北上川治水計画の根幹をなすものである。遊水地は延長25kmの地区堤と延長18kmの小堤に囲まれた第一遊水地から第三遊水地まで合わせて1,450haからなり、洪水調整・市街地等の水害防除および土地の高度利用を目的とするものである。事業は昭和48年に工事実施基本計画が決定されたのを受けて昭和53年から本格的な着工の運びとなった。

この事業に関わる埋蔵文化財包含地の取り扱いについては、岩手県教育委員会と建設省東北地方建設局岩手工事事務所との間に協議がおこなわれた。関連する遺跡は柳之御所・志羅山・泉屋の３遺跡であり、岩手工事事務所長と岩手県文化振興事業団理事長との間で受諾契約がおこなわれた。柳之御所遺跡は昭和63年度、志羅山遺跡は平成４年度、泉屋遺跡は平成３年度より財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの委託事業として調査が開始された。そのうち、本報告書に関連する太田川堤防建設に伴う泉屋遺跡の調査は平成８年度からおこなわれることになり平成８年４月９日から野外調査を着手した。なお泉屋遺跡は平泉町教育委員会などにより幾度か調査がおこなわれており、一連の調査次数を与えてきた。そこで平泉町教育委員会と埋蔵文化財センターが協議の上、平成８年度の調査は第16次調査、平成11年度は第19次調査、平成12年度は第21調査とすることとした。


平泉
長島
平泉町
泉屋
高田
高田前
宿
中里
山目
南白幡
大林
中里
新幹線
柳御所
高舘
高舘義経
高舘前
祇園
志羅山
佐野
黄金沢
西風
外山
福泉
亀田
宮田
浜内
中家
堺
東郷
南郷
中尊寺
桜山
金色堂
毛越
更上
大沢
善応寺
白鳥
長島
生江田
反田
前林
滝沢
竜坂
境田
須崎
天地田
赤羽根
柳沢
笹森
新地
吉ケ沢
青木
荒谷
斎田
大桜
前野
新城
照井舘
白鳥舘
瀬原
池田
九輪堂
市場
森
谷地
小C
東北自動車道
JR東北本線

第１図　遺跡位置図

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　位置

泉屋遺跡が所在する西磐井郡平泉町は岩手県南部に位置し、北は胆沢郡衣川村と前沢町、南と西は一関市、東は東稲山を境に東磐井郡東山町と接する。町の総面積は63.75㎢で、そのおよそ半分は山林・原野が占め、水田・畑地の割合は３割弱である。昭和20年代半ばに１万人を越えた人口は、それ以降減少傾向にあって、現在はおよそ9,000人強となっている。平泉町には奥州藤原氏を今に伝える遺産、平安美術の宝庫といわれる「中尊寺」、特別史跡・特別名勝の二重の指定を受ける「毛越寺」があり、年間200万人以上の観光客が訪れる全国有数の観光都市として知られる。平成12年度には、世界遺産の暫定リストに「平泉の文化遺産」として登載され、本登録へ向けた官民一体の活動が様々な形で展開している。

泉屋遺跡は平泉町市街地の南東部、東日本旅客鉄道東北本線平泉駅の南東に広がる遺跡で、北に伽羅之御所跡、西に志羅山遺跡が隣接し、平泉館とされる柳之御所跡遺跡とは北北西に１㎞ほどの距離がある。今回報告する第16・19・21次調査各次の調査範囲は、第３図にあるとおり東北本線の東側で、全体から見ると遺跡の南東端部にあたる。遺跡の南側には、河川改修を受けた太田川が東流し、東にはその太田川に注ぐ鈴沢川が南流している。

本遺跡は、西磐井郡平泉町平泉字泉屋31－３ほかに所在し、国土地理院発行の５万分の１地形図「一関」（ＮＪ－54－14－15）及び２万５千分の１地形図「平泉」（ＮＪ－54－14－15－３）内にある。遺跡の経・緯度は、北緯38°58′59″東経141°7′21″である。

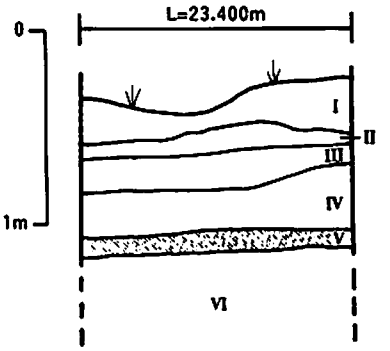
第２節　地形

平泉町周辺は、東は北上山地、西は奥羽山脈に囲まれ、その中央部を一級河川北上川が南流している。宮城県追波湾に注ぐ北上川は、一関市狐禅寺付近の狭窄部が要因の一つとなって度々大洪水をおこし、この地方に甚大な被害を与えている。既述のとおり、一関遊水地事業はその水害の防御と土地の高度利用を目的として実施されている。

平泉町は北上川の中流域にあたり、この川によって形成された氾濫平野や谷底平野、後背湿地などの低地と河岸段丘上にのる。町はその北上川を境として、西側の平泉地区と東側の長島地区に大きく二分されるが、北上川西岸の平泉地区はそのほとんどが衣川丘陵からなり、解析が及んでいない丘陵緩斜面域では牧場等に利用されている。町の中心部は、北上川と太田川によって解析された段丘と氾濫原上にあって、多くの藤原氏関連の遺跡と重なり、この地域に暮らす町民はこれら文化遺産と生活を共にしている。一方、東岸の長島地区は北上川の氾濫原と東稲西麓丘陵からなるが、丘陵地の大部分は侵食性の緩斜面で、遺跡の多くはその侵食された段丘の縁辺部と支流谷沿いにある。近年、この長島地区で大規模なほ場整備事業が予定され、それに伴う事前の発掘調査で北上川東岸の沖積地にも藤原氏関連の遺跡があることが確認された。和鏡の出土をみた里遺跡、十和田ａ降下火山灰に覆われた水田跡が検出された竜ヶ坂遺跡、茶毘所と推定される遺構や中世の墓域群、平安時代に所属する畠跡などが見つかった本町Ⅱ遺跡、それに隣接する畑中遺跡がそれである。いずれも、従来言われてきた藤原時代「都市平泉」の構造を再考すべき内容をもっており、注目される

遺跡群である。

平泉町やその周辺地域の地質は、南北に縦断する盛岡－白河線と呼ばれる構造線によって東西に分けられる。その西側は新生代新第三紀以降の堆積岩や火山岩が分布し、泉側では石灰岩・花崗岩・礫岩・泥岩などで構成される古生層が基盤岩類となっている。北上川によって形成された沖積地や扇状地の堆積物は、砂礫泥からなり、多くは泥を主体とした細粒堆積物である。

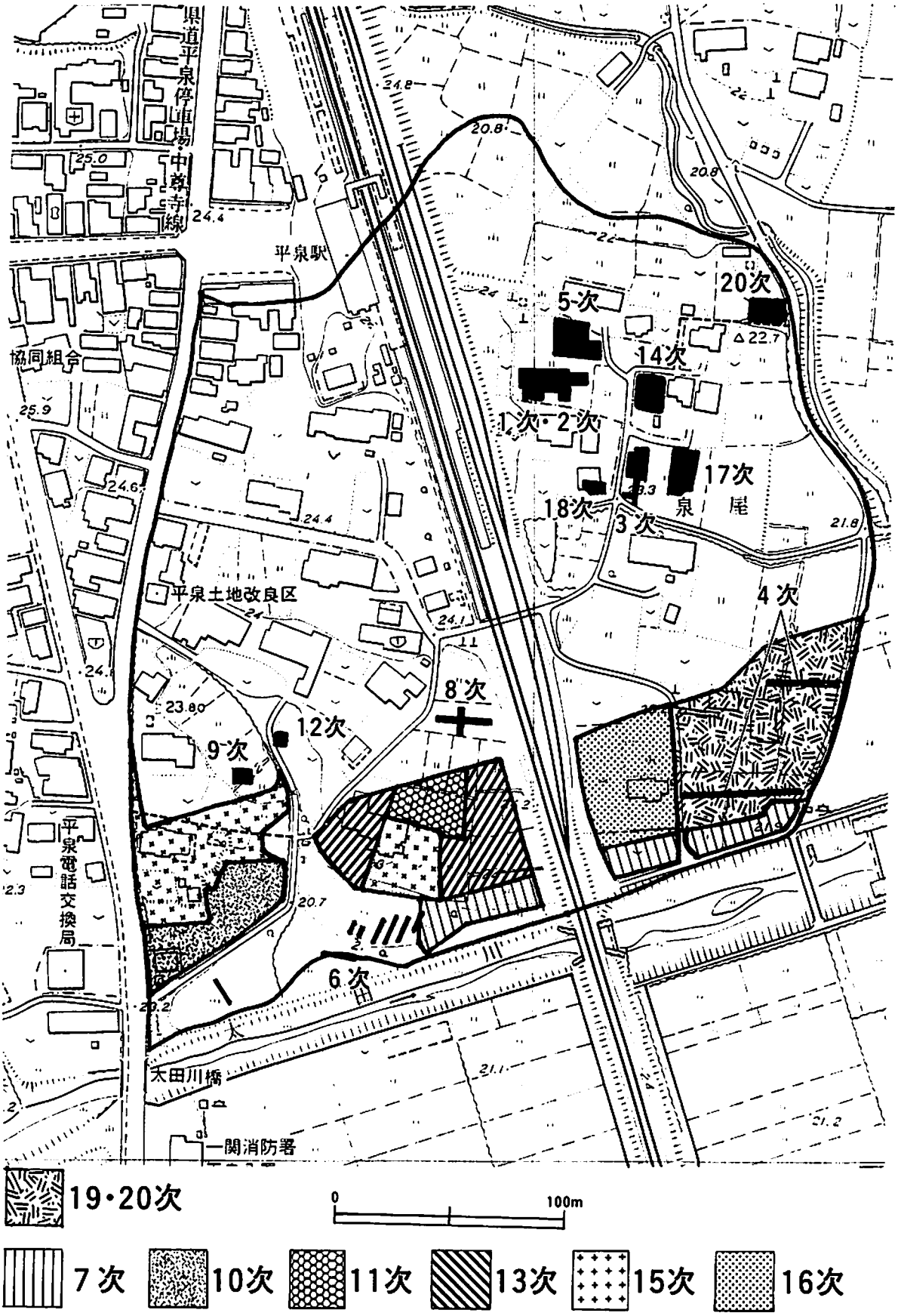


第２図　基本層序

各調査次とも、調査区内では概ね全域で第２図のような層序が観察される。（第19・21次調査旧河道部を除く）

＜第Ⅰ層＞	黒褐色土（10ＹＲ２／２）	シルト	現表土・耕作土。層厚20cm前後。
＜第Ⅱ層＞	暗褐色土（10ＹＲ３／３）	シルト	旧表土。層厚20～40cm。
＜第Ⅲ層＞	暗褐色土（10ＹＲ３／３）	シルト	ビニール等含む撹乱層。層厚０～30cm。
＜第Ⅳ層＞	にぶい黄褐色土（10ＹＲ５／４）	シルト	本層上面が古代から近世にかけての遺構検出面で、縄文時代後・晩期の土器を包含する層。層厚20～60cm。
＜第Ⅴ層＞	黒褐色土（10ＹＲ２／３）	粘土質シルト	縄文時代前期の土器・剥片を含む層。層厚15cm。
＜第Ⅵ層＞	明黄褐色土（10ＹＲ６／６）	粘土質シルト	地山。層厚50cm以上。
＜第Ⅶ層＞	段丘構成礫層		

＜引用・参考文献＞
(財)岩手埋文（2000）：『佐野遺跡第１次・三日町Ⅰ遺跡第２次発掘調査報告書』岩文埋調査報告書第313集
岩手県農政部北上開発室（1978）：『北上山系開発地域土地分類基本調査一関』
(財)岩手埋文（1993）：『新山権現社遺跡発掘調査報告書』岩文埋調査報告書第188集
平泉町教育委員会（1993）：『志羅山遺跡第13・15・16・17・18・20次発掘調査報告書』平泉町文化財調査報告書35集
(財)岩手埋文（1997）：『瀬原Ⅰ遺跡第２次・第３次発掘調査報告書』岩文埋調査報告書第257集
平泉郷土館（1987）：『平泉の埋蔵文化財』平泉郷土館図録第Ⅰ冊
本中眞（2001）：「今、世界遺産委員会で語られていること」『平泉文化研究年報第１号』岩手県教育委員会



第３図　泉屋遺跡の周辺地形と調査区

第３節　これまでの泉屋遺跡の調査

泉屋遺跡は一関遊水地事業関連事業以外にも、様々な要因で発掘調査がおこなわれている。これまでの調査次数は本報告書で報告する第21次調査を含め、21次におよぶ（平成11年度分まで）。
これまでの各調査次の位置は第３図に示している。また１次～15次の要綱と概要は（財）岩手県埋蔵文化財センター 1997「泉屋遺跡10・11・13・15次発掘調査報告書」第246集で示してあるのでここでは割愛する。ここでは本報告書で報告する16次、19次、21次を除いた17次、18次、20次の要綱と概要を記す。

泉屋遺跡調査要項（17次・18次・20次）

調査次	地点	調査要因	調査期間	調査面積	調査担当者
17次	泉屋52－１	集合住宅建設	1997年８月27日～９月16日	230㎡	町教委　八重樫忠郎
18次	泉屋51－１	防火用水槽の設置	1999年１月25日～２月10日	39㎡	町教委　菅原計二
20次	泉屋57－12	個人住宅建築	1999年10月29日～１月14日	480㎡	町教委　八重樫忠郎

17次調査概要

掘立柱建物５棟、井戸２基、便所土坑５基、溝３条検出。時期は縄文時代、12世紀、14世紀、近世以降のものがある。便所土坑からは多量のウリ科の種子、チュウ木が出土した。掘立柱建物には14世紀と推測されるものと、縄文時代と推測されるものがある。

18次調査概要

柱穴約120個、溝９条、土坑２基検出。12世紀の建物の一部分と推測される柱列がある。遺物はかわらけ、国産陶磁器、中国産陶磁器、縄文土器、石鏃が出土した。

20次調査概要

近世掘立柱建物４棟、近代厩跡１基、近世近代溝５条、中世井戸１基、近世近代土坑７期、近世井戸６基、12世紀の土坑５基、12世紀の井戸１基、12世紀の溝１条を検出。12世紀の土坑には便所状土坑も含まれる。かわらけ、国産陶器、近世陶磁器などが出土。

第３章　調査と整理の方法

第１節　調査の経過

１　泉屋遺跡16次調査

泉屋遺跡第16次調査は平成８年度におこなわれた。野外調査は平成８年４月９日から９月30日である。発掘調査面積は1,760㎡である。野外調査担当者は４月９日～８月３日まで羽柴直人と千葉和弘である。８月６日からは羽柴と杉沢昭太郎が交替し、杉沢と千葉が９月30日まで調査をおこなった。４月９日から８月３日までは古代～近世の遺構が検出されるⅣ層上面の調査をおこなった。Ⅳ層上面の調査終了後、地形測量及び航空写真の撮影を行った。８月６日からは縄文土器を包含する層の掘り下げを行い、縄文時代の遺物及び遺構の検出をおこなった。調査終了後埋め戻しを行い。９月30日に器材を撤収した。

室内整理は11月１日から３月31にまでおこなった。担当者は羽柴直人と千葉和弘である。

２　泉屋遺跡19次調査

泉屋遺跡19次調査は平成11年度におこなわれた。野外調査は平成11年４月14日から11月12日である。発掘調査面積は2,565㎡を終了した。野外調査担当者は佐々木務と吉川徹である。10月９日に現地公開をおこなった。11月12日に器材を撤収した。

野外調査終了後、３月31日まで室内整理をおこなった。担当は佐々木務、吉川徹である。

３　泉屋遺跡21次調査

泉屋遺跡21次調査は平成12年度におこなわれた。野外調査は５月18日から11月10日である。発掘調査面積は1,875㎡である。野外調査の担当者は濱田宏と吉川徹である。21次調査は主に、旧太田川河道とその落ち際に堆積した遺物包含層の調査をおこなった。10月24日に現地公開をおこない。11月10に器材を撤収した。

野外調査終了後、３月31にまで室内整理をおこなった。担当は濱田宏、吉川徹である。また平成13年度４月２日～７月31日にも室内整理作業をおこなった。担当は濱田宏である。

第２節　野外調査の方法

１　グリッドの設定

グリッドの設定は志羅山遺跡第14次調査（財岩埋文　1995「志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書」第216集）の基準に準拠しており、その名称の付し方も同一である。グリッドは平面直角座標のＸ系に沿って設定しており、大グリッドは一辺が50m、小グリッドは大グリッドの各辺を10等分して一辺５ｍとしている。グリッドの基点（ＩＡ０ａ）はＸ＝－112945,000m、Ｙ＝24720,000mとし、ここから大グリッドは北に向かってローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ・・・）、東にむかって大文字のアルファベット（Ａ、Ｂ、Ｃ・・・）とする。小グリッドは北に向かって向かって（０、１、２・・９、０）、東に向かって（ａ、ｂ、ｃ・・ｊ）で示している。グリッドの名称はその南西隅の杭の名称による。

2　遺構の名称

遺構の名称は以下のように略号を付した。

建物・・ＳＢ　竪穴建物・・ＳＩ　井戸・井戸状・・ＳＥ　土坑・・ＳＫ　溝・・ＳＤ　カマド・焼土遺構・・ＳＸ　柱穴・・Ｐ

本報告書では調査次が複数にわたるため、遺構の略号の上に調査次数を付している。遺構の番号は検出順に算用数字を付していった。

3　粗掘り・遺構検出

雑物撤去後にトレンチを設定し、遺物の包含状況、遺構の確認面を把握した。その後、遺構確認面まで重機を用いて表土を除去した。遺物を多く包含する層に関しては人力によって表土の除去をした。

遺構の確認は表土を除去した面をジョレン、両刃鎌で、平滑にしプランを確認するようにした。

4　遺構の精査

検出した遺構は土層を観察するベルトを設定して掘り下げることを基本とした。柱穴は平面での柱痕の確認、他の遺構、柱穴どうしの切り合いを把握することに意を注ぎ、基本的に断ち割りをおこなっていない。

5　遺物の取り上げ

遺構外の遺物はグリッド毎に取り上げた。遺構内の遺物は必要と思われる場合、地点とレベルを記録した。またそれ以外では可能な限り埋土の層位ごとに取り上げるように努めた。

6　実測・写真撮影

平面実測は簡易遣り方測量で、５ｍグリッドを１ｍに細分したメッシュを用いておこなった。原則として１／20の縮尺を用い、必用に応じて任意の縮尺を用いた。

写真撮影は35㎜モノクロームとカラースライドを主に使用し、６×７㎝モノクローム１台を補助的に使用した。撮影は埋土堆積状態や遺物の出土状況、遺構の完掘状況などについて行った。また各調査終了時にはセスナ機により空中写真を撮影した。

第３節　室内整理の方法

出土遺物は水洗注記を行い、必用なものは接合、復元作業を実施した。これらの作業終了後、報告書掲載遺物を選び出し、登録をおこなった。

遺物実測は原則として実寸で行った。野外調査で作成した遺構実測図は、必要なものについては第２原図を作成した。その後、これらの遺構、遺物実測図のトレースを行い、種別ごとに観察表と図版を作成した。

撮影したフィルムはネガアルバムにベタ焼きの写真と一組にして収納した。カラースライドはスライドファイルに撮影順に収納した。また報告書掲載分の遺物の撮影を行い、写真図版を作成した。これらの作業の終了後、原稿の執筆を行い、報告書を編集した。

第４図　泉屋遺跡16次調査全体図

第４章　泉屋遺跡16次調査

第１節　検出した遺構

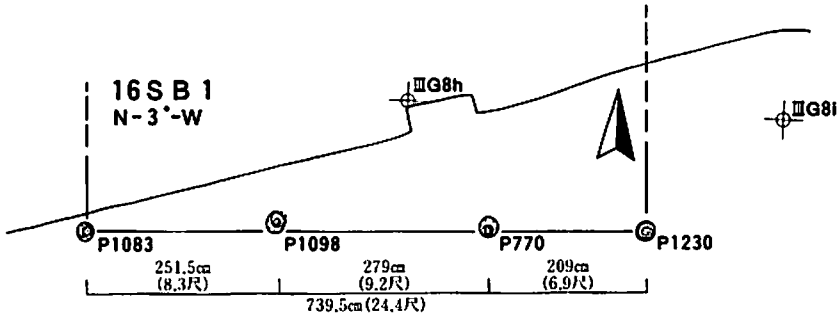
泉屋遺跡16次調査で検出した遺構は、堀立柱建物（ＳＢ）69棟、柱列５条、井戸（ＳＥ）14基、土坑（ＳＫ）60基、溝（ＳＤ）21条、竪穴建物（ＳＩ）２棟である。
これらの所属時期は、縄文時代（後期、晩期）、古代（９～10世紀）、12世紀、13世紀後半～14世紀前半、16世紀、近世（17世紀～19世紀）、近代以降（19～20世紀）と多岐にわたる。
遺構の検出面は、古代以降は基本層序のⅥ層上面、縄文時代の遺構はⅤ～Ⅵ層上面である。

１　掘立柱建物

掘立柱建物は69棟を示した。古代以降の検出面が同一のため所属時期を確定できないものが多い。

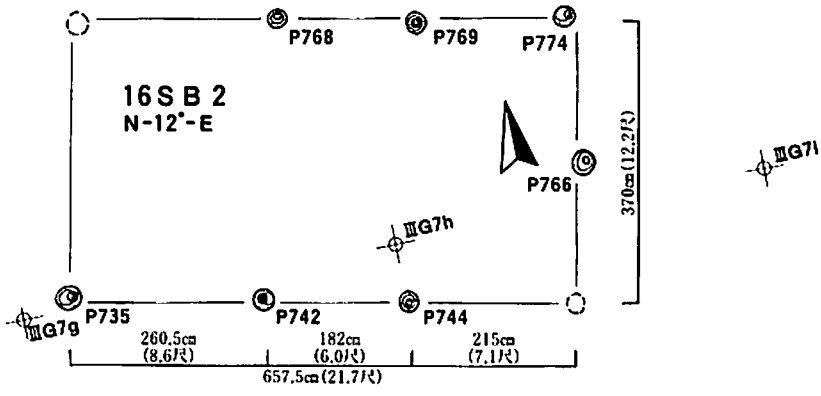
16ＳＢ１（第５図）
〔位置〕ⅢＧ７ｇ、７ｈに位置する。
〔重複〕16ＳＢ２、16ＳＢ６とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く、前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは739.5cmである。面積は梁間が検出されていないので不明である。使用した柱穴は４個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－３°－Ｅである。
〔柱間寸法〕種々の寸法が用いられており、基準寸法を見出すことができない。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ２（第６図）
〔位置〕ⅢＧ７ｇ、７ｈに位置する。
〔重複〕16ＳＢ２、16ＳＢ３、16ＳＢ６とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く、前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは657.5cm、梁間は370cmである。面積は24.3㎡である。使用した柱穴は８個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－12°－Ｅである。
〔柱間寸法〕種々の寸法が用いられており、基準寸法を見出すことができない。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。



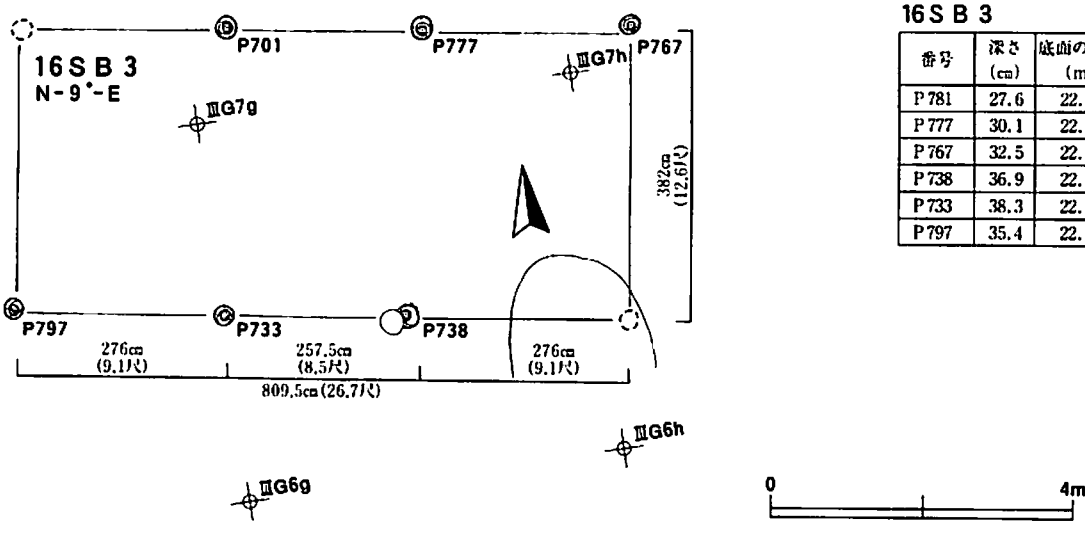
16SB1

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1083	12.5	22.41
P1098	16.3	22.34
P770	9.3	22.40
P1230	19.4	22.21



16SB2

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P768	12.5	22.33
P769	24.1	22.29
P774	28.9	22.27
P766	49.2	22.06
P744	21.8	22.31
P742	23.6	22.29
P735	26.7	22.27



16SB3

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P781	27.6	22.26
P777	30.1	22.23
P767	32.5	22.25
P738	36.9	22.17
P733	38.3	22.22
P797	35.4	22.20

第5図　掘立柱建物①

16ＳＢ３（第７図、写真図版３）

〔位置〕ⅢＧ６ｆ、６ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ３、16ＳＢ４、16ＳＢ６、16ＳＢ７、16ＳＢ８とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。16ＳＫ40とも重複するがおそらく本建物が古い。また本建物の柱穴Ｐ738が、建物に組めない柱穴Ｐ739と重複するがそれよりも古い。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは809.5cm、梁間は382cmである。面積は30.9㎡である。使用した柱穴は５個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－９°－Ｅである。

〔柱間寸法〕種々の寸法が用いられており、基準寸法を見出すことができない。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ４（第６図）

〔位置〕ⅢＧ５ｆ、５ｇ、６ｆ、６ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ10の柱穴Ｐ1216と重複するが本建物が新しい。また16ＳＥ７とＰ1217が重複するが本建物が古い。また16ＳＢ３、16ＳＢ５、16ＳＢ６、16ＳＢ７、16ＳＢ８、16ＳＢ64、16ＳＥ11とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは894cm、梁間は446cmである。面積は39.9㎡である。使用した柱穴は７個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－１°－Ｗである。

〔柱間寸法〕200cm（6.7尺）を多用するが、他にも種々の寸法が用いられており、基準寸法を見出すことができない。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕19世紀代の遺物を含む16ＳＥ７より古い。しかし所属年代は不明である。

16ＳＢ５（第６図）

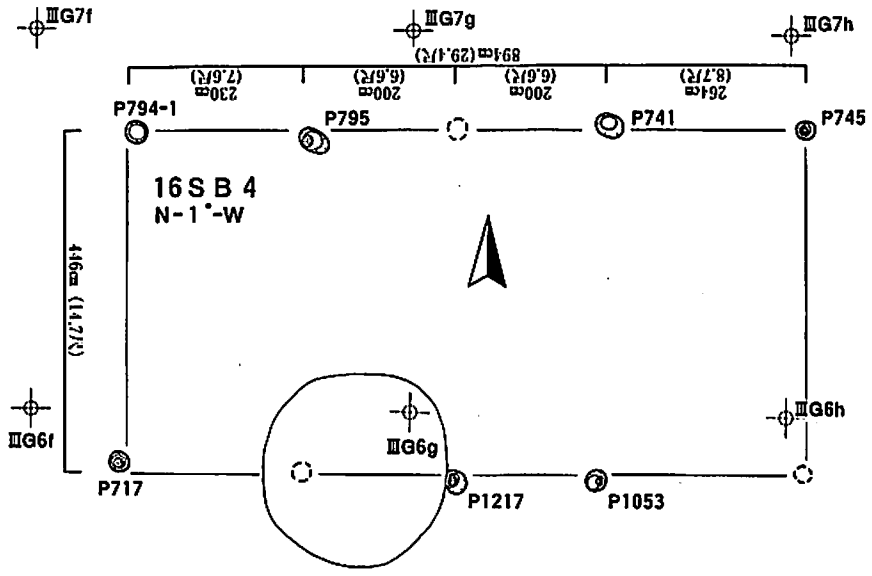
〔位置〕ⅢＧ５ｆ、６ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＢ６の柱穴Ｐ1089とＰ1211が重複するが本建物が古い。また16ＳＥ11とＰ743が重複するが本建物が古い。また16ＳＢ４、16ＳＢ７、16ＳＢ８、16ＳＢ９、16ＳＢ10、16ＳＢ64とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは509cm、梁間は448cmである。面積は22.8㎡である。使用した柱穴は５個である。

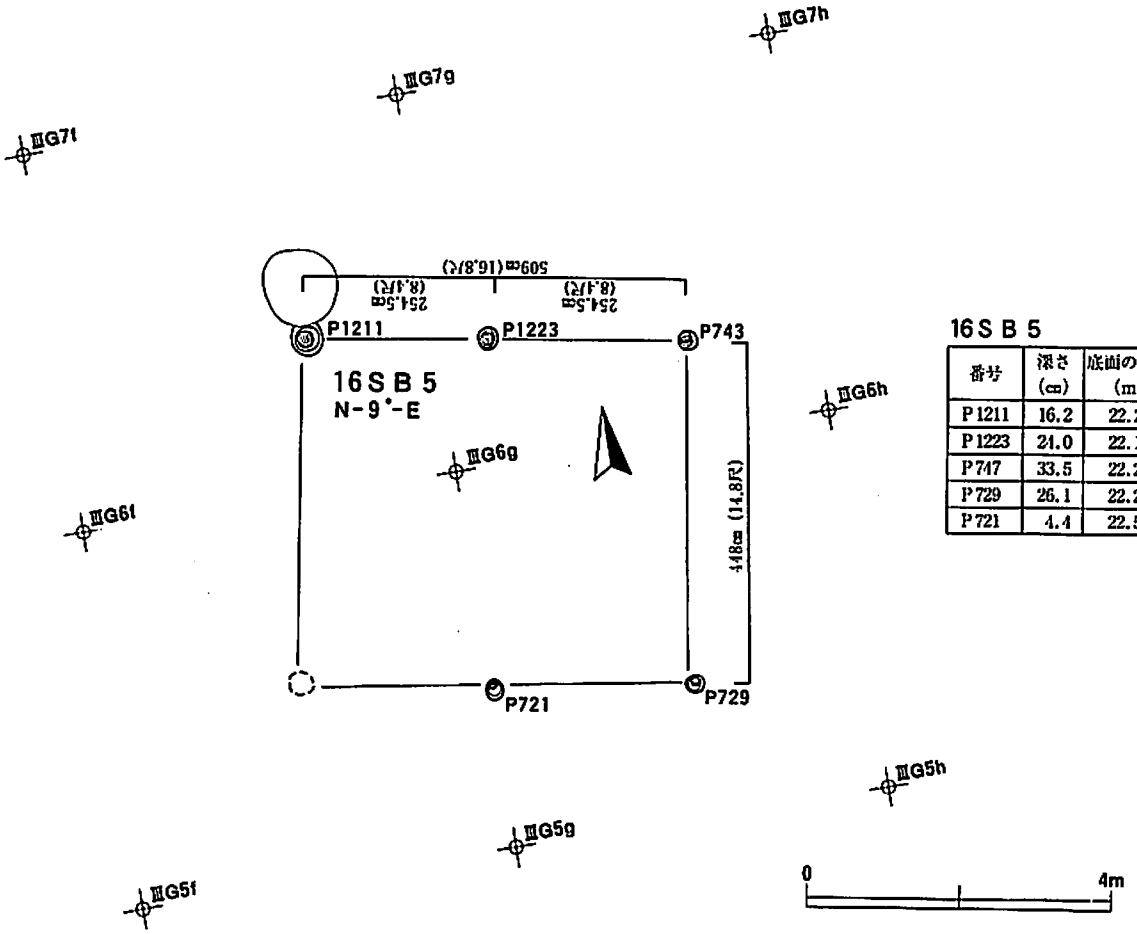
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－９°－Ｅである。

〔柱間寸法〕桁行きでは254.5cm（8.4尺）を使用する。



16SB4

番号	深さ (㎝)	底面の標高 (m)
P794-1	不明	不明
P795	6.9	22.52
P741	7.8	22.46
P745	13.7	22.38
P1053	10.4	22.45
P1217	37.7	22.22
P717	18.4	22.32



16SB5

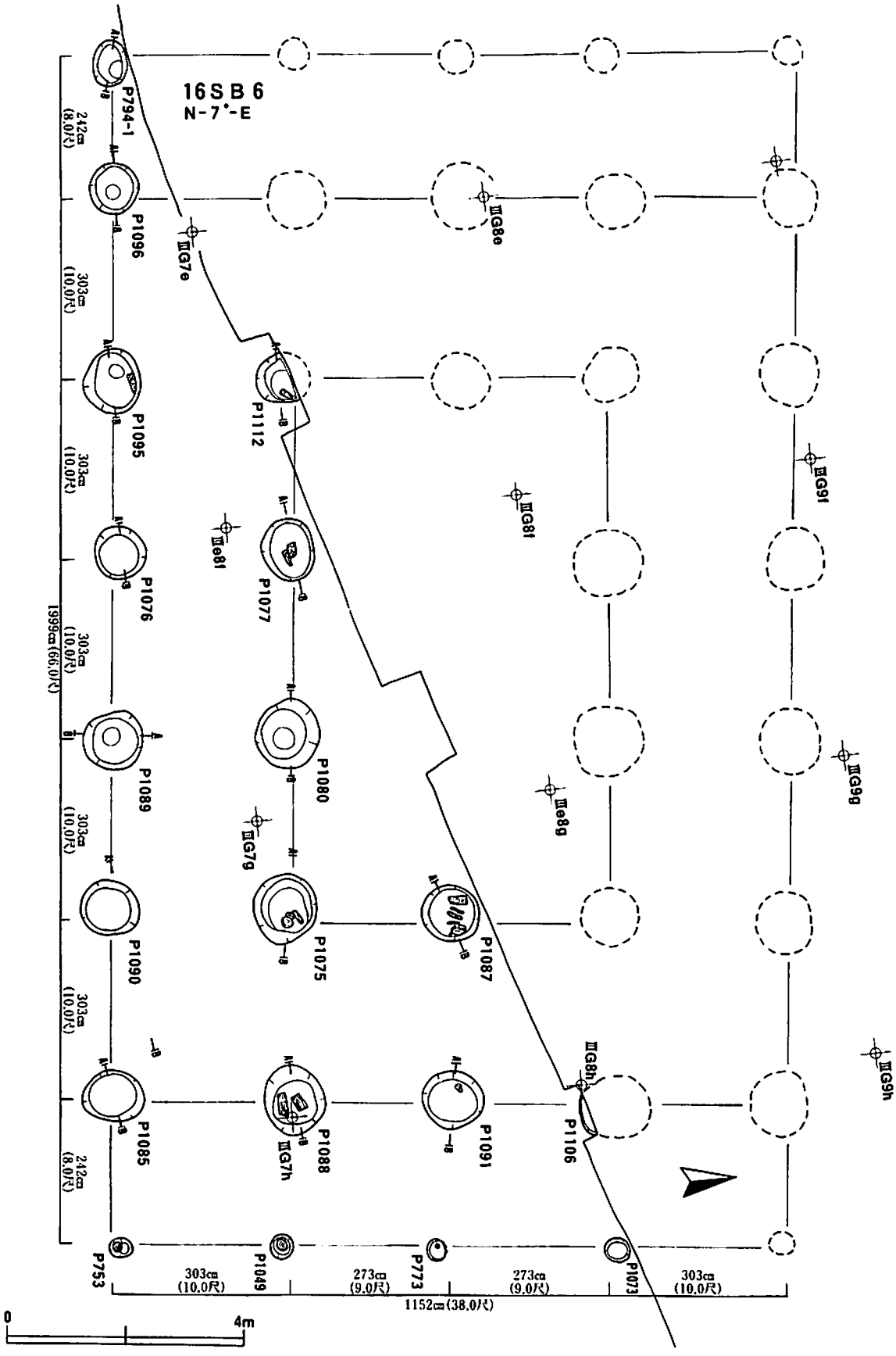
番号	深さ (㎝)	底面の標高 (m)
P1211	16.2	22.23
P1223	21.0	22.17
P747	33.5	22.21
P729	26.1	22.27
P721	4.4	22.55

第6図　掘立柱建物②

〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕12世紀後半の建物16ＳＢ６より古く、12世紀又は古代の建物と推測される。

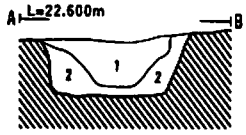
16ＳＢ６（第７、８図、写真図版３～６）
〔位置〕ⅢＧ６ｄ、６ｅ、６ｆ、６ｇ、７ｄ、７ｅ、７ｆ、７ｇに位置する。
〔重複〕16ＳＢ５の柱穴Ｐ1211とＰ1089が重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ７の柱穴Ｐ1068と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ８の柱穴Ｐ866とＰ1069と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ１、16ＳＢ２、16ＳＢ３、16ＳＢ４、16ＳＢ62、16ＳＢ64とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。プランの北半が調査区外に伸びるため全体形は不明であるが、梁行き４間と仮定すると、桁行きは1999cm、梁間は1152cmである。面積は221.0㎡である。身舎２×３間に四面庇、東側と西側に孫庇がつく形態と推測される。
〔柱穴〕使用した柱穴は検出した分で19個である。身舎と庇の柱穴の掘方は径１ｍ以上あり非常に大きい。それに比して孫庇の柱穴の径は30～50cmほどで小さい。身舎と庇の柱穴は柱の抜き取りがおこなわれている。底面には礎盤が残存しているものがある。また底面に圧痕の状態で柱の位置が判断できるものがある。東側の孫庇の柱穴は柱痕あり、抜き取りがおこなわれていないようである。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－７°－Ｅである。
〔柱間寸法〕303cm（10.0尺）を多用している。他に242cm（8.0尺）、273cm（9.0尺）が使用されている。
〔出土遺物〕Ｐ1049から中国産白磁壺片（3022）が出土している。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕12世紀平泉遺跡群でも有数の大きさの建物である。建物の規模から奥州藤原氏、またはその類族が関係する格の高い建物と推定される。
〔年代〕12世紀後半の建物と推測される。

16ＳＢ７（第９図、写真図版３）
〔位置〕ⅢＧ５ｆ、５ｇ、６ｆ、６ｇに位置する。
〔重複〕16ＳＢ６の柱穴Ｐ1089とＰ867が重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ８の柱穴Ｐ719、Ｐ1061と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ９の柱穴Ｐ1059と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ４、16ＳＢ５、16ＳＢ10と16ＳＥ７、16ＳＥ11プランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは北辺と南辺で長さが違い、北辺659cm、南辺627cmである。梁間は516cmである。面積は32.8㎡である。使用した柱穴は８個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－３°－Ｗである。
〔柱間寸法〕桁行きでは209cm（6.9尺）を多用する。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。

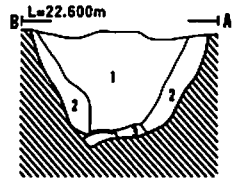

16SB6
N-7°-E
P794-1
P1096
P1095
P1076
P1089
P1090
P1085
P753
P1049
P773
P1073
P1112
P1077
P1080
P1075
P1087
P1088
P1091
P1106
Ⅲe8e
Ⅲe8f
Ⅲe8g
Ⅲe8h
Ⅲe8i
Ⅲe7e
Ⅲe7g
Ⅲe7h
Ⅲe9f
Ⅲe9g
Ⅲe9h
242cm (8.0尺)
303cm (10.0尺)
1999cm (66.0尺)
273cm (9.0尺)
1152cm (38.0尺)
0
4m

第７図　掘立柱建物③

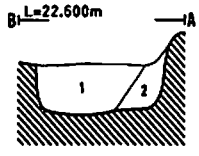
16ＳＢ６柱穴断面



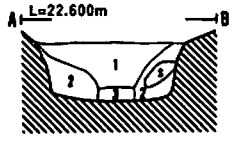
P1091
1　10ＹＲ２／２黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　10ＹＲ７／６明黄褐色土ブロック少量混入　炭化物粒少量混入
2　10ＹＲ３／２黒褐色土　10ＹＲ５／１褐灰土色ブロック少量混入　炭化物粒少量混入



P1088
1　10ＹＲ２／３黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒多量混入
2　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土　10ＹＲ３／３暗褐色土まだら状に少量混入　2.5ＹＲ８／３淡黄色ローム少量混入
3　10ＹＲ２／２黒褐色土　礎板の腐食した層



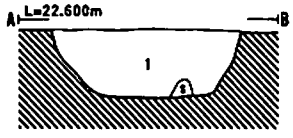
P1085
1　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土　10ＹＲ２／３黒褐色土まだら状に多量混入　10ＹＲ８／６黄橙色土ブロック少量混入　炭化物粒少量混入
2　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土　10ＹＲ黒褐色土まだら状に多量混入



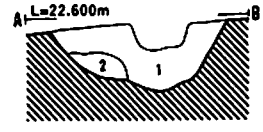
P1087
1　10ＹＲ３／２黒褐色土　10ＹＲ８／６黄橙色土ブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10ＹＲ３／４暗褐色土　2.5ＹＲ８／４淡黄色ロームブロック少量混入　炭化物粒少量混入
3　10ＹＲ２／２黒褐色土　礎板の腐食した層

16ＳＢ６

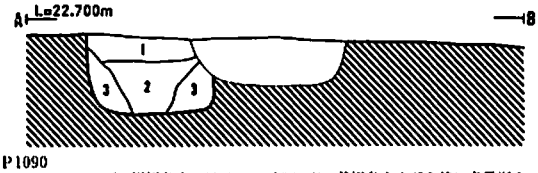
番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1073	32.7	22.235
P773	37.3	22.190
P1049	39.0	22.190
P753	21.9	22.298
P1106	18.4	22.352
P1091	41.0	22.110
P1088	47.6	22.068
P1085	53.2	21.968
P1087	48.3	22.052
P1075	45.3	22.077
P1090	47.8	22.110
P1080	44.5	21.998
P1089	58.3	21.873
P1077	57.2	22.040
P1076	36.6	22.045
P1112	39.7	22.045
P1103	35.8	22.000
P1095	55.2	21.895
P1096	26.8	22.198



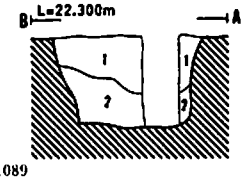
P1075
1　10ＹＲ３／３暗褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　10ＹＲ８／６黄橙色土ブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入



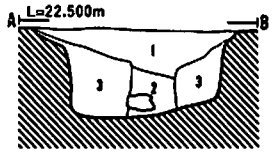
P1080
1　10ＹＲ２／３黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入



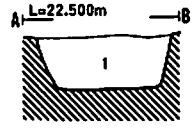
P1090
1　10ＹＲ２／３黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10ＹＲ３／２黒褐色土　１０ＹＲ８／８黄橙色ロームブロック少量混入　炭化物粒少量混入
3　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土　10ＹＲ２／２黒褐色土まだら状に多量混入　2.5Ｙ８／４淡黄色ロームブロック少量混入



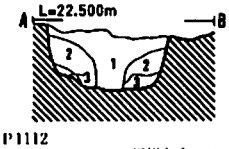
P1089
1　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土　10ＹＲ３／３暗褐色土まだら状に少量混入　炭化物粒少量混入　2.5Ｙ８／４淡黄色ローム少量混入
2　10ＹＲ２／３黒褐色土　10ＹＲ４／６褐色土まだら状に多量混入　2.5Ｙ８／４淡黄色ローム上少量混入



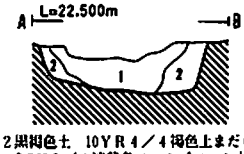
P1077
1　10ＹＲ２／２黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状少量混入　2.5Ｙ８／２灰白色ロームブロック少量混入　焼土粒少量混入
2　10ＹＲ２／２黒褐色土　7.5ＹＲ４／６褐色土少量混入　炭化物粒少量混入
3　10ＹＲ３／２黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状少量混入　2.5Ｙ８／４淡黄色ロームブロック少量混入



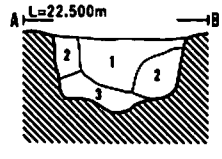
P1076
1　10ＹＲ３／２黒褐色土　10ＹＲ８／６黄橙色土ローム　2.5Ｙ８／４淡黄色ロームブロック状多量混入　炭化物粒少量混入



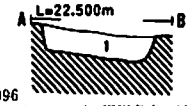
P1112
1　10ＹＲ３／２黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状に少量混入　2.5Ｙ７／４淡黄色ロームブロック少量混入　炭化物粒少量混入
2　10ＹＲ３／３暗褐色土　10ＹＲ４／４褐色土まだら状少量混入
3　10ＹＲ２／１黒色土　10ＹＲ６／１褐灰色土まだら状少量混入



P1103
1　10ＹＲ２／２黒褐色土　10ＹＲ４／４褐色土まだら状に少量混入　2.5Ｙ８／４淡黄色ロームブロック少量混入炭化物粒少量混入
2　10ＹＲ３／４暗褐色土　10ＹＲ３／１黒褐色土まだら状に少量混入　2.5Ｙ８／４淡黄色ロームブロック少量混入　焼土粒少量混入



P1095
1　10ＹＲ３／３暗褐色土　2.5Ｙ８／４淡黄色ローム少量混入　炭化物粒少量混入
2　10ＹＲ２／３黒褐色土　2.5Ｙ７／４浅黄色ロームブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒多量混入
3　10ＹＲ２／２黒褐色土　2.5Ｙ７／２灰黄色ロームブロック少量混入　炭化物粒少量混入



P1096
1　10ＹＲ２／２黒褐色土　10ＹＲ３／４暗褐色土まだら状に少量混入　炭化物粒少量混入

0　2m

第８図　掘立柱建物④

〔年代〕不明である。

16ＳＢ８（第９図、写真図版３）

〔位置〕ⅢＧ５ｆ、５ｇ、６ｆ、６ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ６の柱穴Ｐ1089、Ｐ1079と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ７の柱穴Ｐ1060、Ｐ1050と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ９の柱穴Ｐ1059と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ４、16ＳＢ５、16ＳＢ10、16ＳＥ７、16ＳＥ11とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは733cmである。梁間は491cmである。面積は36.0㎡である。使用した柱穴は８個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－５°－Ｗである。

〔柱間寸法〕桁行きでは227cm（7.5尺）を多用する。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ９（第９図、写真図版３）

〔位置〕ⅢＧ５ｆ、５ｇ、６ｆ、６ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ７の柱穴Ｐ1060、16ＳＢ８の柱穴Ｐ719と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ４、16ＳＢ５、16ＳＢ10、16柱列１、16ＳＥ７とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは609cmである。梁間は230cmである。面積は14.0㎡である。使用した柱穴は８個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－２°－Ｗである。

〔柱間寸法〕桁行きでは209cm（6.9尺）を多用する。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ10（第10図）

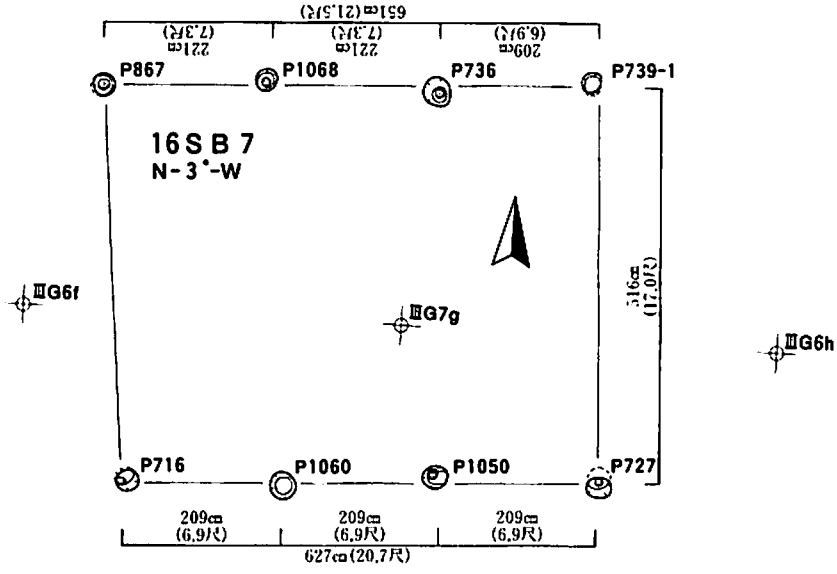
〔位置〕ⅢＧ５ｆ、５ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ４の柱穴Ｐ1053と重複するが本建物が古い。また16ＳＥ７と重複するが本建物が古い。16ＳＢ５、16ＳＢ７、16ＳＢ８とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは406cmである。梁間は346cmである。面積は14.0㎡である。使用した柱穴は６個である。

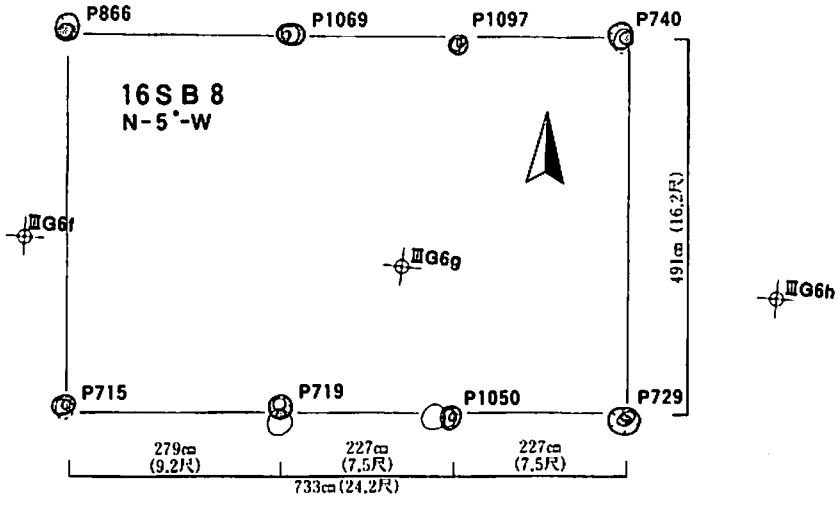
〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－４°－Ｗである。

〔柱間寸法〕桁行きでは203cm（6.7尺）、梁間では173cm（5.7尺）を使用する。



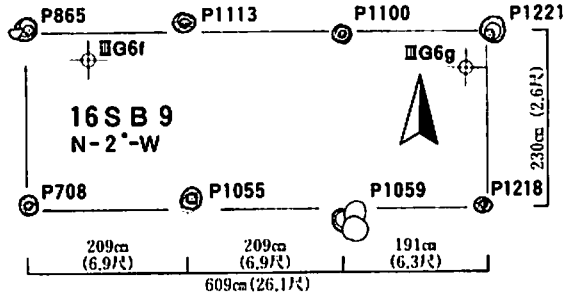
16SB7

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P867	28.2	22.15
P1068	34.2	22.23
P736	17.9	22.39
P739-1	41.6	22.13
P727	48.8	22.11
P1050	不明	不明
P1060	45.3	22.18
P716	41.3	22.10



16SB8

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P866	20.1	22.21
P1069	56.6	22.01
P1097	20.6	22.39
P740	31.8	22.23
P728	38.8	22.16
P1051	不明	不明
P719	46.9	22.12
P715	38.1	22.12



16SB9

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P865	11.0	22.32
P1113	20.9	22.21
P1100	21.7	22.36
P1221	26.4	22.18
P1218	15.3	22.21
P1059	39.2	22.19
P1055	24.0	22.26
P708	17.9	22.30

0 4m

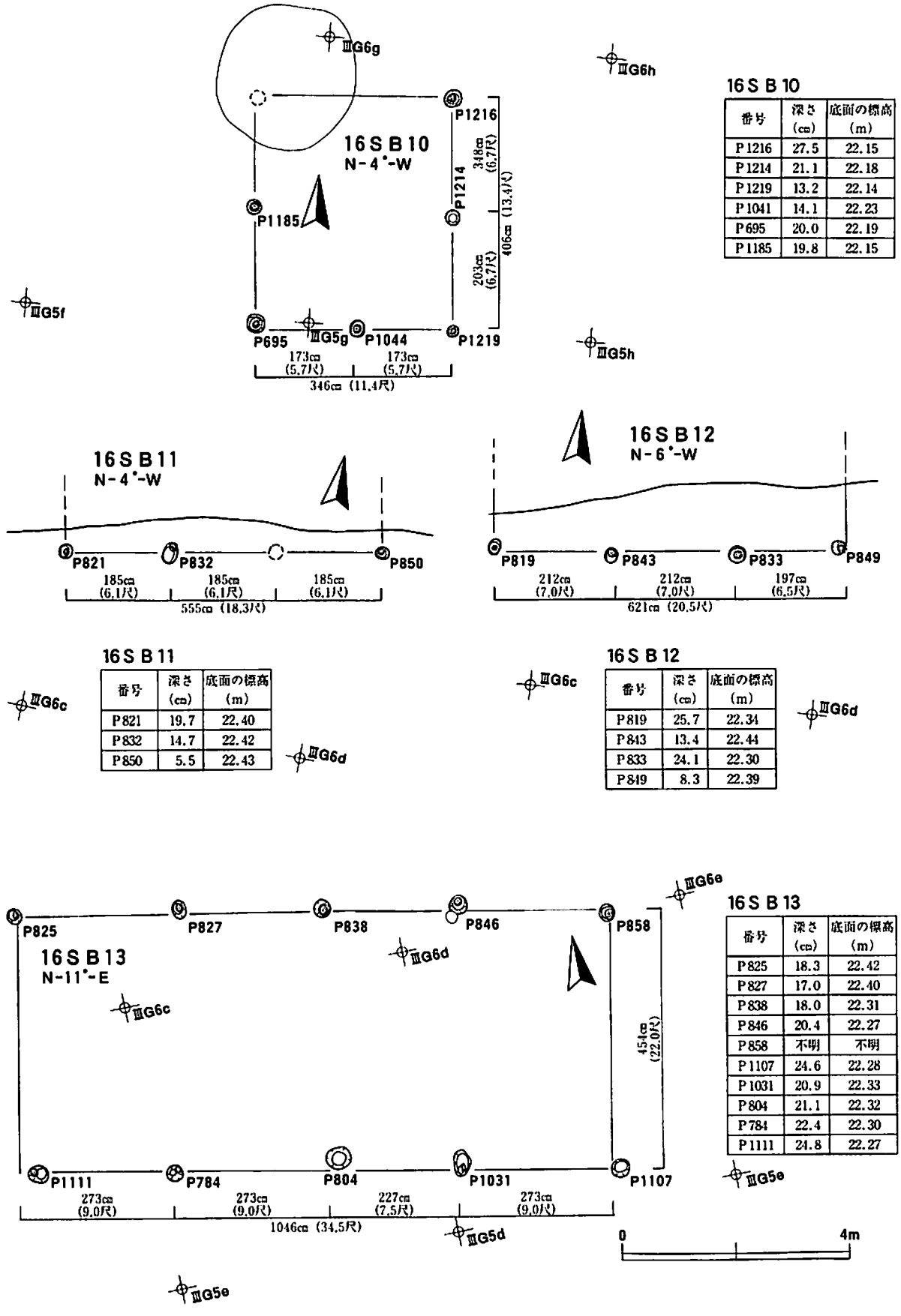
第9図　掘立柱建物⑤

〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ11（第10図）
〔位置〕ⅢＧ６ｃに位置する。
〔重複〕16ＳＢ12、16ＳＢ14とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは555cmである。梁間は調査区北側に伸びるため不明である。面積も不明である。使用した柱穴は３個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－11°－Ｗである。
〔柱間寸法〕桁行きでは185cm（6.1尺）を使用する。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ12（第10図）
〔位置〕ⅢＧ６ｃに位置する。
〔重複〕16ＳＢ11、16ＳＢ14とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは612cmである。梁間は調査区北側に伸びるため不明である。面積も不明である。使用した柱穴は４個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－６°－Ｗである。
〔柱間寸法〕桁行きでは209cm（6.9尺）を多用する。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ13（第10図、写真図版３）
〔位置〕ⅢＧ５ｂ、５ｃ、５ｄ、５ｅに位置する。
〔重複〕16ＳＤ13よりも本建物が新しい。また16ＳＢ15とは柱穴が接するが前後関係を明確に判断できない。また16ＳＢ16、16柱列５、16ＳＥ10とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1046cmである。梁間は454cmである。面積は47.5㎡である。使用した柱穴は10個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－11°－Ｅである。
〔柱間寸法〕桁行きでは273cm（9.0尺）と227cm（7.5尺）を使用している。
〔出土遺物〕Ｐ1031から常滑片口鉢（2001）が出土した。



16SB10

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1216	27.5	22.15
P1214	21.1	22.18
P1219	13.2	22.14
P1041	14.1	22.23
P695	20.0	22.19
P1185	19.8	22.15

16SB11

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P821	19.7	22.40
P832	14.7	22.42
P850	5.5	22.43

16SB12

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P819	25.7	22.34
P843	13.4	22.44
P833	24.1	22.30
P849	8.3	22.39

16SB13

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P825	18.3	22.42
P827	17.0	22.40
P838	18.0	22.31
P846	20.4	22.27
P858	不明	不明
P1107	24.6	22.28
P1031	20.9	22.33
P804	21.1	22.32
P784	22.4	22.30
P1111	24.8	22.27

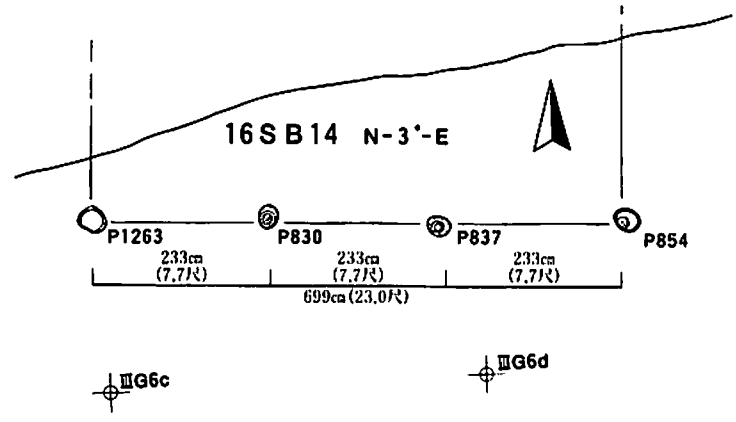
第10図　掘立柱建物⑥

〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明であるが、常滑片口鉢の出土から12世紀後半以降の建物である。

16ＳＢ14（第11図）
〔位置〕ⅢＧ６ｃ、６ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ11、16ＳＢ12とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは699cmである。梁間は調査区北側に伸びるため不明である。面積も不明である。使用した柱穴は４個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－３°－Ｗである。
〔柱間寸法〕桁行きでは233cm（7.7尺）を多用する。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

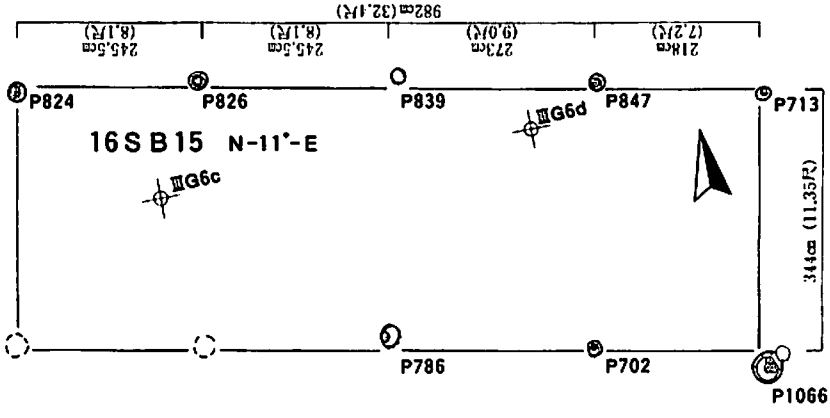
16ＳＢ15（第11図）
〔位置〕ⅢＧ５ｂ、５ｃ、５ｄ、６ｂ、６ｃ、６ｄに位置する。
〔重複〕16柱列２の柱穴Ｐ703と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ13とは柱穴が接するが前後関係を明確に判断できない。また16ＳＢ16、16柱列５、16ＳＥ10とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは982cm、梁間は344cmである。面積は33.8㎡である。使用した柱穴は８個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－11°－Ｅである。
〔柱間寸法〕様々な寸法を用いており、基準寸法を見出せない。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ16（第11図、写真図版３）
〔位置〕ⅢＧ５ｄ、６ｄに位置する。
〔重複〕16柱列２の柱穴Ｐ703と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ13とは柱穴が接するが前後関係を明確に判断できない。また16ＳＢ13、16ＳＢ14、16ＳＢ15とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは627cm、梁間は383cmである。面積は24.0㎡である。使用した柱穴は８個である。
〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－11°－Ｅである。



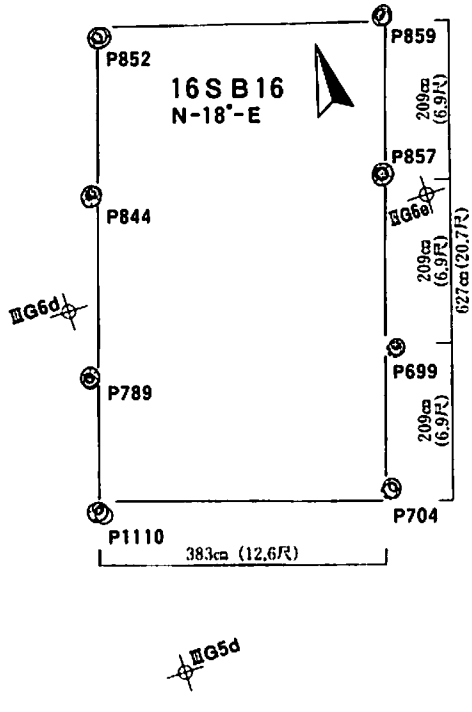
16S B 14

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1263	4.2	22.63
P830	28.6	22.28
P837	14.1	22.32
P854	9.4	22.36



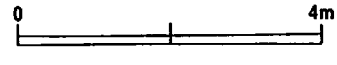
16S B 15

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P824	19.5	22.40
P826	21.5	22.34
P839	11.5	22.38
P847	15.5	22.31
P713	不明	不明
P1066	22.4	22.30
P702	15.1	22.35
P786	11.5	22.54



16S B 16

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P852	10.2	22.38
P859	17.4	22.28
P857	16.0	22.30
P699	17.9	22.31
P704	19.3	22.30
P1110	14.7	22.38
P789	11.8	22.33
P844	16.2	22.28



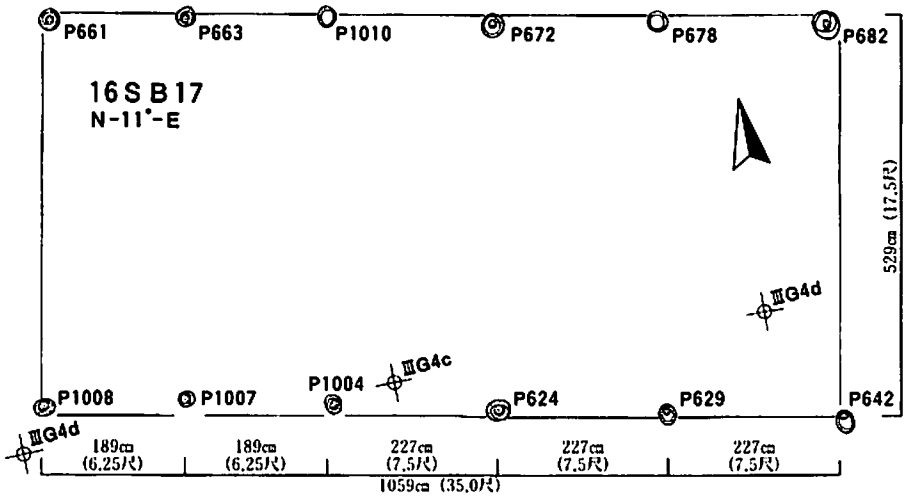
第11図　掘立柱建物⑦

〔柱間寸法〕桁行きでは209cm（6.9尺）を用いている。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ17（第12図、写真図版３）
〔位置〕ⅢＧ４ｂ、４ｃに位置する。
〔重複〕16柱列３の柱穴Ｐ1245と重複するが本建物が古い。また16ＳＥ９、16ＳＤ12、16ＳＫ17と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ18、16ＳＢ19とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1059cm、梁間は529cmである。面積は56.0㎡である。使用した柱穴は12個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－11°－Ｅである。
〔柱間寸法〕桁行きでは227cmを多用している。これを６で割った数値は37.8cmである。これを任意の１尺とすると、桁行きで他に使用されている189cmは５尺、梁間529cmは14尺となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の１尺＝37.8cmを使用したと推測される。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕民家の主屋の可能性がある。
〔年代〕不明あるが、重複する16ＳＢ19と規模が類似し同じ性格の建物と考えられる。16ＳＢ19は出土遺物から15～16世紀代の建物と考えられ、本建物はこれに近接する中世後半の建物と推測される。

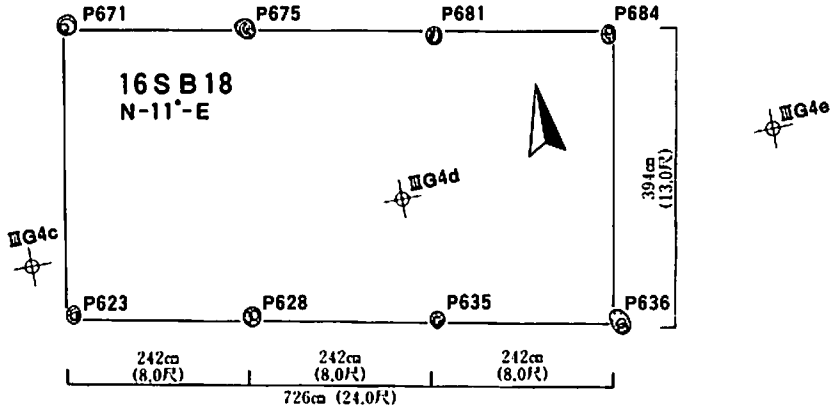
16ＳＢ18（第12図、写真図版７）
〔位置〕ⅢＧ３ｃ、３ｄ、４ｃ、４ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ17、16ＳＢ19、16ＳＤ12とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは726cm、梁間は394cmである。面積は28.6㎡である。使用した柱穴は８個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－11°－Ｅである。
〔柱間寸法〕桁行きでは242cm（8.0尺）を使用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明ある。

16ＳＢ19（第12図、写真図版７）
〔位置〕ⅢＧ３ｂ、３ｃ、４ｂ、４ｃに位置する。



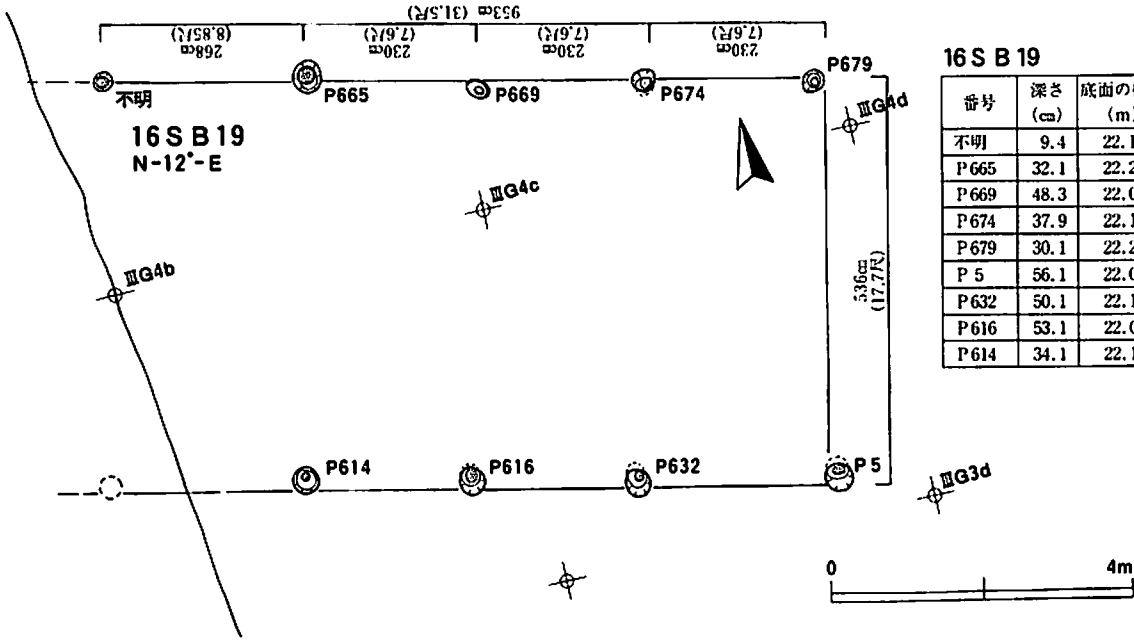
16SB17

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P661	25.7	22.31
P663	12.5	22.43
P1010	5.0	22.45
P672	20.0	22.37
P678	31.0	22.26
P682	23.3	22.34
P642	22.6	22.31
P629	38.4	22.14
P624	20.0	22.32
P1004	36.5	22.17
P1007	26.4	22.25
P1008	38.0	22.14



16SB18

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P671	19.6	22.34
P675	19.3	22.34
P681	20.0	22.36
P684	15.4	22.35
P636	31.0	22.19
P635	19.7	22.34
P628	23.8	22.30
P623	19.8	22.34



16SB19

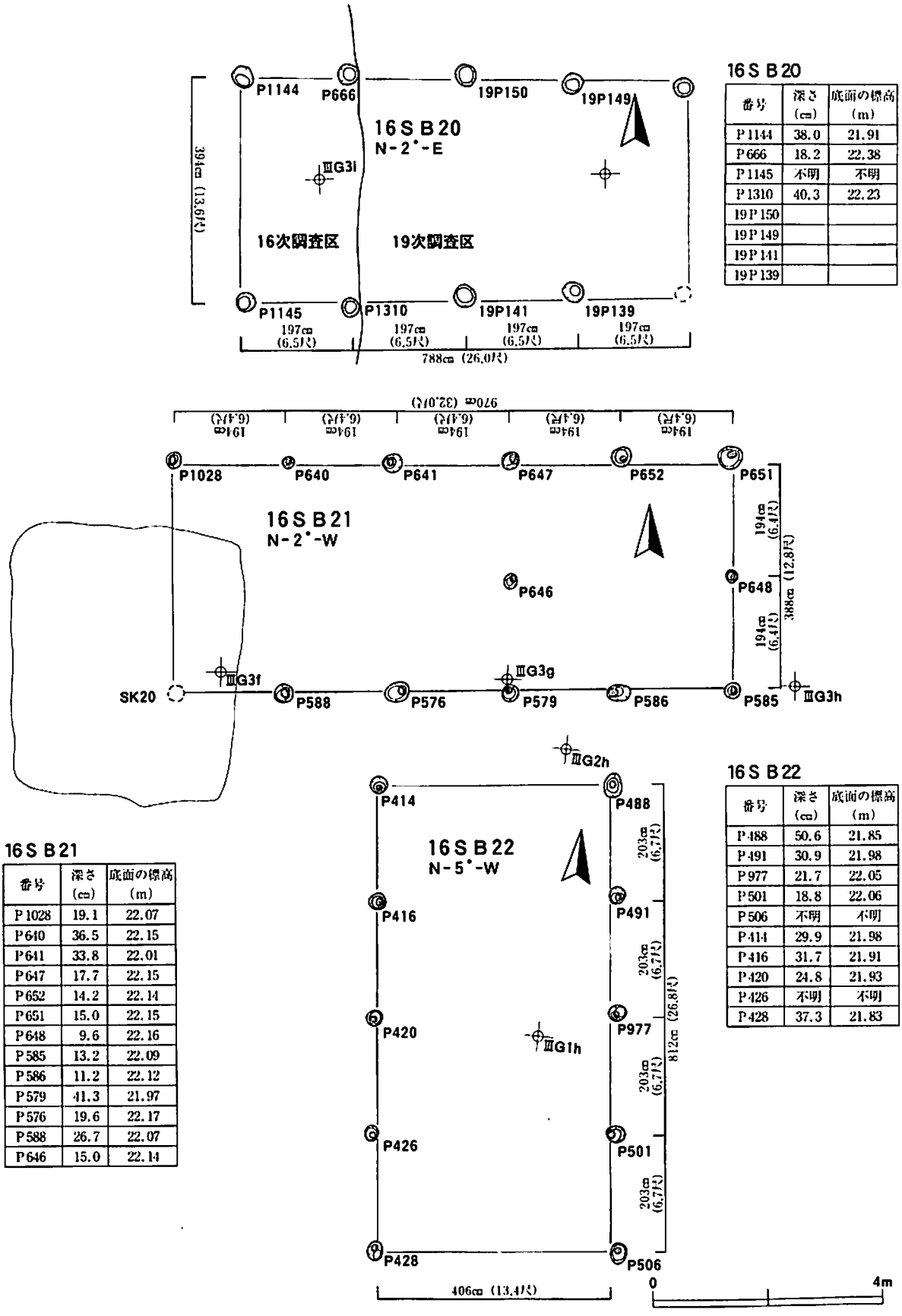
番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
不明	9.4	22.17
P665	32.1	22.22
P669	48.3	22.08
P674	37.9	22.16
P679	30.1	22.24
P5	56.1	22.07
P632	50.1	22.10
P616	53.1	22.07
P614	34.1	22.17

第12図　掘立柱建物⑧

〔重複〕16ＳＤ11、16ＳＤ12、16ＳＤ15と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ17、16ＳＢ19とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びると推測され、全体形は不明である。桁行きは958cm以上、梁間は536cmである。検出された分の面積は51.3㎡である。使用した柱穴は９個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－12°－Ｅである。
〔柱間寸法〕桁行きでは230cmを多用している。これを６で割った数値は38.3cmである。これを任意の１尺とすると、桁行きで他に使用されているに268cmは７尺、梁間536cmは14尺となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の１尺＝38.3cmを使用したと推測される。
〔出土遺物〕Ｐ669から瀬戸美濃産の陶器皿の口縁部破片（5064）が出土した。
〔付属施設〕なし
〔建物の性格〕民家の主屋の可能性がある。
〔年代〕Ｐ669の出土遺物から15～16世紀代の建物と考えられる。

16ＳＢ20（第13図）
〔位置〕ⅢＧ２ｈ、２ｉ、３ｈ、３ｉに位置する。本建物の東側は19次調査区に含まれる。
〔重複〕16ＳＤ13とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは788cm、梁間は394cmである。面積は31.0㎡である。使用した柱穴は９個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－２°－Ｅである。
〔柱間寸法〕桁行きでは197cm（6.5尺）を使用している。梁間の長さは13尺でその２倍である。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ21（第13図、写真図版７）
〔位置〕ⅢＧ２ｆ、２ｇ、３ｆ、３ｇに位置する。
〔重複〕16ＳＫ20と重複するが本建物が古い。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは970cm、梁間は388cmである。面積は37.6㎡である。使用した柱穴は13個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－２°－Ｗである。
〔柱間寸法〕基準寸法は194cm（6.4尺）である。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕なし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。



16S B20

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1144	38.0	21.91
P666	18.2	22.38
P1145	不明	不明
P1310	40.3	22.23
19P150		
19P149		
19P141		
19P139		

16S B21

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1028	19.1	22.07
P640	36.5	22.15
P641	33.8	22.01
P647	17.7	22.15
P652	14.2	22.14
P651	15.0	22.15
P648	9.6	22.16
P585	13.2	22.09
P586	11.2	22.12
P579	41.3	21.97
P576	19.6	22.17
P588	26.7	22.07
P646	15.0	22.14

16S B22

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P488	50.6	21.85
P491	30.9	21.98
P977	21.7	22.05
P501	18.8	22.06
P506	不明	不明
P414	29.9	21.98
P416	31.7	21.91
P420	24.8	21.93
P426	不明	不明
P428	37.3	21.83

第13図　掘立柱建物⑨

16ＳＢ22（第13図、写真図版７）

〔位置〕ⅢＧ１ｇ、１ｈ、２ｇ、２ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＩ１と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ23、16ＳＥ４、16ＳＥ８と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは812cm、梁間は406cmである。面積は33.0㎡である。使用した柱穴は８個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－５°－Ｗである。

〔柱間寸法〕基準寸法は203cm（6.7尺）である。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

16ＳＢ23（第14図、写真図版７）

〔位置〕ⅢＧ０ｈ、０ｉ、１ｈ、１ｉ、２ｈ、２ｉに位置する。

〔重複〕16ＳＩ１、16ＳＥ４、16ＳＥ８と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ22と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは930cm、梁間は400cmである。面積は37.2㎡である。使用した柱穴は10個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－１°－Ｗである。

〔柱間寸法〕200cm（6.6尺）が多用されており、基準寸法と推測される。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ24（第14図、写真図版７）

〔位置〕ⅢＧ０ｅ、０ｆ、１ｅ、１ｆ、２ｅ、２ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＥ６と重複するが本建物が新しい。また16ＳＫ20と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ25と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1045.5cm、梁間は424cmである。面積は44.3㎡である。使用した柱穴は19個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－10°－Ｅである。

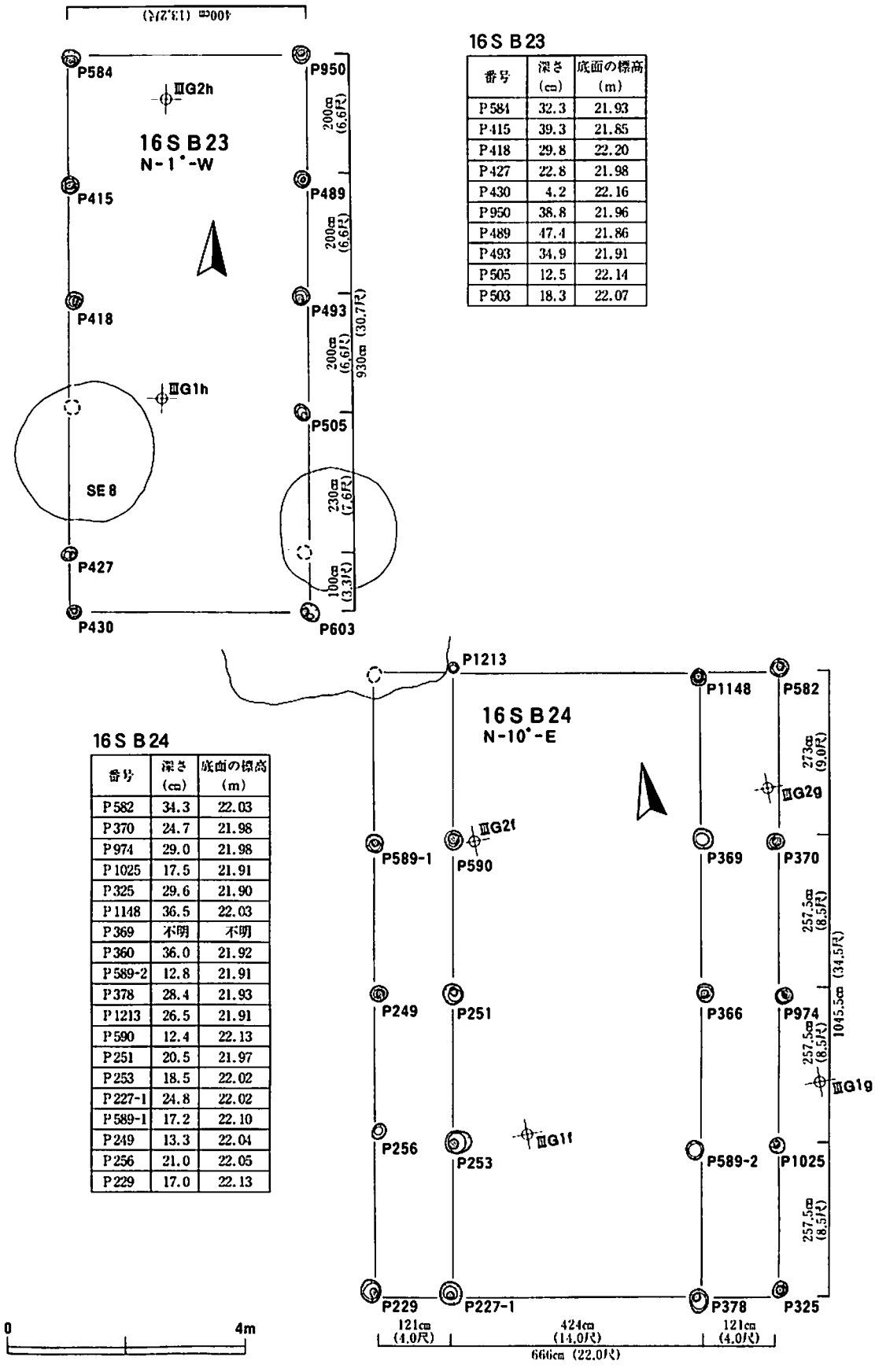
〔柱間寸法〕桁行きでは257cm（8.5尺）が多用されている。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。



16S B23

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P584	32.3	21.93
P415	39.3	21.85
P418	29.8	22.20
P427	22.8	21.98
P430	4.2	22.16
P950	38.8	21.96
P489	47.4	21.86
P493	34.9	21.91
P505	12.5	22.14
P503	18.3	22.07

16S B24

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P582	34.3	22.03
P370	24.7	21.98
P974	29.0	21.98
P1025	17.5	21.91
P325	29.6	21.90
P1148	36.5	22.03
P369	不明	不明
P360	36.0	21.92
P589-2	12.8	21.91
P378	28.4	21.93
P1213	26.5	21.91
P590	12.4	22.13
P251	20.5	21.97
P253	18.5	22.02
P227-1	24.8	22.02
P589-1	17.2	22.10
P249	13.3	22.04
P256	21.0	22.05
P229	17.0	22.13

第14図　掘立柱建物⑩

16ＳＢ25（第15図）

〔位置〕ⅢＧ０ｅ、１ｅに位置する。

〔重複〕16ＳＤ５と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ25、16ＳＢ28、16ＳＢ38、16ＳＢ46と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは717cm、梁間は398cmである。面積は28.5㎡である。使用した柱穴は６個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－３°－Ｅである。

〔柱間寸法〕桁行きでは239cm（7.9尺）が多用されている。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ26（第15図）

〔位置〕ⅢＧ２ｂ、２ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＩ２と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ27、16ＳＢ37、16ＳＤ11と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは824cm、梁間は452cmである。面積は37.2㎡である。使用した柱穴は６個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－24°－Ｅである。

〔柱間寸法〕桁行きでは194cm（6.4尺）が多用されている。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ27（第15図）

〔位置〕ⅢＧ２ｃ、２ｄに位置する。

〔重複〕また16ＳＢ26、16ＳＢ37と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは699cm、梁間は388cmである。面積は27.1㎡である。使用した柱穴は５個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－27°－Ｅである。

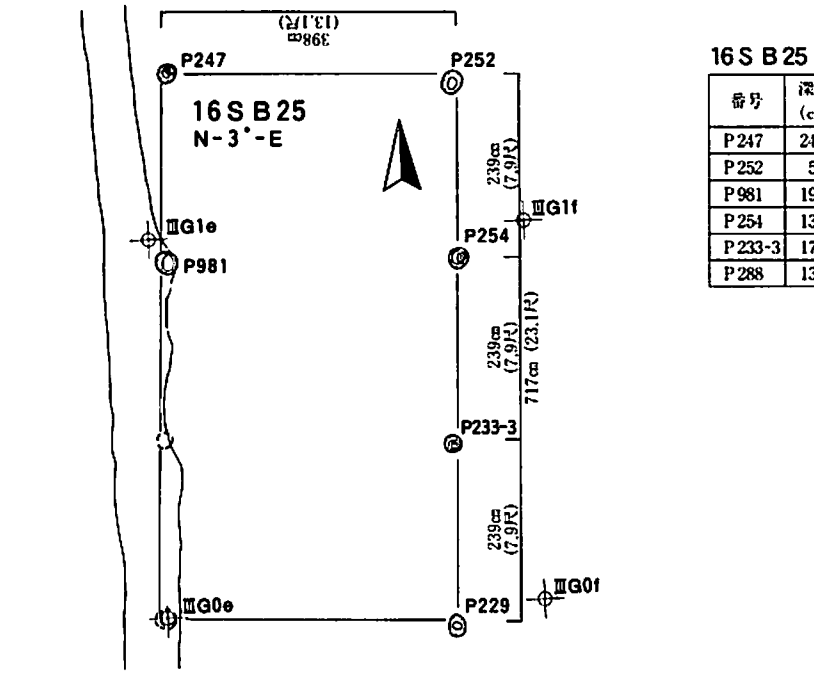
〔柱間寸法〕桁行きでは233cm（7.7尺）が使用されている。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

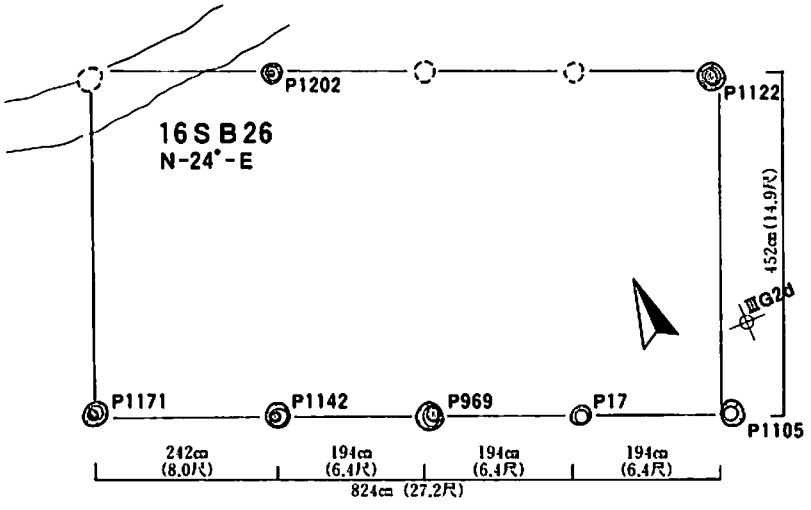
〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。



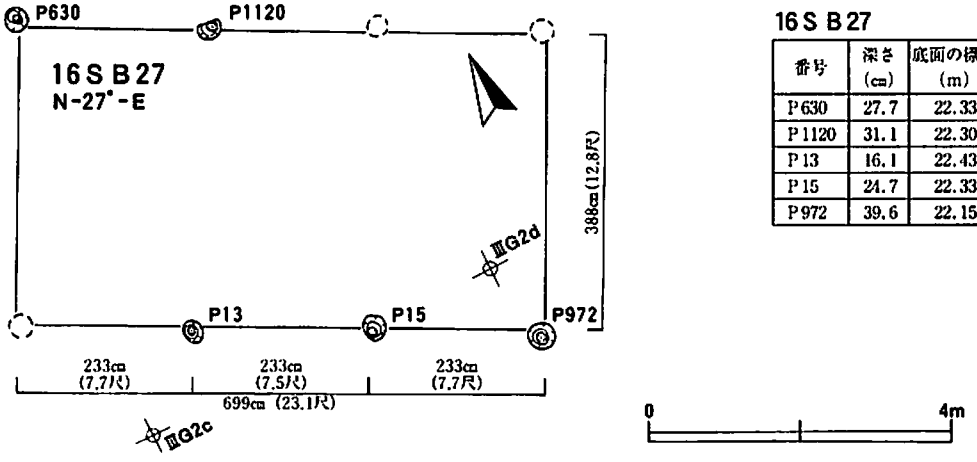
16SB25

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P247	24.0	22.05
P252	5.0	22.14
P981	19.1	22.16
P254	13.5	22.05
P233-3	17.1	22.05
P288	13.1	22.12



16SB26

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1202	19.2	22.19
P1122	43.0	22.17
P1171	22.3	22.15
P1142	15.9	22.26
P969	31.6	22.27
P17	25.5	22.29
P1105	23.8	22.38



16SB27

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P630	27.7	22.33
P1120	31.1	22.30
P13	16.1	22.43
P15	24.7	22.33
P972	39.6	22.15

第15図　掘立柱建物⑪

16ＳＢ28（第16図、写真図版７）

〔位置〕ⅢＧ８ｄ、８ｅ、８ｆ、８ｇ、８ｈ、９ｄ、９ｅ、９ｆ、９ｇ、９ｈ、ⅢＧ０ｄ、０ｅ、０ｆ、０ｇ、０ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ34の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ32の柱穴、16ＳＤ５と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ29、16ＳＢ30、16ＳＢ31、16ＳＢ33、16ＳＢ34、16ＳＢ35、16ＳＢ36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1840cm、梁間は873cmである。面積は169.4㎡である。使用した柱穴は42個である。現存する近世民家の間取りに当てはめるならば、東側の部屋は「ニワ」、真ん中の前の部屋が「ナカマ」、真ん中の後が「オカミ」、西側前の部屋が「ザシキ」、西側後が「ナンド」ということになる。

〔柱穴〕上屋柱と下屋柱で、柱穴掘方の大きさ、深さに著しい差がある。また上屋柱と下屋柱の掘方が一体化しているものがある。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－１°－Ｅである。

〔柱間寸法〕一見すると、柱間寸法は様々で基準寸法は見出せない。しかし梁、桁の全長を、194cm（6.4尺）で割ると、それぞれ4.5間、9.5間で割り切れる。よって全体のプランの設定には194cm（6.4尺）を基準寸法にしたと理解できる。またザシキ部分で４寸角の柱を使用したと想定し、その柱間の内法寸法を求めると、ザシキ部分に6.4尺×3.2尺の畳をぴったり12畳半敷くことができる。よって本建物のザシキ部分には畳割を想定した内法寸法の柱間寸法が用いられていたと考えられる。

〔出土遺物〕Ｐ290から12世紀の軒丸瓦片(4001)、Ｐ376から中国産青白磁合子(3034)と中国産染付碗(5003)、Ｐ395－１から寛永通寶（古寛永8016）、Ｐ425から中国産染付碗（5001）と中国産染付皿（5008、5009）、Ｐ494から渥美産陶器甕（2080）、Ｐ498から北宋銭聖宋元寶（8002）が出土した。

〔付属施設〕位置関係から16ＳＢ67が付属屋の可能性がある。

〔建物の性格〕近世民家の主屋である。

〔年代〕柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから18世紀初頭～18世紀前半の建物と推測される。

16ＳＢ29（第17図、写真図版７）

〔位置〕ⅢＧ８ｅ、８ｆ、８ｇ、８ｈ、９ｅ、９ｆ、９ｇ、９ｈ、ⅢＧ０ｅ、０ｆ、０ｇ、０ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ29、16ＳＢ33と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ32の柱穴と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ30、16ＳＢ31、16ＳＢ34、16ＳＢ35、16ＳＢ36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

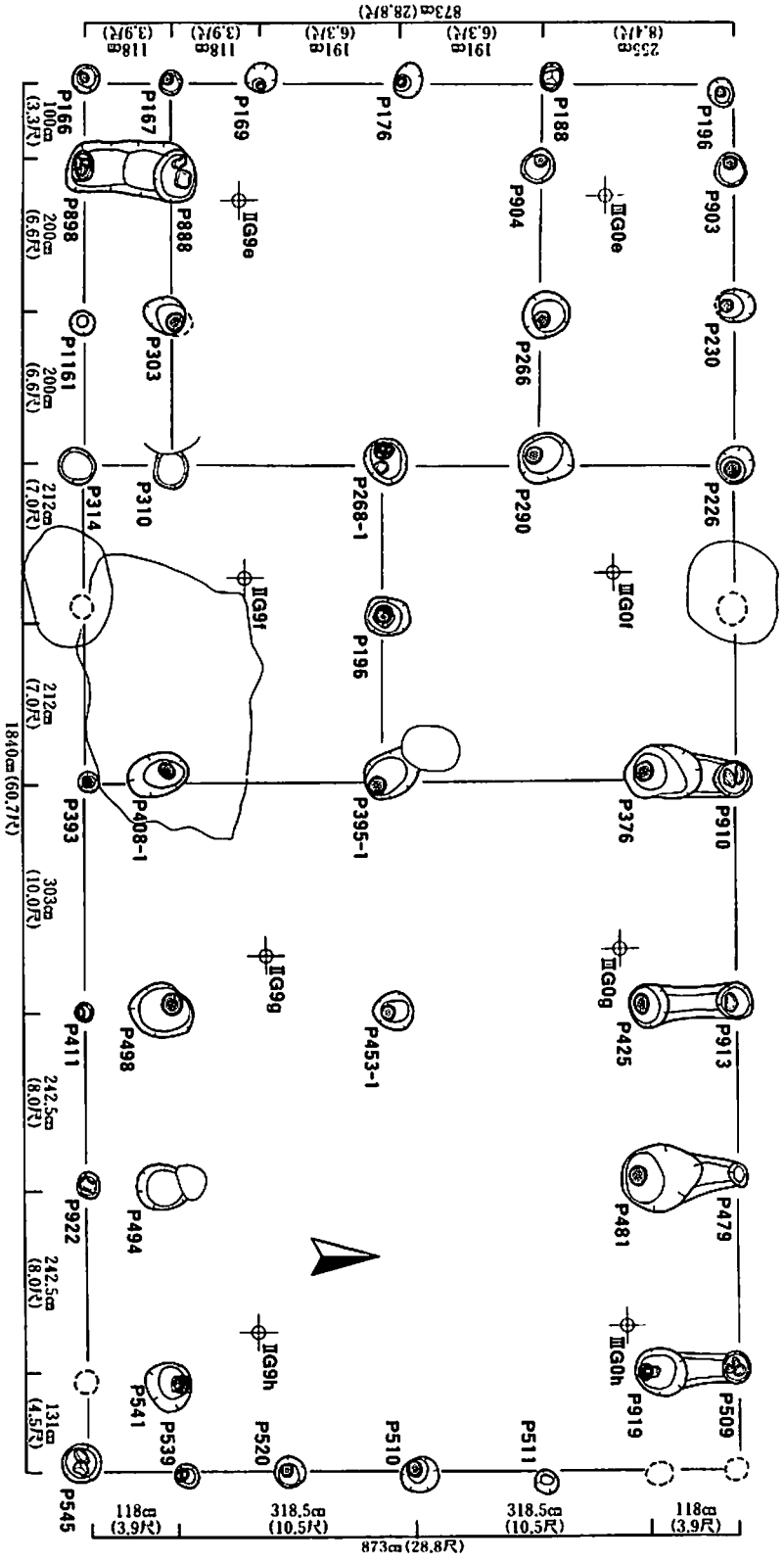
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1674.5cm、梁間は887cmである。面積は148.5㎡である。使用した柱穴は37個である。現存する近世民家の間取りに当てはめるならば、東側の部屋は「ニワ」、真ん中の前の部屋が「ナカマ」、真ん中の後が「オカミ」、西側前の部屋が「ザシキ」、西側後が「ナンド」ということになる。

〔柱穴〕上屋柱と下屋柱で、柱穴掘方の大きさ、深さに著しい差がある。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－２°－Ｗである。

〔柱間寸法〕一見すると、柱間寸法は様々で基準寸法は見出せない。しかし梁、桁の全長を、197cm（6.5尺）で割ると、それぞれ4.5間、8.5間で割り切れる。よって全体のプランの設定には197cm（6.5尺）を基準寸法

16SB28
N-1°-E

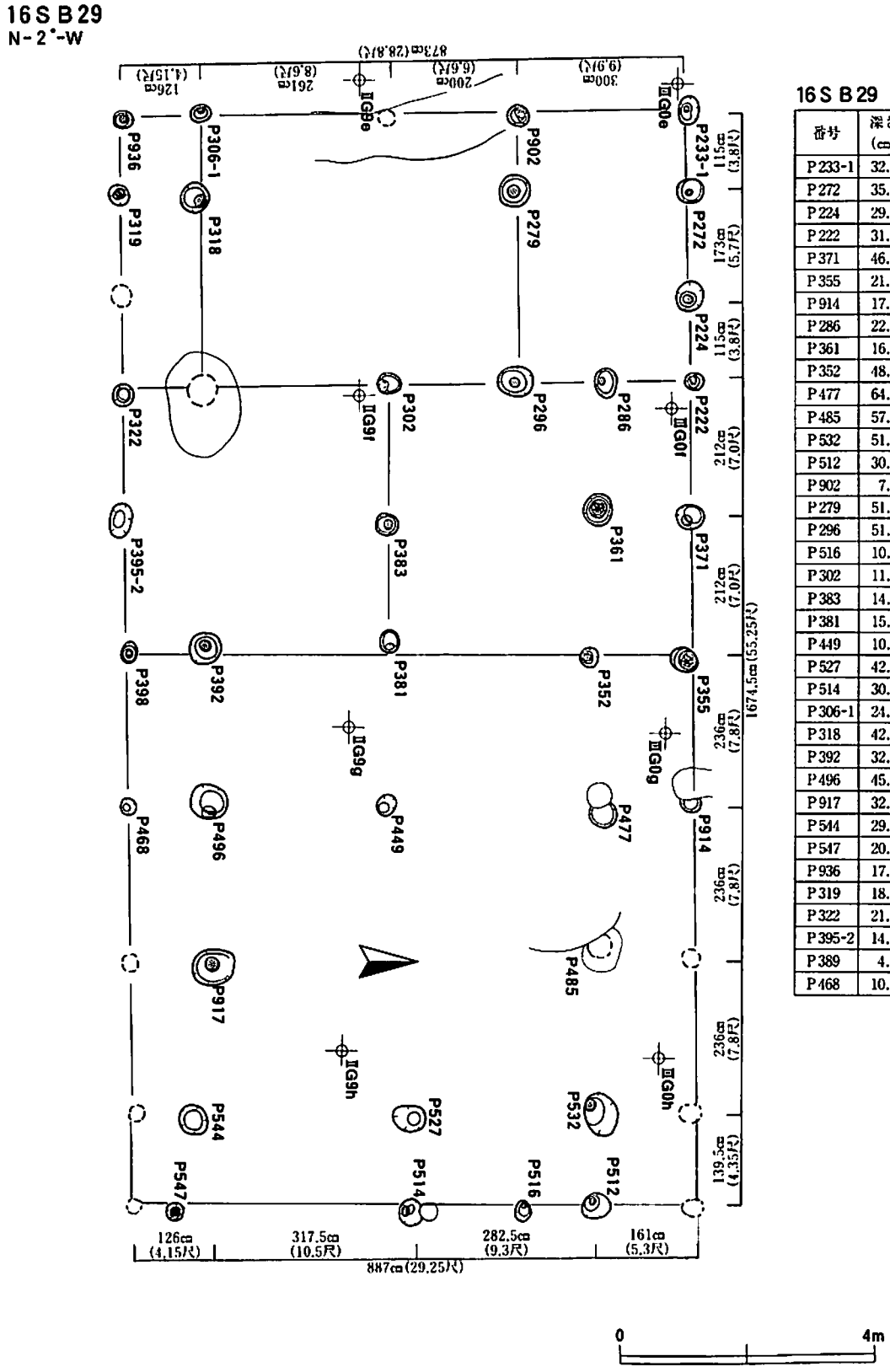


16SB28

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P196	19.6	22.12
P903	11.2	21.99
P230	32.3	22.02
P226	32.3	21.90
P910	14.3	22.04
P913	22.5	21.96
P479	9.2	22.12
P509	13.3	21.12
P376	55.1	21.72
P425	65.9	21.86
P481	74.4	21.51
P919	54.1	21.57
P188	17.9	22.16
P904	31.7	21.98
P266	59.5	21.66
P290	不明	不明
P511	36.0	21.88
P176	33.6	21.98
P268-1	24.0	21.98
P299	22.8	21.92
P395-1	53.3	21.72
P453-1	42.4	21.85
P510	43.8	21.74
P520	27.3	21.88
P169	32.0	21.93
P167	23.6	21.96
P888	50.0	21.67
P303	60.2	21.57
P310	47.0	21.69
P408-1	22.4	21.70
P498	57.6	21.59
P494	64.8	21.49
P541	55.4	21.61
P539	22.4	21.86
P166	19.5	22.02
P898	17.0	22.02
P1161	不明	不明
P314	18.2	22.00
P393	20.4	21.89
P411	51.6	21.61
P922	7.3	21.96
P545	9.8	21.87

0 4m

第16図　掘立柱建物⑫



16S B29

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P233-1	32.4	21.94
P272	35.5	21.97
P224	29.0	21.99
P222	31.2	21.95
P371	46.8	21.81
P355	21.2	21.98
P914	17.0	22.02
P286	22.4	21.99
P361	16.5	22.10
P352	48.8	21.81
P477	64.9	21.62
P485	57.2	21.64
P532	51.0	21.74
P512	30.6	21.89
P902	7.5	21.99
P279	51.1	21.74
P296	51.2	21.66
P516	10.5	22.05
P302	11.6	22.05
P383	14.4	21.91
P381	15.1	22.04
P449	10.3	22.03
P527	42.5	21.73
P514	30.3	21.86
P306-1	24.0	21.93
P318	42.6	21.76
P392	32.0	21.78
P496	45.0	21.68
P917	32.0	21.68
P544	29.5	21.71
P547	20.4	21.75
P936	17.0	21.99
P319	18.4	22.02
P322	21.3	21.88
P395-2	14.7	21.87
P389	4.6	21.87
P468	10.4	21.98

第17図　掘立柱建物⑬

にしたと理解できる。またザシキ部分で4寸角の柱を使用したと想定し、その柱間の内法寸法を求めると、ザシキ部分に6.4尺×3.2尺の畳をぴったり10畳敷くことができる。よって本建物のザシキ部分には畳割を想定した内法寸法の柱間寸法が用いられていたと考えられる。

〔出土遺物〕P361から寛永通寶（背文8019）、P512から肥前産染付皿（5029）が出土した。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕近世民家の主屋である。

〔年代〕柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから18世紀中葉～18世紀後半の建物と推測される。

16ＳＢ30（第18図、写真図版８）

〔位置〕ⅡＧ８ｄ、８ｅ、８ｆ、８ｇ、９ｄ、９ｅ、９ｆ、９ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＤ６と重複するが本建物が新しい。また16ＳＥ５と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ28、16ＳＢ29、16ＳＢ31、16ＳＢ32、16ＳＢ33、16ＳＢ34、16ＳＢ35、16ＳＢ36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1521.5cm、梁間は609cmである。面積は92.7㎡である。使用した柱穴は21個である。上屋柱と下屋柱からなる構造である。

〔柱穴〕上屋柱と下屋柱で、柱穴掘方の大きさ、深さに著しい差がある。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－０°である。

〔柱間寸法〕桁行きでは203cmを多用している。これを６で割った数値は33.8cmである。これを任意の１尺とすると、桁行きで他に使用されているに236.5cmは７尺、梁間の身舎609cmは18尺＝３間となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の１尺＝33.8cmを使用したと推測される。

〔出土遺物〕P530から瀬戸・美濃産灰釉皿（5066）、P926から砥石（7012）が出土した。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕近世民家の主屋である。

〔年代〕柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから16世紀末～17世紀初頭の建物と推測される。

16ＳＢ31（第19図、写真図版８）

〔位置〕ⅡＧ８ｅ、８ｆ、８ｇ、８ｈ、９ｅ、９ｆ、９ｇ、９ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＤ６と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ29、16ＳＥ５と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ28、16ＳＢ30、16ＳＢ32、16ＳＢ33、16ＳＢ34、16ＳＢ35、16ＳＢ36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

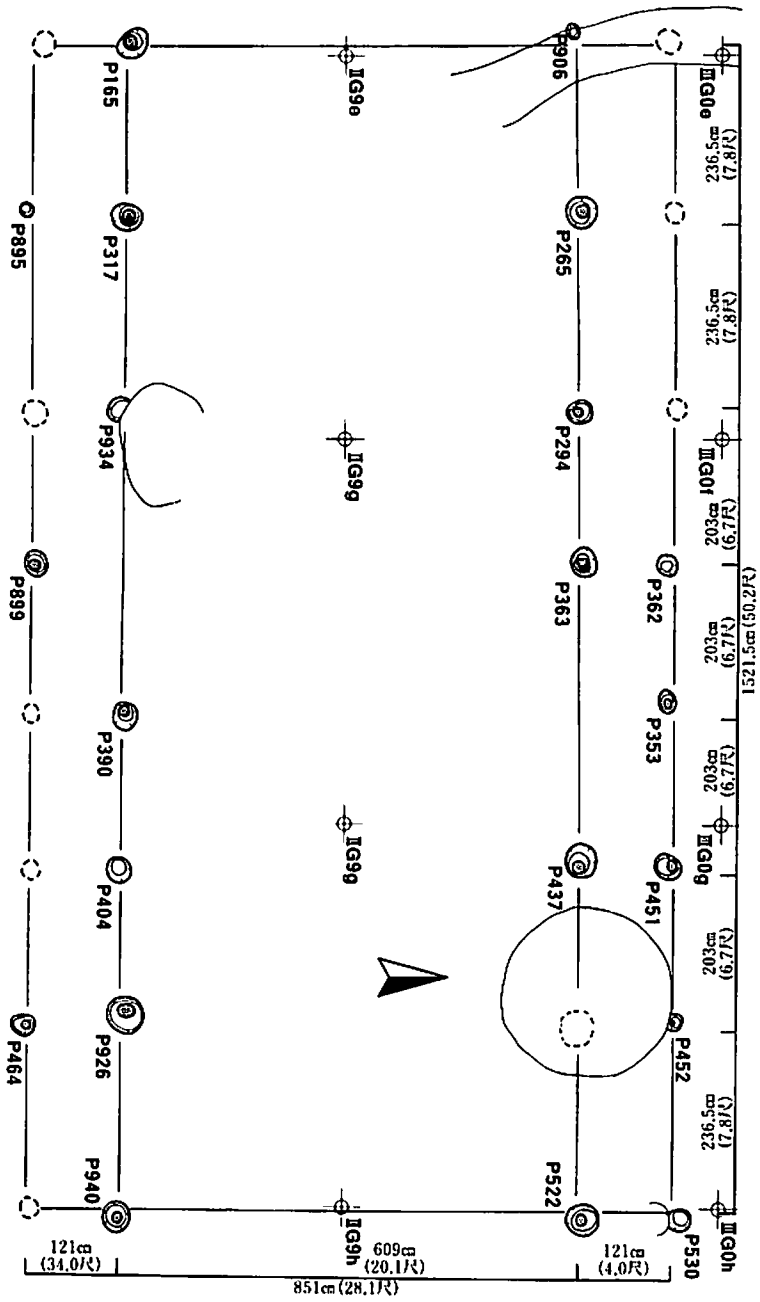
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1543cm、梁間は591cmである。面積は91.2㎡である。使用した柱穴は18個である。上屋柱と下屋柱からなる構造である。

〔柱穴〕上屋柱と下屋柱で、柱穴掘方の大きさ、深さに著しい差がある。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－３°－Ｗである。

〔柱間寸法〕桁行きでは197cmを多用している。これを６で割った数値は32.8cmである。これを任意の１尺とすると、桁行きで他に使用されているに230cmは７尺、262.5cmは８尺、梁間の身舎591cmは18尺＝３間とな

16SB28
N-1°-E

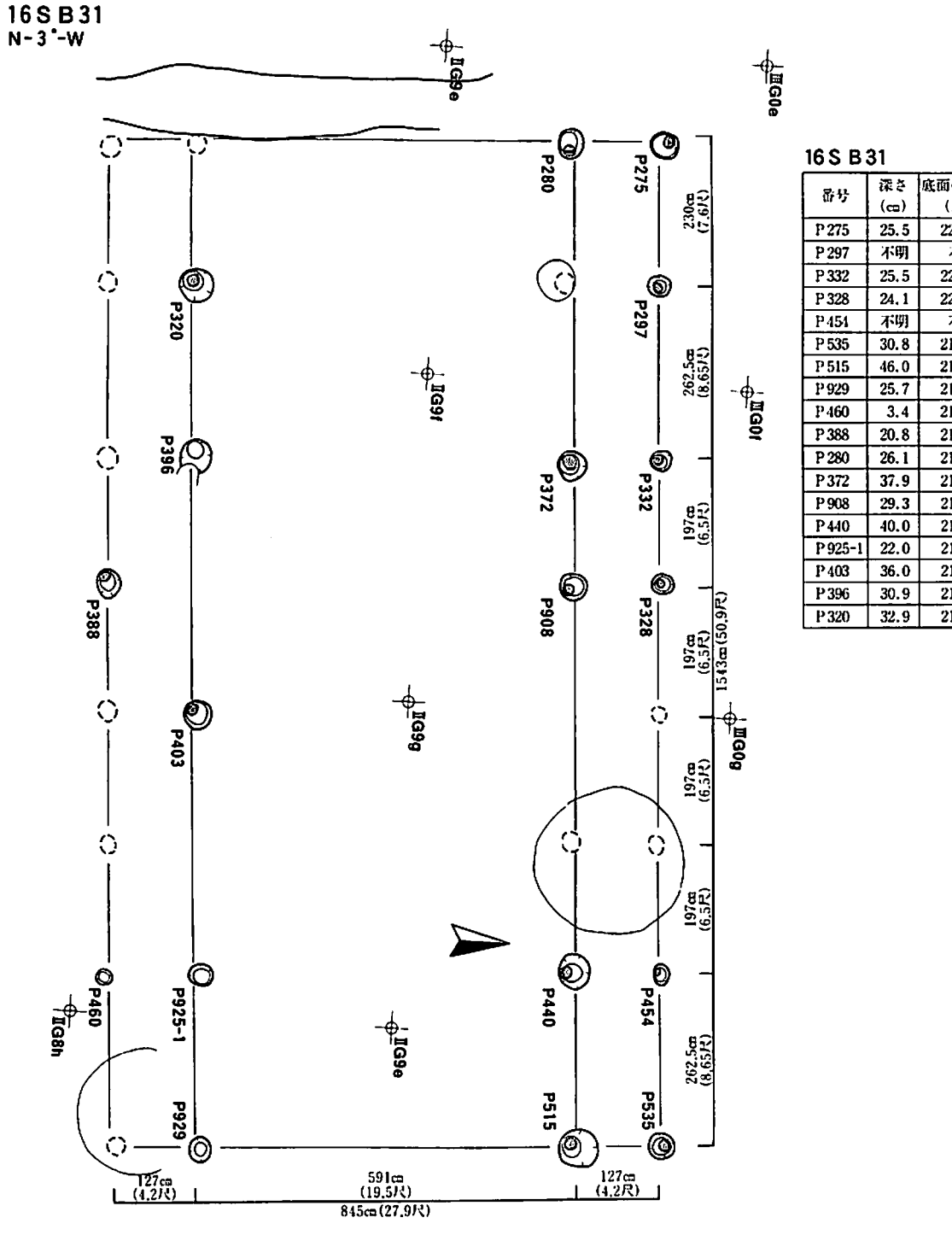


16SB30

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P362	10.9	22.20
P353	23.1	22.04
P451	17.8	22.08
P452	19.5	22.00
P530	20.2	22.04
P522	31.0	21.93
P940	19.2	21.86
P926	26.5	21.80
P404	14.5	21.91
P390	5.6	21.92
P934	不明	不明
P317	33.9	21.86
P165	19.8	22.03
P906	不明	不明
P265	34.6	21.91
P294	28.8	21.92
P363	30.8	21.95
P437	43.2	21.83
P464	9.0	21.89
P899	12.3	21.85
P895	8.7	22.08

0 4m

第18図　掘立柱建物⑭



16SB31

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P275	25.5	22.00
P297	不明	不明
P332	25.5	22.01
P328	24.1	22.03
P454	不明	不明
P535	30.8	21.94
P515	46.0	21.75
P929	25.7	21.69
P460	3.4	21.85
P388	20.8	21.67
P280	26.1	21.98
P372	37.9	21.80
P908	29.3	21.97
P440	40.0	21.81
P925-1	22.0	21.73
P403	36.0	21.71
P396	30.9	21.72
P320	32.9	21.80

第19図　掘立柱建物⑮

る。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の１尺＝32.8cmを使用したと推測される。

〔出土遺物〕Ｐ332から美濃産志野皿（5073）、Ｐ372から永楽通寶（8013）、Ｐ454から肥前産陶器皿（5081）が出土した。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕近世民家の主屋である。

〔年代〕柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから17世紀前半～17世紀中葉の建物と推測される。

16ＳＢ32（第20図、写真図版８）

〔位置〕ⅡＧ８ｅ、８ｆ、８ｇ、８ｈ、９ｅ、９ｆ、９ｇ、９ｈ、ⅢＧ０ｅ、０ｆ、０ｇ、０ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ28、16ＳＢ29の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16ＳＥ５と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ30、16ＳＢ31、16ＳＢ33、16ＳＢ34、16ＳＢ35、16ＳＢ36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1719cm、梁間は764cmである。面積は131.3㎡である。使用した柱穴は29個である。現存する近世民家の間取りに当てはめるならば、東側の部屋は「ニワ」、真ん中の前の部屋が「ナカマ」、真ん中の後が「オカミ」、西側前の部屋が「ザシキ」、西側後が「ナンド」ということになる。

〔柱穴〕上屋柱と下屋柱で、柱穴掘方の大きさ、深さに著しい差がある。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－１°－Ｅである。

〔柱間寸法〕一見すると、柱間寸法は様々で基準寸法は見出せない。しかし梁、桁の全長を、191cm（6.3尺）で割ると、それぞれ４間、９間で割り切れる。よって全体のプランの設定には191cm（6.3尺）を基準寸法にしたと理解できる。またザシキ部分で４寸角の柱を使用したと想定し、その柱間の内法寸法を求めると、ザシキ部分に6.3尺×3.15尺の畳をぴったり15畳敷くことができる。よって本建物のザシキ部分には畳割を想定した内法寸法の柱間寸法が用いられていたと考えられる。

〔出土遺物〕Ｐ391から寛永通寶（8020）、Ｐ400から肥前産陶器皿（5100）と中国産白磁壺（3016）が出土した。

〔付属施設〕特にない。

〔建物の性格〕近世民家の主屋である。

〔年代〕柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから18世紀末～19世紀初頭の建物と推測される。

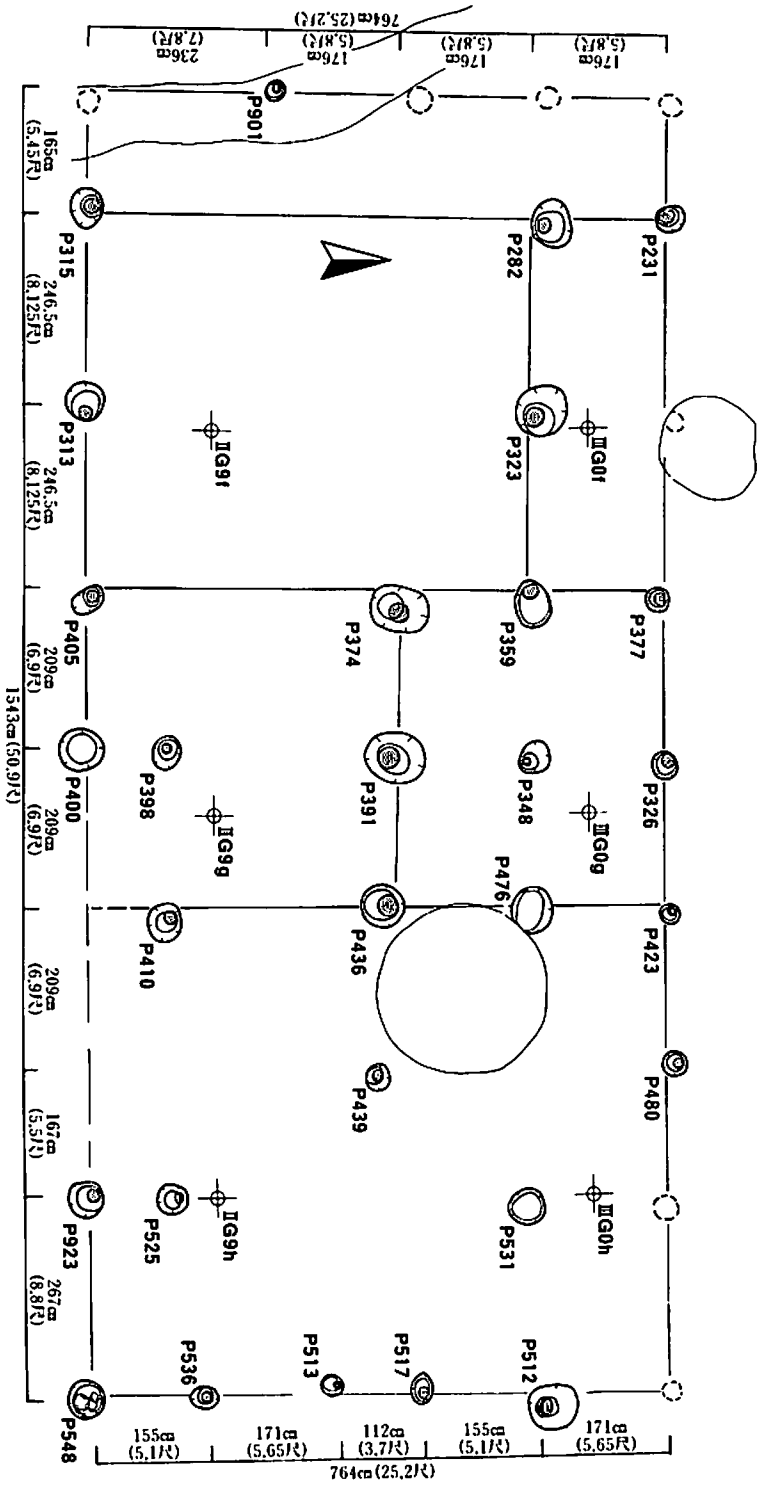
16ＳＢ33（第21図、写真図版８）

〔位置〕ⅡＧ８ｅ、８ｆ、８ｇ、８ｈ、９ｅ、９ｆ、９ｇ、９ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ28、16ＳＢ29、16ＳＫ５と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ30、16ＳＢ31、16ＳＢ32、16ＳＢ33、16ＳＢ34、16ＳＢ35、16ＳＢ36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1649cm、梁間は582cmである。面積は96.0㎡である。使用した柱穴は22個である。下屋柱が検出されていないが、本来は存在していたが失われたと推測される。本来は上屋柱と下屋柱からなる構造と考えられる。

16SB32
N-1°-E



16SB32

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P231	22.7	22.12
P377	26.4	21.95
P326	26.7	21.95
P423	18.2	22.03
P480	31.2	21.89
P512	29.8	21.89
P517	44.9	21.76
P513	36.0	21.79
P536	14.9	21.80
P548	不明	不明
P923	31.3	21.77
P525	27..2	21.87
P410	17.6	22.01
P398	13.8	22.05
P400	16.5	21.99
P405	20.0	21.72
P313	42.1	21.74
P315	28.5	21.88
P901	20.0	21.95
P282	39.7	21.89
P323	43.9	21.77
P359	33.5	21.95
P348	19.4	22.06
P476	不明	不明
P531	36.9	21.86
P439	31.5	21.91
P436	43.0	21.84
P391	44.3	21.84
P374	43.8	21.83

0 4m

第20図　掘立柱建物⑯

〔建物方位〕梁間の軸方向はN－5°－Eである。

〔柱間寸法〕桁行きでは194cmを多用している。これを6で割った数値は32.3cmである。これを任意の1尺とすると、桁行きで他に使用されているに258.5cmは8尺、291cmは9尺、129.5cmは4尺、梁間の身舎582cmは18尺＝3間となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺＝32.3cmを使用したと推測される。

〔出土遺物〕P304から永楽通寶（8012）、P528から永楽通寶（8014）、P935から寛永通寶（古寛永8017）、P953から中国産染付碗（5003）と美濃産鉄絵志野皿（5068）が出土した。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕近世民家の主屋である。

〔年代〕柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから17世紀後半の建物と推測される。

16ＳＢ34（第22図、写真図版8）

〔位置〕ⅡＧ8ｅ、8ｆ、8ｇ、9ｅ、9ｆ、9ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ28、16ＳＢ29、16ＳＢ32、16ＳＥ5と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ30、16ＳＢ31、16ＳＢ32、16ＳＢ33、16ＳＢ35、16ＳＢ36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1167cm、梁間は480cmである。面積は56.0㎡である。使用した柱穴は9個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN－3°－Eである。

〔柱間寸法〕桁行きでは206cmを多用している。これを6で割った数値は34.3cmである。これを任意の1尺とすると、桁行きで他に使用されているに171.5cmは5尺、梁間の480cmは14尺となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺＝34.3cmを使用したと推測される。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明であるが、中世後半（16世紀頃）の民家の主屋の可能性が考えられる。

〔年代〕不明であるが、16ＳＢ30に先行する中世後半（16世紀頃）の可能性が考えられる。

16ＳＢ35（第22図、写真図版8）

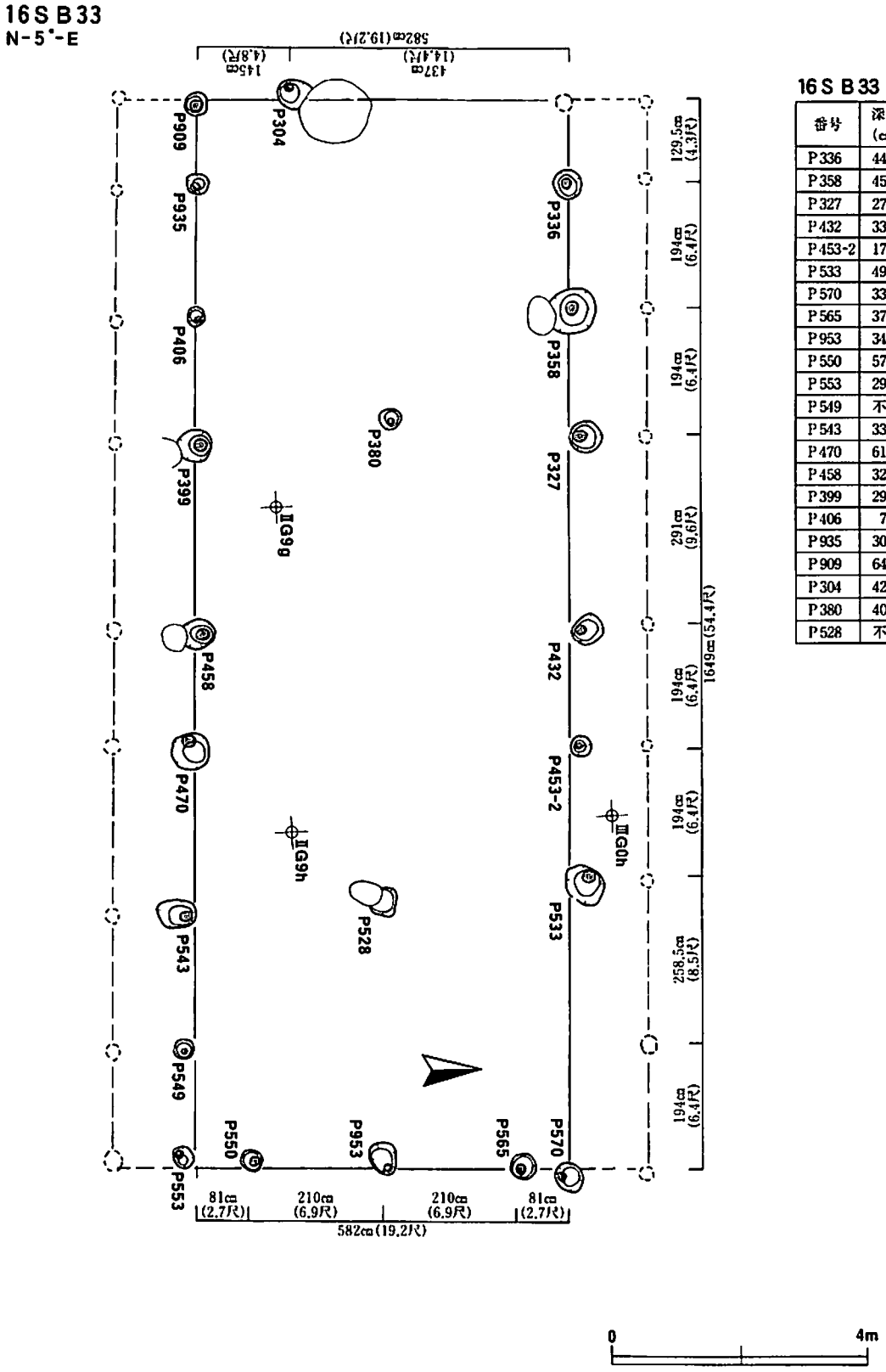
〔位置〕ⅡＧ8ｅ、8ｆ、8ｇ、8ｈ、9ｅ、9ｆ、9ｇ、9ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ32、16ＳＢ33、16ＳＢ32と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ28、16ＳＢ29、16ＳＢ30、16ＳＢ31、16ＳＢ34、16ＳＢ36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1270cm、梁間は480cmである。面積は61.0㎡である。使用した柱穴は10個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN－1°－Wである。

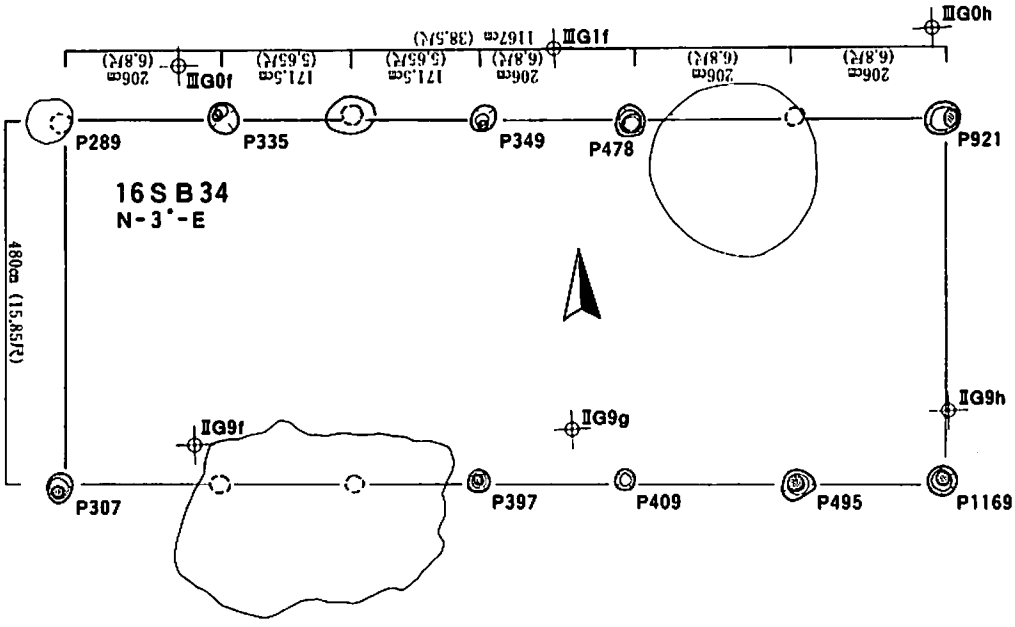
〔柱間寸法〕桁行きでは206cmを多用している。これを6で割った数値は34.3cmである。これを任意の1尺とすると、桁行きで他に使用されているに189cmは5尺5寸、257cmは7尺5寸、梁間の480cmは14尺となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺＝34.3cmを使用したと推測される。



16S B33

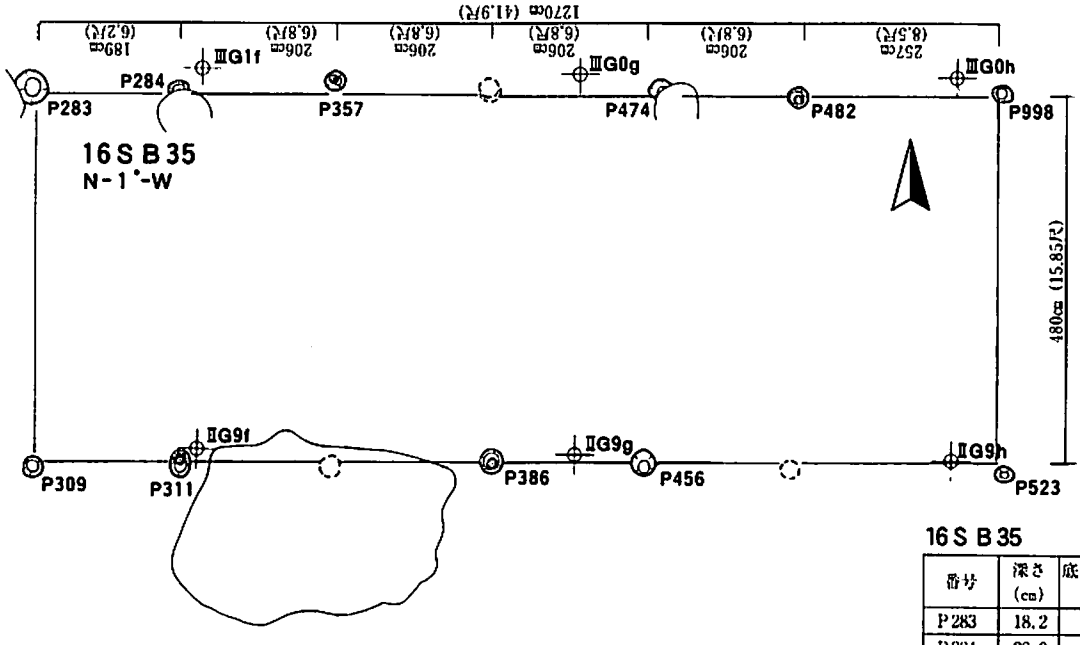
番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P336	44.2	21.81
P358	45.4	21.82
P327	27.6	21.85
P432	33.4	21.86
P453-2	17.1	22.05
P533	49.5	21.73
P570	33.7	21.68
P565	37.5	21.64
P953	34.3	21.56
P550	57.5	21.35
P553	29.9	21.58
P549	不明	不明
P543	33.7	21.70
P470	61.0	21.53
P458	32.5	21.83
P399	29.6	21.85
P406	7.9	21.81
P935	30.1	21.84
P909	64.7	21.51
P304	42.9	21.74
P380	40.8	21.87
P528	不明	不明

第21図　掘立柱建物⑰



16 S B 34

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P307	13.9	22.00
P397	9.1	22.00
P409	6.3	22.08
P495	65.5	21.48
P1169	26.9	21.89
P289	不明	不明
P335	32.5	21.94
P349	27.8	22.00
P478	51.2	21.76
P921	47.3	21.77



16 S B 35

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P283	18.2	22.13
P284	28.0	21.95
P357	33.9	21.93
P474	32.5	21.90
P482	13.6	22.06
P998	33.7	21.90
P523	11.6	22.03
P456	20.3	22.00
P386	22.5	21.97
P311	18.9	21.97
P309	9.3	22.03

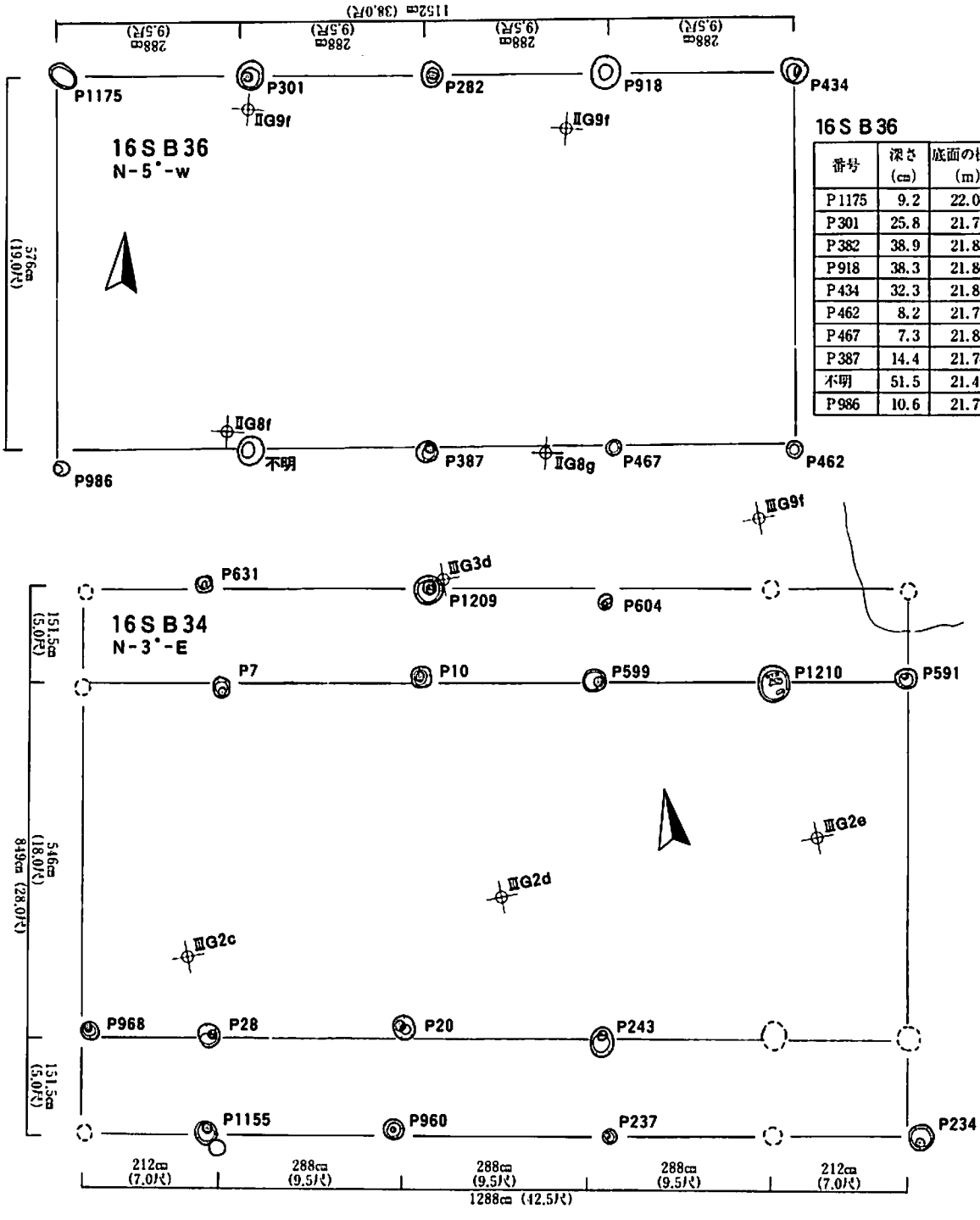
第22図　掘立柱建物⑱

〔出土遺物〕P284から同安窯青磁碗（3032）、P474から渥美産山茶碗（2040）、肥前産？磁器皿（5045）が出土した。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明であるが、中世後半（16世紀頃）の民家の主屋の可能性が考えられる。
〔年代〕16ＳＢ34と同様に16ＳＢ30に先行する中世後半（16世紀頃）の可能性が考えられる。しかし、この年代であるとP474出土の肥前磁器（5045）の年代観17世紀前半と合わない。よって年代については不明とせざるを得ない。磁器の年代の再検討が必要である。

16ＳＢ36（第23図、写真図版８）
〔位置〕ⅡＧ７ｅ、７ｆ、７ｇ、８ｅ、８ｆ、８ｇ、９ｅ、９ｆ、９ｇに位置する。
〔重複〕16ＳＢ29と重複するが本建物が古い。また16ＳＤ６と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ28、16ＳＢ29、16ＳＢ30、16ＳＢ31、16ＳＢ32、16ＳＢ33、16ＳＢ34、16ＳＢ36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1152cm、梁間は576cmである。面積は66.3㎡である。使用した柱穴は10個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－５°－Ｗである。
〔柱間寸法〕288cm（9.5尺）を基準寸法に用いている。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ37（第23図）
〔位置〕ⅢＧ１ｂ、１ｃ、１ｄ、１ｅ、２ｂ、２ｃ、２ｄ、２ｅに位置する。
〔重複〕16ＳＢ41の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ26、16ＳＢ27、16ＳＢ38、16ＳＢ39、16ＳＢ40、16ＳＢ42とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1288cm、梁間は849cmである。面積は109.3㎡である。使用した柱穴は16個である。身舎と庇からなる建物である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－11°－Ｅである。
〔柱間寸法〕288cm（9.5尺）を多用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。近世には下らない建物と推測される。

16ＳＢ38（第24図、写真図版８）
〔位置〕ⅢＧ０ｂ、０ｃ、０ｄ、０ｅ、１ｂ、１ｃ、１ｄ、１ｅに位置する。



16 S B 36

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P 1175	9.2	22.04
P 301	25.8	21.79
P 382	38.9	21.83
P 918	38.3	21.86
P 434	32.3	21.85
P 462	8.2	21.79
P 467	7.3	21.88
P 387	14.4	21.74
不明	51.5	21.42
P 986	10.6	21.77

16 S B 37

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P 631	33.6	22.27
P 1209	49.9	22.12
P 604	38.0	22.22
P 7	43.2	22.24
P 10	45.1	22.18
P 599	36.9	22.23
P 1210	16.8	22.05
P 591	20.2	22.21

P 968	7.8	22.51
P 28	33.7	22.25
P 20	43.2	22.15
P 243	38.7	22.08
P 1135	25.1	22.29
P 960	22.8	22.31
P 239	14.0	22.29
P 234	20.8	22.11

第23図　掘立柱建物⑲

〔重複〕16ＳＢ41、16ＳＢ42、16ＳＢ47、16ＳＤ５、16ＳＤ８と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ37、16ＳＢ39、16ＳＢ40、16ＳＢ43、16ＳＢ44、16ＳＢ45、16ＳＢ46、16ＳＢ47とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1212.5cm、梁間は696cmである。面積は84.4㎡である。使用した柱穴は26個である。身舎と庇からなる建物である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－13°－Ｅである。

〔柱間寸法〕桁行きでは242.5cm（8.0尺）を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕建物の形態から12世紀に属する可能性が高いと思われる。

16ＳＢ39（第24図、写真図版９）

〔位置〕ⅢＧ０ｂ、０ｃ、１ｂ、１ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＢ56と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ37、16ＳＢ38、16ＳＢ40、16ＳＢ41、16ＳＢ42、16ＳＢ43、16ＳＢ44、16ＳＢ45、16ＳＢ46、16ＳＢ47、16ＳＢ48、16ＳＢ49、16ＳＢ50、16ＳＢ51、16ＳＢ52、16ＳＢ53、16ＳＢ54、16ＳＢ55、16ＳＢ57、16ＳＢ58とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは848cm、梁間は485cmである。面積は41.1㎡である。使用した柱穴は８個である。南西側は調査区境の攪乱のため失われている。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－７°－Ｅである。

〔柱間寸法〕桁行きでは212cm（7.0尺）を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ40（第25図）

〔位置〕ⅢＧ０ｃ、０ｄ、１ｃ、１ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＢ38の柱穴と接するが前後関係は確定できない。また16ＳＢ37、16ＳＢ39、16ＳＢ41、16ＳＢ42、16ＳＢ43、16ＳＢ44、16ＳＢ45、16ＳＢ46とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

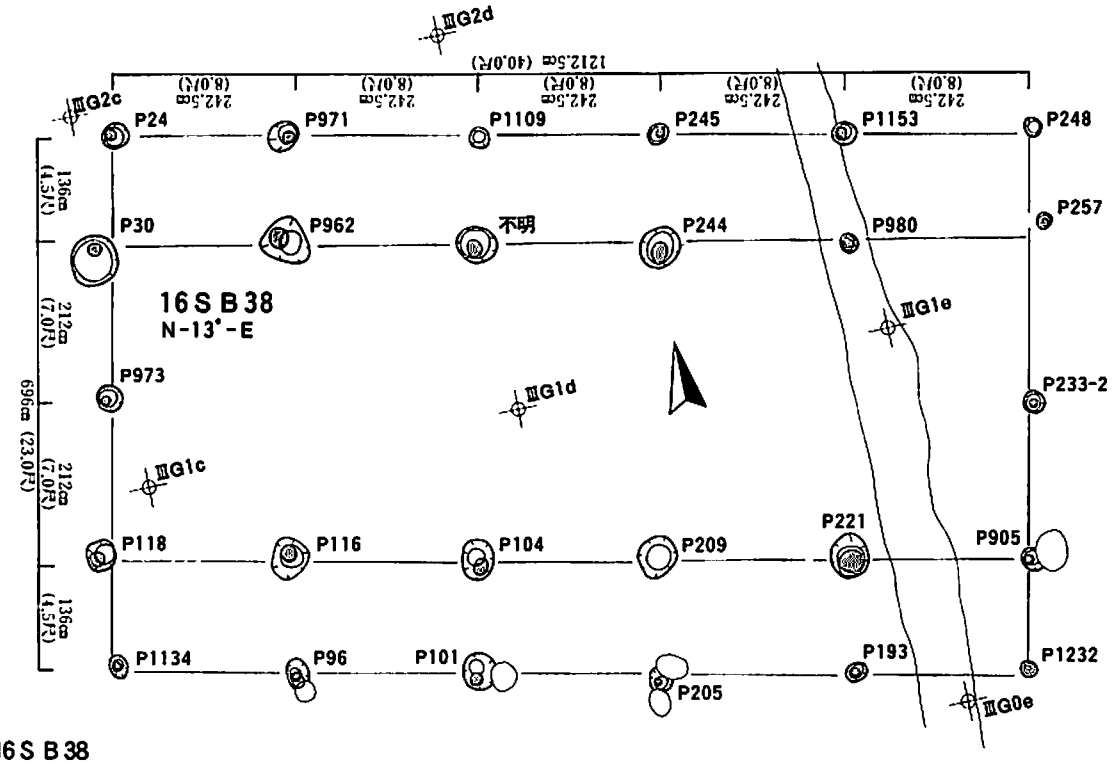
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは564cm、梁間は540cmである。面積は30.5㎡である。使用した柱穴は８個である。２間×２間の総柱建物である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－２°－Ｗである。

〔柱間寸法〕桁行きでは282cm（9.3尺）、梁間では270cm（8.9尺）を使用している。

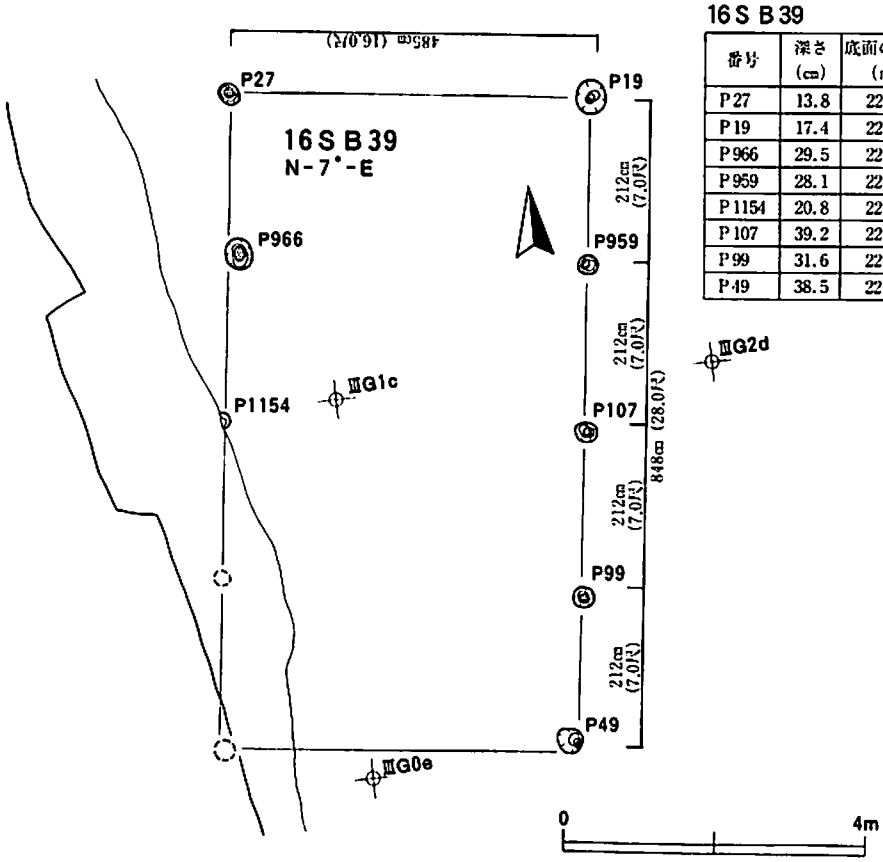
〔出土遺物〕Ｐ114から常滑産陶器甕（2025）が出土している。

〔付属施設〕特になし。



16SB38

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P24	47.1	22.12
P971	32.1	22.22
P1109	44.1	22.08
P245	10.3	22.26
P1153	21.0	22.07
P248	14.2	22.09
P30	41.4	22.18
P962	44.0	22.12
不明	43.5	22.10
P244	27.1	22.08
P980	43.5	22.10
P257	7.9	22.19
P973	23.2	22.29
P118	30.2	22.20
P116	25.9	22.23
P104	33.9	22.15
P209	39.6	22.08
P221	23.5	22.12
P905	25.1	22.02
P233-2	21.0	22.08
P1134	36.0	22.21
P96	28.9	22.26
P101	36.9	22.13
P205	26.2	22.13
P193	9.6	22.24
P1232	9.1	21.99



16SB39

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P27	13.8	22.45
P19	17.4	22.41
P966	29.5	22.26
P959	28.1	22.25
P1154	20.8	22.26
P107	39.2	22.08
P99	31.6	22.20
P49	38.5	22.16

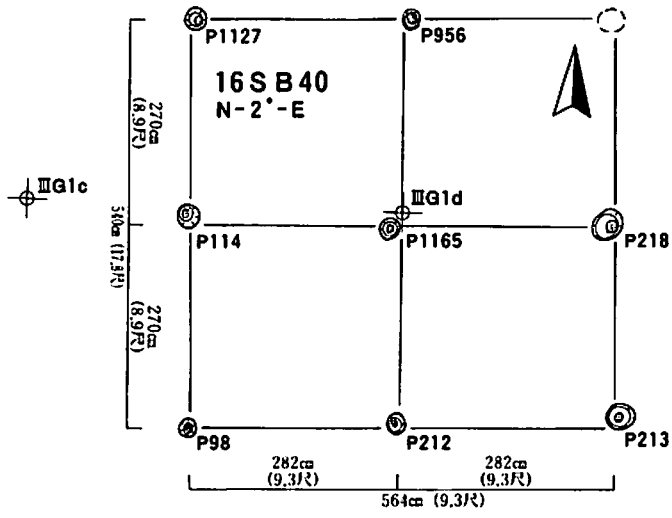
第24図　掘立柱建物⑳

〔建物の性格〕高床の倉庫の可能性もあるが不明である。
〔年代〕不明である。近世に下る可能性は非常に低い。

16ＳＢ41（第25図）
〔位置〕ⅢＧ０ｂ、０ｃ、０ｄ、１ｂ、１ｃ、１ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ37、38と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ40、16ＳＢ41、16ＳＢ42、16ＳＢ43、16ＳＢ44、16ＳＢ45、16ＳＢ46とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは739㎝、梁間は409㎝である。面積は30.2㎡である。使用した柱穴は７個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－６°－Ｗである。
〔柱間寸法〕様々な寸法を用いており、基準寸法を見出せない。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

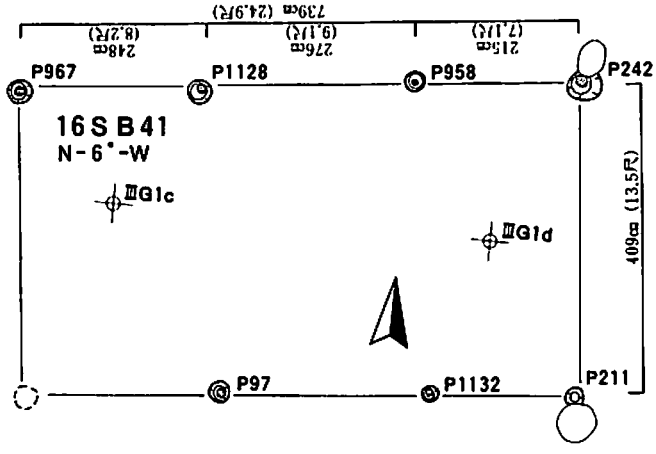
16ＳＢ42（第25図、写真図版９）
〔位置〕ⅢＧ０ｂ、０ｃ、０ｄ、１ｂ、１ｃ、１ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ43、16ＳＢ52の柱穴と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ37、16ＳＢ38、16ＳＢ39、16ＳＢ40、16ＳＢ41、16ＳＢ43、16ＳＢ44、16ＳＢ45、16ＳＢ46、16ＳＢ47、16ＳＢ48、16ＳＢ49、16ＳＢ50、16ＳＢ57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びている。桁行きは検出された分で597㎝、梁間は540㎝である。検出された分の面積は32.2㎡である。使用した柱穴は９個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－６°－Ｅである。
〔柱間寸法〕様々な寸法を用いており、基準寸法を見出せない。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ43（第26図、写真図版９）
〔位置〕ⅢＧ０ｂ、０ｃ、０ｄ、１ｂ、１ｃ、１ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ42の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ50の柱穴と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ38、16ＳＢ39、16ＳＢ40、16ＳＢ41、16ＳＢ44、16ＳＢ45、16ＳＢ46、16ＳＢ47、16ＳＢ48、16ＳＢ49、16ＳＢ57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。



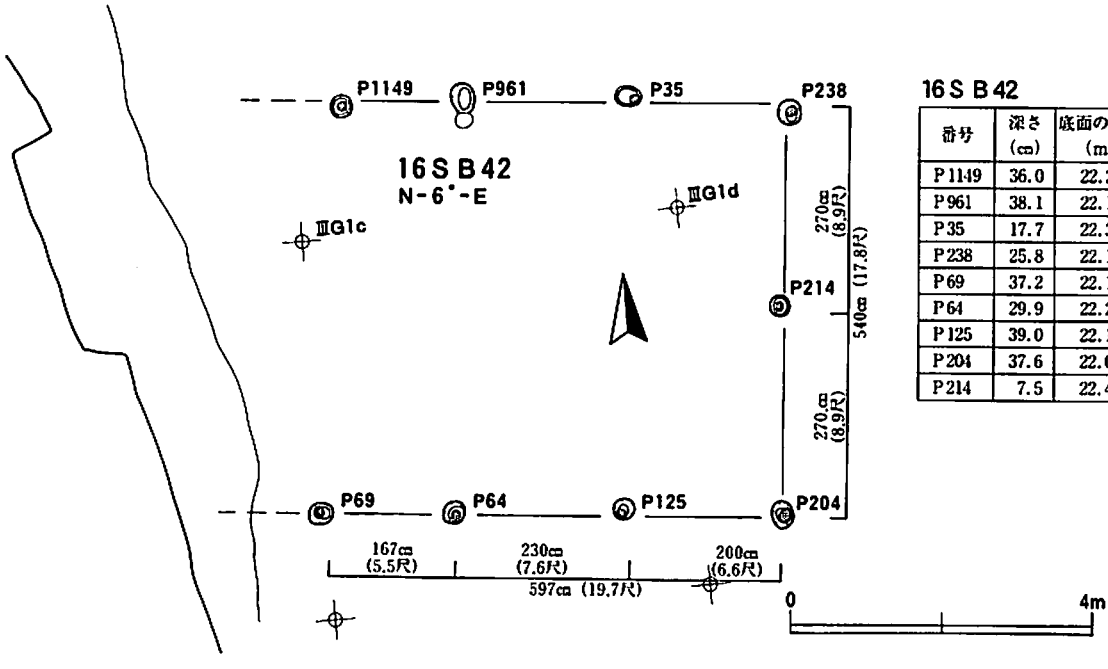
16S B40

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1127	21.7	22.33
P956	28.9	22.22
P114	29.1	22.20
P1165	25.3	22.18
P218	6.0	22.29
P98	26.6	22.28
P212	14.2	22.32
P213	11.8	22.28



16S B41

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P967	27.3	22.23
P1128	20.4	22.35
P958	33.5	22.27
P242	21.3	22.24
P97	38.6	22.14
P1132	44.0	22.03
P211	22.2	22.27



16S B42

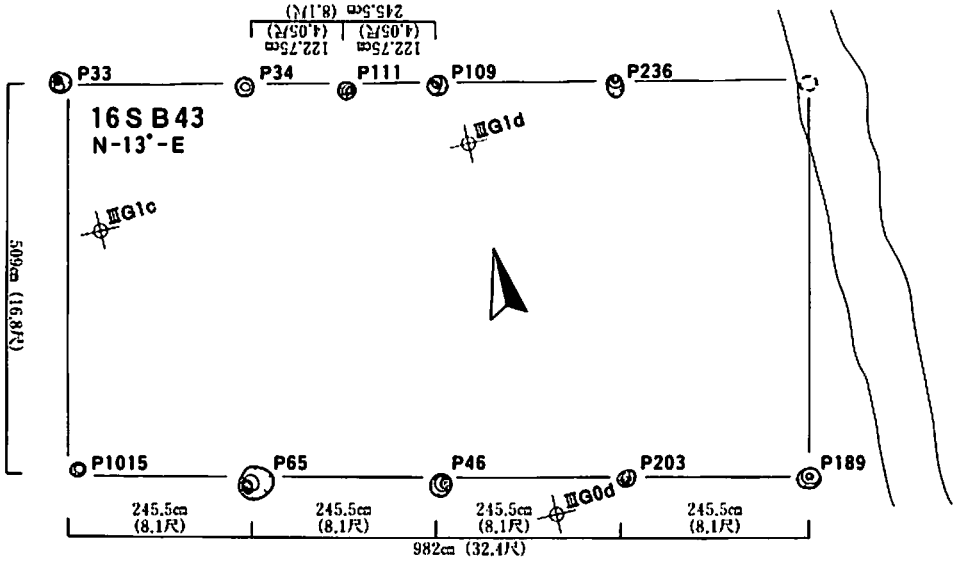
番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1149	36.0	22.20
P961	38.1	22.15
P35	17.7	22.32
P238	25.8	22.16
P69	37.2	22.17
P64	29.9	22.25
P125	39.0	22.10
P204	37.6	22.03
P214	7.5	22.44

第25図　掘立柱建物㉑

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは982cm、梁間は509cmである。面積は50.0㎡である。使用した柱穴は10個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はN－13°－Eである。
〔柱間寸法〕桁行きでは245.5cm（8.1尺）を使用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

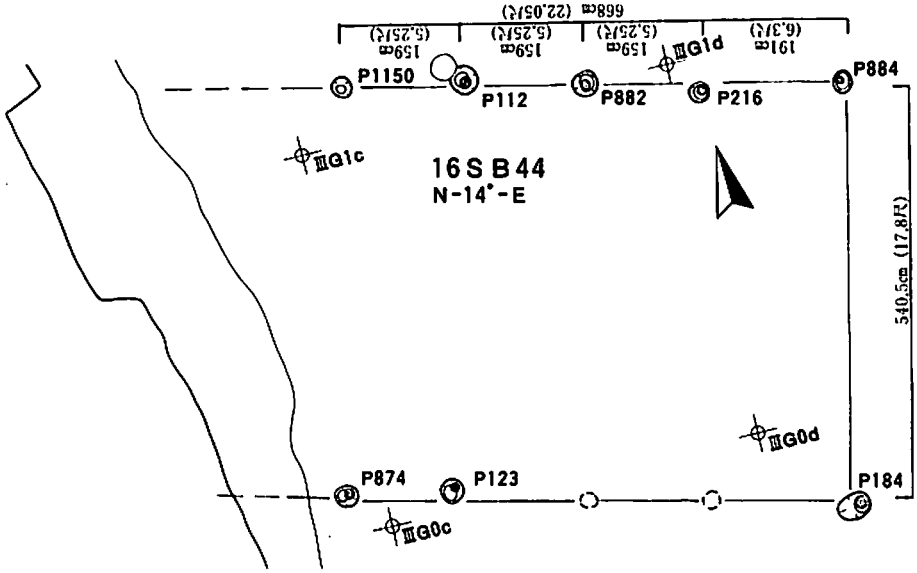
16SB44（第26図）
〔位置〕ⅢG0b、0c、0d、1b、1c、1dに位置する。
〔重複〕16SB46の柱穴と重複するが本建物が古い。また16SB39、16SB40、16SB41、16SB42、16SB43、16SB45、16SB47、16SB48、16SB49、16SB50、16SB51、16SB52、16SB53、16SB57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びている。桁行きは検出された分で668cm、梁間は540.5cmである。検出された分の面積は36.1㎡である。使用した柱穴は8個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はN－14°－Eである。
〔柱間寸法〕桁行きでは159cm（5.25尺）を多用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16SB45（第26図）
〔位置〕ⅢG0b、0c、1b、1cに位置する。
〔重複〕16SB46の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16SB55の柱穴と重複するが本建物が古い。また16SB39、16SB40、16SB41、16SB42、16SB43、16SB44、16SB47、16SB48、16SB49、16SB50、16SB51、16SB52、16SB53、16SB55、16SB56、16SB57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びている。桁行きは検出された分で515cm、梁間は515cmである。検出された分の面積は26.5㎡である。使用した柱穴は5個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はN－10°－Eである。
〔柱間寸法〕257.5cm（8.5尺）を基準寸法にしている。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。



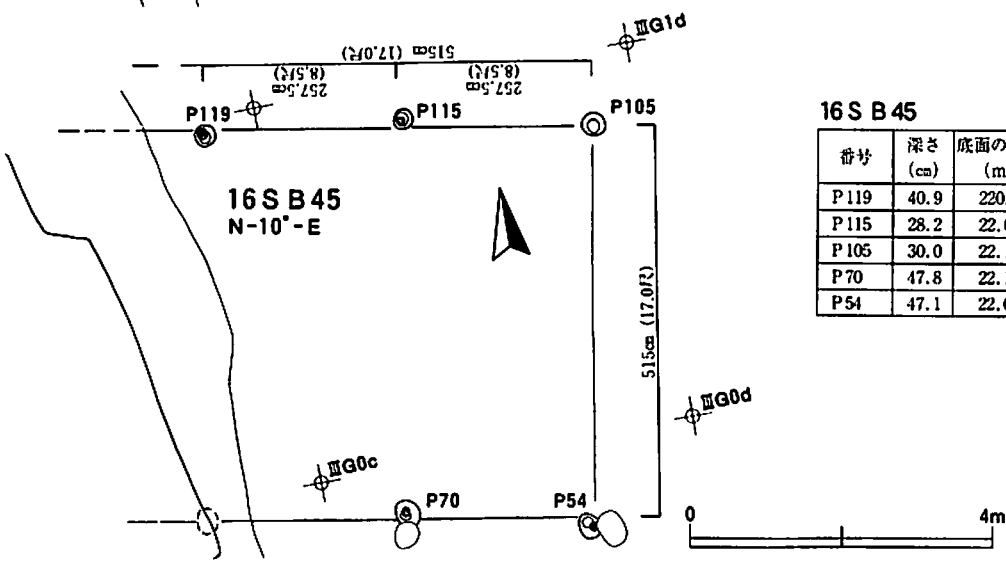
16S B43

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P33	25.7	22.30
P34	33.5	22.20
P111	39.6	22.13
P109	27.0	22.70
P236	17.0	22.23
P1015	42.0	22.11
P65	48.2	22.09
P46	39.4	22.11
P203	31.6	22.10
P189	15.7	22.18



16S B44

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1150	不明	不明
P112	32.7	22.17
P882	34.9	22.13
P216	9.6	22.36
P884	19.8	22.27
P874	40.5	22.17
P123	35.7	22.23
P184	19.7	22.25



16S B45

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P119	40.9	220.9
P115	28.2	22.00
P105	30.0	22.17
P70	47.8	22.11
P54	47.1	22.08

第26図　掘立柱建物㉒

16ＳＢ46（第27図、写真図版９）

〔位置〕ⅡＧ９ｃ、９ｄ、９ｅ、ⅢＧ０ｃ、０ｄ、０ｅ、１ｃ、１ｂ、１ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＢ45、16ＳＢ58の柱穴、16ＳＤ５と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ39、16ＳＢ40、16ＳＢ41、16ＳＢ42、16ＳＢ43、16ＳＢ44、16ＳＢ47、16ＳＢ48、16ＳＢ49、16ＳＢ50、16ＳＢ51、、16ＳＢ52、16ＳＢ53、16ＳＢ56、16ＳＢ57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは863cm、梁間は666cmである。検出された分の面積は57.5㎡である。使用した柱穴は23個である。２間×３間の身舎に四面庇が付く形態である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－５°－Ｅである。

〔柱間寸法〕身舎では197cm（6.5尺）、庇は136cm（4.5尺）を基準寸法にしている。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕12世紀の可能性が高い。

16ＳＢ47（第27図、写真図版９）

〔位置〕ⅡＧ９ｃ、９ｄ、ⅢＧ０ｃ、０ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＢ38の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ50の柱穴と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ39、16ＳＢ42、16ＳＢ43、16ＳＢ44、16ＳＢ45、16ＳＢ46、16ＳＢ48、16ＳＢ49、16ＳＢ50、16ＳＢ51、16ＳＢ52、16ＳＢ53、16ＳＢ54、16ＳＢ55、16ＳＢ56、16ＳＢ58とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは775cm、梁間は456cmである。面積は35.3㎡である。使用した柱穴は８個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－11°－Ｅである。

〔柱間寸法〕様々な寸法を用いており、基準寸法を見出せない。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

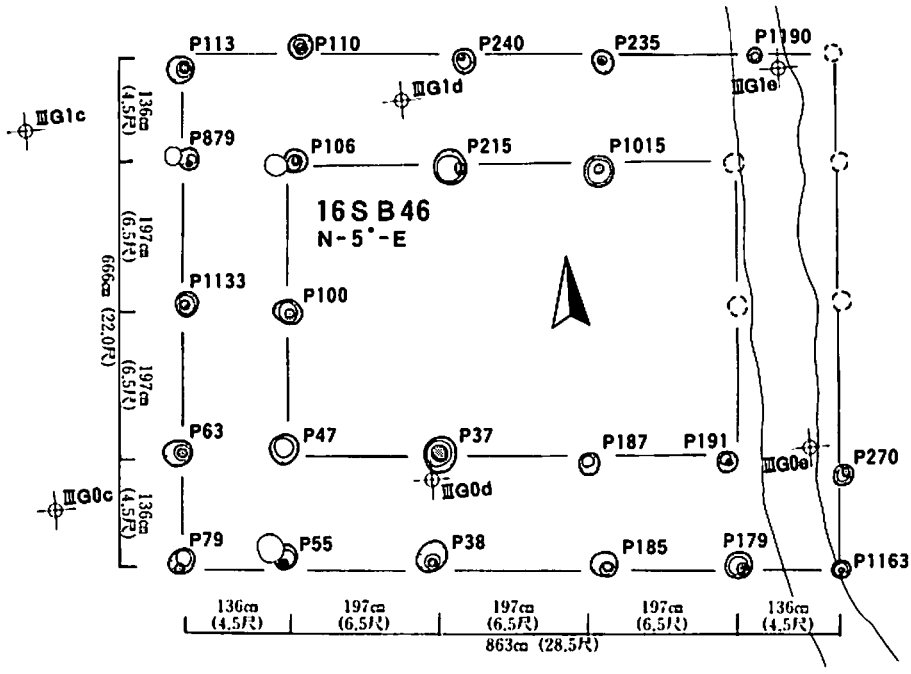
16ＳＢ48（第27図）

〔位置〕ⅡＧ９ｄ、ⅢＧ０ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＢ28の柱穴と接するが前後関係を判断できない、おそらく本建物が古い。また16ＳＢ42、16ＳＢ43、16ＳＢ47、16ＳＢ49、16ＳＢ50、16ＳＢ51、16ＳＢ52、16ＳＢ53、16ＳＢ54、16ＳＢ55とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

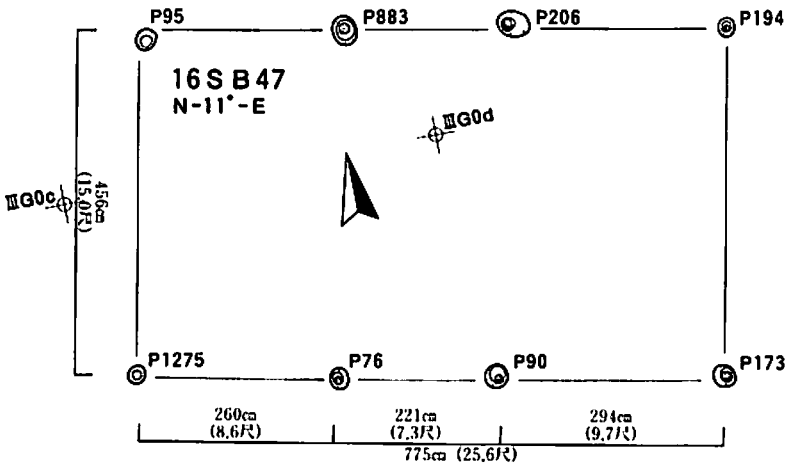
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは576cm、梁間は364cmである。面積は21.0㎡である。使用した柱穴は８個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－６°－Ｅである。



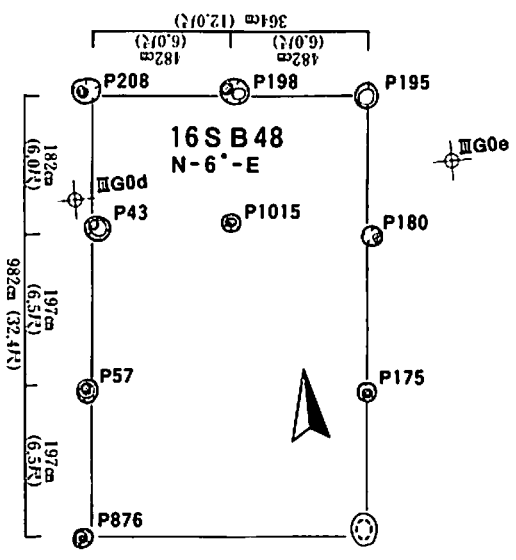
16SB46

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P113	32.2	22.19
P110	34.2	22.14
P240	14.1	22.16
P235	24.9	22.12
P1190	不明	不明
P879	26.0	22.25
P106	15.6	22.31
P215	20.5	22.27
P219	14.4	22.31
P1133	33.3	22.19
P100	16.3	22.34
P63	35.2	22.21
P47	33.6	22.29
P37	29.0	22.17
P187	29.8	22.03
P191	20.4	22.11
P270	10.4	22.13
P79	41.4	22.16
P55	41.0	22.14
P38	45.0	22.05
P185	29.9	22.08
P179	26.1	22.05
P1163	12.2	22.07



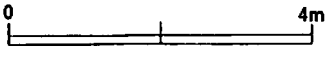
16SB47

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P95	18.5	22.36
P883	13.0	22.36
P206	27.9	22.12
P194	不明	不明
P1275	42.1	22.13
P76	40.3	22.13
P90	34.9	22.09
P173	24.0	22.04



16SB48

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P208	29.9	22.12
P198	23.3	22.14
P195	13.3	22.20
P43	17.4	22.27
P186	17.8	22.17
P180	21.4	22.10
P57	20.5	22.24
P175	18.6	22.13
P876	14.0	22.23

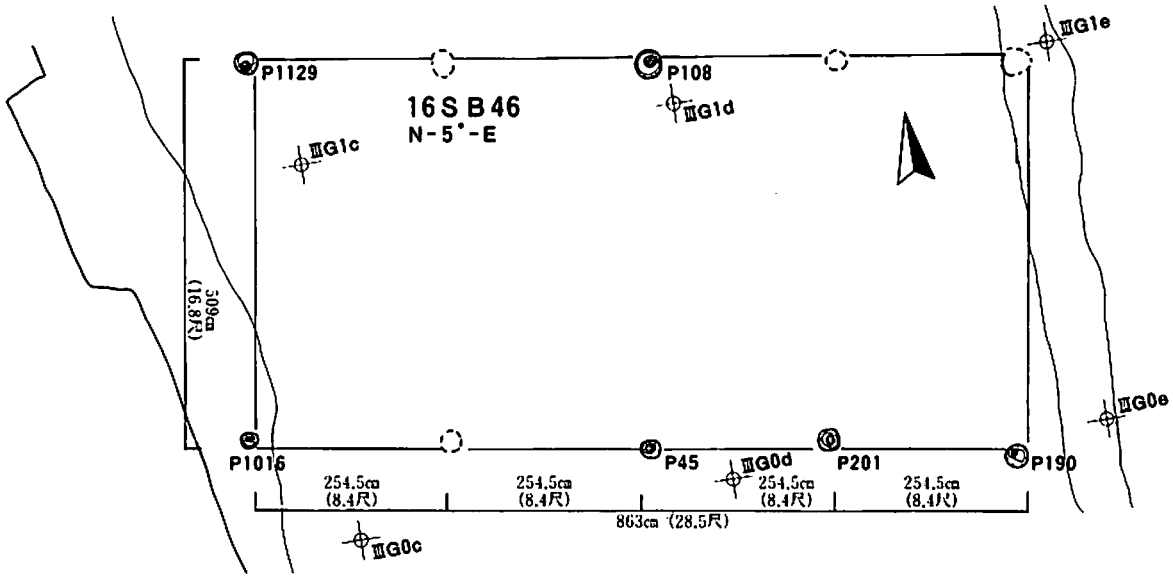


第27図　掘立柱建物㉓

〔柱間寸法〕197cm（6.5尺）と182cm（6.0尺）を使用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

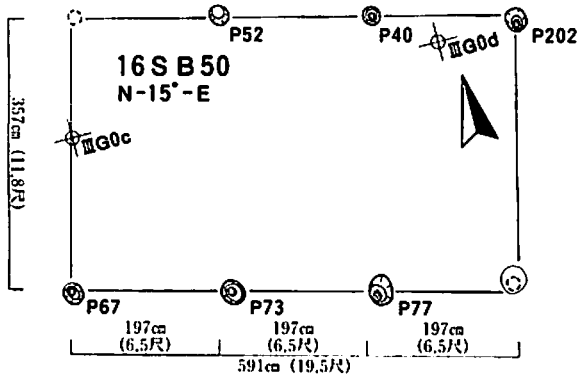
16ＳＢ49（第28図）
〔位置〕ⅢＧ０ｂ、０ｃ、０ｄ、１ｂ、１ｃ、１ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ43の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16ＳＤ５と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ39、16ＳＢ40、16ＳＢ41、16ＳＢ42、16ＳＢ44、16ＳＢ45、16ＳＢ46、16ＳＢ47、、16ＳＢ48、16ＳＢ57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1012cm、梁間は509cmである。面積は51.5㎡である。使用した柱穴は６個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－９°－Ｅである。
〔柱間寸法〕254.5cm（8.4尺）を基準寸法として使用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ50（第28図）
〔位置〕ⅡＧ９ｂ、９ｃ、９ｄ、ⅢＧ０ｂ、０ｃ、０ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ52、16ＳＢ53、16ＳＢ55、16ＳＢ56、16ＳＢ57、16ＳＢ58とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは591cm、梁間は357cmである。面積は21.1㎡である。使用した柱穴は６個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－15°－Ｅである。
〔柱間寸法〕桁行きでは197cm（6.5尺）を使用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。



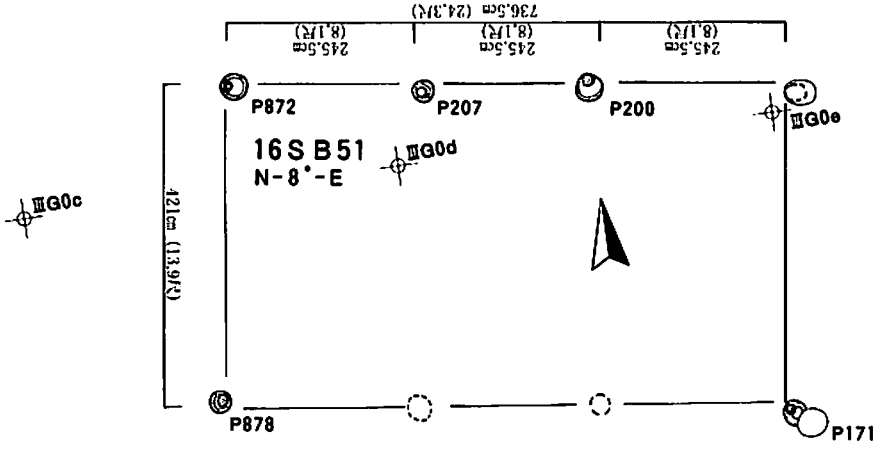
16 S B 49

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P 1129	23.0	22.30
P 108	34.6	22.11
P 1016	45.6	22.07
P 45	39.7	22.11
P 201	32.2	22.09
P 190	29.5	22.02



16 S B 50

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P 52	33.3	22.22
P 40	23.4	22.26
P 202	21.4	22.21
P 67	45.3	22.16
P 73	32.4	22.23
P 77	31.0	22.20



16 S B 51

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P 872	23.6	22.26
P 207	10.5	22.31
P 200	24.0	22.11
P 878	23.6	22.31
P 171	10.4	22.17

第28図　掘立柱建物㉔

16ＳＢ51（第28図）

〔位置〕ⅡＧ９ｃ、９ｄ、ⅢＧ０ｃ、０ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＢ29の柱穴と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ42、16ＳＢ49、16ＳＢ50、16ＳＢ52、16ＳＢ53、16ＳＢ54、16ＳＢ55、16ＳＢ56、16ＳＢ58とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは736cm、梁間は421cmである。面積は31.0㎡である。使用した柱穴は５個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－８°－Ｅである。

〔柱間寸法〕桁行きでは245.5cm（8.1尺）を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ52（第29図）

〔位置〕ⅡＧ９ｂ、９ｃ、ⅢＧ０ｂ、０ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＢ42の柱穴、16ＳＤ２と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ53、16ＳＢ55、16ＳＢ56、16ＳＢ57、16ＳＢ58、16ＳＢ59、16ＳＢ61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは764cm、梁間は432cmである。面積は33.0㎡である。使用した柱穴は７個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－20°－Ｅである。

〔柱間寸法〕桁行きでは191cm（6.3尺）、梁間では216cm（7.1尺）を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ53（第29図、写真図版９）

〔位置〕ⅡＧ９ｃ、９ｄ、ⅢＧ０ｃ、０ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＤ３と重複するがおそらく本建物が古い。また16ＳＢ52、16ＳＢ54、16ＳＢ55、16ＳＢ56、16ＳＢ58とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

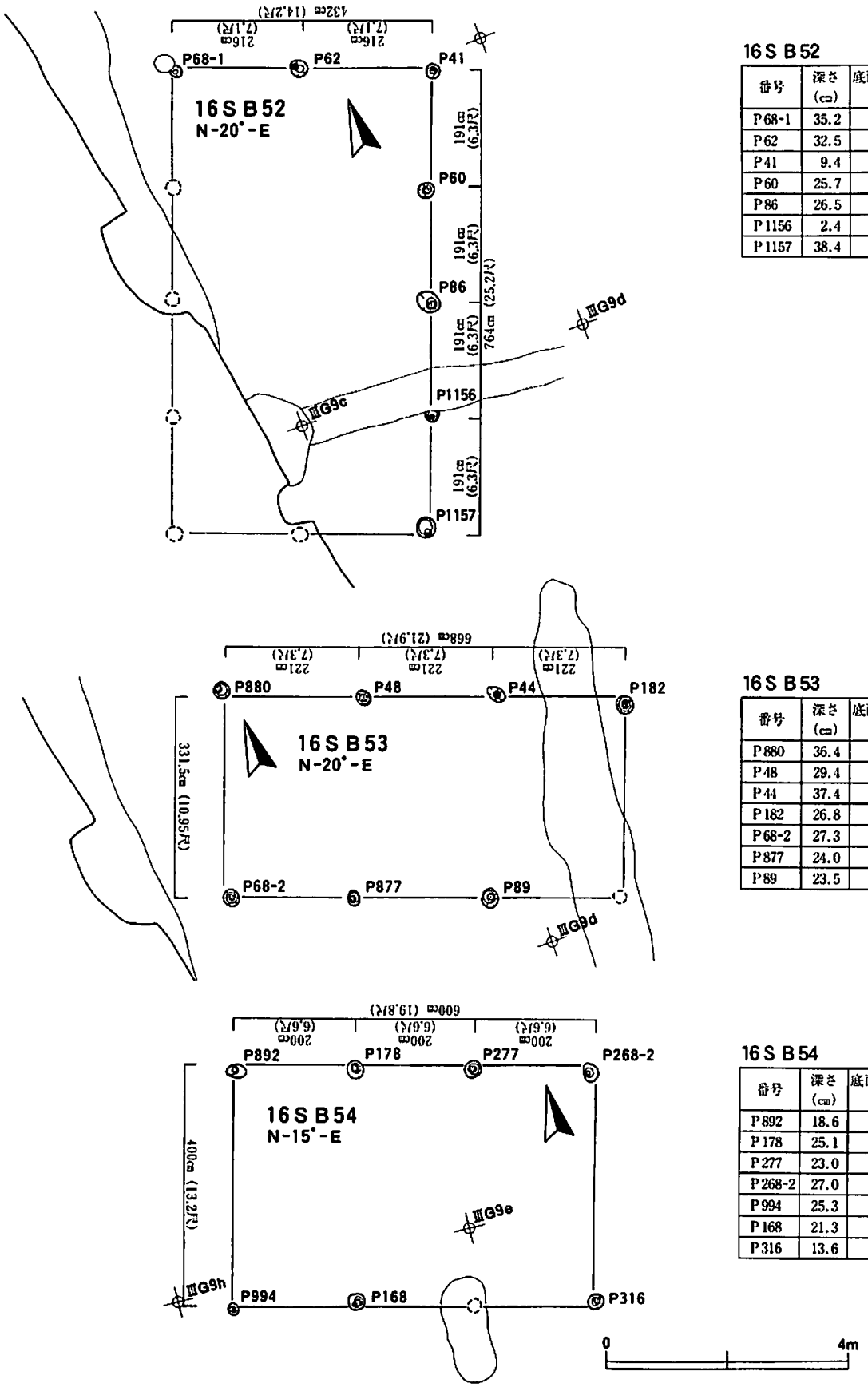
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは663cm、梁間は331.5cmである。面積は22.0㎡である。使用した柱穴は７個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－20°－Ｅである。

〔柱間寸法〕桁行きでは221cm（7.3尺）を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。



16S B52

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P68-1	35.2	22.21
P62	32.5	22.19
P41	9.4	22.41
P60	25.7	22.28
P86	26.5	22.24
P1156	2.4	22.21
P1157	38.4	22.09

16S B53

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P880	36.4	22.21
P48	29.4	22.25
P44	37.4	22.06
P182	26.8	22.09
P68-2	27.3	22.30
P877	24.0	22.30
P89	23.5	22.21

16S B54

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P892	18.6	22.06
P178	25.1	22.06
P277	23.0	21.99
P268-2	27.0	21.95
P994	25.3	21.64
P168	21.3	22.01
P316	13.6	22.04

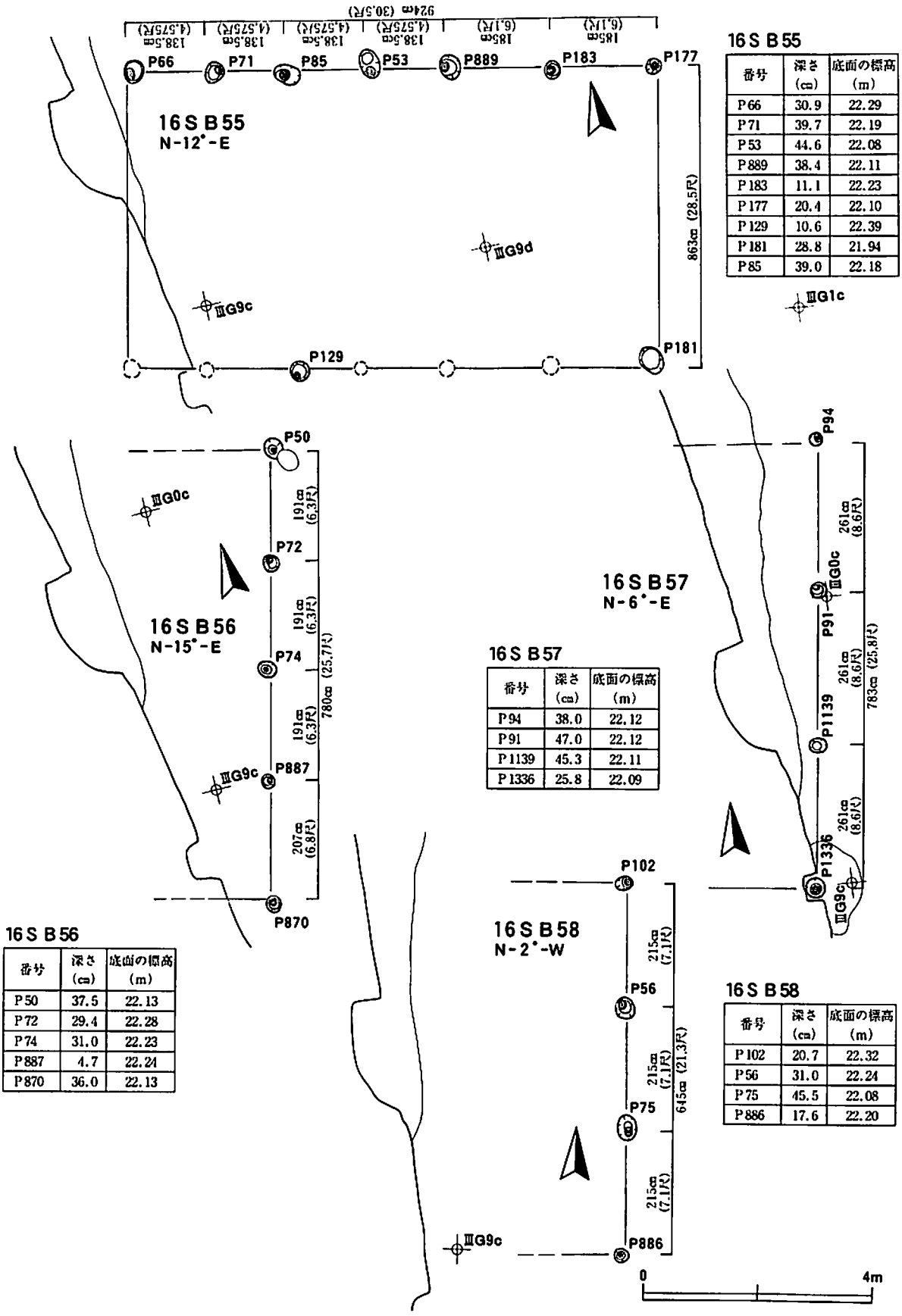
第29図　堀立柱建物㉕

〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ54（第29図、写真図版９）
〔位置〕ⅡＧ９ｄ、９ｅに位置する。
〔重複〕16ＳＢ48、16ＳＢ55とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは600cm、梁間は388cmである。面積は23.2㎡である。使用した柱穴は７個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－15°－Ｅである。
〔柱間寸法〕桁行きでは200cm（6.6尺）を使用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ55（第30図）
〔位置〕ⅡＧ８ｂ、８ｃ、８ｄ、９ｂ、９ｃ、９ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ45の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ52、16ＳＢ53、16ＳＢ54、16ＳＢ56、16ＳＢ57、16ＳＢ58、16ＳＢ59、16ＳＢ61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは924cm、梁間は524cmである。面積は48.4㎡である。使用した柱穴は９個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－12°－Ｅである。
〔柱間寸法〕桁行きでは185cm（6.1尺）を使用している。
〔出土遺物〕Ｐ889から古代の須恵器長頸壺（33）が出土した。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ56（第30図）
〔位置〕ⅡＧ８ｂ、８ｃ、９ｂ、９ｃ、ⅢＧ０ｂ、０ｃに位置する。
〔重複〕16ＳＢ39の柱穴と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ52、16ＳＢ53、16ＳＢ55、16ＳＢ57、16ＳＢ58、16ＳＢ59、16ＳＢ61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びており、全体の平面形は不明である。桁行きは780cm、梁間は不明である。使用した柱穴は５個である。
〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－15°－Ｅである。



16S B55

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P66	30.9	22.29
P71	39.7	22.19
P53	44.6	22.08
P889	38.4	22.11
P183	11.1	22.23
P177	20.4	22.10
P129	10.6	22.39
P181	28.8	21.94
P85	39.0	22.18

16S B56

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P50	37.5	22.13
P72	29.4	22.28
P74	31.0	22.23
P887	4.7	22.24
P870	36.0	22.13

16S B57

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P94	38.0	22.12
P91	47.0	22.12
P1139	45.3	22.11
P1336	25.8	22.09

16S B58

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P102	20.7	22.32
P56	31.0	22.24
P75	45.5	22.08
P886	17.6	22.20

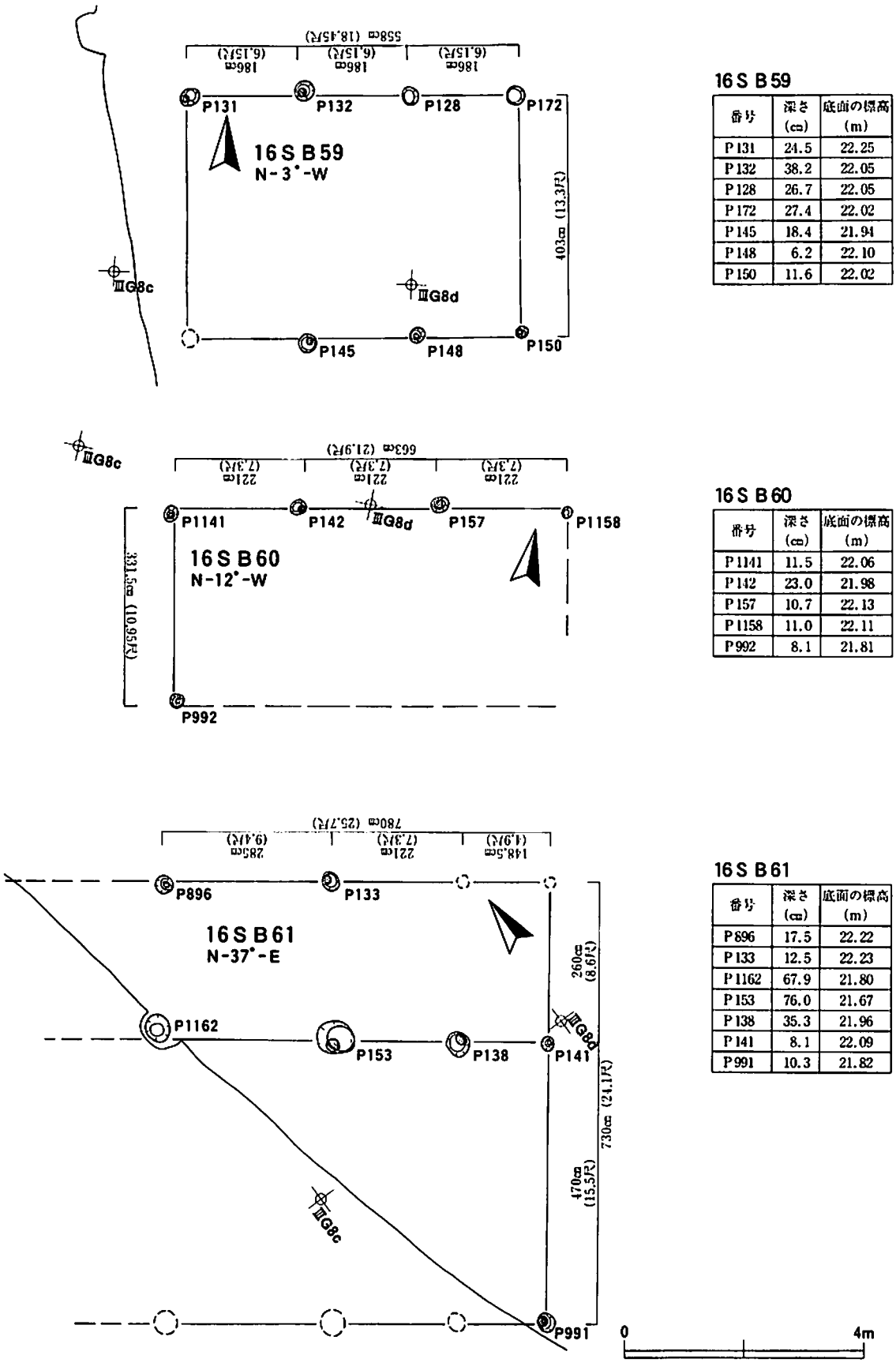
第30図　堀立柱建物㉖

〔柱間寸法〕桁行きでは191cm（6.3尺）を多用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ57（第30図）
〔位置〕ⅡＧ９ｂ、ⅢＧ０ｂに位置する。
〔重複〕16ＳＢ39の柱穴と重複するが本建物が古い。また16ＳＢ38、16ＳＢ41、16ＳＢ42、16ＳＢ43、16ＳＢ44、16ＳＢ45、16ＳＢ46、16ＳＢ49、16ＳＢ50、16ＳＢ52、16ＳＢ55、16ＳＢ56、16ＳＢ58、16ＳＢ61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びており、全体の平面形は不明である。桁行きは783cm、梁間は不明である。使用した柱穴は４個である。
〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－６°－Ｅである。
〔柱間寸法〕桁行きでは261cm（8.6尺）を多用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ58（第30図）
〔位置〕ⅡＧ８ｃ、９ｃに位置する。
〔重複〕16ＳＢ46の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ38、16ＳＢ45、16ＳＢ50、16ＳＢ51、16ＳＢ52、16ＳＢ53、16ＳＢ55、16ＳＢ56、16ＳＢ57、16ＳＢ61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びており、全体の平面形は不明である。桁行きは645cm、梁間は不明である。使用した柱穴は４個である。
〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－２°－Ｗである。
〔柱間寸法〕桁行きでは215cm（7.1尺）を多用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ59（第31図）
〔位置〕ⅡＧ７ｃ、７ｄ、８ｃ、８ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ52、16ＳＢ55、16ＳＢ60、16ＳＢ61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。



16SB59

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P131	24.5	22.25
P132	38.2	22.05
P128	26.7	22.05
P172	27.4	22.02
P145	18.4	21.94
P148	6.2	22.10
P150	11.6	22.02

16SB60

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1141	11.5	22.06
P142	23.0	21.98
P157	10.7	22.13
P1158	11.0	22.11
P992	8.1	21.81

16SB61

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P896	17.5	22.22
P133	12.5	22.23
P1162	67.9	21.80
P153	76.0	21.67
P138	35.3	21.96
P141	8.1	22.09
P991	10.3	21.82

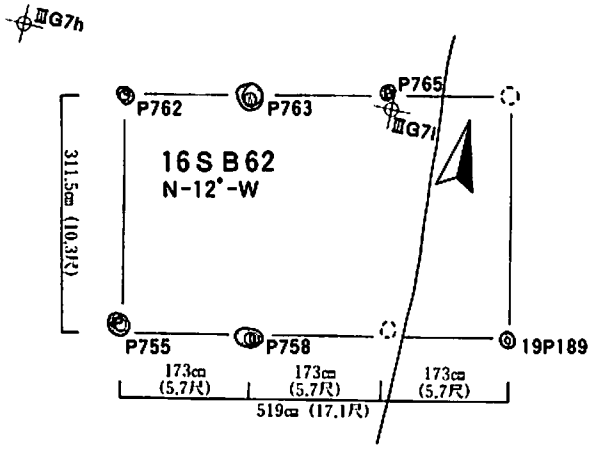
第31図　堀立柱建物㉗

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは558cm、梁間は403cmである。面積は22.5㎡である。使用した柱穴は７個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－３°－Ｗである。
〔柱間寸法〕桁行きでは186cm（6.15尺）を使用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ60（第31図）
〔位置〕ⅡＧ７ｃ、７ｄ、８ｃ、８ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ59、16ＳＢ61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは663cm、梁間は331.5cmである。面積は21.0㎡である。使用した柱穴は５個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－12°－Ｗである。
〔柱間寸法〕桁行きでは221cm（7.3. 尺）を使用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

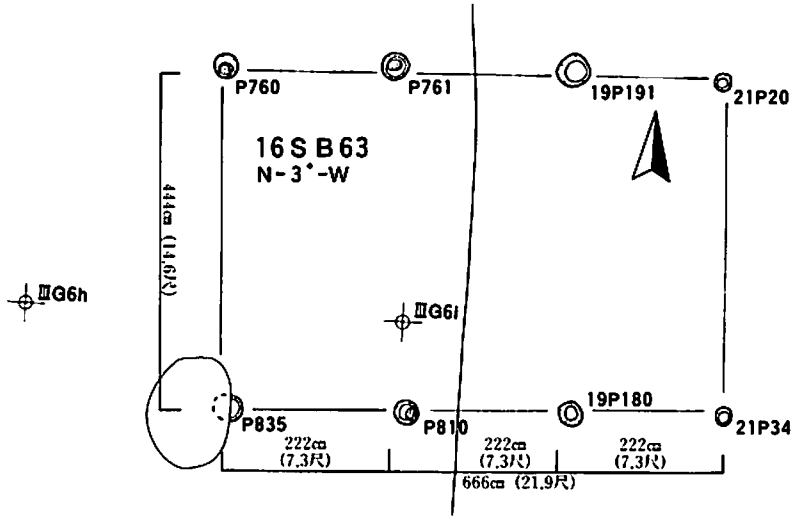
16ＳＢ61（第31図）
〔位置〕ⅡＧ７ｂ、７ｃ、８ｂ、８ｃに位置する。
〔重複〕16ＳＢ52、16ＳＢ55、16ＳＢ56、16ＳＢ57、16ＳＢ59、16ＳＢ60とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外南西側にプランが延び、全体形は不明である。検出された分で桁行きは654cm、梁間は730cmである。面積は47.7㎡である。使用した柱穴は７個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－37°－Ｅである。
〔柱間寸法〕様々な寸法を用いており基準寸法を見出し難い。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＢ62（第32図）
〔位置〕ⅢＧ６ｈ、６ｉ、７ｉに位置する。東半は19次、21次調査区である。
〔重複〕16ＳＫ37と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ２、16ＳＢ６、16ＳＢ63、16ＳＢ64とプランが



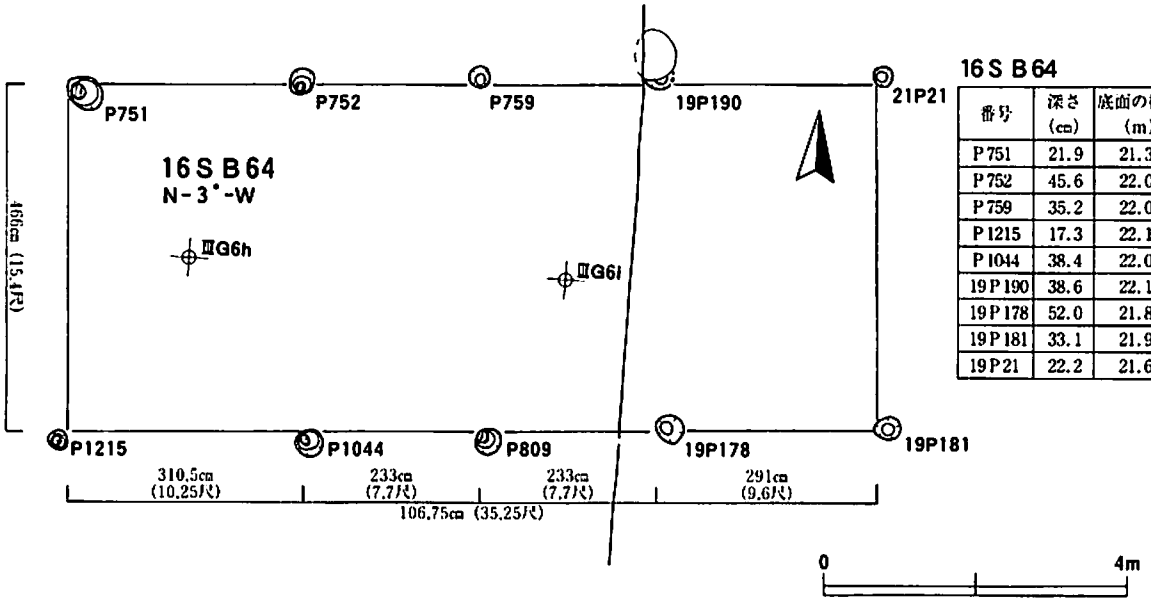
16 S B 62

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P 762	31.6	22.24
P 763	45.1	22.13
P 765	11.8	22.43
P 755	33.1	22.17
P 758	26.6	22.23
19 P 189	27.3	22.13



16 S B 63

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P 760	49.7	22.04
P 761	38.9	22.13
P 835	不明	不明
P 810	39.2	22.12
19 P 191	18.4	22.18
19 P 180	40.0	21.95
19 P 20	11.8	21.87
19 P 34	14.3	21.82



16 S B 64

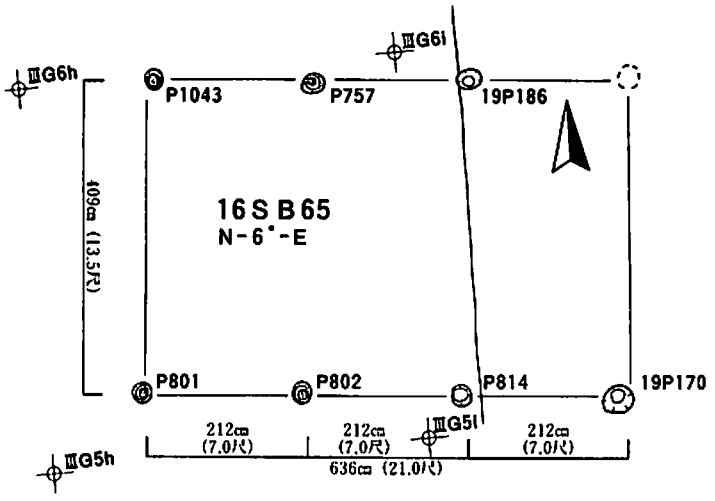
番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P 751	21.9	21.31
P 752	45.6	22.04
P 759	35.2	22.07
P 1215	17.3	22.18
P 1044	38.4	22.05
19 P 190	38.6	22.11
19 P 178	52.0	21.87
19 P 181	33.1	21.93
19 P 21	22.2	21.68

第32図　堀立柱建物㉘

重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは519cm、梁間は311.5cmである。面積は16.2㎡である。使用した柱穴は6個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はN－12°－Eである。
〔柱間寸法〕桁行きでは173cm（5.7尺）を用いている。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

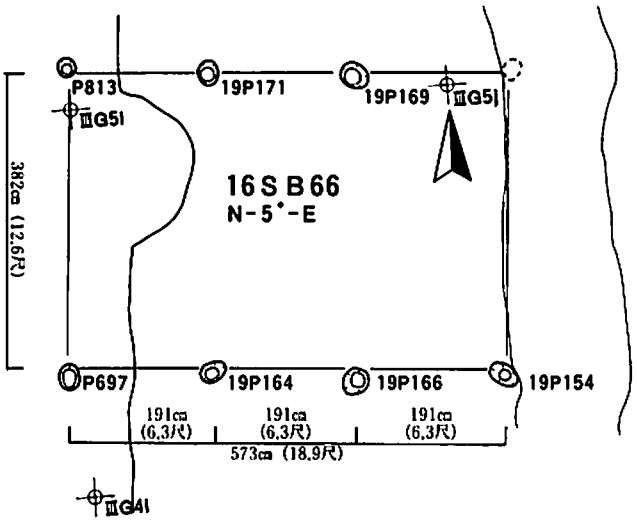
16SB63（第32図、写真図版9）
〔位置〕ⅢG5h、5i、6h、6iに位置する。東半は19次、21次調査区である。
〔重複〕16SK30と重複するが本建物が古い。また16SK36と重複するが本建物が新しい。また16SB6、16SB62、16SB64、16SB65とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは666cm、梁間は444cmである。面積は29.6㎡である。使用した柱穴は8個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はN－3°－Wである。
〔柱間寸法〕222cm（7.3尺）を基準寸法に用いている。
〔出土遺物〕P761から陶器仏飯器？（5116）が出土している。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕出土した陶器から19世紀前半以降の年代が推測される。

16SB64（第32図、写真図版10）
〔位置〕ⅢG5g、5h、5i、6g、6h、6iに位置する。東半は19次、21次調査区である。
〔重複〕16SK37と重複するが本建物が新しい。また16SK31と接するが前後関係を判断できなかった。また16SB62、16SB63、16SB65、16SE11とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは106.75cm、梁間は466cmである。面積は49.7㎡である。使用した柱穴は10個である。
〔建物方位〕梁間の軸方向はN－3°－Wである。
〔柱間寸法〕桁行きでは233cmを多用している。これを6で割った数値は38.8cmである。これを任意の1尺とすると、桁行きで他に使用されているに310.5cmは8尺、291cmは7尺5寸、梁間の466cmは12尺＝2間となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺＝38.8cmを使用したと推測される。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明であるが、中世後半（16世紀頃）の民家の主屋の可能性が考えられる。



16S B65

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1043	38.3	22.10
P757	29.2	22.17
P801	12.3	22.26
P802	25.4	22.12
P814	30.5	22.06
19P186	39.3	22.02
19P170	37.9	22.00

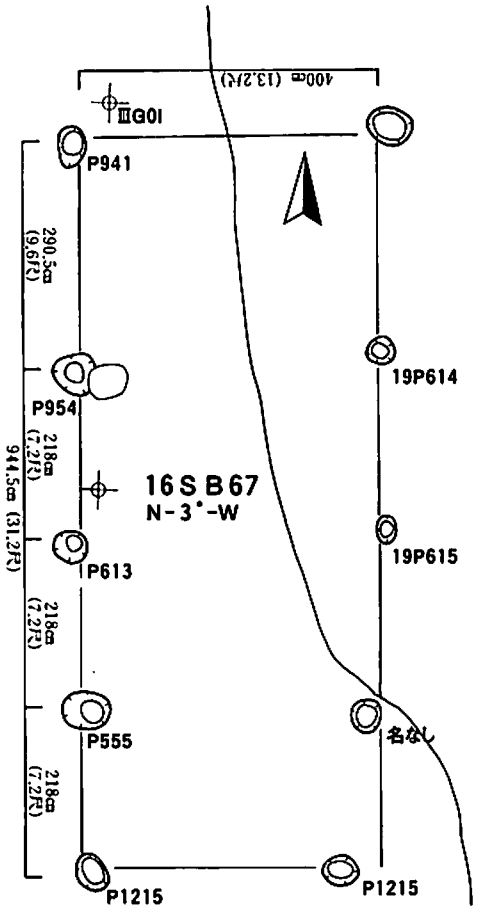


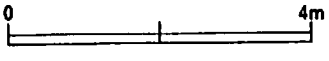
16S B66

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P813	18.5	22.18
P697	28.8	22.01
19P171	15.1	22.16
19P169	28.0	22.09
19P164	不明	不明
19P166	14.6	22.18
19P154	13.4	22.11

16S B67

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P941	6.0	21.92
P954	46.2	21.48
P613	50.3	21.85
P555	50.2	21.33
P1342	36.5	21.28
P1333	35.2	21.39
19P614	12.2	21.54
19P615	9.6	21.37





第33図　堀立柱建物㉙

〔年代〕不明であるが、中世後半の可能性がある。

16ＳＢ65（第33図、写真図版10）

〔位置〕ⅢＧ５ｈ、６ｈに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16ＳＫ29と重複するが本建物が新しい。また16ＳＢ64、16ＳＢ66とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは636cm、梁間は409cmである。面積は26.0㎡である。使用した柱穴は７個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－６°－Ｅである。

〔柱間寸法〕桁行きでは212cm（7.0尺）を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ66（第33図）

〔位置〕ⅢＧ４ｉ、４ｊ、５ｉ、５ｊに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16ＳＢ65、16ＳＥ13、16ＳＤ12とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは573cm、梁間は382cmである。面積は21.9㎡である。使用した柱穴は７個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－５°－Ｅである。

〔柱間寸法〕191cm（6.3尺）を基準寸法に使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ67（第33図）

〔位置〕ⅡＧ８ｈ、８ｉ、９ｈ、９ｉに位置する。北東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16ＳＢ33の柱穴と重複するが前後関係を明らかにできなかった。また建物のプラン内に16ＳＫ11が存在するが同時存在の可能性がある。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは944.5cm、梁間は400cmである。面積は37.8㎡である。使用した柱穴は８個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はＮ－３°－Ｗである。

〔柱間寸法〕桁行きでは218cm（7.2尺）を多用している。

〔出土遺物〕Ｐ555から肥前磁器碗（5013）とＰ941から産地不明陶器碗（5099）が出土している。

〔付属施設〕建物内部に取り込まれる状態の16ＳＫ11が伴う可能性が高い。

〔建物の性格〕近世民家の附属屋の可能性が高い。16ＳＫ11が厩の窪みの可能性がある。

〔年代〕出土遺物から近世の建物と判断できる。主屋である16ＳＢ28か16ＳＢ29に伴う可能性が高い。

16ＳＢ68（第34図）

〔位置〕ⅢＧ１ｈ、１ｉ、２ｈ、２ｉに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16ＳＢ20、16ＳＥ69とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは636cm、梁間は382cmである。面積は24.3㎡である。使用した柱穴は８個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はＮ－６°－Ｅである。

〔柱間寸法〕桁行きでは212cm（7.0尺）を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

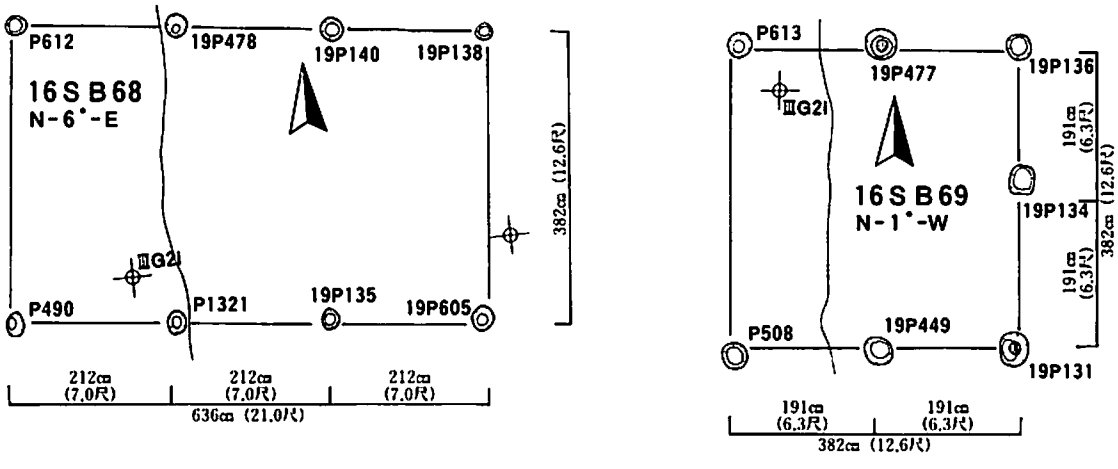
〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＢ69（第34図）

〔位置〕ⅢＧ１ｈ、１ｉ、２ｈ、２ｉに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16ＳＢ69とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。



16ＳＢ68

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P612	32.2	21.96
P490	38.8	21.95
P1321	30.7	22.02
19P278	12.2	22.16
19P140	33.9	21.92
19P138	9.0	22.11
19P135	22.4	22.29
19P605	23.6	21.96

0　4m

16ＳＢ69

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P613	50.3	21.85
P508	不明	不明
19P477	34.7	21.82
19P136	49.5	21.80
19P134	19.1	22.04
19P131	31.0	21.94
19P479	35.0	21.80

第34図　掘立柱建物㉚

〔平面形式〕掘立柱建物である。南北辺382cm、東西辺は382cmである。面積は14.6㎡である。使用した柱穴は７個である。
〔建物方位〕南北辺の軸方向はＮ－１°－Ｗである。
〔柱間寸法〕191cm（6.3尺）を基準寸法に使用している。
〔出土遺物〕なし。
〔付属施設〕特になし。
〔建物の性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

2　柱列

柱穴が直線上に並ぶが、建物に組めないものを柱列とした。５条示した。

16柱列１（第35図）

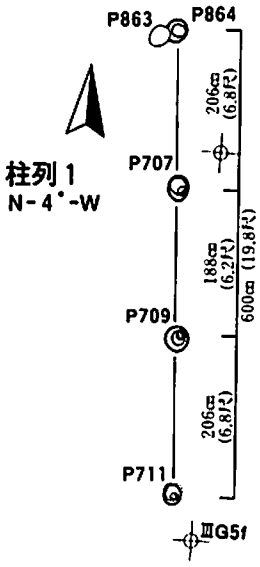
〔位置〕ⅢＧ５ｅ、６ｅに位置する。
〔重複〕16ＳＥ９とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕全長は600cmである。使用した柱穴は４個である。
〔軸方向〕南北辺の軸方向はＮ－４°－Ｗである。
〔柱間寸法〕206cm（6.8尺）を多用している。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

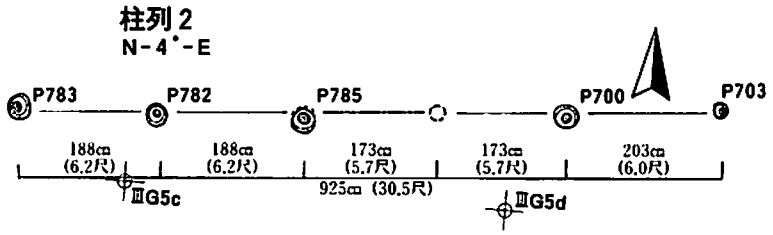
16柱列２（第35図）

〔位置〕ⅢＧ５ｃ、５ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ15の柱穴と重複するが本柱列が新しい。また16ＳＤ13と重複するが前後関係は明らかでない。また16ＳＢ13とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕全長は925cmである。使用した柱穴は５個である。
〔軸方向〕軸方向はＮ－86°－Ｗである。これと直交する角度はＮ－４°－Ｅになる。
〔柱間寸法〕188cm（6.2尺）と173cm（5.7尺）を多用している。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16柱列３（第35図）

〔位置〕ⅢＧ４ｃ、４ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ17の柱穴と重複するが本柱列が新しい。また16ＳＤ20とプランが重複するが直接重複する柱



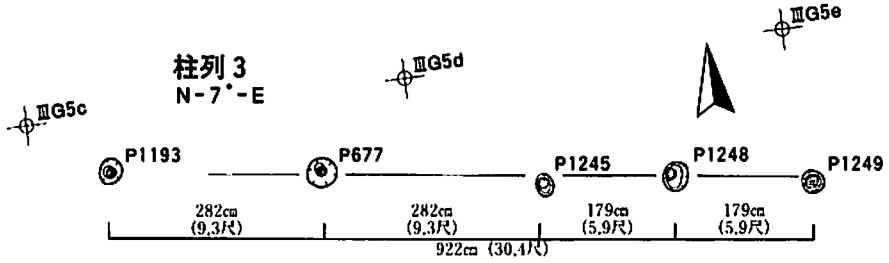


柱列 1

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P864	20.4	22.25
P707	20.1	22.25
P709	15.7	22.33
P711	18.0	22.25

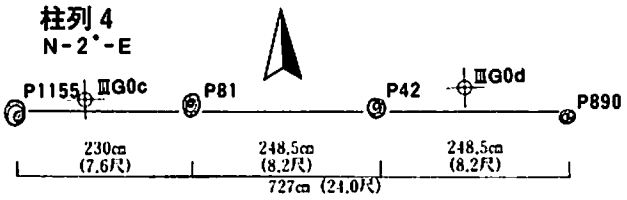
柱列 2

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P783	7.8	22.47
P782	9.4	22.46
P785	10.8	22.41
P700	21.6	22.33
P703	18.1	22.35



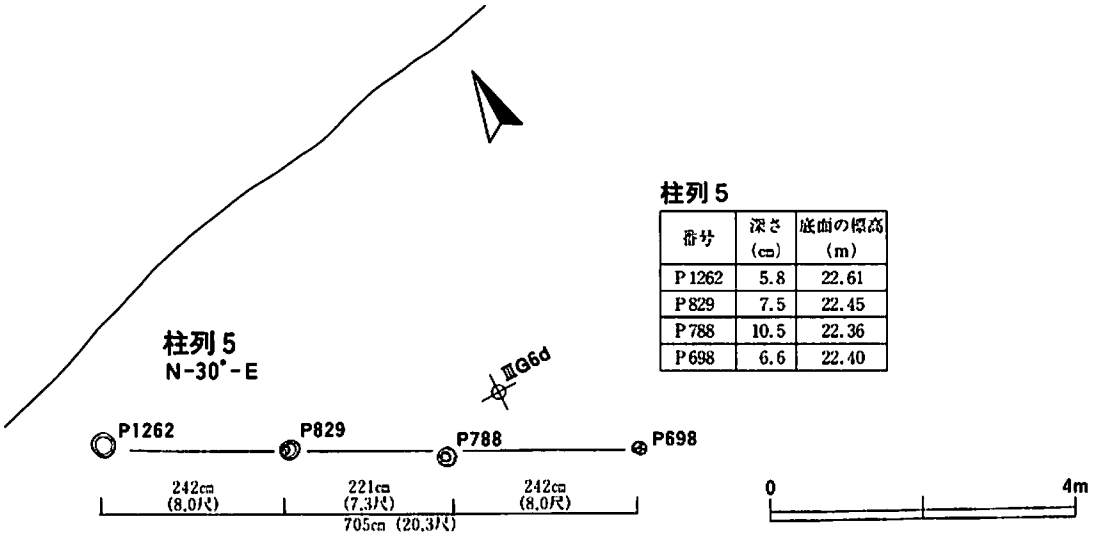
柱列 3

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1193	16.5	22.27
P677	不明	不明
P1245	不明	不明
P1248	6.1	22.55
P1249	12.1	22.49



柱列 4

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1155	不明	不明
P81	16.7	22.42
P42	30.2	22.21
P890	22.9	22.18



柱列 5

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1262	5.8	22.61
P829	7.5	22.45
P788	10.5	22.36
P698	6.6	22.40

第35図　柱列

穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕全長は922cmである。使用した柱穴は5個である。
〔軸方向〕軸方向はN－83°－Wである。これと直交する角度はN－7°－Eになる。
〔柱間寸法〕282cm（9.3尺）と179cm（5.9尺）を使用している。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16柱列4（第35図）
〔位置〕ⅢＧ９ｂ、９ｃに位置する。
〔重複〕16ＳＢ45、16ＳＢ46、16ＳＢ48、16ＳＢ50、16ＳＢ52、16ＳＢ53とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕全長は727cmである。使用した柱穴は4個である。
〔軸方向〕軸方向はN－88°－Wである。これと直交する角度はN－2°－Eになる。
〔柱間寸法〕248.5cm（8.2尺）を多用している。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16柱列5（第35図）
〔位置〕ⅢＧ５ｃ、５ｄに位置する。
〔重複〕16ＳＢ13、16ＳＢ15とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。
〔平面形式〕全長は705cmである。使用した柱穴は4個である。
〔軸方向〕軸方向はN－60°－Wである。これと直交する角度はN－30°－Eになる。
〔柱間寸法〕242cm（8.0尺）を多用している。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

3　井戸状遺構

検出面からの深さが200cm以上の遺構を井戸とした。14基を示した。遺構の性格は井戸の可能性が高いが、井戸以外の用途も存在し得る。

16ＳＥ１（第36図、写真図版10）

〔位置〕ⅢＧ０ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＩ１、16ＳＢ23と重複するが本井戸が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は開口部がやや開く形態である。確認面からの深さは364cmである。底面の標高は18.64mである。

〔埋土〕５層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。３層には大きめの礫を含む。

〔出土遺物〕埋土中から土師器内黒ロクロ坏（20）、ロクロかわらけ（1105）、肥前磁器小杯（5050）が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土した肥前磁器から18世紀以降の年代に属する。

16ＳＥ２（第36図、写真図版10）

〔位置〕ⅢＧ０ｅ、０ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＫ12と重複するが本井戸が新しい。また近世民家の主屋16ＳＢ28、16ＳＢ32と重複するが、おそらく本井戸が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は壁がほぼ垂直に落ちる形態である。確認面からの深さは326cmである。底面の標高は18.94mである。

〔埋土〕４層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から肥前磁器碗（5014、5015）、砥石（7004、7006）が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土した肥前磁器と重複する近世民家の主屋の年代観から19世紀以降の年代に属する可能性が高い。

16ＳＥ３（第36図、写真図版11）

〔位置〕ⅢＧ３ｇ、３ｈに位置する。

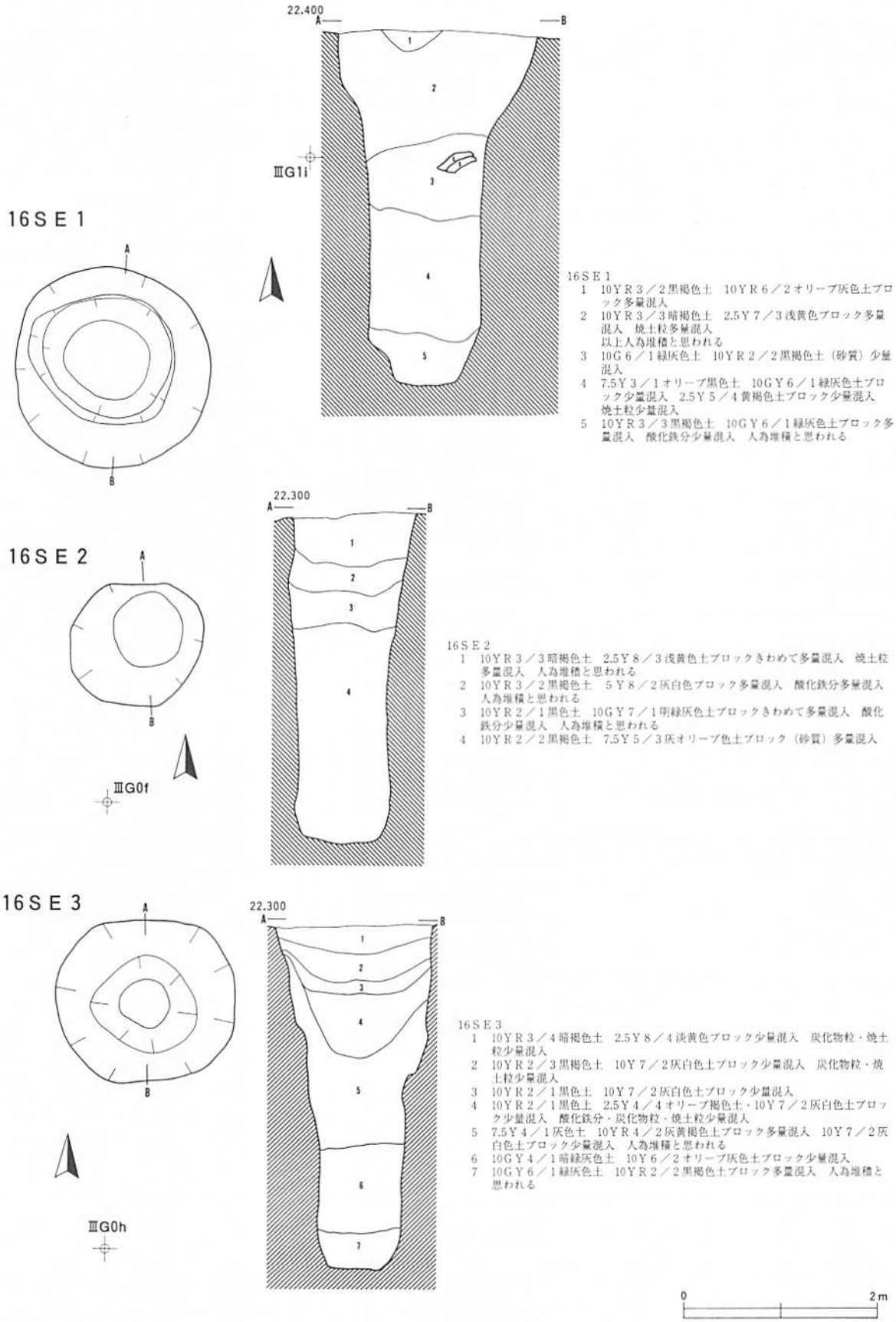
〔重複〕16ＳＩ１と重複するが本井戸が新しい。また16ＳＢ22のプランと重複するが直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は中ほどで径がすぼまる形態である。確認面からの深さは353cmである。底面の標高は18.66mである。

〔埋土〕７層に分けられる。埋土下半の５～７層は人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から白磁壺（3020）が出土した。また１層中から瀬戸美濃産灰釉皿（5057）、美濃産志野皿（5058、5059）、瀬戸美濃産鉄釉皿（5060）、肥前産（唐津）皿（5061）、朝鮮産瓶（5062）、木製釣瓶（6001）、漆器椀（6009）横槌（6010）が一括状態で出土した。

〔性格〕井戸である。


16SE1
22.400
A
B
ⅢG1i
16SE1
1 10YR3／2黒褐色土 10YR6／2オリーブ灰色土ブロック多量混入
2 10YR3／3暗褐色土 2.5Y7／3浅黄色ブロック多量混入 焼土粒多量混入
以上人為堆積と思われる
3 10G6／1緑灰色土 10YR2／2黒褐色土（砂質）少量混入
4 7.5Y3／1オリーブ黒色土 10GY6／1緑灰色土ブロック少量混入 2.5Y5／4黄褐色土ブロック少量混入 焼土粒少量混入
5 10YR3／3黒褐色土 10GY6／1緑灰色土ブロック多量混入 酸化鉄分少量混入 人為堆積と思われる
16SE2
22.300
ⅢG0f
16SE2
1 10YR3／3暗褐色土 2.5Y8／3浅黄色土ブロックきわめて多量混入 焼土粒多量混入 人為堆積と思われる
2 10YR3／2黒褐色土 5Y8／2灰白色ブロック多量混入 酸化鉄分多量混入 人為堆積と思われる
3 10YR2／1黒色土 10GY7／1明緑灰色土ブロックきわめて多量混入 酸化鉄分少量混入 人為堆積と思われる
4 10YR2／2黒褐色土 7.5Y5／3灰オリーブ色土ブロック（砂質）多量混入
16SE3
22.300
ⅢG0h
16SE3
1 10YR3／4暗褐色土 2.5Y8／4淡黄色ブロック少量混入 炭化物粒・焼土粒少量混入
2 10YR2／3黒褐色土 10Y7／2灰白色土ブロック少量混入 炭化物粒・焼土粒少量混入
3 10YR2／1黒色土 10Y7／2灰白色土ブロック少量混入
4 10YR2／1黒色土 2.5Y4／4オリーブ褐色土・10Y7／2灰白色土ブロック少量混入 酸化鉄分・炭化物粒・焼土粒少量混入
5 7.5Y4／1灰色土 10YR4／2灰黄褐色土ブロック多量混入 10Y7／2灰白色土ブロック少量混入 人為堆積と思われる
6 10GY4／1暗緑灰色土 10Y6／2オリーブ灰色土ブロック少量混入
7 10GY6／1緑灰色土 10YR2／2黒褐色土ブロック多量混入 人為堆積と思われる
0
2m

第36図　井戸①

〔年代〕１層中の出土遺物から17世紀初頭に廃絶した井戸と理解できる。

16ＳＥ４（第37図、写真図版11）

〔位置〕ⅢＧ０ｆ、０ｇに位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は底面に向かうにつれ、径が小さくなる形態である。確認面からの深さは353cmである。底面の標高は18.58mである。

〔埋土〕６層に分けられる。人為堆積と推測されるがはっきりしない。

〔出土遺物〕埋土中から肥前産磁器碗（5016、5025）、大堀相馬産陶器碗（5096）、在地産陶器おはぐろ壺（5117）が出土した。また底面から桶の側板（6007）が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から19世紀以降の井戸と理解できる。

16ＳＥ５（第37図、写真図版12）

〔位置〕ⅢＧ９ｇに位置する。

〔重複〕近世民家の主屋16ＳＢ32と重複するが本井戸が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは365cmである。底面の標高は18.58mである。

〔埋土〕４層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から渥美産甕（2081）、平瓦（4005）、肥前産磁器皿（5035、5048）、美濃産志野皿（5076）、在地産陶器鉢？（5111）、在地産陶器切立（5113）が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から19世紀以降の井戸と理解できる。

16ＳＥ６（第38図、写真図版12）

〔位置〕ⅢＧ１ｆ、２ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＢ24と重複するが本井戸が古い。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は底面に向かうにつれ、径が小さくなる形態である。確認面からの深さは399cmである。底面の標高は18.34mである。

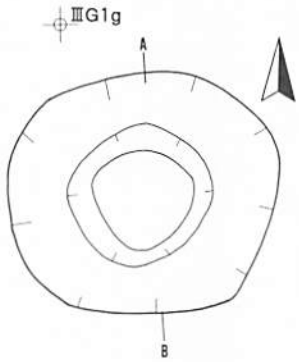
〔埋土〕17層に分けられる。埋土は人為的に埋め戻した土と推測される。埋土上部に遺物を多量に含む。

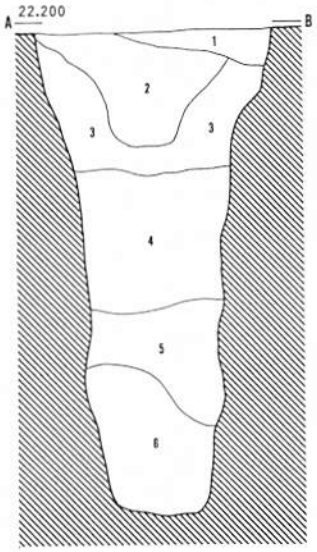
〔出土遺物〕埋土中から古代の須恵器大甕（50、77）、手づくねかわらけ（1001、1003、1004、1008、1009、1017、1021、1022、1024、1027、1031、1032、1033、1037、1038、1039、1040、1042、1043、1044、1046、1049、1052、1053、1066、1069、1071、1078、1084、1085、1087、1092）、ロクロかわらけ（1094、1096、1098、1101、1113）、常滑産片口鉢（2002）、常滑産甕（2020、2024）、渥美産甕（2044、2057、2060、2069、2070、2071）、中国産白磁碗（3002、3011、3012）、曲物底板（6005）、漆紙（8042）が出土した。また底面近くからほぼ完形の曲物（6003）が出土した。

〔性格〕井戸の可能性が高い。

〔年代〕出土遺物から12世紀後半と推測される。

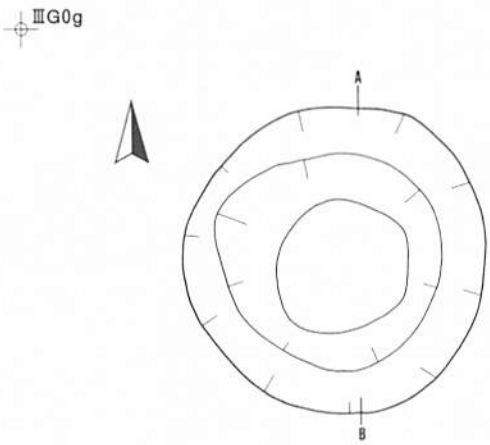
16ＳＥ４

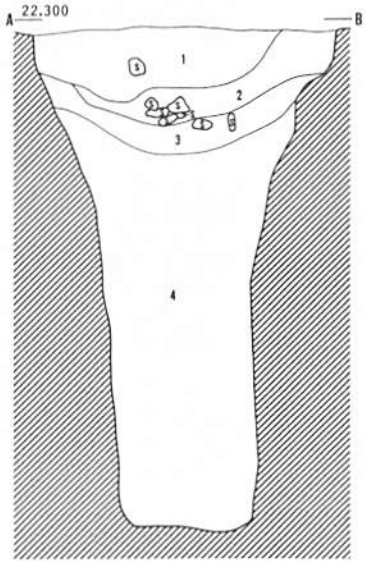




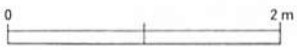
16ＳＥ４
1　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土　10ＹＲ６／６明黄褐色土ブロック少量混入　５Ｙ７／３浅黄色ブロック少量混入
2　10ＹＲ２／１黒色土　2.5Ｙ３／３暗オリーブ褐色土ブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
3　10ＹＲ２／３黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状に少量混入　10Ｙ５／２オリーブ灰色土ブロック（砂質）多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
4　10ＹＲ４／６褐色土　2.5Ｙ３／２黒褐色土・2.5Ｙ６／６明黄褐色土ブロック少量混入　酸化鉄分多量混入
5　10Ｙ３／２オリーブ黒色土　2.5Ｙ７／４浅黄色土・10ＧＹ７／１明緑灰色土ブロック少量混入
6　10ＹＲ２／３黒褐色土　10ＧＹ７／１明緑灰色土ブロック多量混入

16ＳＥ５





16ＳＥ５
1　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土　2.5Ｙ８／４淡黄色土ブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10ＹＲ３／３暗褐色土　10ＧＹ３／１暗緑灰色土・2.5Ｙ７／３淡黄色土（砂質）ブロック多量混入　人為堆積と思われる
3　10ＹＲ３／４暗褐色土　2.5Ｙ３／１黒褐色土土層中央部に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
4　10ＹＲ４／４褐色土　10ＹＲ２／１黒色土まだら状に多量混入　2.5Ｙ７／４淡黄色土ブロック多量混入　酸化鉄分・炭化物粒少量混入　人為堆積と思われる



第37図　井戸②

16ＳＥ７（第38図、写真図版13）

〔位置〕ⅢＧ５ｆ、５ｇ、６ｆ、６ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ４、16ＳＫ23と重複するが本井戸が新しい。また16ＳＢ５、16ＳＢ７、16ＳＢ８、16ＳＢ９のプランと重複するが直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは420cmである。底面の標高は18.30mである。

〔埋土〕３層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1041）、肥前産磁器皿（5049）美濃産志野皿（5072）、在地産陶器甕（5120、5121）、近世の常滑産甕（5125）、在地産陶器擂鉢（5138、5139、5144）、砥石（7013、7014）が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から19世紀以降の井戸と理解できる。

16ＳＥ８（第39図、写真図版13）

〔位置〕ⅢＧ１ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ22のプランと重複するが直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は開口部がやや開く。石組みの井戸である。４層より下の部分に石組みが残存している。石の崩落の危険があり４層より下の掘り下げはおこなっていない。

〔埋土〕掘った分では４層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。１～４層の石組みを崩した後に埋め戻しをおこなったと考えられる。

〔出土遺物〕埋土中から常滑産甕（2032、2033）が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕平泉でこれまで検出された石組みの井戸は近世後半以降の所産である。本井戸も近世後半以降の井戸と推測される。

16ＳＥ９（第39図、写真図版13）

〔位置〕ⅢＧ４ｂ、４ｃ、５ｂに位置する。

〔重複〕16ＳＢ17と重複するが本井戸が古い。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは345cmである。底面の標高は19.03mである。

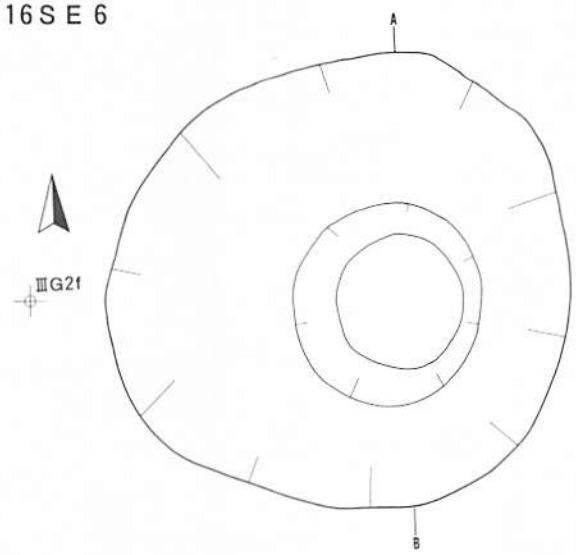
〔埋土〕９層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

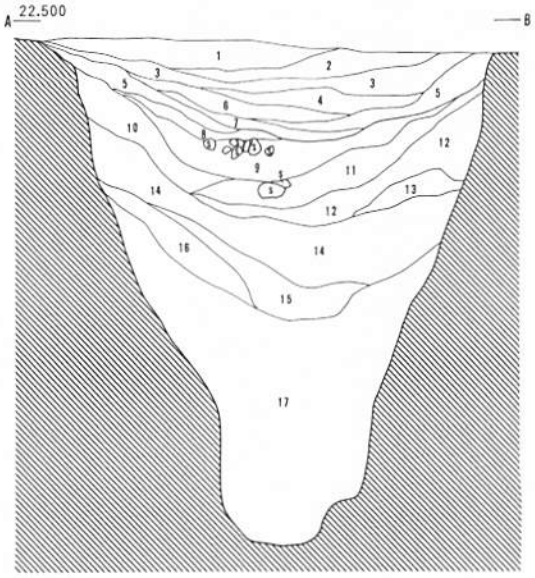
〔出土遺物〕埋土中から古代の須恵器大甕（39、44、45、51、62、68、70）、手づくねかわらけ（1026）ロクロかわらけ（1093、1100、1104、1106、1111、1114、1116）、内折れかわらけ（1119）、常滑産甕（2026）、渥美産甕（2059、2079）が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から12世紀後半の井戸と推測される。

16ＳＥ６

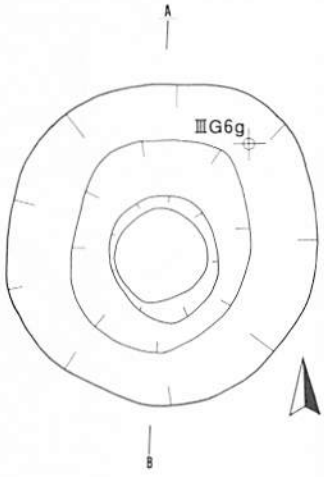


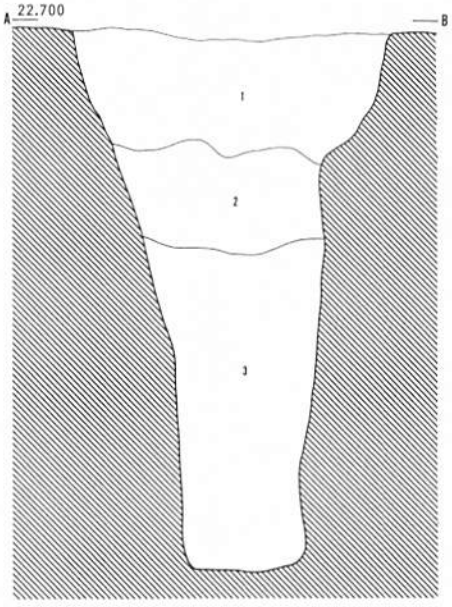


16ＳＥ６

1　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土　2.5Ｙ８／３淡黄色土ブロック多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入　人為堆積と思われる
2　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土　10ＹＲ３／２黒褐色土まだら状に少量混入　2.5Ｙ８／３淡黄色土ブロック少量混入　かわらけ片・炭化物粒・焼土粒少量混入
3　10ＹＲ３／３暗褐色土　10ＹＲ４／６褐色土まだら状に少量混入　かわらけ片多量混入　10Ｙ５　炭化物粒・焼土粒少量混入
4　10ＹＲ３／２黒褐色土　7.5Ｙ４／６褐色土まだら状に多量混入　かわらけ片・焼土粒・炭化物粒多量混入
5　10Ｙ２／３黒褐色土　10ＹＲ４／６褐色土多量混入　2.5Ｙ８／３淡黄色土ブロック多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入　人為堆積と思われる
6　10ＹＲ２／３黒褐色土　2.5Ｙ８／２灰白色土ブロック少量混入　炭化物粒少量混入
7　10ＹＲ２／２黒褐色土　10ＹＲ５／８黄褐色土ブロック多量混入　炭化物粒多量混入　焼土粒少量混入　人為堆積と思われる
8　10ＹＲ２／２黒褐色土　7.5Ｙ７／２灰白色土ブロック多量混入　炭化物粒・酸化鉄分少量混入　人為堆積と思われる
9　10ＹＲ２／２黒褐色土　10ＹＲ６／１褐灰色土まだら状に多量混入　炭化物粒少量混入
10　10ＹＲ２／３黒褐色土　10ＹＲ４／４褐色土ブロック多量混入　酸化鉄分・炭化物粒多量混入　人為堆積と思われる
11　５Ｙ３／１オリーブ黒色土　10Ｇ７／１明緑灰色土ブロック少量混入　酸化鉄分・炭化物粒少量混入
12　7.5Ｙ４／４褐色土　５Ｙ４／１灰色土・10ＧＹ７／１明緑灰色土ブロック少量混入　炭化物粒・酸化鉄分少量混入
13　10ＹＲ３／２黒褐色土　10ＧＹ７／１明緑灰色土ブロック少量混入
14　10Ｇ７／１明緑灰色土　10ＹＲ３／２黒褐色土まだら状に少量混入　５Ｙ５／６オリーブ色土（砂質）まだら状に少量混入
15　7.5Ｙ３／１オリーブ黒色土
16　10ＹＲ２／２黒褐色土　7.5ＧＹ７／１明緑灰色土ブロック多量混入　人為堆積と思われる
17　10Ｇ７／１明緑灰色土　10ＹＲ２／２黒褐色土ブロック少量混入

16ＳＥ７



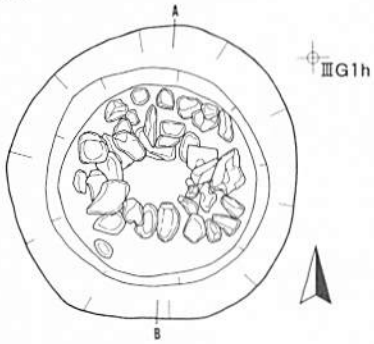


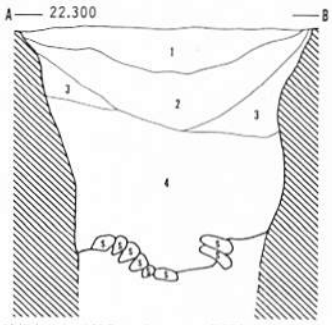
16ＳＥ７

1　５Ｙ８／２灰白色土　酸化鉄分少量混入　10ＹＲ３／３暗褐色土焼土粒少量混入
　上記２種の土が交互に堆積する
2　10ＹＲ３／２黒褐色土　10ＧＹ５／１緑灰色土（砂質）ブロック多量混入　人為堆積と思われる
3　10ＹＲ３／２黒褐色土　５Ｙ８／２灰白色土ロームブロック状に多量混入　人為堆積と思われる

第38図　井戸③

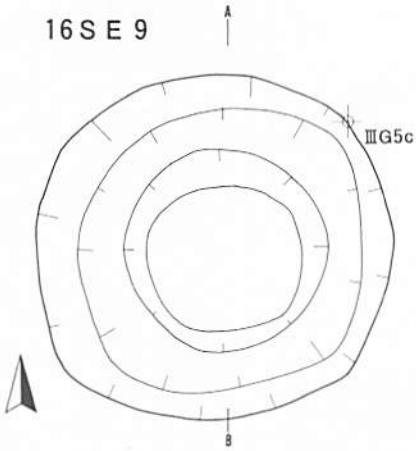
16SE8

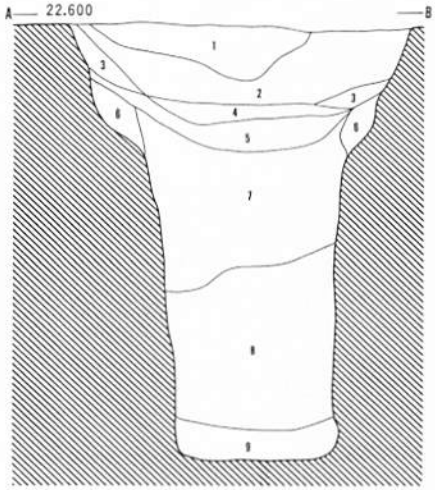




16SE8
1　10YR3／3暗褐色土　10YR5／4にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　2.5Y5／4黄褐色土（砂質、焼土粒少量混入）ブロック状に多量混入　人為堆積と思われる
2　10YR3／2黒褐色土　7.5YR4／6褐色土まだら状に少量混入
3　10YR4／4褐色土　10YR3／2黒褐色土まだら状に少量混入
4　2.5Y3／2黒褐色土　10YR3／4暗褐色土ブロック多量混入　酸化鉄分多量混入　5Y7／3淡黄色土ブロック少量混入

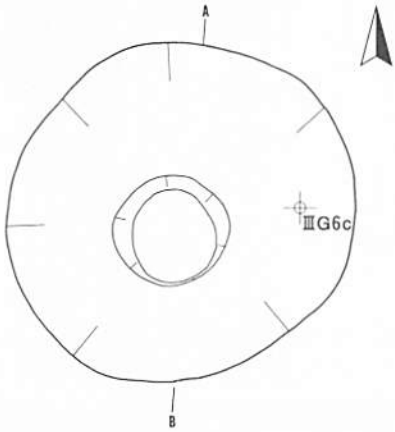
16SE9

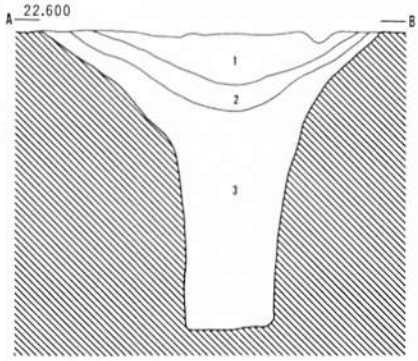




16SE9
1　10YR3／3暗褐色土　炭化物粒多量混入
2　10YR3／3暗褐色土　2.5Y8／2灰白色土ブロック状多量混入　炭化物粒少量混入　人為堆積と思われる
3　10YR2／3黒褐色土　炭化物粒・焼土粒少量混入
4　2.5Y3／1黒褐色土　炭化物粒少量混入
5　10Y2／2黒褐色土　炭化物粒多量混入　焼土粒少量混入
6　10YR4／3にぶい黄褐色土　10YR2／2黒褐色土まだら状少量混入
7　5Y2／2オリーブ黒色土　10GY6／1緑灰色土ブロック状少量混入
8　10GY6／1緑灰色土　10YR3／2黒褐色土ブロック状少量混入
9　2.5Y7／3淡黄色土　10G7／1明緑灰色土ブロック状多量混入　酸化鉄分少量混入　人為堆積と思われる

16SE10





16SE10
1　10YR2／2黒褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10YR3／3暗褐色土　炭化物粒多量混入　焼土粒少量混入
3　10YR3／1黒褐色土　10YR3／3暗褐色土まだら状少量混入

第39図　井戸④

16ＳＥ10（第39図、写真図版13、14）

〔位置〕ⅢＧ５ｂ、５ｃ、６ｂ、６ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＤ１と重複するが本井戸が古い。また16ＳＢ13、16ＳＢ15のプランと重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは235cmである。底面の標高は20.14mである。

〔埋土〕３層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から古代の須恵器大甕（58、61）、13～14世紀のロクロかわらけ（1123）、須恵器系陶器甕（2087）、在地産陶器片口鉢（2100）、中国産白磁碗（3005）、中国産青磁碗（3027）、中国産青磁鎬連弁文碗（3038）が出土した。また検出面からの出土で確実に本井戸に伴うかはっきりしないが、北宋銭天聖元寶（8001）がある。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から13世紀後半～14世紀前半の井戸と推測される。

16ＳＥ11（第40図、写真図版14）

〔位置〕ⅢＧ５ｇ、５ｈ、６ｇ、６ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ５、16ＳＫ40、16ＳＤ16と重複するが本井戸が新しい。また16ＳＢ４、16ＳＢ７、16ＳＢ８、16ＳＢ64のプランと重複するが直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は下に進むにつれ徐々に径が狭くなる。確認面からの深さは390cmである。底面の標高は18.71mである。

〔埋土〕６層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から常滑産甕（2012、2021、2034、2036）、渥美産甕（2075）、須恵器系陶器甕（2090）、中国産白磁壺（3006）、平清水産磁器碗（5027）、肥前産磁器皿（5034）、瀬戸美濃産灰釉皿（5065）、美濃産志野皿（5075）、大堀相馬産？土瓶（5106）、在地産陶器擂鉢（5130、5131、5132、5136、5141、5143）、土人形（5145）、焜炉？（5146）、砥石（7005、7009）、挽臼（7025）、鉄滓（8035、8036）が出土した。また底面から桶の側板と底板（6011）がばらばらの状態で出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から19世紀以降の井戸と推測される。

16ＳＥ12（第40図、写真図版14）

〔位置〕ⅢＧ５ａ、５ｂ、６ａ、６ｂに位置する。

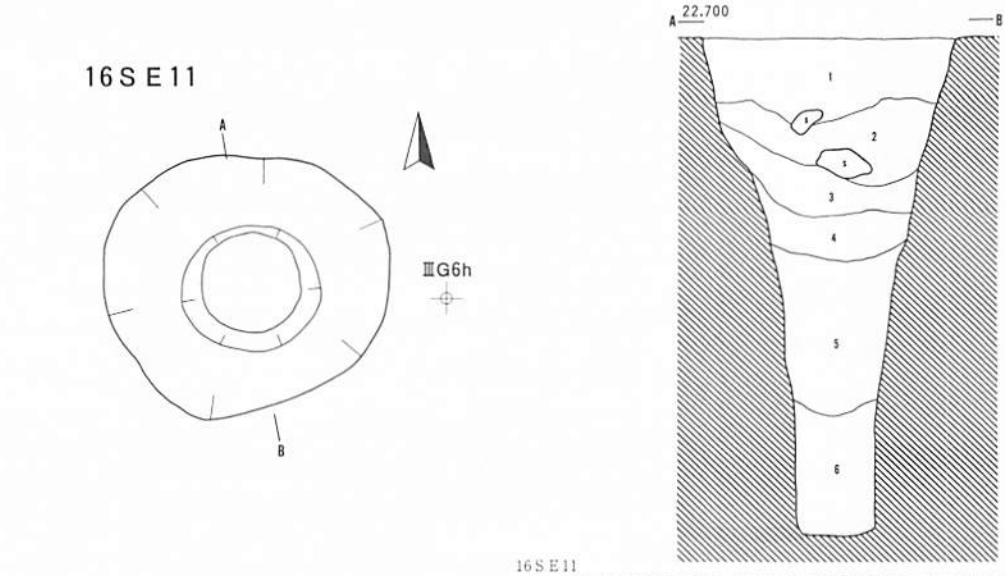
〔重複〕16ＳＥ14、16ＳＤ15と重複するが本井戸が新しい。また16ＳＤ１と重複するが本井戸が古い。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは203cmである。底面の標高は20.54mである。

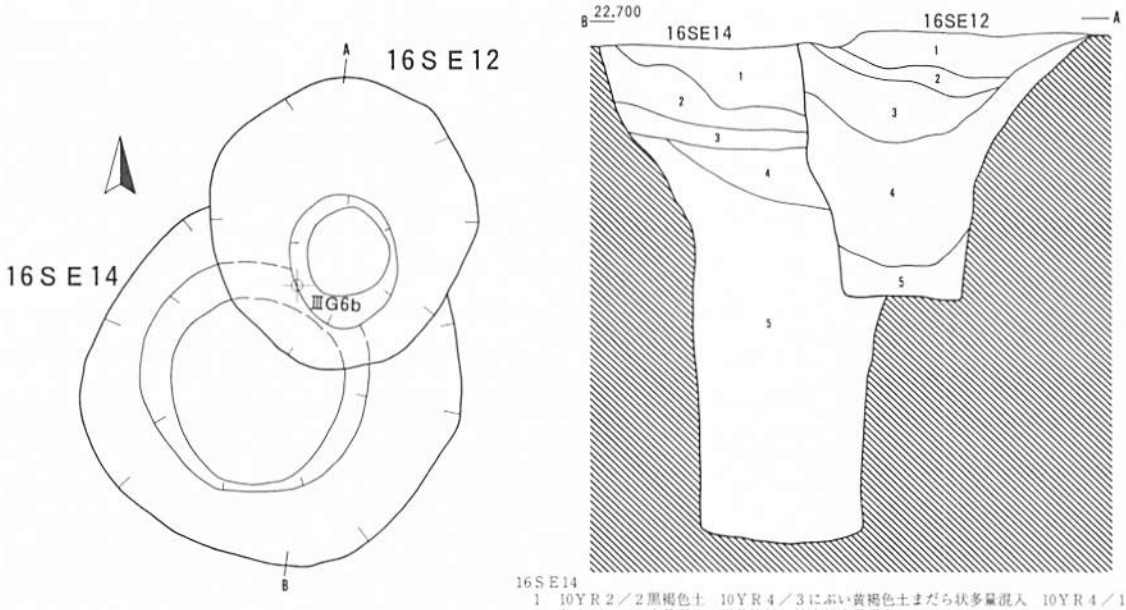
〔埋土〕５層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1012、1081、1089）、13～14世紀のロクロかわらけ（1124、1125）、須恵器系陶器片口鉢（2084）、中国産白磁碗（3004）が出土した。

〔性格〕井戸である。



16ＳＥ11
1　10ＹＲ４／２灰黄褐色土　10ＹＲ８／３淡黄橙色ロームブロック・礫多量混入　炭化物粒少量混入　陶器片出土　人為堆積と思われる
2　10ＹＲ３／２黒褐色土　炭化物粒少量混入
3　10ＹＲ２／１黒褐色土　10ＹＲ４／２灰黄褐色土ブロック状に少量混入
4　10ＹＲ３／２黒褐色土　10ＹＲ８／３淡黄橙色ロームブロック状に多量混入　人為堆積と思われる
5　10Ｙ８／３淡黄橙色ローム　10ＹＲ３／２黒褐色土まだら状に少量混入
6　10ＹＲ３／２黒褐色土



16ＳＥ14
1　10ＹＲ２／２黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状多量混入　10ＹＲ４／１褐灰色土ブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10ＹＲ３／２黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状少量混入　2.5Ｙ８／４淡黄色ロームブロック少量混入　炭化物粒少量混入
3　10ＹＲ３／１黒褐色土　５Ｙ７／２灰白色土ロームブロック多量混入　炭化物粒・酸化鉄分少量混入　人為堆積と思われる
4　10ＹＲ４／１褐灰色土　炭化物粒・焼土粒少量混入
5　10ＹＲ３／１黒褐色土　５Ｙ７／２灰白色土ロームブロック多量混入　10ＧＹ５／１緑灰色土砂質少量混入　炭化物粒少量混入　人為堆積と思われる

16ＳＥ12
1　10ＹＲ２／２黒褐色土　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10ＹＲ２／２黒褐色土　2.5Ｙ８／４淡黄色砂質ブロック状に多量混入　10ＧＹ５／１緑灰色土砂質少量混入　炭化物粒少量混入　人為堆積と思われる
3　10ＹＲ２／２黒褐色土　10ＹＲ４／２灰黄褐色土まだら状に多量混入
4　10ＹＲ３／１黒褐色土　10Ｙ６／１灰色土ブロック少量混入
5　10ＧＹ７／１明緑灰色土　10ＹＲ３／１黒褐色土まだら状に少量混入

0　2m

第40図　井戸⑤

〔年代〕出土遺物から13世紀後半～14世紀前半の井戸と推測される。

16ＳＥ13（第41図、写真図版14）

〔位置〕ⅢＧ４ｈ、４ｉ、５ｈ、５ｉに位置する。

〔重複〕16ＳＤ12と重複するが本井戸が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは265cmである。底面の標高は19.07mである。

〔埋土〕４層に分けられる。４層は人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から古代の須恵器大甕（67）、渥美産甕（2048、2062、2064）、在地産陶器片口鉢（2092、2093、2094）、在地産陶器壺（2095）、在地産陶器甕（2101）、中国産白磁壺（3026、3037）、刀？（8030）が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から13世紀後半～14世紀前半の井戸と推測される。

16ＳＥ14（第40図、写真図版15）

〔位置〕ⅢＧ５ａ、５ｂ、６ａ、６ｂに位置する。

〔重複〕16ＳＤ15と重複するが本井戸が新しい。また16ＳＥ12、16ＳＤ１と重複するが本井戸が古い。

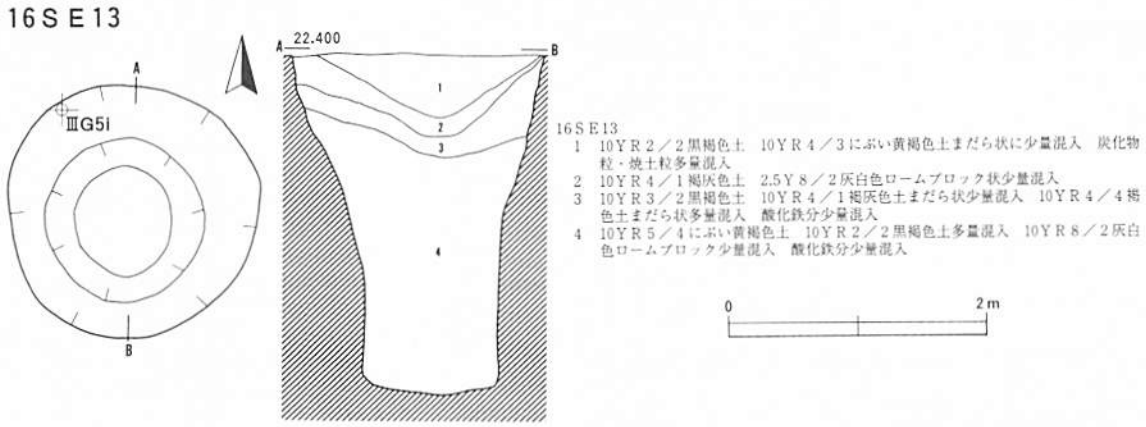
〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは393cmである。底面の標高は18.59mである。

〔埋土〕５層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から土師器長胴甕（26）、手づくねかわらけ（1020、1057、1065、1067、1091）、ロクロかわらけ（1107）常滑産甕（2016、2017）、渥美産甕（2066）、須恵器系陶器片口鉢（2083）が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から12世紀後半の可能性が高いが、12世紀後半に属する溝16ＳＤ12を切っていることから13世紀以降に属する可能性もある。



第41図　井戸⑥

4　土坑

古代以降の土坑は51基、縄文時代の土坑は９基検出した。16ＳＫ２、15、45、46、47、49、51、54は欠番である。これは主に、検出時に土坑として遺構名を付したものが調査の結果、柱穴になったため生じたものである。また16ＳＫ101～109は縄文土器を包含する基本層序Ⅳ層を除去した後、Ⅴ層上面で検出された遺構である。検出面から縄文時代に属する可能性が高い土坑である。形状の不整なものが多く人為的な遺構ではない可能性も含む遺構である。

16ＳＫ１（第42図、写真図版15）

〔位置〕ⅡＧ８ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＢ59、16ＳＢ61とプランが重複するが直接切り合う部分が無く、前後関係を判断できない。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは48cmである。底面の標高は21.93ｍである。

〔埋土〕２層に分けられる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕16ＳＢ59のプラン中央にちょうど納まり、建物に伴う可能性がある。

〔年代〕不明である。

16ＳＫ２　欠番

16ＳＫ３（第42図、写真図版15）

〔位置〕ⅡＧ９ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＢ28、16ＳＢ34と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは18cmである。底面の標高は21.99ｍである。内部に桶の底板、側板がばらばらの状態で出土した。

〔埋土〕１層に分けられる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕桶の底板、側板が出土した。（図示なし）

〔性格〕桶を埋設した肥溜めである。

〔年代〕近代以降のものである。

16ＳＫ４（第42図、写真図版15）

〔位置〕ⅡＧ８ｅに位置する。

〔重複〕16ＳＢ29、16ＳＢ30、16ＳＢ31とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係を判断できない。

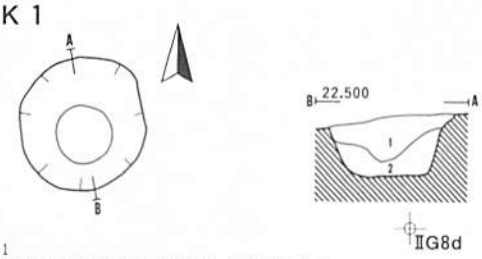
〔形態〕開口部は不整な円形である。確認面からの深さは38cmである。底面の標高は21.98mである。

〔埋土〕３層に分けられる。おそらく自然堆積と推測できる。

〔出土遺物〕埋土中からロクロかわらけ（1115）、肥前磁器皿（5040）、在地産陶器土瓶（5107）、が出土した。

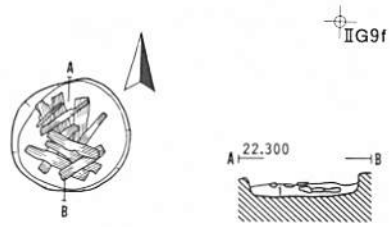
〔性格〕不明である。

16ＳＫ１



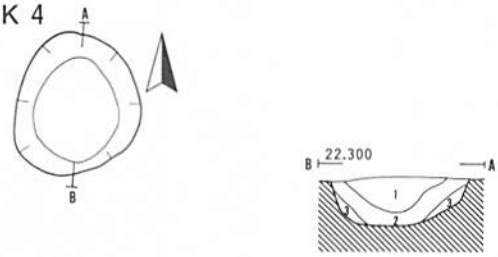
16ＳＫ１
1　10ＹＲ２／３黒褐色土　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10ＹＲ２／３黒褐色土　10ＹＲ５／３にぶい黄褐色土まだら状に多量混入

16ＳＫ３



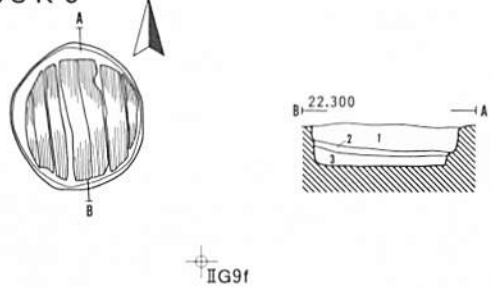
16ＳＫ３
1　10ＹＲ２／３黒褐色土　10ＹＲ５／４にぶい黄褐色土まだら状に多量混入

16ＳＫ４



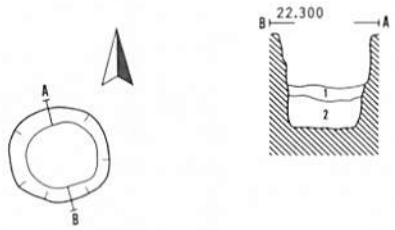
16ＳＫ４
1　10ＹＲ５／６黄褐色土　10ＹＲ８／２灰白色ブロック少量混入　炭化物粒少量混入
2　10ＹＲ２／３黒褐色土

16ＳＫ５



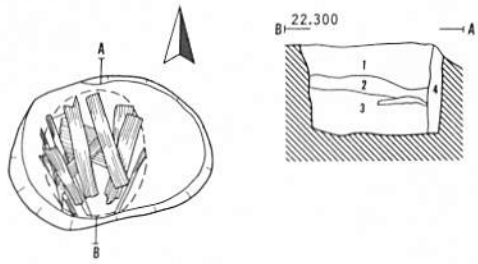
16ＳＫ５
1　10ＹＲ２／３黒褐色土　10ＹＲ４／４褐色土まだら状に多量混入　2.5Ｙ８／２灰白色土ブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　桶底板
3　10ＹＲ３／２黒褐色土　7.5ＹＲ４／６褐色土まだら状に多量混入　2.5Ｙ８／３淡黄色土ブロック少量混入　焼土粒少量混入

16ＳＫ６



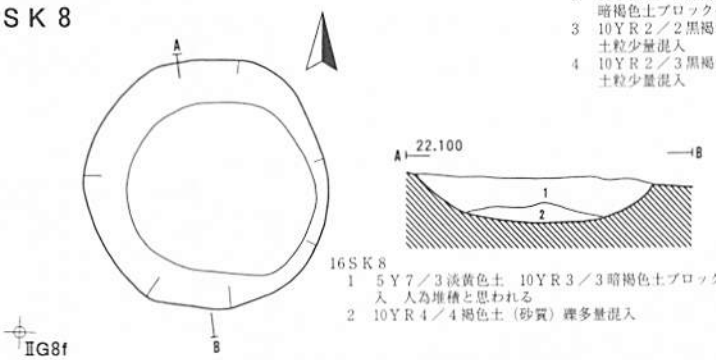
16ＳＫ６
1　10ＹＲ３／２黒褐色土　2.5Ｙ７／３淡黄色土ブロック少量混入　10ＹＲ５／４にぶい黄褐色土まだら状に少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入　木片少量混入
2　2.5Ｙ３／２黒褐色土　５Ｙ７／２灰白色土ブロック少量混入　チョウ木状木片・種子少量混入

16ＳＫ７



16ＳＫ７
1　10ＹＲ３／４暗褐色土　10ＹＲ５／６黄褐色土まだら状少量混入　2.5Ｙ８／２灰白色土ブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10ＹＲ２／３黒褐色土　2.5Ｙ８／２灰白色土ブロック少量混入　7.5ＹＲ３／３暗褐色土ブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
3　10ＹＲ２／２黒褐色土　2.5Ｙ８／２灰白色土ブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
4　10ＹＲ２／３黒褐色土　2.5Ｙ８／２灰白色土ブロック多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入

16ＳＫ８



16ＳＫ８
1　５Ｙ７／３淡黄色土　10ＹＲ３／３暗褐色土ブロック少量混入　焼土粒少量混入　人為堆積と思われる
2　10ＹＲ４／４褐色土（砂質）礫多量混入

0　2m

第42図　土坑①

〔年代〕出土遺物から19世紀以降のものと推測される。

16ＳＫ５（第42図、写真図版16）

〔位置〕ⅡＧ９ｅに位置する。

〔重複〕16ＳＢ33と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは34cmである。底面の標高は21.85mである。内部から桶の底板が敷かれた状態で出土した。

〔埋土〕３層に分けられる。２層は土ではなく桶の底板である。３層は桶を埋設する前に置いた土である。

〔出土遺物〕桶の底板、側板（図示なし）が出土した。底板の樹種はヒノキ属の一種、側板はヒノキ科類似種である。また在地産陶器甕（5123）、在地産陶器擂鉢（5127）が出土した。

〔性格〕桶を埋設した肥溜めである。

〔年代〕近代以降のものである。

16ＳＫ６（第42図、写真図版16）

〔位置〕ⅢＧ０ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＢ21とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係を判断できない。

〔形態〕開口部は円形である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは74cmである。底面の標高は21.47mである。

〔埋土〕２層に分けられる。人為堆積と推測できる。有機質分が多く木片、種子が混入する埋土である。

〔出土遺物〕埋土中から土師器長胴甕（23）、漆器皿（6006）、ちゅう木（図化不能）が出土した。ちゅう木の樹種はヒノキ属の一種である。

〔性格〕トイレ状土坑である。

〔年代〕12世紀の土坑と推測される。

16ＳＫ７（第42図、写真図版16）

〔位置〕ⅡＧ８ｅ、８ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＢ32と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕開口部は楕円形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは70cmである。底面の標高は21.46mである。内部から桶の底板、側板がばらばらの状態で出土した。

〔埋土〕４層に分けられる。４層は桶を埋設した際の裏込めの土である。

〔出土遺物〕埋土から桶の底板、側板、箍（図示なし）が出土した。側板の樹種はスギ、箍はイネ科タケ亜科の一種である。また砥石（7010）、寛永通寶（背文、8021）、近代以降と思われる漆器碗（図示なし）が出土した。

〔性格〕桶を埋設した肥溜めである。

〔年代〕近代以降のものである。

16ＳＫ８（第42図、写真図版16）

〔位置〕ⅡＧ８ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＢ29、16ＳＢ31と重複するが、本土坑が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿型である。確認面からの深さは35cmである。底面の標高は21.57mである。

〔埋土〕２層に分けられる。２層は砂質で水が溜まって生成されたと推測される。１層は人為堆積と推測できる。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕近世以降の可能性が高い。

16ＳＫ９（第43図、写真図版17）

〔位置〕ⅡＧ９ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ32と重複するが本土坑が古い。

〔形態〕開口部は楕円形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは55cmである。底面の標高は21.42mである。

〔埋土〕３層に分けられる。２、３層は有機質分の多い土で種子が混じる。

〔出土遺物〕埋土から手づくねかわらけ（1086）、白磁水注（3018）、ちゅう木（図示不能）が出土した。ちゅう木の樹種はネズコ類似種である。

〔性格〕トイレ状土坑である。

〔年代〕12世紀後半のものと推測される。

16ＳＫ10（第43図、写真図版17）

〔位置〕ⅡＧ８ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ29と重複するが、前後関係を把握できなかった。

〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は東側の一部分が深い。確認面からの深さは52cmである。底面の標高は21.28mである。

〔埋土〕３層に分けられる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＫ11＝19ＳＫ10（第43図、写真図版17）

〔位置〕ⅡＧ８ｉ、９ｉに位置する。

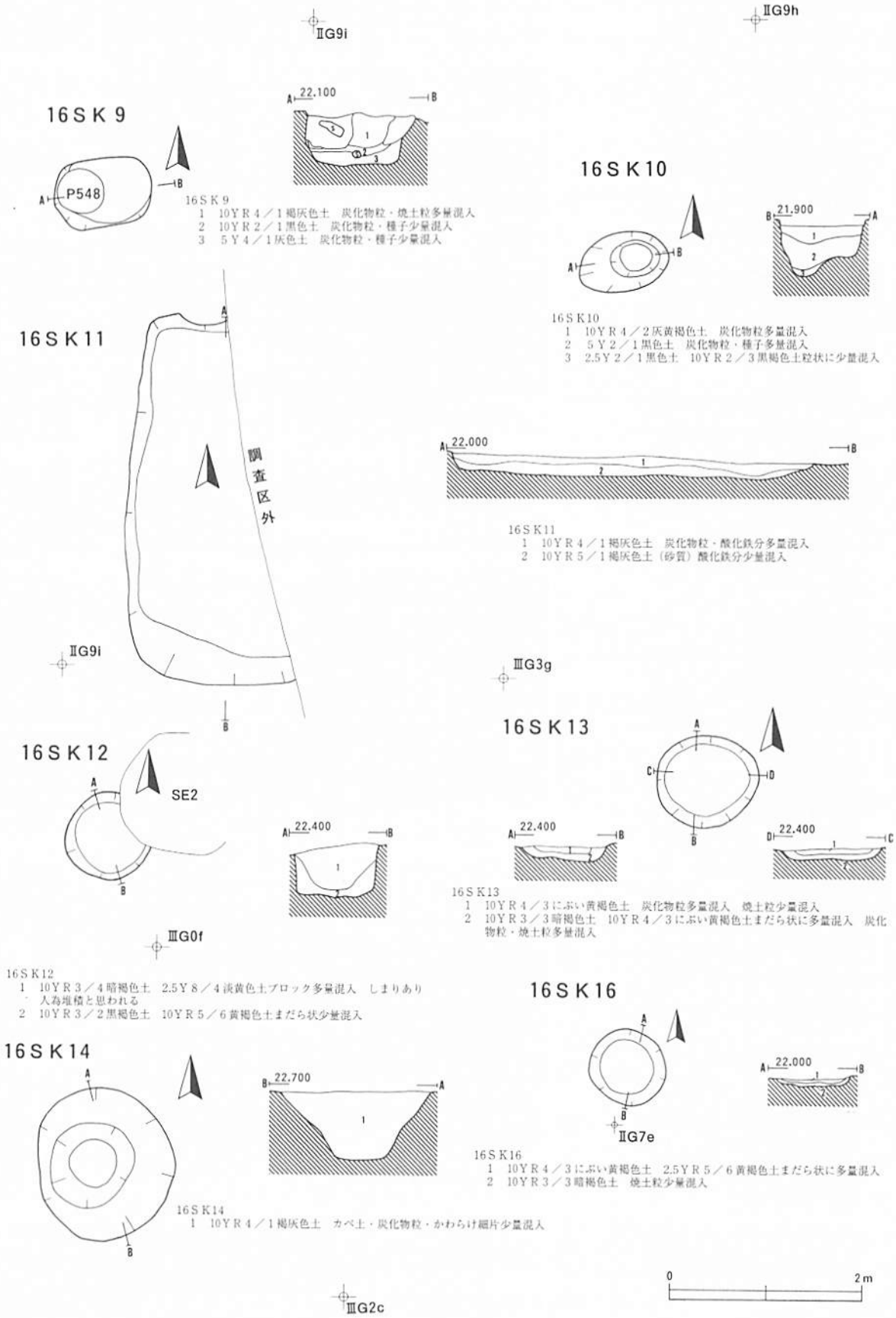
〔重複〕16ＳＢ67のプラン内に位置するが前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は隅丸の長方形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは22cmである。底面の標高は21.69mである。

〔埋土〕２層に分けられる。自然堆積人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土から大堀相馬産陶器碗（5093、5094）が出土した。

〔性格〕プランが16ＳＢ67の内部にちょうど納まり、建物に伴う施設の可能性がある。用途は厩のくぼみな


ⅡG9i
ⅡG9h
16SK9
P548
22.100
16SK9
1 10YR4／1褐灰色土 炭化物粒・焼土粒多量混入
2 10YR2／1黒色土 炭化物粒・種子少量混入
3 5Y4／1灰色土 炭化物粒・種子少量混入
16SK10
21.900
16SK10
1 10YR4／2灰黄褐色土 炭化物粒多量混入
2 5Y2／1黒色土 炭化物粒・種子多量混入
3 2.5Y2／1黒色土 10YR2／3黒褐色土粒状に少量混入
16SK11
調査区外
22.000
16SK11
1 10YR4／1褐灰色土 炭化物粒・酸化鉄分多量混入
2 10YR5／1褐灰色土（砂質）酸化鉄分少量混入
ⅡG9i
ⅢG3g
16SK12
SE2
22.400
ⅢG0f
16SK12
1 10YR3／4暗褐色土 2.5Y8／4淡黄色土ブロック多量混入 しまりあり 人為堆積と思われる
2 10YR3／2黒褐色土 10YR5／6黄褐色土まだら状少量混入
16SK13
22.400
22.400
16SK13
1 10YR4／3にぶい黄褐色土 炭化物粒多量混入 焼土粒少量混入
2 10YR3／3暗褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入 炭化物粒・焼土粒多量混入
16SK14
22.700
16SK14
1 10YR4／1褐灰色土 カベ土・炭化物粒・かわらけ細片少量混入
16SK16
22.000
ⅡG7e
16SK16
1 10YR4／3にぶい黄褐色土 2.5YR5／6黄褐色土まだら状に多量混入
2 10YR3／3暗褐色土 焼土粒少量混入
ⅢG2c
0
2m

第43図 土坑②

どが考えられる。

〔年代〕出土遺物から近世以降のものである。

16ＳＫ12（第43図、写真図版17）

〔位置〕ⅢＧ０ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＢ32、16ＳＥ２と重複するが、本土坑が古い。

〔形態〕開口部は楕円形である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは56cmである。底面の標高は21.76mである。

〔埋土〕２層に分けられる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土から土師器内黒坏（19）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀の可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ13（第43図、写真図版18）

〔位置〕ⅢＧ２ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＫ19と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は皿型である。確認面からの深さは13cmである。底面の標高は22.14mである。

〔埋土〕２層に分けられる。１層は炭化物粒が多く混じり、２層は焼土粒が多く混じる。底面は明瞭に焼けていない。

〔出土遺物〕埋土から大堀相馬産仏飯器（5110）、肥前産磁器瓶（5052）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕重複する16ＳＫ19の年代観から、本土坑は近代以降のものである。

16ＳＫ14（第43図、写真図版18）

〔位置〕ⅢＧ２ｂに位置する。

〔重複〕16ＳＩ２と重複するが、本土坑が新しい。また16ＳＤ19と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ26とプランが重複するが切り合う部分が無く前後関係を把握できない。

〔形態〕開口部は楕円形である。底面はほぼ平坦である。断面形は下に行くにつれ径が小さくなる。確認面からの深さは70cmである。底面の標高は21.95mである。

〔埋土〕１層に分けられる。人為堆積と推測される。

〔出土遺物〕埋土からかわらけ細片（図化不能）、焼けた壁土片が少量出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高い。

16ＳＫ15　欠番

16ＳＫ16（第43図、写真図版18）

〔位置〕ⅢＧ７ｄ、７ｅに位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿型である。確認面からの深さは９㎝である。底面の標高は21.82mである。

〔埋土〕２層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土から常滑産三筋壺（2006）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＫ17（第44図、写真図版19）

〔位置〕ⅢＧ３ｂ、４ｂに位置する。

〔重複〕16ＳＤ12と重複するが本土坑が新しい。また16ＳＢ17と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ19とプランが重複するが切り合う部分が無く前後関係を把握できない。

〔形態〕開口部は円形である。底面はほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは52㎝である。底面の標高は22.00mである。

〔埋土〕２層に分けられる。２層は有機質分の多い土で種子、ちゅう木が多量に混入する。

〔出土遺物〕埋土から手づくねかわらけ（1059）、渥美産甕（2074）、ちゅう木（図化不能）が出土した。

〔性格〕トイレ状土坑である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高い。

16ＳＫ18（第44図、写真図版19）

〔位置〕ⅢＧ３ｄ、４ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＤ12と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕開口部は方形である。底面はほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは115㎝である。底面の標高は21.18mである。

〔埋土〕３層に分けられる。全体的に人為堆積と推測される。

〔出土遺物〕埋土から古代の須恵器大甕（72）、曲物底？（6004）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ19（第44図、写真図版19）

〔位置〕ⅢＧ２ｇに位置する。

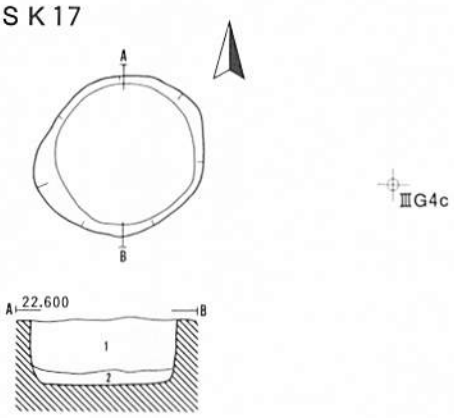
〔重複〕16ＳＫ13と重複するが本土坑が古い。

〔形態〕箱を埋設したものである。開口部は方形である。底面はほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは14㎝である。底面の標高は22.14mである。

〔埋土〕４層に分けられる。４層は箱の板が腐食した層である。

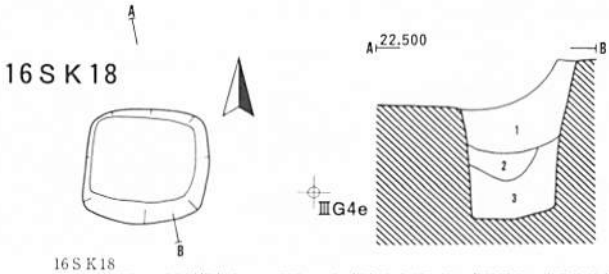
〔出土遺物〕埋設箱の内部から肥前産磁器皿（5035、5043）、砥石（7008）、硯（7019）、鉄滓（8041）が出土

16SK17



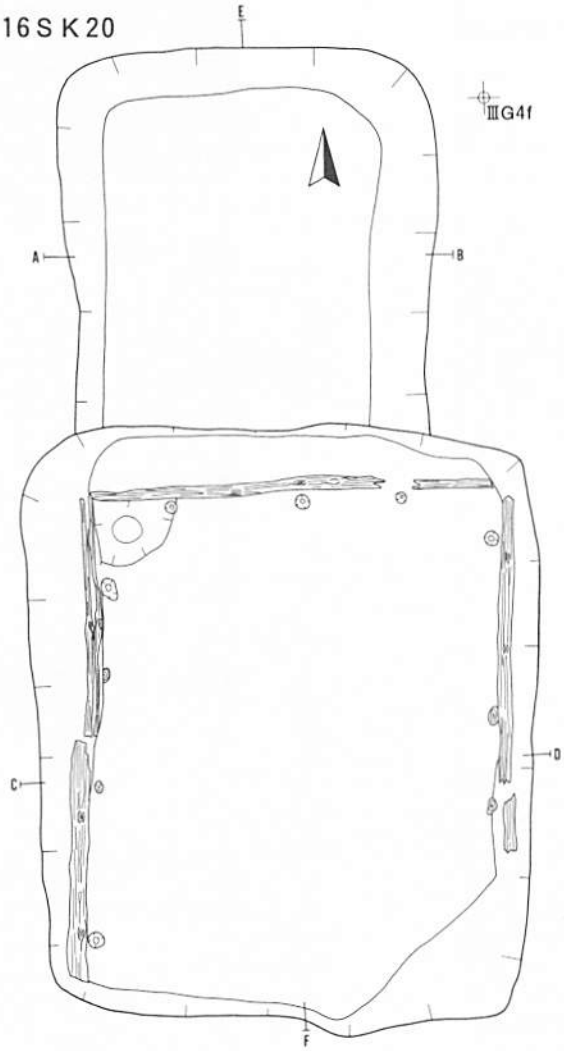
16SK17
1　10YR5／3にぶい黄褐色土　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10YR3／1黒褐色土　種子・チュウ木状木片多量混入　しまりなし

16SK18

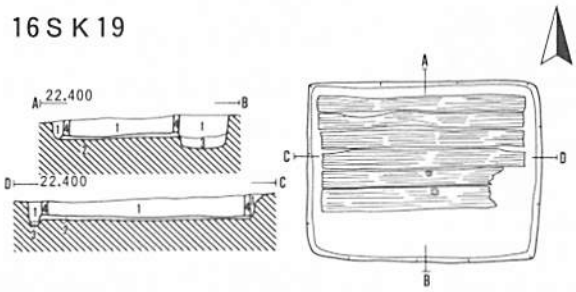


16SK18
1　10YR2／2黒褐色土　7.5YR4／6褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒多量混入
2　10YR3／1黒褐色土　2.5Y7／1灰白色ブロック状に少量混入　炭化物粒少量混入　人為堆積と思われる
3　10YR4／3にぶい黄褐色土
4　10YR2／1黒色土　5Y7／2灰白色土ブロック状に少量混入　人為堆積か？

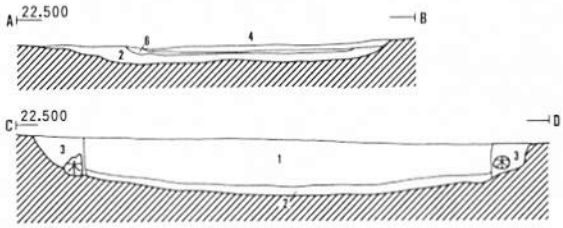
16SK20



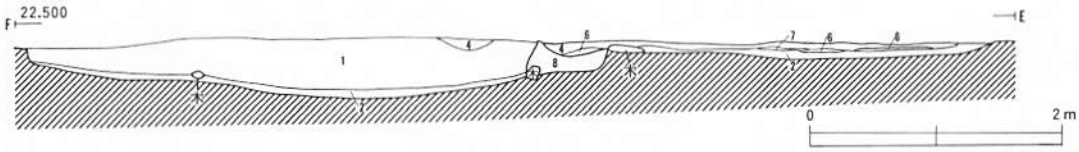
16SK19



16SK19
1　10YR3／3暗褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　焼土粒少量混入
2　10YR3／2黒褐色土　炭化物粒少量混入　箱底板の腐食によってできた層
3　10YR2／2黒褐色土　炭化物粒少量混入
4　10YR3／2黒褐色土　箱側板の腐食によってできた層



16SK20
1　10YR3／2黒褐色土　10YR4／4褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10YR2／2黒褐色土
3　10YR3／2黒褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入
4　2.5Y4／4オリーブ褐色土（砂質）
5　10YR3／2黒褐色土　10YR4／6褐色土まだら状に多量混入
6　10YR3／2黒褐色土　10YR7／1灰白色土ブロック少量混入
7　10YR2／2黒褐色土　10YR4／6褐色土（砂質）多量混入
8　10YR2／2黒褐色土　10YR5／3にぶい黄褐色土まだら状に少量混入



第44図　土坑③

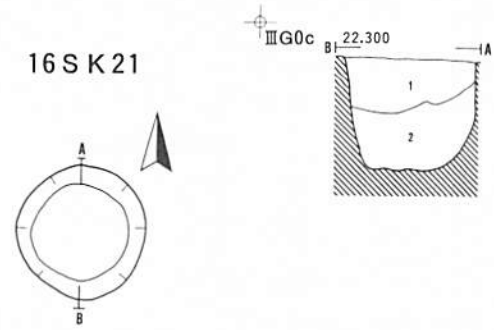
した。
〔性格〕礎石民家内に設置された収納用の施設と推測される。
〔年代〕近世後半～近代に属すると推測される。

16ＳＫ20（第44図、写真図版19、20）
〔位置〕ⅢＧ２ｅ、３ｅ、４ｅに位置する。
〔重複〕16ＳＫ25、16ＳＫ26、16ＳＢ21と重複するが本土坑が新しい。
〔形態〕南側の深い方形のプランと北側の浅い方形プランからなる。南側の方形プランの壁際には土留めがある。
〔埋土〕８層に分けられる。３層は土留めの裏込めの土である。
〔出土遺物〕埋土から古代の須恵器大甕（75）、ロクロかわらけ（1108）、常滑産広口壺（2011）、常滑産甕（2029）、渥美産甕（2055）、中国産白磁碗（3007）、肥前産磁器碗（5020）、肥前産磁器皿（5047）、肥前産青磁花生（5054）、肥前産青磁瓶（5055）、大堀相馬産陶器碗（5095）、瀬戸美濃産陶器香炉（5104）、在地産陶器鉢（5112）、在地産陶器行平（5115）、在地産陶器切立（5118）、18世紀の常滑産甕（5126）、素焼きの焜炉（5148）、砥石（7002、7003、7007、7016、）、鉈（8031）、釘（8034）が出土した。
〔性格〕礎石民家に伴う厩のくぼみである。上屋は痕跡が残っていないが礎石建物と推測される。
〔年代〕近世後半～近代に属すると推測される。

16ＳＫ21（第45図、写真図版20）
〔位置〕ⅡＧ９ｂに位置する。
〔重複〕16ＳＢ52とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。
〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは86cm、底面の標高は21.35mである。
〔埋土〕２層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕埋土からロクロかわらけ（1102）、不明木製品（6001）が出土した。また２層中にちゅう木状の木片があった。
〔性格〕トイレ状土坑の可能性がある。
〔年代〕12世紀に属する可能性が高い。

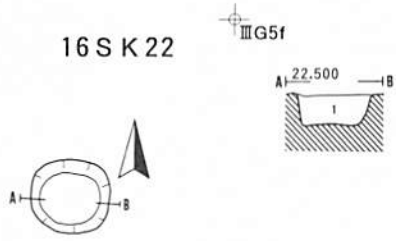
16ＳＫ22（第45図、写真図版20）
〔位置〕ⅢＧ４ｅに位置する。
〔重複〕16ＳＤ13と重複するが本土坑が新しい。
〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは21cm、底面の標高は22.18mである。
〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕埋土から素焼きの焜炉（5147）が出土した。
〔性格〕不明である。
〔年代〕近代以降と推測される。

16SK21



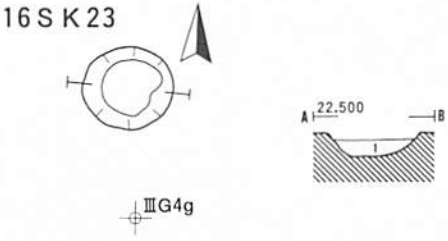
16SK21
1　10YR3／4暗褐色土　2.5YR7／4浅黄色土ブロック少量混入　炭化物粒多量混入
2　10YR2／2黒褐色土　炭化物粒少量混入　しまりなし

16SK22



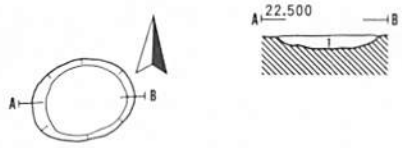
16SK22
1　10YR3／2黒褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入

16SK23



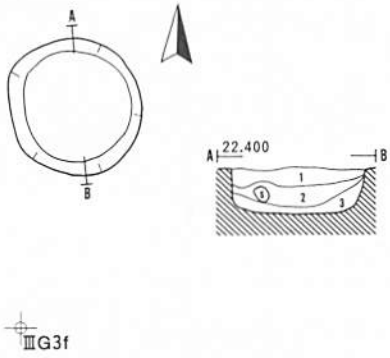
16SK23
1　10YR3／2黒褐色土　炭化物粒　10YR4／4褐色土ブロック多量混入

16SK24



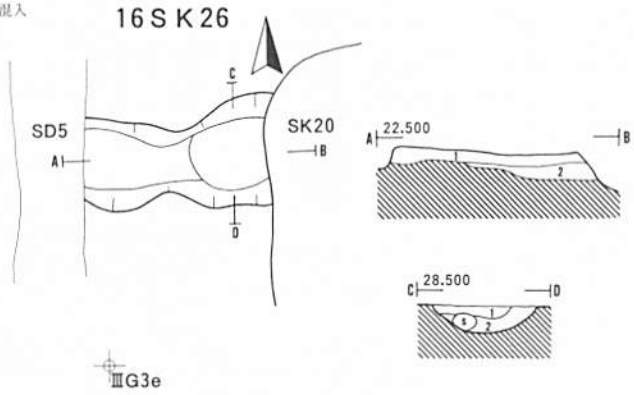
16SK24
1　10YR3／2黒褐色土　10YR5／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒少量混入

16SK25



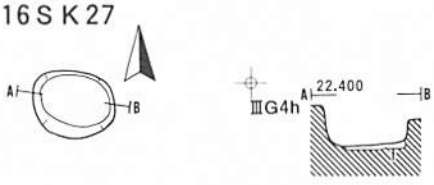
16SK25
1　10YR4／3にぶい黄褐色土　2.5YR8／3淡黄色土ブロック多量混入　炭化物粒少量混入　しまりあり　人為堆積と思われる
2　10YR3／3暗褐色土　2.5YR8／3淡黄色土ブロック少量混入　炭化物粒少量混入
3　10YR2／2黒褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土ブロック少量混入　チュウ木状木片少量混入

16SK26



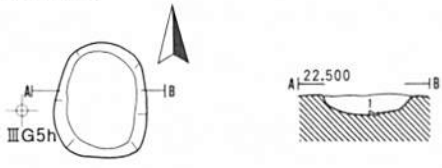
16SK26
1　10YR5／3にぶい黄褐色土　焼けた壁土？炭化物粒少量混入
2　10YR2／1褐灰色土　焼けた壁土・炭化物粒少量混入　底面壁面は焼けていない

16SK27



16SK27
1　10YR2／3黒褐色土　7.5YR3／4暗褐色土まだら状に少量混入

16SK28



16SK28
1　10YR3／3暗褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒・かわらけ片少量混入

0　2m

第45図　土坑④

16ＳＫ23（第45図、写真図版20）

〔位置〕ⅢＧ４ｆ、４ｇに位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは18cm、底面の標高は22.18mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＫ24（第45図、写真図版21）

〔位置〕ⅢＧ４ｇ、４ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＤ12と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは10cm、底面の標高は22.30mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＫ25（第45図、写真図版21）

〔位置〕ⅢＧ３ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＫ20と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ21とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは36cm、底面の標高は21.92mである。

〔埋土〕３層に分けられる。３層は有機質分の多い土で、ちゅう木状の木片を含む。

〔出土遺物〕３層からちゅう木状（図化不能）の木片が出土した。

〔性格〕トイレ状土坑である。

〔年代〕12世紀のものと推測される。

16ＳＫ26（第45図、写真図版21）

〔位置〕ⅢＧ３ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＫ20、16ＳＤ５と重複するが本土坑が古い。

〔形態〕東と西側を切られており平面形は不明である。確認面からの深さは20cm、底面の標高は28.18mである。

〔埋土〕２層に分けられる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

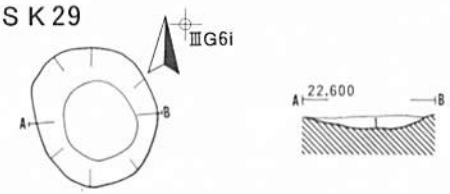
16ＳＫ27（第45図、写真図版21）
〔位置〕ⅢＧ３ｇに位置する。
〔重複〕なし。
〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは36cm、底面の標高は21.94mである。
〔埋土〕調査のミスで埋土の大部分を断面を残さず掘り下げてしまった。残った埋土は１層に分けられる。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＫ28（第45図、写真図版22）
〔位置〕ⅢＧ４ｈ、５ｈに位置する。
〔重複〕なし。
〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは15cm、底面の標高は22.26mである。
〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕手づくねかわらけ（1010、1011、1055）、渥美産甕（2054、2072）が出土した。
〔性格〕不明である。
〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ29（第46図、写真図版22）
〔位置〕ⅢＧ５ｈに位置する。
〔重複〕16ＳＢ65と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ64とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。
〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは10cm、底面の標高は22.38mである。
〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

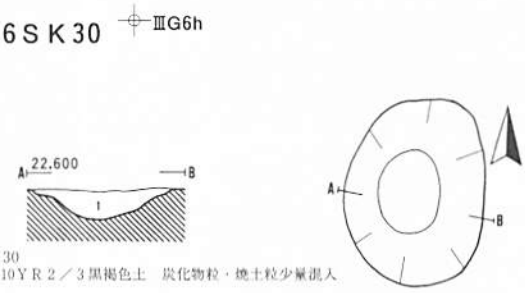
16ＳＫ30（第46図、写真図版22）
〔位置〕ⅢＧ５ｈに位置する。
〔重複〕16ＳＫ39と重複するが本土坑が新しい。また16ＳＢ63と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ64、16ＳＢ65とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

16SK29



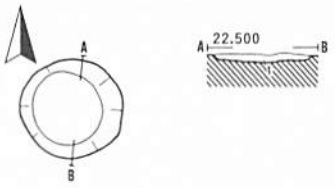
16SK29
1　10YR4／3にぶい黄褐色土　10YR3／3暗褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入

16SK30



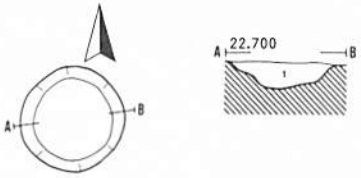
16SK30
1　10YR2／3黒褐色土　炭化物粒・焼土粒少量混入

16SK31



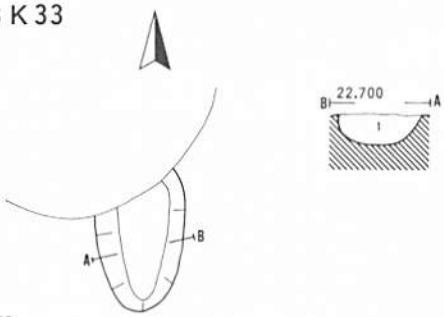
16SK31
1　10YR2／3黒褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒多量混入　焼土粒少量混入　かわらけ片多量混入

16SK32



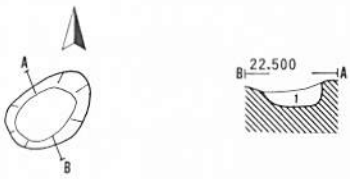
16SK32
1　10YR3／2黒褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10YR2／3黒褐色土（柱穴P1054の堀り方）

16SK33



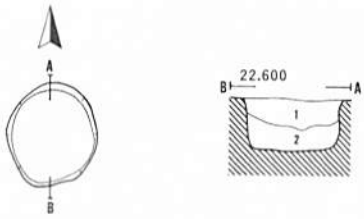
16SK33
1　10YR3／2黒褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入

16SK34



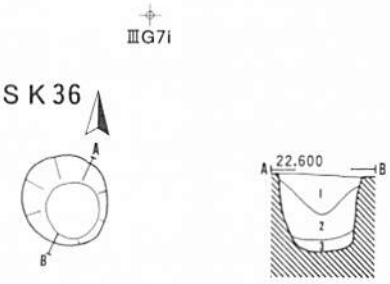
16SK34
1　10YR3／2黒褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒多量混入　焼土粒少量混入

16SK35



16SK35
1　10YR4／3にぶい黄褐色土　炭化物粒少量混入
2　10YR3／2黒褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に少量混入　炭化物粒少量混入

16SK36



16SK36
1　10YR3／4暗褐色土　炭化物粒・焼土粒微量混入
2　10YR4／3にぶい黄褐色土　2.5Y8／3淡黄色土ブロック少量混入
3　10YR2／2黒褐色土

0　2m

第46図　土坑⑤

〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは22cm、底面の標高は22.22mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から瀬戸美濃産志野皿（5071）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕出土遺物から近世以降の土坑と推測される。

16ＳＫ31（第46図、写真図版22）

〔位置〕ⅢＧ５ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ64、16ＳＫ39と重複するが本土坑が新しい。また16ＳＢ65とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは６cm、底面の標高は22.40mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1061、1070、1083）常滑産甕（2027）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ32（第46図、写真図版23）

〔位置〕ⅢＧ５ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ７、16ＳＢ８と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ５とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは18cm、底面の標高は22.44mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から中国産青白磁皿（3033）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ33（第46図、写真図版23）

〔位置〕ⅢＧ５ｆ、５ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ19、16ＳＥ７と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ５、16ＳＢ７、16ＳＢ８とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは24cm、底面の標高は22.38mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1015、1030、1074）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ34（第46図、写真図版23）

〔位置〕ⅢＧ５ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＤ16と重複するが前後関係は明らかではない。また16ＳＢ64とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは14cm、底面の標高は22.32mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1006、1028）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ35（第46図、写真図版23）

〔位置〕ⅢＧ６ｉに位置する。

〔重複〕16ＳＢ62、16ＳＢ63とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は楕円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは40cm、底面の標高は22.06mである。

〔埋土〕２層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から古代の須恵器大甕（40）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＫ36（第46図、写真図版24）

〔位置〕ⅡＧ６ｉに位置する。

〔重複〕16ＳＢ63と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ62とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは60cm、底面の標高は21.95mである。

〔埋土〕３層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

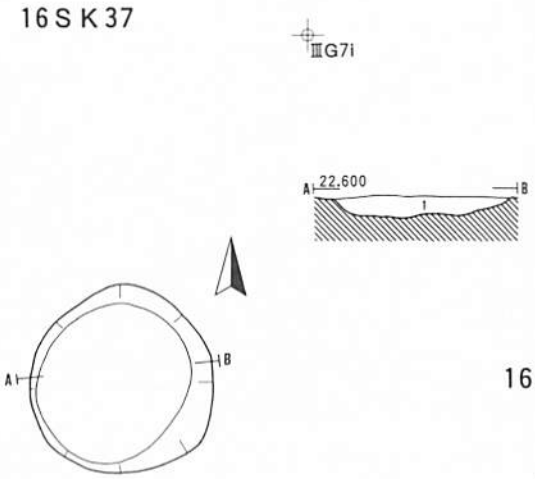
〔年代〕不明である。

16ＳＫ37（第47図、写真図版24）

〔位置〕ⅢＧ６ｈに位置する。

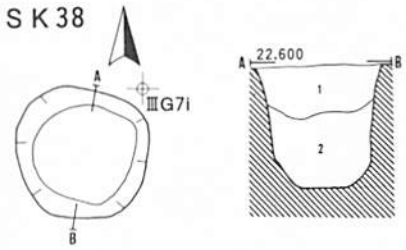
〔重複〕16ＳＫ43と重複するが本土坑が新しい。また16ＳＢ64と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ62、16ＳＢ63とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

16SK37



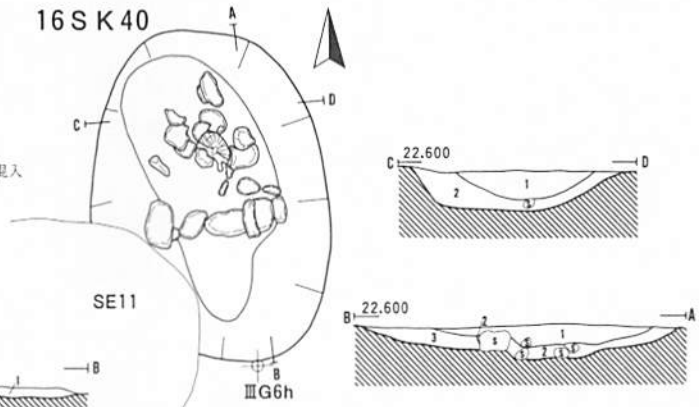
16SK37
1　10YR4／3にぶい黄褐色土　焼土粒多量混入　炭化物粒少量混入

16SK38



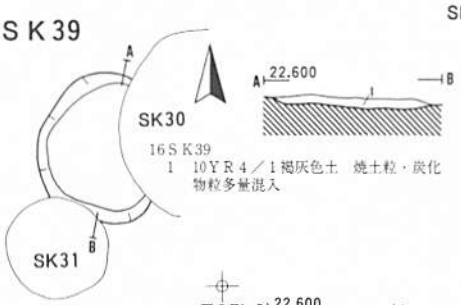
16SK38
1　10YR4／3にぶい黄褐色土　10YR3／2黒褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10YR2／3黒褐色土　種子・炭化物粒少量混入

16SK40



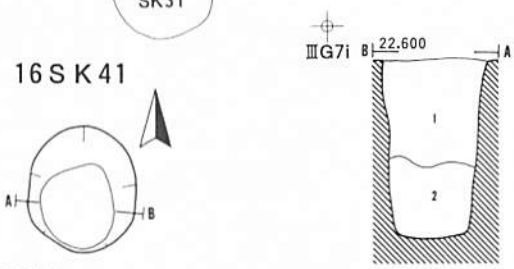
16SK40
1　10YR6／3にぶい黄褐色土　10YR4／1褐灰色土　炭化物粒少量混入
2　10YR4／1褐灰色土　炭化物粒少量混入　礫を含む
3　10YR8／8黄橙色ローム　10YR3／2黒褐色土ブロック状に多量混入
人為堆積と思われる

16SK39



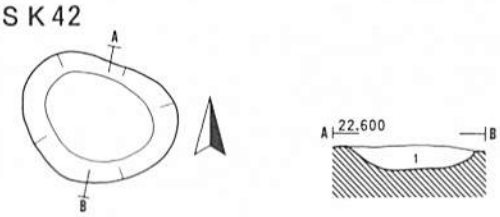
16SK39
1　10YR4／1褐灰色土　焼土粒・炭化物粒多量混入

16SK41



16SK41
1　10YR4／3にぶい黄褐色土　10YR3／2黒褐色土まだら状に少量混入　炭化物粒少量混入
2　10YR3／1黒褐色土　種子多量混入

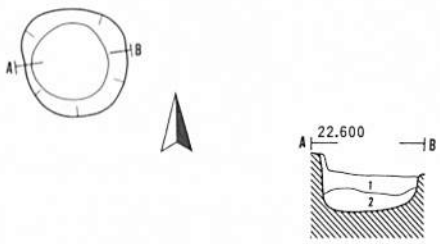
16SK42



ⅢG5f

16SK42
1　10YR3／3暗褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入

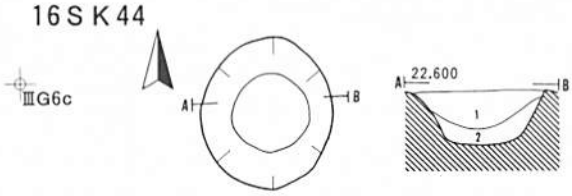
16SK43



ⅢG6i

16SK43
1　10YR3／2黒褐色土まだら状に少量混入　炭化物粒・焼土粒多量混入
2　10YR3／3暗褐色土　2.5YR7／4浅黄色土砂質ブロック状多量混入
人為堆積と思われる

16SK44



16SK44
1　10YR2／2黒褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　2.5Y8／4淡黄色ロームブロック少量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入
2　10YR2／3黒褐色土　炭化物粒・焼土粒少量混入

0　2m

第47図　土坑⑥

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは18cm、底面の標高は22.38mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から古代の須恵器大甕（52）、手づくねかわらけ（1080）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＫ38（第47図、写真図版24）

〔位置〕ⅢＧ６ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ62とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは98cm、底面の標高は21.60mである。

〔埋土〕2層に分けられる。2層は有機質分の多い土で種子が混じる。

〔出土遺物〕埋土から手づくねかわらけ（1047）、須恵器系陶器甕（2088）、不明木製品（6002）が出土した。

〔性格〕トイレ状土坑である。

〔年代〕12世紀後半に属すると思われる。

16ＳＫ39（第47図、写真図版24）

〔位置〕ⅢＧ５ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＫ30、16ＳＫ31と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ64、16ＳＢ65とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは８cm、底面の標高は22.38mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1002）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＫ40（第47図、写真図版25）

〔位置〕ⅢＧ６ｇ、６ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＥ11と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ６、16ＳＫ48と重複するが本土坑が新しい。また16ＳＢ４、16ＳＢ64とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。また16ＳＤ16と重複するが同時存在と推測される。

〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは32cm、底面の標高は22.16mである。

〔埋土〕3層に分けられる。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕埋土中から渥美産甕（2073）、中国産青磁碗（3039）、挽臼（7021）、鋳型？（8043）が出土した。

〔性格〕溝である16ＳＤ16と一体のもので、水貯め、洗い場といった用途が推測される。
〔年代〕近世以降のものである。

16ＳＫ41（第47図、写真図版25）
〔位置〕ⅢＧ６ｈに位置する。
〔重複〕16ＳＢ62とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。
〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは142cm、底面の標高は21.12mである。
〔埋土〕２層に分けられる。２層は有機質分の多い土で種子が混じる。
〔出土遺物〕埋土から手づくねかわらけ（1023、1029、1073）、渥美産陶器甕（2077）が出土した。
〔性格〕トイレ状土坑である。
〔年代〕12世紀後半に属すると思われる。

16ＳＫ42（第47図、写真図版25）
〔位置〕ⅢＧ５ｅに位置する。
〔重複〕16ＳＤ17と重複するが本土坑が新しい。
〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは18cm、底面の標高は22.30mである。
〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1088）、常滑産壺（2005）が出土した。
〔性格〕不明である。
〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ43（第47図、写真図版25）
〔位置〕ⅢＧ６ｈに位置する。
〔重複〕16ＳＫ37と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ62、16ＳＢ63、16ＳＢ64とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。
〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは46cm、底面の標高は22.26mである。
〔埋土〕２層に分けられる。２層は人為堆積と思われる。
〔出土遺物〕埋土から手づくねかわらけ（1036）が出土した。
〔性格〕不明である。
〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ44（第47図、写真図版26）
〔位置〕ⅢＧ５ｃ、６ｃに位置する。
〔重複〕16ＳＢ13、16ＳＢ15とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。
〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは44cm、底面の標高は22.11mであ

る。
〔埋土〕２層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＫ45　欠番

16ＳＫ46　欠番

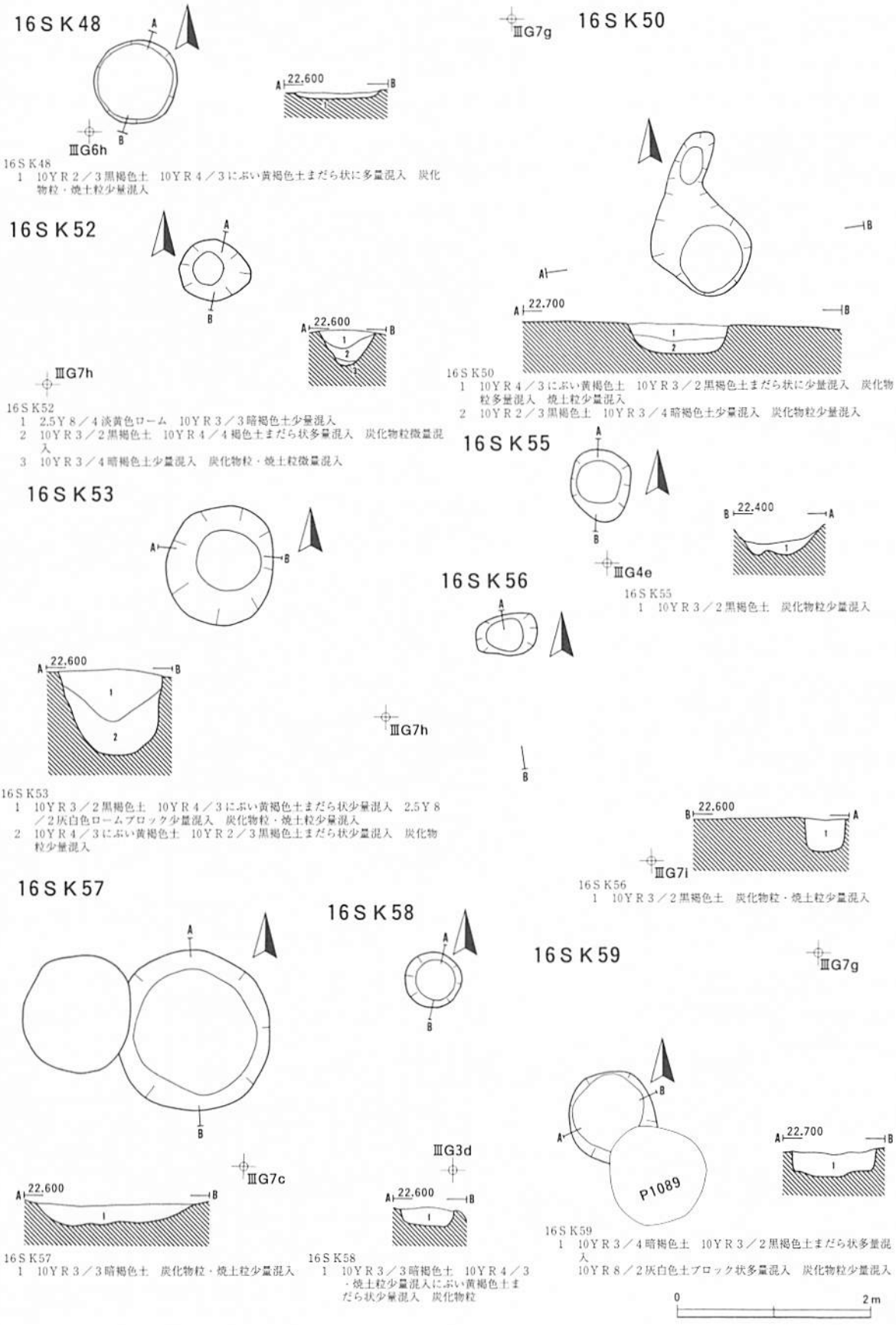
16ＳＫ47　欠番

16ＳＫ48（第48図、写真図版26）
〔位置〕ⅢＧ６ｈに位置する。
〔重複〕16ＳＫ40と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ４、16ＳＢ64とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。
〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは16cm、底面の標高は22.44mである。
〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＫ49　欠番

16ＳＫ50（第48図、写真図版26）
〔位置〕ⅢＧ６ｇに位置する。
〔重複〕16ＳＢ６の柱穴Ｐ1090と重複するが本土坑が古い。また16ＳＢ３、16ＳＢ４、16ＳＢ７、16ＳＢ８とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。
〔形態〕開口部は不整な形状である。断面形は皿状である。確認面からの深さは28cm、底面の標高は22.30mである。
〔埋土〕２層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1014、1062）が出土した。
〔性格〕不明である。
〔年代〕12世紀後半の建物16ＳＢ６よりも古いことと、出土遺物から12世紀後半に属すると推測される。

16ＳＫ51　欠番


16SK48
ⅢG6h
22.600
16SK48
1 10YR2／3黒褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入 炭化物粒・焼土粒少量混入
16SK52
ⅢG7h
22.600
16SK52
1 2.5Y8／4淡黄色ローム 10YR3／3暗褐色土少量混入
2 10YR3／2黒褐色土 10YR4／4褐色土まだら状多量混入 炭化物粒微量混入
3 10YR3／4暗褐色土少量混入 炭化物粒・焼土粒微量混入
16SK53
22.600
16SK53
1 10YR3／2黒褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状少量混入 2.5Y8／2灰白色ロームブロック少量混入 炭化物粒・焼土粒少量混入
2 10YR4／3にぶい黄褐色土 10YR2／3黒褐色土まだら状少量混入 炭化物粒少量混入
16SK57
ⅢG7c
22.600
16SK57
1 10YR3／3暗褐色土 炭化物粒・焼土粒少量混入
16SK58
ⅢG3d
22.600
16SK58
1 10YR3／3暗褐色土 10YR4／3・焼土粒少量混入にぶい黄褐色土まだら状少量混入 炭化物粒
ⅢG7g
16SK50
22.700
16SK50
1 10YR4／3にぶい黄褐色土 10YR3／2黒褐色土まだら状に少量混入 炭化物粒多量混入 焼土粒少量混入
2 10YR2／3黒褐色土 10YR3／4暗褐色土少量混入 炭化物粒少量混入
16SK55
ⅢG4e
22.400
16SK55
1 10YR3／2黒褐色土 炭化物粒少量混入
16SK56
ⅢG7h
ⅢG7i
22.600
16SK56
1 10YR3／2黒褐色土 炭化物粒・焼土粒少量混入
16SK59
ⅢG7g
P1089
22.700
16SK59
1 10YR3／4暗褐色土 10YR3／2黒褐色土まだら状多量混入
10YR8／2灰白色土ブロック状多量混入 炭化物粒少量混入
0
2m

第48図 土坑⑦

16ＳＫ52（第48図、写真図版26）

〔位置〕ⅢＧ７ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ２、16ＳＢ６とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は深い皿状である。確認面からの深さは36cm、底面の標高は22.40mである。

〔埋土〕３層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1048）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ53（第48図、写真図版26）

〔位置〕ⅢＧ７ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＫ57と重複するが本土坑が新しい。また16ＳＫ56と接するが前後関係を判断できなかった。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は深い皿状である。確認面からの深さは88cm、底面の標高は21.64mである。

〔埋土〕２層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から石製の硯（7020）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＫ54　欠番

16ＳＫ55（第48図、写真図版27）

〔位置〕ⅢＧ４ｄ、４ｅに位置する。

〔重複〕16ＳＤ５と重複するが本土坑が古い。また16ＳＤ12と重複するが前後関係を明らかにできなかった。

〔形態〕開口部は楕円形である。断面形は不整な形状である。確認面からの深さは15cm、底面の標高は21.98mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＫ56（第48図、写真図版27）

〔位置〕ⅢＧ７ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＫ53と接するが前後関係を判断できなかった。

〔形態〕開口部は楕円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは38cm、底面の標高は22.18mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＫ57（第48図、写真図版27）
〔位置〕ⅢＧ７ｈに位置する。
〔重複〕16ＳＫ53と重複するが本土坑が古い。
〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは20cm、底面の標高は22.32mである。
〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＫ58（第49図、写真図版27）
〔位置〕ⅢＧ３ｃに位置する。
〔重複〕16ＳＤ11重複するが本土坑が古い。
〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは20cm、底面の標高は22.32mである。
〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕不明である。

16ＳＫ59（第50図、写真図版28）
〔位置〕ⅢＧ６ｆに位置する。
〔重複〕16ＳＢ６の柱穴Ｐ1089、16ＳＢ７の柱穴Ｐ1068と重複するが本土坑が古い。
〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは25cm、底面の標高は22.30mである。
〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。
〔出土遺物〕なし。
〔性格〕不明である。
〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ101（第49図、写真図版28）
〔位置〕ⅢＧ３ｈに位置する。
〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁は斜めに立つ。確認面からの深さは32cm、底面の標高は21.90mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から縄文時代後期後葉～晩期初頭の深鉢（9016）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ102（第49図、写真図版28）

〔位置〕ⅢＧ２ｈに位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は楕円形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは５cm、底面の標高は21.82mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ103（第49図、写真図版28）

〔位置〕ⅢＧ５ｃに位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は楕円形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは10cm、底面の標高は22.12mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。人為的な遺構でない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ104（第49図、写真図版29）

〔位置〕ⅢＧ６ｅに位置する。

〔重複〕なし。

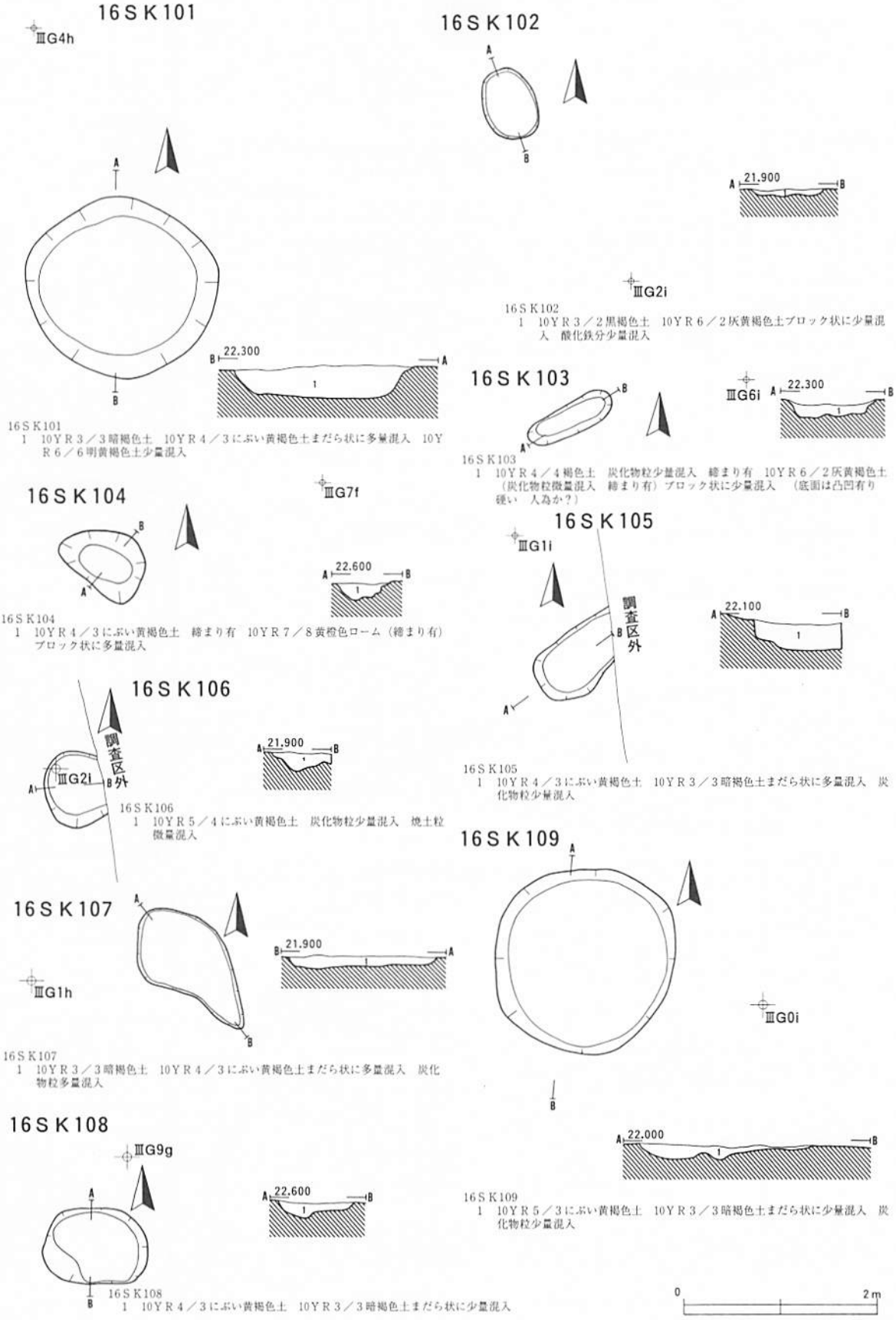
〔形態〕開口部は不整形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは16cm、底面の標高は22.34mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。人為的な遺構ではない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。


16SK101
ⅢG4h
22.300
16SK101
1　10YR3／3暗褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　10YR6／6明黄褐色土少量混入
16SK102
21.900
ⅢG2i
16SK102
1　10YR3／2黒褐色土　10YR6／2灰黄褐色土ブロック状に少量混入　酸化鉄分少量混入
16SK103
ⅢG6i
22.300
16SK103
1　10YR4／4褐色土　炭化物粒少量混入　締まり有　10YR6／2灰黄褐色土（炭化物粒微量混入　締まり有）ブロック状に少量混入　（底面は凸凹有り硬い　人為か？）
16SK104
ⅢG7f
22.600
16SK104
1　10YR4／3にぶい黄褐色土　締まり有　10YR7／8黄橙色ローム（締まり有）ブロック状に多量混入
16SK105
ⅢG1i
調査区外
22.100
16SK105
1　10YR4／3にぶい黄褐色土　10YR3／3暗褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒少量混入
16SK106
調査区外
ⅢG2i
21.900
16SK106
1　10YR5／4にぶい黄褐色土　炭化物粒少量混入　焼土粒微量混入
16SK107
ⅢG1h
21.900
16SK107
1　10YR3／3暗褐色土　10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒多量混入
16SK108
ⅢG9g
22.600
16SK108
1　10YR4／3にぶい黄褐色土　10YR3／3暗褐色土まだら状に少量混入
16SK109
ⅢG0i
22.000
16SK109
1　10YR5／3にぶい黄褐色土　10YR3／3暗褐色土まだら状に少量混入　炭化物粒少量混入
0
2m

第49図　土坑⑧

16ＳＫ105（第49図、写真図版29）

〔位置〕ⅢＧ０ｉに位置する。東側は16次調査区に延びる

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は楕円形と思われる。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは26cm、底面の標高は21.72mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ106（第49図、写真図版29）

〔位置〕ⅢＧ１ｈ、１ｉ、２ｈ、２ｉに位置する。東側は16次調査区に延びる。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は不整な円形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは20cm、底面の標高は21.65mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。人為的な遺構ではない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ107（第49図、写真図版29）

〔位置〕ⅢＧ０ｈ、０ｉに位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は不整な形状である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは８cm、底面の標高は21.72mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。人為的な遺構ではない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ108（第49図、写真図版30）

〔位置〕ⅡＧ８ｆ、８ｅに位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は楕円形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは12cm、底面の標高は21.80mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。人為的な遺構ではない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16ＳＫ109（第49図、写真図版30）

〔位置〕ⅡＧ９ｈ、ⅢＧ０ｈに位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は円形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは15cm、底面の標高は21.82mである。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から縄文時代後期後葉～晩期初頭の深鉢（9009、9012）、注口土器（9079）が出土した。

〔性格〕不明である。人為的な遺構ではない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

5　溝

溝は21条検出した。16ＳＤ12、16ＳＤ13は19次調査区にのびるが、19次調査次でもそれぞれに遺構の名称を付している。16ＳＤ12＝19ＳＤ３、16ＳＤ13＝19ＳＤ２である。ここでは16次調査区で検出した部分だけについて報告する。

16ＳＤ１（第50図、写真図版30）

〔位置〕ⅢＧ５ｂ、５ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＥ10、16ＳＥ12、16ＳＥ14、16ＳＤ15と重複するが本溝が新しい。また16ＳＢ13、16ＳＢ15とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。溝の中に礫を入れている。排水目的の暗渠である。水の流れる方向は検出した分では不明瞭である。

〔埋土〕１層に分けられる。礫が詰められている。

〔出土遺物〕詰める礫として、挽臼（7021、7022）、板碑（7026）が使用されていた。

〔性格〕排水のための暗渠である。

〔年代〕詰めこまれた挽臼は近世のものである。よって本溝は近世以降の構築である。

16ＳＤ２（第50図、写真図版30）

〔位置〕ⅡＧ８ｃ、８ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＤ３、16ＳＤ４、16ＳＢ52、16ＳＢ56、16ＳＢ58と重複するが本溝が新しい。また16ＳＢ55、16ＳＢ61とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。調査区外西側にさらに延びていく。溝の傾斜は著しくないが、西から東に水が流れる。

〔埋土〕２層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。

〔出土遺物〕埋土から古代の須恵器大甕（54）、手づくねかわらけ（1005）、ロクロかわらけ（1097）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＤ３（第50図、写真図版31）

〔位置〕ⅡＧ８ｄ、９ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＢ54、柱列４と重複するが本溝が新しい。また16ＳＤ２、16ＳＢ55と重複するが本溝が古い。また16ＳＢ53、16ＳＢ47とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。また16ＳＢ46と重複するが前後関係をはっきり把握できなかった。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。長さ約8.5mで完結する。溝の傾斜方向は明瞭ではない。

〔埋土〕１層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。

〔出土遺物〕埋土から鍛冶滓（8038）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＤ４（第50図、写真図版31）

〔位置〕ⅡＧ９ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＢ47、16ＳＤ２と重複するが本溝が古い。また16ＳＢ61と重複するが本溝が新しい。また16ＳＢ49、16ＳＢ50、16ＳＢ52、16ＳＢ53、16ＳＢ56とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。北側は完結し、南側は16ＳＤ２に切られるがその南に続かないので長さ約３ｍと推測される。溝の傾斜方向は明瞭ではない。

〔埋土〕１層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＤ５（第55図、写真図版31、32）

〔位置〕ⅡＧ８ｅ、９ｅ、０ｄ、０ｅ、１ｄ、１ｅ、２ｄ、３ｄ、４ｄ、５ｅ、６ｅに位置する。

〔重複〕16ＳＤ12、16ＳＤ13、16ＳＫ26、16ＳＫ55、16ＳＢ６、16ＳＢ28、16ＳＢ29、16ＳＢ30と重複するが本溝が新しい。また16ＳＢ61と重複するが本溝が新しい。

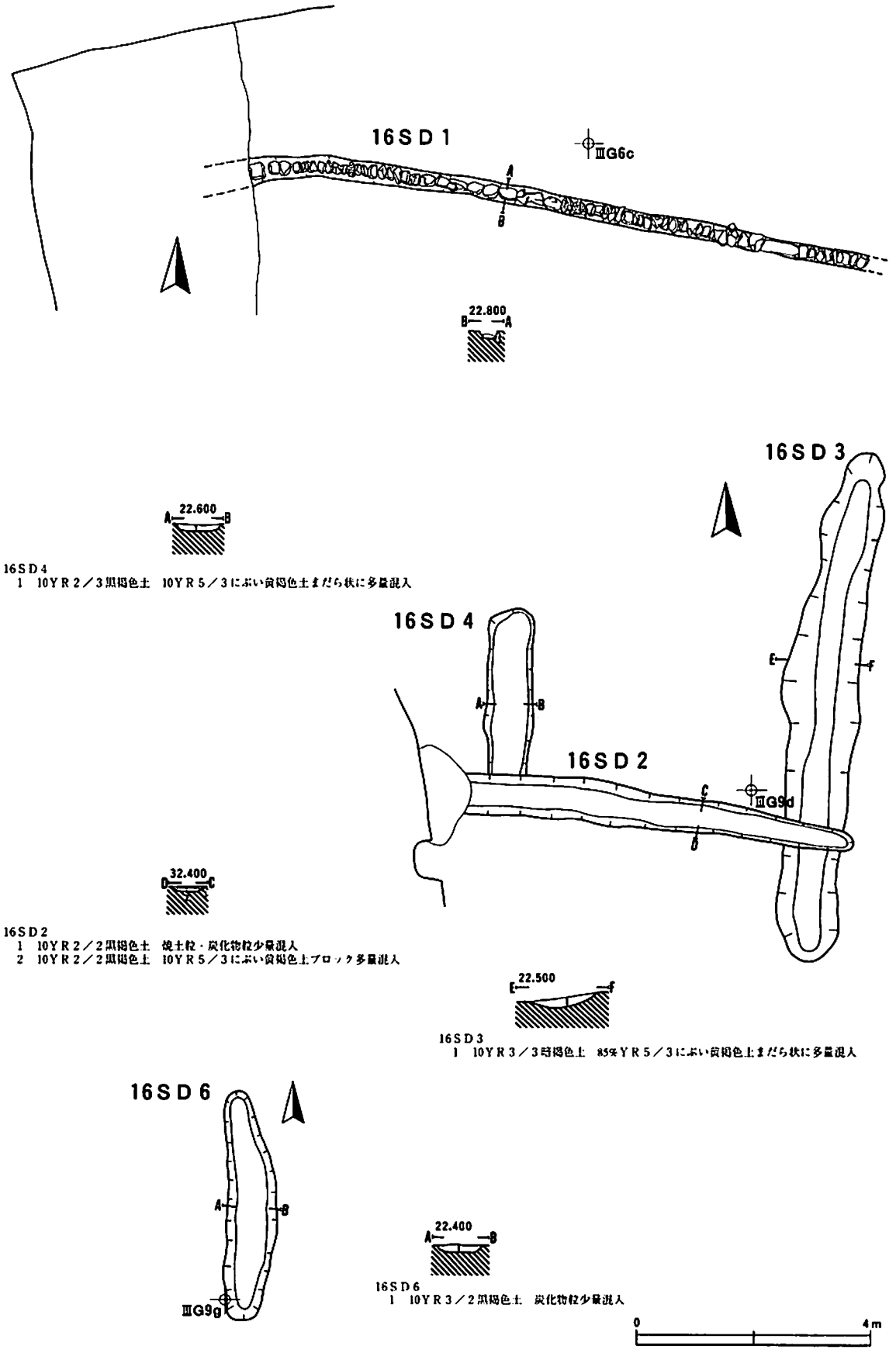
〔形態〕平面形は検出部分の真中あたりが西側に凸型に出っ張る。北側はなお調査区外に続く。溝の傾斜方向は北から南に水が流れる。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から肥前磁器皿（5037）、在地産陶器行平（5132）、砥石（7001）、寛永通寶（8018）が出土した。

〔性格〕近世～近代の屋敷の区画、排水の用途の溝と推測される。

〔年代〕出土遺物と近世掘立柱民家との重複関係から、19世紀～近代にかけての年代と推測される。


16SD1
ⅢG6c
A
B
22.800
B
A
C
16SD3
22.600
A
B
16SD4
1　10YR2／3黒褐色土　10YR5／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入
16SD4
A
B
16SD2
C
D
ⅢG9d
E
F
32.400
D
C
16SD2
1　10YR2／2黒褐色土　焼土粒・炭化物粒少量混入
2　10YR2／2黒褐色土　10YR5／3にぶい黄褐色土ブロック多量混入
22.500
E
F
16SD3
1　10YR3／3暗褐色土　85%YR5／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入
16SD6
A
B
ⅢG9g
22.400
A
B
16SD6
1　10YR3／2黒褐色土　炭化物粒少量混入
0
4m

第50図　溝①

16ＳＤ６（第50図、写真図版32）

〔位置〕ⅡＧ９ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ28、16ＳＢ30、16ＳＢ36と重複するが本溝が古い。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。長さ3.9mで完結する。溝の傾斜方向は明瞭ではない。

〔埋土〕１層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。

〔出土遺物〕埋土から渥美産甕（2046）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕埋土の質感から12世紀の可能性が高い。しかし確証はない。

16ＳＤ７（第51図、写真図版32）

〔位置〕ⅡＧ７ｈ、８ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ28、16ＳＢ67と重複するが本溝が新しい。

〔形態〕平面形はＬ字形である。南端が膨隆し調査区外に続く。溝の傾斜方向は西から東、そして南側に水が流れるようになっている。

〔埋土〕１層に分けられる。

〔出土遺物〕埋土から平瓦（4004）肥前産磁器皿（5039）、肥前（唐津）産陶器皿（5082）、大堀相馬産陶器碗（5089）、肥前産陶胎染付香炉（5101）、在地産陶器おはぐろ壺（5116）、在地産陶器擂鉢（5128、5133）が出土した。

〔性格〕排水のための溝と推測される。

〔年代〕建物の切り合い関係と出土遺物から19世紀代の溝と推測される。

16ＳＤ８（第51図、写真図版32）

〔位置〕ⅢＧ１ｂ、１ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＢ38、16ＳＢ49と重複するが本溝が古い。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。溝の中に礫を並べた暗渠である。西側では溝の掘方が失われ、礫の並びだけが検出された部分もある。溝の傾斜方向は検出された分では明瞭でない。

〔埋土〕１層に分けられる。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕排水用の暗渠である。

〔年代〕近世～近代の溝である。

16ＳＤ９（第51図、写真図版33）

〔位置〕ⅡＧ７ｇに位置する。

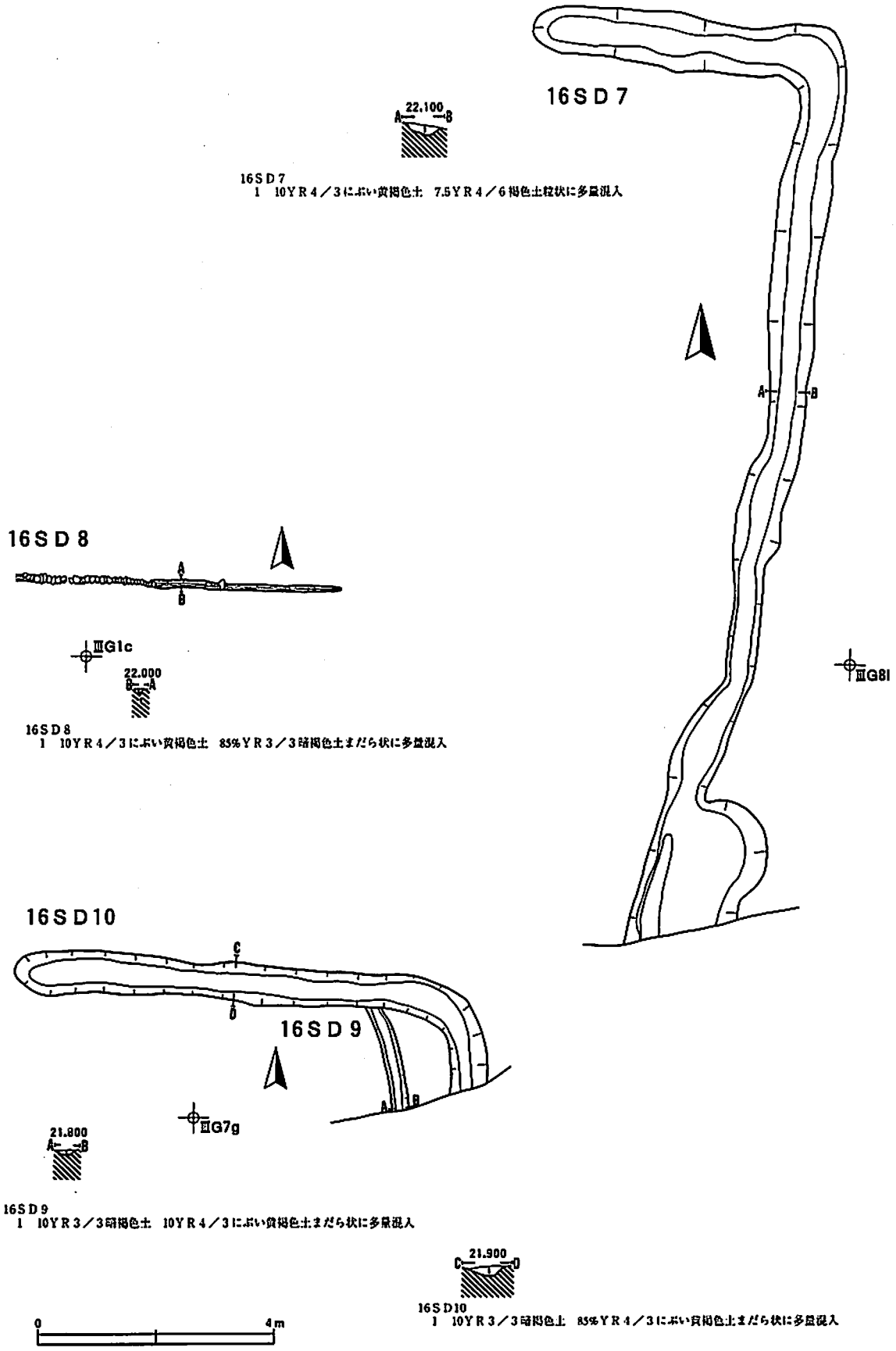
〔重複〕16ＳＤ10と重複するが本溝が古い。

〔形態〕部分的な検出であるが、検出された分では平面形はほぼ真直ぐである。溝の傾斜方向は明瞭でない。

〔埋土〕１層に分けられる。明瞭な流水の痕跡はない。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。


16SD7
22.100
A
B
16SD7
1 10YR4／3にぶい黄褐色土 7.5YR4／6褐色土粒状に多量混入
A
B
ⅢG8l
16SD8
A
B
ⅢG1c
22.000
B
A
16SD8
1 10YR4／3にぶい黄褐色土 85%YR3／3暗褐色土まだら状に多量混入
16SD10
C
D
16SD9
A
B
ⅢG7g
21.800
A
B
16SD9
1 10YR3／3暗褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入
21.900
C
D
16SD10
1 10YR3／3暗褐色土 85%YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入
0
4m

第51図　溝②

〔年代〕不明である。

16ＳＤ10（第51図、写真図版33）

〔位置〕ⅡＧ７ｆ、７ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＤ９と重複するが本溝が新しい。

〔形態〕平面形はＬ字形である。南端は調査区外に続く。溝の傾斜方向は西から東、そして南側に水が流れるようになっている。

〔埋土〕１層に分けられる。

〔出土遺物〕埋土から肥前産磁器Ⅲ（5030）が出土した。

〔性格〕排水のための溝と推測される。

〔年代〕出土遺物から18世紀以降の溝と推測される。

16ＳＤ11（第52図、写真図版33）

〔位置〕ⅢＧ３ｂ、３ｃ、３ｄに位置する。

〔重複〕16ＳＢ19、16ＳＤ５と重複するが本溝が古い。また16ＳＢ26と重複するが前後関係を把握できていない。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。東端は16ＳＤ５に切られるが、本来は東側にまだ延びていたと推測される。溝の傾斜方向は西から東に水が流れる。

〔埋土〕２層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＤ12（第55図、写真図版34）

〔位置〕ⅢＧ３ｂ、４ｂ、３ｃ、４ｃ、３ｄ、４ｄ、４ｅ、４ｆ、４ｇ、４ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＤ17と重複するが本溝が新しい。16ＳＢ17、16ＳＢ19、16ＳＥ13、16ＳＤ５、16ＳＤ13、16ＳＫ17、16ＳＫ18、16ＳＫ24、16ＳＫ55と重複するが本溝が古い。また16ＳＢ18とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

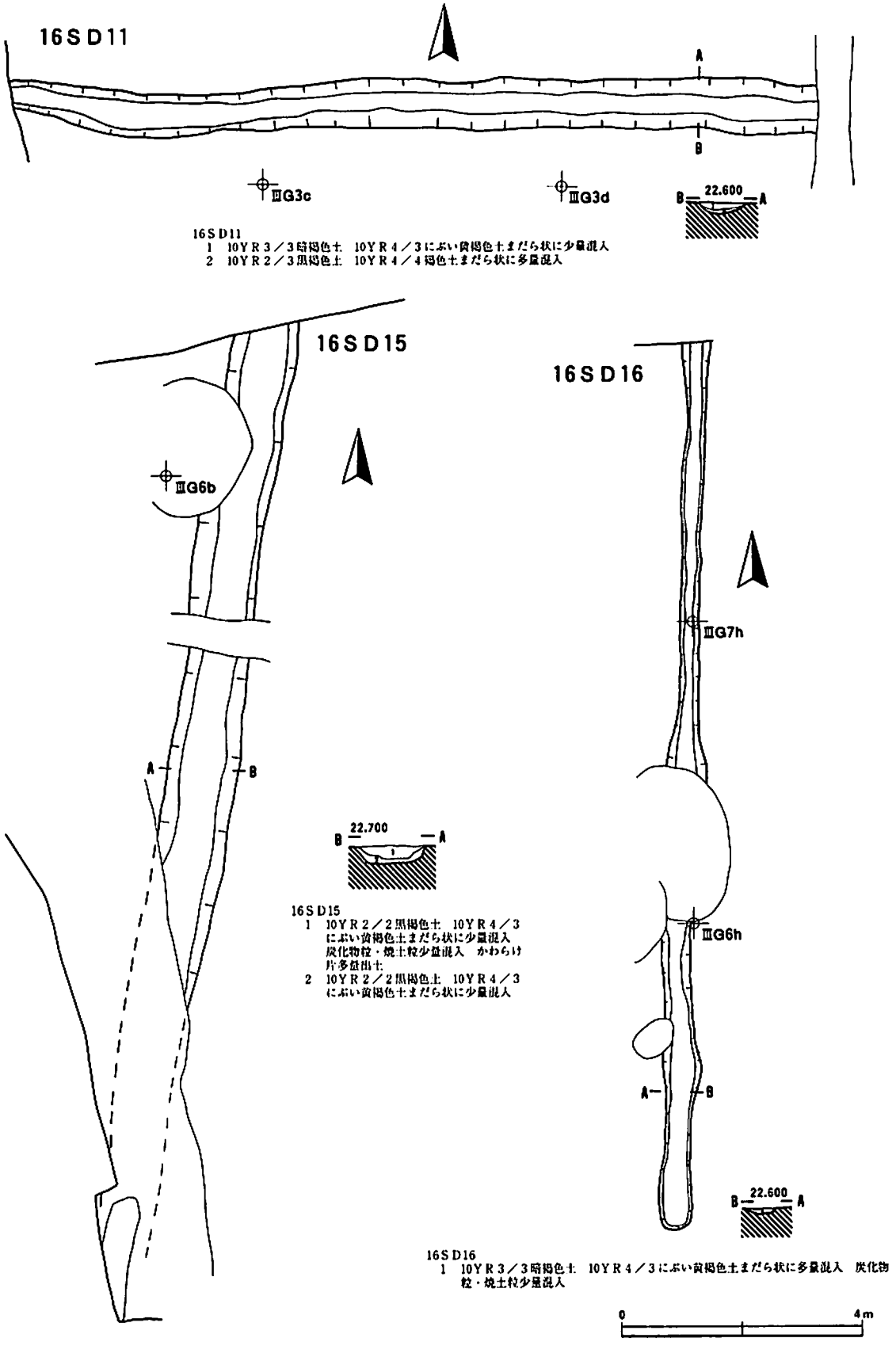
〔形態〕平面形は概ね真直ぐである。東側は19次調査区（19ＳＤ３）に続く。溝の傾斜方向は明瞭ではないが、全体的には西から東に水が流れる。

〔埋土〕２層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から古代の須恵器大甕（35、53、57、64、65、73）、手づくねかわらけ（1090）、ロクロかわらけ（1095、1110）、柱状高台かわらけ（1122）、軒平瓦（4003）、鍛冶滓（8037）、石鏃（9114）が出土した。

〔性格〕12世紀の都市を区画する溝と推測される。道路側溝の16ＳＤ15と接する部分は検出されていないが同時存在と推測される。

〔年代〕12世紀後半の年代と推測される。


16SD11
A
B
ⅢG3c
ⅢG3d
B 22.600 A
16SD11
1 10YR3／3暗褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に少量混入
2 10YR2／3黒褐色土 10YR4／4褐色土まだら状に多量混入
16SD15
ⅢG6b
A
B
B 22.700 A
16SD15
1 10YR2／2黒褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に少量混入 炭化物粒・焼土粒少量混入 かわらけ片多量出土
2 10YR2／2黒褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に少量混入
16SD16
ⅢG7h
ⅢG6h
A
B
B 22.600 A
16SD16
1 10YR3／3暗褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入 炭化物粒・焼土粒少量混入
0
4m

第52図　溝③

16ＳＤ13（第55図、写真図版34）

〔位置〕ⅢＧ５ｂ、５ｃ、４ｄ、５ｄ、４ｅ、５ｅ、４ｆ、４ｇ、４ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＤ12、16ＳＤ15、16ＳＤ17、16ＳＤ20と重複するが本溝が新しい。また16ＳＢ13、16ＳＤ５と重複するが本溝が古い。また16柱列２とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕平面形は概ね真直ぐである。西側は調査区外、東側は19次調査区（19ＳＤ２）に続く。溝の傾斜方向は明瞭ではないが、全体的には西から東に水が流れる。

〔埋土〕２層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から古代の土師器ロクロ内黒坏（15）、須恵器大甕（76、79）、手づくねかわらけ（1012、1034、1051、1075）、ロクロかわらけ（1109）、柱状高台かわらけ（1121）、常滑産陶器甕（2028）、中国産白磁水注（3017）、縄文時代の石皿（9190）が出土した。

〔性格〕不明であるが、区画のための溝の可能性が高い。

〔年代〕12世紀後半の区画溝、道路側溝を切っており、13世紀～14世紀の所属の可能性が高い。

16ＳＤ14（第53図、写真図版35）

〔位置〕ⅢＧ３ｇ、３ｈ、４ｇ、４ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＫ27と重複するが本溝が古い。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。溝の傾斜方向は不明瞭である。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＤ15（第52図、写真図版35）

〔位置〕ⅢＧ５ｂ、６ｂに位置する。

〔重複〕16ＳＢ19、16ＳＥ12、16ＳＥ14、16ＳＤ１、16ＳＤ13と重複するが本溝が古い。

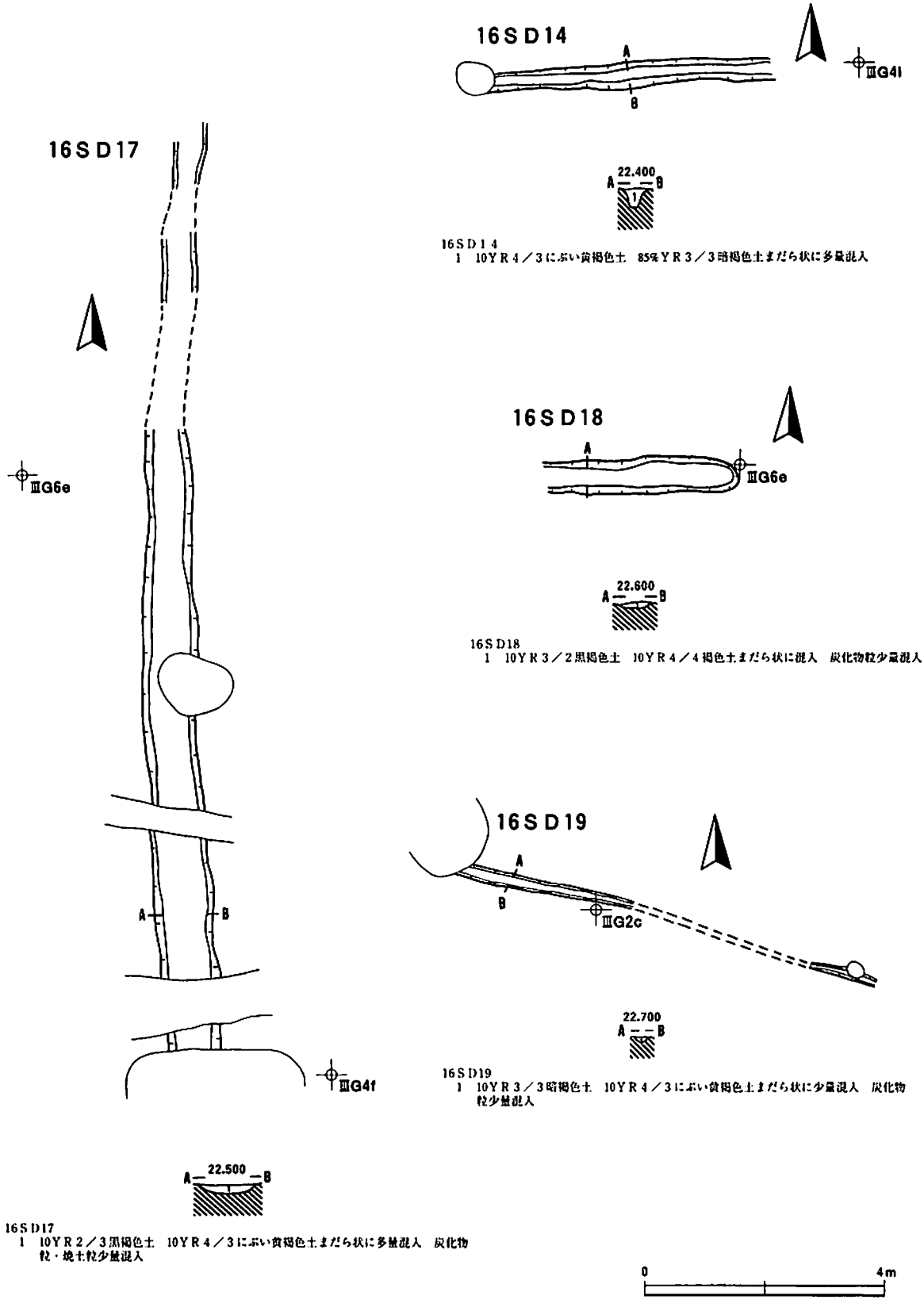
〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。南側は攪乱によって失われているが、調査区際では溝の底面近くが生き残っている部分がある。そしてさらに溝は調査区外南に続く。北側も調査区外に続く。溝の傾斜方向は明瞭ではないが、北から南に水が流れるようである。

〔埋土〕２層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から土師器ロクロ内黒坏（16、18）、土師器ロクロ坏（21）、土師器小型長胴甕（27）、古代の須恵器大甕（41、46、47、48、56）、手づくねかわらけ（1019、1035、1045、1076）、内折れかわらけ（1118）、常滑産陶器片口鉢（2004）、常滑産陶器広口壺（2010）、常滑産陶器甕（2013、2014、2015）、渥美産陶器山茶碗（2037）、渥美産陶器片口鉢（2038）、渥美産陶器甕（2047、2051、2053、2065、2068）、須恵器系陶器片口鉢（2085）、須恵器系陶器甕（2091）、砥石（7011）、鍛冶滓（8040）が出土した。

〔性格〕12世紀の道路の側溝である。対になる溝（13ＳＤ１）は泉屋遺跡13次調査（東北本線西側）で検出されている。

〔年代〕12世紀後半に属すると推測される。廃絶時期は藤原氏滅亡直後と思われる。


16SD14
A
B
ⅢG4i
22.400
A B
1
16SD14
1 10YR4／3にぶい黄褐色土 85%YR3／3暗褐色土まだら状に多量混入
16SD17
ⅢG6e
A
B
ⅢG4f
22.500
A B
16SD17
1 10YR2／3黒褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入 炭化物粒・焼土粒少量混入
16SD18
A
ⅢG6e
22.600
A B
16SD18
1 10YR3／2黒褐色土 10YR4／4褐色土まだら状に混入 炭化物粒少量混入
16SD19
A
B
ⅢG2c
22.700
A B
16SD19
1 10YR3／3暗褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に少量混入 炭化物粒少量混入
0
4m

第53図 溝④

16ＳＤ16（第52図、写真図版35）

〔位置〕ⅢＧ５ｇ、６ｇ、７ｇに位置する。

〔重複〕16ＳＢ６と重複するが本溝が新しい。また16ＳＥ11と重複するが本溝が古い。また16ＳＢ１、16ＳＢ２、16ＳＢ３、16ＳＢ４、16ＳＢ64とプランが重複するが直接切りあう部分がなく前後関係を判断できない、16ＳＫ40とは同時存在の可能性が高い。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。北側は調査区外に続く。溝の傾斜方向は北から南に水が流れるようになっている。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕16ＳＫ40に導水し、排水する溝と推測される。

〔年代〕16ＳＫ40と一体のものであれば近世以降に属する。

16ＳＤ17（第53図、写真図版35、36）

〔位置〕ⅢＧ４ｆ、５ｆ、６ｆに位置する。

〔重複〕16ＳＢ６、16ＳＫ20、16ＳＫ42、16ＳＤ12、16ＳＤ13と重複するが本溝が古い。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。北側は切れ切れの状態になる。溝の傾斜は顕著でないが、北から南に水が流れるようになっている。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土から手づくねかわらけ（1072）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕出土遺物と遺構の重複関係から12世紀代と推測される。

16ＳＤ18（第53図、写真図版35、36）

〔位置〕ⅢＧ５ｄ、５ｅに位置する。

〔重複〕16ＳＢ13、16ＳＢ15と重複するが本溝が古い。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。溝の傾斜方向は顕著でない。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＤ19（第53図、写真図版35、36）

〔位置〕ⅢＧ１ｃ、２ｂ、２ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＢ26と重複するが本溝が古い。また16ＳＩ１と重複するが本溝が新しい。また16ＳＫ14と重複するが前後関係を判断できなかった。また16ＳＢ37とプランが重複するが直接切りあう部分がなく前後関係を判断できない。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。途中途切れる部分がある。溝の傾斜方向は明瞭でない。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16ＳＤ20（第54図、写真図版36）

〔位置〕ⅢＧ４ｃ、５ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＢ17、16ＳＤ13と重複するが本溝が古い。また16ＳＢ19、16柱列２、16柱列３とプランが重複するが直接切りあう部分がなく前後関係を判断できない。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。南側でプランが不明瞭になり途切れる。溝の傾斜方向は明瞭でない。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1068）が出土している。

〔性格〕不明である。

〔年代〕出土遺物から、12世紀後半の可能性が高い。

16ＳＤ21（第54図、写真図版36）

〔位置〕ⅢＧ８ｈ、８ｉに位置する。

〔重複〕なし。

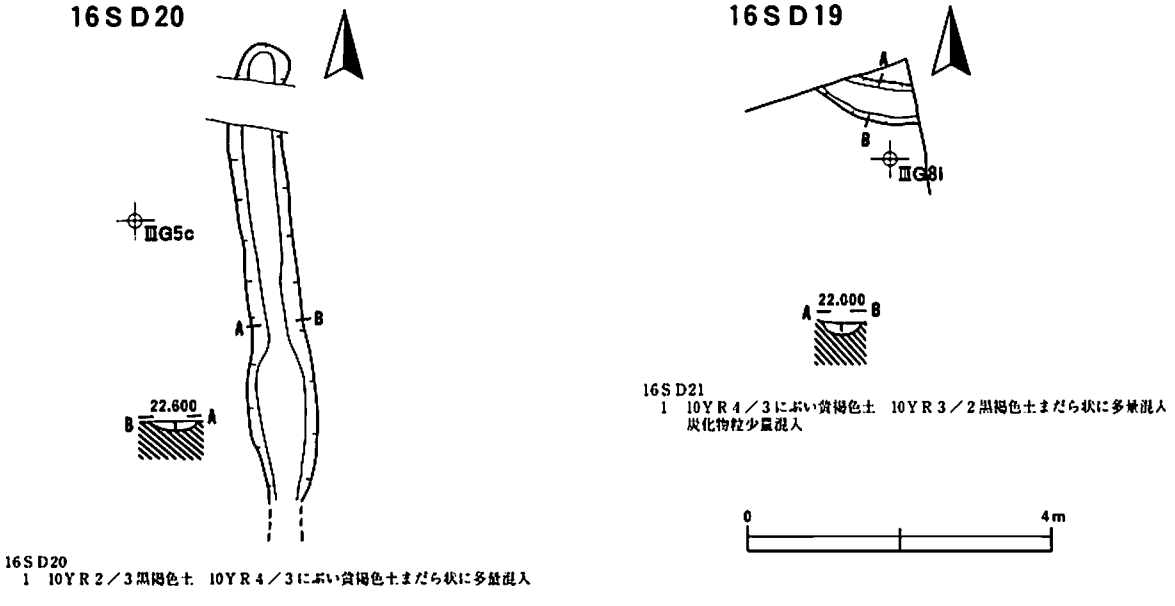
〔形態〕検出された部分はわずかで全体形は明瞭でない。

〔埋土〕１層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

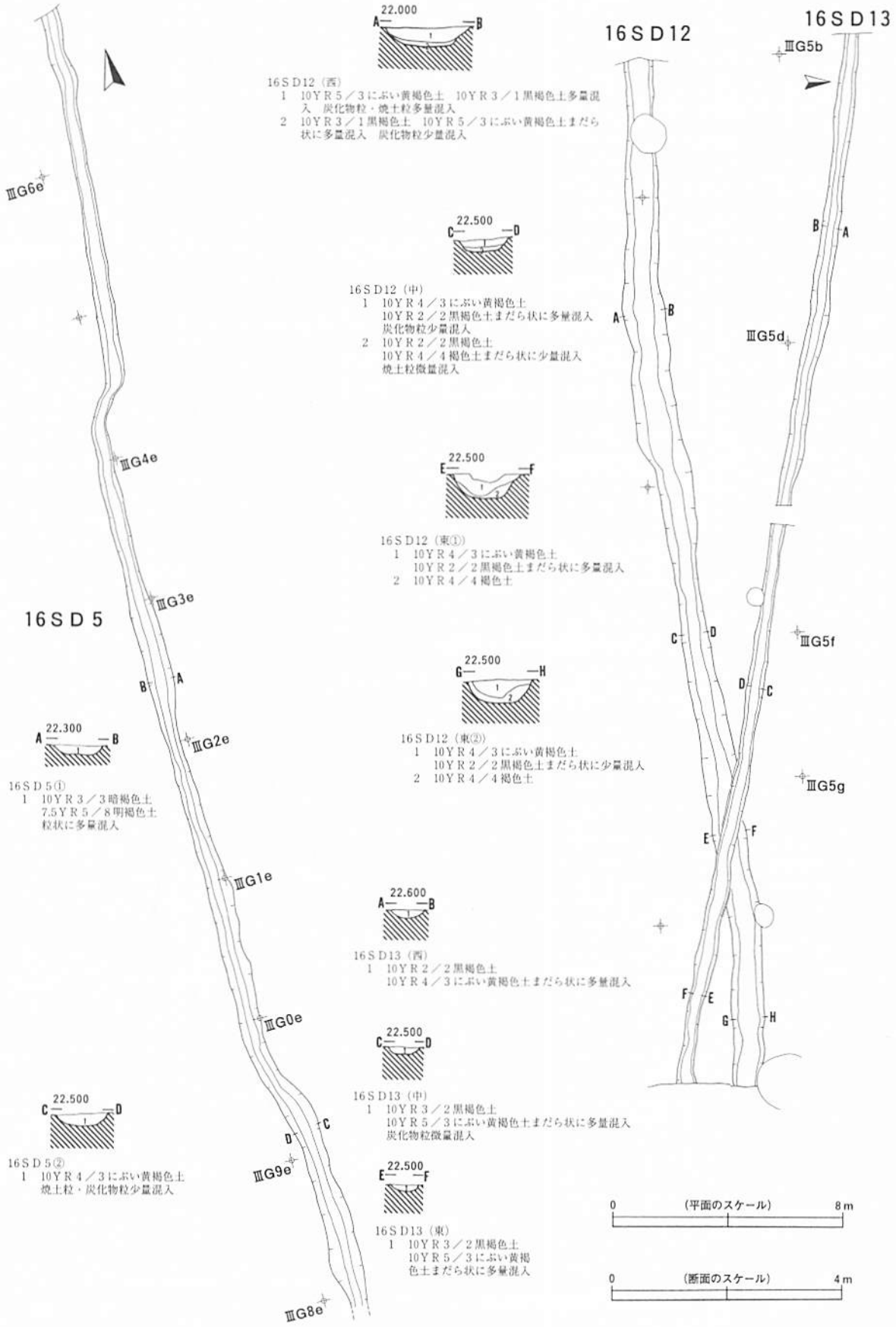
〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。



第54図　溝⑤


16SD5
16SD12
16SD13
ⅢG6e
ⅢG4e
ⅢG3e
ⅢG2e
ⅢG1e
ⅢG0e
ⅢG9e
ⅢG8e
ⅢG5b
ⅢG5d
ⅢG5f
ⅢG5g
22.000
16SD12（西）
1 10YR5／3にぶい黄褐色土 10YR3／1黒褐色土多量混入 炭化物粒・焼土粒多量混入
2 10YR3／1黒褐色土 10YR5／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入 炭化物粒少量混入
22.500
16SD12（中）
1 10YR4／3にぶい黄褐色土 10YR2／2黒褐色土まだら状に多量混入 炭化物粒少量混入
2 10YR2／2黒褐色土 10YR4／4褐色土まだら状に少量混入 焼土粒微量混入
22.500
16SD12（東①）
1 10YR4／3にぶい黄褐色土 10YR2／2黒褐色土まだら状に多量混入
2 10YR4／4褐色土
22.500
16SD12（東②）
1 10YR4／3にぶい黄褐色土 10YR2／2黒褐色土まだら状に少量混入
2 10YR4／4褐色土
22.300
16SD5①
1 10YR3／3暗褐色土 7.5YR5／8明褐色土粒状に多量混入
22.600
16SD13（西）
1 10YR2／2黒褐色土 10YR4／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入
22.500
16SD13（中）
1 10YR3／2黒褐色土 10YR5／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入 炭化物粒微量混入
22.500
16SD13（東）
1 10YR3／2黒褐色土 10YR5／3にぶい黄褐色土まだら状に多量混入
22.500
16SD5②
1 10YR4／3にぶい黄褐色土 焼土粒・炭化物粒少量混入
0 （平面のスケール） 8m
0 （断面のスケール） 4m

第55図　溝⑥

6　竪穴建物

9～10世紀の竪穴建物が2棟検出された。カマドを有していないものもあり竪穴建物とする。

16ＳＩ１（第56図、写真図版37）

〔位置〕ⅢＧ０ｈ、１ｈに位置する。

〔重複〕16ＳＢ２、16ＳＢ３、16ＳＥ１、16ＳＥ３と重複するが本竪穴が古い。

〔形態〕3.4m×4.0mほどの方形の掘り込みを呈していたと推測されるが、検出されたのは壁溝のみである。西辺の壁溝は検出されなかった。

〔カマド〕南壁東寄りにカマドの火焼面の一部が検出された。煙道、ソデなどは16ＳＥ１によって破壊されている。

〔埋土〕壁溝の埋土は１層に分けられる。また、壁溝上を僅かに覆う埋土の残存が存在する。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕壁溝の埋土中から土師器ロクロ内黒坏（１、２、３）、土師器ロクロ坏（４、５）、土師器ロクロ小型長胴甕（６）、須恵器長頸壺（８）、埋土の残存から須恵器壺（７）が出土した。

〔性格〕古代の竪穴住居である。

〔年代〕出土遺物から９世紀後半～10世紀前半と推測される。

16ＳＩ２（第56図、写真図版37）

〔位置〕ⅢＧ２ｂ、２ｃに位置する。

〔重複〕16ＳＢ26、16ＳＫ14、16ＳＤ19と重複するが本竪穴が古い。また16ＳＢ27、16ＳＢ37とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕2.75m×3.1mほどの方形の掘り込みを呈する。壁溝は存在しない。また床面は概ね平坦である。

〔カマド〕カマドらしい施設は検出されなかった。16ＳＫ14に破壊された部分に存在した可能性もあるが、周辺にそれらしい痕跡は全くない。

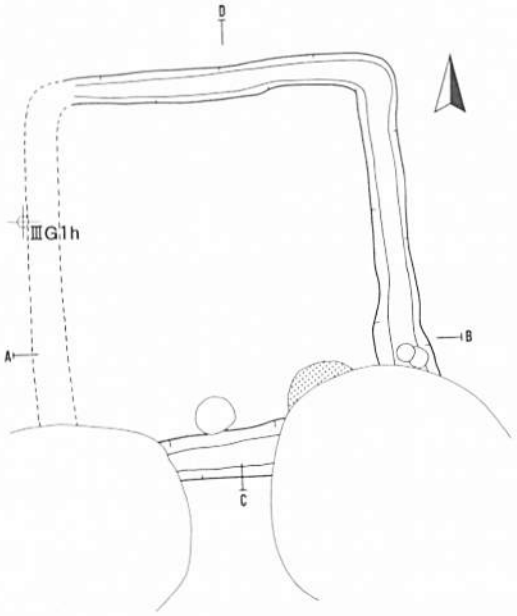
〔埋土〕壁溝の埋土は１層に分けられる。人為堆積の可能性が高い。

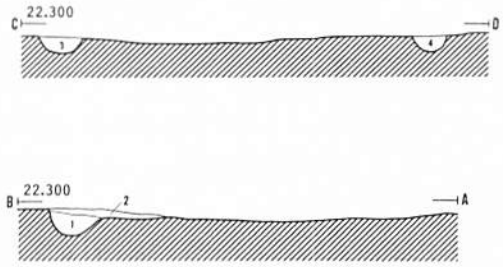
〔出土遺物〕埋土中から土師器ロクロ内黒坏（９）、土師器ロクロ坏（10、11）、土師器長胴甕（12）が出土した。

〔性格〕古代の竪穴建物である。

〔年代〕出土遺物から９世紀後半～10世紀前半と推測される。

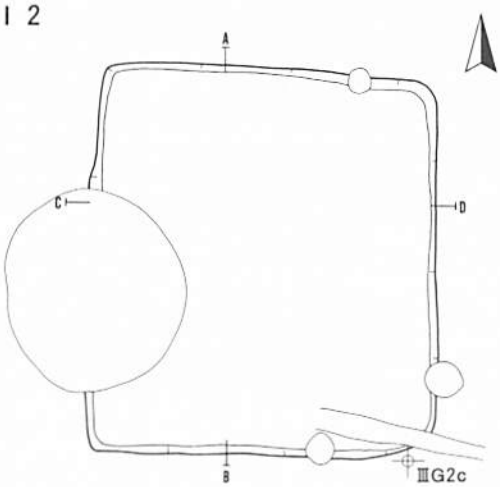
16ＳＩ１

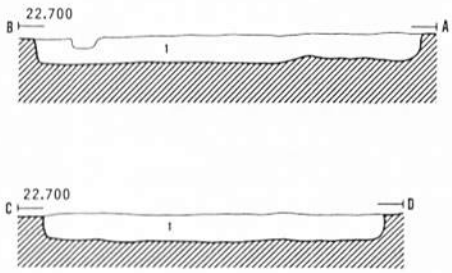




16ＳＩ１
1　10ＹＲ３／３暗褐色土　10ＹＲ５／３にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入　２．５Ｙ８／４黄色土底部に少量混入
2　10ＹＲ３／３暗褐色土　10ＹＲ５／６黄褐色土まだら状に多量混入
3　10ＹＲ３／３暗褐色土　10ＹＲ５／３にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　焼土粒多量混入　炭化物粒少量混入
4　10ＹＲ３／３暗褐色土　10ＹＲ５／３にぶい黄褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒少量混入

16ＳＩ２





16ＳＩ２
1　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色土　10ＹＲ３／４暗褐色土まだら状に多量混入　炭化物粒・焼土粒少量混入　土師器片混入

第56図　古代の竪穴建物

第2節　出土遺物

泉屋遺跡16次調査で出土した遺物は以下の通りである。

1　古代の土師器、須恵器

（1）9～10世紀の土師器（坏、長胴甕）

（2）9～10世紀の須恵器（長頸壺、壺、大甕）

2　かわらけ

（1）12世紀の手づくねかわらけ

（2）12世紀のロクロかわらけ

（3）12世紀の内折れ、柱状高台かわらけ

（4）13～14世紀のロクロかわらけ

3　国産陶器

（1）12世紀の常滑産陶器（片口鉢、三筋壺、広口壺、甕）

（2）12世紀の渥美産陶器（山茶碗、片口鉢、壺、甕）

（3）12世紀の須恵器系陶器（片口鉢、波状文四耳壺、甕）

（4）13～14世紀の瓷器系陶器（在地産鉢、壺、東海産鉢）

4　中国産磁器

（1）12世紀の中国産磁器（白磁碗、白磁壺、白磁水注、青磁碗、青白磁皿、青白磁合子、青白磁梅瓶）

（2）中世の中国産磁器（青磁碗、白磁壺）

5　12世紀の瓦（軒平瓦、軒丸瓦、平瓦、）

6　近世の陶磁器

（1）近世の磁器（碗、皿、小杯、香炉、瓶、花生、水滴）

（2）近世の陶器（皿、碗、香炉、土瓶、仏飯器、鉢、切立、おはぐろ壺、甕、行平、擂鉢、焜炉）

7　木製品（織機の部品？、曲物、漆器皿、桶、釣瓶、漆器椀、横槌）

8　石製品（砥石、硯、挽き臼、板碑）

9　金属製品

（1）銭貨（北宋銭、寛永通寶）

（2）その他の金属製品（金具、煙管、刀、鉈、釘、鉄斧、かんざし）

10　その他の遺物（鉄滓、漆紙、鋳型、土玉）

11　縄文時代の遺物

（1）縄文時代の土器（後期前～中葉、後期後葉～晩期初頭）

（2）縄文時代の石器（石鏃、石錐、石匙、石箆、スクレイパー、異形石器、打製石斧、石棒、磨石、凹石、石皿）

各々の遺物については、実測図版の下に観察表を付した。出土地点、法量などは表を参照していただきたい。文章中では必ずしも個々の遺物について説明していない。

1　古代の土師器、須恵器（第57～63図　写真図版38～43）

9～10世紀の土師器、須恵器は16ＳＩ１と16ＳＩ２の竪穴建物の埋土中からまとまって出土した。他にも12世紀以降の遺構の中からも破片が出土している。調査区の北半部からの出土が多い。土師器は報告書掲載が2.0kg、不掲載が5.1kg、合計7.1kgが出土した。須恵器は報告書掲載が2.8kg、不掲載が1.1kg、合計3.7kg出土している。

16ＳＩ１は壁溝中から土師器、須恵器（１～７）がまとまって出土している。これらは一括性の高い遺物と判断できる。１～５は土師器ロクロ坏である。１～３は内面にミガキ、黒色処理が施される。外底面に再調整は無い。４～５は内外面ロクロ調整のみである。６はロクロ調整の小型長胴甕である。底面に回転糸切痕がある。８は須恵器の長頸壺である。橙～鈍い褐色の色調を呈している。頸部に凸帯が巡る。この16ＳＩ１出土の土師器、須恵器の実年代ははっきり示せないが９世紀後半～10世紀前半頃、十和田ａ火山灰降下前後と推測される。

９～12は16ＳＩ２からの出土遺物である。12の長胴甕は体部外面の調整が頸部にまで及んでいない。この特徴は本次調査出土の他の非ロクロ土師器長胴甕に共通してみられる特長である。16ＳＩ２の出土遺物の年代も16ＳＩ１に近い年代と推定される。

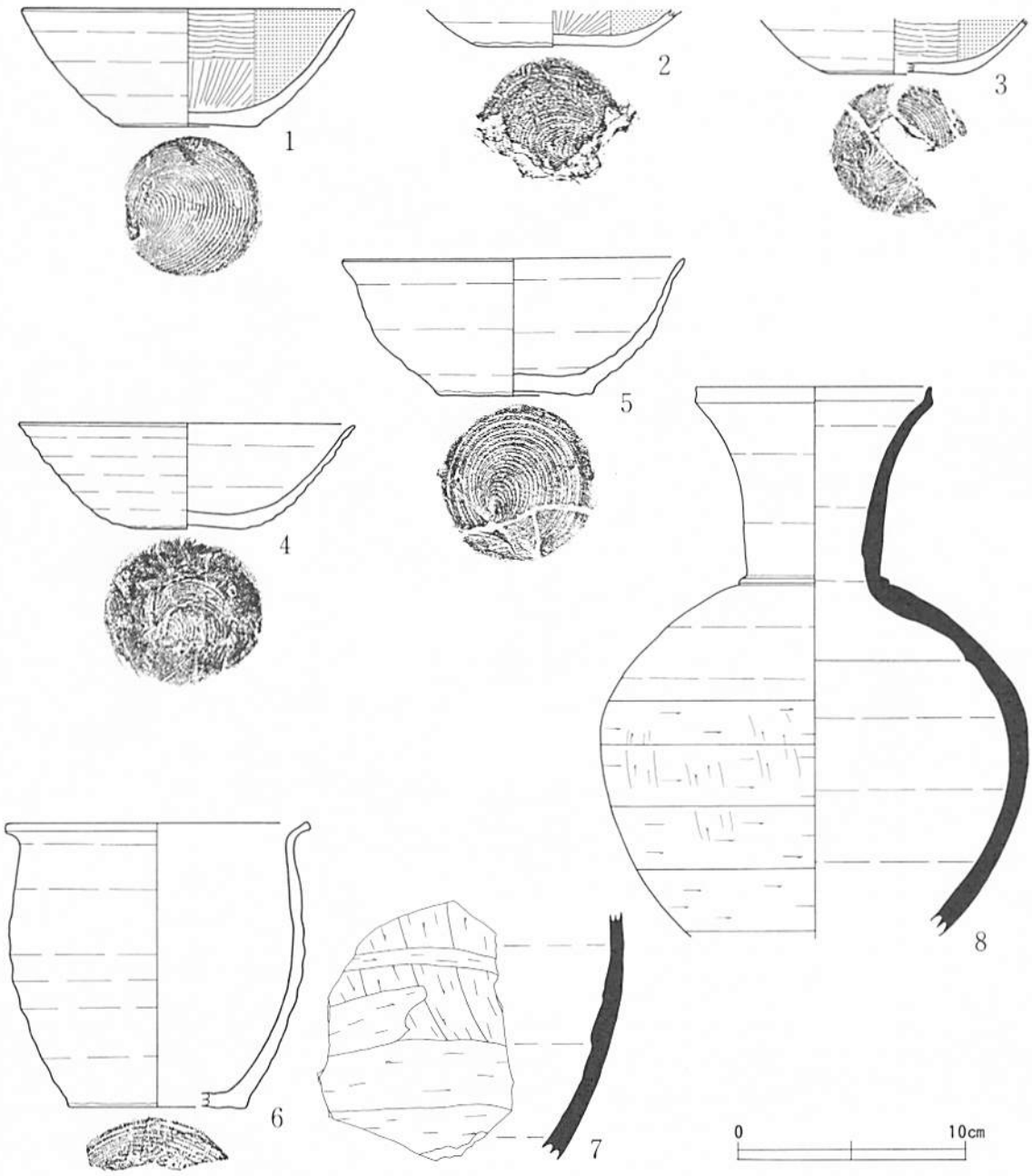
13～79は遺構外及び12世紀以降の遺構中から出土した土師器、須恵器である。13～21は土師器坏である。13は内外面、底面全体にミガキ、黒色処理が施されている。14は外面底辺部にヘラケズリ再調整が施される。15は外底面にヘラケズリが施され切り離し方法が確認できない。16～18は内面の磨耗が著しくヘラミガキの方向、単位を判別し難い。21は内外面ロクロ調整のみの坏である。12世紀の遺構からの出土であるが、器形から９～10世紀のものと判断した。

22～32は土師器長胴甕である。28はロクロ長胴甕で22～27はロクロ不使用の長胴甕である。ロクロ不使用長胴甕の口縁部は短く「く」の字に外反している。体部外面の調整が頸部にまで達せず、頸部に無調整の部分が生じている。28はロクロ長胴甕で口縁部が「く」の字に外反する。ロクロ調整の下地にタタキの痕跡は認められない。29～31は長胴甕の底部の破片であるが、ロクロ使用か不使用のものか判別がつかない。32はロクロ不使用の底部である。

33、34は須恵器長頸壺の口縁部破片である。34は赤褐色の色調を呈する。35～38は平底の須恵器甕と推測される。37はヘラケズリの下地にタタキ目がみられる。

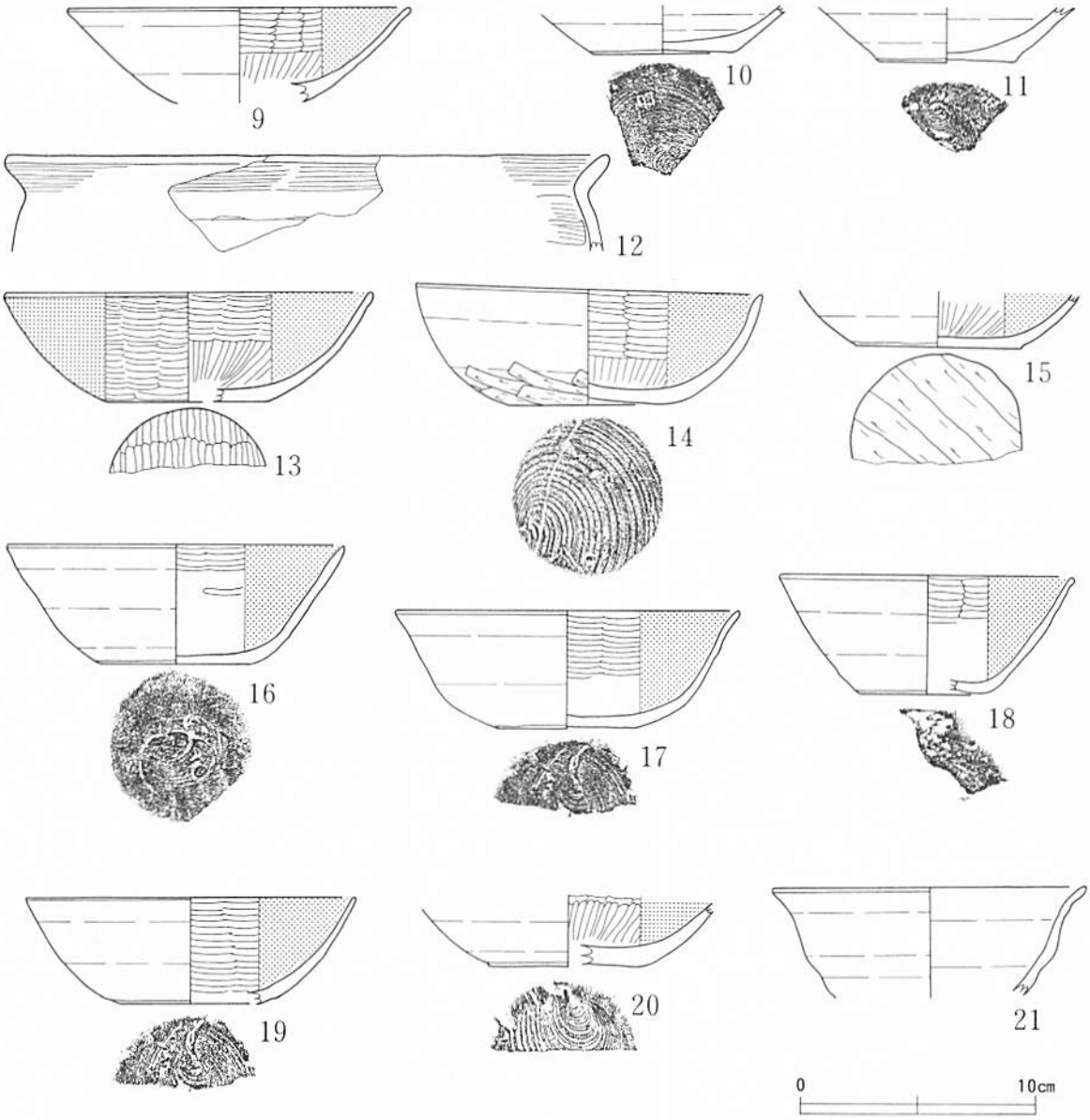
39～79は須恵器の大甕である。12世紀以降の須恵器系陶器を含む可能性もある。39は口縁部破片で口径を求めることが可能であった。41～50はタタキ目、質感から同一個体と判断した。薄手の造りで内面の当て具痕は不明瞭である。

51～63の須恵器大甕片は内面の当て具痕が不明瞭なものである。外面のタタキ目は平行タタキ目が多い。64～79の須恵器大甕片は内面に当て具痕が存在するものである。タタキ目と類似する平行または格子目状の当て具痕が多い。須恵器の実年代については詳しく示せないが、土師器と同様に９世紀後半～10世紀前半に属する可能性が高い。



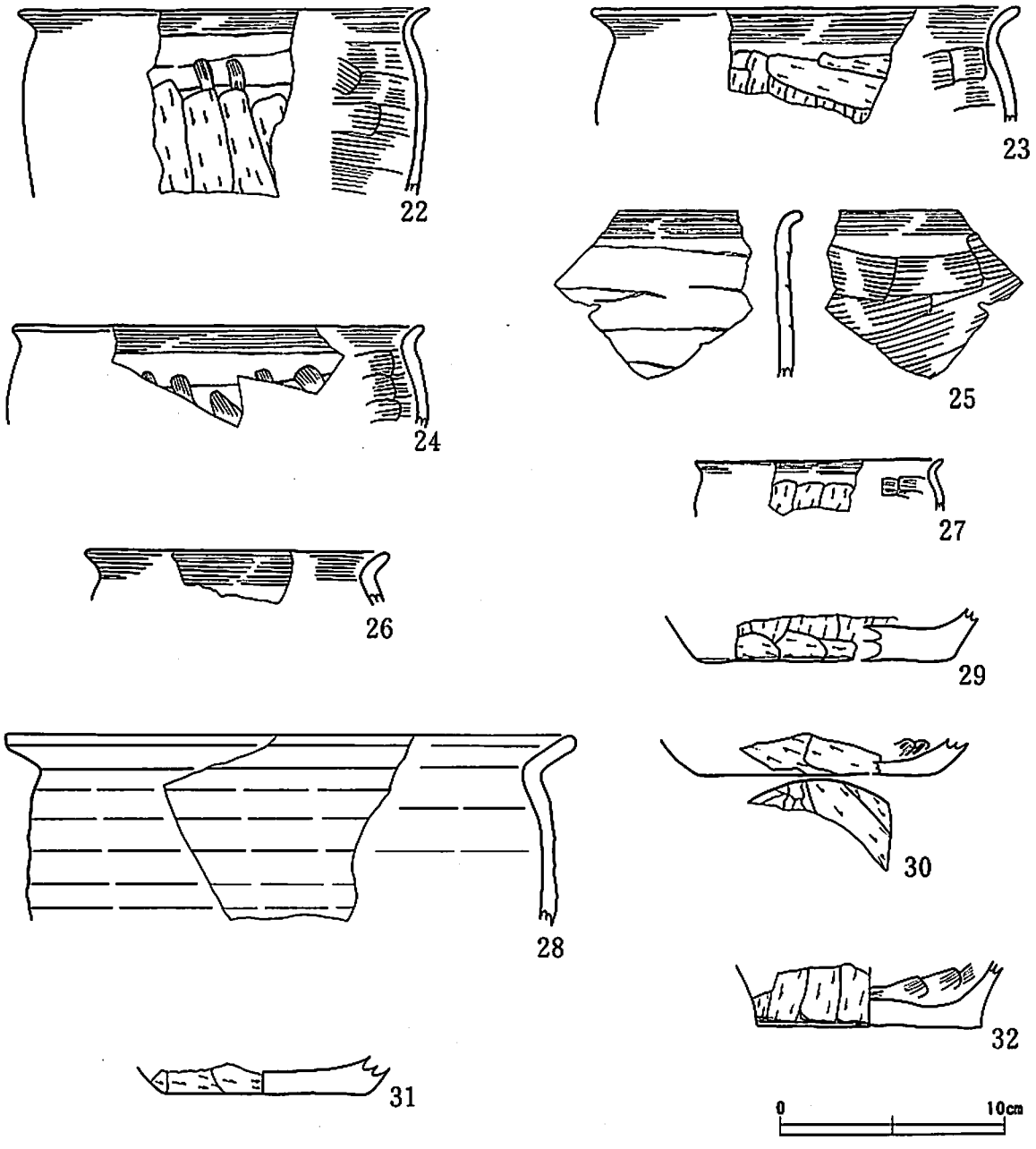
番号	種類	器種	出土位置	法量（cm）			外面調整	内面調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
1	土師器	杯	16ＳＩ１　壁溝中	5.1	14.4	5.9	ロクロ	ヘラミガキ	淡黄	内面黒色処理
2	土師器	杯	16ＳＩ１　壁溝中	(1.6)	－	6.4	ロクロ	ヘラミガキ	にぶい褐	内面黒色処理
3	土師器	杯	16ＳＩ１　壁溝中	(2.4)	－	5.2	ロクロ	ヘラミガキ	にぶい黄橙	内面黒色処理
4	土師器	杯	16ＳＩ１　壁溝中	4.6	14.6	4.8	ロクロ	ロクロ	にぶい黄橙	
5	土師器	杯	16ＳＩ１　壁溝中	6.0	14.8	6.5	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	口縁部外反
6	土師器	甕	16ＳＩ１　壁溝中	12.3	13.0	7.6	ロクロ	ロクロ	灰黄褐	底面回転糸切
7	土師器	壺？	16ＳＩ１　埋土中	(10.8)	－	－	ヘラケズリ	ロクロ	黒	長頸壺か甕か不明
8	須恵器	長頸壺	16ＳＩ１　壁溝中	(24.0)	10.2	－	ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ	にぶい褐	頸部に凸帯がある

第57図　古代の土師器、須恵器①



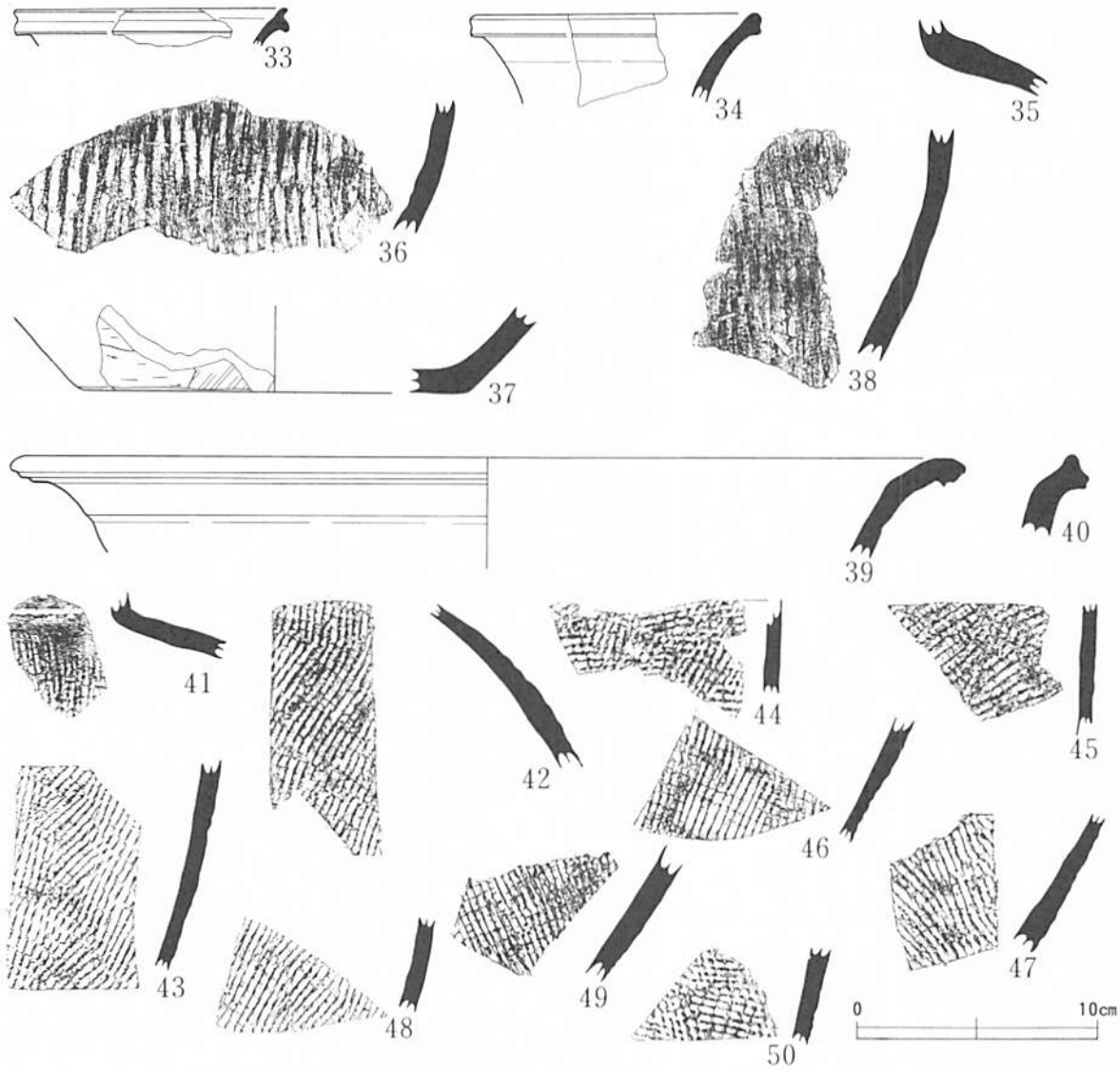
番号	種類	器種	出土位置	法量（cm）			外面調整	内面調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
9	土師器	坏	16ＳＩ２　埋土上部	(4.0)	14.4	－	ロクロ	ヘラミガキ	にぶい黄橙	内面黒色処理
10	土師器	坏	16ＳＩ２　埋土上部	(2.0)	－	5.8	ロクロ	ロクロ	灰白	内面黒色処理
11	土師器	坏	16ＳＩ２　埋土上部	(2.3)	－	5.7	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	内面黒色処理
12	土師器	長胴甕	16ＳＩ２　埋土上部	(4.0)	25.4	－	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	にぶい黄橙	外面、体部上部に調整がない
13	土師器	坏	16次調査区内	4.6	15.4	6.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒	内外底黒色処理　ロクロ調整の後ヘラミガキ
14	土師器	坏	ⅢＧ５ａ　Ⅰ層	4.9	14.6	6.6	ロクロ、ヘラケズリ	ヘラミガキ	にぶい黄橙	内面黒色処理　底辺部ヘラケズリ再調整
15	土師器	坏	16ＳＤ13　埋土（ⅢＧ５ｂ）	(2.4)	－	7.0	ロクロ	ヘラミガキ	浅黄橙	内面黒色処理　底面ヘラケズリ
16	土師器	坏	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ４ｂ）	5.0	14.2	6.3	ロクロ	ヘラミガキ	にぶい褐	内面摩耗のため調整方向が見えない
17	土師器	坏	ⅢＧ５ｃ　Ⅰ層	5.0	14.5	5.8	ロクロ	ヘラミガキ	灰白	内面摩耗のため調整方向が見えない
18	土師器	坏	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ４ｂ）	5.0	12.2	5.2	ロクロ	ヘラミガキ	浅黄橙	内面摩耗のため調整方向が見えない
19	土師器	坏	16ＳＫ12　埋土（ⅢＧ４ｃ）	(4.5)	13.8	5.8	ロクロ	ヘラミガキ	灰白	内面黒色処理
20	土師器	坏	16ＳＥ１　埋土	(2.7)	－	6.5	ロクロ	ヘラミガキ	にぶい黄橙	内面黒色処理
21	土師器	坏	16ＳＤ15　埋土	(4.7)	12.2	－	ロクロ	ロクロ	褐灰	口縁外反

第58図　古代の土師器、須恵器②



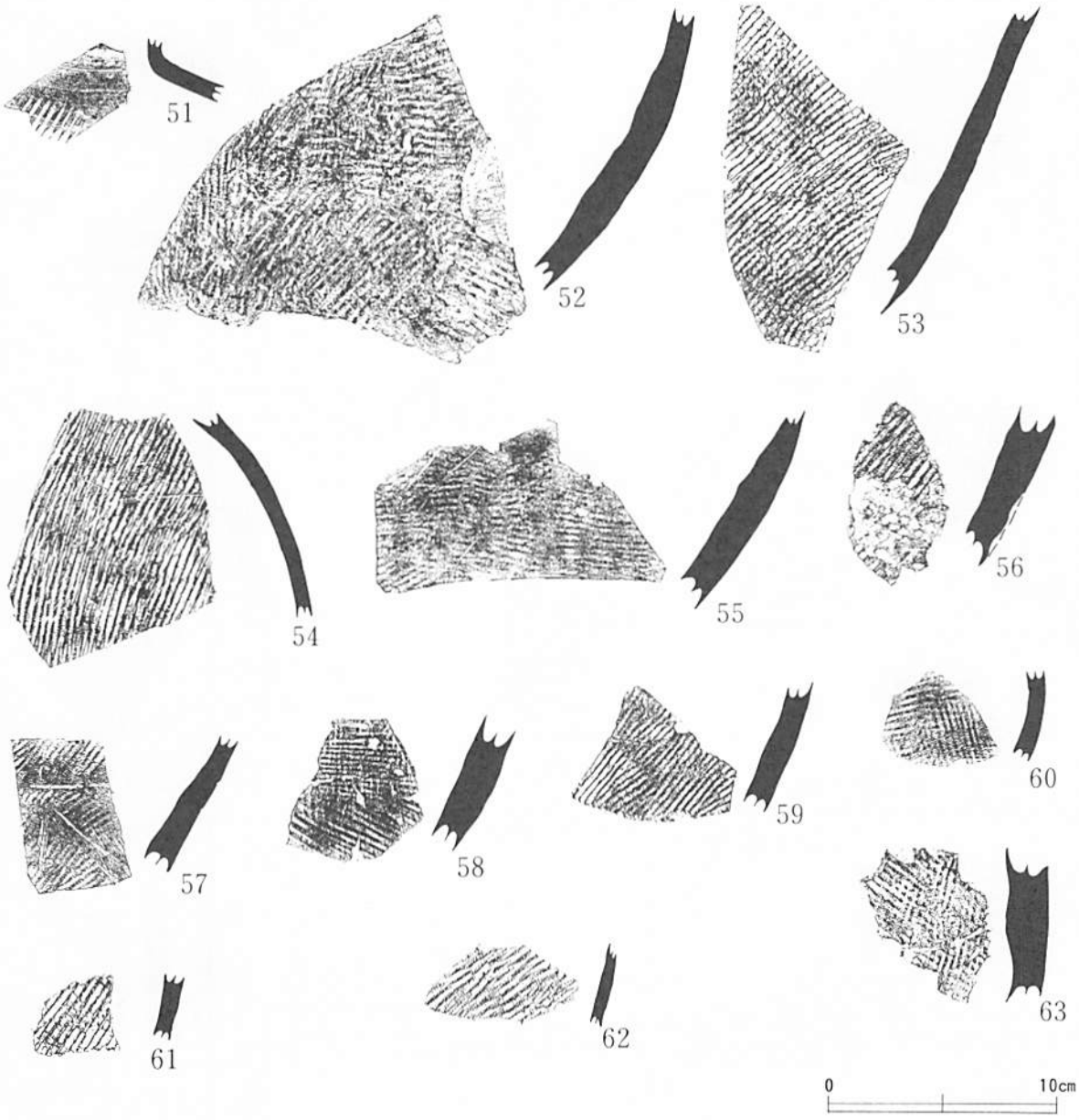
番号	種類	器種	出土位置	法量（cm）			外面調整	内面調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
22	土師器	長胴甕	16次調査区内	(8.2)	18.0	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラナデ	灰	体部上半に調整のない部分がある
23	土師器	長胴甕	16ＳＫ６　２層	(5.1)	18.8	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラナデ	橙	
24	土師器	長胴甕	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層	(4.5)	18.0	－	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	淡黄橙	体部上半に調整のない部分がある
25	土師器	長胴甕	ⅢＧ３ｅ　Ⅰ層	(7.4)	－	－	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	淡黄橙	体部外面に調整がない
26	土師器	長胴甕	16ＳＥ14　埋土	(2.3)	13.2	－	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白	
27	土師器	長胴甕	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ４ｂ）	(2.3)	10.9	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい橙	
28	土師器	長胴甕	16次調査区内	(8.4)	25.1	－	ロクロ	ロクロ	淡黄	
29	土師器	長胴甕	ⅢＧ１ｂ　Ⅰ層	(2.4)	－	10.5	ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい黄橙	
30	土師器	長胴甕	ⅢＧ５ｂ　Ⅰ層	(1.8)	－	10.4	ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい黄橙	外底面ヘラケズリ
31	土師器	長胴甕	ⅢＧ５ｂ　Ⅰ層	(1.8)	－	8.8	ヘラケズリ	ヘラナデ	黄灰	
32	土師器	長胴甕	ⅢＧ２ｃ　Ⅰ層	(2.9)	－	10.0	ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい橙	

第59図　古代の土師器、須恵器③



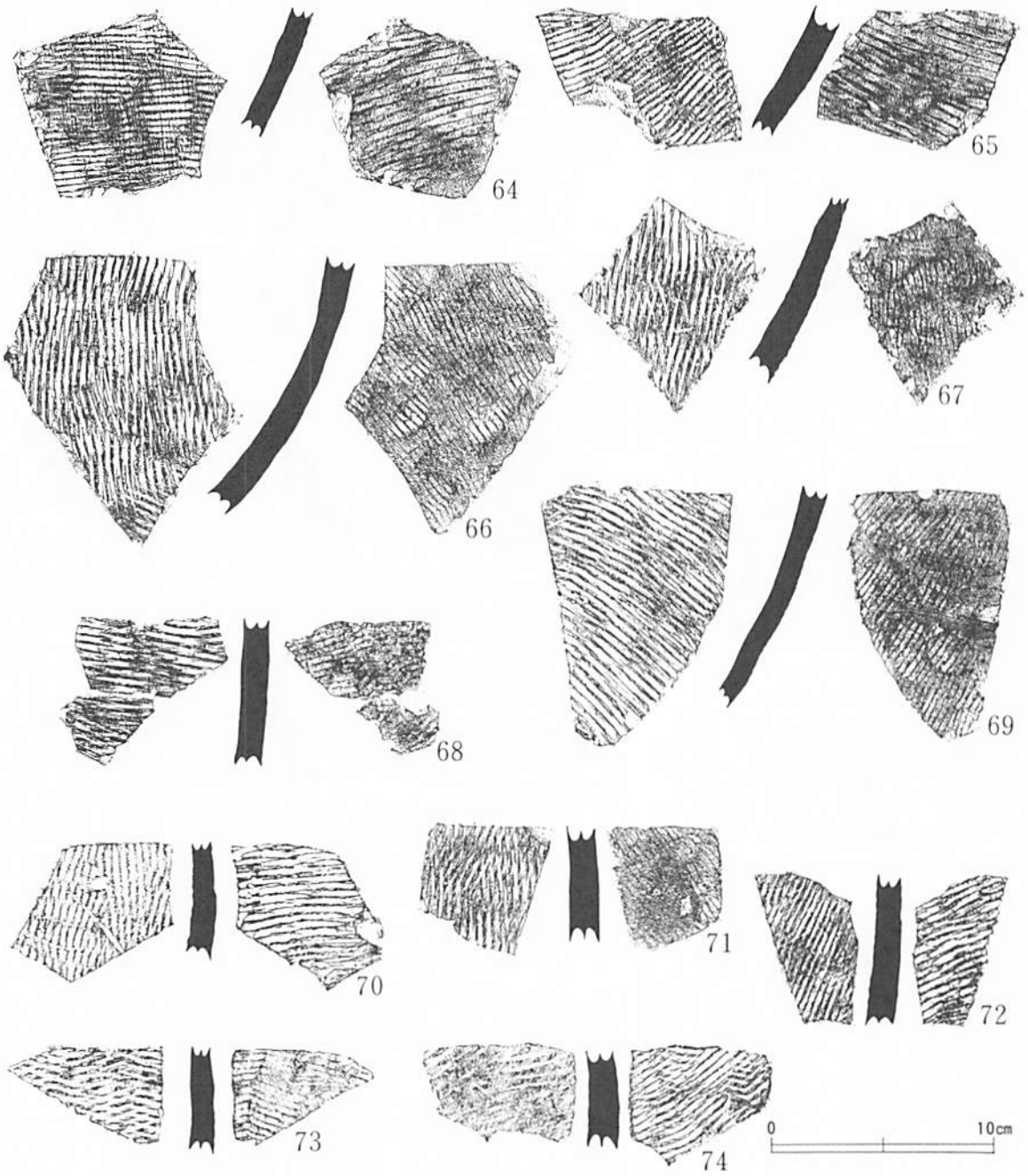
番号	種類	器種	出土位置	法量（cm）			外面調整	内面調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
33	須恵器	長頸壺	P889　埋土	(1.6)	11.4	－	ロクロ	ロクロ	褐灰	
34	須恵器	長頸壺	16ＳＥ14　埋土	(3.6)	12.2	－	ロクロ	ロクロ	にぶい赤褐	
35	須恵器	甕	16ＳＤ12　埋土	(3.0)	－	－	ロクロ	ロクロ	褐灰	
36	須恵器	甕	ⅢＧ２ｄ　Ⅰ層	(5.6)	－	－	タタキ目	ナデ	灰	ⅢＧ３ｅ　Ⅰ層からも出土
37	須恵器	甕	ⅢＧ４ｄ　Ⅰ層	(3.6)	－	(16.2)	タタキ目　ヘラケズリ	ナデ	褐灰	ヘラケズリの下地にタタキ目
38	須恵器	甕	ⅢＧ２ｄ　Ⅰ層	(9.6)	－	－	タタキ目	ナデ	褐灰	ⅢＧ３ｂ　Ⅰ層からも出土
39	須恵器	大甕	16ＳＥ９　５層西側	(4.2)	40.0	－	ロクロ？	ロクロ？	黒褐	
40	須恵器	大甕	16ＳＫ35　埋土	(3.3)	－	－	ロクロ？	ロクロ？	灰	
41	須恵器	大甕	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ４ｂ）	(3.2)	－	－	タタキ目	ナデ	灰	42～50同一個体
42	須恵器	大甕	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層	(6.6)	－	－	タタキ目	ナデ	褐灰	
43	須恵器	大甕	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層	(8.6)	－	－	タタキ目	ナデ	褐灰	
44	須恵器	大甕	16ＳＥ９　１～２層	(3.9)	－	－	タタキ目	ナデ	灰白	
45	須恵器	大甕	16ＳＥ９　５層西側	(5.4)	－	－	タタキ目	ナデ	灰白	
46	須恵器	大甕	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ４ｂ）	(5.2)	－	－	タタキ目	ナデ	褐灰	
47	須恵器	大甕	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ４ｂ）	(5.7)	－	－	タタキ目	ナデ	灰白	
48	須恵器	大甕	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ４ｂ）	(3.9)	－	－	タタキ目	ナデ	褐灰	
49	須恵器	大甕	ⅢＧ３ｃ　Ⅰ層	(5.6)	－	－	タタキ目	ナデ	黒褐	
50	須恵器	大甕	16ＳＥ６　埋土	(4.0)	－	－	タタキ目	ナデ	褐灰	

第60図　古代の土師器、須恵器④



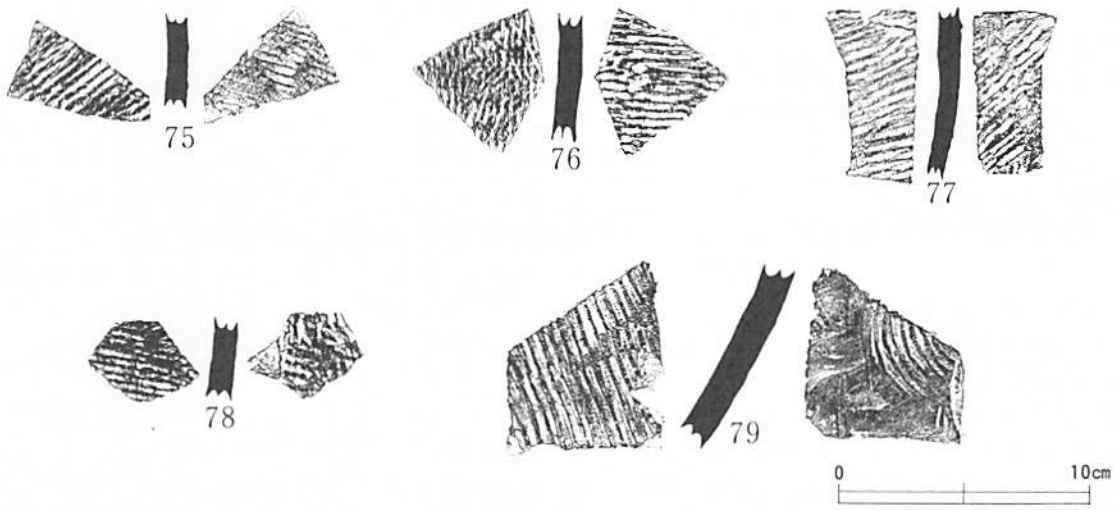
番号	種類	器種	出土位置	法量（cm）			外面調整	内面調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
51	須恵器	大甕	16ＳＥ９　１～４層東側	(2.8)	－	－	タタキ目	ナデ	灰	
52	須恵器	大甕	16ＳＫ37　埋土	(12.0)	－	－	タタキ目	ナデ	灰	
53	須恵器	大甕	16ＳＤ12　埋土（ⅢＧ４ｃ）	(13.1)	－	－	タタキ目	ナデ	黄灰	
54	須恵器	大甕	16ＳＤ２　埋土	(8.8)	－	－	タタキ目	ナデ	褐灰	
55	須恵器	大甕	ⅢＧ３ｃ　Ⅰ層	(8.6)	－	－	タタキ目	ナデ	灰	
56	須恵器	大甕	16ＳＤ15　埋土	(6.9)	－	－	タタキ目	ナデ	灰	
57	須恵器	大甕	16ＳＤ12　埋土（ⅢＧ４ｇ）	(5.8)	－	－	タタキ目	ナデ	灰	
58	須恵器	大甕	16ＳＥ10　２層西側	(5.8)	－	－	タタキ目	ナデ	灰	
59	須恵器	大甕	ⅢＧ５ｃ　Ⅰ層	(5.6)	－	－	タタキ目	ナデ	灰黄褐	
60	須恵器	大甕	16ＳＫ26　埋土	(3.9)	－	－	タタキ目	ナデ	灰黄褐	
61	須恵器	大甕	16ＳＥ10　埋土	12.9	－	－	タタキ目	ナデ	褐灰	
62	須恵器	大甕	16ＳＥ９　１～４層東側	(3.6)	－	－	タタキ目	ナデ	青灰	
63	須恵器	大甕	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層	(6.7)	－	－	タタキ目	ナデ	黒緑灰	

第61図　古代の土師器、須恵器⑤



番号	種類	器種	出土位置	法量（cm）			外面調整	内面調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
64	須恵器	大甕	16ＳＤ12　埋土（ⅢＧ４ｃ）	(5.8)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰	
65	須恵器	大甕	16ＳＤ12　埋土（ⅢＧ４ｈ）	(5.8)	－	－	タタキ目	アテ具痕	黄灰	
66	須恵器	大甕	ⅢＧ２ｃ　Ⅰ層	(11.6)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰	
67	須恵器	大甕	16ＳＥ13　埋土	(8.4)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰	
68	須恵器	大甕	16ＳＥ９　１～２層西側	(6.6)	－	－	タタキ目	アテ具痕	青灰	
69	須恵器	大甕	Ｐ1034　掘方	(10.0)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰	
70	須恵器	大甕	16ＳＥ９　５層東側	(5.3)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰	
71	須恵器	大甕	16ＳＫ18　２層	(5.2)	－	－	タタキ目	アテ具痕	オリーブ黒	
72	須恵器	大甕	ⅢＧ５ｃ　Ⅰ層	(6.7)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰	
73	須恵器	大甕	16ＳＤ12　埋土（ⅢＧ４ｈ）	(4.8)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰	
74	須恵器	大甕	ⅢＧ３ｃ　Ⅰ層	(4.4)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰黄	

第62図　古代の土師器、須恵器⑥



番号	種類	器種	出土位置	法量（cm）			外面調整	内面調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
75	須恵器	大甕	16ＳＫ20　埋土	(3.7)	－	－	タタキ目	アテ具痕	黒	
76	須恵器	大甕	16ＳＤ13（ⅢＧ５ｃ）	(5.2)	－	－	タタキ目	アテ具痕	褐灰	
77	須恵器	大甕	16ＳＥ６　埋土上部東	(6.8)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰	
78	須恵器	大甕	ⅢＧ６ｄ　Ⅰ層	(3.2)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰	
79	須恵器	大甕	16ＳＤ13　埋土（ⅢＧ４ｇ）	(7.2)	－	－	タタキ目	アテ具痕	灰黄褐	

第63図　古代の土師器、須恵器⑦

2　かわらけ　（第64～69図　写真図版44～49）

12世紀のかわらけは手づくねかわらけとロクロかわらけが出土した。図示したのは手づくねかわらけ92点（1001～1092）、ロクロかわらけ24点（1093～1118）、内折れかわらけ４点（1117～1120）、柱状高台かわらけ２点である。図示したかわらけの重量の合計は6.4kg、報告書不掲載のかわらけは43.7kgである。合計すると泉屋遺跡16次調査全体で12世紀のかわらけは50.1kg出土している。

（１）手づくねかわらけ（第64～67図　写真図版44～48）

手づくねかわらけは以下の通り分類した。

Ｃ３類　２段ナデ口唇部面取りなし

Ｃ４類　２段ナデ口縁部つまみ上げ

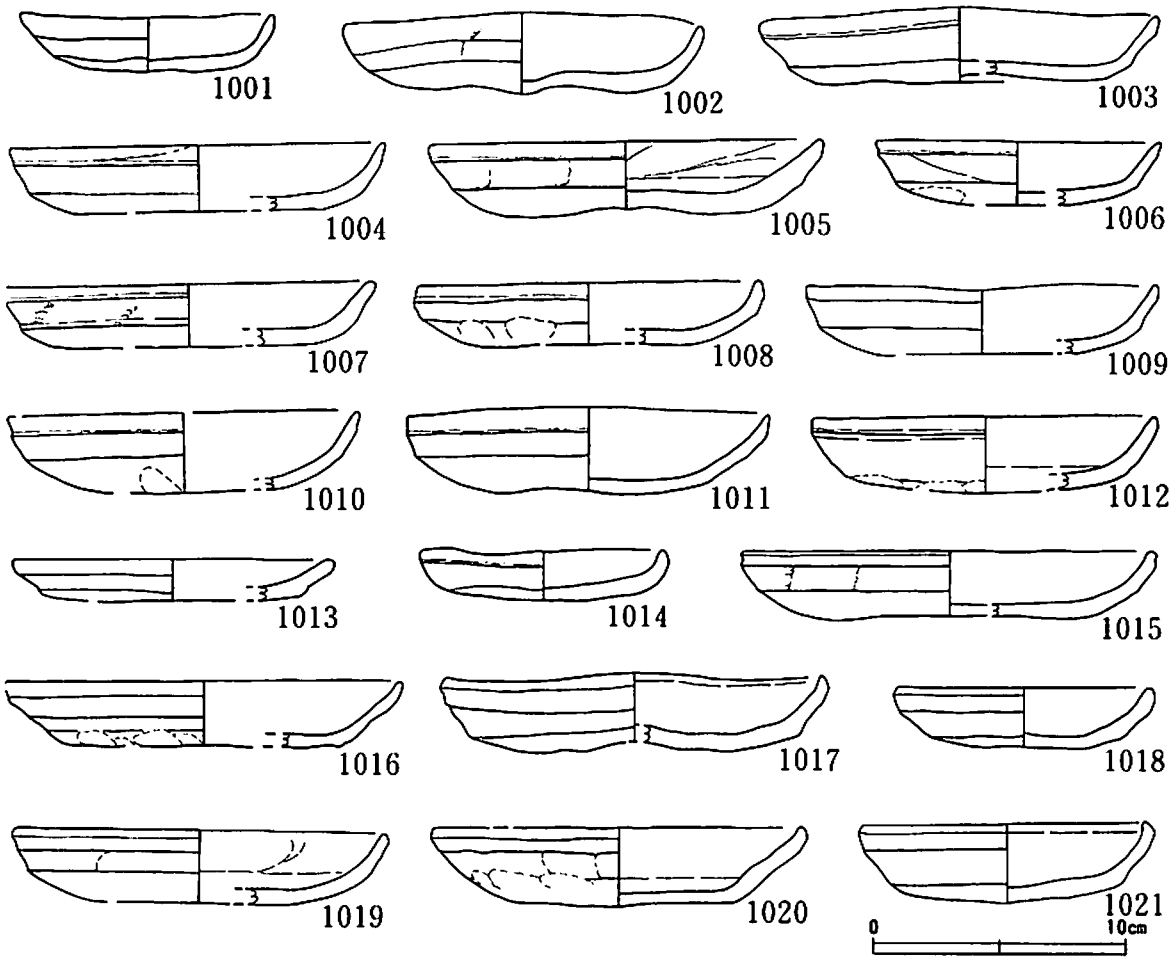
Ｃ５類　２段ナデ口唇部面取り

Ｄ２類　１段ナデ口縁部外反

Ｄ３類　１段ナデ口唇部面取りなし

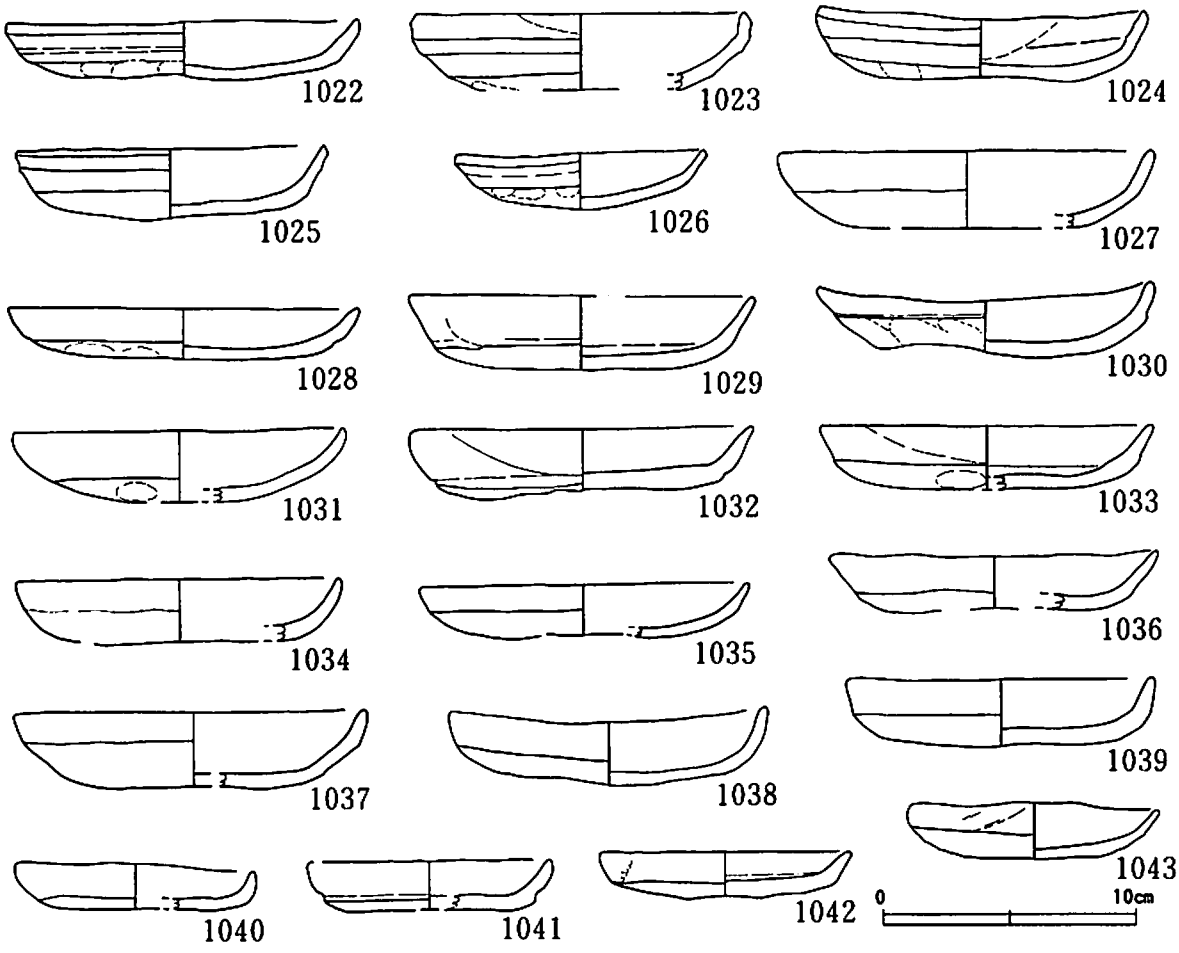
Ｄ４類　１段ナデ口唇部面取り

手づくねかわらけはいずれも12世紀後半に属する。手づくねかわらけが多量に出土した遺構は16ＳＥ６である。16ＳＥ６の図示した手づくねかわらけは35点ある。大型かわらけの口径の平均値は13.9cmである。1069は特異な器形である。口縁部に焼成前の穿孔がある。



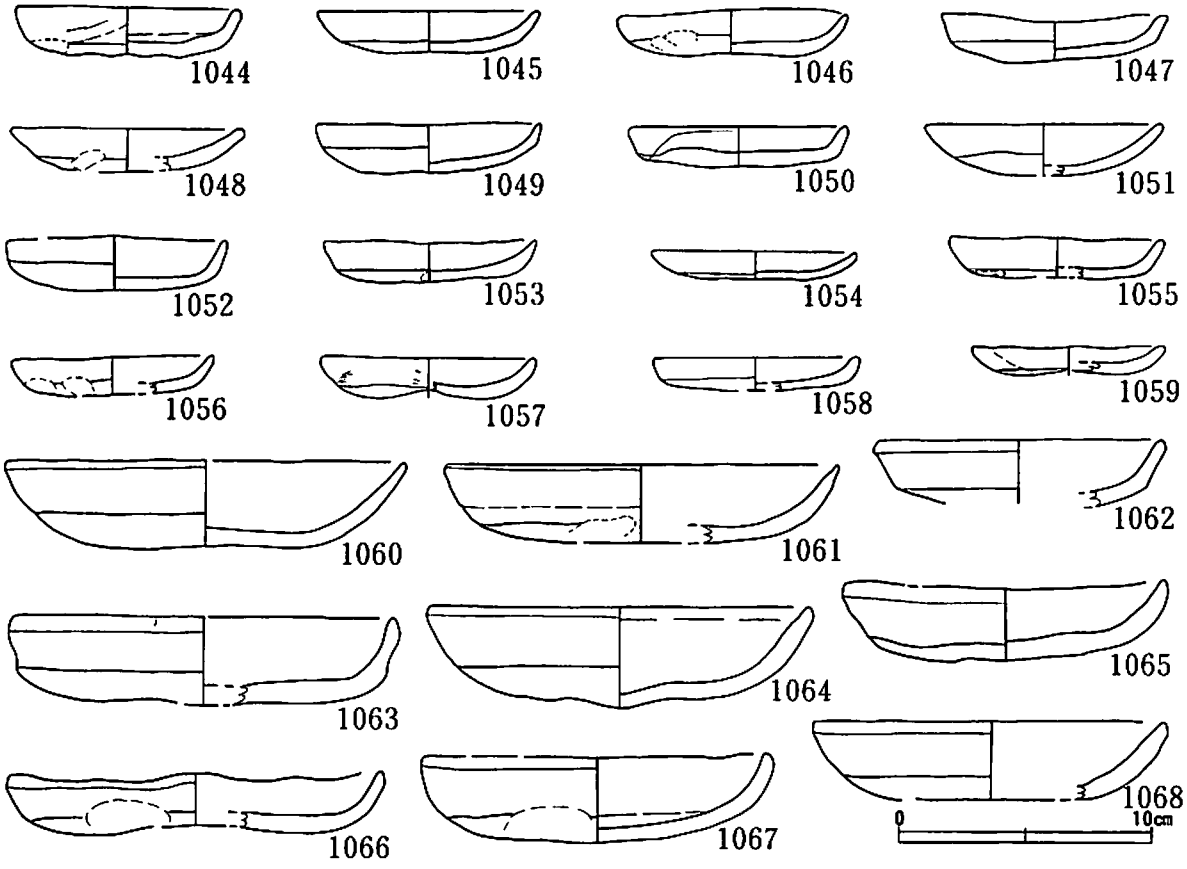
番号	出土位置	分類	法量（cm）			内面ナデ	外底（すのこ痕）	遺存度（%）	胎土	備考
			口径	底径	高さ					
1001	16SE6　2層	C3	10.2	－	2.3			70		
1002	16SK39　埋土	C3	14.4	－	3.2	木	すのこ痕	90	細砂少	継ぎ目
1003	16SE6　1層	C4	16.0	－	2.5	木		40	細砂少	
1004	16SE6　埋土上部	C4	14.8	－	(2.6)		すのこ痕	20	細砂少	
1005	16SD2　埋土	C4	15.8	－	2.9	木	すのこ痕	50		
1006	16SK34　埋土	C4	11.3	－	2.5		すのこ痕	20	細砂少	
1007	16SE6　1～3層	C4	14.8	－	2.5		すのこ痕	20	細砂少	
1008	16SE6　3層	C4	13.8	－	(2.5)			25	細砂少	継ぎ目
1009	16SE6　1～3層	C4	14.0	－	(2.8)			20	細砂多	
1010	16SK28　埋土	C4	14.0	－	(3.0)			15	細砂多	
1011	16SK28　埋土	C4	14.5	－	3.3	布		95	細砂多	
1012	16SD13　埋土	C4	13.8	－	(3.0)			20	細・粗砂多	継ぎ目・口縁部なで不明瞭
1013	16SK12　埋土	C4	12.8	－	(1.65)			15	細砂多	
1014	16SK50　埋土	C4	10.0	－	2.0	木		90	細砂多	
1015	16SK33　埋土	C5	16.4	－	(2.8)			25	細砂多	煤付着
1016	ⅢG4b　Ⅰ層	C5	15.7	－	(2.5)			20	細砂少	
1017	16SE6　埋土上部	C5	15.2	－	3.1			70	細砂少	
1018	ⅡG9g　Ⅰ層	C5	10.2	－	2.4			75		中央指凹み
1019	16SD15　埋土（ⅢG5g）	C5	15.0	－	(2.9)			30	細砂多	
1020	16SE14　埋土	C5	15.0	－	3.1			75	細砂少	
1021	16SE6　4層	C5	11.7	－	3.1		すのこ痕	70	細砂少	

第64図　12世紀のかわらけ①



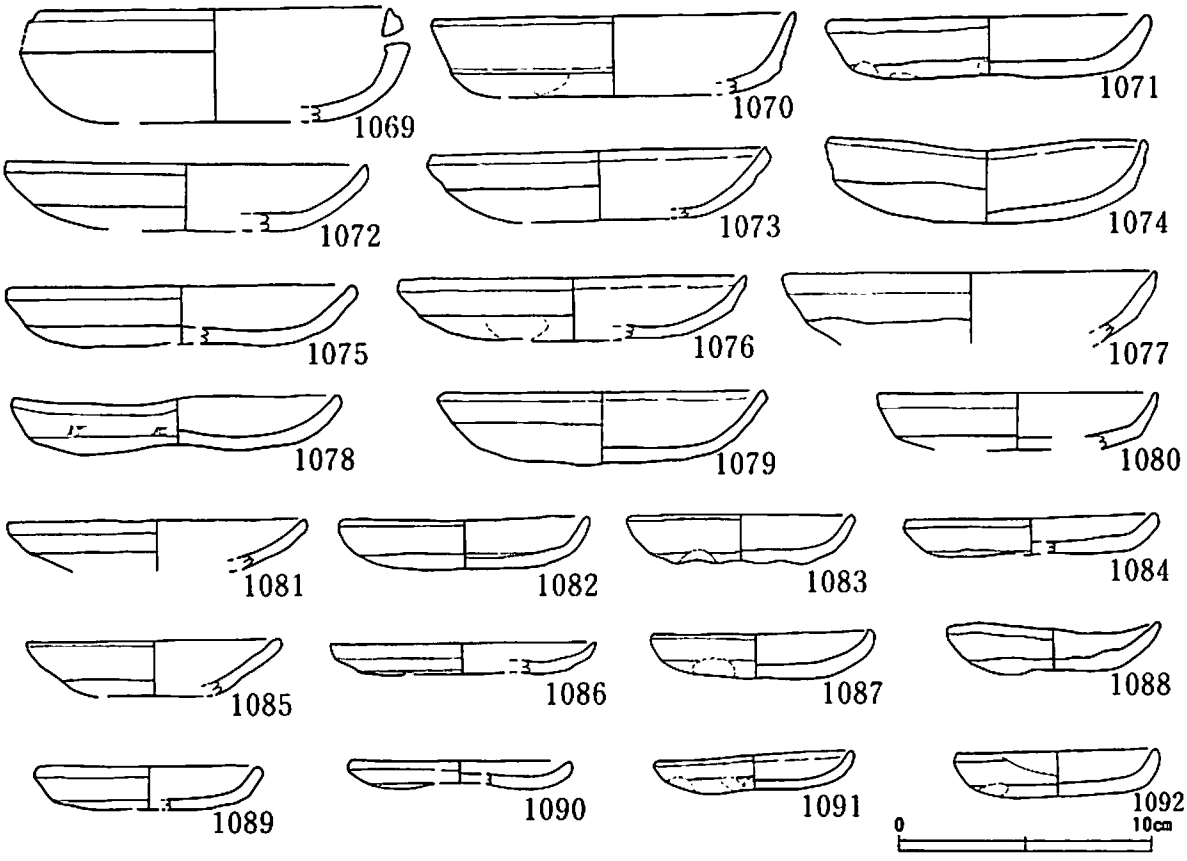
番号	出土位置	分類	法量（cm）			内面ナデ	外底（すのこ痕）	遺存度（%）	胎土	備考
			口径	底径	高さ					
1022	16SE6　埋土上部	C_5	14.1	－	2.3		すのこ痕	80	細砂多	継ぎ目
1023	16SK41　埋土	C_5	13.0	－	3.0			15		
1024	16SE6　1層	C_5	13.2	－	2.8	木	すのこ痕	85		
1025	ⅢG5b　Ⅰ層	C_5	12.2	－	2.8	木		40	細砂多	
1026	16SE9　埋土	C_5	10.0	－	2.3			50		口縁内外にタール状付着物
1027	16SE6　1～3層	D_3	15.0	－	3.0		すのこ痕	25	細砂少	
1028	16SK34　埋土	D_3	14.0	－	2.0			20	細砂少	
1029	16SK41　埋土	D_2	13.0	－	3.1		すのこ痕	80	細砂少	継ぎ目
1030	16SK33　埋土	D_2	13.4	－	3.1		すのこ痕	50	細砂少	外底指凹み
1031	16SE6　1～3層	D_3	13.2	－	(2.8)		すのこ痕	45	細砂多	
1032	16SE6　4層	D_3	14.8	－	2.7		すのこ痕	100	細砂少	
1033	16SE6　1層	D_2	13.2	－	(2.5)			30	細砂多	
1034	16SD13　埋土（ⅢG5d）	D_3	13.0	－	(3.0)			20	細・粗少多	継ぎ目、口縁部なで不明瞭
1035	16SD15　埋土（ⅢG4b）	D_2	13.1	－	2.1			30	細砂多	
1036	16SK43　埋土	D_2	13.0	－	(2.4)			20	細砂少	
1037	16SE6　1～3層	D_3	14.0	－	3.0		すのこ痕	40	細砂多	
1038	16SE6　3層	D_3	12.7	－	3.0		すのこ痕	80		
1039	16SE6　1～3層	D_3	12.2	－	2.7		すのこ痕	60	細砂少	継ぎ目
1040	16SE6　埋土上部	D_3	9.6	－	1.8			80		タール状付着物（内・外底）
1041	16SE7　埋土	D_3	9.6	－	1.9			10	細砂少	
1042	16SE6　1～3層	D_3	10.0	－	1.9			20	細砂少	
1043	16SE6　4層	D_3	10.0	－	2.2			95	細砂多	継ぎ目

第65図　12世紀のかわらけ②



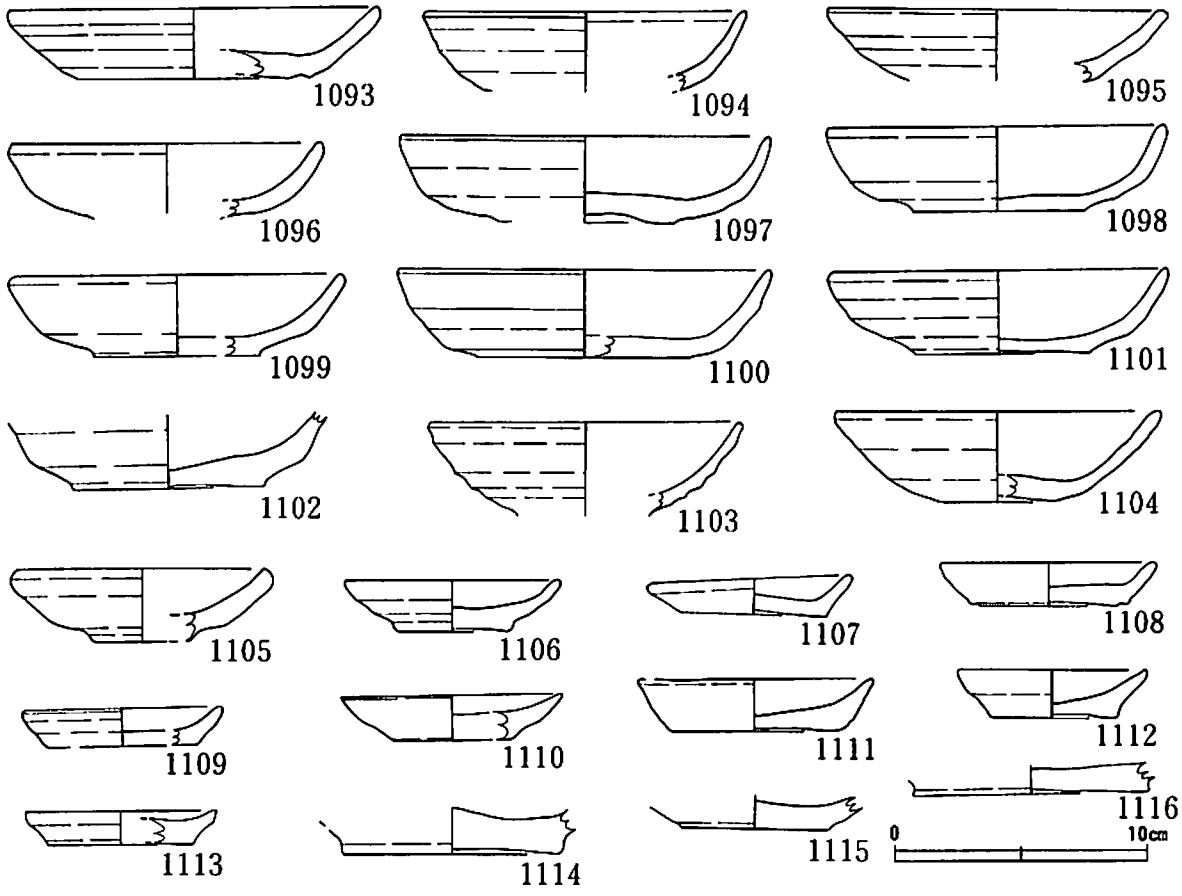
番号	出土位置	分類	法量（cm）			内面ナデ	外底（すのこ痕）	遺存度（%）	胎土	備考
			口径	底径	高さ					
1044	16SE6　1～3層	D3	8.8	－	1.9			45	細砂少	
1045	16SD15　埋土　ⅢG5b	D3	8.9	－	(1.7)			35	細砂少	
1046	16SE6　1層	D3	9.2	－	1.9		すのこ痕	100	細砂多	
1047	16SK38　埋土	D3	9.0	－	1.9			85	細砂多	継ぎ目
1048	16SK52　埋土	D3	9.4	－	(1.7)			15	細砂多	内面に煤付着
1049	16SE6　2層	D3	9.0	－	2.0			100	細砂多	
1050	ⅢG2c　Ⅰ層	D3	8.6	－	1.6			30	細砂多	継ぎ目
1051	16SD13　埋土（ⅢG5b）	D3	(9.5)	－	(2.05)			20	細砂多	継ぎ目
1052	16SE6　3層	D3	8.8	－	2.1	木	すのこ痕	95		歪み著しい
1053	16SE6　1層	D3	8.4	－	1.6			60	細砂少	継ぎ目
1054	16SD15　埋土	D3	8.2	－	1.1			50	細砂多	
1055	16SK28　埋土	D3	(8.6)	－	(1.6)			20	細砂多	外底指凹み、継ぎ目
1056	16SE14　埋土	D2	8.0	－	1.5			20	細砂少	
1057	16SE14　埋土	D3	8.4	－	1.6			80	細砂少	口縁に煤付着
1058	16SK34　埋土	D3	8.2	－	(1.5)			25	細砂少	外底に指紋？
1059	16SK17　1層	D3	7.6	－	1.1			15	細砂多	
1060	ⅡG9g　Ⅰ層	D4	16.0	－	4.0			20	細砂多	指凹み
1061	16SK31　埋土	D4	15.6	－	(3.1)		すのこ痕	25	細砂多	
1062	16SK50　埋土	D4	11.5	－	(2.5)			15	細・粗砂少	煤付着
1063	ⅢG1c　Ⅰ層	D4	15.6	－	(3.5)		すのこ痕	25	細砂多	中央指凹み
1064	ⅢG1i　Ⅰ層	D4	15.0	－	4.0			30	細砂少	指凹み著しい
1065	16SE14　埋土	D4	13.0	－	3.2	木？	すのこ痕	90		指紋
1066	16SE6　1層	D4	15.0	－	(2.4)			25	細砂少	継ぎ目、内底に煤付着
1067	16SE14　埋土	D4	(14.0)	－	(3.4)	木？	すのこ痕	65	細砂少	
1068	16SK20　埋土	D4	13.8	－	(3.1)			20	細砂少	

第66図　12世紀のかわらけ③



番号	出土位置	分類	法量（cm）			内面ナデ	外底（すのこ痕）	遺存度（%）	胎土	備考
			口径	底径	高さ					
1069	16SE6　1～3層	D4	(14.0)	－	4.2			15	細砂少	焼成前に穿孔、歪み著しい
1070	16SK31　埋土	D4	14.4	－	(3.1)			15	細砂多	
1071	16SE6　1層	D4	13.0	－	2.3		すのこ痕	35	細砂多	継ぎ目
1072	16SD17　埋土（ⅢG5e）	D4	14.4	－	(3.0)			20	細砂少	
1073	16SK41　埋土	D4	13.6	－	(2.7)			15	細砂少	
1074	16SK33　埋土	D4	12.8	－	3.4		すのこ痕	20	細砂少	
1075	16SD13　埋土	D4	14.9	－	2.2			25	細砂少	底面に指紋
1076	16SD15　埋土	D4	13.9	－	(2.5)			25	細砂多	
1077	16SE12　埋土	D4	15.0	－	(2.8)			10	細砂多	
1078	16SE6　埋土上部	D4	12.8	－	2.1		すのこ痕	45	細砂少	中央指凹み
1079	16SE6　埋土上部	D4	13.2	－	2.9		すのこ痕	25	細砂少	
1080	16SK37　埋土	D4	11.2	－	(2.2)			15	細砂少	継ぎ目
1081	16SE12　埋土	D4	12.0	－	(2.0)			10	細砂多	
1082	16SE6　埋土上部	D4か	10.0	－	2.0			80	細砂多	継ぎ目
1083	16SK31　埋土	D4	8.8	－	1.9			15	細砂多	外底指凹み
1084	16SE6　1～3層	D4	10.0	－	(1.5)		すのこ痕	25	細砂少	
1085	16SE6　1層	D4	10.2	－	(1.8)			15	細砂少	
1086	16SK9　埋土	D4	10.5	－	1.3			10		
1087	16SE6　4層	D4	8.9	－	2.0		すのこ痕	90	細砂多	継ぎ目
1088	16SK42　埋土	D4	8.4	－	2.0			60	細砂多	歪み著しい
1089	16SE12　埋土	D4	9.0	－	1.7			15	細砂多	
1090	16SD12　埋土（ⅢG4c）	D4	8.8	－	(1.1)			15	細砂多	
1091	16SE14　埋土	D4	8.0	－	1.5			25		
1092	16SE6　埋土上部	D4	8.2	－	1.8		すのこ痕	50		

第67図　12世紀のかわらけ④



番号	出土位置	分類	法量（cm）			内面ナデ	外底（すのこ痕）	遺存度（%）	胎土	備考
			口径	底径	高さ					
1093	16SE9　5層	ロクロ	14.8	9.2	2.8		すのこ痕	25	粗砂少	
1094	16SE6　埋土	ロクロ	12.6	－	3.1			20	細砂少	
1095	16SD12　埋土（ⅢG4c）	ロクロ	13.5	－	2.5			15	細砂多	
1096	16SE6　1～3層	ロクロ	12.4	－	(2.8)			25	細砂多	
1097	16SD2　埋土	ロクロ	(14.8)	－	(3.4)		すのこ痕	45	細砂少	右回り
1098	16SE6　3層	ロクロ	13.6	6.8	3.3			95	細砂少	右回り
1099	ⅢG4b　Ⅰ層	ロクロ	13.0	6.6	3.2			20	細砂多	
1100	16SE9　1～2層	ロクロ	(15.0)	(8.4)	(3.5)			40		右回り
1101	16SE6　1層	ロクロ	13.6	7.1	3.3			85	細砂多	右回り
1102	16SK21　埋土	ロクロ	－	7.6	(2.7)			40	粗砂多	
1103	16SE9　5層	ロクロ	(12.4)	－	3.5			20	粗砂多	右回り
1104	16SE9　埋土	ロクロ	12.8	4.8	3.6			25	粗砂多	右回り
1105	16SE1　1層	ロクロ	10.5	4.0	2.7			20	粗砂少	右回り
1106	16SE9　5層	ロクロ	(12.4)	－	3.5			20	粗砂多	
1107	16SE14　埋土	ロクロ	8.0	5.8	1.5			90	細砂少	
1108	16SK20　埋土	ロクロ	8.2	6.4	1.7			70	細砂多	
1109	16SD13　埋土（ⅢG5b）	ロクロ	(8.0)	－	(1.5)			15	細砂少	
1110	16SD12　埋土（ⅢG4f）	ロクロ	8.8	5.7	1.8		すのこ痕	20	細砂少	右回り歪み著しい
1111	16SE9　5層	ロクロ	9.4	6.6	2.1			60		
1112	16SK49　埋土	ロクロ	7.2	5.2	1.9			40	細砂多	風化により回転不明
1113	16SE6　1層	ロクロ	7.6	5.8	1.3			15	粗砂多	
1114	16SE9　5層	ロクロ	－	8.8	1.7			45	粗砂少	右回り
1115	16SK4　埋土	ロクロ	－	5.8	(0.9)		すのこ痕	40		右回り
1116	16SE9　5層	ロクロ	－	9.4	1.2			35	粗砂少	内底ナデ？

第68図　12世紀のかわらけ⑤

（2）ロクロかわらけ（第68図　写真図版48、49）

ロクロかわらけは手づくねかわらけに比較すると出土点数が少ない。ある程度まとまった量出土しているのは16ＳＥ６である。図示したのは５点である。点数が少ないため確実なことは言えないが、その器形から12世紀後半に属すると推測される。1103は器形が古代の土師器に似るが一応かわらけと考えた。1106はその器形から12世紀前半に属する可能性もある。

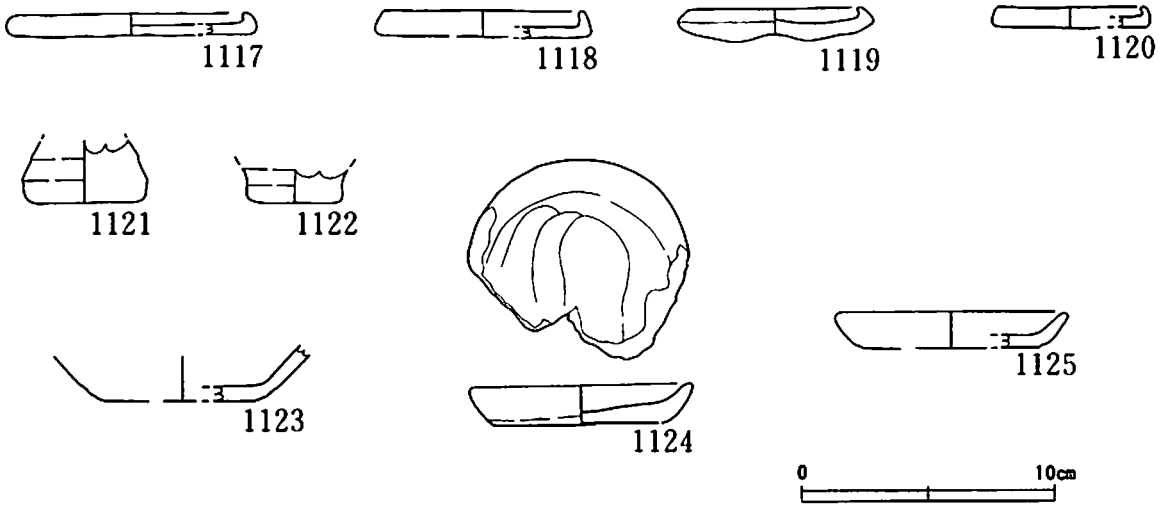
（3）内折れ、柱状高台かわらけ（第69図　写真図版49）

1119～1120は内折れかわらけである。胎土は手づくねかわらけと共通する。

1121、1122は柱状高台かわらけの高台部の破片である。ロクロ調整である。

（4）13～14世紀のかわらけ（第69図　写真図版49）

藤原氏滅亡後の13～14世紀に属するかわらけが少量出土した。当概期のかわらけと判断できたのは３点である。いずれもロクロ調整で小型のものである。胎土は砂が多量に混入している。1124は内底面にナデ調整が施される。1123、1125は内底面の大部分を欠損しているためナデの有無は判別できない。八重樫忠郎氏の分類・編年では３ｂ類に相当し、13世紀後半～14世紀前半の年代になる。当該期のかわらけは16次調査区の東北本線を挟んだ西側の13次調査区でも出土している。



番号	出土位置	分類	法量（cm）			内面ナデ	外底（すのこ痕）	遺存度（%）	胎土	備考
			口径	底径	高さ					
1117	ⅢＧ４ｃ　Ⅰ層	内折れ	10.0	9.2	0.9			10	細砂少	小破片
1118	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	内折れ	(8.0)	(8.6)	(1.0)			25	細砂少	外底指凹み
1119	16ＳＥ９　１～２層	内折れ	7.8	－	1.2			20		外底指凹み
1120	ⅢＧ３ｈ　Ⅰ層	内折れ	5.8	6.4	1.3			10		小破片
1121	16ＳＤ13　埋土（ⅢＧ４ｃ）	柱状高台	－	－	2.4			20	粗砂少	柱状高台
1122	16ＳＤ12　埋土（ⅢＧ４ｂ）	柱状高台	－	－	2.2			20	粗砂多	
1123	16ＳＥ10　埋土	ロクロ	－	(6.0)	(2.2)			5	粗砂多	13C後半～14C前半のものか
1124	16ＳＥ12　埋土	ロクロ	8.9	6.8	1.5	指ナデ		60	粗砂多	13C後半～14C前半のものか
1125	16ＳＥ10　埋土	ロクロ	8.8	(7.0)	1.4			5	粗砂多	13C後半～14C前半のものか

第69図　12Ｃのかわらけ⑥　13、14世紀のかわらけ

3　国産陶器（第70～77図　写真図版49～56）

国産陶器には12世紀の常滑産陶器、渥美産陶器、須恵器系陶器、13～14世紀の東北地方在地産瓷器陶器、13世紀～14世紀の東海産陶器がある。

（1）常滑産陶器（第70～72図　写真図版49～51）

常滑産陶器は片口鉢4点、壺1点、三筋壺4点、広口壺2点、甕25点を図示した。図示した常滑産陶器の重量は合計3.7kgである。他に報告書不掲載の常滑産陶器は65片（1.5kg）がある。合計すると泉屋遺跡16次調査全体で常滑産陶器は101片（5.2kg）になる。

2001はほぼ完形の片口鉢である。高台の出っ張りが小さい。2002は片口部の破片である。2005は三筋壺に似る器形であるが、沈線部分が存在せず、三筋壺とすべき確証がない。底辺部にヘラケズリが施される。2006、2007は細い2本線の沈線がほどこされる三筋壺片である。2010、2011は底径と体部の立上がりの角度から広口壺と判断した。体部破片の場合、広口壺と甕の判別は難しい場合が多い。2012～2036は甕の破片である。口縁～頸部の部位以外の破片は形式の判別が難しい。2012は2型式（赤羽根・中野生産地編年）に属する。

（2）渥美産陶器（第73～75図　写真図版51～55）

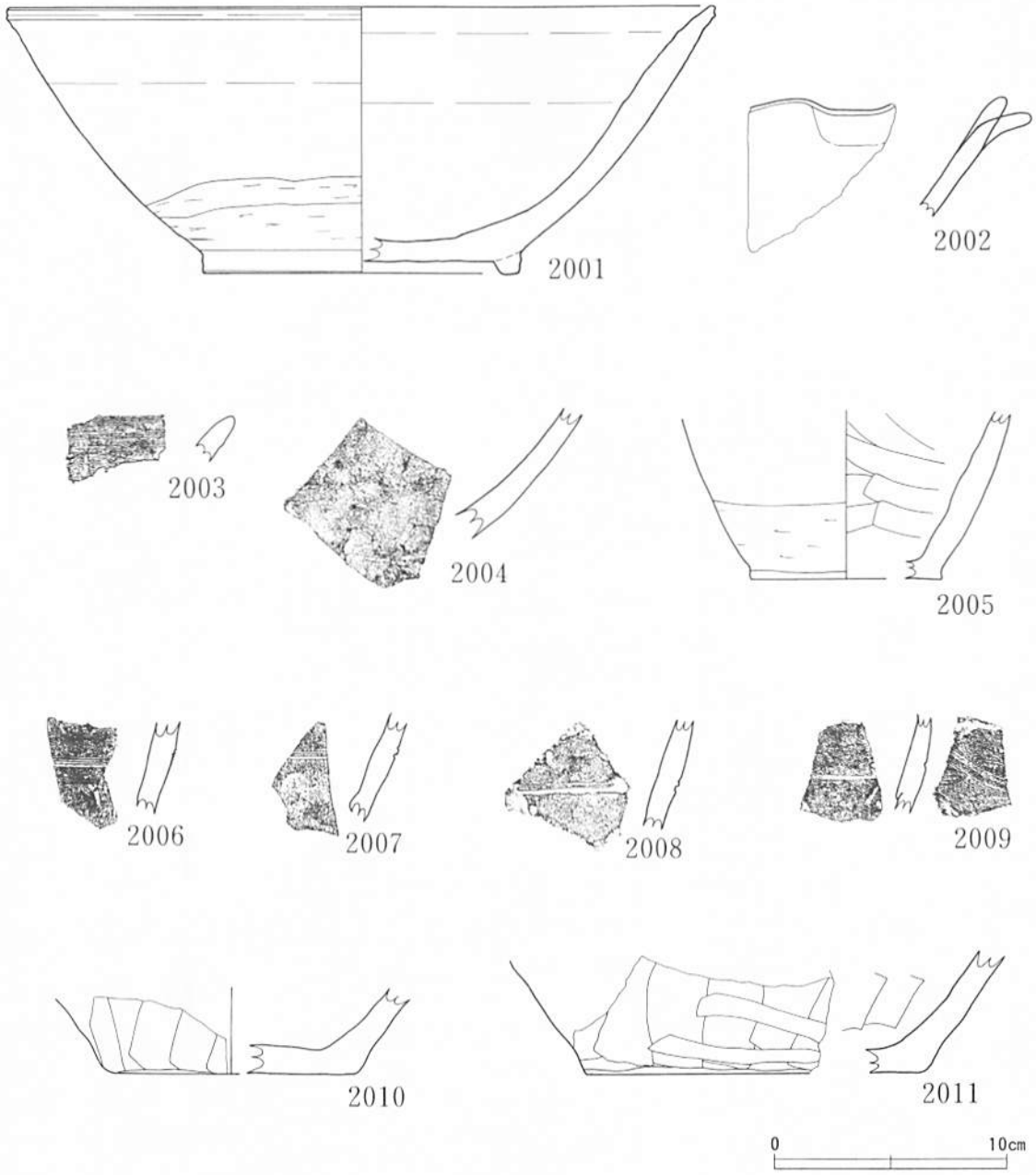
渥美産陶器は山茶碗1点、片口鉢4点、壺1点、甕39点を図示した。図示した渥美産陶器の重量は合計5.2kgである。他に報告書不掲載の渥美産陶器は35片（0.9kg）がある。合計すると泉屋遺跡16次調査全体で渥美産陶器は80片（6.1kg）になる。

2037は山茶碗の口縁部破片である。口縁部がくびれ、外反する。2039の片口鉢は底辺部に回転ヘラケズリが施されるが、胎土から渥美産と判断した。2042は小型の壺片である。2043は甕の口縁部破片である。口縁部が頸部から立ち上がった後に外反している。2044は頸部から口縁部がそのまま外反する。2045は口縁部の長さが割合に短い。2046は頸部の破片である。内面の継ぎ目痕が顕著である。甕の体部破片2060は外面に垂下する沈線状のものがある。意図的な文様の可能性もある。

（3）須恵器系陶器（第76図　写真図版55）

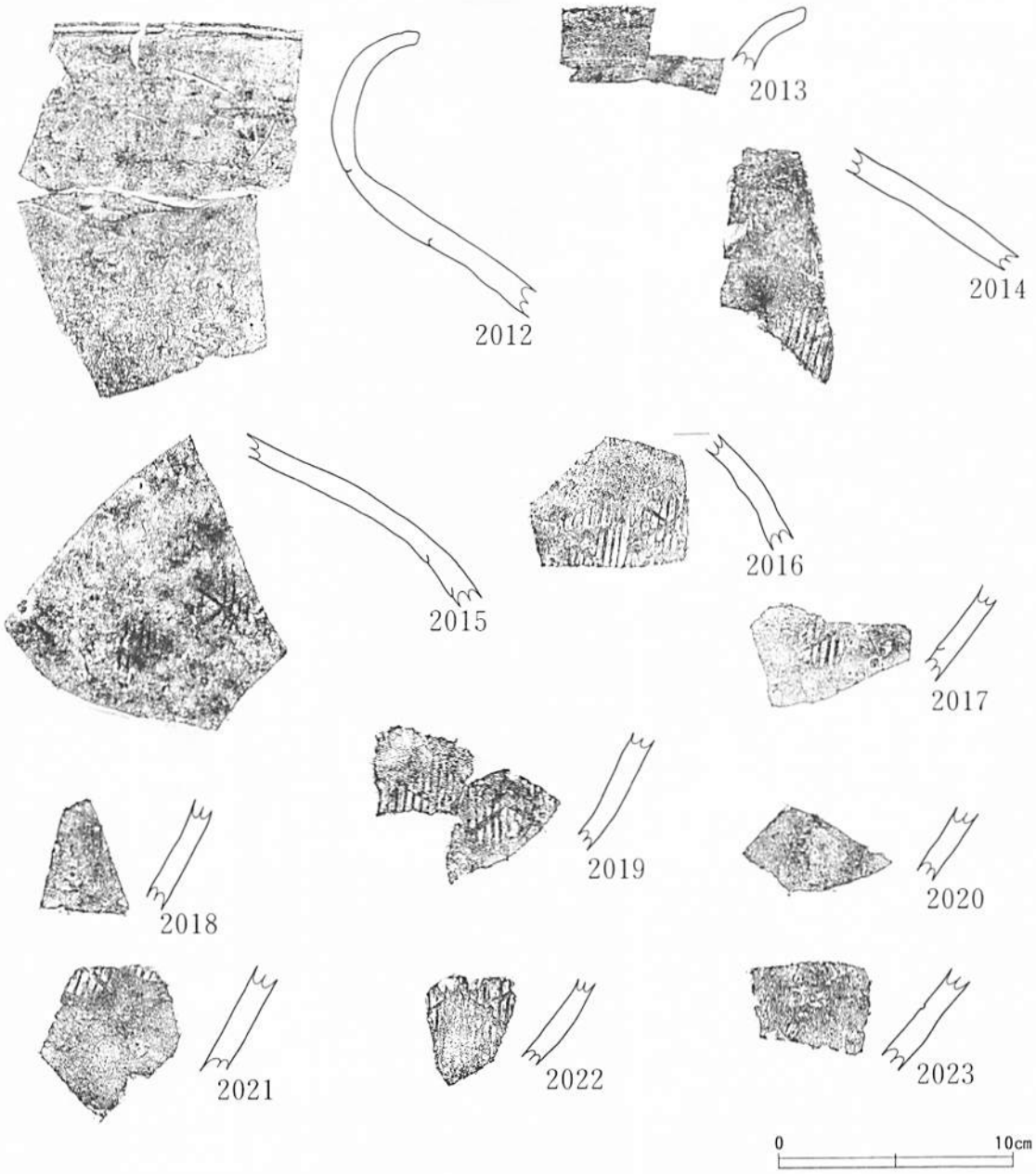
12世紀の須恵器系陶器は片口鉢4点、波状文四耳壺1点、甕5点を図示した。図示した須恵器系陶器の重量は合計0.8kgである。他に報告書不掲載の須恵器系陶器は7片（0.1kg）がある。合計すると泉屋遺跡16次調査全体で須恵器系陶器は17片（0.9kg）になる。

2082～2085は同一個体の片口鉢の可能性が高い。いずれも褐灰色で砂が少量混じる共通した胎土である。2083は片口部の破片である。2085の内面は磨耗しておりツルツルしている。2086は波状文四耳壺の底辺部の破片である。沈線による波状文の一部が確認できる。底面には静止、または回転速度の遅い糸切痕が存在する。2087と2088は胎土、色調が共通しており同一個体と思われる。肩部破片の2087にはタタキ目が存在せず、また2088の上半部にもタタキ目が存在せず、体部の上半にはタタキ目が施されない甕と判断される。2089～2091も2087、2088と胎土、タタキ目が共通し同一個体の可能性が高いが確証はない。2091は底部近くの破片である。これら甕破片の内面の当て具痕は明瞭ではない。



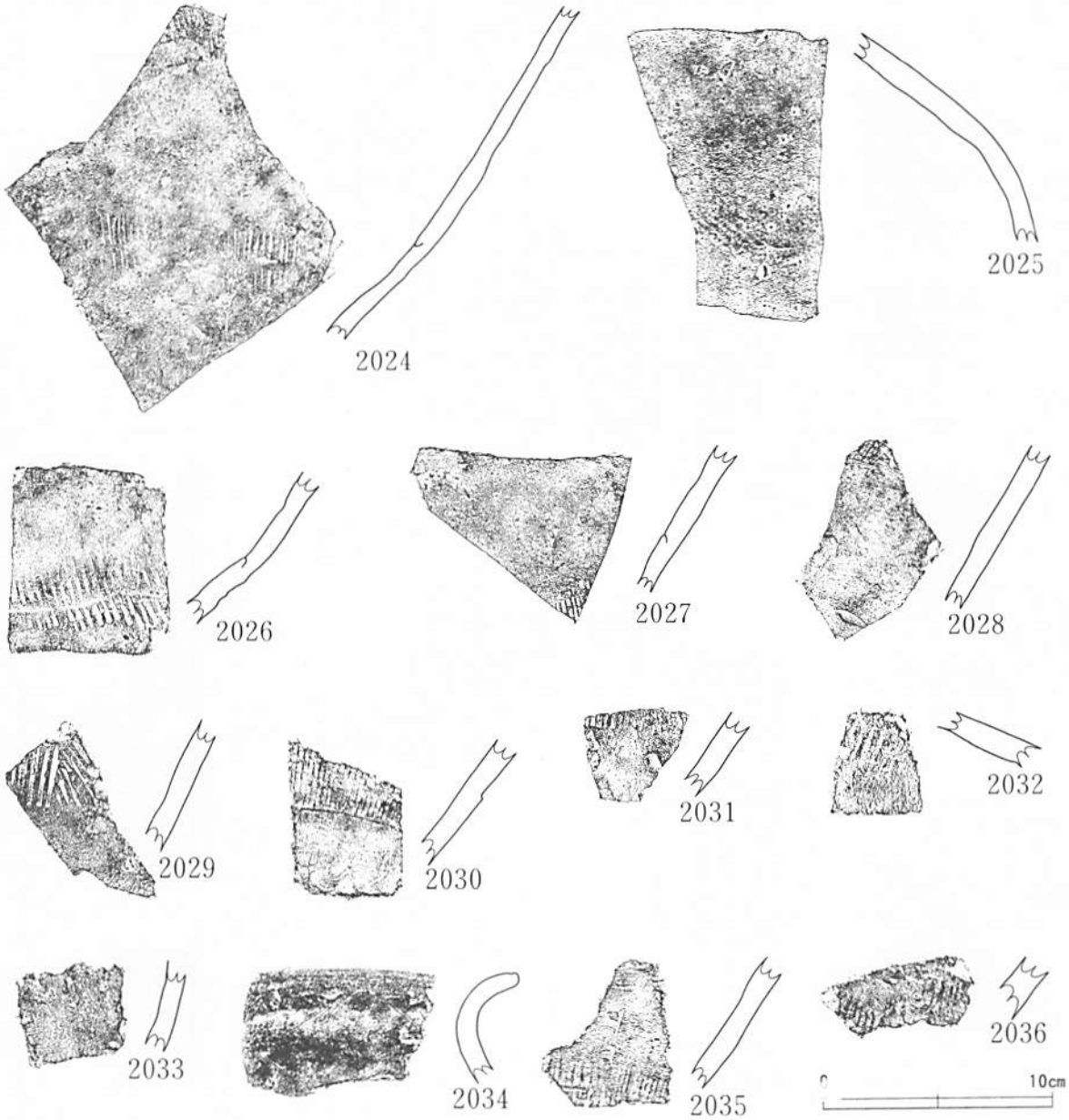
番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	そ　の　他
2001	常滑	片口鉢	完形	P1031　埋土（ⅢＧ５ｄ）	２型式	灰白	口唇部面取り
2002	常滑	片口鉢	口縁	16ＳＥ６　１～３層西側	２型式	にぶい赤褐	16SE6　4層からも出土　片口部の破片
2003	常滑	片口鉢	口縁	ⅢＧ６ｄ　Ⅰ層	２～３型式	褐灰	
2004	常滑	片口鉢	体部	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	２～３型式	灰褐	
2005	常滑	壺	下半～底	16ＳＫ42　埋土	２～３型式	にぶい赤褐	ⅢG5b　Ⅰ層からも出土　三筋壺と思われる
2006	常滑	三筋壺	体部	16ＳＫ16　埋土	２～３型式	灰褐	
2007	常滑	三筋壺	体部	P260　掘方	２型式	にぶい赤褐	沈線２本線
2008	常滑	三筋壺	体部	ⅢＧ９ｈ　Ⅰ層	２型式	褐灰	沈線２本線
2009	常滑	三筋壺	体部	ⅢＧ１ｄ　Ⅰ層	２～３型式	灰褐	
2010	常滑	広口壺	底部	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧⅣｂ）	２型式	にぶい黄橙	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層からも出土
2011	常滑	広口壺	底部	16ＳＫ20　埋土	２～３型式	黒褐	

第70図　常滑産陶器①



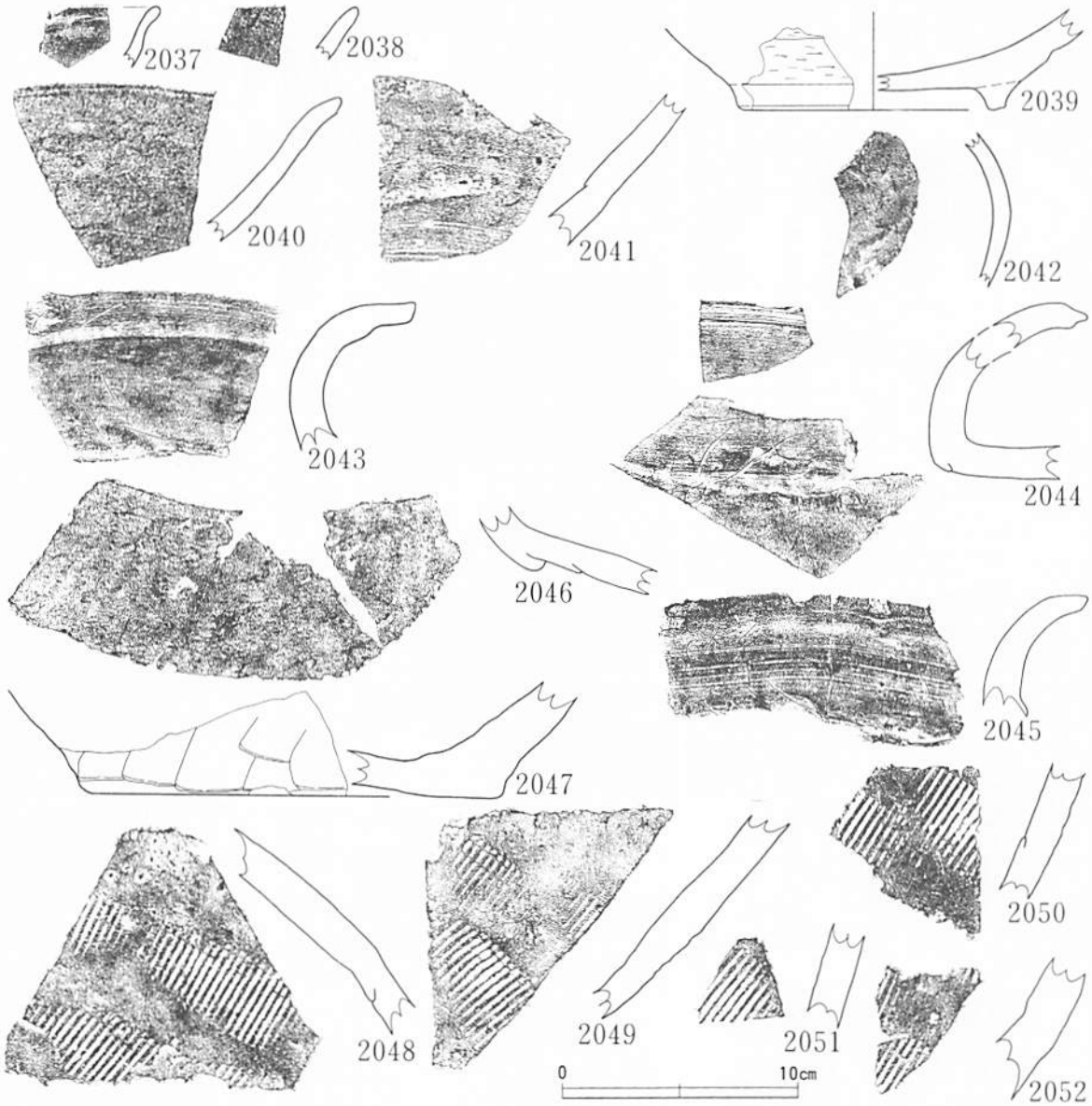
番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	そ　の　他
2012	常滑	甕	口縁部	16ＳＥ11　１層	２型式	オリーブ灰	ⅢＧ５ｂ　Ⅰ層からも出土
2013	常滑	甕	口縁部	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	２～３型式	暗褐	
2014	常滑	甕	体部上半	16ＳＤ15　埋土（ⅡＧ７ｈ）	２～３型式	オリーブ灰	
2015	常滑	甕	体部上半	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	２～３型式	オリーブ灰	
2016	常滑	甕	体部上半	16ＳＥ14　埋土	２～３型式	暗赤褐	
2017	常滑	甕	体部下半	16ＳＥ14　埋土	２～３型式	にぶい赤褐	
2018	常滑	甕	体部下半	ⅢＧ２ｄ　Ⅰ層	２～３型式	にぶい赤褐	
2019	常滑	甕	体部下半	ⅢＧ４ｃ　Ⅰ層	２～３型式	にぶい赤褐	ⅢＧ５ｃ　Ⅰ層からも出土
2020	常滑	甕	体部下半	16ＳＥ６　１層	２～３型式	暗赤褐	
2021	常滑	甕	体部下半	16ＳＥ11　１層	２～３型式	灰褐	
2022	常滑	甕	体部下半	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層	２～３型式	暗赤褐	
2023	常滑	甕	体部下半	ⅢＧ３ｂ　Ⅰ層	２～３型式	にぶい赤褐	

第71図　常滑産陶器②



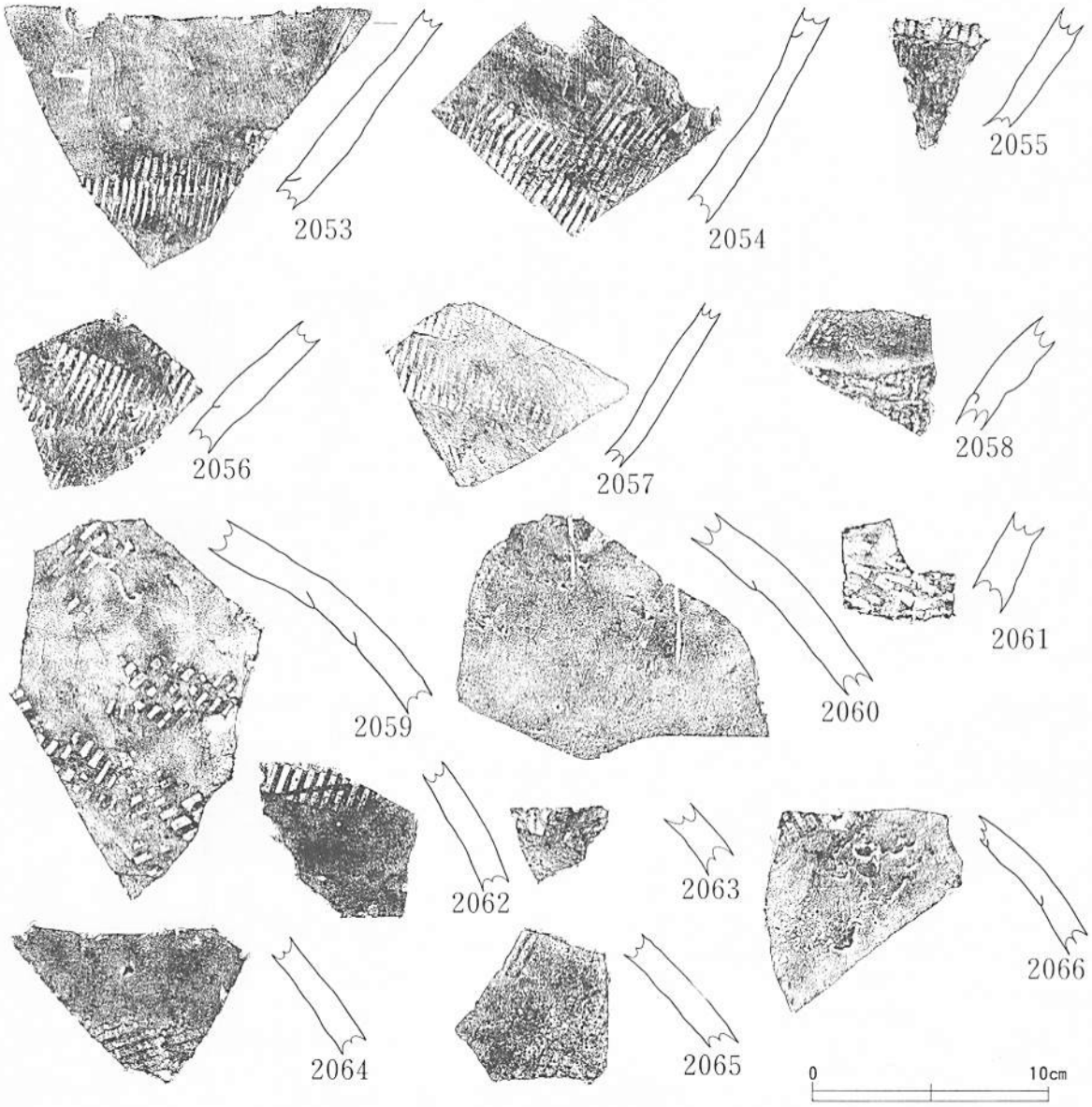
番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	そ の 他
2024	常滑	甕	体部下半	16ＳＥ６　上部東側　埋土	２～３型式	にぶい赤褐	
2025	常滑	甕	体部上半	Ｐ114　掘方	２～３型式	灰オリーブ	
2026	常滑	甕	体部下半	16ＳＥ９　５層西側	２～３型式	灰黄褐	
2027	常滑	甕	体部下半	16ＳＫ31　埋土	２～３型式	褐灰	
2028	常滑	甕	体部下半	16ＳＤ13　埋土（ⅡＧ４ｇ）	２～３型式	暗赤褐	
2029	常滑	甕	体部下半	16ＳＫ20　埋土	２～３型式	灰褐	
2030	常滑	甕	体部下半	ⅢＧ６ｇ　Ⅰ層	２～３型式	褐灰	
2031	常滑	甕	体部下半	ⅢＧ６ｄ　Ⅰ層	２～３型式	褐	
2032	常滑	甕	体部下半	16ＳＥ８　埋土	２～３型式	オリーブ黄	
2033	常滑	甕	体部下半	16ＳＥ８　埋土	２～３型式	灰褐	
2034	常滑	甕	口縁部	16ＳＥ11　１層	２～３型式	オリーブ灰	
2035	常滑	甕	体部下半	ⅡＧ８ｇ　Ⅰ層	２～３型式	黒褐	
2036	常滑	甕	体部下半	16ＳＥ11　１層	２～３型式	にぶい赤褐	

第72図　常滑産陶器③



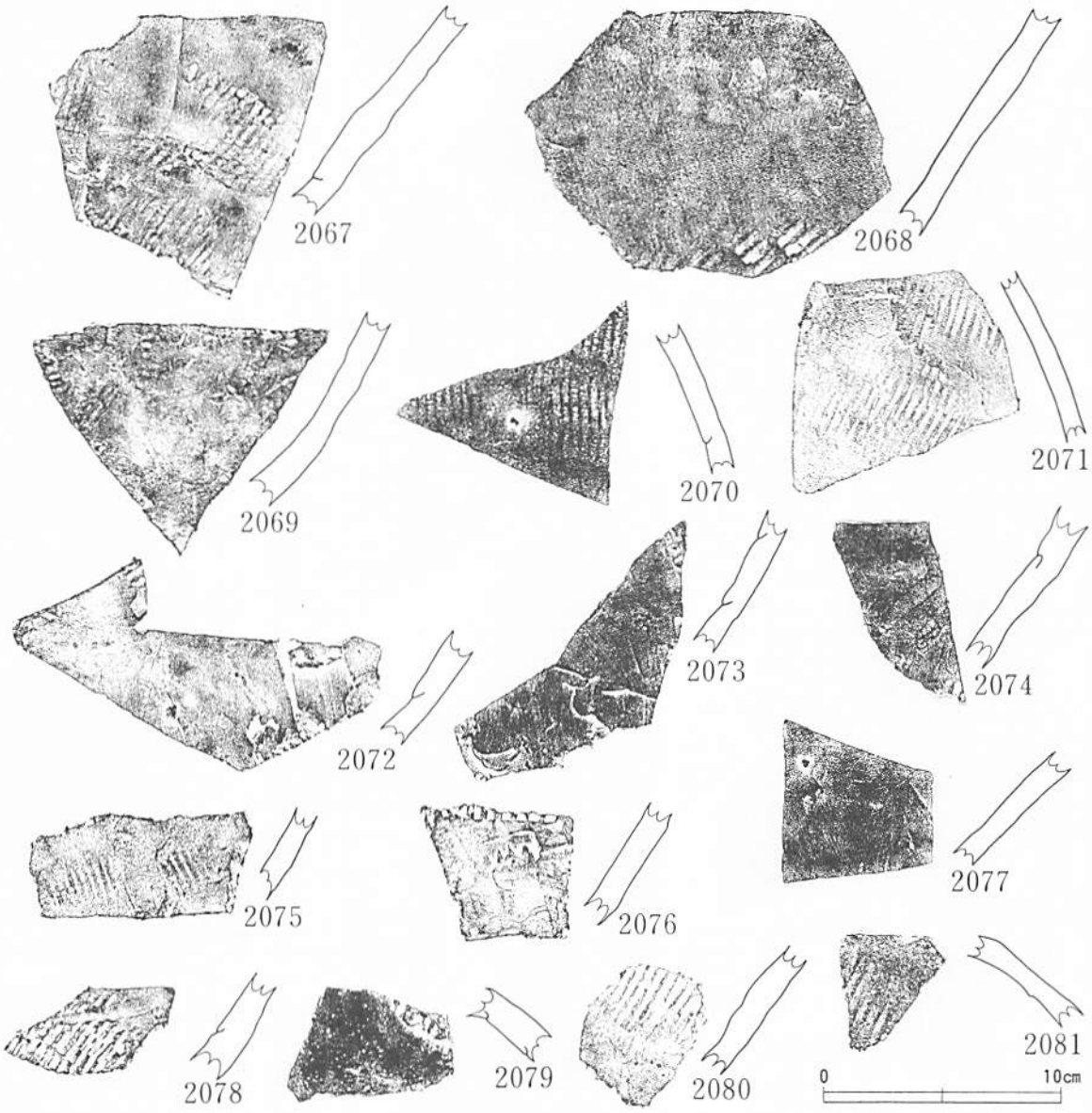
番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	そ の 他
2037	渥美	山茶碗	口縁部	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	12Ｃ	褐灰	
2038	渥美	片口鉢	口縁部	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	12Ｃ	黒褐	
2039	渥美	片口鉢	口縁部	ⅢＧ５ｅ　Ⅰ層	12Ｃ	灰	
2040	渥美	片口鉢	体部	Ｐ473　掘方	12Ｃ	灰白	
2041	渥美	片口鉢	底部	ⅢＧ６ｄ　Ⅰ層	12Ｃ	灰黄	
2042	渥美	壺	体部	ⅢＧ４ｇ　Ⅰ層	12Ｃ	灰オリーブ	
2043	渥美	甕	口縁部	ⅢＧ４ｇ　Ⅰ層	12Ｃ前半	黒褐	
2044	渥美	甕	口縁部	16ＳＥ６　１～３層西側	12Ｃ	黒褐	
2045	渥美	甕	頸部	Ｐ834　掘方	12Ｃ	褐灰	
2046	渥美	甕	口縁部	16ＳＤ６　埋土	12Ｃ	オリーブ黒	Ｐ527、Ｐ528掘方からも出土
2047	渥美	甕	底部	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	12Ｃ	灰	ⅢＧ５ｂ　Ⅰ層からも出土
2048	渥美	甕	体部上半	16ＳＥ13　埋土	12Ｃ	暗オリーブ	
2049	渥美	甕	体部下半	ⅢＧ５ｂ　Ⅰ層	12Ｃ	にぶい褐	
2050	渥美	甕	体部下半	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層	12Ｃ	黒褐	
2051	渥美	甕	体部下半	16ＳＤ15　埋土	12Ｃ	黒褐	
2052	渥美	甕	体部下半	ⅢＧ０ｈ　Ⅰ層	12Ｃ	褐灰	

第73図　渥美産陶器①



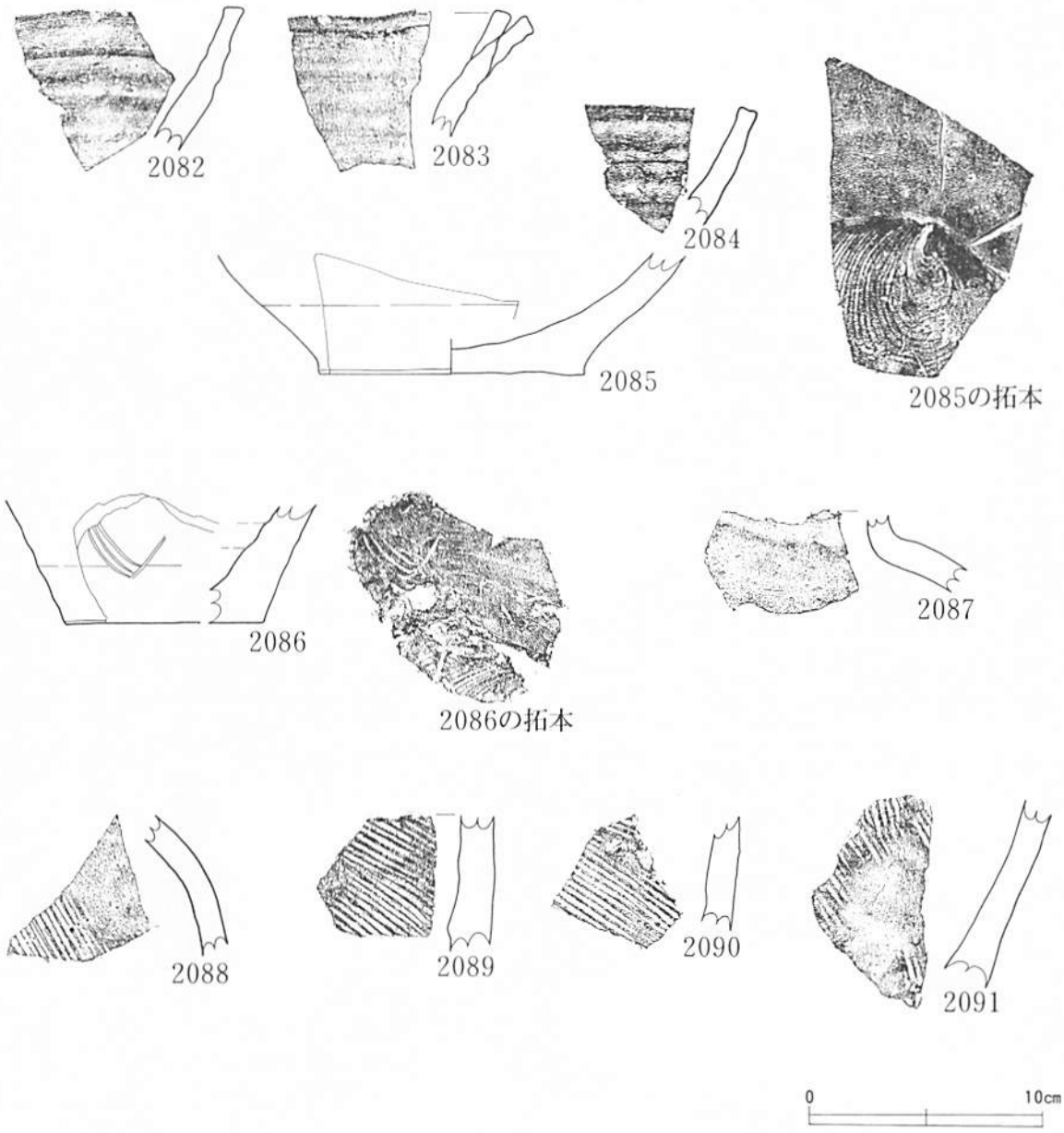
番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	そ　の　他
2053	渥美	甕	体部下半	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	12Ｃ	褐灰	ⅢＧ５ｂ　Ⅰ層からも出土
2054	渥美	甕	体部下半	16ＳＫ28　埋土	12Ｃ	褐灰	
2055	渥美	甕	体部下半	16ＳＫ20　埋土	12Ｃ	褐灰	
2056	渥美	甕	体部下半	ⅢＧ５ｂ　Ⅰ層	12Ｃ	褐灰	
2057	渥美	甕	体部下半	16ＳＥ６　３層	12Ｃ	灰	
2058	渥美	甕	体部下半	ⅢＧ７ｇ　Ⅰ層	12Ｃ	褐灰	
2059	渥美	甕	体部上半	16ＳＥ９　５層東側	12Ｃ	褐灰	
2060	渥美	甕	体部上半	16ＳＥ６　３層	12Ｃ	黄灰	外面の沈線状のもの模様か
2061	渥美	甕	体部下半	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層	12Ｃ	褐灰	
2062	渥美	甕	体部上半	16ＳＥ13　埋土	12Ｃ	黄灰	
2063	渥美	甕	体部上半	ⅢＧ５ｂ　Ⅰ層	12Ｃ	黄褐	
2064	渥美	甕	体部上半	16ＳＥ13　埋土	12Ｃ	褐灰	
2065	渥美	甕	体部上半	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	12Ｃ	オリーブ灰	
2066	渥美	甕	体部上半	16ＳＥ14　埋土	12Ｃ	灰褐	

第74図　渥美産陶器②



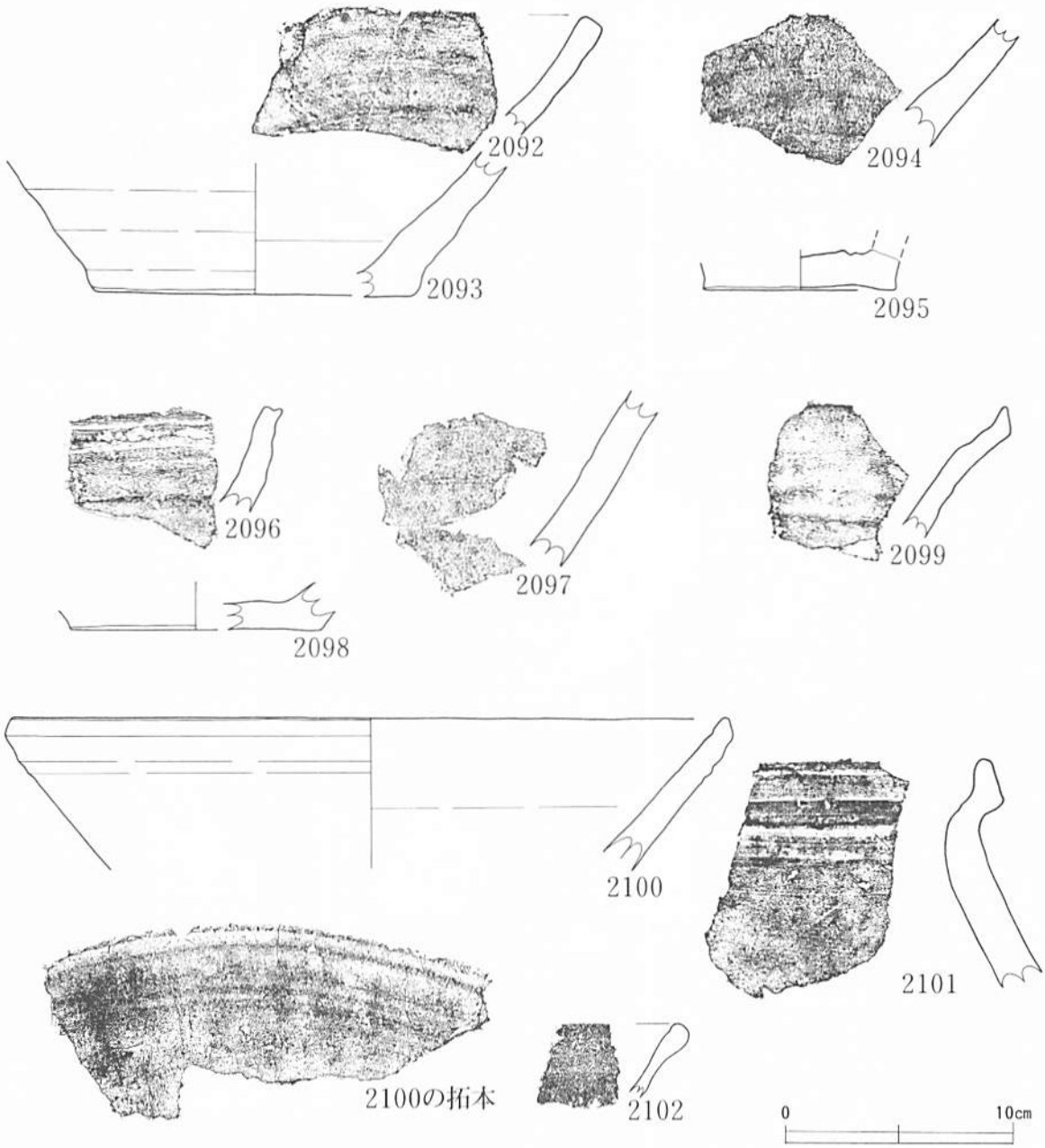
番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	そ　の　他
2067	渥美	甕	体部下半	ⅢＧ６ｂ　Ⅰ層	12C	褐灰	
2068	渥美	甕	体部下半	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	12C	灰褐	
2069	渥美	甕	体部下半	16ＳＥ６　１～３層東側	12C	灰白	
2070	渥美	甕	体部上半	16ＳＥ６　１層	12C	灰	
2071	渥美	甕	体部上半	16ＳＥ６　３層西側	12C	褐灰	
2072	渥美	甕	体部下半	16ＳＫ28　埋土	12C	褐灰	ⅢＧ４ｈ　Ⅰ層からも出土
2073	渥美	甕	体部下半	16ＳＫ40　埋土	12C	灰黄褐	
2074	渥美	甕	体部下半	16ＳＫ17　１層	12C	褐灰	
2075	渥美	甕	体部下半	16ＳＫ11　１層	12C	黄褐	
2076	渥美	甕	体部下半	ⅢＧ７ｅ　Ⅰ層	12C	にぶい褐	
2077	渥美	甕	体部下半	16ＳＫ41　埋土	12C	褐灰	
2078	渥美	甕	体部下半	ⅢＧ６ｇ　Ⅰ層	12C	褐灰	
2079	渥美	甕	体部上半	16ＳＥ９　１～２層西	12C	オリーブ黒	
2080	渥美	甕	体部下半	Ｐ494　掘方	12C	灰黄褐	
2081	渥美	甕	体部上半	16ＳＥ５　埋土上部	12C	灰白	

第75図　渥美産陶器③



番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	そ　の　他
2082	須恵器系	片口鉢	口縁部	16ＳＥ14　埋土	12Ｃ後半	褐灰	82～85同一個体か
2083	須恵器系	片口鉢	口縁部	16ＳＥ14　埋土	12Ｃ後半	褐灰	
2084	須恵器系	片口鉢	口縁部	16ＳＥ12　埋土	12Ｃ後半	褐灰	
2085	須恵器系	片口鉢	体部～底	16ＳＤ15　埋土	12Ｃ後半	褐灰	底面回転糸切
2086	須恵器系	壺	底部	ⅢＧ２ｂ　Ⅰ層	12Ｃ後半	灰黄	波状文四耳壺　底面回転糸切
2087	須恵器系	甕	肩部	16ＳＥ10　２層西	12Ｃ後半か	灰	
2088	須恵器系	甕	体部	16ＳＤ38　埋土	12Ｃ後半か	褐灰	
2089	須恵器系	甕	体部	ⅢＧ５ａ　Ⅰ層	12Ｃ後半か	灰	
2090	須恵器系	甕	体部	16ＳＥ11　１層	12Ｃ後半か	褐灰	
2091	須恵器系	甕	体部	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	12Ｃ後半か	灰	

第76図　須恵器系陶器



番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	そ　の　他
2092	瓷器系	片口鉢	口縁部	16ＳＥ13　埋土	13Ｃ後半～14Ｃ前半	暗赤褐～赤褐色	片口部分のひねり有り
2093	瓷器系	片口鉢	体部～底	16ＳＥ13　埋土	13Ｃ後半～14Ｃ前半	暗赤褐色	92と同一個体　内面摩耗
2094	瓷器系	片口鉢	体部	16ＳＥ13　埋土	13Ｃ後半～14Ｃ前半	赤褐～暗赤褐色	92、93と胎土似る
2095	瓷器系	壺？	底部	16ＳＥ13　埋土	13Ｃ後半～14Ｃ前半	暗赤褐色	小型の壺の破片か
2096	瓷器系	鉢	口縁部	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層	13Ｃ後半～14Ｃ前半	灰赤褐～橙色	破断面は橙色を呈する
2097	瓷器系	鉢	体部	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層	13Ｃ後半～14Ｃ前半	橙色	96と同一個体　内面やや摩耗
2098	瓷器系	壺？	底部	ⅢＧ６ｂ　Ⅰ層	13Ｃ後半～14Ｃ前半	橙～赤褐色	壺または甕の底部破片か
2099	瓷器系	鉢	口縁部	ⅢＧ４ｂ　Ⅰ層	13Ｃ後半～14Ｃ前半	赤褐～暗い赤褐色	片口部分のひねり有り
2100	瓷器系	鉢	口縁部	16ＳＥ10　埋土	13Ｃ後半～14Ｃ前半	赤褐色	破断面は灰色で硬い
2101	瓷器系	甕	口縁部	16ＳＥ13　埋土	13Ｃ後半～14Ｃ前半	赤褐～赤灰色	破断面赤褐色
2102	常滑か	鉢	口縁部	ⅢＧ５ｂ　（攪乱）	13Ｃ後半～14Ｃ前半	灰色	産地はっきりせず

第77図　中世の瓷器系陶器

（4）中世の瓷器系陶器（第77図　写真図版56）

13世紀後半～14世紀前半と推測される東北地方在地産の瓷器系陶器が出土している。2092～2094、2096、2097、2100は片口鉢、2095、2098は壺？、2101は甕である。図示したものが出土した全点である。具体的な窯は不明であるが、宮城県北付近の窯が想定される。これらの胎土は一様ではなく、複数以上の窯の製品の可能性もある。2092～2095、2099は砂粒が多くザラザラした感じの胎土、2094、2096～2098、2100、2101は砂粒が多く緻密な感じの胎土である。2092、2093は同一個体の片口鉢である。2093の内面はかなり磨耗している。2093の底面は砂粒が付着している。切り離し痕は確認できない。2095、2098は底部の破片である。器種は確定できないが壺と推測される。2099は片口鉢の破片である。口縁部が歪んでおり片口部付近の破片である。2096と2097は胎土が非常に類似しており同一個体の破片と推測される。2097の下半部はやや磨耗している。2101は甕の口縁部破片である。かなり大型の甕と推測される。

2102は産地を確定できないが、東海産の片口鉢片と推測される。常滑産の可能性が高い。時期を特定できないが13世紀中葉頃と推測される。

4　中国産磁器（第78～80図　写真図版57、58）

中国産磁器は12世紀に属する物と、13～14世紀に属するものがある。12世紀に属するとした磁器の中には、製作年代が11世紀にさかのぼる可能性を有するものがあるが、平泉においてはこれらの使用年代を12世紀と考え、12世紀の磁器に含めて扱っている。また16世紀末～17世紀初頭の中国産染付も出土しているが、それらは近世の磁器として扱っており、ここではふれていない。

（1）12世紀の中国産磁器（第78、79　図　写真図版57、58）

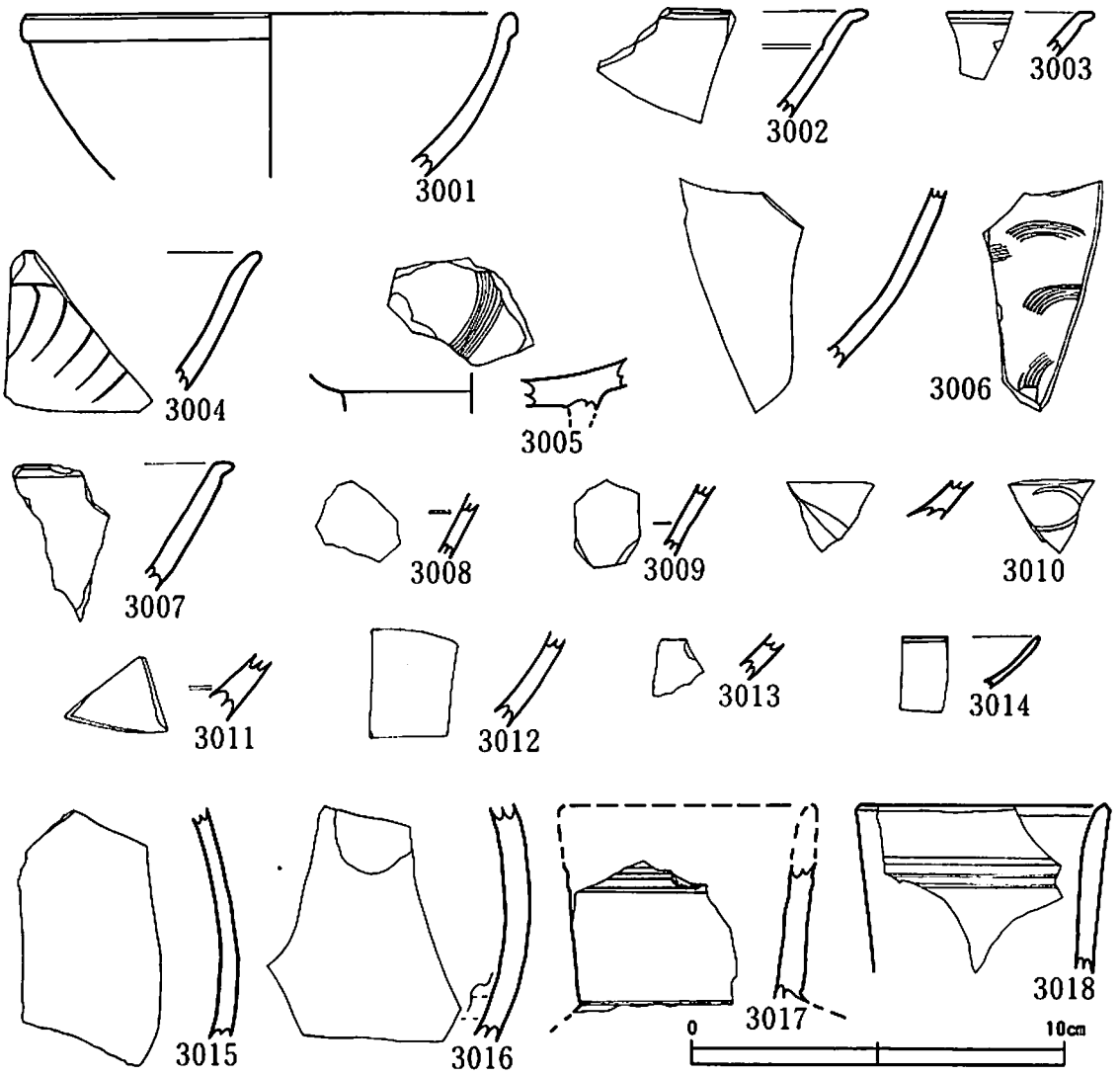
12世紀（11世紀）の中国産磁器は白磁碗15点、白磁皿１点、白磁壺10点、白磁水注２点、青磁碗６点、青白磁皿１点、青白磁合子１点、青白磁梅瓶１点を図示した。これらが出土した全点である。

3001は玉縁の碗で化粧土が施される。碗で化粧土があるのはこの個体だけである。3004は外面に斜位に櫛描きが施される。他の白磁と異なり真白な色調を呈する。3005、3006は内面に櫛描きが施される。3005の高台部は露胎である。3010は内面に箆描きが施される。3014は化粧土が施された皿である。

3015、3016の白磁壺は化粧土の有無を判別し難い。どちらも内面は施釉されている。3017、3018は同一個体の白磁水注である。どちらも２次被熱しており化粧土の有無を判別し難い。3017には把手の付け根の隆起が認められる。また3018の口唇部は無釉で、蓋の存在が想定される。3019～3026は化粧土のないⅢ系（大宰府分類）の壺である。3019は内底面にリング状の灰の付着がみられる。3027～3030は龍泉窯の青磁碗である。3027は外面に櫛描が施される。3028は内面に劃花文が施される。3031、3032は同安窯の青磁碗である。3032は厚く黄色がかった釉がかかる。3033～3035は青白磁である。3033は非常に薄手の造りの皿である。3034は合子の下である口唇部は無釉である。3035の梅瓶は内面に漆に類似する皮膜が付着している。

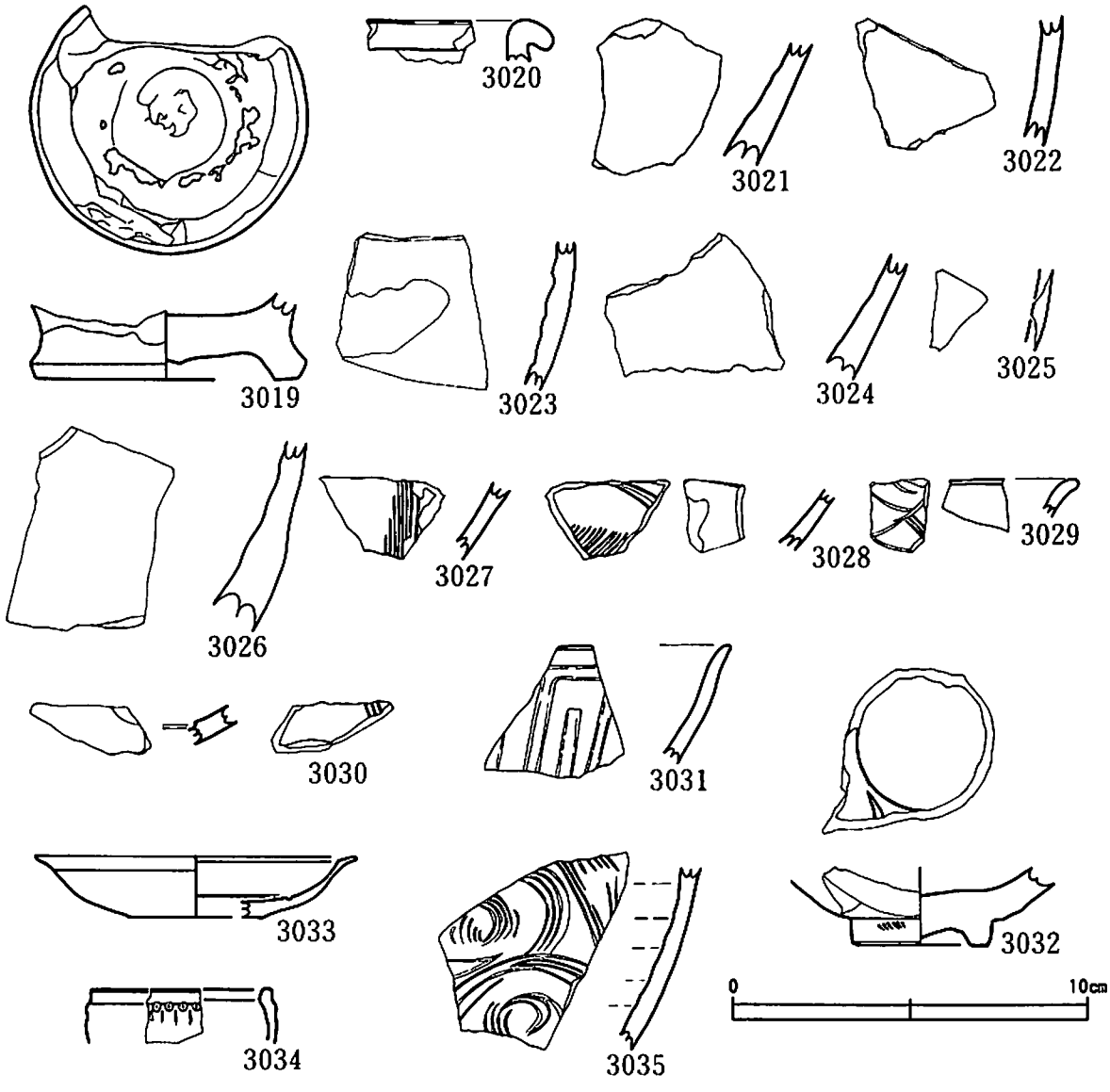
（2）中世の中国産磁器（第80図　写真図版58）

13世紀後半～14世紀前半に属する中国産磁器が出土している。白磁壺２点、青磁碗２点である。3036は大型の壺である。透明度の強い釉が掛かっている。3037は白磁壺の下半部の破片である。3038は龍泉窯の鎬連弁文の青磁碗である。3039は細片ではっきりしないが、龍泉窯の鎬連弁文の碗と推測される。



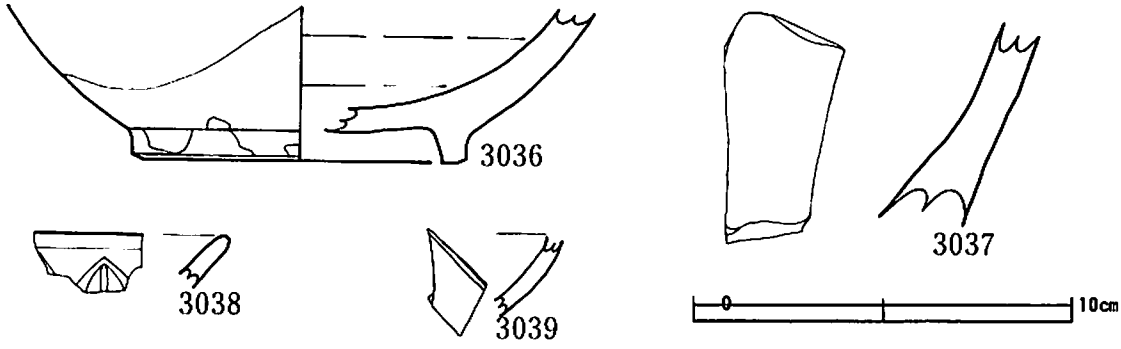
番号	種類	器種	部位	出土位置	大宰府分類	大宰府の年代観	そ　の　他
3001	白磁	碗	口縁部	ⅡG8g　Ⅰ層	Ⅱ1	11C後半～12C前	
3002	白磁	碗	口縁部	16SE6　埋土上部	Ⅴ	12C	
3003	白磁	碗	口縁部	ⅢG5c　Ⅰ層	Ⅴ	12C	
3004	白磁	碗	口縁部	16SE12　埋土	Ⅱ2b	12C	
3005	白磁	碗	底部	16SE10　埋土	Ⅴ4b	12C	
3006	白磁	碗	体部	ⅡG9d　Ⅰ層	Ⅴ4bか	12C	
3007	白磁	碗	口縁部	16SK20　埋土	Ⅶ	12C	
3008	白磁	碗	体部	ⅢG6c　Ⅰ層	ⅣかⅤかⅦ	12C	
3009	白磁	碗	体部	P512　掘方	ⅣかⅤかⅦ	12C	
3010	白磁	碗	体部	ⅢG5b　表土	Ⅶか	12C	
3011	白磁	碗	体部	16SE6　埋土	ⅣかⅤかⅦ	12C	
3012	白磁	碗	体部	16SE6　Ⅰ層	ⅣかⅤかⅦ	12C	壺の可能性もあり
3013	白磁	碗	体部	ⅢG2d　Ⅰ層	ⅣかⅤかⅦ	12C	
3014	白磁	Ⅲ	口縁部	排土中	ⅥかⅦ	11C後半～12C前	化粧土あり
3015	白磁	壺	体部	16SE15　埋土（ⅢG5b）	Ⅱ系	11C後半～12C前	化粧土あり
3016	白磁	壺	体部	P548　掘方	Ⅱ系	11C後半～12C前	化粧土あり
3017	白磁	水注	口縁部	16SD13　埋土	Ⅱ系	11C後半～12C前	化粧土あり18と同一個体
3018	白磁	水注	口縁部	16SK9　埋土	Ⅱ系	11C後半～12C前	化粧土あり二次被熱している

第78図　中国産磁器①



番号	種類	器種	部位	出土位置	大宰府分類	大宰府の年代観	その他
3019	白磁	壺	底部	P385 掘方	Ⅲ系	12C	
3020	白磁	壺	口縁部	16SE3 1層	Ⅲ系	12C	
3021	白磁	壺	体部	ⅢG6c Ⅰ層	Ⅲ系	12C	
3022	白磁	壺	体部	P1049 掘方	Ⅲ系	12C	
3023	白磁	壺	体部	ⅢG5b Ⅰ層	Ⅲ系	12C	
3024	白磁	壺	体部	P808 掘方	Ⅲ系	12C	
3025	白磁	壺	体部	P137 掘方	Ⅲ系	12C	
3026	白磁	壺	体部	16SE13 埋土	Ⅲ系	12C	
3027	青磁	碗	体部	16SE10 2層	龍泉Ⅰ6	12C	
3028	青磁	碗	体部	ⅢG4a Ⅰ層	龍泉Ⅰ	12C	
3029	青磁	碗	口縁部	ⅢG5b Ⅰ層	龍泉Ⅰ	12C	
3030	青磁	碗	体部	ⅢG5a Ⅰ層	龍泉Ⅰ	12C	
3031	青磁	碗	口縁部	16SE12 1層	同安Ⅰか Ⅲ	12C	
3032	青磁	碗	底部	P284 掘方	同安Ⅰ	12C	
3033	青白磁	皿	完形	16SK32 埋土	青白磁	12C	
3034	青白磁	合子	口縁部	P376 掘方	青白磁	12C	
3035	青白磁	梅瓶	体部	P385 掘方	青白磁	12C末～13C	

第79図　中国産磁器②



番号	種類	器種	部位	出土位置	大宰府分類	大宰府の年代観	その他
3036	白磁	壺？	底部	16SE11　埋土	？	？	13C～14Cのものか
3037	白磁	壺	体部	16SE13　埋土	？	？	13C～14Cのものか
3038	青磁	碗	口縁部	16SE10　1層	龍泉Ⅰ5	13C後半～14C前	
3039	青磁	碗	体部	16SE40　埋土	龍泉Ⅰ5	13C後半～14C前	

第80図　中国産磁器③

5　瓦（第81図）

瓦は軒丸瓦２点、軒平瓦１点、平瓦３点が出土した。出土した全点を図示した。いずれも12世紀に属するものである。出土点数が非常に少なく、当調査区付近に瓦葺き建物が存在していた可能性は低い。4001は陽刻剣頭連珠文、4002は陰刻剣頭文の軒丸瓦である。どちらも12世紀後半に属する。4003は陽刻の唐草文の軒平瓦である。12世紀中葉以前に属する可能性が高い。

6　近世の陶磁器（第82～90図　写真図版59～67）

近世の陶磁器は、中国産、朝鮮産、肥前産、瀬戸美濃産、大堀相馬産、東北地方在地産などがある。ここでは16世紀代の陶磁器も便宜的に近世に含めて報告する。

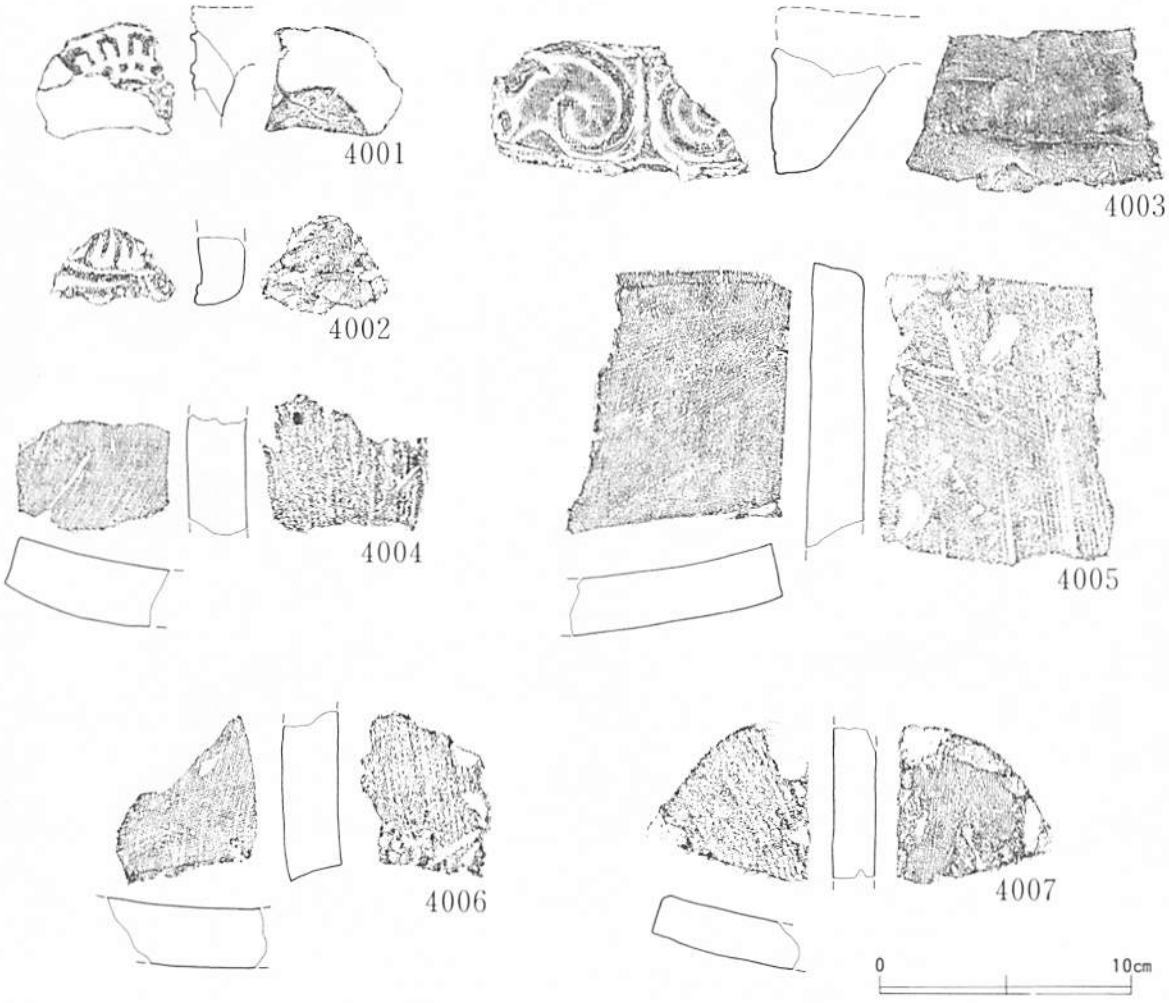
（１）近世の磁器（第82～84図　写真図版59～60）

近世の磁器は碗24点、皿24点、小杯１点、香炉１点、瓶３点、花生１点、水滴１点を図示した。

5001～5005は中国産の染付磁器碗である。５点とも染付の文様構成が共通する碗である。5001と5002、5003～5005がそれぞれ同一個体と推測される。釉が厚く掛かり漳州窯系の碗と推測される。5006～5009は中国産の染付磁器皿である。5006、5008は端反りの皿である。5009は染付けの色調から景徳鎮産と推測される。

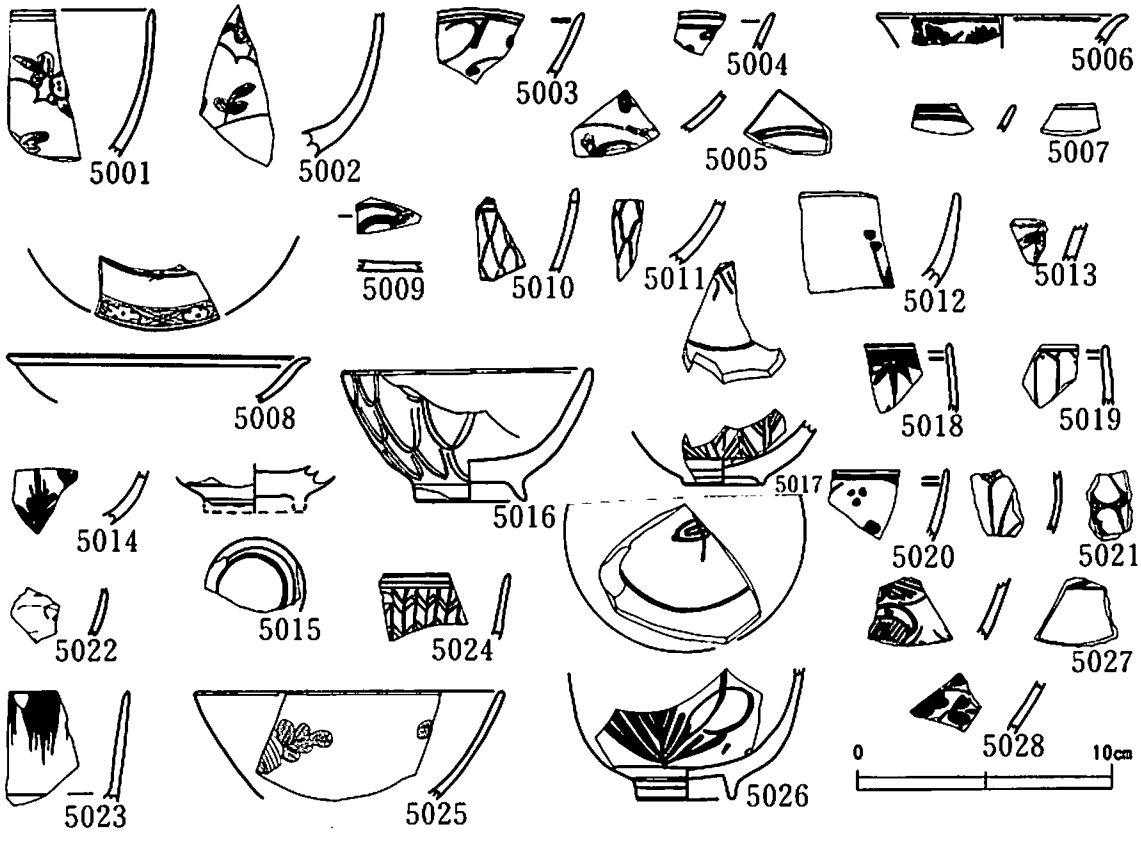
5010、5011は肥前産の碗である。一重網目文が施される。17世紀後半のものである。5012～5016は肥前産の1690～1780年代の碗である。5015は染付の色調が青灰色を呈している。5017～5024は18世紀後半～19世紀前半の肥前産の碗である。5021は内面にも染付が施されている。5025は19世紀前半の肥前産の碗と推測される。5026、5027は平清水産の碗である。染付は工業コバルトの色を呈する。5028は瀬戸産の碗と推測される。染付が盛り上がっている。

5029は17世紀前半の肥前産の皿である。底辺部に砂が付着する。5045、5046は細片のためはっきりしないが17世紀前半（大橋編年Ⅱ期）の肥前産皿と推測される。5030～5044は1690～1780年の肥前産の皿である。



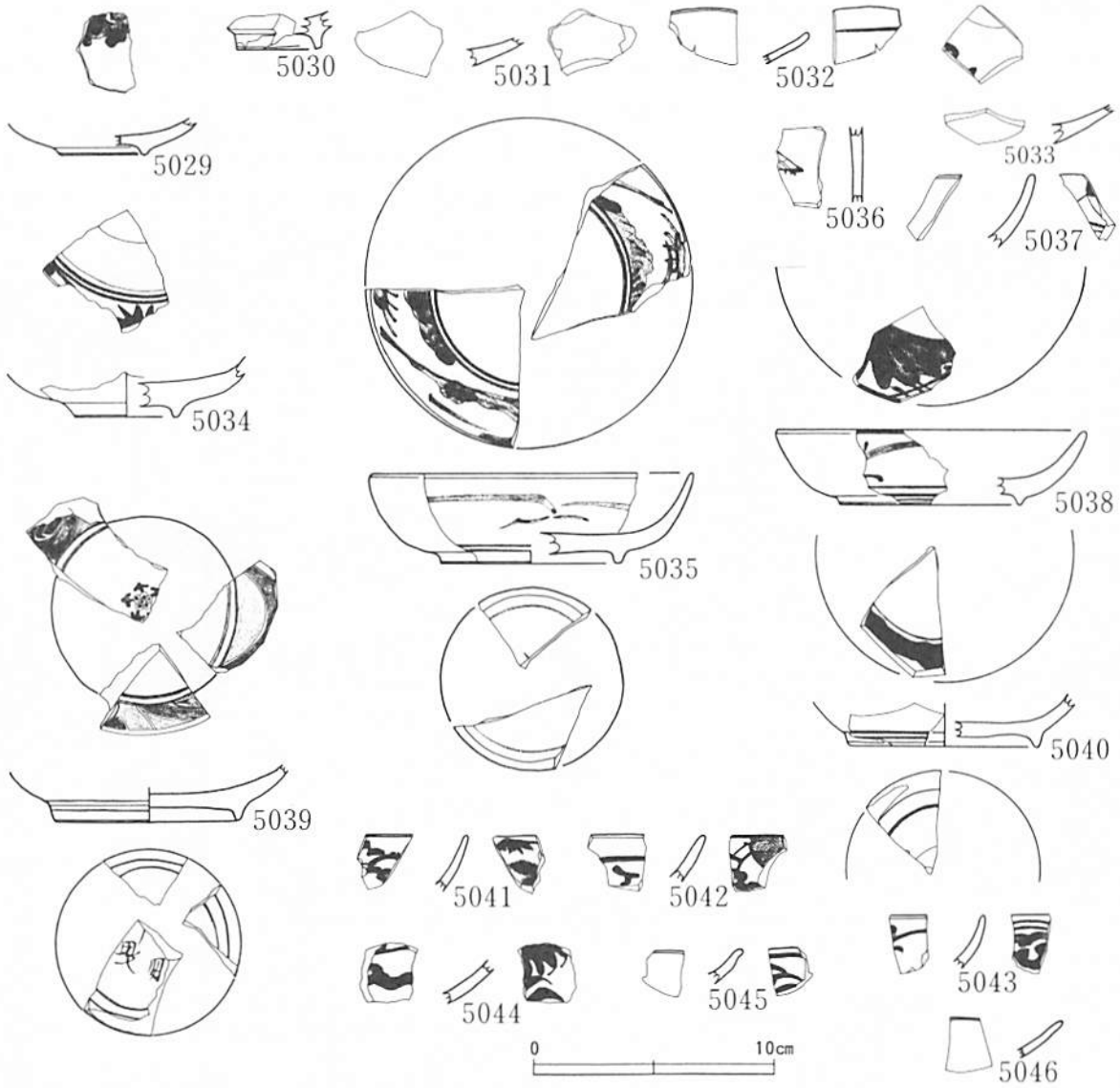
番号	種別	出土位置	文　　様
4001	軒丸瓦	P290　掘方	陽刻　剣頭連珠文
4002	軒丸瓦	P433　掘方	陰刻　剣頭文
4003	軒平瓦	16SD12　埋土	陽刻　唐草文
4004	平瓦	16SD7　埋土	
4005	平瓦	16SE5　埋土上部	
4006	平瓦	16SE6　5層	
4007	平瓦	16SE6　5層	

第81図　12世紀の瓦



番号	器種	出土位置	法量（cm）			胎土	釉薬 絵付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5001	碗	P425　掘方	－	－	(5.2)	白色　黒い粒	染付	中国	16C末～17C初	
5002	碗	P953　掘方	－	－	(4.9)	白色　黒い粒	染付	中国	16C末～17C初	1と同一個体か
5003	碗	P376　掘方	－	－	(2.5)	白色　黒い粒	染付	中国	16C末～17C初	釉が厚い　漳州窯系
5004	碗	ⅢG5b　Ⅰ層	－	－	(1.4)	白色　黒い粒	染付	中国	16C末～17C初	3、5と同一個体　漳州窯系
5005	碗	16SE5　埋土上部	－	－	(1.6)	白色　黒い粒	染付	中国	16C末～17C初	3、4と同一個体　漳州窯系
5006	皿	ⅢG4f　Ⅰ層	10.0	－	(1.2)	白色　黒い粒	染付	中国	16C？	端反りの皿
5007	皿	P772　掘方	－	－	(1.0)	白色　黒い粒	染付	中国	16C末～17C初？	
5008	皿	P425　掘方	12.0	－	(1.8)	白色　黒い粒	染付	中国	16C末～17C初？	
5009	皿	P425　掘方	－	－	(2.5)	白色　黒い粒	染付	中国	16C末～17C初？	景徳鎮産
5010	碗	P1037　掘方	－	－	(2.7)	白色	染付	肥前	17C後半	一重網目文
5011	碗	P1037　掘方	－	－	(2.5)	白色	染付	肥前	17C後半	一重網目文
5012	碗	ⅢG7e　Ⅰ層	－	－	(3.6)	白色	染付	肥前	1690～1780	
5013	碗	P555　掘方	－	－	(1.5)	白色	染付	肥前	1690～1780	
5014	碗	16SE12　埋土	－	－	(2.0)	白色	染付	肥前	1690～1780	
5015	碗	16SE2　埋土	－	(4.0)	(11.7)	灰色	染付	肥前	1690～1780	染付の色青灰色を呈する
5016	碗	16SE4　埋土	9.8	4.4	5.2	白色　黒い粒	染付	肥前	1690～1780	
5017	碗	ⅡG7g　Ⅰ層	－	3.2	(2.6)	白色	染付	肥前	18C末～19C初	
5018	碗	ⅢG1e　Ⅰ層	－	－	(2.6)	白色	染付	肥前	18C末～19C初	
5019	碗	ⅢG6a　Ⅰ層	－	－	(2.4)	白色	染付	肥前	18C末～19C初	
5020	碗	16SK20　埋土	－	－	(2.8)	白色	染付	肥前	18C末～19C初	
5021	碗	ⅢG2d　Ⅰ層	－	－	(2.4)	白色	染付	肥前	18C末～19C初	内面にも文様あり
5022	碗	16SE10　埋土	－	－	(1.9)	白色	染付	肥前	18C末～19C初	
5023	杯	ⅢG7g　Ⅰ層	－	－	(4.3)	白色	染付	肥前	18C末～19C初	筒形碗
5024	碗	ⅢG9h　Ⅰ層	－	－	(2.6)	白色	染付	肥前	18C末～19C初	筒形碗
5025	杯	16SE4　埋土	12.0	－	(4.2)	白色	染付	肥前	19C前半	
5026	碗	ⅡG9g　Ⅰ層	－	4.0	(5.1)	白色　ガラス質	染付	平清水	19C中葉	染付コバルト
5027	碗	16SE11　1層	－	－	(2.4)	白色　ガラス質	染付	平清水	19C中葉	染付コバルト
5028	碗	ⅡG9i　Ⅰ層	－	－	(2.0)	白色　ガラス質	染付	瀬戸	19C前半	染付が盛り上がっている

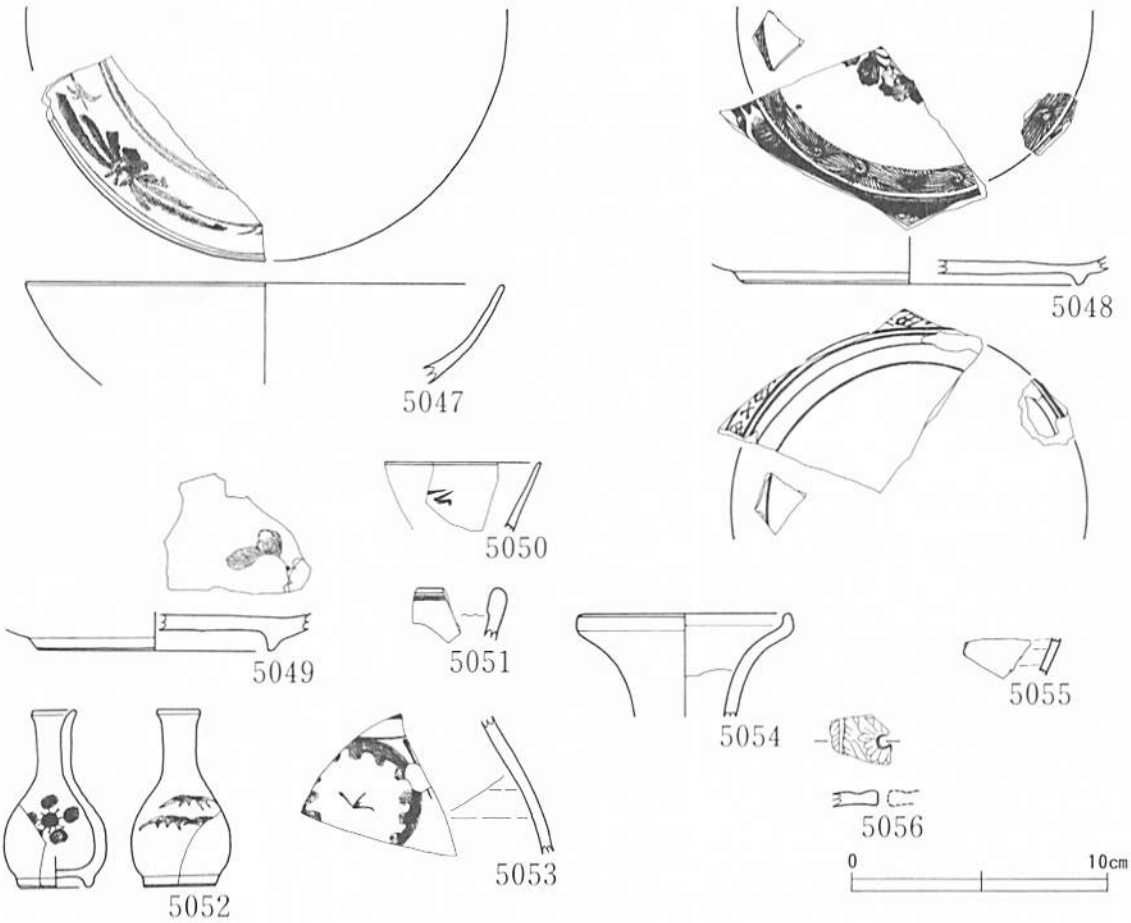
第82図　近世の磁器①



番号	器種	出土位置	法量（cm）			胎土	釉薬絵付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5029	皿	P512　掘方	－	3.6	(1.5)	白色	染付	肥前	17C前半	
5030	皿	16SD10　埋土	－	3.6	(1.5)	白色	染付	肥前	1690～1780	見込み蛇目釉薬剥ぎ
5031	皿	ⅡG9i　Ⅰ層	－	－	(1.1)	白色	染付	肥前	1690～1780	見込み蛇目釉薬剥ぎ
5032	皿	ⅢG1f	－	－	(1.3)	白色	染付	肥前	1690～1780	
5033	皿	ⅡG9i　Ⅰ層	－	－	(1.6)	白色	染付	肥前	1690～1780	見込み蛇目釉薬剥ぎ
5034	皿	16SE11　埋土	－	4.4	(2.0)	白色	染付	肥前	1690～1780	見込み蛇目釉薬剥ぎ
5035	皿	16SE5　埋土上部 16SK19　埋設箱内	13.4	7.6	3.8	白色　黒い粒	染付	肥前	1690～1780	2破片に分かれる 漆接ぎ
5036	皿	ⅡG7h　表土	－	7.6	3.2	白色	染付	肥前	1690～1780	底面の破片　外底に銘
5037	皿	16SD5　埋土	－	－	(3.0)	白色	染付	肥前	1690～1780	
5038	皿	ⅢG0h　Ⅰ層	12.8	－	3.0	白色	染付	肥前	1690～1780	口唇部に口紅
5039	皿	16SD7　南端部埋土	－	7.6	(2.3)	白色	染付	肥前	1690～1780	墨弾き、銘（大明年製）
5040	皿	16SK4　埋土	－	7.6	(2.1)	白色	染付	肥前	1690～1780	墨弾き
5041	皿	ⅢG7e　Ⅰ層	－	7.8	(2.3)	白色	染付	肥前	1690～1780	
5042	皿	西側　攪乱	－	－	(1.9)	白色	染付	肥前	1690～1780	
5043	皿	16SK19　埋設箱内	－	－	(2.2)	白色	染付	肥前	1690～1780	
5044	皿	ⅡG8g　Ⅰ層	－	－	(1.7)	白色	染付	肥前	1690～1780	大皿の破片か
5045	皿	P475　掘方	－	－	(1.4)	灰色	染付	肥前	17C前半？	肥前Ⅱ期の皿か
5046	皿	P484　掘方	－	－	(1.6)	灰色	染付か	肥前	17C前半？	肥前Ⅱ期の皿か

第83図　近世の磁器②

5035は破断面に漆が付着しており、漆継ぎがおこなわれている。5044は大皿の破片と推測される。5047～5049は19世紀前半の肥前産皿と推測される。5047は身の深い皿である。染付は青灰色を呈する。5048は大皿である。5050は肥前産の小杯である。5051は肥前産の香炉である。内面は口縁以外無釉である。5054は肥前産の青磁花生である。内面は口縁部以外無釉である。5052～5053、5055は肥前産の瓶である。いずれも内面は口縁部以外無釉である。5056は肥前産の水滴である。型おこしの製品である。



番号	器種	出土位置	法量（cm）			胎土	釉薬絵付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5047	皿	16ＳＫ20　埋土	19.0	－	(4.0)	白色	染付	肥前	19Ｃ前半	染付の色　青灰色
5048	皿	16ＳＥ５　埋土上部	－	13.2	(1.2)	白色	染付	肥前	19Ｃ前半	３破片からなる
5049	皿	16ＳＥ７　埋土上部	－	9.4	(1.5)	白色　黒い粒	染付	肥前	19Ｃ前半	
5050	小杯	16ＳＥ１　埋土	6.2	－	(2.7)	白色	染付	肥前	1690～1780	
5051	香炉	ⅢＧ４ｄ　Ⅰ層	－	－	(2.0)	白色	染付	肥前	1690～1780	内面口縁部のみ施釉
5052	瓶	16ＳＫ13　埋土	1.7	2.7	7.0	白色	染付	肥前	1690～1780	
5053	瓶	ⅡＧ７ｇ　Ⅰ層	－	－	(5.5)	白色	染付	肥前	1690～1780	内面下半無地
5054	花生	16ＳＫ20　埋土	8.4	－	(4.0)	白色	青磁	肥前	1690～1780	内面口縁部のみ施釉
5055	瓶	16ＳＫ21　埋土	－	－	(1.4)	白色	青磁	肥前	1690～1780 ？	内面無釉
5056	水滴	ⅡＧ７ｇ　Ⅰ層	－	－	(1.8)	白色	染付？	肥前	1690～1780	型おこし

第84図　近世の磁器③

（2）近世の陶器（第85～90図　写真図版61～67）

近世（便宜的に16世紀代の陶器も含む）の陶器は皿25点、碗16点、碗蓋1点、瓶1点、香炉5点、土瓶4点、仏飯器2点、鉢2点、切立3点、行平2点、おはぐろ壺2点、植木鉢1点、甕6点、擂鉢18点、土人形1点、焜炉3点を図示した。

5057～5060、5063～5080は瀬戸美濃産陶器で大窯期（一部、登窯初期のものを含む可能性もある。）の陶器である。5064と5065は大窯期の前半に属する皿である。5063は時期がはっきりしない。他は大窯期の後半に属する。

5064は端反皿である。5065は丸皿で見込みに菊花文がある。5057は丸皿である。5068～5080は志野皿である。5068は鉄絵が施されている。5074～5080は菊皿である。5063は天目茶碗である。外面下半には鉄化粧（錆釉）が施される、内面と外面上半は鉄釉が施される。胎土は緻密な灰色である。全体の器形が明らかでないため詳細な時期は不明である。5067は筒型の香炉と推測される。灰釉が施される。内面は口縁部より下は無釉である。

5061、5081～5083は肥前（唐津）産の皿である。5061は内面に胎土目がある。釉は黄色がかった白濁した釉が施されている。5081は16ＳＢ31の柱穴から出土した。深緑色の釉が施される。胎土は褐灰色土を呈する。5082は口縁部の細片である。口唇部に鉄釉が施される。5083は失透性の灰色の釉が施される。胎土は褐灰色を呈する。

5063は朝鮮産の瓶である。胎土は緻密なにぶい褐色である。外面には深緑色の釉が施される。内面には当て具痕がみられる。

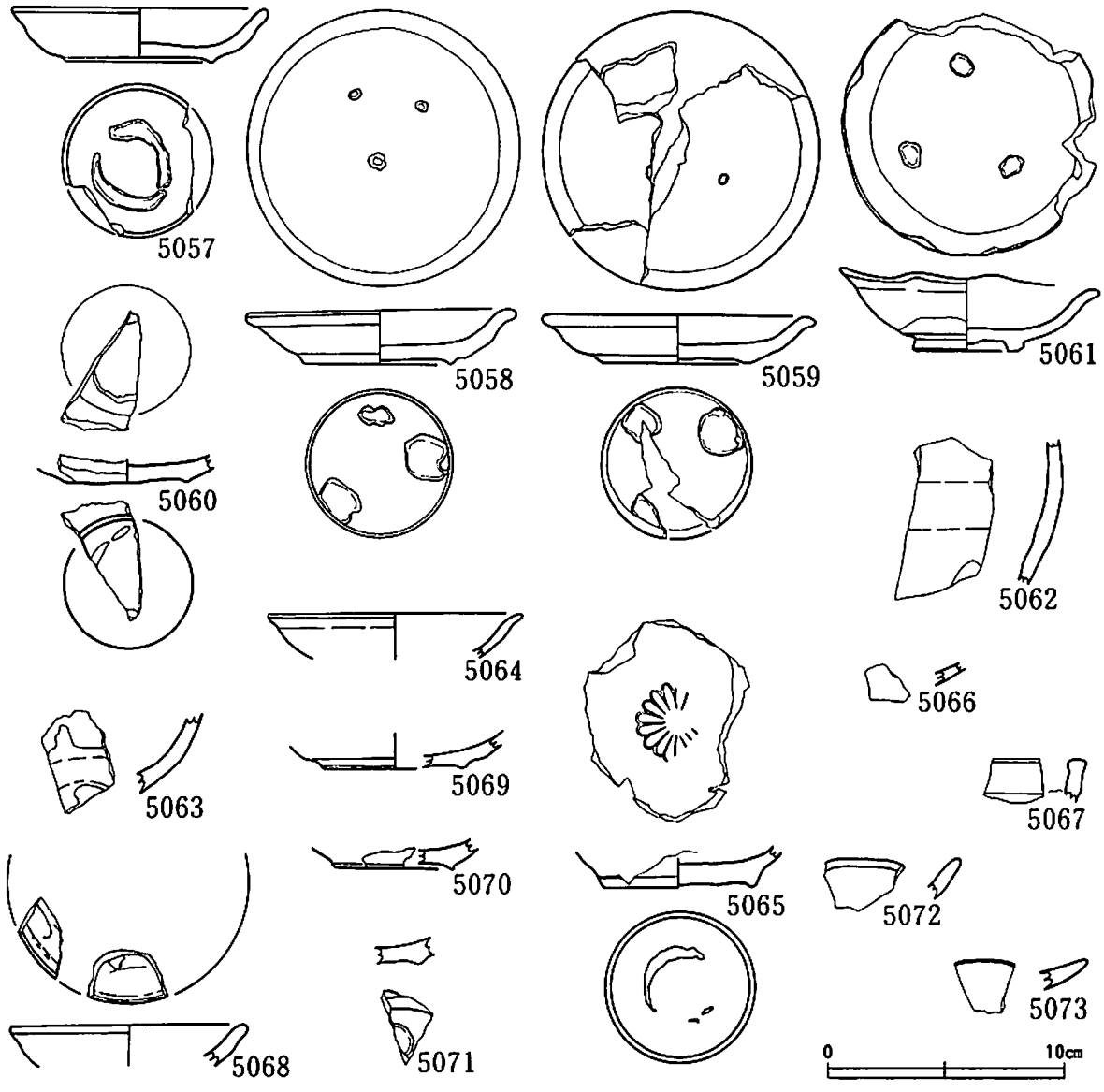
5084～5086は18世紀前半の肥前産の碗である。5085は刷毛目が施される。5087～5097は大堀相馬産の碗である。5087～5089は透明性のある灰釉が施される。18世紀代の碗である。5090は体部下半に鉄釉が施される。18世紀代の碗である。5091、5092は小型の碗である。透明性のある灰釉が施される。5093は腰折碗である。透明性のある灰釉が施される。5094～5097は失透性の藁灰釉が施される碗である。5097は上半部に褐釉が流し掛けられる。5098は失透性の藁灰釉が施される碗蓋である。内面に一条銅緑釉が施される。5097は産地、時期不明の碗である。東北地方在地産の可能性がある。内外面には黒色の釉が施される。釉は生焼け状態で光沢がない。高台内部は施釉されていない。胎土は粗く褐色を呈する。

5100は肥前産の皿である。見込み蛇の目釉剥ぎで銅緑釉が施される。5101～5104は香炉である。5101は肥前産の陶胎染付の香炉である。内面は口縁部以外無釉である。5102は産地不明の香炉である。京・信楽系の可能性がある。鉄絵の上に透明釉が施される。内面は口縁部以外無釉である。5103、5104は瀬戸・美濃産香炉である。5103の内面は施釉、5104は無釉である。5105～5108は土瓶である。5105、5106は同一個体の可能性が高い。大堀相馬産と推測される。5107は東北地方在地産である。外面には褐釉が施され、内面は無釉である。5108は20世紀代の汽車土瓶の類と推測される。外面に藁灰釉薬が施される。5109、5110は仏飯器である。どちらも大堀相馬産と推測される。5110は底面に盲孔がある。

5111～5124は東北地方在地産の陶器である。5116、5117は体部に凸帯があり、いわゆる「おはぐろ壺」である。どちらも内外面鉄釉である。5118は内面が口縁部以外無釉である。5119は器種不明であるが植木鉢の可能性が高い。5125、5126は常滑産の大甕である。18世紀後半のものである。

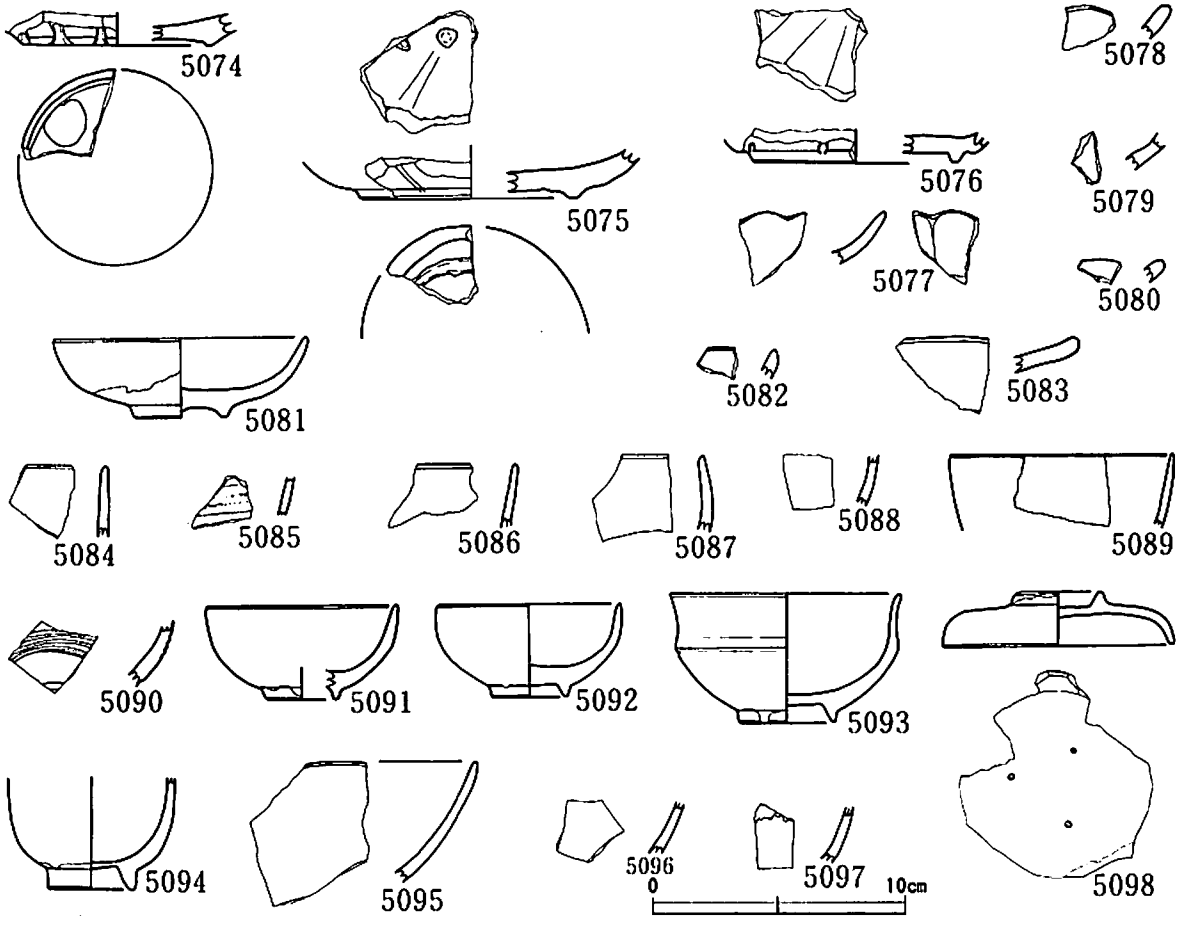
5128～5144は擂鉢である。5127～5129は焼締陶器である。東北地方在地産で18世紀後半と推測される。5130～5144は東北地方在地産の擂鉢で19世紀以降のものと判断される。

5145は素焼きの型おこしの人形と推測される。5146～5148は素焼きの焜炉の類である。



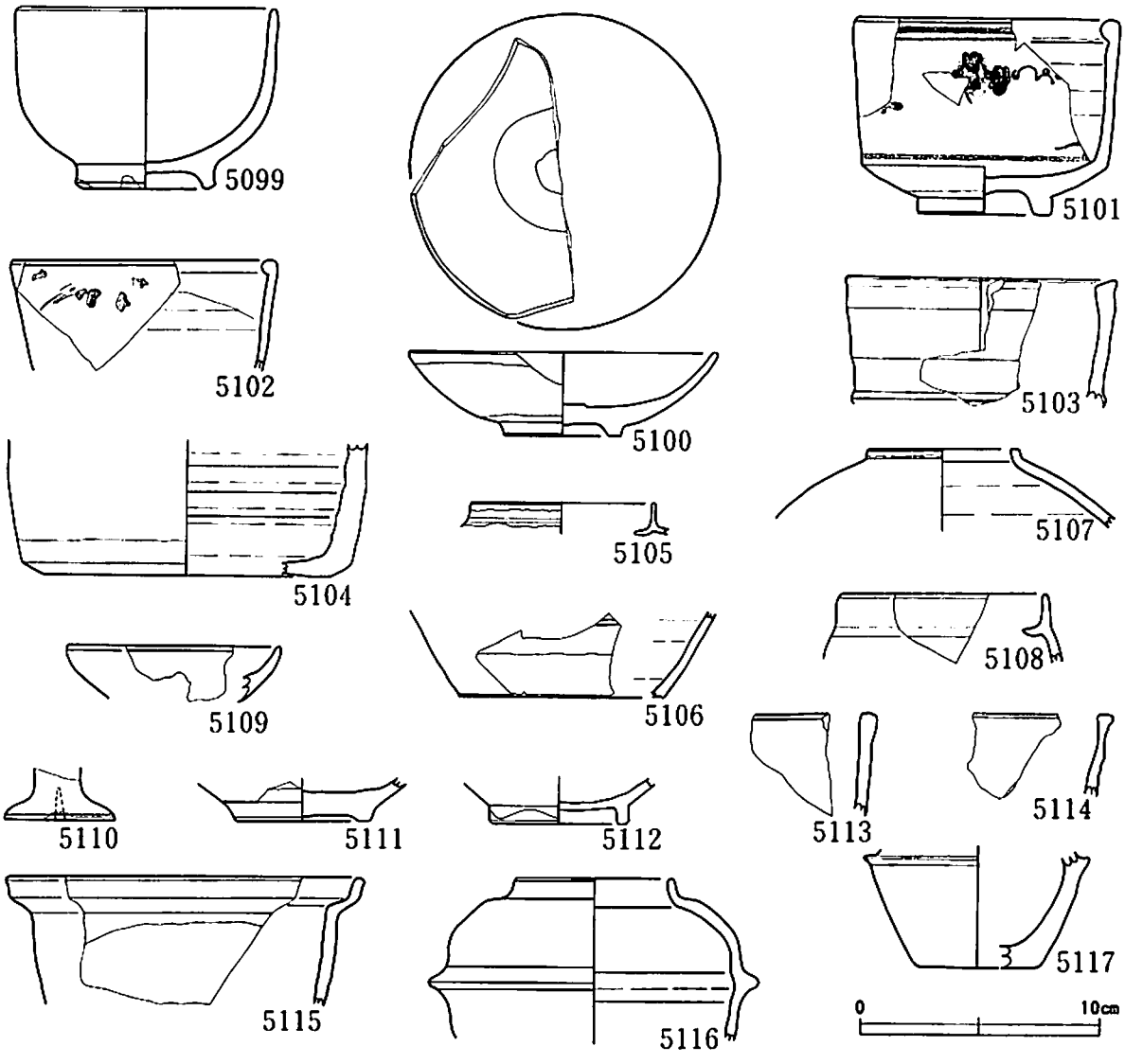
番号	器種	出土位置	法量（cm）			胎土	釉薬 絵付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5057	皿	16ＳＥ３　１層	10.8	5.2	2.3	淡黄色	灰釉	瀬戸・美濃	16C前半	
5058	皿	16ＳＥ３　埋土	11.2	6.2	2.4	淡黄色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野皿
5059	皿	16ＳＥ３　１層	11.2	6.4	2.0	淡黄色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野皿
5060	皿	16ＳＥ３　埋土	－	5.2	(1.2)	灰白色	鉄釉	瀬戸・美濃	16C	外底面にも鉄釉
5061	皿	16ＳＥ３　１層	10.8	4.6	3.5	にぶい橙色	藁灰釉	唐津(肥前)	16C末	胎土目
5062	皿	16ＳＥ３　１層	－	－	(6.0)	にぶい褐色	深緑色の釉	朝鮮	16C	内面にタタキ面
5063	皿	ⅢＧ３～５ｂ　Ⅰ層	－	－	(3.3)	灰色	鉄釉	瀬戸・美濃	16C	外面体部下半鉄化粧
5064	皿	Ｐ669　掘方	10.8	－	(1.9)	灰色	灰釉	瀬戸・美濃	16C前半	
5065	皿	16ＳＥ11　１層	－	6.2	(1.7)	灰白色	灰釉	瀬戸・美濃	16C前半	
5066	皿	Ｐ530　掘方	－	－	(0.9)	淡黄色	灰釉	瀬戸・美濃	16C	細片のため詳細不明
5067	香炉？	ⅢＧ０ｉ　Ⅰ層	－	－	(1.8)	灰白色	灰釉	瀬戸・美濃	16Cか	
5068	皿	Ｐ953　掘方	10.0	－	(1.7)	灰白色	鉄絵　長石釉	瀬戸・美濃	17C初	志野皿
5069	皿	ⅢＧ２ｄ　Ⅰ層	－	6.0	(1.5)	にぶい黄橙色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野皿
5070	皿	Ｐ483　掘方		5.0	(1.3)	灰色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野皿
5071	皿	16ＳＫ30　埋土	－	－	(2.5)	にぶい黄橙色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野皿
5072	皿	16ＳＥ７　埋土	－	－	(1.7)	にぶい黄橙色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野皿
5073	皿	Ｐ332　掘方	－	－	(1.2)	にぶい黄橙色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野皿

第85図　近世の陶器①



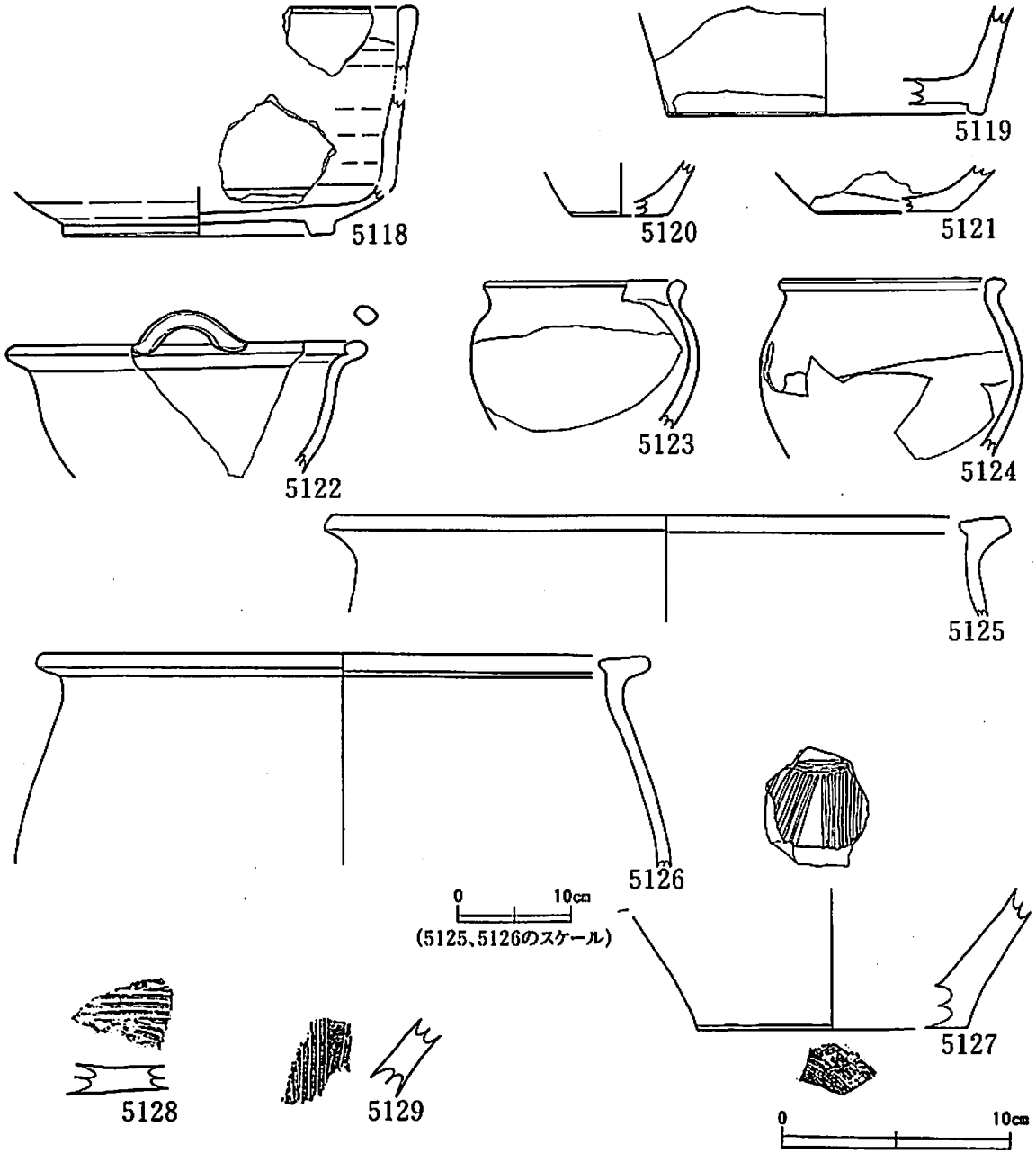
番号	器種	出土位置	法量（cm）			胎土	釉薬 絵付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5074	皿	ⅢG0i　Ⅰ層	－	7.4	(1.3)	灰白色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野皿
5075	皿	16SE11　1層	－	8.6	(1.8)	にぶい黄橙色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野菊皿
5076	皿	16SE5　埋土上部	－	8.0	(1.3)	にぶい黄橙色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野菊皿
5077	皿	ⅢG1h　Ⅰ層	－	－	(2.1)	灰色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野菊皿
5078	皿	ⅡG8a　Ⅰ層	－	－	(1.3)	にぶい黄橙色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野菊皿
5079	皿	P502　掘方	－	－	(1.3)	にぶい黄橙色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野菊皿
5080	皿	ⅡG7d　Ⅰ層	－	－	(0.9)	にぶい黄橙色	長石釉	瀬戸・美濃	16C末～17C初	志野菊皿
5081	皿	P454　掘方	10.0	3.6	3.2	褐灰色	深緑の釉	唐津(肥前)	17C初	
5082	皿	16SD7　埋土	－	－	(1.2)	赤褐色	透明釉	唐津(肥前)	16C末か	鉄絵あり
5083	皿	P475　掘方	－	－	(1.4)	褐灰色	灰色の釉	唐津(肥前)	16C末～17C初	
5084	碗	ⅢG1i　Ⅰ層	－	－	(2.8)	にぶい黄橙色	透明釉	肥前	18C前半	
5085	碗	ⅢG5a　Ⅰ層	－	－	(1.5)	にぶい黄橙色	透明釉	肥前	18C前半	刷毛目の文様がある
5086	碗	ⅡG9i　Ⅰ層	－	－	(2.5)	にぶい黄橙色	透明釉	肥前	18C前半	
5087	碗	16SD9　埋土	－	－	(3.1)	灰白色	灰釉	大堀相馬	18C	
5088	碗	16SD11　埋土（ⅢG3c）	－	－	(2.0)	灰白色	灰釉	大堀相馬	18C	
5089	碗	16SD7　南端部埋土上部	8.8	－	(3.0)	灰白色	灰釉	大堀相馬	18C	
5090	碗	ⅡG8f　Ⅰ層	－	－	(2.5)	灰白色	鉄釉　灰釉	大堀相馬	18C	外面　鉄釉
5091	碗	P289　掘方	7.6	2.8	3.7	にぶい黄橙色	灰釉	大堀相馬	18C後半	
5092	碗	ⅡG9d　Ⅰ層	7.4	3.0	3.6	灰白色	灰釉	大堀相馬	18C後半	
5093	碗	16SK11　埋土	9.2	3.8	5.1	灰白色	灰釉	大堀相馬	18C後半	屈折碗
5094	碗	16SK11　埋土	－	3.4	(4.4)	にぶい黄橙色	藁灰釉	大堀相馬	19C前半	
5095	碗	16SK20　埋土	－	－	(4.7)	灰白色	藁灰釉	大堀相馬	19C前半	
5096	碗	16SE4　埋土	－	－	(2.0)	灰白色	藁灰釉	大堀相馬	19C前半	
5097	碗	P808　掘方	－	－	(2.1)	灰白色	藁灰釉　褐釉	大堀相馬	19C前半	
5098	碗蓋	ⅡG9e　Ⅰ層	9.2	3.4	2.1	灰白色	藁灰釉　銅釉	大堀相馬	19C前半	

第86図　近世の陶器②



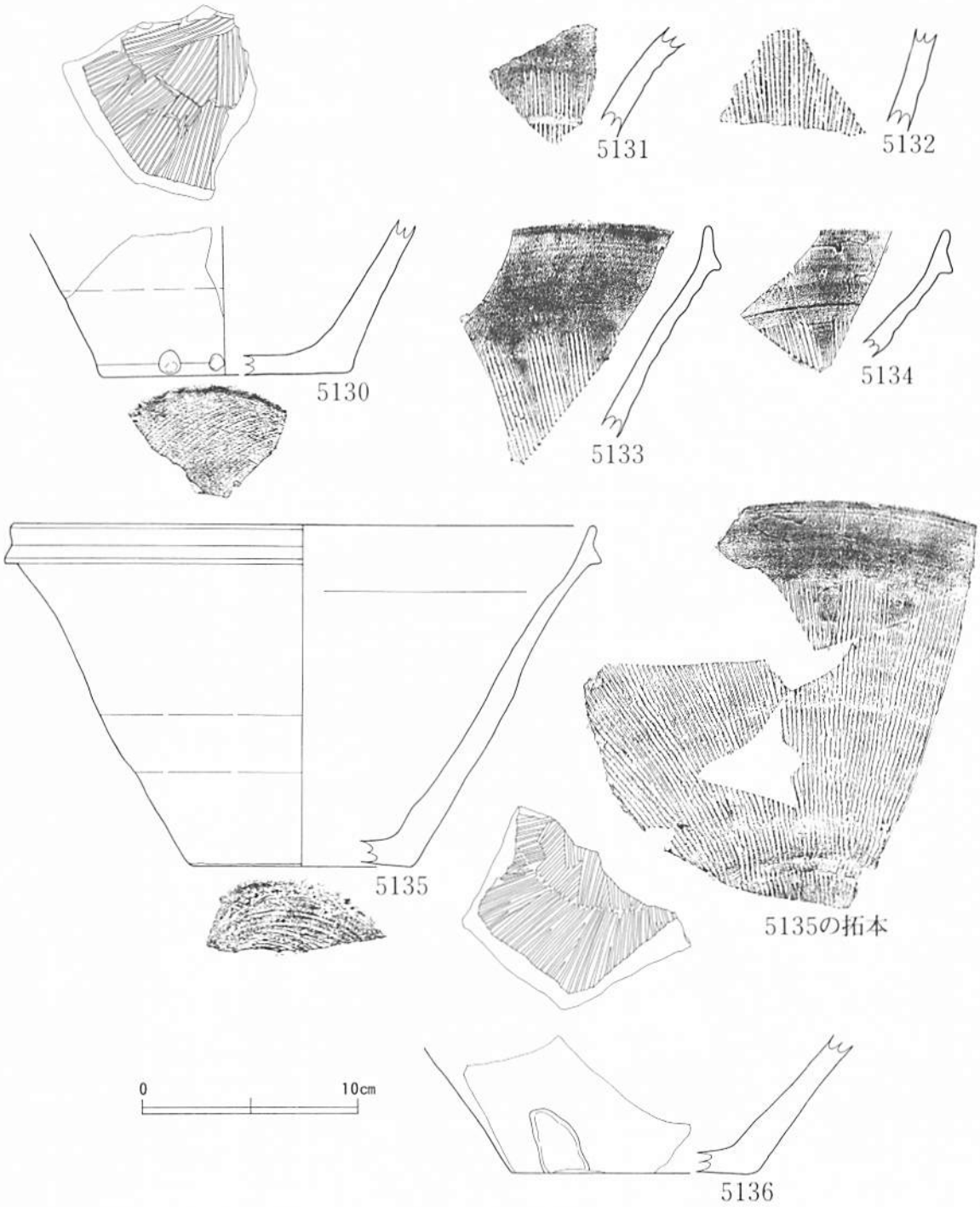
番号	器種	出土位置	法量（cm）			胎土	釉薬 絵付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5099	椀	P941　掘方	10.8	5.2	7.6	褐色	黒色の釉	不明	19C以降？	在地産陶器か？
5100	皿	P400　掘方	12.8	5.0	3.5	にぶい黄橙色	透明釉　銅緑釉	肥前	1690～1780	目込蛇目釉剥ぎ
5101	香炉	SD7　埋土	11.0	5.6	8.2	灰色	染付	肥前	1690～1780	内面無釉　陶胎染付
5102	香炉	ⅡG9d　Ⅰ層	10.8	－	4.6	浅黄橙色	鉄絵　透明釉	京・信楽系	18C～19C	鉄絵は釉薬の下
5103	香炉	P761　掘方	11.2	－	5.3	灰白色	褐釉	瀬戸・美濃	18C	
5104	香炉	SK20　埋土	－	12.0	5.5	灰白色	鉄釉	瀬戸・美濃	18C	内面無釉
5105	土瓶	ⅢG6d　Ⅰ層	7.8	－	1.3	褐灰色	鉄絵　透明釉	大堀相馬？	19C中葉	
5106	土瓶	SE11　1層	－	8.6	3.6	褐灰色	鉄絵　透明釉	大堀相馬？	19C中葉	5105と同一個体か
5107	土瓶	SK4　埋土	－	6.2	3.3	黒褐色	褐釉	在地産	19C以降	内面無釉
5108	土瓶	ⅢG5～3b	8.6	－	2.8	赤褐色	薬灰釉	不明	20C？	汽車土瓶か？
5109	仏具器？	P761　掘方	8.8	－	2.4	灰色	薬灰釉	大堀相馬？	19C	
5110	仏具器？	SK13　埋土	－	4.6	2.2	灰色	薬灰釉	大堀相馬	19C	外底面に孔がある
5111	鉢？	SE5　埋土上部	－	5.6	1.8	暗灰色	白色がかった釉	在地産	19C以降	
5112	鉢？	SK20　埋土	－	5.6	1.9	灰色	緑色の釉	在地産	19C以降	釉には珪酸分が多い
5113	切立？	SE5　埋土上部	－	－	4.3	にぶい橙色	鉄釉	在地産	19C以降	内面にも施釉
5114	切立？	ⅡG9g　Ⅰ層	－	－	3.5	褐灰色	鉄釉	在地産	19C以降	内面にも施釉
5115	行平？	SK20　埋土	14.8	－	5.3	灰赤色	鉄釉　空色の釉	在地産	19C以降	鉄釉に空色の釉流しかけ
5116	お歯黒壺	SD7　埋土	6.6	－	6.7	暗褐色	鉄釉	在地産	19C以降	
5117	お歯黒壺	SE4　埋土	－	5.0	4.8	褐灰色	鉄釉	在地産	19C以降	

第87図　近世の陶器③



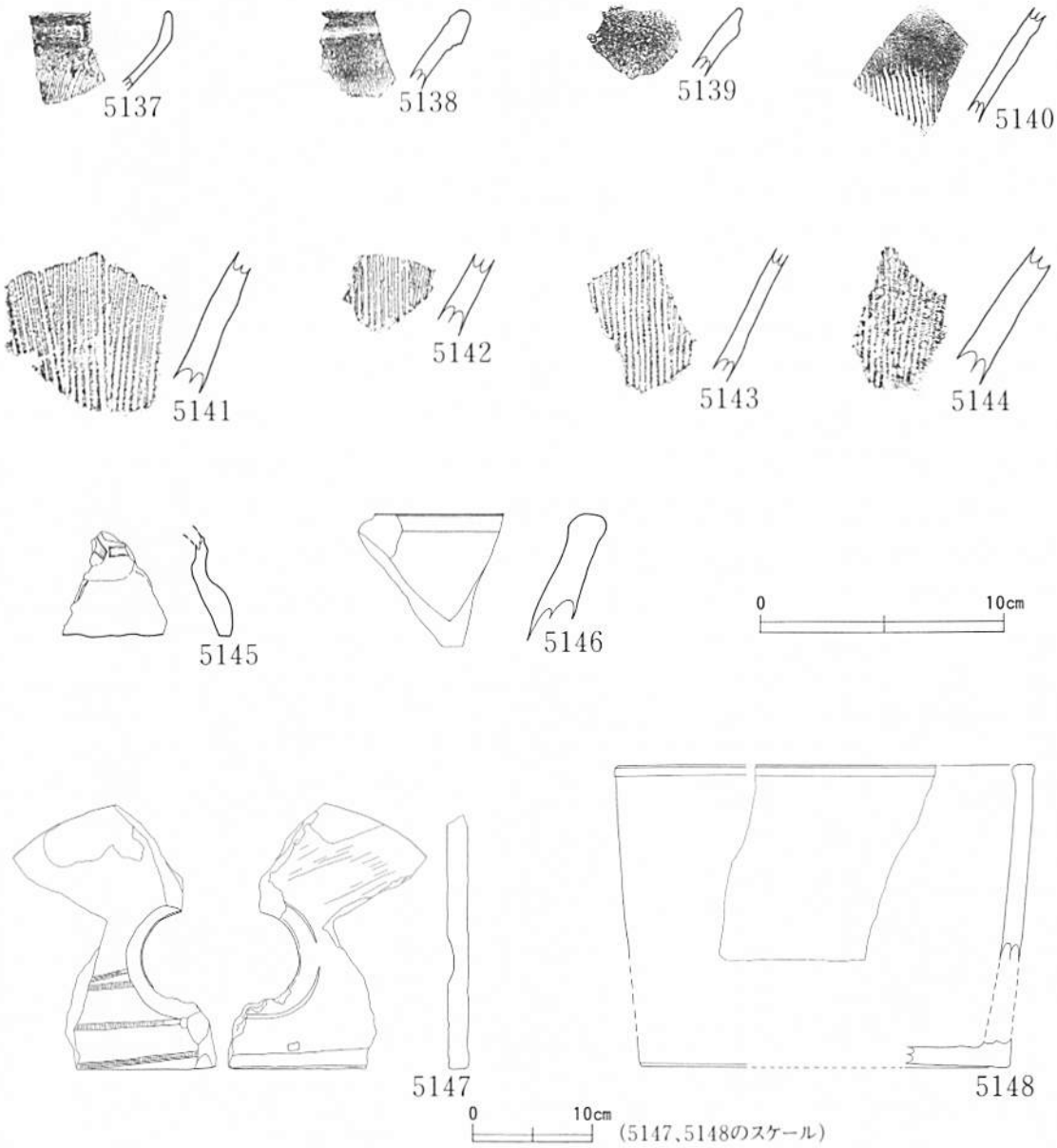
番号	器種	出土位置	法量（cm）			胎土	釉薬 絵付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5118	切立？	16SK20 埋土	－	12.0	(10.0)	灰色	空色の釉	在地産	19C	
5119	植木鉢？	16SE11 埋土	－	14.0	(4.7)	赤褐色	鉄釉	在地産	19～20C	内面無釉
5120	甕	16SE7 埋土上部	－	4.2	(2.4)	暗灰色	鉄釉	在地産	19C	外底面にも施釉
5121	甕	16SE7 埋土上部	－	6.2	(2.0)	橙色	鉄釉	在地産	19C	外底回転糸切
5122	行平	16SD5 北側埋土	15.0	－	(7.3)	暗灰色	鉄釉	在地産	19C	
5123	甕	16SK5 埋土	8.4	－	(6.5)	赤褐色	鉄釉 空色の釉	在地産	19C	
5124	甕	16SE7 埋土上部	9.8	－	(7.7)	暗灰色	鉄釉 空色の釉	在地産	19C	
5125	大甕	16SE7 埋土上部	59.4	－	(8.7)	灰色	無釉	常滑	18C後半	図のスケールは1／6
5126	大甕	16SK20 埋土	52.5	－	(18.4)	赤褐色	無釉	常滑	18C後半	図のスケールは1／6
5127	擂鉢	16SK5 北側埋土	－	11.8	(6.0)	暗褐色	焼締め	在地産	18C後半	底面回転糸切痕
5128	擂鉢	16SD7 埋土	－	－	(4.5)	灰色	焼締め	在地産	18C後半	底面の破片
5129	擂鉢	ⅡG7d Ⅰ層	－	－	(3.5)	灰色	焼締め	在地産	18C後半	5128と同一個体か

第88図　近世の陶器④



番号	器種	出土位置	法量（cm）			胎土	釉薬絵付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5130	擂鉢	16ＳＥ11　1層	－	11.6	(7.0)	赤褐色～暗褐色	鉄釉	在地産	19C前半	底面回転糸切痕
5131	擂鉢	16ＳＥ11　埋土	－	－	(15.5)	赤褐色	鉄釉	在地産	19C	
5132	擂鉢	16ＳＥ11　1層	－	－	(4.7)	赤褐色	鉄釉	在地産	19C	5131と同一個体
5133	擂鉢	16ＳＤ7　埋土	－	－	(9.8)	暗赤褐色	鉄釉	在地産	19C前半	5134、5135と同一個体
5134	擂鉢	ⅡＧ9ｇ　Ⅰ層	－	－	(6.5)	暗灰～橙色	鉄釉	在地産	19C前半	
5135	擂鉢	ⅢＧ0ｈ　Ⅰ層	27.0	10.2	15.7	暗灰～橙色	鉄釉	在地産	19C前半	外側に「しんこ」痕
5136	擂鉢	16ＳＥ11　1層	－	11.4	(11.4)	暗灰色	鉄釉	在地産	19C後半	「しんこ」痕、光沢のある鉄釉

第89図　近世の陶器⑤



番号	器種	出土位置	法量（cm）			胎土	釉薬絵付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5137	擂鉢	ⅢＧ５ｂ（攪乱）	－	－	(3.5)	暗灰色	鉄釉	在地産	19C	
5138	擂鉢	16ＳＥ７　埋土上部	－	－	(3.5)	赤褐色	鉄釉	在地産	19C	
5139	擂鉢	16ＳＥ７　埋土上部	－	－	(3.0)	暗灰色	鉄釉	在地産	19C	
5140	擂鉢	ⅡＧ７ｈ　Ⅰ層	－	－	(5.2)	橙色	鉄釉	在地産	19C	光沢のある鉄釉
5141	擂鉢	16ＳＥ11　１層	－	－	(5.9)	橙色	鉄釉	在地産	19C	
5142	擂鉢	ⅢＧ５ｂ（攪乱）	－	－	(3.5)	にぶい赤褐色	鉄釉	在地産	19C	
5143	擂鉢	16ＳＥ11　１層	－	－	(5.9)	暗灰色	鉄釉	在地産	19C	
5144	擂鉢	16ＳＥ７　埋土上部	－	－	(6.1)	暗灰色	鉄釉	在地産	19C	光沢のある鉄釉
5145	土人形？	16ＳＥ11　１層	－	－	(4.3)	橙色	素焼	在地産	19C以降	型おこしの人形？
5146	焜炉	16ＳＥ11　１層	－	－	(5.3)	灰白色	素焼	在地産	19C以降	
5147	焜炉	16ＳＫ22　埋土	－	－	(20.8)	灰白色	素焼	在地産	19C以降	
5148	焜炉	16ＳＫ22　埋土	34.8	－	(16.0)	灰白色	素焼	在地産	19C以降	

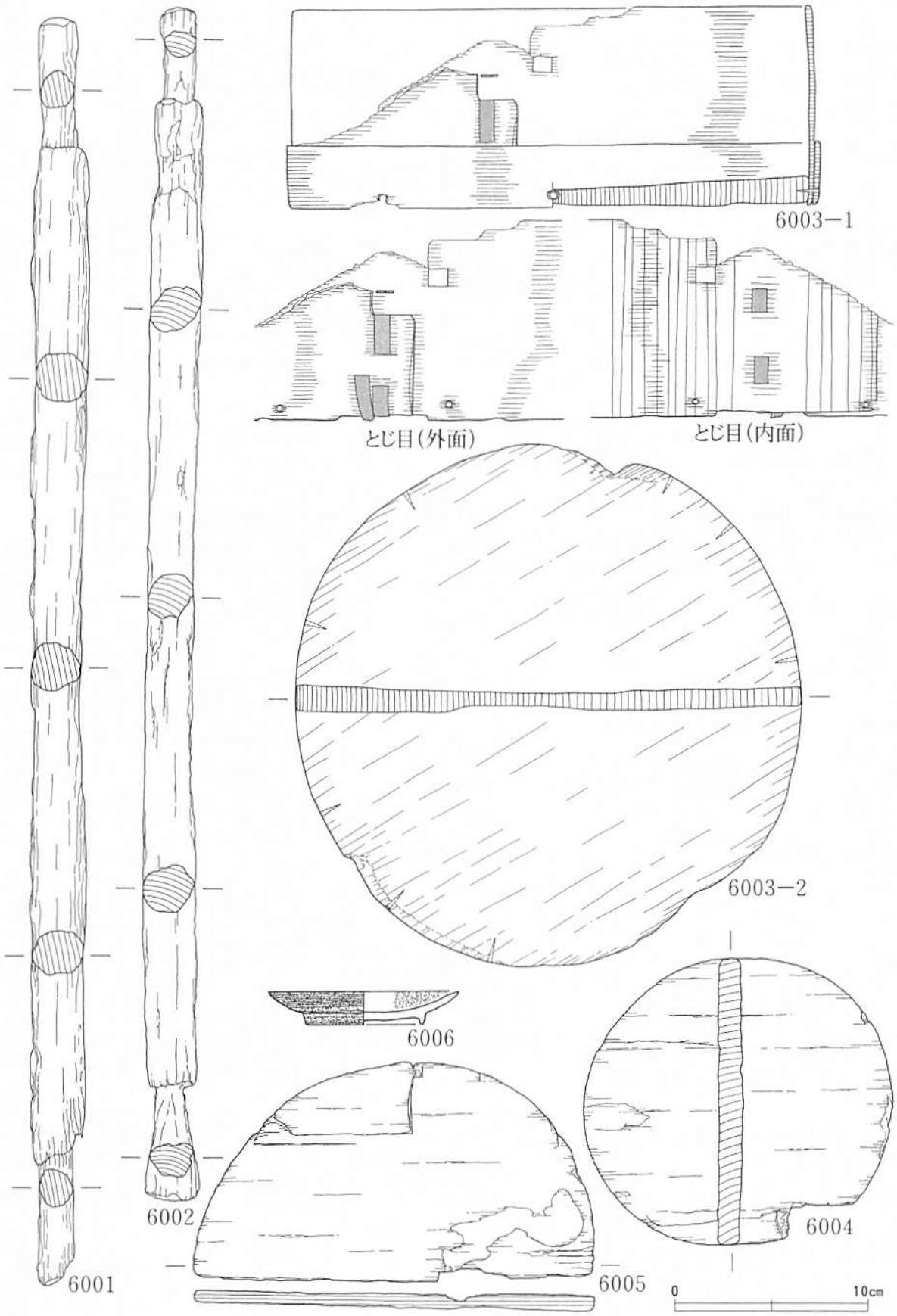
第90図　近世の陶器⑥

7　木製品（第91～95図　写真図版68）

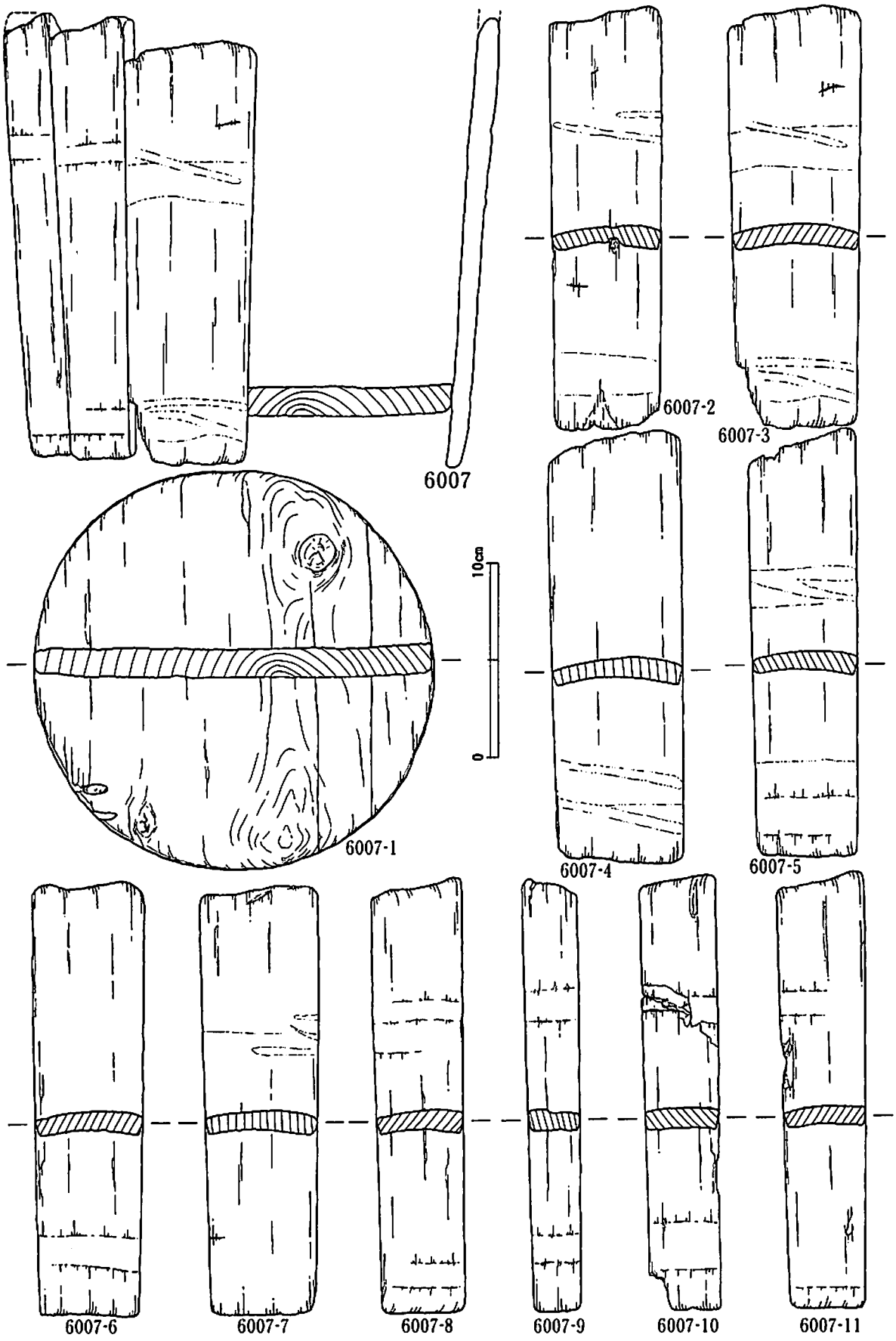
木製品は12世紀に属するものと近世に属するものがある。12世紀の木製品は6001～6006、近世の木製品は6007～6011である。

6001、6002は棒状の製品で両端部が細くなっている。器種ははっきり特定できないが、織機の部品と推測される。樹種は6001がスギ、6002はヒノキ科類似種であり異なった樹種である。6003は曲物である。16ＳＥ６の底面付近から正位の状態で出土した。底板と側板は木釘で固定されている。6004、6005は曲物の底板と推測される。6006は漆器皿である。腐食が著しい状態で出土した。

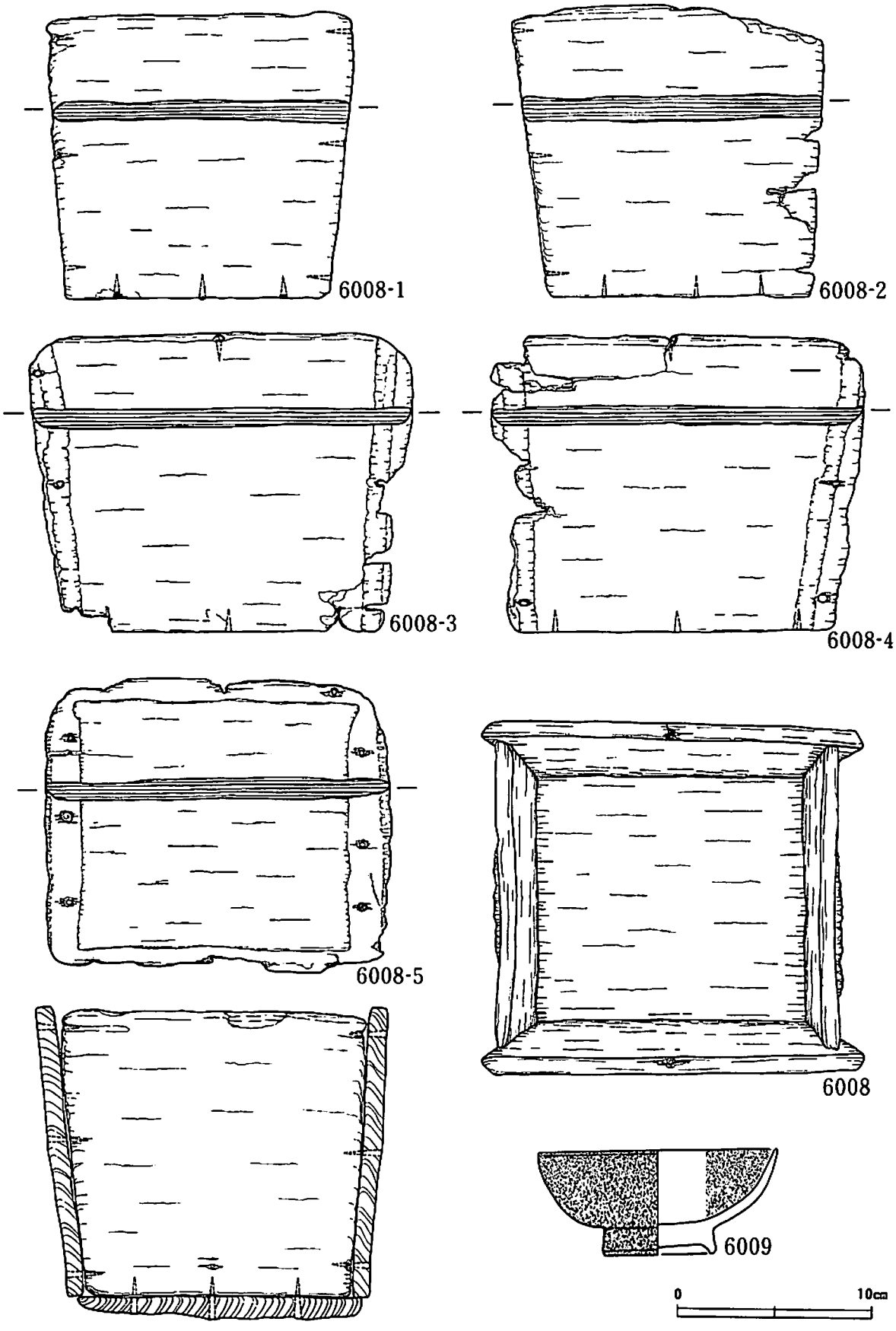
6007は桶である。16ＳＥ４の底面からばらばらの状態で出土した。釣瓶が井戸底に落ちたものと推測される。図示していないが竹製のたがも存在した。供伴した陶磁器から19世紀代の桶と推測される。6008～6010は16ＳＥ３から出土した。供伴した陶磁器から16世紀末～17世紀初頭の木製品と判断できる。6008は箱型の釣瓶である。土圧で歪んだ状態で出土した。鉄釘で板を接合している。把手部分は残存しないが、接合した釘の痕跡が箱の上面にみられる。6009は漆器椀である。黒漆が施される。高台内面は漆塗りが施されていない。6010は横槌である。樹種はクリである。6011は16ＳＥ11の底面からばらばらの状態で出土した。図示していないが竹製のたがも存在した。釣瓶が井戸底に落ちたものと推測される。側板どうしの接合に木釘を使用している。16ＳＥ11の出土陶器から19世紀代の桶と推測される。



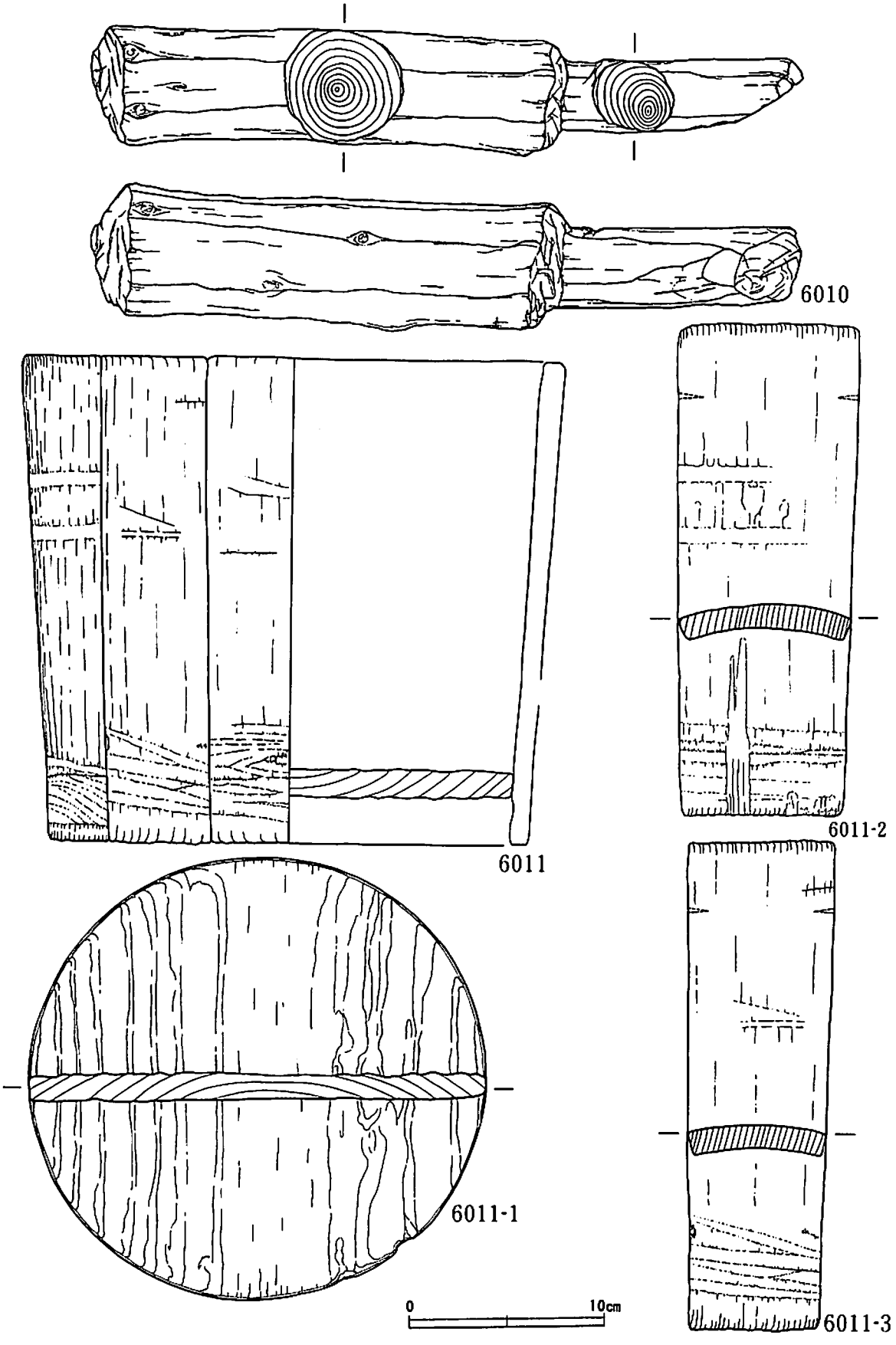
第91図　木製品①


6007
6007-1
6007-2
6007-3
6007-4
6007-5
6007-6
6007-7
6007-8
6007-9
6007-10
6007-11
10cm
0

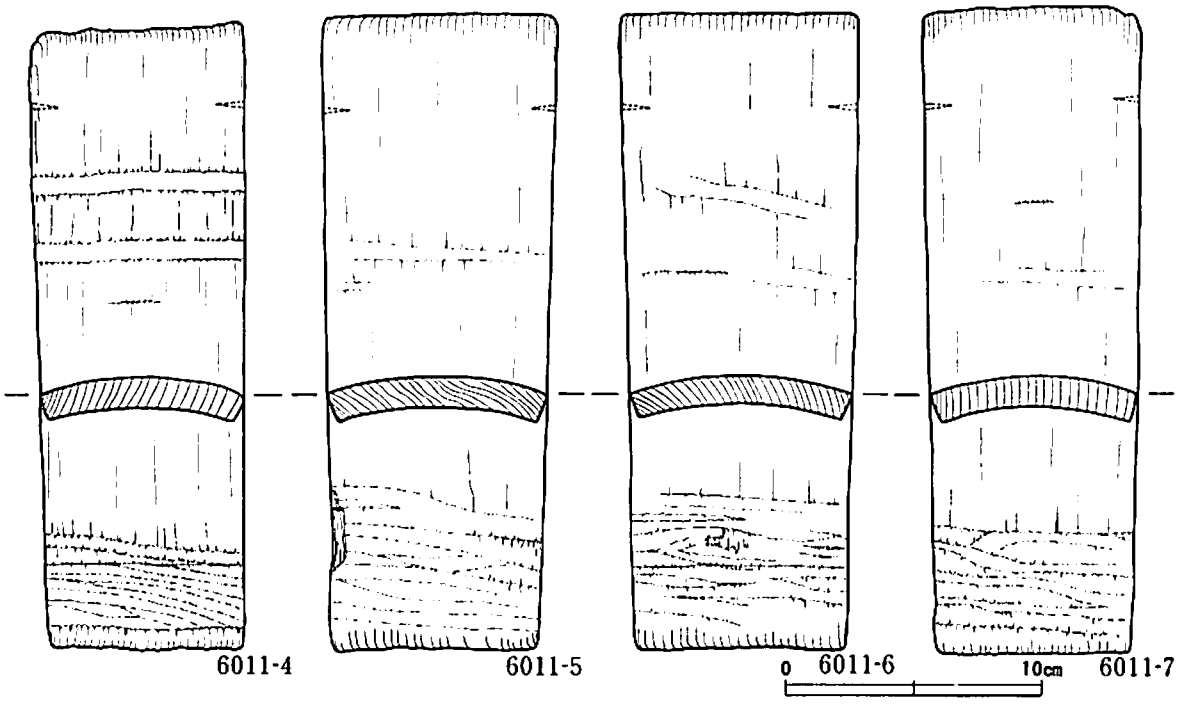
第92図　木製品②



第93図　木製品③



第94図　木製品④



番号	器種	出土位置	樹種	その他
6001	不明	16ＳＫ21　埋土	スギ	器種不明、２と同一の器種か
6002	不明	16ＳＫ38　埋土	ヒノキ科類似種	
6003	曲物	16ＳＥ６　埋土	ヒノキ属類似種（側板）	底板の樹種はスギ、木釘はヒノキ属の一種
6004	曲物底	16ＳＫ18　埋土	スギ	
6005	曲物底	16ＳＥ６　埋土	ヒノキ属の一種	
6006	漆器皿	16ＳＫ６　埋土	ケヤキ	遺存度が悪い
6007	桶	16ＳＥ４　底面	スギ（側板）	底板の樹種はヒノキ属の一種
6008	釣瓶	16ＳＥ３　１層	クリ	鉄釘を使用、把手部分欠損
6009	漆器椀	16ＳＥ３　１層	ブナ種の一種	
6010	横槽	16ＳＥ３　１層	クリ	
6011	桶	16ＳＥ11　底面	スギ（側板、底板）	木釘を使用

第95図　木製品⑤

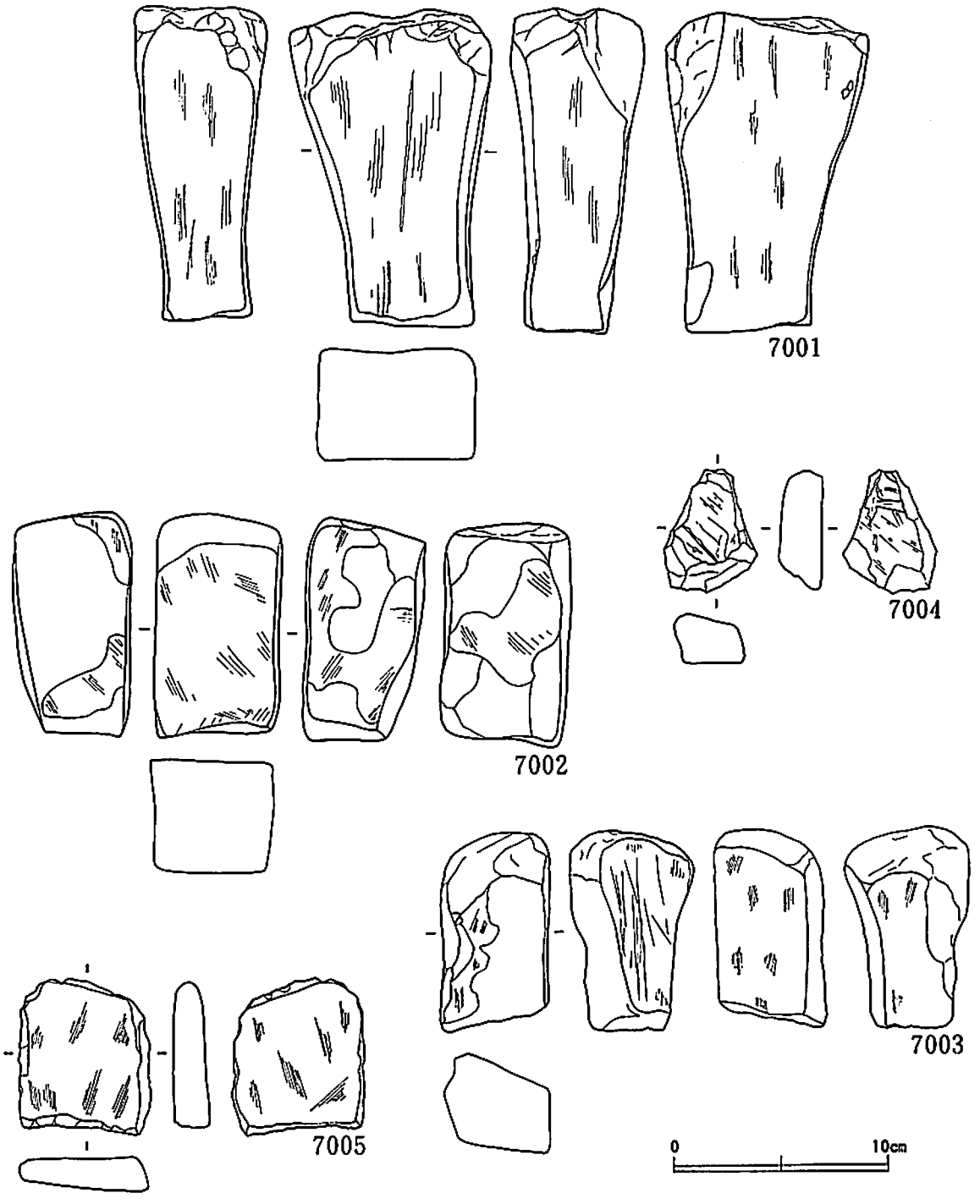
8　石製品（第96～102図　写真図版69～72）

石製品は砥石18点（7001～7018）、硯２点（7019、7020）、挽き臼５点（7021～7025）、板碑１点（7026）が出土した。

砥石はその形状からでは時期判別が困難である。出土した遺構の年代観から判断すると7011は12世紀の遺物と考えられる。他の遺構内から出土した砥石は近世以降の可能性が高い。遺構外出土の砥石は時期を判断する材料がない。

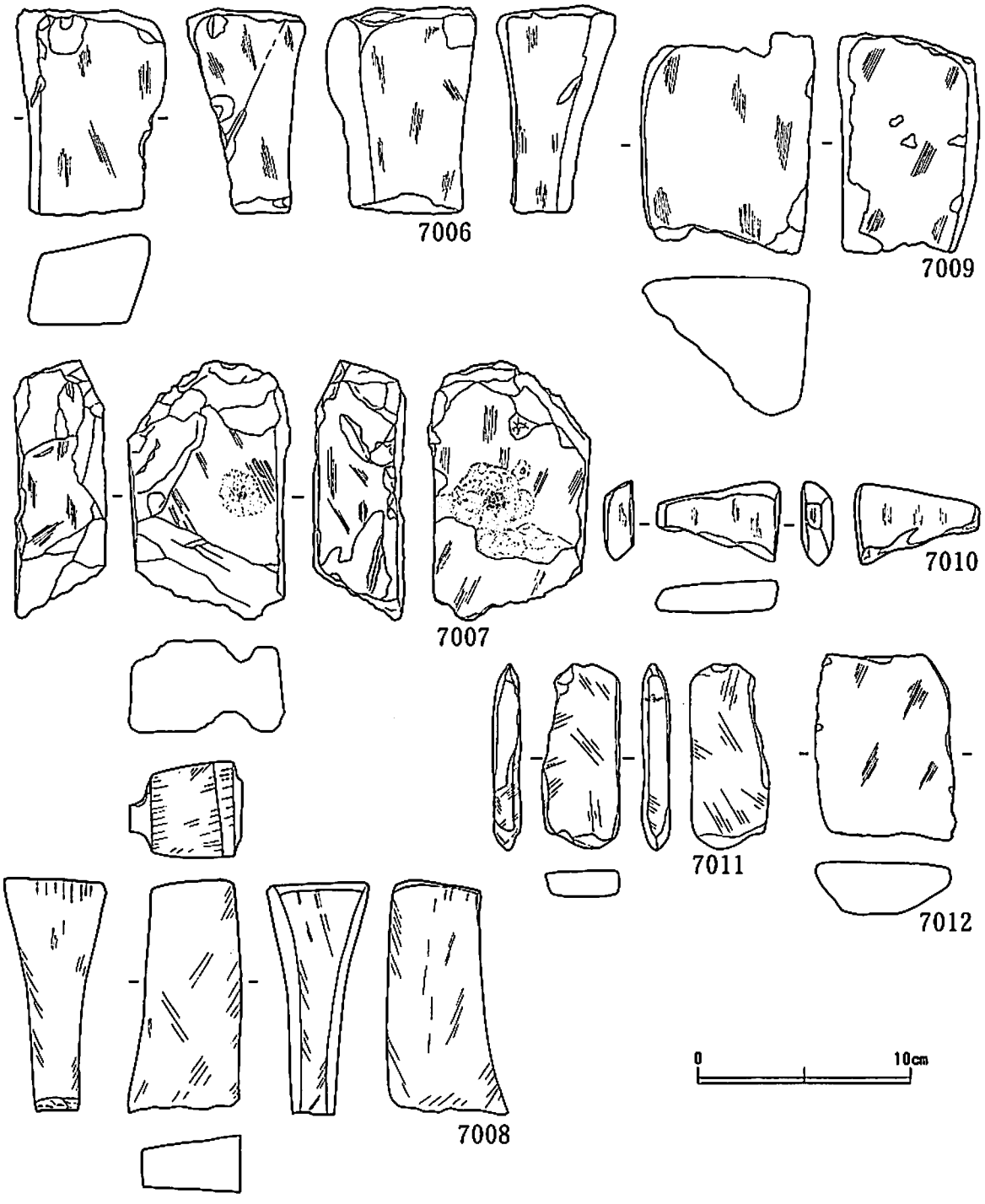
7019の硯は粘板岩製で硯面に墨が付着している。出土した16ＳＫ19の年代観から19世紀以降の硯の可能性が高い。7020も粘板岩製の硯である。硯面の一部が残っている。出土した遺構16ＳＫ53の年代が明らかではなく、7020の年代も明らかにできない。

7021は挽き臼の上臼である。２つに割れ別々の遺構から出土した。一方は暗渠溝の16ＳＤ１に他の礫とと



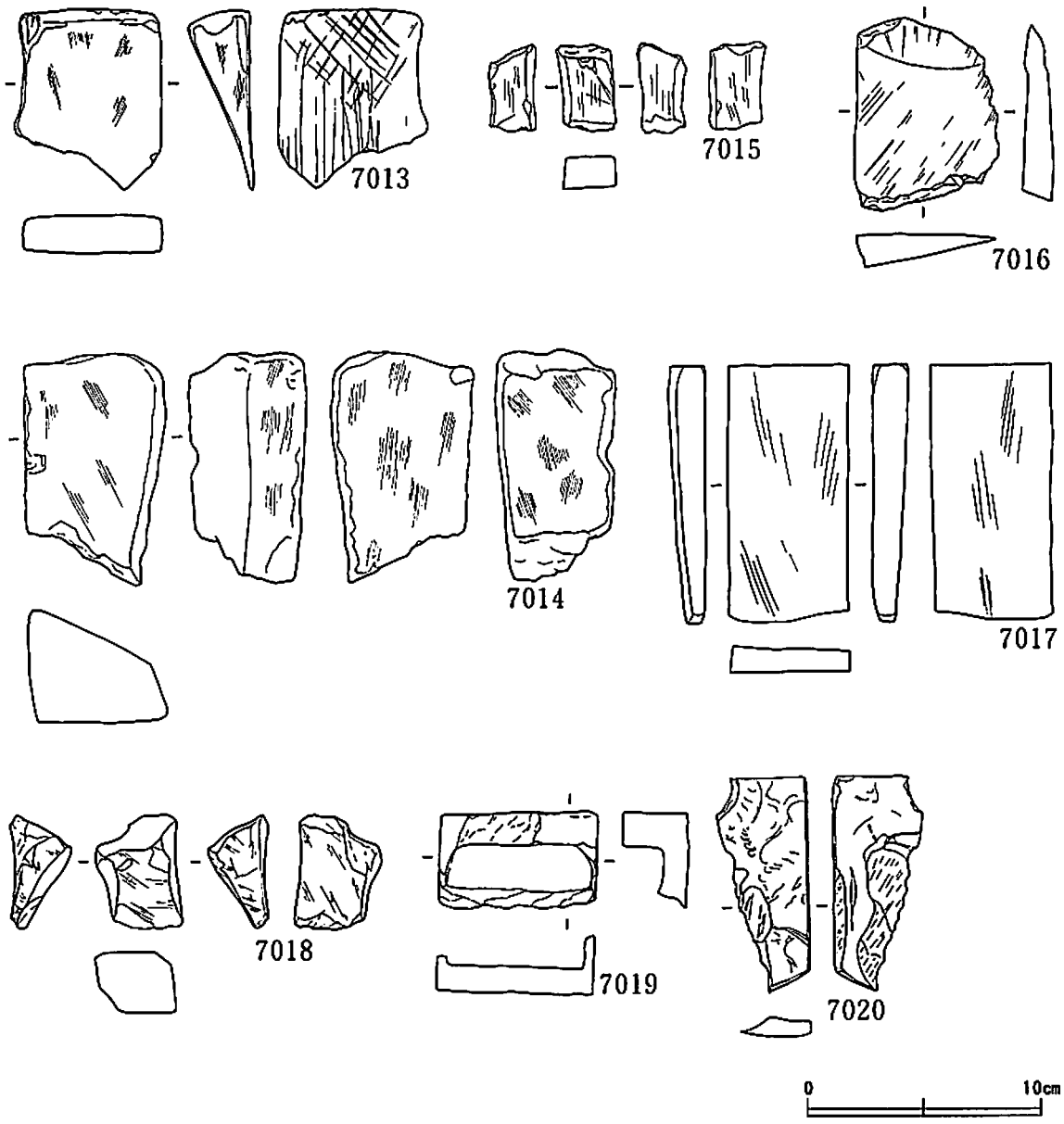
番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ（g）
7001	砥石	16SD5　北側埋土	凝灰質砂岩	砥面4　置き砥	1080.0
7002	砥石	16SK20　埋土	凝灰質砂岩	砥面4　置き砥	560.0
7003	砥石	16SK20　埋土	斜長石流紋岩	砥面4　仕上げ砥	250.0
7004	砥石	16SE2　埋土	斜長石流紋岩	砥面2　中砥	54.0
7005	砥石	16SE11　1層	斜長石流紋岩	砥面2　仕上げ砥	110.0

第96図　石製品①



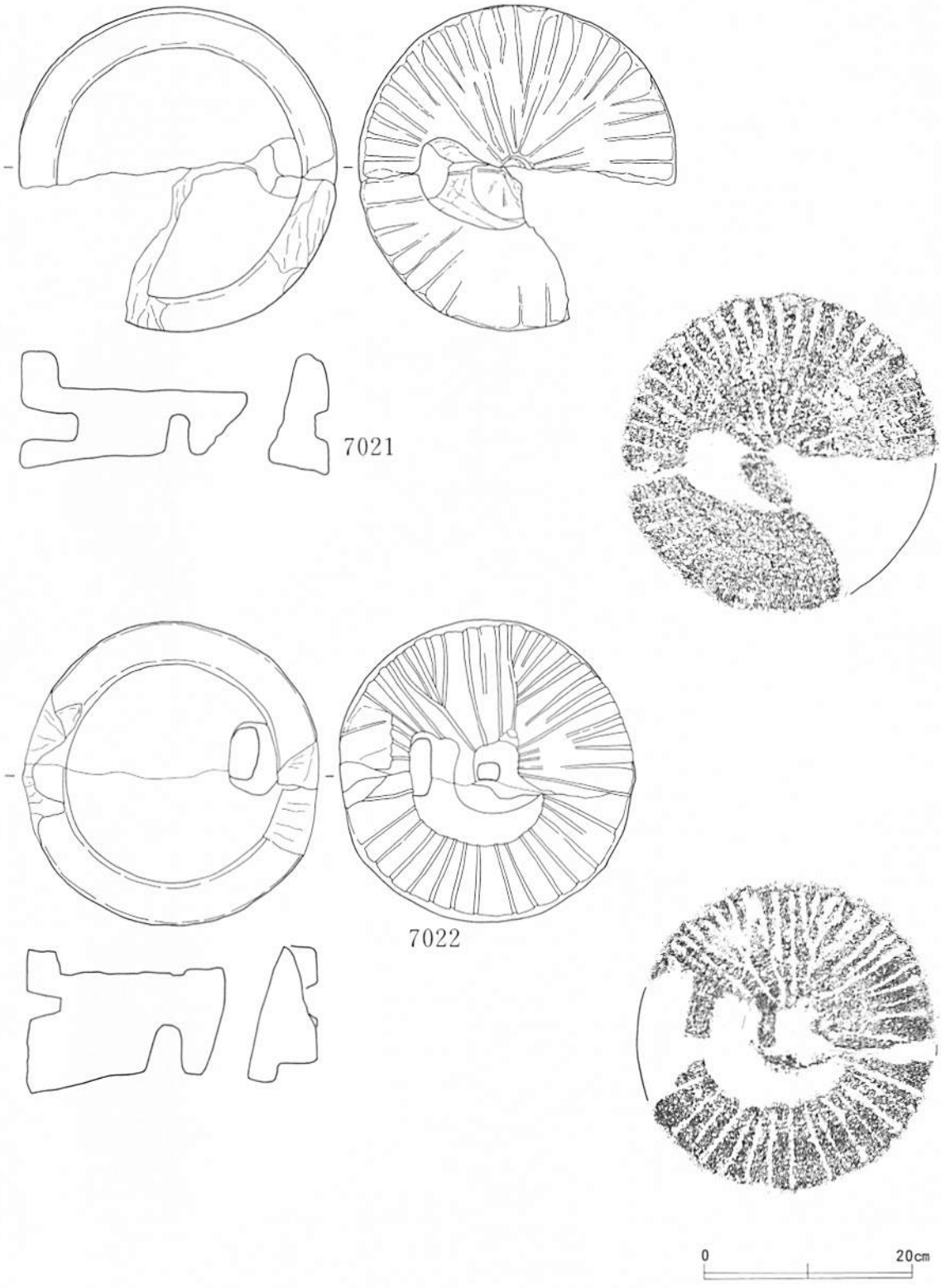
番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ（g）
7006	砥石	16ＳＥ２　埋土	斜長石流紋岩	砥面４　置き砥　仕上げ	320.0
7007	砥石	16ＳＫ20　埋土	斜長石流紋岩	砥面４　中砥	480.0
7008	砥石	16ＳＫ19　埋設箱内	斜長石流紋岩	砥面５　置き砥　中砥	265.0
7009	砥石	16ＳＥ11　１層	斜長石流紋岩	砥面４　置き砥　仕上げ	662.0
7010	砥石	16ＳＫ７　埋土	斜長石流紋岩	砥面４　中砥	40.0
7011	砥石	16ＳＤ15　埋土	砂質粘板岩	砥面４　仕上げ砥	67.0
7012	砥石	Ｐ926　掘方	斜長石流紋岩	砥面２　仕上げ砥	200.0

第97図　石製品②



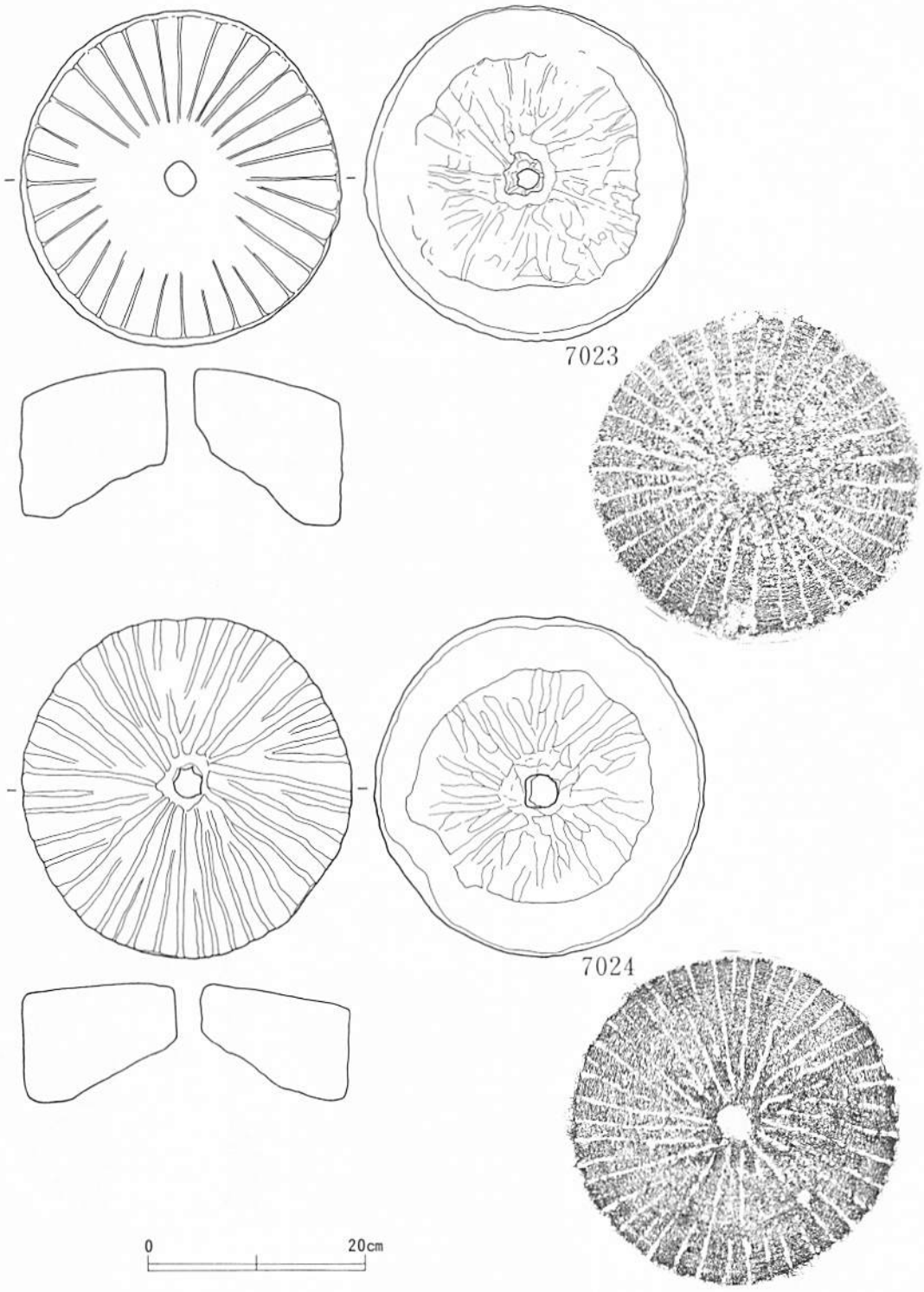
番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ（g）
7013	砥石	16S E 7　埋土上部	斜長石流紋岩	砥面3　砥面の一つに線状の掻痕あり　仕上げ砥	120.0
7014	砥石	16S E 7　埋土上部	斜長石流紋岩	砥面4　仕上げ砥	358.0
7015	砥石	ⅢG 0 d　Ⅰ層	斜長石流紋岩	砥面4　仕上げ砥	23.0
7016	砥石	16S K20　埋土	斜長石流紋岩	砥面1　中砥	79.0
7017	砥石	ⅢG 5 b　Ⅰ層	砂質粘板岩	砥面5　酸化鉄分少量付着　荒砥	92.0
7018	砥石	ⅢG 0 d　Ⅰ層	斜長石流紋岩	砥面4　仕上げ砥	39.0
7019	硯	16S K19　埋設箱内	粘板岩	硯面に墨が少量付着	60.5
7020	硯	16S K53　埋土	粘板岩	硯面の一部が残る	32.0

第98図　石製品③



番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ（g）
7021	挽き臼	16ＳＤ１　16ＳＫ40　埋土	デイサイト	上臼　裏面に火熱をうけた後、分割されている	9,000
7022	挽き臼	16ＳＤ１　埋土	デイサイト	上臼　２分割されている	13,000

第99図　石製品④

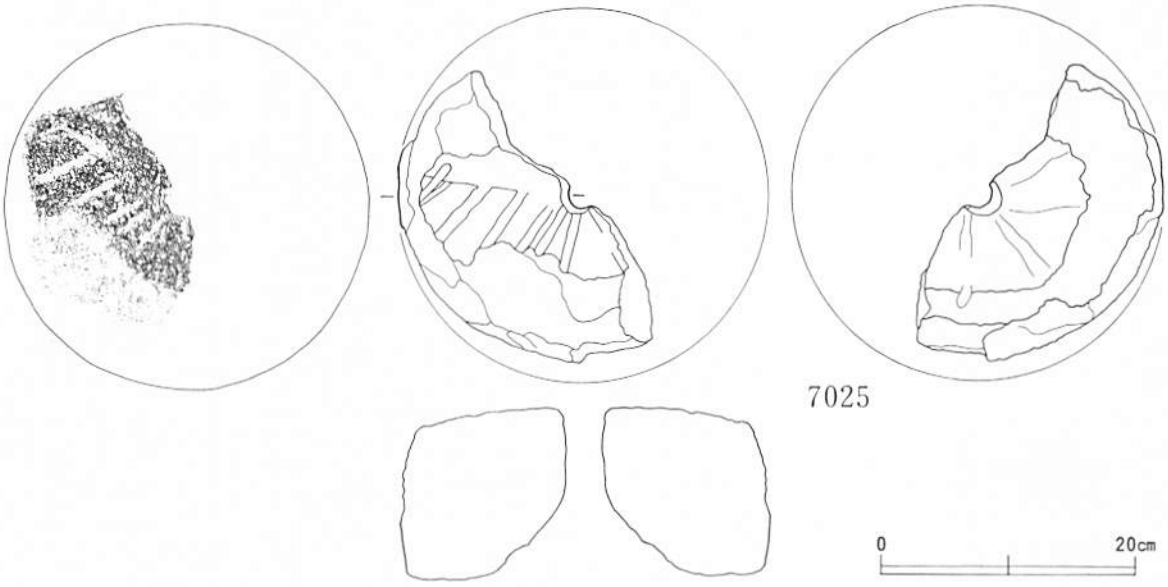


番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ（g）
7023	挽き臼	P355　底面	デイサイト	下臼　柱の礎盤として転用	16,000
7024	挽き臼	P361　底面	デイサイト	上臼　柱の礎盤として転用　裏面は火熱をうけている	11,000

第100図　石製品⑤

もに詰め込まれていた。卸し目は放射状である。出土遺構の年代観から近世以降のものと判断される。7022は挽き臼の上臼である。7021と同様に、16ＳＤ１に他の礫と２分割の状態で詰め込まれていた。卸し目は放射状である。年代は近世以降と判断される。7023、7024は挽き臼の下臼である。どちらも近世掘立柱民家である16ＳＢ29の柱穴の底面に裏面を上にした状態で礎盤として置かれていた。16ＳＢ29の建築年代は18世紀中頃と推測され、7023、7024はそれ以前の製品ということになる。卸し目はいずれも放射状である。7024の裏面は火熱を受けた痕跡がある。7025は挽き臼の下臼である。卸し目は６分割と推測されるが欠損のためはっきりしない。7021～7024と卸し目のパターンが異なるのが注目される。出土した16ＳＥ11は19世紀以降と推測され、7025の年代も19世紀頃の可能性が高い。

7026は板碑である。暗渠溝16ＳＤ１に背面を上にした状態で他の礫とともに詰め込まれていた。石質は粘板岩である。種子はキリーク（阿弥陀如来）が刻まれている。紀年、願文等は刻まれていない。種子の下に罫線のような縦の線が認められるが、人為的なものか、自然のものか判別できない。16次調査区の中世遺物の年代と19次調査出土の板碑の年代（元亨４年　1324年）を考え合わせると、7026は14世紀前半に属す可能性が高い。



番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ（g）
25	挽き臼	16ＳＥ11　１層	デイサイト	下臼　目は６分割か	5,800

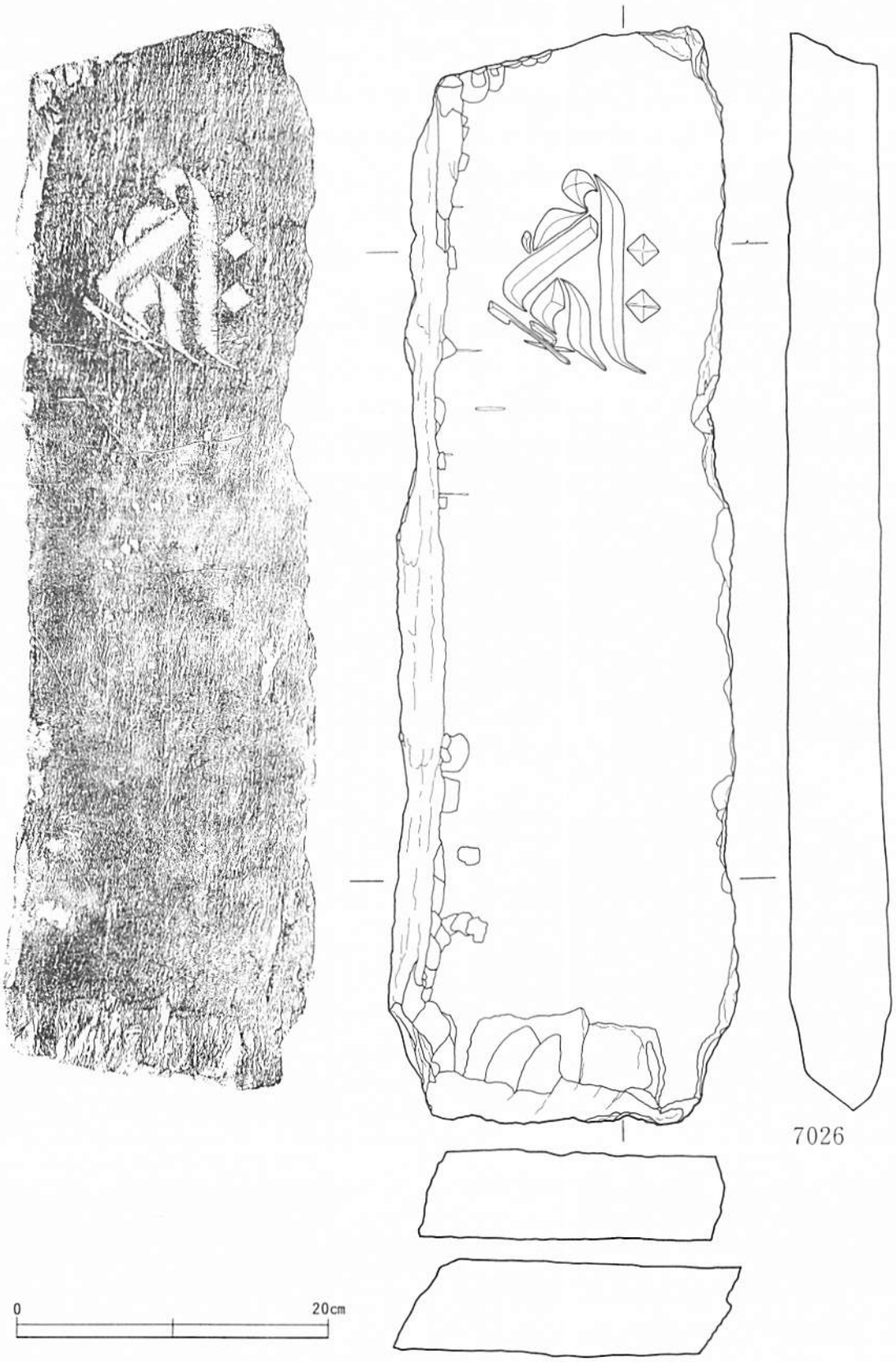
第101図　石製品⑥

9　金属製品（第103～106図　写真図版73、74）

金属製品は銭貨とそれ以外の製品がある。

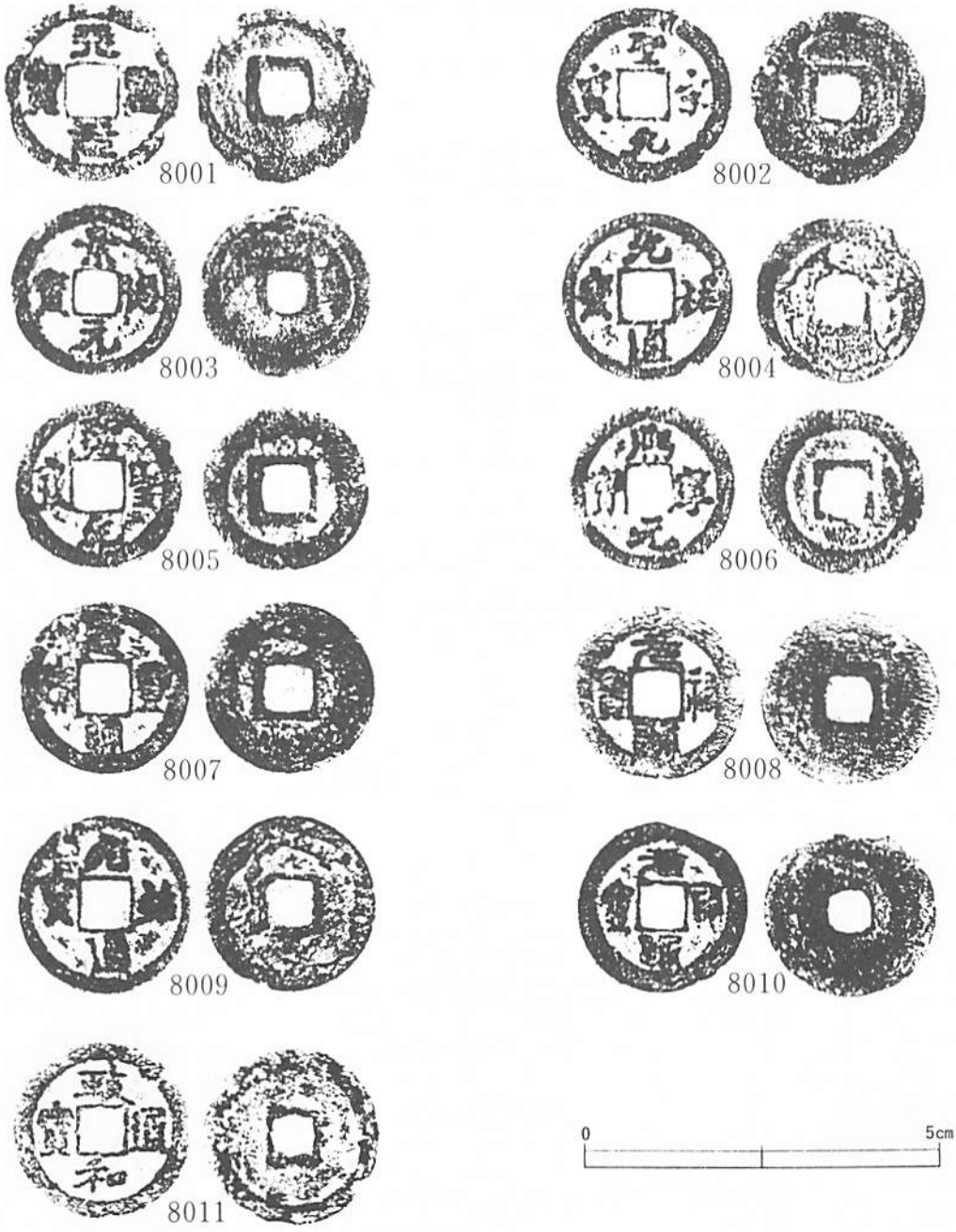
（１）銭貨（第103～105図　写真図版73、74）

銭貨は北宋銭11点（8601～8011）、永楽通寶３点（8012～8014）、寛永通寶11点（8015～8025）、半銭銅貨１



番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ（g）
7026	板碑	16ＳＤ１　埋土	粘板岩	梵字（キリーク）を刻む　銘文なし　下端に削った痕あり	20,000

第102図　石製品⑦



番号	種類	出土位置	直径(cm)	重さ(g)	金属の種類	鋳造年代	備考
8001	天聖元宝	16ＳＥ10　埋土？	2.50	2.52	銅	北宋　1023年	篆書
8002	聖宋元宝	Ｐ498　掘方	2.50	3.25	銅	北宋　1101年	行書
8003	景德元宝	ⅢＧ０ｂ　西側攪乱部	2.40	3.44	銅	北宋　1004年	
8004	元祐通宝	ⅢＧ０ｂ　西側攪乱部	2.40	3.72	銅	北宋　1086年	行書
8005	紹聖元宝	ⅢＧ０ｂ　西側攪乱部	2.30	2.79	銅	北宋　1094年	行書
8006	熙寧元宝	ⅡＧ９ｂ　Ⅰ層	2.40	2.01	銅	北宋　1068年	
8007	元豊通宝	ⅡＧ５ｄ　Ⅰ層	2.40	3.22	銅	北宋　1078年	篆書
8008	元祐通宝	ⅡＧ５ｄ　Ⅰ層	2.50	2.61	銅	北宋　1086年	篆書
8009	元祐通宝	ⅡＧ５ｄ　Ⅰ層	2.50	4.00	銅	北宋　1086年	行書
8010	元祐通宝	ⅡＧ５ｄ　Ⅰ層	2.40	3.55	銅	北宋　1086年	篆書
8011	政和通宝	ⅡＧ５ｄ　Ⅰ層	2.50	2.85	銅	北宋　1111年	

第103図　銭貨①

点（8026）が出土した。

8001は天聖元寶である。鎌倉時代の井戸16ＳＥ10の検出面から出土した。16ＳＥ10に伴う可能性が高い。8002の聖宋元寶は近世掘立柱民家の16ＳＢ28の柱穴Ｐ498から出土した。8003～8004の３枚は癒着した状態で出土した。また8007～8011の５枚も癒着した状態で出土した。これらの北宋銭は12世紀に伴うものではなく、鎌倉時代に使用された可能性が高い。

永楽通寶8012～8014は非常に薄く、また重量も軽く模鋳銭と判断できる。8012、8014は近世掘立柱民家16ＳＢ33の柱穴、8013は16ＳＢ31の柱穴から出土した。16ＳＢ31の建築年代は17世紀前半、16ＳＢ33の建築年代は17世紀後半と推測され、これらの永楽銭の使用年代を推測できる。

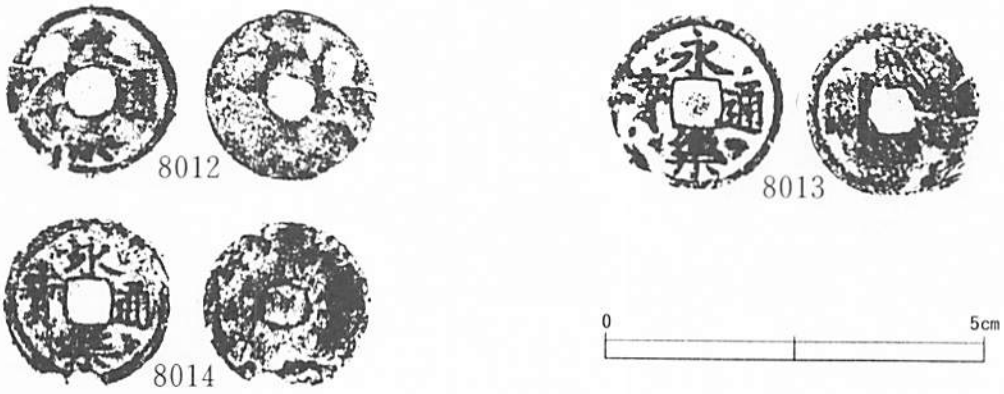
8015～8018は1636年初鋳の古寛永、8019～8022は背文の1668年初鋳のものである。8022の背には「佐」の字がある。1717年初鋳の佐渡相川所鋳銭である。

8016は16ＳＢ28の柱穴、8017は16ＳＢ33の柱穴、8019は16ＳＢ29の柱穴、8020は16ＳＢ32の柱穴から出土した。柱穴内出土の寛永通寶が、古寛永と背文に限定される点が注目される。

8026は明治13年鋳造の半銭銅貨である。調査区内で表採された。

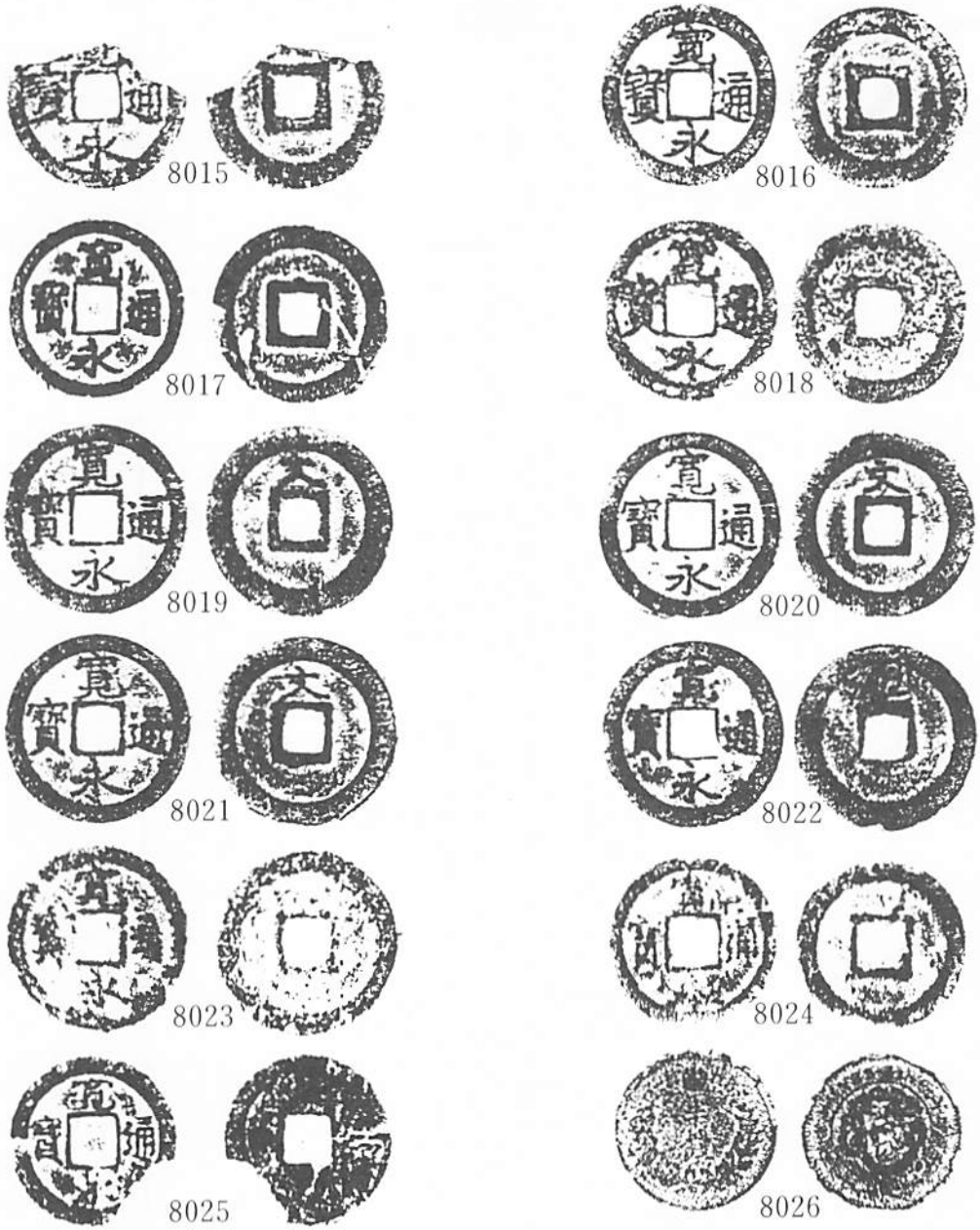
（２）その他の金属製品（第106図）

8027は銅製のリング状の金具である。裏表に唐草の文様が施される。調査区西隅の攪乱部からの出土である。時期は全く不明である。また用途も不詳である。8028は銅製の金具である。用途時期は不明である。8037～8040は煙管の雁首、8029、8041～8043は煙管の吸口である。近世のものである。8030は刀である。出土した16ＳＥ13の年代観から13世紀後半～14世紀前半のものと推測される。8031は鉈である。出土した16ＳＫ20の年代観から19世紀代のものと推測される。8032は掛け金具を受ける金具、8033、8034は釘である。いずれも出土遺構の年代観から19世紀以降の製品と推測される。8035の鉄斧は時期不詳である。



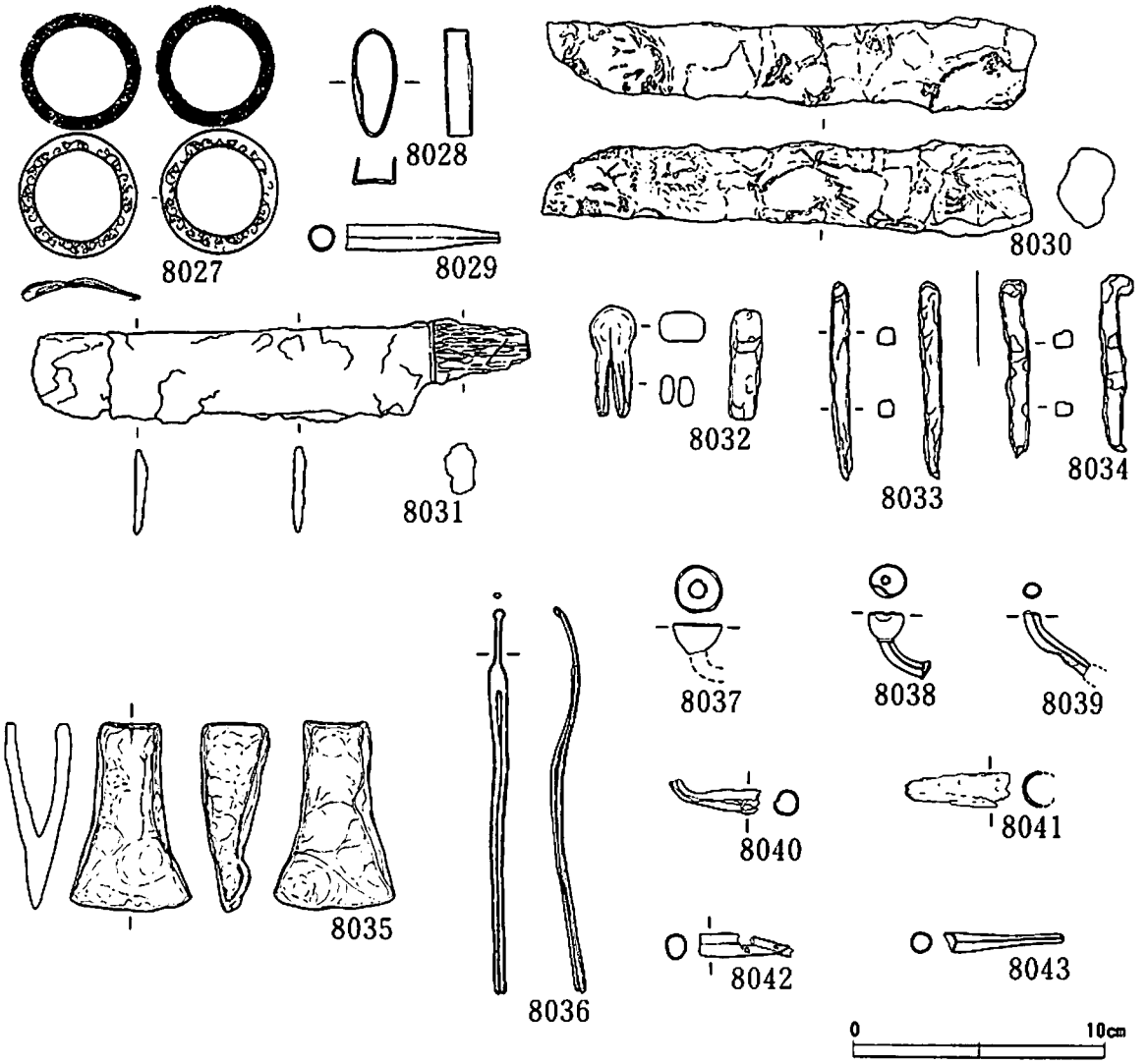
番号	種類	出土位置	直径(cm)	重さ(g)	金属の種類	鋳造年代	備考
8012	永楽通宝	Ｐ304　掘方	2.20	0.83	銅	1408年以降	模鋳銭
8013	永楽通宝	Ｐ372　掘方	2.30	1.01	銅	〃	模鋳銭
8014	永楽通宝	Ｐ528　掘方	2.20	0.76	銅	〃	模鋳銭

第104図　銭貨②



番号	種類	出土位置	直径(cm)	重さ(g)	金属の種類	鋳造年代	備考
8015	寛永通宝	P285　掘方	2.50	1.50	銅	寛永13年(1636)	古寛永通宝
8016	寛永通宝	P395　掘方	2.40	2.99	銅	寛永13年(1636)	古寛永通宝
8017	寛永通宝	P935　掘方	2.40	2.62	銅	寛永13年(1636)	古寛永通宝
8018	寛永通宝	16SD5　埋土	2.40	1.76	銅	寛永13年(1636)	古寛永通宝
8019	寛永通宝	P361　掘方	2.60	3.26	銅	寛文8年(1668)	江戸亀戸所鋳
8020	寛永通宝	P391　掘方	2.50	3.37	銅	寛文8年(1668)	江戸亀戸所鋳
8021	寛永通宝	16SK7　埋土	2.50	3.10	銅	寛文8年(1668)	江戸亀戸所鋳
8022	寛永通宝	ⅡG8h　Ⅰ層	2.50	2.69	銅	享保2年(1717)	佐渡相川所鋳
8023	寛永通宝	ⅡG8g　Ⅰ層	2.30	1.57	銅	元文元年(1736)	山城横大路所鋳
8024	寛永通宝	ⅢG5g　Ⅰ層	2.50	2.80	銅	享保11年(1726)	江戸十万坪所鋳
8025	寛永通宝	排土中	2.30	1.44	銅	元文元年(1736)	江戸十万坪所鋳
8026	半銭銅貨	ⅡG7g　表採	2.20	3.22	銅他	明治13年（1880）	

第105図　銭貨③



番号	種類	出土位置	その他
8027	不明金具	ⅢG4b　撹乱	銅製品　表裏面に文様がある　時期不詳
8028	不明金具	ⅢG4b　撹乱	銅製品
8029	煙管	ⅡG9h　Ⅰ層	銅製品と吸口
8030	刀	16SE13　埋土	刀子とするには大きい
8031	なた	16SK20　埋土	木質部わずかに残存
8032	不明	16SD7　埋土	
8033	釘	16SD7　埋土	
8034	釘	16SK20　埋土	
8035	鉄斧	ⅡG9h　Ⅰ層	時期不詳
8036	かんざし	ⅢG4c　Ⅰ層	銅製品
8037	煙管	ⅡG8e　Ⅰ層	
8038	煙管	P386　掘方	
8039	煙管	P391　掘方	
8040	煙管	P476　掘方	
8041	煙管	P313　掘方	
8042	煙管	ⅡG9h　Ⅰ層	
8043	煙管	P919　掘方	

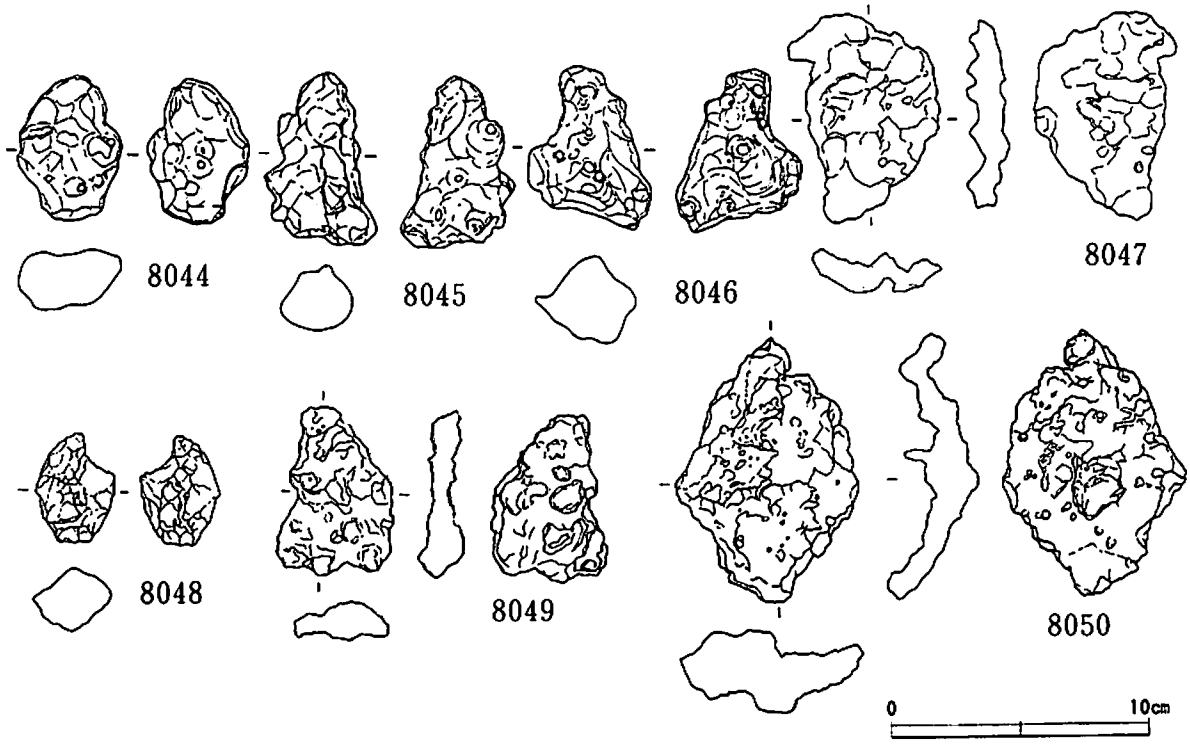
第106図　金属製品

10　その他の遺物（第107、108図　写真図版74）

8044～8050は鍛冶滓と推測される。8050はやや大型で碗形滓の形状を呈する。8046、8048は12世紀の溝からの出土であり、12世紀に属する鍛冶滓である。他は近世以降のものと推測される。

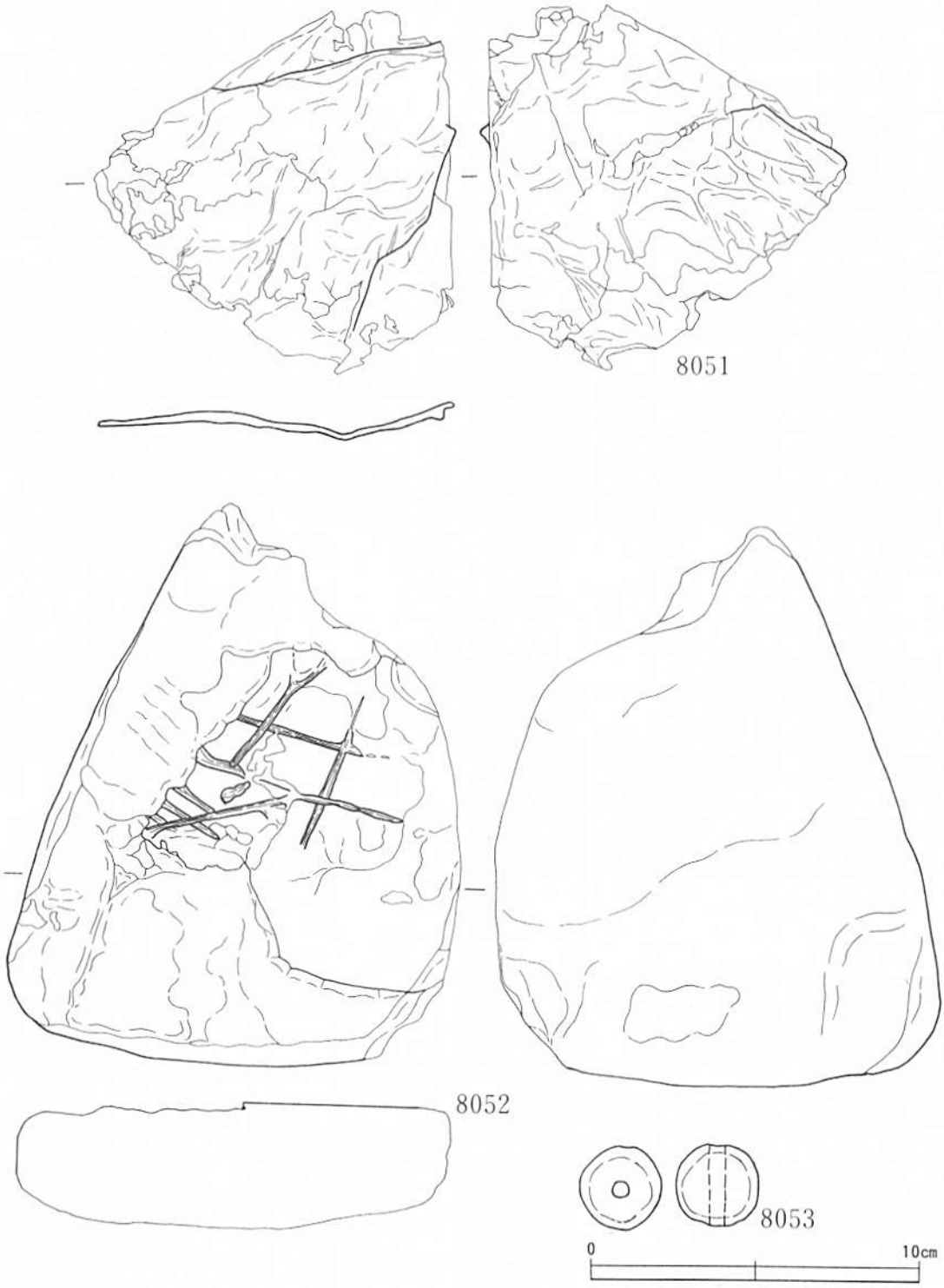
8051は漆紙である。漆の染みた紙を折りたたんだものである。赤外線カメラで観察したが墨書は確認できなかった。16ＳＥ６からの出土で12世紀後半のものと推測できる。8052は鋳型と推測される。還元色を呈する粘土製のものである。表面が摩滅しているが、表面に沈線が格子状に施されているのを確認できる。この上に真土を施し鋳型としたと推測される。具体的に何の製品の鋳型かは判断できない。出土した遺構16ＳＫ40は近世以降に属する遺構であるが、8052の年代については不明である。

8053は素焼きの土製の玉である。貫通する孔がある。時期は不明である。



番号	種類	出土位置	その他
8044	鉄滓	16ＳＥ11　1層	鍛冶滓
8045	鉄滓	16ＳＥ11　1層	鍛冶滓
8046	鉄滓	16ＳＤ12　埋土	鍛冶滓
8047	鉄滓	16ＳＤ３　埋土	鍛冶滓
8048	鉄滓	16ＳＤ15　埋土（ⅢＧ５ｂ）	鍛冶滓
8049	鉄滓	ⅢＧ０ｇ　Ⅰ層	鍛冶滓
8050	鉄滓	16ＳＫ19　埋設箱内	鍛冶滓

第107図　鉄滓



番号	種類	出土位置	その他
8051	漆紙	16ＳＥ６　埋土	折りたたんでいる　文字は確認できず
8052	鋳型	16ＳＫ40　埋土	環元色を呈する　時期不詳
8053	土玉	ⅢＧ４ｃ　Ⅰ層	時期不詳

第108図　その他の遺物

11　縄文時代の遺物（第109～130図　写真図版75～87）

縄文時代の遺物は主に基本層序のⅣ層から出土した。調査区の南側に縄文時代の遺物が分布する傾向があるが、明確な集中域が存在するわけではない。

（1）縄文時代の土器（第109～115図　写真図版75～78）

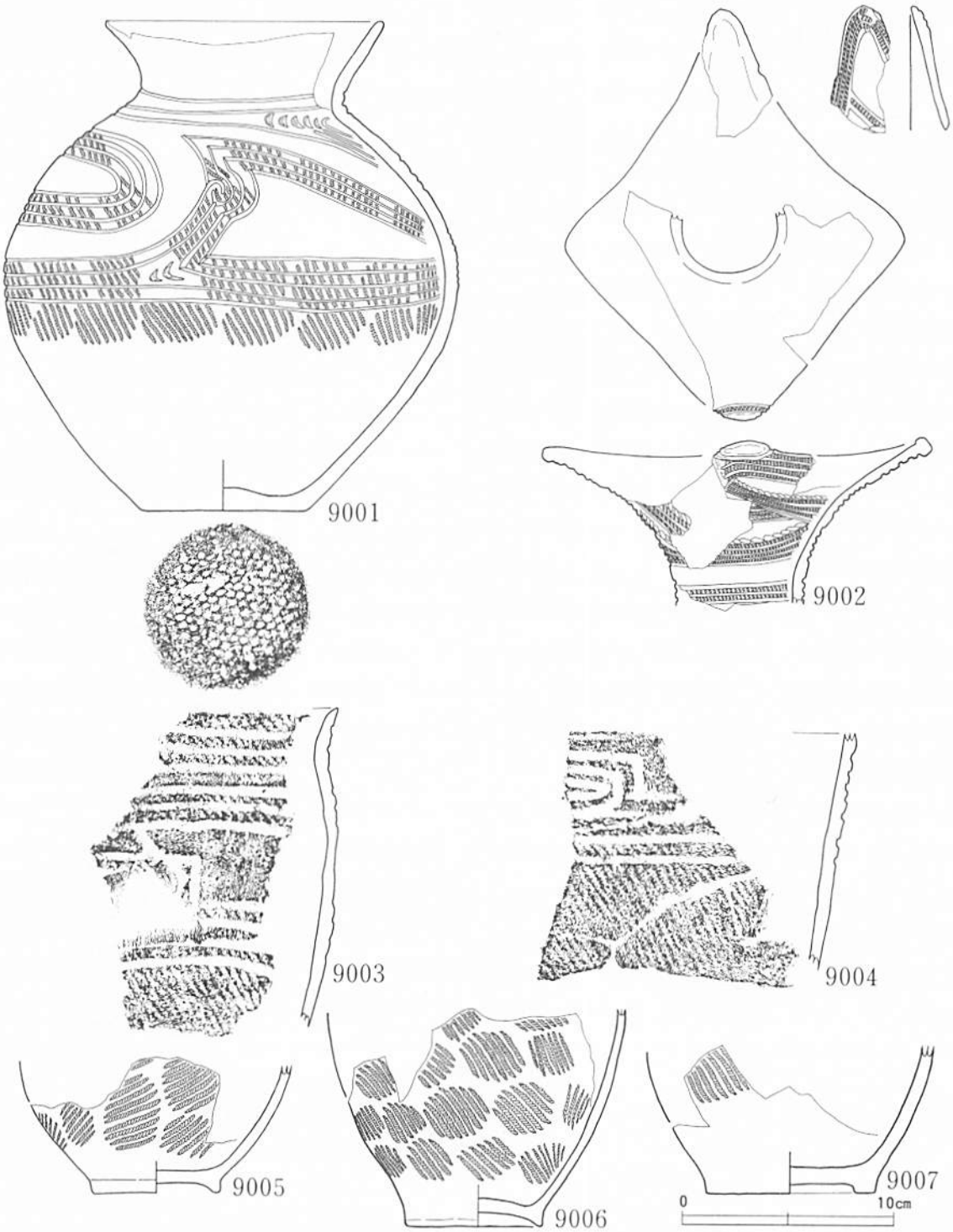
縄文時代の土器の出土総量は32.9kgある。図示した縄文時代の土器は85点（計7.3kg）である。時期的には後期前～中葉の「大湯式」に相当するものと、後期後葉～晩期初頭のものに２大別される。これらの時期差は出土範囲、層位で峻別できる状態ではなかった。よって時期を示す特徴的な文様がない場合は詳細な時期区分ができなかった。

9001～9004は後期前～中葉の土器である。9001は口縁部が一部欠損するがほぼ完形の壺である。底面に網代の圧痕がある。9002は片口壺の頸部～口縁部の破片である。片口部は接合しないが同一個体と判断した。9003、9004は同一個体の深鉢である。沈線によるクランク文が施される。

9005～9085は後期後葉～晩期初頭の土器と推定される。文様の特長の少ない土器は、上述の後期前～中葉に含まれる可能性も否定できない。9005～9007の深鉢の底は上げ底になっている。9009は口縁部に突起が４単位ある。9010は羽状縄文が施される。9012～9018は無文の土器の体部下半である。深鉢と推測される。9022は口縁部が波状になっている。9023～9029は縄文のみ施文の大型の深鉢である。口唇部が平坦なものが多い。9025、9026は羽状縄文が施される。9052～9056は台付きの鉢である。台部分は無文である。9057は把手の破片である。晩期初頭の土器と推測される。9059は隆帯が巡る浅鉢である。隆帯の一部分が剥落している。9060の浅鉢は口縁部が波状になっている。9063～9065の浅鉢には三叉文が施される。晩期初頭の土器である。9066は体部に突起がある。壺か注口土器と推測される。9067～9073は注口土器である。9067～9069は注口部の形態から後期後葉の注口土器と推測される。9070～9072の注口土器には三叉文が施されており晩期初頭の土器と判断される。9074～9081は注口土器と推測される。9077～9079、9081の底面にはリング状の突起がある。

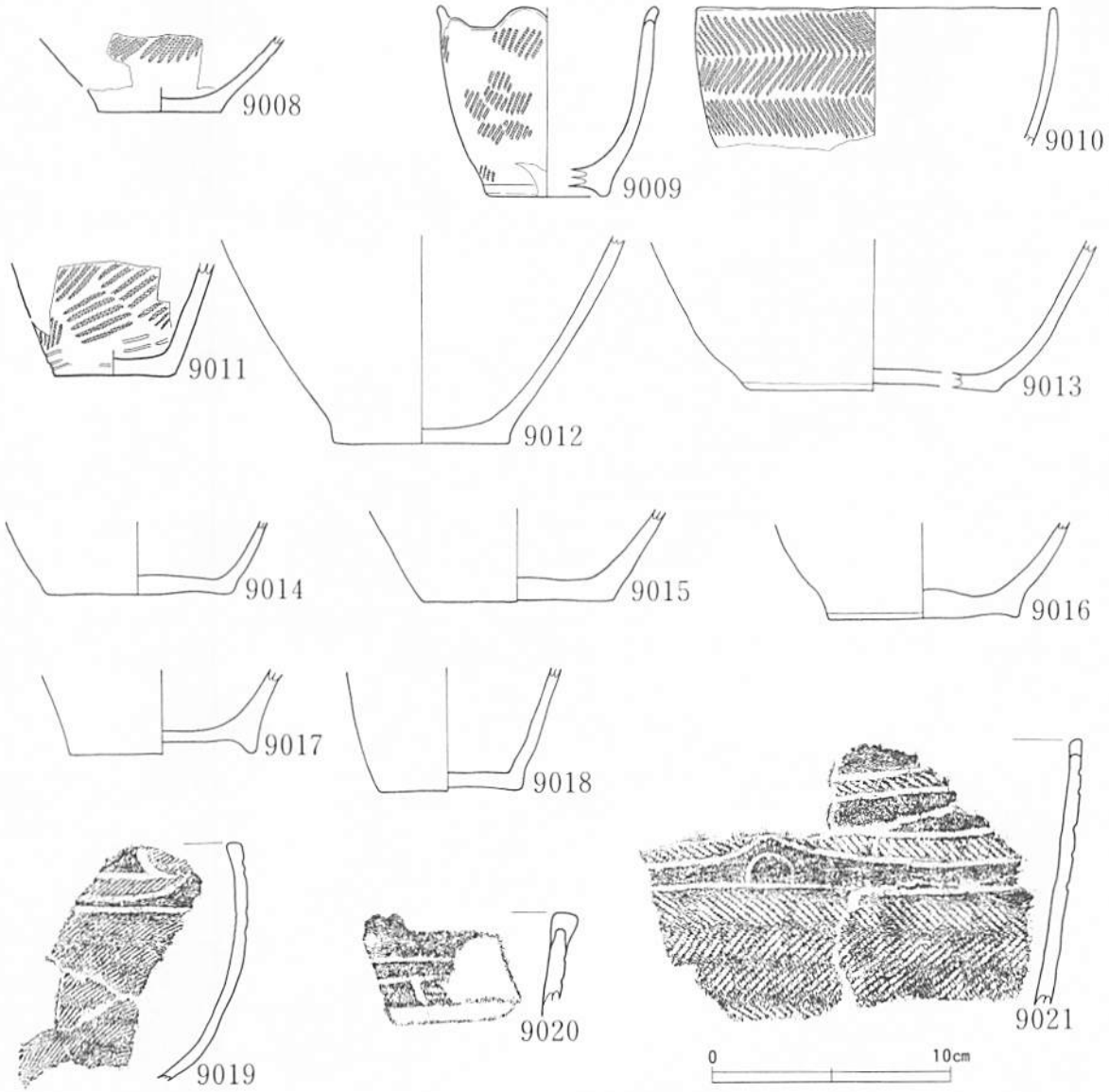
9082は人面付きの注口土器である。ⅢＧ２ｃグリッドから破片がまとまって出土したが、土圧でつぶれた状態ではなくばらばらの状態であった。注口部分の破片はみつかっていない。底面にはリング状の突起があり、体部下半は無文、体部上半には三叉文、円形文が施される。注口部は基部から剥離した状態である。人面は土器正面の口縁に斜め上を見る形で付いている。鼻と顎部分が剥落している。

9083、9084は小型の無文土器である。胎土から縄文時代のものと判断した。9085は土製品か土器の把手と推測されるものである。上端、下端ともに欠損している。



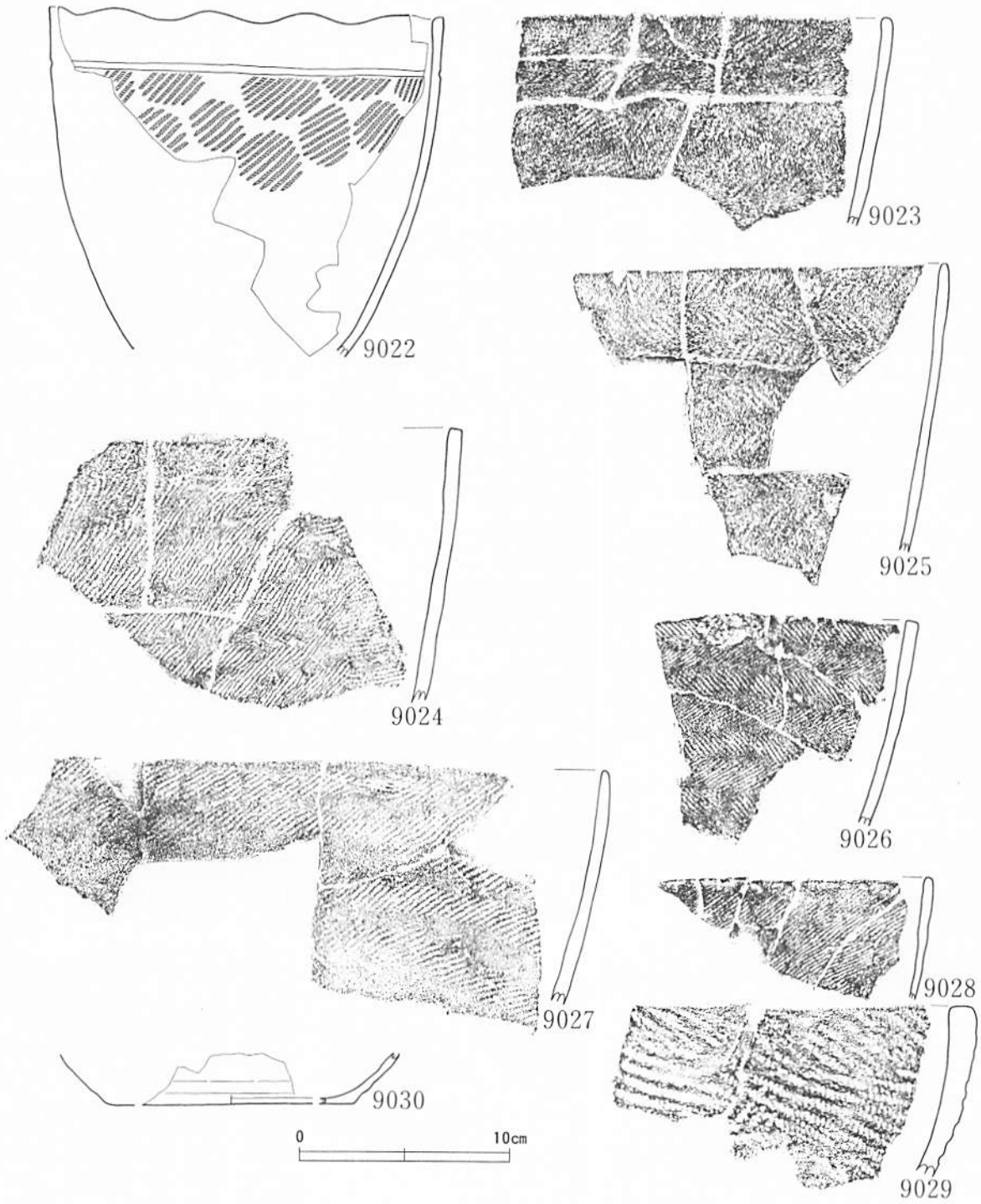
番号	器種	出土位置	法量（cm）			その他
			口径	高さ	底径	
9001	壺	ⅢＧ５ｅ　Ⅳ層	13.2	20.3	7.8	後期前～中頃　底面網代痕　ＲＬ縄文
9002	片口壺	ⅢＧ５ｆ　Ⅳ層	18.2	(8.0)	－	後期前～中頃　ＲＬ縄文
9003	深鉢	ⅢＧ５ｄ　Ⅳ層	－	(14.8)	－	後期前～中頃　クランク文　ＲＬ縄文
9004	深鉢	ⅢＧ５ｄ　Ⅳ層	－	(10.9)	－	後期前～中頃　9003と同一個体　ＲＬ縄文
9005	深鉢	ⅢＧ０ｉ　Ⅳ層	－	(6.3)	6.0	後期末～晩期初頭　上げ底　ＬＲ縄文
9006	深鉢	ⅢＧ５ｅ　Ⅳ層	－	(10.2)	6.6	後期末～晩期初頭　上げ底　ＬＲ縄文
9007	深鉢	ⅢＧ１ｈ　Ⅳ層	－	(6.9)	7.9	後期末～晩期初頭　上げ底　ＬＲ縄文

第109図　縄文時代の土器①



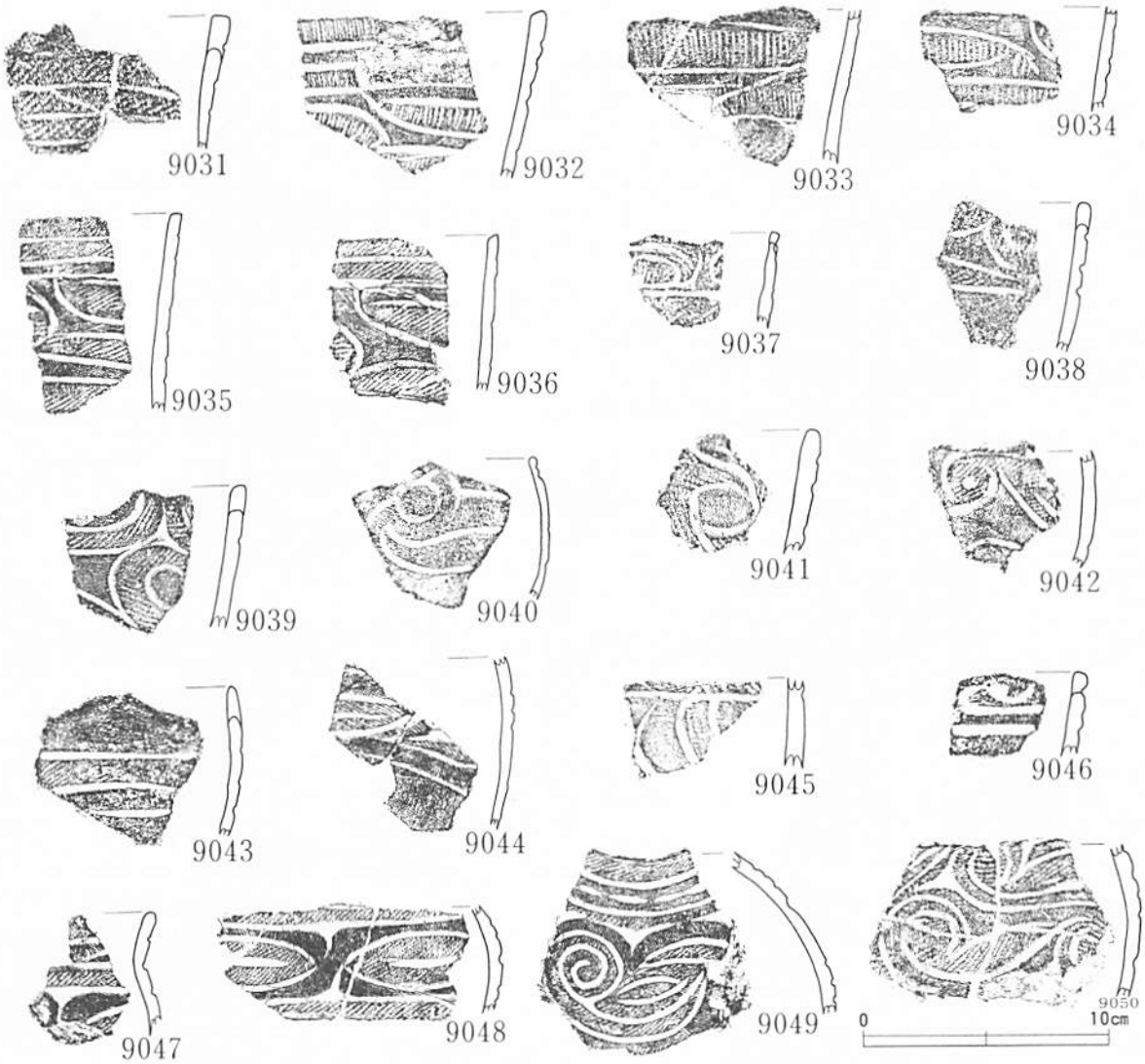
番号	器種	出土位置	法量（cm）			その他	
			口径	高さ	底径		
9008	深鉢	ⅢＧ３ｄ　Ⅳ層	－	(3.1)	5.1	後期後葉～晩期初頭か	ＬＲ縄文
9009	深鉢	ⅢＧ２ｄ　Ⅳ層	9.4	(7.9)	5.2	後期後葉～晩期初頭か	ＬＲ縄文
9010	深鉢	16ＳＫ109　埋土	10.2	(5.9)	－	後期後葉～晩期初頭か	ＬＲ・ＲＬ縄文
9011	深鉢	ⅢＧ２ｄ　Ⅳ層	－	(4.8)	5.0	後期後葉～晩期初頭か	ＲＬ縄文
9012	深鉢	16ＳＫ109　埋土	－	(8.8)	7.4	後期後葉～晩期初頭か	
9013	深鉢	ⅢＧ８ｇ　Ⅳ層	－	(6.4)	10.4	後期後葉～晩期初頭か	
9014	深鉢	ⅢＧ４ｇ　Ⅳ層	－	(3.1)	7.7	後期後葉～晩期初頭か	
9015	深鉢	ⅢＧ２ｈ　Ⅳ層	－	(3.9)	7.9	後期後葉～晩期初頭か	
9016	深鉢	16ＳＫ101　埋土	－	(3.9)	8.0	後期後葉～晩期初頭か	
9017	深鉢	ⅡＧ９ｈ　Ⅳ層	－	(3.6)	7.8	後期後葉～晩期初頭か	
9018	深鉢	ⅢＧ３ｇ　Ⅳ層	－	(4.9)	6.0	後期後葉～晩期初頭か	
9019	深鉢	ⅢＧ２ｈ　Ⅳ層	－	(9.4)	－	後期末～晩期初頭	ＬＲ縄文
9020	深鉢	ⅢＧ１ｈ　Ⅳ層	－	(4.0)	－	後期末～晩期初頭	
9021	深鉢	ⅢＧ０ｆ　Ⅳ層	－	(11.2)	－	後期末～晩期初頭	ＬＲ・ＲＬ縄文

第110図　縄文時代の土器②



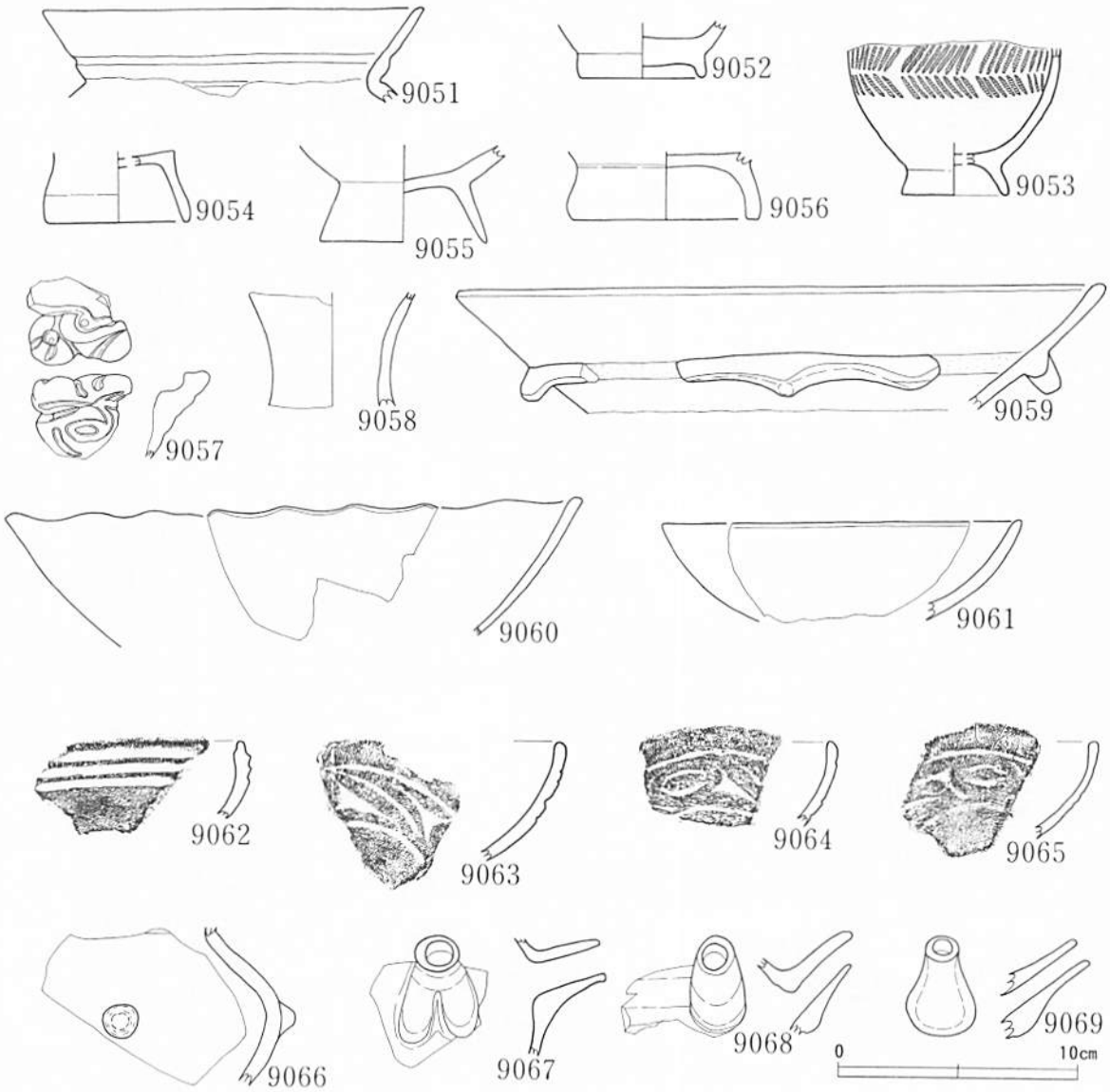
番号	器種	出土位置	法量（cm）			その他
			口径	高さ	底径	
9022	深鉢	ⅢＧ０ｇ　Ⅳ層	18.7	(16.2)	－	後期後葉～晩期初頭か　ＲＬ縄文
2023	深鉢	ⅢＧ１ｈ　Ⅳ層	－	(9.6)	－	後期後葉～晩期初頭か　ＲＬ縄文か
9024	深鉢	ⅢＧ２ｇ　Ⅳ層	－	(12.5)	－	後期後葉～晩期初頭か　ＬＲ縄文
9025	深鉢	ⅢＧ２ｂ　Ⅳ層	－	(13.6)	－	後期後葉～晩期初頭か　ＬＲ・ＲＬ縄文
9026	深鉢	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	－	(9.6)	－	後期後葉～晩期初頭か　ＬＲ・ＲＬ縄文
9027	深鉢	ⅡＧ８ｆ　Ⅳ層	－	(10.9)	－	後期後葉～晩期初頭か　ＲＬ縄文
9028	深鉢	ⅢＧ３ｄ　Ⅳ層	－	(5.6)	－	後期後葉～晩期初頭か　ＲＬ縄文
9029	深鉢	ⅢＧ６ｂ　Ⅳ層	－	(8.4)	－	後期後葉～晩期初頭か　ＲＬ縄文
9030	深鉢	ⅢＧ４ｄ　Ⅳ層	－	(2.4)	10.6	後期後葉～晩期初頭か

第111図　縄文時代の土器③



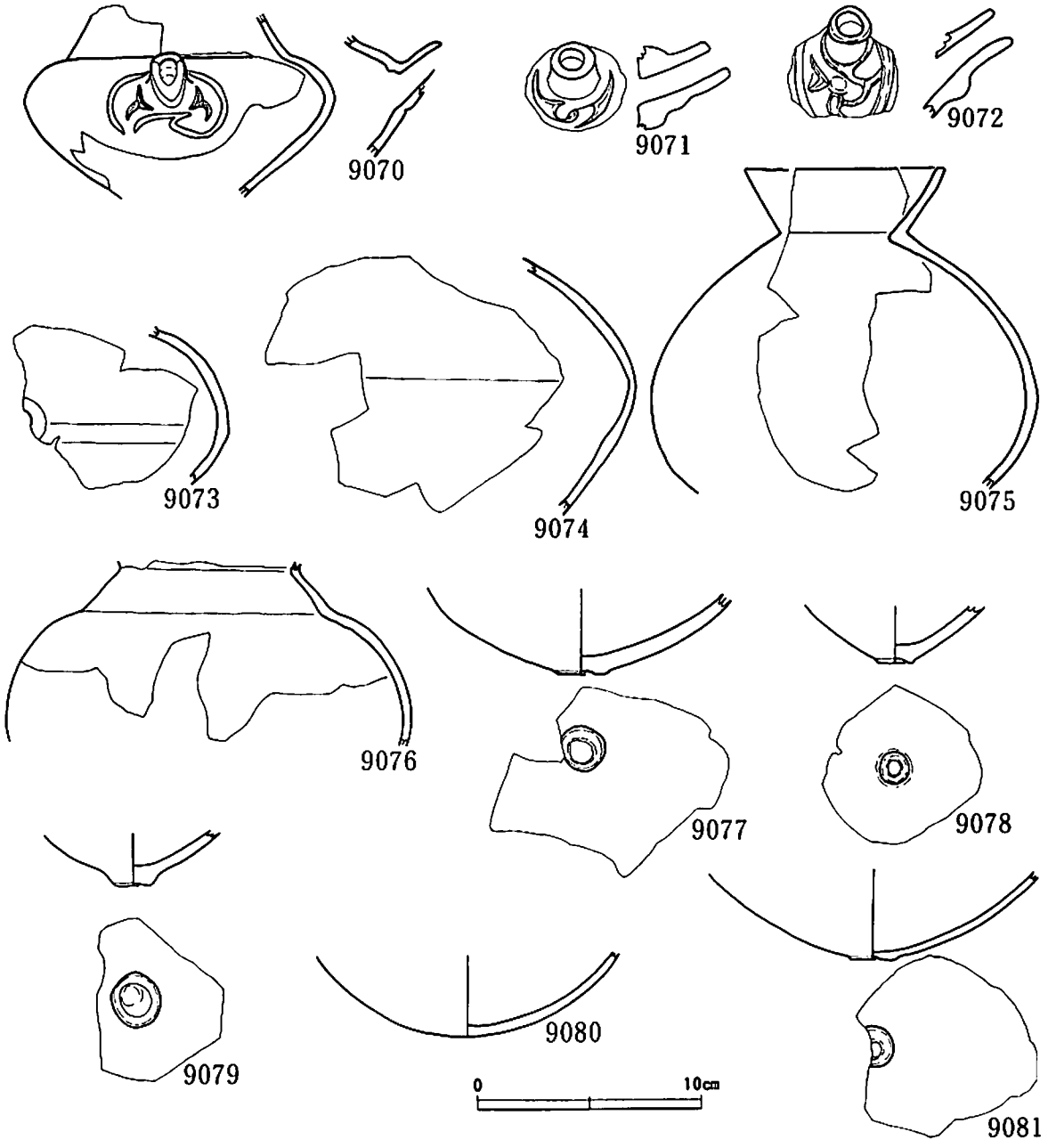
番号	器種	出土位置	法量（cm）			その他
			口径	高さ	底径	
9031	深鉢	ⅢＧ１ｉ　Ⅳ層	－	(5.4)	－	後期後葉～晩期初頭
9032	深鉢	ⅡＧ９ｇ　Ⅳ層	－	(6.7)	－	後期後葉～晩期初頭
9033	深鉢	ⅡＧ８ｃ　Ⅳ層	－	(6.1)	－	後期後葉～晩期初頭
9034	深鉢	ⅡＧ８ｃ　Ⅳ層	－	(4.1)	－	後期後葉～晩期初頭
9035	深鉢	ⅢＧ１ｇ　Ⅳ層	－	(7.9)	－	後期後葉～晩期初頭　9036と同一個体か
9036	深鉢	ⅢＧ２ｅ　Ⅳ層	－	(6.1)	－	後期後葉～晩期初頭
9037	深鉢	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	－	(3.9)	－	後期後葉～晩期初頭
9038	深鉢	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	－	(5.9)	－	後期後葉～晩期初頭
9039	深鉢	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	－	(5.6)	－	後期後葉～晩期初頭
9040	深鉢	ⅡＧ９ｈ　Ⅳ層	－	(5.7)	－	後期後葉～晩期初頭
9041	深鉢	ⅢＧ１ｉ　Ⅳ層	－	(5.0)	－	後期後葉～晩期初頭
9042	深鉢	ⅢＧ０ｅ　Ⅳ層	－	(4.9)	－	後期後葉～晩期初頭
9043	深鉢	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	－	(6.0)	－	後期後葉～晩期初頭
9044	深鉢	ⅢＧ２ｇ　Ⅳ層	－	(6.6)	－	後期後葉～晩期初頭
9045	深鉢	ⅡＧ８ｈ　Ⅳ層	－	(3.6)	－	後期後葉～晩期初頭
9046	深鉢	ⅢＧ９ｈ　Ⅳ層	－	(3.1)	－	後期後葉～晩期初頭
9047	壺	ⅢＧ４ｄ　Ⅳ層	－	(4.2)	－	後期後葉～晩期初頭　9048と同一個体か　ＬＲ縄文
9048	壺	ⅢＧ４ｄ　Ⅳ層	－	(4.0)	－	後期後葉～晩期初頭　ＬＲ縄文
9049	壺	ⅢＧ１ｈ　Ⅳ層	－	(6.6)	－	後期後葉～晩期初頭
9050	壺	ⅢＧ１ｄ　Ⅳ層	－	(6.1)	－	後期後葉～晩期初頭

第112図　縄文時代の土器④



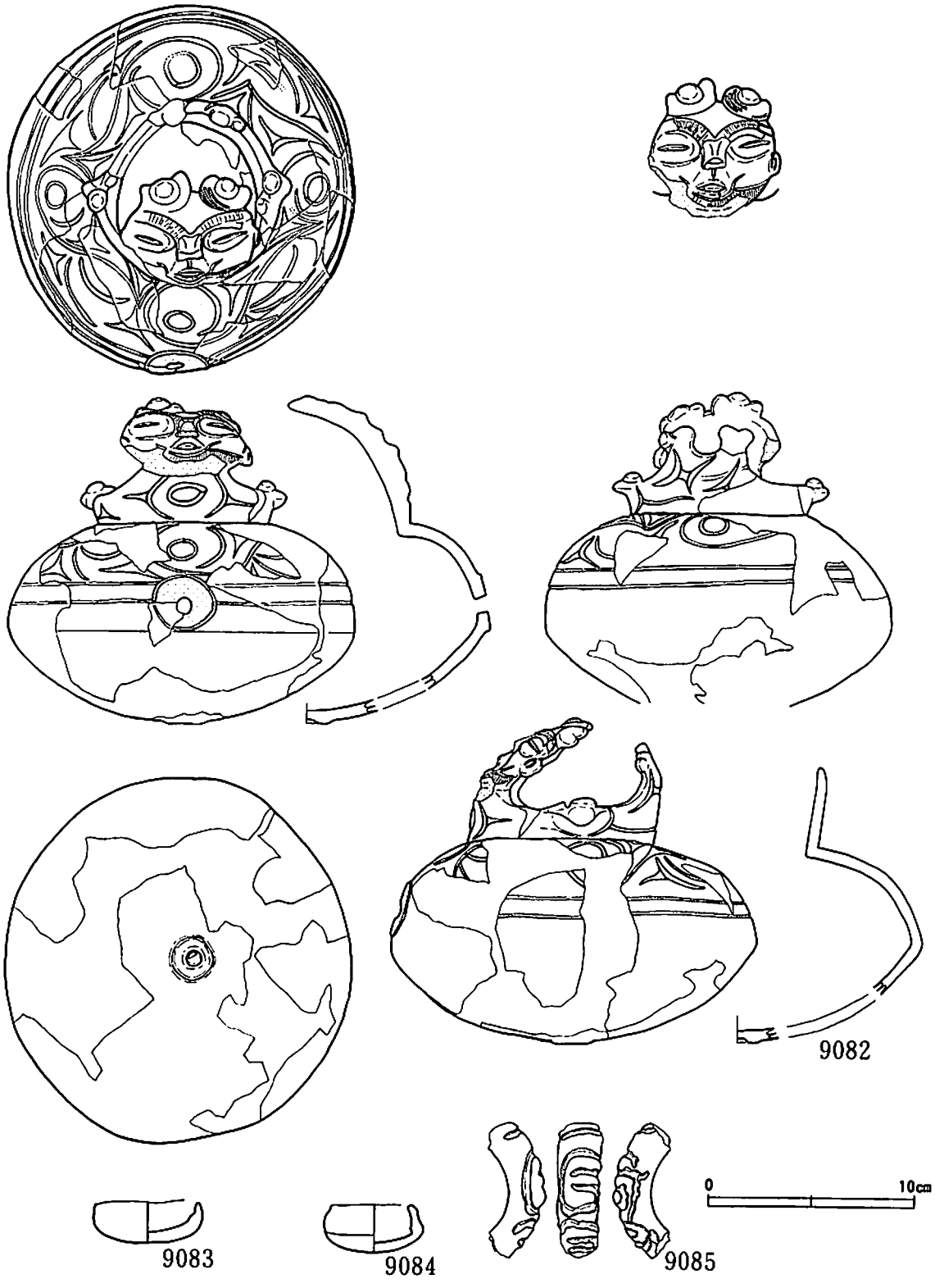
番号	器種	出土位置	法量（cm）			その他
			口径	高さ	底径	
9051	壺	ⅡＧ９ｈ　Ⅳ層	15.9	(3.6)	－	後期後葉～晩期初頭
9052	台付鉢	ⅡＧ９ｆ　Ⅳ層	－	(2.6)	5.2	後期後葉～晩期初頭　ＬＲ縄文
9053	台付鉢	ⅢＧ５ｄ　Ⅳ層	－	(6.3)	4.7	後期後葉～晩期初頭
9054	台付鉢	ⅢＧ５ｄ　Ⅳ層	－	(3.1)	5.9	後期後葉～晩期初頭
9055	台付鉢	ⅡＧ７ｃ　Ⅳ層	－	(4.2)	7.0	後期後葉～晩期初頭
9056	台付鉢	ⅢＧ１ｃ　Ⅰ層	－	(3.0)	7.8	後期後葉～晩期初頭
9057	鉢？	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	－	(3.6)	－	晩期初頭　把手部分の破片
9058	鉢？	ⅢＧ２ｂ　Ⅳ層	－	(4.8)	－	後期後葉～晩期初頭
9059	浅鉢	ⅢＧ５ｆ　Ⅳ層	27.0	(5.1)	－	後期後葉～晩期初頭　隆帯が一部剥落
9060	浅鉢	ⅢＧ４ｄ　Ⅳ層	24.2	(5.2)	－	後期後葉～晩期初頭
9061	浅鉢	ⅡＧ９ｄ　Ⅳ層	15.0	(4.0)	－	後期後葉～晩期初頭
9062	浅鉢	ⅢＧ１ｉ　Ⅳ層	－	(3.1)	－	後期後葉～晩期初頭
9063	浅鉢	ⅢＧ１ｅ　Ⅳ層	－	(5.0)	－	後期後葉～晩期初頭　三叉文
9064	浅鉢	ⅢＧ２ｆ　Ⅳ層	－	(3.5)	－	晩期初頭　9065と同一個体か　三叉文
9065	浅鉢	ⅢＧ１ｇ　Ⅳ層	－	(4.0)	－	晩期初頭　三叉文
9066	壺？	ⅢＧ２ｈ　Ⅳ層	－	(6.5)	－	後期後葉
9067	注口土器	Ｐ330　掘方（ⅡＧ９ｅ）	－	(4.9)	－	後期後葉　こぶがある
9068	注口土器	ⅡＧ８ｈ　Ⅳ層	－	(4.4)	－	後期後葉か
9069	注口土器	ⅢＧ２ｇ　Ⅳ層	－	(4.2)	－	後期後葉か

第113図　縄文時代の土器⑤



番号	器種	出土位置	法量（cm）			その他
			口径	高さ	底径	
9070	注口土器	ⅡＧ９ｇ　Ⅳ層	－	8.4	－	晩期初頭　三叉文
9071	注口土器	ⅢＧ０ｉ　Ⅳ層	－	3.8	－	晩期初頭　三叉文
9072	注口土器	ⅢＧ５ｅ　Ⅰ層	－	5.0	－	晩期初頭　三叉文
9073	注口土器	ⅡＧ９ｈ　Ⅳ層	－	6.7	－	後期後葉～晩期初頭
9074	注口土器か	ⅡＧ９ｈ　Ⅳ層	－	11.0	－	後期後葉～晩期初頭
9075	注口土器か	ⅢＧ４ｄ　Ⅳ層	8.8	14.2	－	後期後葉～晩期初頭
9076	注口土器か	ⅡＧ９ｈ　Ⅳ層	－	8.6	－	後期後葉～晩期初頭
9077	注口土器か	ⅢＧ２ｇ　Ⅳ層	－	3.8	2.4	後期後葉～晩期初頭
9078	注口土器か	ⅢＧ４ｄ　Ⅳ層	－	2.6	1.4	後期後葉～晩期初頭
9079	注口土器か	16ＳＫ109　埋土	－	2.3	1.6	後期後葉～晩期初頭
9080	注口土器か	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	－	3.8	－	後期後葉～晩期初頭
9081	注口土器か	ⅢＧ０ｇ　Ⅳ層	－	4.2	2.0	後期後葉～晩期初頭

第114図　縄文時代の土器⑥



番号	器種	出土位置	法量（cm）			その他
			口径	高さ	底径	
9082	注口土器	ⅢＧ２ｃ　Ⅱ層	10.1	14.8	2.3	晩期初頭　　人面が付く
9083	小型土器	ⅢＧ１ｂ　Ⅰ層	4.2	2.3	－	後期後葉～晩期初頭か
9084	小型土器	ⅢＧ１ｂ　Ⅰ層	5.1	1.9	－	後期後葉～晩期初頭か
9085	土製品？	ⅡＧ９ｈ　Ⅱ層	－	6.4	－	後期後葉～晩期初頭か　土製品か土器把手か不明

第115図　縄文時代の土器⑦

（2）縄文時代の石器（第116～130図　写真図版79～87）

縄文時代の石器は石鏃26点（9101～9126）、石錐1点（9127）、石匙7点（9128～9134）、石篦5点（9135～9139）、スクレイパー15点（9140～9154）、異形石器1点（9155）、打製石斧5点（9156～9160）、磨製石斧4点（9161～9164）、石棒3点（9165～9167）、磨石5点（9168～9172）、くぼみ石9点（9173～9181）、石皿？11点（9182、9183、9185～9193）、擦痕のある石1点（9184）が出土した。これらの石器の所属時期は個々の形態からは判断できないが、本調査区から出土した縄文土器は、後期前半と後期末～晩期初頭に2大別され、石器もどちらかの時期に属すると推測される。

石鏃は無茎で基部に抉入があるもの（9101～9103）、無茎で抉入がないもの（9104～9106）、有茎のもの（9107～9120）、柳葉状のもの（9121）、欠損するもの（9122、9123）がある。9124～9126は石鏃とするには疑問があるが、一応石鏃とした。9117、9120は基部にアスファルトが付着する。

9127はつまみがあり錐部が長い石錐である。

石匙は縦型のもの（9128～9130）、横型のもの（9132～9134）がある。9130と9132のつまみ部分にはアスファルトが付着している。

9135～9139は石篦である。刃部が下端にあるものを石篦とした。9138は片面のみの加工である。

刃部が側縁にある剥片石器をスクレイパーとして一括した（9140～9154）。細分類が可能であろうが、ここではその作業をおこなっていない。

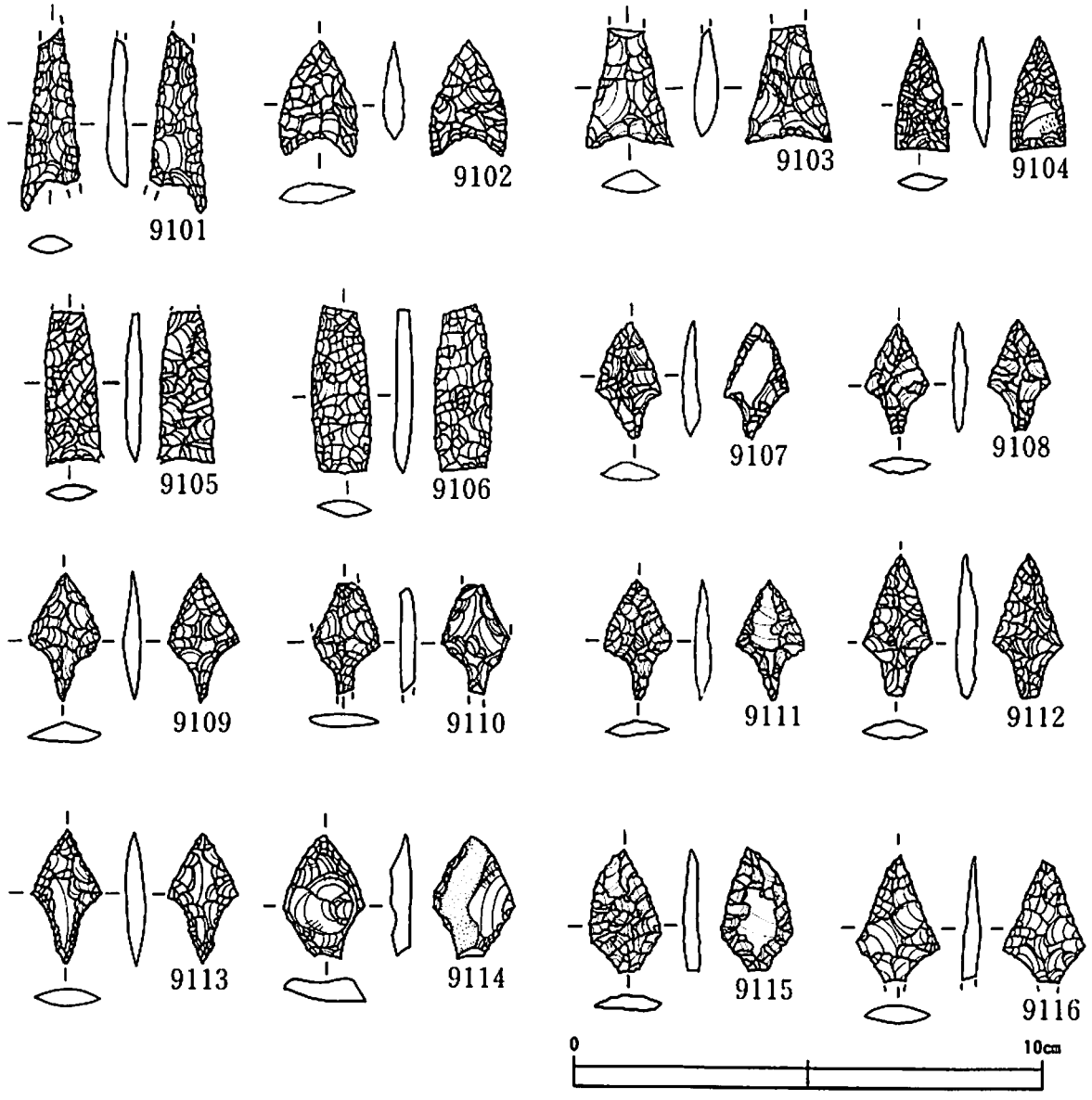
9155は異形石器とした。鋸歯状の突起がみられる。図の下側は欠損している。

1956～1960は打製石斧である。9159、9160は基部が茎状になっている。9161～9164は磨製石斧である。9162、9164は刃部が欠損している。

9165～9167は石棒または石刀の破片と推測される。石質は共通しており同一個体の可能性もある。

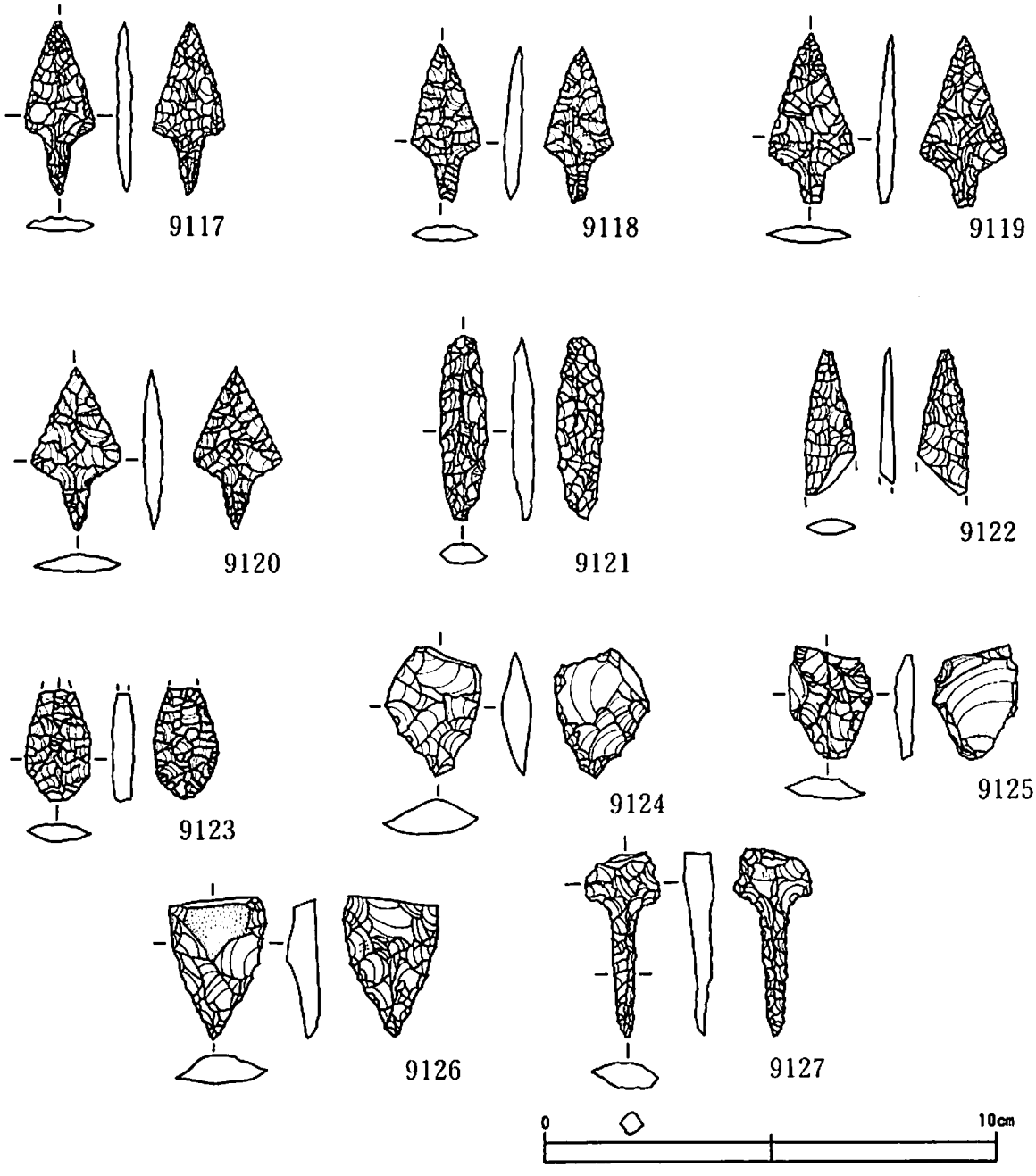
9168～9172は磨り面がある礫で、磨石とした。9172は凹部分もある。9173～9182は凹石である。1973はたたき石が妥当かもしれない。9184は擦痕のある石である。人為は加えられているが製品名は不明である。

9182、9183、9185～9193は石皿とした。9182は真中がくぼみ、石皿状の形態であるが人為的な造形でない可能性もある。9183、9185～9193は板状の石である。擦痕があり石皿とした。



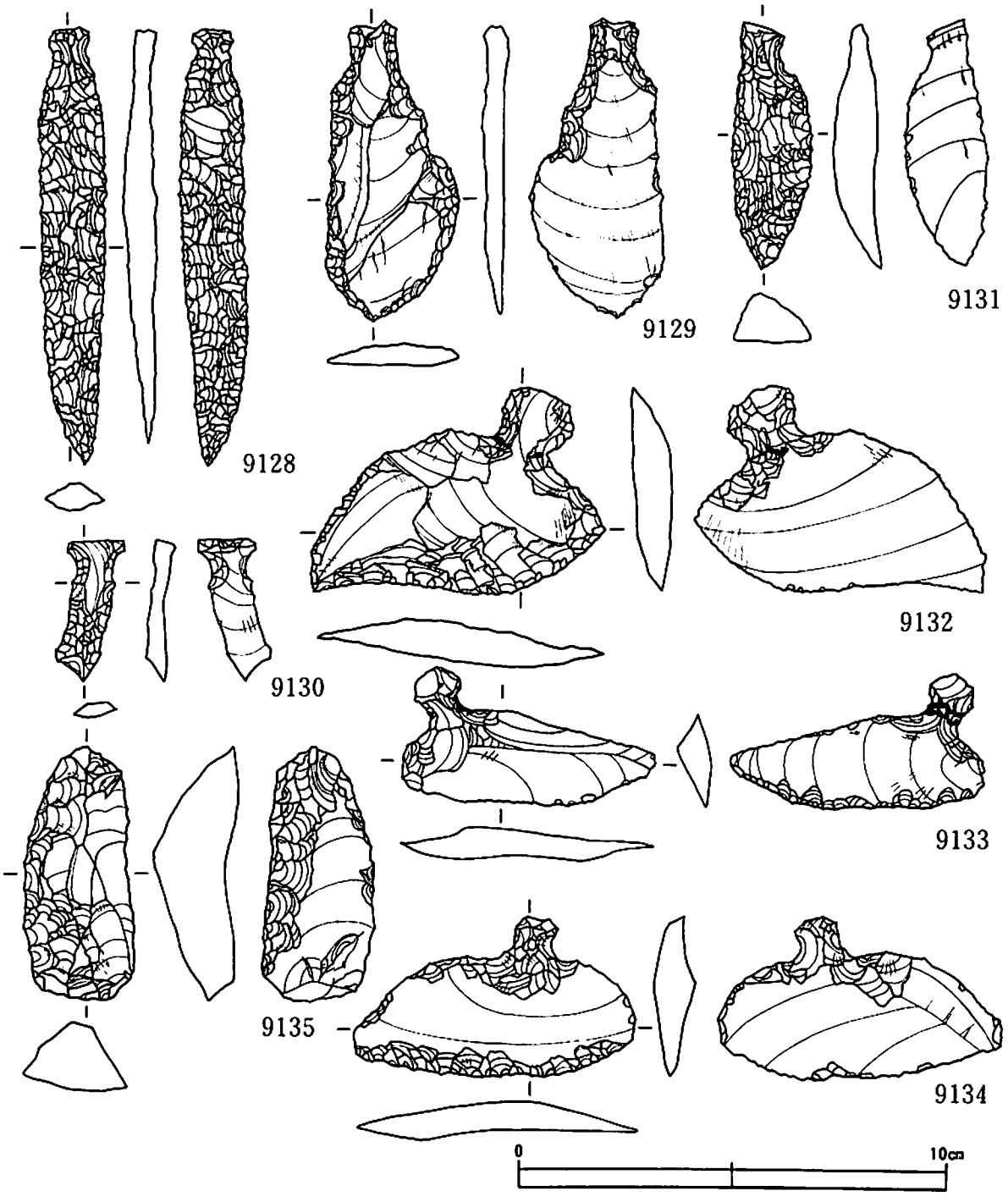
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9101	石鏃	ⅡG9e　Ⅳ層	3.9	1.2	0.5	1.76	流紋岩生凝灰岩	
9102	石鏃	16SK11　埋土	2.4	0.4	1.7	1.38	チャート	
9103	石鏃	ⅢG3b　Ⅳ層	2.6	1.9	0.5	1.83	凝灰質泥岩	
9104	石鏃	ⅢG6d　Ⅳ層	2.4	1.1	0.3	0.96	チャート	
9105	石鏃	ⅢG0c　Ⅲ層	3.1	1.1	0.3	1.74	凝灰質泥岩	
9106	石鏃	ⅢG4b　Ⅰ層	3.5	1.2	0.4	1.58	凝灰質泥岩	
9107	石鏃	ⅢG0h　Ⅰ層	2.4	1.4	3.5	1.05	チャート	
9108	石鏃	16SK109　南側埋土	2.3	1.3	0.3	0.69	チャート質粘板岩	
9109	石鏃	ⅢG1h　Ⅳ層	2.7	1.5	0.4	1.02	チャート質粘板岩	
9010	石鏃	ⅢG0d　Ⅳ層	2.3	1.4	0.3	0.98	チャート	
9011	石鏃	ⅢG0h　Ⅰ層	2.5	1.4	3.5	0.86	チャート	
9012	石鏃	ⅢG1b　Ⅰ層	3.0	1.5	0.4	1.32	チャート質粘板岩	
9013	石鏃	ⅢG4f　Ⅰ層	2.8	1.4	0.4	1.01	流紋岩生凝灰岩	
9014	石鏃	16SD12　埋土（ⅢG4h）	2.6	1.7	0.4	1.68	凝灰質泥岩	
9015	石鏃	ⅡG9h　Ⅳ層	2.6	1.5	0.3	1.43	チャート	
9016	石鏃	16SⅠ1　環溝中	2.7	1.7	0.4	1.34	流紋岩生凝灰岩	

第116図　縄文時代の石器①



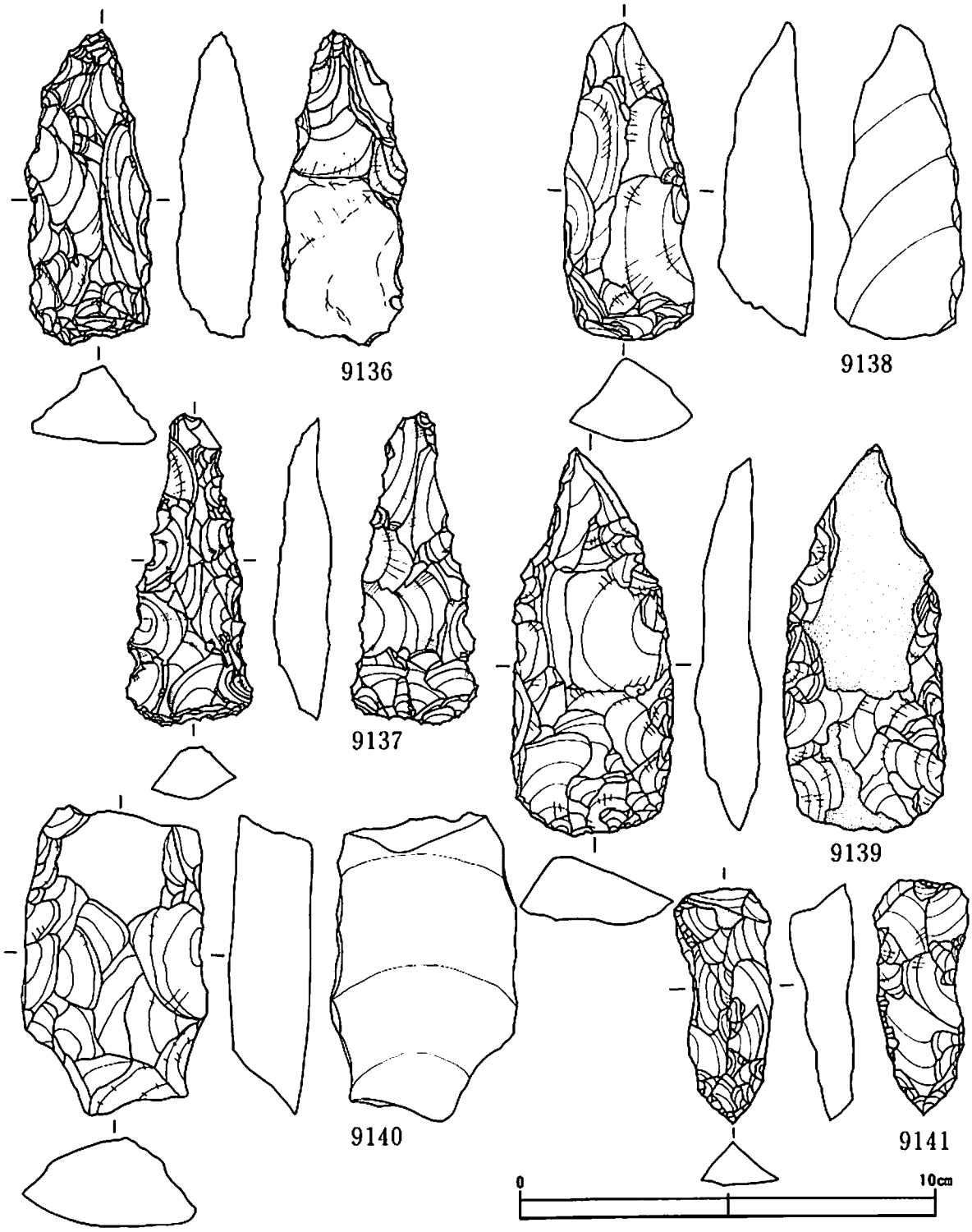
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9117	石鏃	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	3.8	1.5	0.3	1.17	凝灰質泥岩	基部にアスファルト付着
9118	石鏃	Ｐ607　掘方	3.4	1.5	3.5	1.29	凝灰質泥岩	
9119	石鏃	ⅢＧ５ｆ　Ⅰ層	3.7	1.9	0.4	1.84	チャート	
9120	石鏃	ⅡＧ９ｇ　Ⅳ層	3.6	2.0	4.0	1.83	チャート	基部にアスファルト付着
9121	石鏃	ⅢＧ０ｃ　Ⅳ層	4.0	1.0	0.5	1.96	流紋岩生凝灰岩	
9122	石鏃	ⅡＤ８ｄ　Ⅳ層	3.2	1.1	0.3	1.05	粘板岩	
9123	石鏃	ⅡＧ９ｈ　Ⅳ層	2.4	1.4	0.4	1.66	チャート	
9124	石鏃	ⅢＧ２ｇ　Ⅳ層	2.3	2.1	0.7	3.37	流紋岩生凝灰岩	
9125	石鏃	ⅢＧ０ｉ　Ⅳ層	2.3	1.8	0.4	2.11	チャート質粘板岩	
9126	石鏃	ⅢＧ０ｉ　Ⅳ層	3.0	2.1	0.7	3.88	チャート質粘板岩	
9127	石錐	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	4.0	0.6	1.7	2.35	泥質凝固灰岩	

第117図　縄文時代の石器②



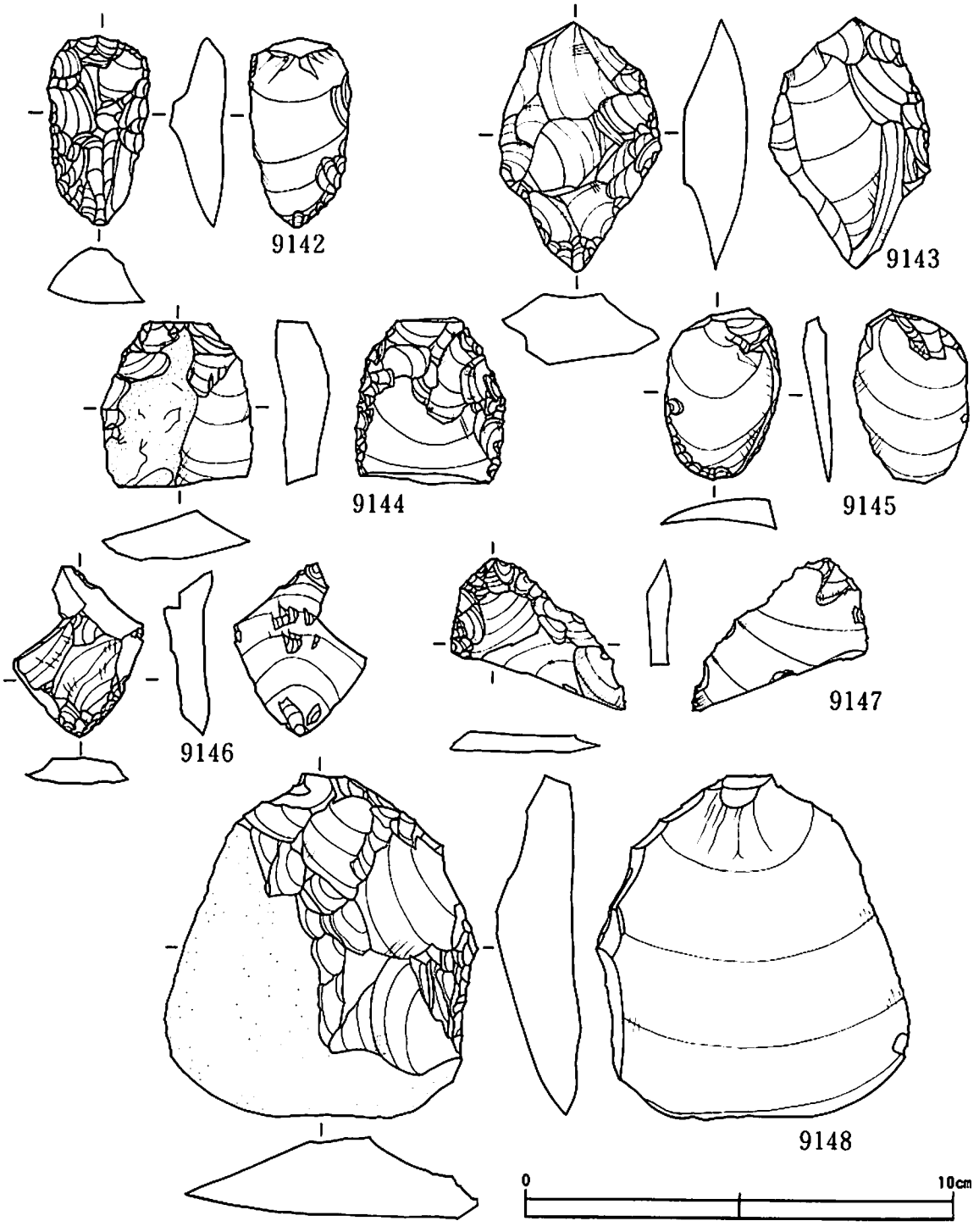
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9128	石匙	ⅡG8g　Ⅳ層	10.1	1.5	0.7	10.80	泥質凝灰岩	
9129	石匙	ⅡG8g　Ⅳ層	6.8	3.1	0.6	10.71	泥質凝灰岩	
9130	石匙	ⅢG4b　Ⅳ層	3.3	1.6	0.7	1.86	チャート質粘板岩	つまみ部分にアスファルト付着
9131	石匙	ⅡG8c　Ⅳ層	5.1	1.8	1.0	10.45	泥質凝灰岩	
9132	石匙	ⅡG9h　Ⅳ層	4.7	6.8	1.0	26.05	粘板岩	つまみ部分にアスファルト付着
9133	石匙	ⅡG8c　Ⅳ層	5.9	3.1	0.8	8.85	チャート質粘板岩	
9134	石匙	ⅡG8c　Ⅳ層	3.6	6.5	0.9	17.29	凝灰質泥岩	
9135	石箆	ⅢG6d　Ⅳ層	6.0	2.6	1.7	24.99	チャート	

第118図　縄文時代の石器③



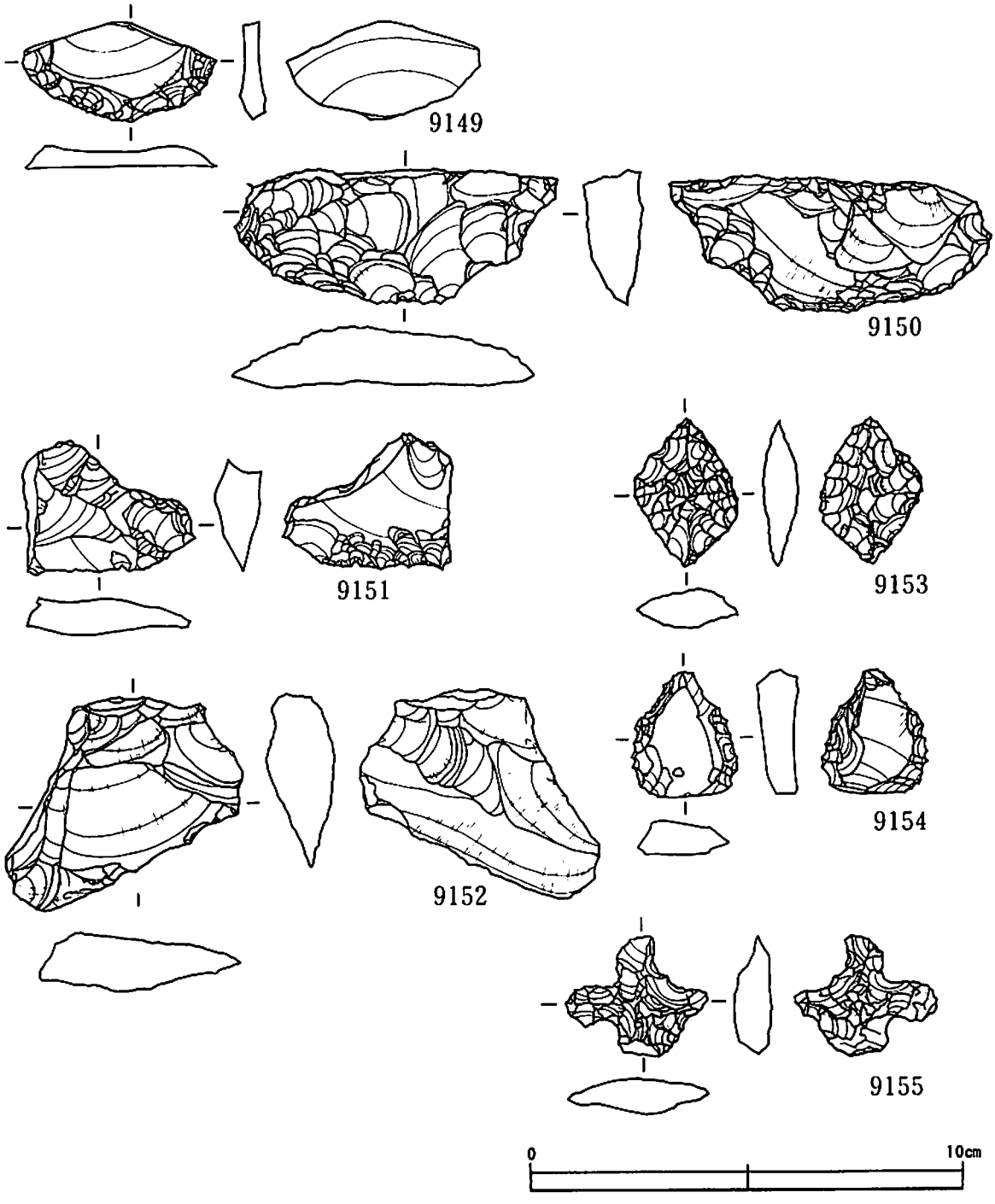
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9136	石鏃	ⅢＧ２ｂ　Ⅳ層	7.3	2.9	2.0	41.68	凝灰質泥岩	
9137	石鏃	ⅢＧ１ｆ　Ⅳ層	7.4	1.3	3.0	24.02	泥質凝灰岩	
9138	石鏃	ⅢＧ２ｂ　Ⅳ層	7.5	3.2	2.3	48.03	凝灰岩質硬砂岩	
9139	石鏃	ⅢＧ０ｇ　Ⅳ層	9.3	3.9	1.6	58.55	粘板岩	
9140	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	ⅢＧ６ｄ　Ⅳ層	18.5	4.5	2.1	93.08	凝灰岩質硬砂岩	
9141	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	16ＳＫ10　埋土	5.6	2.3	1.5	14.53	チャート質粘板岩	

第119図　縄文時代の石器④



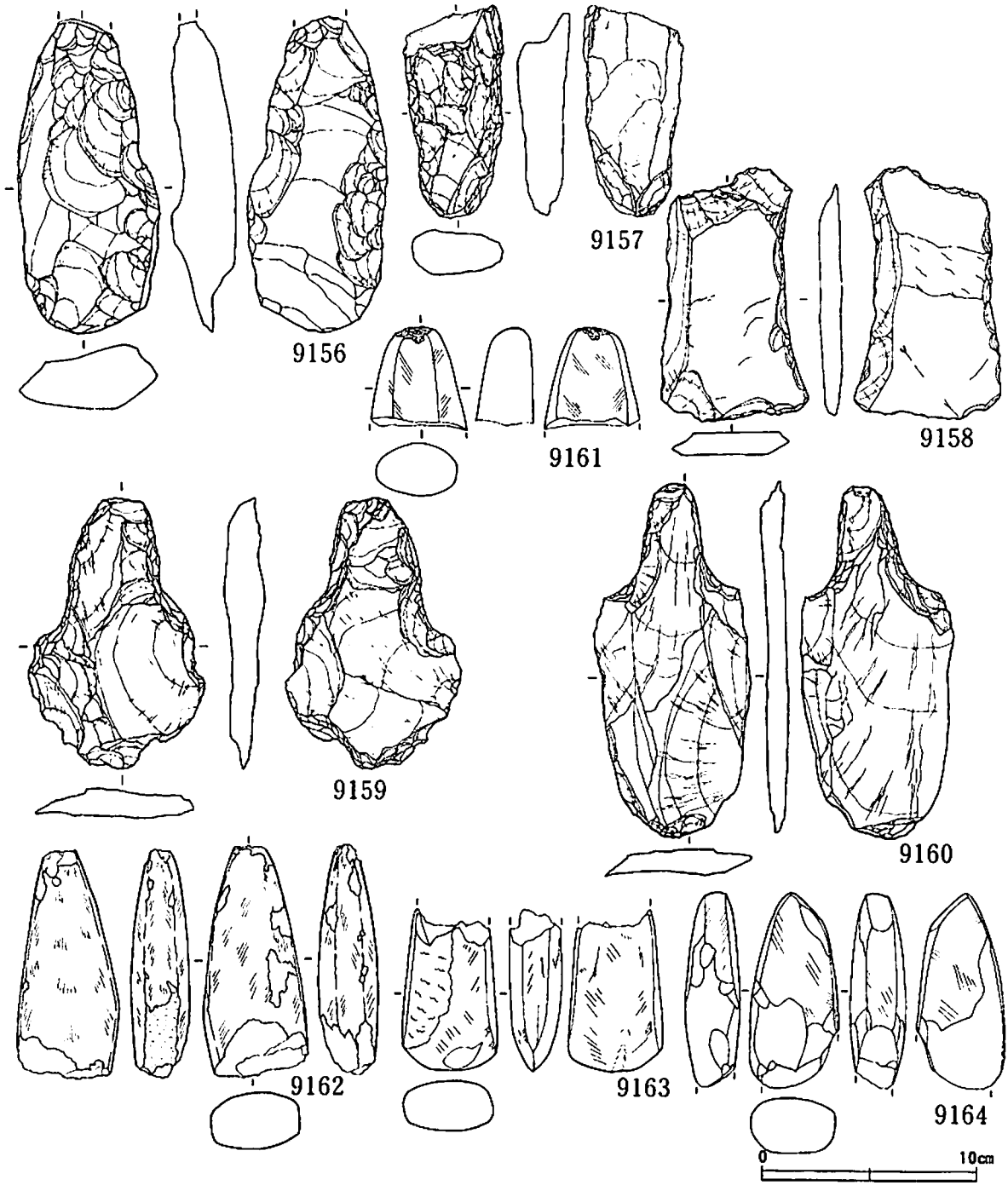
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9142	スクレイパー	ⅢＧ２ｇ　Ⅳ層	4.4	2.4	1.3	12.27	流紋岩生凝灰岩	
9143	スクレイパー	ⅢＧ４ｄ　Ⅳ層	5.8	3.8	1.5	26.52	粘板岩	
9144	スクレイパー	ⅡＧ９ｈ　Ⅳ層	3.8	3.45	1.0	16.80	緑色細粒凝灰岩	
9145	スクレイパー	ⅢＧ１ｇ　Ⅳ層	4.0	2.7	0.7	7.58	泥質凝灰岩	
9146	スクレイパー	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	4.4	3.1	1.2	7.72	チャート質粘板岩	
9147	スクレイパー	ⅢＧ２ｂ　Ⅳ層	2.5	3.5	0.5	5.36	凝灰質泥岩	
9148	スクレイパー	ⅢＧ６ｈ　Ⅳ層	7.9	6.8	1.8	109.47	ホルンフェルス	

第120図　縄文時代の石器⑤



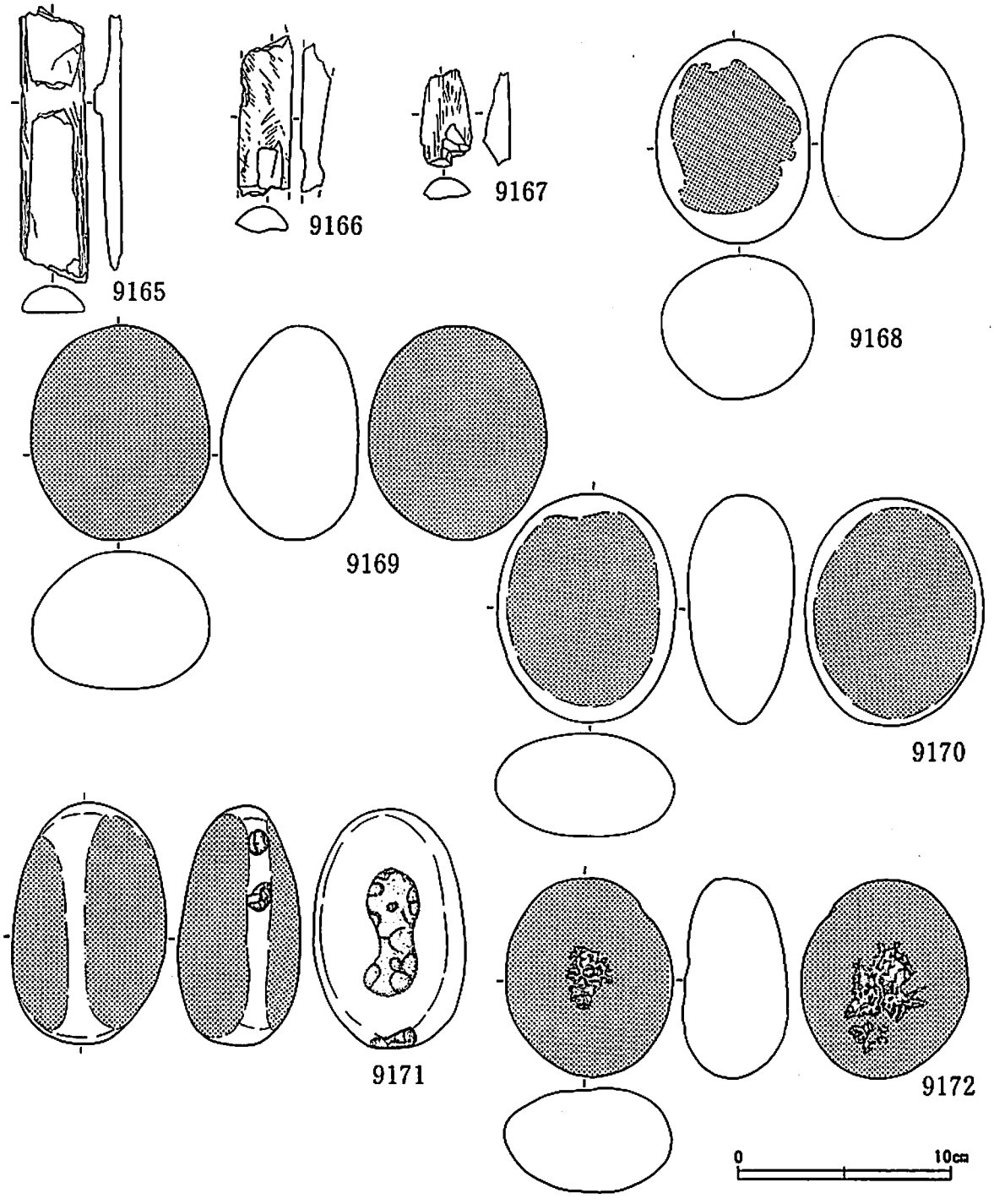
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9149	スクレイパー	ⅡＧ８ｄ　Ⅳ層	4.4	2.2	0.6	6.3	泥質凝灰岩	
9150	スクレイパー	ⅡＧ８ｇ　Ⅳ層	3.1	7.1	1.4	33.31	泥質凝灰岩	
9151	スクレイパー	ⅢＧ３ｆ　Ⅳ層	3.1	3.9	1.1	11.50	泥質凝灰岩	
9152	スクレイパー	ⅡＧ９ｈ　Ⅳ層	4.4	4.6	1.1	30.35	凝灰岩	
9153	スクレイパー	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	3.4	2.4	0.9	4.49	泥質凝灰岩	
9154	スクレイパー	ⅢＧ２ｃ　Ⅳ層	2.9	0.9	2.4	6.50	流紋岩生凝灰岩	
9155	異形石器	ⅢＧ１ｉ　Ⅳ層	2.8	3.3	0.9	4.83	チャート質粘板岩	

第121図　縄文時代の石器⑥



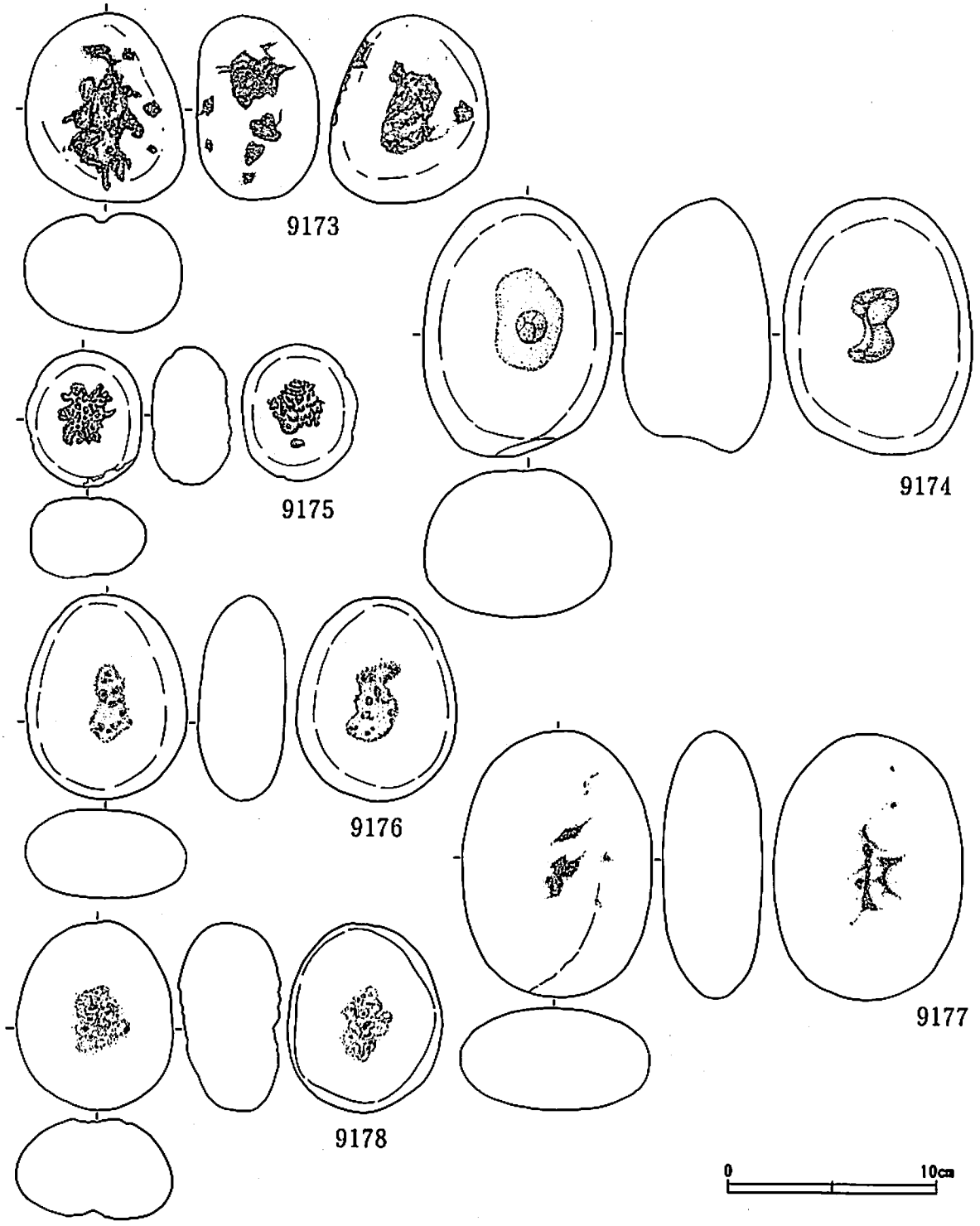
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9156	打製石斧	ⅢＧ２ｈ　Ⅳ層	14.7	6.6	3.0	3.54	凝灰岩質硬砂岩	
9157	打製石斧	ⅢＧ１ｃ　Ⅳ層	9.3	2.3	4.7	118.31	赤褐色凝灰岩	
9158	打製石斧	16ＳＫ20　埋土	11.6	6.8	1.0	110.55	粘板岩	
9159	打製石斧	Ｐ1342　埋土	12.6	8.0	1.9	159.93	粘板岩	
9160	打製石斧	ⅢＧ２ｄ　Ⅳ層	16.3	7.1	1.1	172.86	粘板岩	
9161	磨製石斧	ⅢＧ７ｈ　Ⅰ層	4.7	4.5	2.8	66.43	凝灰岩	
9162	磨製石斧	ⅡＧ９ｉ　Ⅳ層	10.7	4.9	2.6	202.20	凝灰岩	
9163	磨製石斧	ⅡＧ８ｇ　Ⅰ層	7.5	4.5	2.3	117.99	凝灰岩	
9164	磨製石斧	ⅢＧ１ｇ　Ⅳ層	9.0	2.5	2.5	145.11	凝灰岩	

第122図　縄文時代の石器⑦



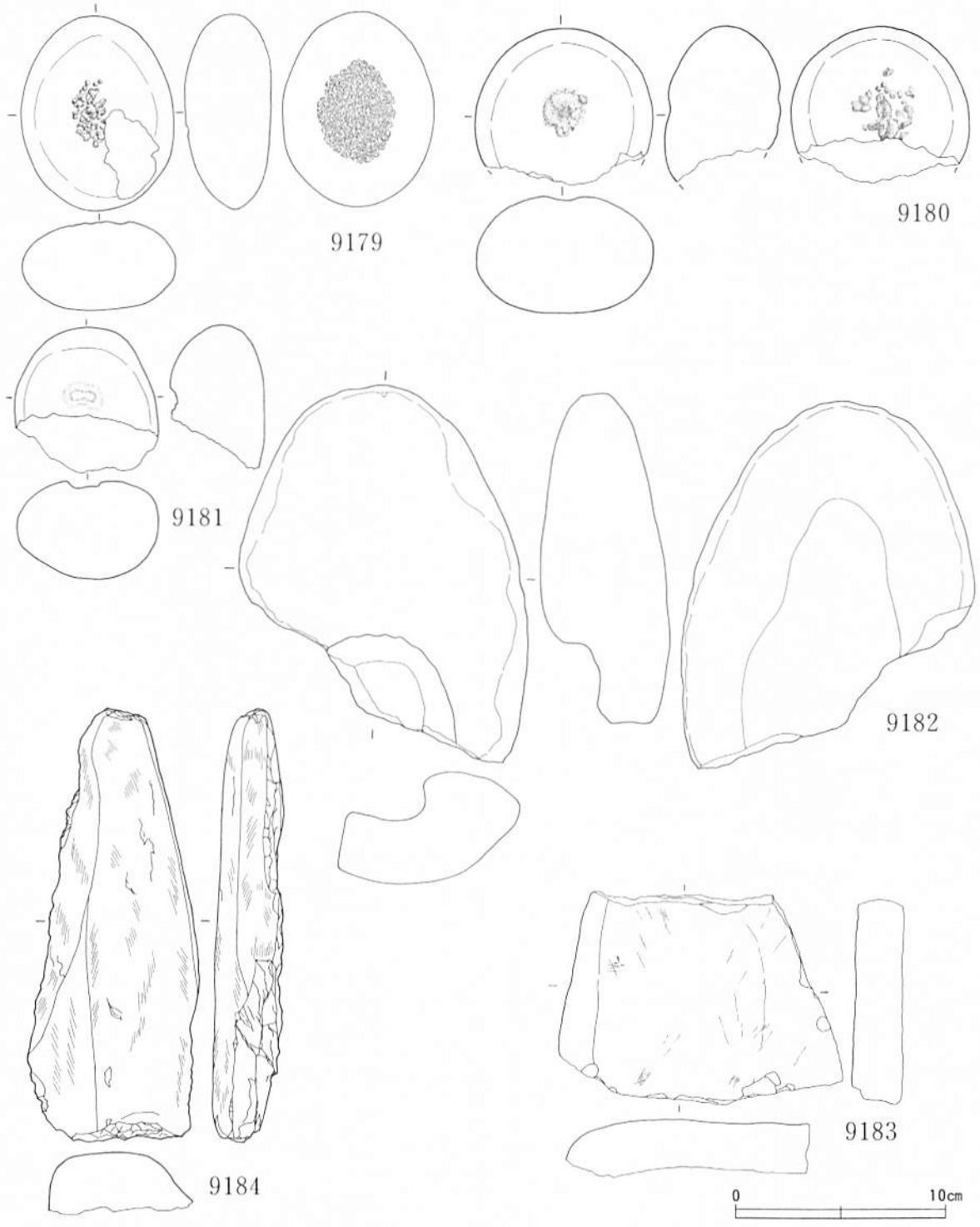
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9165	石棒	ⅡG9h　Ⅳ層	12.0	1.2	3.1	67.40	粘板岩	
9166	石棒	ⅢG5a　Ⅰ層	7.5	2.5	1.3	30.74	粘板岩	
9167	石棒	ⅢG1h　Ⅳ層	4.6	2.4	1.3	13.25	粘板岩	
9168	磨石	ⅢG2e　Ⅳ層	9.5	6.7	7.2	610.92	両輝石安山岩	
9169	磨石	ⅢG4g　Ⅳ層	6.0	6.45	8.3	791.86	凝灰質硬砂岩	
9170	磨石	P473　掘方	10.7	8.4	5.0	615.99	両輝石安山岩	
9171	磨石	ⅡG9c　Ⅳ層	16.3	12.3	5.8	620.44	両輝石安山岩	
9172	磨石	ⅢG0c　Ⅳ層	9.3	7.8	5.0	497.85	両輝石安山岩	

第123図　縄文時代の石器⑧



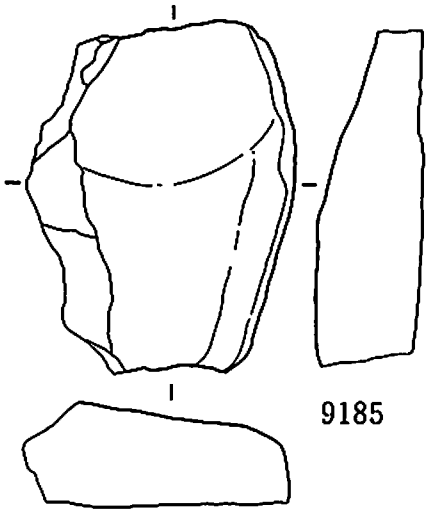
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9173	凹石	ⅡG1c　Ⅳ層	8.9	7.5	5.8	488.97	岡埠石安山岩	
9174	凹石	ⅢG0h　Ⅳ層	12.3	9.0	7.0	1180.68	岡埠石安山岩	
9175	凹石	ⅡG2h　Ⅳ層	6.5	5.6	3.8	178.84	デイサイト	
9176	凹石	ⅢG1c　Ⅳ層	9.7	4.15	7.6	456.11	岡埠石安山岩	
9177	凹石	ⅢG2f　Ⅳ層	12.8	9.1	4.9	826.82	凝灰質頁岩砂岩	
9178	凹石	ⅢG2g　Ⅳ層	8.9	4.2	7.45	409.30	岡埠石安山岩	

第124図　縄文時代の石器⑨

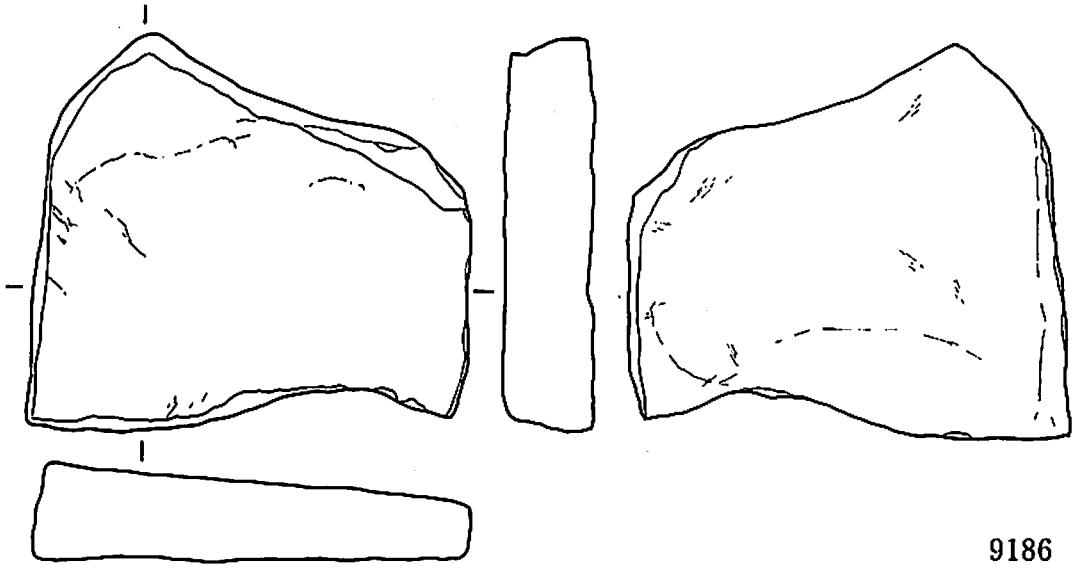


番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9179	凹石	ⅢＧ０ｃ　Ⅳ層	9.2	7.3	4.2	395.58	両輝石安山岩	
9180	凹石	ⅢＧ３ｃ　Ⅳ層	7.5	8.5	5.7	451.21	両輝石安山岩	
9181	凹石	ⅢＧ２ｈ　Ⅳ層	6.9	6.8	4.4	256.18	両輝石安山岩	
9182	石皿	ⅢＧ５ｇ　Ⅳ層	17.7	14.0	6.3	1682.22	デイサイト	
9183	石皿	ⅢＧ１ｃ　Ⅳ層	10.1	13.6	2.6	545.56	両輝石安山岩	
9184	石皿？	ⅡＧ９ｃ　Ⅳ層	20.5	8.2	3.0	646.9	ホルンフェルス	

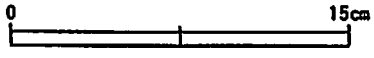
第125図　縄文時代の石器⑩



9185

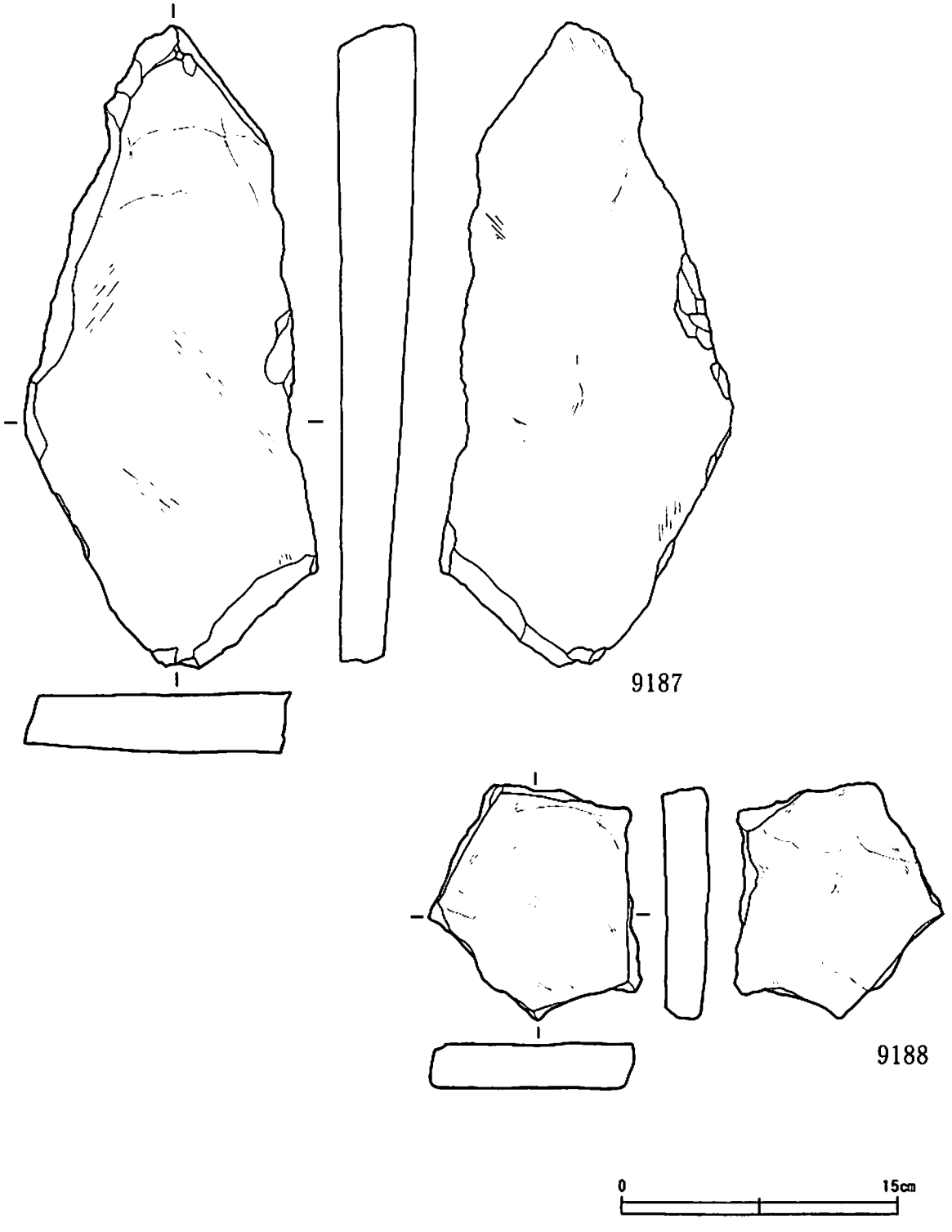


9186



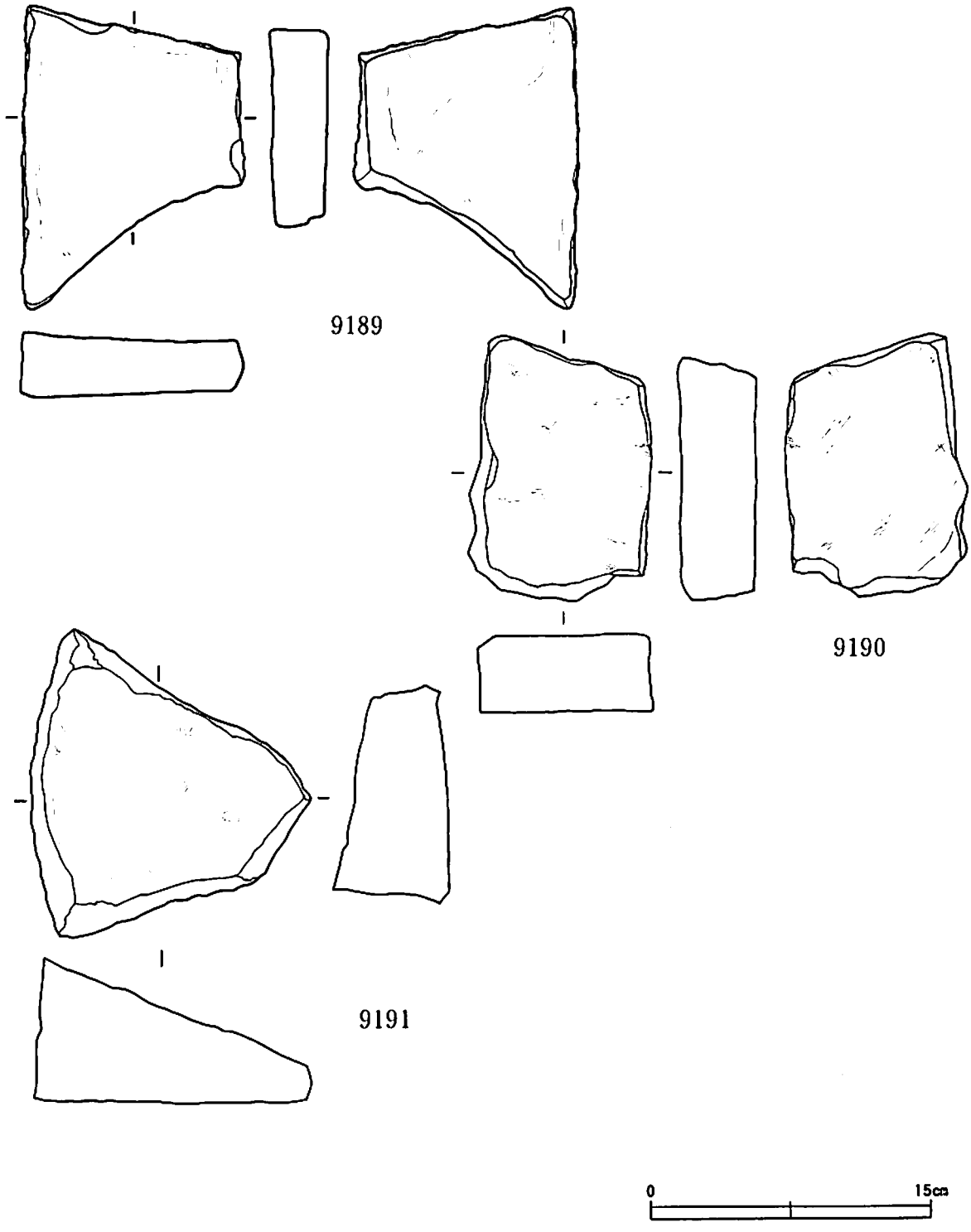
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9185	石皿？	ⅢＧ１ｇ　Ⅳ層	14.0	10.6	4.1	899.55	デイサイト	
9186	石皿？	ⅡＧ８ｇ　Ⅳ層	15.6	17.2	3.8	1561.26	デイサイト	

第126図　縄文時代の石器⑪



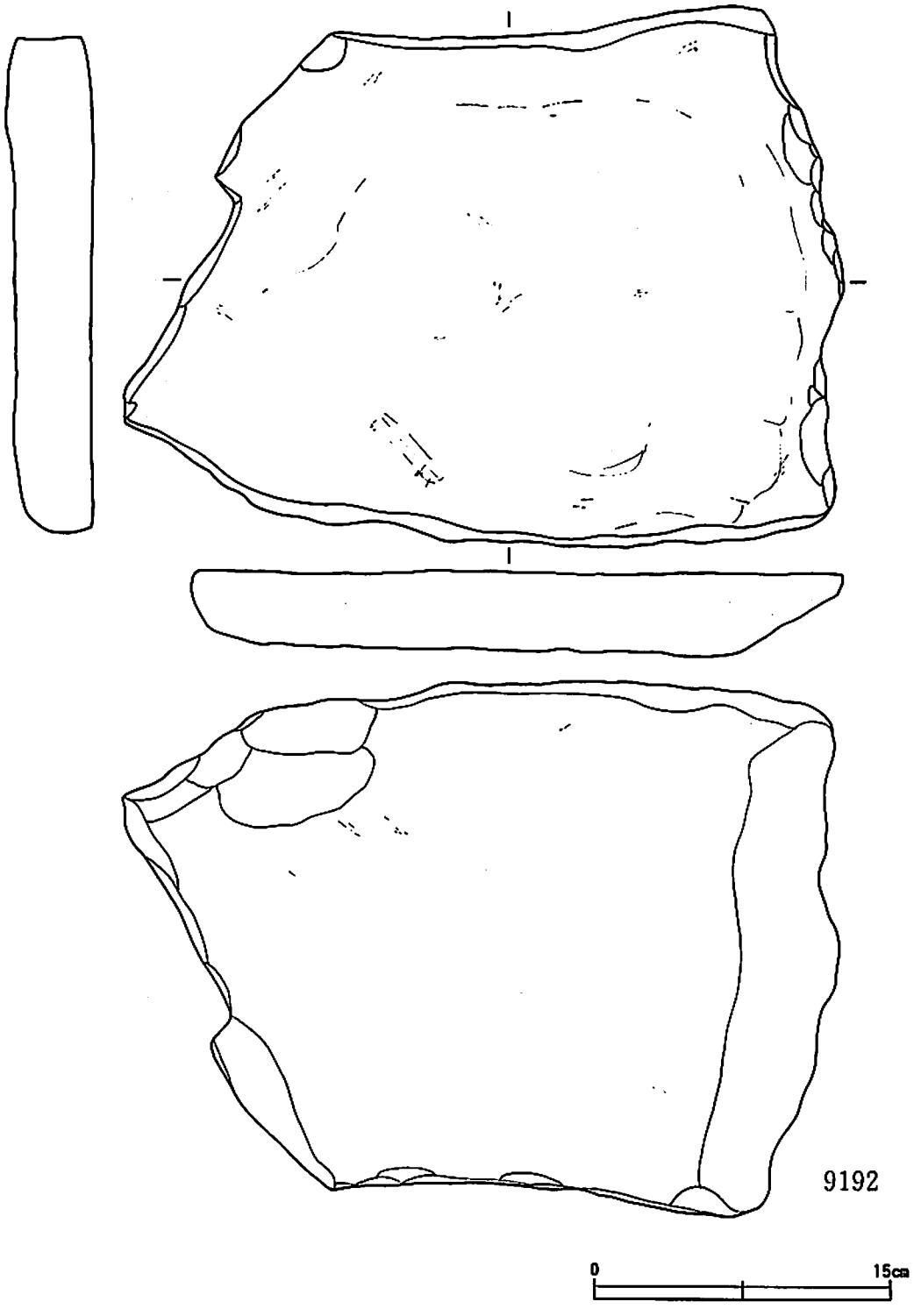
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9187	石皿？	ⅢＧ２ｆ　Ⅱ層	30.4	14.2	3.7	2045.14	粘板岩	
9188	石皿？	ⅡＧ９ｃ　Ⅱ層	11.2	10.2	2.1	414.2	デイサイト	

第127図　縄文時代の石器⑫



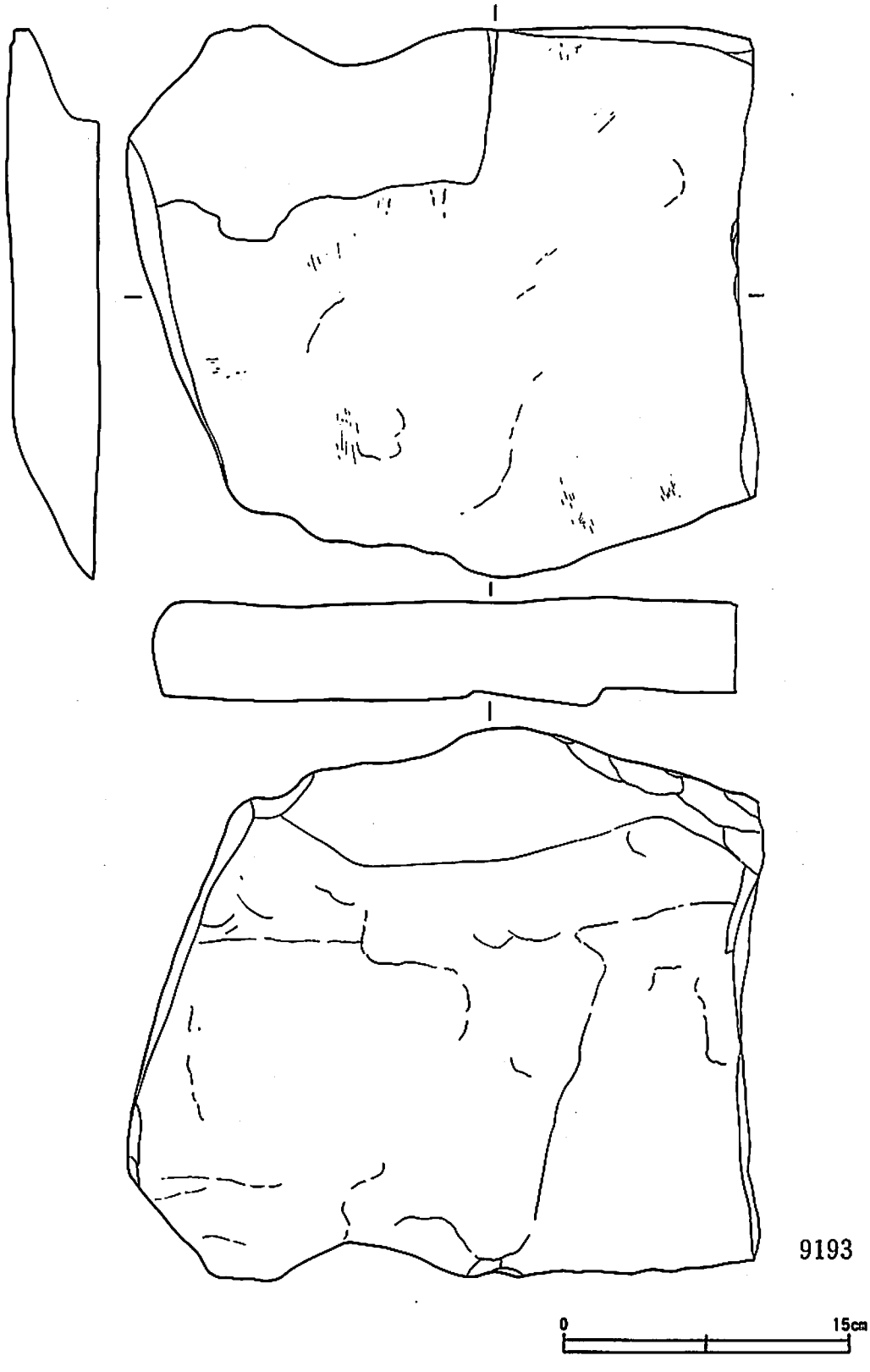
番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9189	石皿？	ⅢＧ０ｈ　Ⅳ層	14.1	2.9	10.6	644.27	デイサイト	
9190	石皿？	16ＳＤ13　東側埋土	12.3	8.7	3.7	782.45	デイサイト	
9191	石皿？	ⅢＧ１ｇ　Ⅳ層	14.5	13.3	5.6	1303.28	デイサイト	

第128図　縄文時代の石器⑬



番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9192	石皿？	ⅢＧ４ｆ　Ⅳ層	32.4	23.9	3.6	5,060	デイサイト	

第129図　縄文時代の石器⑭



番号	器種	出土位置	法量（cm）			重さ（g）	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9193	石皿？	ⅢG5h　Ⅳ層	29.2	25.5	5.0	5,820	デイサイト	

第130図　縄文時代の石器⑮

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P 1	12.0	22.48	
P 2	39.3	22.27	
P 3	30.4	22.35	
P 4	28.2	22.34	
P 5	56.1	22.07	16S B19
P 6	28.7	22.38	
P 7	43.2	22.24	16S B37
P 8	20.2	22.35	
P 9	22.5	22.40	
P10	45.1	22.18	16S B37
P11	21.8	22.36	
P12	25.3	22.39	
P13	16.1	22.43	16S B27
P14	35.3	22.20	
P15	24.7	22.33	16S B27
P16	26.8	22.32	
P17	25.5	22.29	16S B26
P18	27.9	22.28	
P19	17.4	22.41	16S B39
P20	43.2	22.15	16S B37
P21	11.4	22.46	
P22	8.7	22.47	
P23	23.1	22.35	
P24	47.1	22.12	16S B38
P25	32.5	22.26	
P26	15.6	22.43	
P27	13.8	22.45	16S B39
P28	33.7	22.25	16S B37
P29	31.3	22.28	
P30	41.4	22.18	16S B38
P31	10.7	22.47	
P32	13.8	22.43	
P33	25.7	22.30	16S B43
P34	33.5	22.20	16S B43
P35	17.7	22.32	16S B42
P36	不明	不明	
P37	29.0	22.17	16S B46
P38	45.0	22.05	16S B46
P39	22.6	22.23	
P40	23.4	22.26	16S B50
P41	9.4	22.41	16S B52
P42	30.2	22.21	柱列4
P43	17.4	22.27	16S B48
P44	37.4	22.06	16S B53
P45	39.7	22.11	16S B49
P46	39.4	22.11	16S B43
P47	23.6	22.29	16S B46
P48	29.4	22.25	16S B53
P49	38.5	22.16	16S B39
P50	37.5	22.13	16S B56

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P51	35.7	22.20	16S B52
P52	33.3	22.22	16S B50
P53	44.6	22.08	16S B55
P54	47.1	22.08	16S B45
P55	41.0	22.14	16S B46
P56	31.0	22.24	16S B58
P57	20.5	22.24	16S B48
P58	29.3	22.21	
P59	16.0	22.40	
P60	25.7	22.28	16S B52
P61	33.0	22.22	
P62	32.5	22.19	16S B52
P63	35.2	22.21	16S B46
P64	29.9	22.25	16S B42
P65	48.2	22.09	16S B43
P66	30.9	22.29	16S B55
P67	45.3	22.16	16S B50
P68 1	35.2	22.21	16S B52
P68 2	27.3	22.30	16S B53
P69	37.2	22.17	16S B42
P70	47.8	22.11	16S B45
P71	39.7	22.19	16S B55
P72	29.4	22.28	16S B56
P73	32.4	22.23	16S B50
P74	31.0	22.23	16S B56
P75	45.5	22.08	16S B58
P76	40.3	22.13	16S B47
P77	31.0	22.20	16S B50
P78	13.0	22.33	
P79	41.4	22.16	16S B46
P80	33.0	22.23	
P81	16.7	22.42	柱列4
P82	23.3	22.34	
P83	47.0	22.10	
P84	33.0	22.24	
P85	39.0	22.18	16S B55
P86	26.5	22.24	16S B52
P87	18.1	22.30	
P88	22.9	22.18	
P89	23.5	22.21	16S B53
P90	34.9	22.09	16S B47
P91	47.0	22.12	16S B57
P92	33.9	22.21	
P93	10.1	22.43	
P94	38.0	22.12	16S B57
P95	18.5	22.36	16S B47
P96	28.9	22.26	16S B38
P97	38.6	22.14	16S B41
P98	26.6	22.28	16S B40
P99	31.6	22.20	16S B39
P100	16.3	22.34	16S B46

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P101	36.9	22.13	16S B38
P102	20.7	22.32	16S B58
P103	28.0	22.19	
P104	33.9	22.15	16S B38
P105	30.0	22.17	16S B45
P106	15.6	22.31	16S B46
P107	39.2	22.08	16S B39
P108	34.6	22.11	16S B49
P109	27.0	22.20	16S B43
P110	34.2	22.14	16S B46
P111	39.6	22.13	16S B43
P112	32.7	22.17	16S B44
P113	32.2	22.19	16S B46
P114	29.1	22.20	16S B40
P115	28.2	22.22	16S B45
P116	25.9	22.23	16S B38
P117	34.3	22.17	
P118	29.3	22.20	16S B38
P119	40.9	22.09	16S B45
P120	26.6	22.22	
P121	25.3	22.26	
P122	33.0	22.18	
P123	35.7	22.23	16S B44
P124	32.3	22.26	
P125	39.0	22.10	16S B42
P126	47.3	21.85	
P127	15.5	22.20	
P128	26.7	22.05	16S B59
P129	10.6	22.39	16S B55
P130	25.6	22.21	
P131	24.5	22.25	16S B59
P132	38.2	22.05	16S B59
P133	12.5	22.23	16S B61
P134	11.0	22.33	
P135	12.0	22.22	
P136	21.1	22.15	
P137	26.8	22.01	
P138	35.3	21.96	16S B61
P139	22.0	22.04	16S B20
P140	12.3	22.09	
P141	8.1	22.09	16S B61
P142	23.0	21.98	16S B60
P143	15.2	22.30	
P144	13.4	22.05	
P145	18.4	21.94	16S B59
P146	20.0	21.90	
P147	10.6	22.08	
P148	6.2	22.10	16S B59
P149	14.4	22.02	
P150	11.6	22.02	16S B59

柱穴計測表①

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P151	9.4	22.40	
P152	15.5	22.36	
P153	76.0	21.67	16SB61
P154	46.6	21.67	
P155	16.0	22.08	
P156	11.6	22.10	
P157	10.7	22.13	16SB60
P158	22.9	21.99	
P159	23.1	21.98	
P160	9.5	22.17	
P161	40.0	21.79	
P162	28.5	21.93	
P163	25.7	21.87	
P164	22.8	21.98	
P165	19.8	22.03	16SB30
P166	19.5	22.02	16SB28
P167	23.6	21.96	16SB28
P168	21.3	22.01	16SB54
P169	32.0	21.93	16SB28
P170	20.2	22.02	
P171	10.4	22.17	16SB51
P172	27.4	22.02	16SB59
P173	24.0	22.04	16SB47
P174	8.3	22.21	
P175	18.6	22.13	16SB48
P176	33.6	21.98	16SB28
P177	20.4	22.10	16SB55
P178	25.1	22.06	16SB54
P179	26.1	22.05	16SB46
P180	21.4	22.10	16SB48
P181	28.8	21.94	16SB55
P182	26.8	22.09	16SB53
P183	11.1	22.23	16SB55
P184	19.7	22.25	16SB44
P185	22.9	22.08	16SB46
P186	17.8	22.17	16SB48
P187	29.8	22.03	16SB46
P188	17.9	22.16	16SB28
P189	15.7	22.18	16SB43
P190	29.5	22.02	16SB49
P191	20.4	22.11	16SB46
P192	16.1	22.18	
P193	9.6	22.24	16SB38
P194	不明	不明	16SB47
P195	13.3	22.20	16SB48
P196	19.6	22.12	16SB28
P197	17.5	22.15	
P198	23.3	22.14	16SB48
P199	14.8	22.22	
P200	24.0	22.11	16SB51

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P201	32.2	22.09	16SB49
P202	21.4	22.21	16SB50
P203	31.6	22.10	16SB43
P204	37.6	22.03	16SB42
P205	26.2	22.13	16SB38
P206	27.9	322.12	16SB47
P207	10.5	22.31	16SB51
P208	29.9	22.12	16SB48
P209	39.6	22.08	16SB38
P210	24.3	22.22	
P211	22.2	22.27	16SB41
P212	14.2	22.32	16SB40
P213	11.8	22.28	16SB40
P214	7.5	22.44	16SB42
P215	20.5	22.27	16SB46
P216	9.6	22.36	16SB44
P217	21.2	22.26	
P218	6.0	22.29	16SB40
P219	14.4	22.31	16SB46
P220	15.5	22.21	
P221	23.5	22.121	16SB38
P222	31.2	21.95	16SB29
P223	39.5	21.87	
P224	29.0	21.99	16SB29
P225	17.0	22.14	
P226	32.3	21.90	16SB28
P227 1	24.8	22.02	16SB24
P227 2	15.8	22.15	
P228	21.9	22.10	16SB24
P229	17.0	22.13	16SB28
P230	32.3	22.02	16SB32
P231	22.7	22.12	
P232	欠番		
P233 1	32.4	21.94	16SB29
P233 2	21.0	22.08	16SB38
P233 3	17.1	22.05	16SB25
P234	20.8	22.11	16SB37
P235	24.9	22.12	16SB46
P236	17.0	22.23	16SB43
P237	9.6	22.30	
P238	25.8	22.16	16SB42
P239	14.0	22.29	16SB37
P240	14.1	22.16	16SB46
P241	18.1	22.26	
P242	21.3	22.24	16SB41
P243	38.7	22.08	16SB37
P244	27.1	22.1	16SB38
P245	10.3	22.26	16SB38
P246	14.0	22.81	
P247	24.0	22.05	16SB25
P248	14.2	22.09	16SB38
P249	13.3	22.04	16SB24
P250	16.9	22.00	

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P251	20.5	21.97	16SB24
P252	5.0	22.14	16SB25
P253	18.5	22.02	16SB24
P254	13.5	22.05	16SB25
P255	11.9	22.14	
P256	21.0	22.05	16SB24
P257	7.9	22.19	16SB38
P258	19.5	22.08	
P259	11.5	22.19	
P260	32.3	22.18	
P261	34.2	22.17	
P262	40.5	22.10	
P263	10.0	22.17	
P264	欠番		
P265	34.6	21.91	16SB30
P266	59.5	21.66	16SB28
P267	29.2	21.97	
P268 1	24.0	21.98	16SB28
P268 2	27.0	21.95	16SB54
P269	9.8	22.13	
P270	10.4	22.13	16SB46
P271	不明	不明	
P272	35.5	21.97	16SB29
P273	7.5	22.03	
P274	17.8	22.04	
P275	25.5	22.00	16SB31
P276	7.7	22.12	
P277	23.0	21.99	16SB54
P278	40.0	21.845	
P279	51.1	21.74	16SB29
P280	26.1	21.98	16SB31
P281	不明	不明	
P282	39.7	21.89	16SB32
P283	18.2	22.13	16SB35
P284	28.0	21.95	16SB35
P285	欠番		
P286	22.4	21.99	16SB29
P287	11.9	22.13	
P288	13.1	22.12	16SB25
P289	不明	不明	16SB34
P290	不明	不明	16SB28
P291	不明	不明	
P292	不明	不明	
P293	26.3	21.95	
P294	28.8	21.92	16SB30
P295	37.0	21.83	
P296	51.2	21.66	16SB29
P297	不明	不明	16SB31
P298	不明	不明	
P299	22.8	21.92	16SB28
P300	11.2	22.04	

柱穴計測表②

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P301	25.8	21.79	16S B36
P302	11.6	22.05	16S B29
P303	60.2	21.57	16S B28
P304	62.9	21.74	16S B33
P305	9.7	22.04	
P306 1	24.0	21.93	16S B29
P306 2	15.2	22.01	
P307	13.9	22.00	16S B34
P308	8.4	22.05	
P309	9.3	22.03	16S B35
P310	47.0	21.69	16S B28
P311	18.9	21.97	16S B35
P312	20.7	21.92	
P313	42.1	21.74	16S B32
P314	18.2	22.00	16S B28
P315	28.5	21.88	16S B32
P316	13.6	22.04	16S B24
P317	33.9	21.86	16S B30
P318	42.6	21.76	16S B29
P319	18.4	22.02	16S B29
P320	32.9	21.80	16S B31
P321	16.8	21.98	
P322	21.3	21.88	16S B29
P323	43.9	21.77	16S B32
P324	30.2	21.89	
P325	29.6	21.90	16S B24
P326	26.7	21.95	16S B32
P327	27.6	21.85	16S B33
P328	24.1	22.03	16S B31
P329	30.7	21.97	
P330	28.2	21.95	
P331	3.6	22.20	16S B34
P332	25.5	22.01	16S B33
P333	10.5	22.13	
P334	11.2	22.13	
P335	32.5	21.94	
P336	44.2	21.81	
P337	11.5	22.08	
P338	9.7	22.13	
P339	15.5	21.94	
P340	13.9	21.96	
P341	20.4	21.96	
P342	6.7	22.10	
P343	22.5	21.96	
P344	17.0	22.11	
P345	12.2	22.01	
P346	13.8	22.11	
P347	20.4	22.04	
P348	19.4	22.06	16S B32
P349	27.8	22.00	16S B34
P350	26.5	22.00	

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P351	34.1	22.04	
P352	48.8	21.81	16S B29
P353	23.1	22.04	16S B30
P354	18.4	22.07	
P355	21.2	21.98	16S B29
P356	19.8	22.09	
P357	33.9	21.93	16S B35
P358	45.4	21.82	16S B33
P359	33.5	21.95	16S B32
P360	14.4	22.15	
P361	16.5	22.10	16S B29
P362	10.9	22.20	16S B30
P363	30.8	21.95	16S B30
P364	3.8	22.15	
P365	6.0	22.13	
P366	36.0	21.92	16S B24
P367	6.3	22.00	
P368	不明	不明	
P369	不明	不明	16S B24
P370	24.7	21.98	16S B24
P371	46.8	21.81	16S B29
P372	37.9	21.80	16S B31
P373	欠番		
P374	43.8	21.83	16S B32
P375	欠番		
P376	35.1	21.72	16S B28
P377	26.4	21.95	16S B32
P378	28.4	21.93	16S B24
P379	15.8	22.12	
P380	40.8	21.87	16S B33
P381	15.1	22.04	16S B29
P382	38.9	21.83	16S B36
P383	14.4	21.91	16S B29
P384	21.7	22.02	
P385	15.8	22.05	
P386	22.5	21.97	16S B35
P387	14.4	21.74	16S B36
P388	20.8	21.67	16S B31
P389	4.6	21.87	16S B29
P390	5.6	21.92	16S B30
P391	44.3	21.84	16S B32
P392	32.0	21.78	16S B29
P393	20.4	21.89	16S B28
P394	11.2	21.98	
P395 1	53.3	21.72	16S B28
P395 2	14.7	21.87	16S B29
P396	30.9	21.72	16S B31
P397	9.1	22.00	16S B34
P398	13.8	22.05	16S B32
P399	29.6	21.85	16S B33
P400	16.5	21.99	16S B32

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P401	11.2	22.03	
P402	14.9	21.87	
P403	36.0	21.71	16S B31
P404	14.5	21.97	16S B30
P405	20.0	21.72	16S B32
P406	7.9	21.81	16S B33
P407	欠番		
P408 1	22.4	21.69	16S B28
P408 2	54.3	21.59	
P409	7.7	22.08	16S B34
P410	17.6	22.01	16S B32
P411	51.6	21.61	16S B28
P412	13.2	22.12	
P413	8.2	22.20	
P414	29.9	21.98	16S B22
P415	39.3	21.85	16S B23
P416	31.7	21.94	16S B22
P417	不明	不明	
P418	29.0	22.20	16S B23
P419	23.8	21.92	
P420	24.8	21.93	16S B22
P421	欠番		
P422	不明	不明	
P423	18.2	22.03	16S B32
P424	11.8	22.06	
P425	65.9	21.86	16S B28
P426	不明	不明	16S B22
P427	22.8	21.98	16S B23
P428	37.3	21.83	16S B22
P429	6.4	22.15	
P430	42.0	22.16	16S B23
P431	9.6	22.13	
P432	33.4	21.86	16S B33
P433	14.2	22.06	
P434	32.3	21.85	16S B36
P435	15.3	22.03	
P436	43.0	21.84	16S B32
P437	43.2	21.83	16S B30
P438	11.4	22.08	
P439	31.5	21.91	16S B32
P440	40.0	21.80	16S B31
P441	5.3	22.14	
P442	8.3	22.09	
P443	14.4	22.06	
P444	15.3	22.02	
P445	14.0	22.03	
P446	9.9	22.16	
P447	15.6	22.09	
P448	19.3	22.04	
P449	10.3	22.03	16S B29
P450	15.2	22.05	

柱穴計測表③

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P451	17.8	22.08	16S B30
P452	19.5	22.00	16S B30
P453 1	42.4	21.85	16S B28
P453 2	17.1	22.05	16S B33
P454	不明	不明	16S B31
P455	不明	不明	
P456	20.3	32.00	16S B35
P457	13.4	22.05	
P458	32.5	21.83	16S B33
P459	8.9	22.05	
P460	3.4	21.85	16S B31
P461	12.5	21.79	
P462	8.2	21.79	16S B36
P463	12.2	21.86	
P464	9.0	21.89	16S B30
P465	8.0	21.84	
P466	24.3	21.72	
P467	7.3	21.88	16S B36
P468	10.4	21.98	16S B29
P469	19.0	21.90	
P470	61.0	21.53	16S B33
P471	16.7	21.98	
P472	36.9	21.80	
P473	36.0	21.80	
P474	32.5	21.90	16S B35
P475	不明	不明	
P476	不明	不明	16S B32
P477	64.9	21.62	16S B29
P478	51.2	21.76	16S B34
P479	9.2	22.12	16S B28
P480	31.2	21.89	16S B32
P481	74.4	21.51	16S B28
P482	13.6	22.06	16S B35
P483	22.0	22.01	
P484	18.0	22.05	
P485	57.2	21.64	16S B29
P486	29.3	21.86	
P487	26.0	21.88	
P488	50.6	21.85	16S B22
P489	47.4	21.86	16S B23
P490	38.8	21.95	16S B68
P491	30.9	21.98	16S B22
P492	15.7	22.09	
P493	34.9	21.91	16S B23
P494	64.8	21.49	16S B28
P495	65.5	21.48	16S B34
P496	45.0	21.68	16S B29
P497	欠番		
P498	57.6	21.59	16S B28
P499	18.4	22.06	
P500	13.6	22.14	

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P501	18.8	22.06	16S B22
P502	18.6	22.11	
P503	18.3	22.07	16S B23
P504	15.0	22.17	
P505	12.5	22.14	16S B23
P506	不明	不明	16S B22
P507	不明	不明	
P508	不明	不明	16S B69
P509	13.3	22.12	16S B28
P510	43.8	21.74	16S B28
P511	36.0	21.88	16S B28
P512	30.6	21.89	16S B29
P513	36.0	21.79	16S B32
P514	30.3	21.86	16S B29
P515	46.0	21.75	16S B31
P516	10.5	22.05	16S B29
P517	44.9	21.76	16S B30
P518	10.4	22.08	
P519	21.2	21.97	
P520	27.3	21.88	16S B28
P521 1	10.2	22.07	
P521 2	不明	不明	
P522	31.0	21.93	16S B30
P523	11.6	22.03	16S B35
P524	27.2	21.88	
P525	27.2	21.87	16S B32
P526	欠番		
P527	42.5	21.73	16S B29
P528	不明	不明	16S B33
P529	47.6	21.67	
P530	20.2	22.04	16S B30
P531	36.9	21.86	16S B32
P532	51.0	21.74	16S B29
P533	49.5	21.73	16S B33
P534	不明	不明	
P535	30.8	21.94	16S B31
P536	14.9	21.80	16S B32
P537	12.5	21.98	
P538	17.2	21.93	
P539	22.4	21.86	16S B28
P540	9.1	22.03	
P541	55.4	21.61	16S B28
P542	不明	不明	
P543	33.7	21.70	16S B33
P544	29.5	21.71	16S B29
P545	9.8	21.87	16S B28
P546	15.6	21.89	
P547	20.4	21.75	16S B29
P548	不明	不明	16S B32
P549	不明	不明	
P550	57.5	21.35	16S B33

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P551	31.7	21.60	
P552	17.8	21.66	
P553	29.9	21.58	16S B33
P554	29.8	21.59	
P555	50.2	21.33	16S B67
P556	42.4	21.46	
P557	16.9	21.70	
P558	14.6	21.70	
P559	不明	不明	
P560	31.5	21.61	
P561	不明	不明	
P562	20.7	21.617	
P563	21.2	21.71	
P564	9.7	21.88	
P565	37.5	21.64	16S B33
P566	10.2	21.87	
P567	21.6	21.97	
P568	欠番		
P569	41.4	21.76	
P570	33.7	21.68	16S B33
P571	11.4	21.89	
P572	7.9	21.90	
P573	6.6	22.33	
P574	15.6	22.22	
P575	11.2	22.22	
P576	19.6	22.17	16S B21
P577	19.4	22.15	
P578	12.4	22.27	
P579	41.3	21.97	16S B21
P580	24.0	22.12	
P581	15.9	22.20	
P582	34.3	22.03	16S B24
P583	15.7	22.11	
P584	32.3	21.93	16S B23
P585	13.2	22.09	16S B21
P586	11.2	22.12	16S B21
P587	21.1	22.12	
P588	26.7	22.07	16S B21
P589 1	17.2	22.10	16S B24
P589 2	12.8	21.91	16S B24
P590	12.4	22.13	16S B24
P591	20.2	22.21	16S B37
P592	17.4	22.26	
P593	8.5	22.17	
P594	13.1	22.19	
P595	13.9	22.24	
P596	12.9	22.30	
P597	8.3	22.44	
P598	39.2	22.16	
P599	36.9	22.23	16S B37
P600	41.4	22.15	

柱穴計測表④

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P601	34.8	22.22	
P602	30.3	22.19	
P603	28.5	22.29	
P604	38.0	22.22	16SB37
P605	27.5	22.31	
P606	24.7	22.35	
P607	28.1	22.31	
P608	20.4	22.07	
P609	23.9	22.14	
P610	5.5	22.27	
P611	欠番		
P612	32.2	21.96	16SB68
P613	50.3	21.85	16SB69
P614	34.1	22.17	16SB19
P615	32.5	22.25	
P616	53.1	22.07	16SB19
P617	24.4	22.38	
P618	13.9	22.38	
P619	8.5	22.46	
P620	8.2	22.47	
P621	26.3	55.56	
P622	13.0	22.47	
P623	19.8	22.34	16SB18
P624	20.0	22.32	16SB17
P625	36.5	22.18	
P626	21.8	22.31	
P627	15.1	22.39	
P628	23.8	22.30	16SB18
P629	38.4	22.14	16SB17
P630	27.7	22.33	16SB27
P631	33.6	22.27	16SB37
P632	50.1	22.10	16SB19
P633	21.2	22.32	
P634	20.9	22.32	16SB18
P635	19.7	22.34	16SB18
P636	31.0	22.19	
P637	21.9	22.32	
P638	23.9	22.25	
P639	15.0	22.15	16SB21
P640	36.5	22.15	16SB21
P641	33.8	22.01	16SB17
P642	22.1	22.31	
P643	27.8	22.06	
P644	10.5	22.24	
P645	19.2	22.17	
P646	15.0	22.14	16SB21
P647	17.1	22.15	16SB21
P648	9.6	22.16	16SB21
P649	18.9	22.09	
P650	14.0	22.16	

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P651	15.0	22.15	16SB21
P652	14.2	22.14	16SB21
P653	10.3	22.17	
P654	16.8	22.11	
P655	16.7	22.13	
P656	24.5	22.93	
P657	33.3	22.00	
P658	欠番		
P659	15.4	22.17	
P660	32.0	21.00	
P661	25.7	22.31	16SB17
P662	18.1	22.36	
P663	12.5	22.43	16SB17
P664	25.5	22.29	
P665	32.1	22.22	16SB19
P666	18.2	22.38	16SB20
P667	24.5	22.31	
P668	14.0	22.40	
P669	48.3	22.08	16SB19
P670	31.7	22.23	
P671	19.6	22.34	16SB18
P672	20.0	22.37	16SB17
P673	20.2	22.32	
P674	37.9	22.16	16SB19
P675	19.3	22.34	16SB18
P676	不明	不明	
P677	不明	不明	柱列3
P678	31.0	22.26	16SB17
P679	30.1	22.24	16SB19
P680	24.1	122.31	
P681	20.0	22.36	16SB18
P682	23.3	22.34	16SB17
P683	18.6	22.33	
P684	15.4	22.35	16SB18
P685	13.7	22.25	
P686	29.6	22.08	
P687	18.2	22.19	
P688	2.4	22.35	
P689	23.9	22.16	
P690	26.4	22.11	
P691	7.2	22.30	
P692	6.5	22.31	
P693	31.5	22.05	
P694	11.9	22.22	
P695	20.0	22.19	16SB10
P696	21.0	22.16	
P697	28.8	22.01	16SB66
P698	6.6	22.40	柱列5
P699	17.9	22.31	16SB16
P700	21.6	22.33	柱列2

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P701	28.1	22.28	
P702	15.1	22.35	16SB15
P703	18.1	22.35	柱列2
P704	19.3	22.30	16SB16
P705	24.9	22.21	
P706	不明	不明	
P707	20.1	22.25	柱列19
P708	17.9	22.30	16SB9
P709	15.7	22.33	柱列1
P710	28.5	22.21	
P711	18.0	22.25	柱列1
P712	欠番		
P713	不明	不明	16SB15
P714	17.1	22.32	
P715	38.1	22.12	16SB8
P716	41.3	22.10	16SB7
P717	18.4	22.32	16SB4
P718	32.8	22.24	
P719	46.9	22.12	16SB8
P720	24.5	22.29	
P721	4.4	22.55	16SB5
P722	16.4	22.42	
P723	7.4	22.53	
P724	30.9	22.26	
P725	32.1	22.29	
P726	29.6	22.31	
P727	48.8	22.11	16SB7
P728	38.8	22.16	16SB8
P729	26.1	22.27	16SB5
P730	19.5	22.34	
P731	46.5	21.99	
P732	35.9	22.24	
P733	38.3	22.22	16SB3
P734	26.5	22.29	
P735	26.7	22.27	16SB2
P736	17.9	122.39	16SB7
P737	欠番		
P738 1	36.9	22.17	16SB3
P738 2	41.6	22.13	16SB7
P739	23.1	22.29	
P740	31.8	22.23	16SB8
P741	7.8	22.46	16SB4
P742	23.6	22.29	16SB2
P743	33.5	22.24	16SB5
P744	21.8	22.31	16SB2
P745	13.7	22.38	16SB4
P746	19.4	22.32	
P747	13.4	22.39	
P748	9.0	22.41	
P749	17.0	22.36	
P750	12.9	22.41	

柱穴計測表⑤

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P751	21.9	21.31	16SB64
P752	45.6	22.04	16SB64
P753	21.9	22.30	16SB62
P754	42.7	22.09	
P755	33.1	22.17	16SB62
P756	15.1	22.32	
P757	29.2	22.17	16SB65
P758	26.6	22.23	16SB62
P759	35.2	22.07	16SB64
P760	49.7	22.04	16SB63
P761	38.9	22.13	16SB63
P762	31.6	22.24	16SB62
P763	45.1	22.13	16SB62
P764	11.4	22.45	
P765	11.8	22.43	16SB62
P766	49.2	22.06	16SB2
P767	32.5	22.25	16SB3
P768	12.5	22.33	16SB2
P769	24.1	22.29	16SB2
P770	9.3	22.40	16SB1
P771	23.7	22.28	
P772	51.6	22.04	
P773	37.3	22.19	16SB6
P774	28.9	22.27	16SB2
P775	47.3	22.11	
P776	39.6	22.16	
P777	30.1	22.23	16SB3
P778	不明	不明	
P779	不明	不明	
P780	不明	不明	
P781	27.6	22.26	16SB3
P782	9.4	22.46	柱列2
P783	7.8	22.47	柱列2
P784	22.4	22.30	16SB13
P785	10.8	22.41	柱列2
P786	11.5	22.54	16SB15
P787	16.4	22.37	
P788	10.5	22.36	柱列5
P789	11.8	22.33	16SB16
P790	17.1	22.39	
P791	不明	22.31	
P792	30.4	22.33	
P793	13.0	22.47	
P794 1	不明	22.28	16SB4
P794 2	不明	22.40	
P795	6.9	22.52	16SB4
P796	20.7	22.29	
P797	35.4	22.20	16SB3
P798	20.9	22.38	
P799	19.4	22.38	
P800	37.0	22.21	

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P801	12.3	22.26	16SB65
P802	25.4	22.12	16SB65
P803	34.1	22.12	
P804	21.1	22.32	16SB13
P805	28.7	22.17	
P806	19.4	22.26	
P807	35.5	22.09	
P808	48.8	21.99	
P809	38.6	22.11	16SB64
P810	39.2	22.12	16SB63
P811	13.6	22.39	
P812	16.8	22.25	
P813	18.5	22.18	16SB66
P814	30.5	22.06	16SB65
P815	6.5	22.50	
P816	13.3	22.41	
P817	47.8	22.05	
P818	9.0	22.50	
P819	25.7	22.34	16SB12
P820	21.6	22.38	
P821	19.7	22.40	16SB11
P822	12.9	22.44	
P823	23.5	22.36	
P824	19.5	22.40	16SB15
P825	18.3	22.42	16SB13
P826	21.5	22.34	16SB15
P827	17.0	22.40	16SB13
P828	10.7	22.43	
P829	7.5	22.45	柱列5
P830	28.6	22.28	16SB14
P831	19.1	22.37	
P832	14.7	22.42	16SB11
P833	24.1	22.30	16SB12
P834	17.6	22.36	
P835	不明	不明	16SB63
P836	26.5	22.23	
P837	14.1	22.32	16SB14
P838	18.0	22.31	16SB13
P839	11.5	22.38	16SB15
P840	不明	不明	
P841	11.9	22.35	
P842	8.4	22.41	
P843	13.4	22.44	16SB12
P844	16.2	22.28	16SB16
P845	8.9	22.38	
P846	20.4	22.27	16SB13
P847	15.5	22.31	16SB15
P848	18.5	22.29	
P849	8.3	22.39	16SB12
P850	5.5	22.43	16SB11

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P851	8.8	22.39	
P852	10.2	22.38	16SB16
P853	14.9	22.32	
P854	9.4	22.36	16SB14
P855	7.6	22.37	
P856	7.6	22.38	
P857	16.0	22.30	16SB16
P858	不明	不明	16SB13
P859	17.4	22.28	16SB16
P860	15.9	22.31	
P861	15.9	22.31	
P862	10.4	22.32	
P863	10.1	22.33	
P864	20.4	22.25	柱列1
P865	11.0	22.32	16SB9
P866	20.1	22.21	16SB8
P867	28.2	22.15	16SB7
P868	不明	22.31	
P869	欠番		
P870	36.0	22.13	16SB56
P871	28.0	22.17	
P872	23.6	22.26	16SB51
P873	16.0	22.36	
P874	40.5	22.17	16SB44
P875	34.8	22.24	
P876	14.0	22.23	16SB48
P877	24.0	22.30	16SB53
P878	23.6	22.31	16SB51
P879	26.0	22.25	16SB46
P880	36.4	22.21	16SB53
P881	34.2	22.14	
P882	34.9	22.13	16SB44
P883	13.0	22.36	16SB47
P884	19.8	22.27	16SB44
P885	3.9	22.17	
P886	17.6	22.52	16SB58
P887	4.7	22.24	16SB56
P888	50.0	21.67	16SB28
P889	38.4	22.11	16SB55
P890	22.9	22.18	柱列4
P891	10.9	22.16	
P892	18.6	22.06	16SB54
P893	27.6	22.07	
P894	不明	不明	
P895	8.7	22.08	16SB30
P896	17.5	22.22	16SB61
P897	21.2	21.98	
P898	17.0	22.02	16SB28
P899	12.3	21.85	16SB30
P900	13.1	21.90	

柱穴計測表⑥

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P901	20.0	21.95	16SB32
P902	7.5	21.99	16SB29
P903	11.2	21.99	16SB28
P904	31.7	21.98	16SB28
P905	25.1	22.02	16SB38
P906	不明	不明	16SB30
P907	25.2	22.01	
P908	29.3	21.97	16SB31
P909	64.7	21.51	16SB33
P910	14.3	22.04	16SB28
P911	9.1	22.07	
P912	欠番		
P913	22.5	21.96	16SB28
P914	17.0	22.02	16SB29
P915	欠番		
P916	5.8	21.89	
P917	32.0	21.68	16SB29
P918	38.3	21.86	16SB36
P919	54.1	21.57	16SB28
P920	47.3	21.78	
P921	47.3	21.77	16SB34
P922	7.3	21.96	16SB28
P923	31.3	21.77	16SB32
P924	34.5	21.74	
P925 1	22.0	21.73	16SB31
P925 2	3.2	21.91	
P926	26.5	21.80	16SB30
P927	22.6	21.73	
P928	不明	不明	
P929	25.7	21.69	16SB31
P930	25.5	21.65	
P931	不明	不明	
P932	29.0	21.91	
P933	11.9	21.87	
P934	不明	不明	16SB30
P935	30.1	21.84	16SB33
P936	17.0	21.99	16SB29
P937	21.4	22.04	
P938	欠番		
P939	欠番		
P940	19.2	21.86	16SB30
P941	6.0	21.92	16SB67
P942	2.2	21.82	
P943	33.2	21.53	
P944	36.2	21.64	
P945	26.8	21.93	
P946	46.7	21.39	
P947	12.3	22.15	
P948	15.7	22.13	
P949	48.3	21.54	
P950	38.8	21.96	16SB23

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P951	欠番		
P952	39.7	21.62	
P953	34.3	21.56	16SB33
P954	46.2	21.48	16SB67
P955	11.7	22.46	
P956	28.9	22.22	16SB40
P957	欠番		
P958	33.5	22.27	16SB41
P959	28.1	22.25	16SB39
P960	22.8	22.31	16SB37
P961	38.1	22.15	16SB42
P962	44.0	22.12	16SB38
P963	30.7	22.25	
P964	15.3	22.39	
P965	21.2	22.36	
P966	29.5	22.26	16SB39
P967	27.3	22.23	16SB41
P968	7.8	22.51	16SB37
P969	31.6	22.27	16SB26
P970	25.8	22.31	
P971	32.1	22.22	16SB28
P972	39.6	22.15	16SB27
P973	23.2	22.29	16SB28
P974	29.0	21.98	16SB24
P975	不明	不明	
P976	6.1	22.16	
P977	21.7	22.05	16SB22
P978	不明	不明	
P979	不明	不明	
P980	8.2	22.11	16SB38
P981	19.1	22.16	16SB25
P982	13.3	21.80	
P983	4.9	21.84	
P984	9.8	21.80	
P985	11.5	21.82	
P986	10.6	21.77	16SB36
P987	31.1	21.64	
P988	25.0	21.66	
P989	不明	不明	
P990	7.0	21.83	
P991	10.3	21.82	16SB61
P992	8.1	21.81	16SB60
P993	7.6	21.83	
P994	25.3	21.64	16SB54
P995	12.9	21.74	
P996	2.0	21.87	
P997	14.4	21.76	
P998	33.7	21.90	16SB35
P999	43.2	21.81	
P1000	16.6	22.01	

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P1001	24.5	21.51	
P1002	15.2	21.61	
P1003	14.6	22.37	
P1004	36.5	22.17	16SB17
P1005	33.9	22.17	
P1006	30.5	22.18	
P1007	26.4	22.25	16SB17
P1008	28.0	22.14	16SB17
P1009	8.9	22.26	
P1010	5.0	22.45	16SB17
P1011	24.3	21.98	
P1012	11.4	22.08	
P1013	13.9	22.16	
P1014	41.7	22.09	
P1015	42.0	22.11	16SB43
P1016	45.6	22.07	16SB49
P1017	9.2	22.26	
P1018	11.6	22.20	
P1019	11.5	22.21	
P1020	12.0	22.16	
P1021	13.0	22.15	
P1022	19.0	22.09	
P1023	13.4	22.13	
P1024	8.4	22.17	
P1025	17.5	22.91	16SB24
P1026	20.0	22.20	
P1027	不明	不明	
P1028	19.1	22.07	16SB21
P1029	3.2	22.26	
P1030	20.5	22.11	
P1031	20.9	22.33	16SB13
P1032	5.8	21.99	
P1033	18.8	22.18	
P1034	32.6	22.20	
P1035	15.8	22.15	
P1036	18.2	22.07	
P1037	不明	不明	
P1038	13.6	22.22	
P1039	不明	不明	
P1040	不明	不明	
P1041	14.1	22.23	16SB10
P1042	19.6	22.34	
P1043	38.3	22.10	16SB65
P1044	38.4	22.05	16SB64
P1045	45.4	22.12	
P1046	45.0	22.06	
P1047	20.1	22.30	
P1048	17.7	22.35	
P1049	39.0	22.19	16SB6
P1050	不明	不明	16SB7

柱穴　計測表⑦

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P1051	不明	不明	16SB7
P1052	21.0	22.25	
P1053	10.4	22.45	16SB4
P1054	不明	不明	
P1055	24.0	22.26	16SB9
P1056	29.9	22.21	
P1057	24.0	22.24	
P1058	32.0	22.25	
P1059	39.2	22.19	16SB9
P1060	45.3	22.18	16SB7
P1061	12.5	22.28	16SB8
P1062	9.6	22.35	
P1063	18.0	22.32	
P1064	13.6	22.36	
P1065	21.2	22.26	
P1066	22.4	22.30	16SB15
P1067	24.8	22.39	
P1068	34.2	22.23	16SB6
P1069	56.6	22.01	16SB8
P1070	欠番		
P1071	欠番		
P1072	27.2	22.24	
P1073	32.7	22.24	
P1074	15.4	22.37	
P1075	45.3	22.08	16SB6
P1076	36.6	22.04	16SB6
P1077	57.2	21.87	16SB6
P1078	19.0	22.34	
P1079	19.2	22.34	
P1080	44.5	22.11	16SB6
P1081	15.4	22.33	
P1082	20.2	22.28	
P1083	12.5	22.41	16SB1
P1084	欠番		
P1085	53.2	21.97	16SB6
P1086	欠番		
P1087	48.3	22.05	16SB6
P1088	47.6	22.07	16SB6
P1089	58.3	22.00	16SB6
P1090	47.8	22.07	16SB6
P1091	41.0	22.11	16SB6
P1092	不明	不明	
P1093	10.4	22.35	
P1094	欠番		
P1095	55.2	21.90	16SB6
P1096	22.8	22.20	16SB6
P1097	20.6	22.39	16SB8
P1098	16.3	22.34	16SB1
P1099	25.4	22.32	
P1100	21.7	22.36	16SB9

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P1101	欠番		
P1102	不明	不明	
P1103	35.8	22.00	16SB6
P1104	不明	不明	
P1105	23.8	22.38	16SB26
P1106	18.4	22.35	16SB6
P1107	24.6	22.28	16SB13
P1108	17.2	22.29	
P1109	44.1	22.08	16SB38
P1110	14.7	22.38	16SB16
P1111	24.8	22.27	16SB13
P1112	39.7	22.05	16SB6
P1113	20.9	22.21	16SB9
P1114	10.2	22.48	
P1115	23.5	22.29	
P1116	25.3	22.28	
P1117	5.7	22.56	
P1118	21.0	22.16	
P1119	4.0	22.37	
P1120	31.1	22.30	16SB27
P1121	27.7	22.32	
P1122	43.0	22.17	16SB26
P1123	14.9	22.39	
P1124	19.9	22.40	
P1125	不明	不明	
P1126	22.7	22.33	
P1127	21.7	22.33	16SB40
P1128	20.4	22.25	16SB41
P1129	23.0	22.30	16SB49
P1130	20.2	22.33	
P1131	35.4	22.10	
P1132	44.0	22.03	16SB41
P1133	33.3	22.19	16SB46
P1134	36.0	22.21	16SB38
P1135	25.1	22.29	16SB37
P1136	30.6	22.25	
P1137	28.6	22.28	
P1138	30.6	22.05	
P1139	45.3	22.11	16SB57
P1140	23.0	22.16	
P1141	11.5	22.06	16SB60
P1142	15.9	22.26	16SB26
P1143	50.0	22.14	
P1144	38.0	21.91	16SB20
P1145	不明	不明	16SB20
P1146	9.9	22.17	
P1147	25.7	22.02	
P1148	36.5	22.03	16SB24
P1149	36.0	22.20	16SB42
P1150	不明	不明	16SB44

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P1151	36.9	22.19	
P1152	37.1	22.16	
P1153	21.0	22.07	16SB38
P1154	20.8	22.26	16SB39
P1155	不明	不明	柱列4
P1156	24.0	22.21	16SB52
P1157	38.4	22.09	16SB52
P1158	11.0	22.11	16SB60
P1159	23.2	21.98	
P1160	不明	不明	
P1161	不明	不明	16SB28
P1162	67.9	21.80	16SB61
P1163	12.2	22.07	16SB46
P1164	不明	不明	
P1165	25.3	22.18	16SB40
P1166	不明	不明	
P1167	19.0	21.96	
P1168	42.7	21.82	
P1169	26.9	21.89	16SB34
P1170	35.3	22.24	
P1171	22.3	22.15	16SB26
P1172	30.2	22.26	
P1173	11.2	21.848	
P1174	11.0	21.955	
P1175	9.2	22.04	16SB36
P1176	15.5	22.13	
P1177	6.4	22.17	
P1178	10.4	22.16	
P1179	13.2	22.16	
P1180	21.4	22.07	
P1181	20.1	22.10	
P1182	23.5	21.97	
P1183	32.0	21.82	
P1184	20.8	22.11	
P1185	19.8	22.15	16SB10
P1186	18.6	22.08	
P1187	28.3	21.84	
P1188	14.1	22.16	
P1189	20.4	22.22	
P1190	不明	不明	16SB46
P1191	14.3	22.20	
P1192	14.0	22.26	
P1193	16.5	22.27	柱列3
P1194	12.3	22.32	
P1195	9.2	22.30	
P1196	欠番		
P1197	19.0	22.23	
P1198	7.3	22.30	
P1199	11.1	22.11	
P1200	31.5	22.21	

柱穴計測表⑧

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P 1201	15.6	22.14	
P 1202	19.2	22.19	16S B26
P 1203	25.2	22.18	
P 1204	29.2	22.16	
P 1205	21.8	22.18	
P 1206	6.8	22.28	
P 1207	5.7	22.35	
P 1208	10.0	22.31	
P 1209	49.9	22.12	16S B37
P 1210	16.8	22.05	16S B37
P 1211	163.2	22.23	16S B 5
P 1212	17.5	22.92	
P 1213	26.5	21.91	16S B24
P 1214	21.1	22.18	16S B10
P 1215	17.3	22.18	16S B64
P 1216	27.5	22.15	16S B10
P 1217	37.7	22.22	16S B 4
P 1218	15.3	22.21	16S B 9
P 1219	13.2	22.14	16S B10
P 1220	9.7	22.15	
P 1221	26.4	22.18	16S B 9
P 1222	23.6	22.19	
P 1223	24.0	22.17	16S B 5
P 1224	7.3	22.06	
P 1225	21.2	22.11	
P 1226	14.4	22.12	
P 1227	37.9	21.89	
P 1228	欠番		
P 1229	17.2	22.21	
P 1230	19.4	22.21	16S B 1
P 1231	27.6	22.09	
P 1232	9.1	21.99	16S B38
P 1233	19.9	22.07	
P 1234	欠番		
P 1235	不明	不明	
P 1236	7.9	22.71	
P 1237	9.9	22.68	
P 1238	11.5	22.65	
P 1239	10.2	22.61	
P 1240	欠番		
P 1241	8.7	22.64	
P 1242	欠番		
P 1243	7.1	22.56	
P 1244	10.0	22.61	
P 1245	不明	不明	柱列3
P 1246	11.6	22.60	
P 1247	10.9	22.57	
P 1248	6.1	22.55	柱列3
P 1249	12.1	22.49	柱列3
P 1250	欠番		

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P 1251	5.4	22.61	
P 1252	19.7	22.43	
P 1253	欠番		
P 1254	14.9	22.59	
P 1255	4.4	22.55	
P 1256	7.7	22.47	
P 1257	4.8	22.52	
P 1258	7.3	22.46	
P 1259	6.8	22.56	
P 1260	2.4	22.53	
P 1261	不明	不明	
P 1262	5.8	22.61	柱列5
P 1263	4.2	22.63	16S B14
P 1264	欠番		
P 1265	欠番		
P 1266	9.4	22.43	
P 1267	欠番		
P 1268	4.6	22.46	
P 1269	12.6	22.29	
P 1270	16.7	22.42	
P 1271	9.7	22.52	
P 1272	40.7	22.22	
P 1273	9.2	22.61	
P 1274	15.5	22.58	
P 1275	42.1	22.13	16S B47
P 1276	12.2	22.35	
P 1277	16.8	22.25	
P 1278	14.1	22.33	
P 1279	15.5	22.27	
P 1280	13.9	22.33	
P 1281	12.4	22.31	
P 1282	7.3	22.36	
P 1283	5.6	22.31	
P 1284	2.6	22.26	
P 1285	9.2	22.31	
P 1286	8.6	22.34	
P 1287	7.4	22.49	
P 1288	5.1	22.40	
P 1289	12.1	22.25	
P 1290	8.3	22.29	
P 1291	18.5	22.16	
P 1292	12.0	22.35	
P 1293	9.1	22.36	
P 1294	16.5	22.33	
P 1295	13.1	22.38	
P 1296	10.7	22.42	
P 1297	9.9	22.46	
P 1298	8.6	22.41	
P 1299	60.4	21.78	
P 1300	13.5	22.40	

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P 1301	6.7	22.35	
P 1302	24.2	22.18	
P 1303	4.2	22.25	
P 1304	9.6	22.27	
P 1305	14.0	22.14	
P 1306	15.7	22.12	
P 1307	22.3	22.06	
P 1308	14.8	22.14	
P 1309	20.1	22.07	
P 1310	40.3	22.23	
P 1311	9.1	22.37	
P 1312	6.9	22.34	
P 1313	9.7	22.37	
P 1314	7.6	22.37	
P 1315	16.4	22.04	
P 1316	9.1	22.10	
P 1317	10.3	22.39	
P 1318	11.9	22.38	
P 1319	欠番		
P 1320	欠番		
P 1321	30.7	22.02	16S B68
P 1322	欠番		
P 1323	欠番		
P 1324	欠番		
P 1325	22.6	22.28	
P 1326	11.8	21.82	
P 1327	16.1	21.83	
P 1328	不明	不明	
P 1329	8.5	21.64	
P 1330	25.1	21.48	
P 1331	12.8	21.62	
P 1332	欠番		
P 1333	35.2	21.39	16S B67
P 1334	8.2	21.63	
P 1335	15.7	21.59	
P 1336	25.8	22.09	16S B57
P 1337	33.4	22.06	
P 1338	43.6	21.91	
P 1339	29.9	21.56	
P 1340	1.2	21.49	
P 1341	14.5	21.56	
P 1342	35.5	21.28	16S B67

柱穴計測表⑨

第3節　まとめ

1　遺構

泉屋遺跡16次調査で検出した遺構は、掘立柱建物69棟、柱列５条、井戸14基、土坑60基、溝21条、竪穴建物２棟である。これらの所属年代は多岐にわたる。以下その所属年代を列挙すると①縄文時代　②９～10世紀　③12世紀　④13世紀後半～14世紀前半　⑤16世紀　⑥16世紀末～19世紀末である。

所属時期不明の遺構もかなりあるが、上記いずれかの年代に属すると推測される。各時期を概観する。

①縄文時代　縄文時代の遺構はＶ層上面で検出された土坑（16ＳＫ101～109）９基が該当する。これらの土坑を縄文時代の所属と判断した根拠は、検出面がＶ層上面という点だけで、明確に遺物が供伴していたわけではない。形状から人為的な遺構ではない可能性のものもある。16次調査区の縄文土器は後期前～中葉のものと、後期末～晩期初頭のものに２大別される。16ＳＫ101～109もこのどちらかの時期に属すると考えられるが、詳細は不明である。 また16次調査区では縄文時代の住居跡は全く検出されなかった。出土した縄文土器を使用した人々の集落跡は調査区外に存在すると考えられる。可能性が高いのは16次調査区に近接する北側と推測される。

②９～10世紀　平安時代前半の遺構である。竪穴建物16ＳＩ１、16ＳＩ２の２棟が相当する。他に明確に９～10世紀に属する遺構は無い。土師器、須恵器の出土量から推察するともう少し遺構の量があっても良さそうである。これは12世紀以降の遺構により竪穴住居などが破壊されてしまった可能性もある。16ＳＩ１、16ＳＩ２も残存状態は悪くその可能性を示唆している。16ＳＩ１は残存状態が非常に悪く、壁溝とカマドの火焼面のみの検出である。カマド火焼面は大半を近世の井戸に破壊されているが、南壁にカマドがあると辛うじて判断できる。16ＳＩ２はおそらくカマドが存在しない。このように遺構の残存が悪い状況であるので明言はできないが、16次調査区内には数軒の竪穴住居からなる９世紀後半～10世紀前半にかけての小規模な集落が存在したと推測できる。

③12世紀　奥州藤原氏の時代の遺構である。12世紀に属する可能性の高い遺構を示す。掘立柱建物では16ＳＢ６、16ＳＢ38、16ＳＢ46、井戸状遺構では16ＳＥ６、16ＳＥ９、土坑は16ＳＫ６、16ＳＫ９、16ＳＫ14、16ＳＫ17、16ＳＫ18、16ＳＫ21、16ＳＫ25、16ＳＫ28、16ＳＫ31、16ＳＫ32、16ＳＫ34、16ＳＫ38、16ＳＫ41、16ＳＫ42、16ＳＫ43、16ＳＫ50、16ＳＫ52、16ＳＫ59。溝は16ＳＤ６、16ＳＤ12、16ＳＤ15、16ＳＤ17、16ＳＤ20である。これらの遺構はいずれも12世紀代でも後半期に属する遺構と推測される。12世紀前半とする積極的な根拠を有する遺構は存在しない。

16次調査区を横切る形で16ＳＤ12が存在する。16ＳＤ12は対になる溝が存在せず道路側溝には成り得ないが、都市を区画する溝と推測される。よって16次調査区の12世紀の遺構は、16ＳＤ12を境として、それぞれが異なった区画に属すると判断される。また調査区北西隅で検出された溝16ＳＤ15は東北本線の西側、泉屋遺跡13次調査検出の溝13ＳＤ１と対になる道路側溝である。16ＳＤ12とは同時存在と推測される。

16ＳＤ12よりも北側の区画に属する主な遺構は、掘立柱建物16ＳＢ６、井戸状遺構16ＳＥ９がある。
掘立柱建物16ＳＢ６は平泉遺跡群の中でも有数の大規模な建物である。柱間寸法は10尺を基準としており、

柳之御所遺跡の中心建物と比較しても何ら遜色のない規模である。平泉拠点地区においても、中核的な重要な用途の建物であったと推測される。16ＳＥ９は位置関係から大型建物16ＳＢ６に伴う可能性が高い。

16ＳＤ12よりも南側区画に属する主な遺構は掘立柱建物16ＳＢ38、16ＳＢ46、井戸状遺構は16ＳＥ６がある。16ＳＢ38は二面庇、16ＳＢ46は四面庇の建物である。16ＳＢ38と16ＳＢ46は前後関係が不明であるが、プランが重複することから同時存在ではない。井戸状遺構16ＳＥ６は開口部が非常に広い。16ＳＢ38または16ＳＢ46のどちらかに伴う可能性が高い。

④13世紀後半～14世紀前半　概ね鎌倉時代後半の遺構である。この時期に属する可能性の高い遺構を列挙する。掘立柱建物は16ＳＢ37、16ＳＢ24、井戸状遺構16ＳＥ10、16ＳＥ12、16ＳＥ13である。また溝16ＳＤ13もこの時期の可能性が高い。掘立柱建物16ＳＢ37と16ＳＢ24は軸方向が概ね同一で、位置関係も並立状態で、同時存在の可能性が高い。溝16ＳＤ13の軸方向も概ね掘立柱建物と平行関係にある。井戸状遺構16ＳＥ10と16ＳＥ12は非常に近接しており前後関係を有するものと推測される。これら16次調査を含めた鎌倉時代の泉屋遺跡の性格、様相については、「羽柴直人　2002年　「鎌倉時代の平泉の様相」　紀要ＸＸＩ（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター」において考察をおこなっている。

⑤16世紀（前半）　出土遺物、重複関係から16世紀（15世紀末頃の可能性も含む）に属する可能性の高い掘立柱建物がある。16ＳＢ17、16ＳＢ19、16ＳＢ34、16ＳＢ35、16ＳＢ64である。これらの建物は、規模から推測して一般農民レベルの民家の主屋と推測される。後述する16世紀末から展開する近世民家と連続するか否かの判断は難しい。

⑥16世紀末～19世紀末　近世から近代まで連続する民家である。16次調査区南側、字泉屋27番地に展開する。民家の主屋は掘立柱建物16ＳＢ30→16ＳＢ31→16ＳＢ33→16ＳＢ28→16ＳＢ29→16ＳＢ32の順に変遷する。その後、礎石建物の主屋が建てられたと推測されるが、その遺構は残存しない。16ＳＫ20は礎石建物の主屋に伴う厩のくぼみと判断される。また16ＳＫ19も礎石の主屋内に設けられた施設と推測される。出土遺物から判断して泉屋27番地の屋敷は19世紀末頃に廃絶したと推測される。おそらく明治22年の東北本線の開通がその原因であろう。

井戸状遺構は16ＳＥ１、16ＳＥ２、16ＳＥ３、16ＳＥ４、16ＳＥ５、16ＳＥ７、16ＳＥ８、16ＳＥ11が近世以降に属する。16ＳＥ１～５、８は字泉屋22番の屋敷に属するが、16ＳＥ７、11は調査区の北側に位置し、27番地の屋敷とは別個の屋敷に属する可能性が高い。16次調査区を含めた泉屋遺跡の近世民家、屋敷についての変遷は「羽柴直人　1997年　「岩手県平泉町における近世掘立柱民家について」　紀要ＸⅦ　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター」において考察をおこなっている。

2　出土遺物

泉屋遺跡16次調査で出土した遺物を時期別に分けると以下の通りになる。

①縄文時代　②９～10世紀　③12世紀　④13世紀後半～14世紀前半　⑤16世紀　⑥16世紀末～19世紀末

各時期の遺物について概観する。

①縄文時代　後期前～中葉のものと後期後葉～晩期初頭のものに２大別される。両者の出土位置は層位的

には区分できなかった。土器の総出土量は32.9kgである。特筆される遺物としては人面付きの注口土器(9082)がある。晩期初頭のもので他に類例の乏しいものである。

②9～10世紀　竪穴建物16ＳＩ１からまとまった資料（１～８）が得られている。土師器坏はいずれも再調整がないものである。８の須恵器長頸壺は赤みがかったにぶい褐色の色調を呈する。

また遺構外や12世紀以降の遺構からも土師器、須恵器が出土している。土師器坏には再調整を施されるものと施されないものが混在している。またロクロ不使用の土師器長胴甕は口縁部のヨコナデ調整と、体部の調整の間に無調整の部分を有するという共通した特長を持つ。須恵器は大甕の破片が多い。

これらの土師器、須恵器の実年代を提示するのは、磐井郡の土師器、須恵器の編年が確立していない現状では困難である。大まかに十和田ａ火山灰降下前後の９～10世紀に属するものとしておきたい。

③12世紀　かわらけの出土総量は約50kgで、平泉遺跡群拠点地区内では多い量とはいえない。ほとんどが12世紀後半に属するかわらけで、確実に12世紀前半に属するものは抽出できない。可能性としては柱状高台かわらけ（1121、1122）が前半に属する可能性がある。

国産陶器は常滑産、渥美産、須恵器系陶器がある。かわらけ同様出土量は多くはない。中国産磁器は白磁、青磁、青白磁がある。出土した総破片数37点である。12世紀前半代に遡り得る可能性を持つ化粧土を有する白磁も含まれる(3001、3015～3018)。瓦は総破片数７片が出土した。4003は唐草文の軒平瓦で12世紀中葉以前に属する可能性がある。4001、4002は剣頭文で12世紀後半のものである。木製品では漆器皿、曲物、不明製品がある。不明製品6001、6002は織機の部品の可能性が高い。また砥石7011は出土遺構から12世紀に属する可能性が高い。漆紙8051も12世紀に属する遺物である。墨書は確認できなかった。

④13世紀後半～14世紀前半　かわらけは３点（1123～1125）出土している。ロクロ製で内面にナデ調整があるものもある。国産陶器は東北地方在地産のもの（2092～2101）、東海産のもの（2102）がある。東北地方在地産の具体的な窯の特定は難しいが、宮城県北部付近の可能性を考えている。中国産磁器は白磁壺(3036、3037)、青磁碗（3038、3039）がある。また板碑（7026）には紀年銘がないが、この時期に属すると推測される。北宋銭（8601～8011）も確証はないが、この時期に使用されたものと推測される。

⑤16世紀（前半）　わずか３点であるが、瀬戸美濃産の灰釉皿5057、5064、5065が出土している。

⑥16世紀末～19世紀末　多量の陶磁器が出土している。産地別にあげると、中国産、朝鮮産？、肥前産、瀬戸美濃産、大堀相馬産、常滑産、京・信楽系？、在地産のものがある。時期は16世紀末から19世紀末頃までのものがあり、泉屋27番地の屋敷の存続期間を示している。木製品では漆器椀（6009）、横槌（6010）、釣瓶（6008）、桶（6007、6011）がある。漆器椀、横槌、釣瓶は16ＳＥ３からの出土であり、供伴した陶磁器から16世紀末～17世紀初めのものと判断できる。桶はどちらも井戸の底からの出土で、釣瓶として使用されていたものである。石製品は砥石、硯、挽き臼がある。挽き臼は目が放射状のものがほとんどである。柱穴の礎盤として使用されていたもの(7023、7024)もある。金属製品は銭貨、煙管などがある。銭貨は永楽通寶(8012～8014)、寛永通寶（8015～8025）がある。永楽通寶はいずれも模鋳銭である。また明治13年の半銭銅貨は屋敷の下限年代の一端を示す資料である。

第４節　泉屋遺跡16次調査におけるトイレ遺構分析

株式会社　古環境研究所

１　はじめに

トイレ遺構等の糞便堆積物は、寄生虫卵密度、花粉組成、種実組成に特異性が認められる。したがって、これらの分析を総合的に行うことによって、堆積物が糞便であるか否かがわかり、トイレ遺構を示唆することが可能である。また、寄生虫の特異な生活史や食用とされた花粉や種実によって、食物や食生活の検討を行うことが可能である。

ここでは、泉屋遺跡16次調査において検出された土坑について、トイレの可能性を検討する目的でトイレ遺構分析を行った。

２　試料

試料は、16ＳＫ６の２層（試料１）、16ＳＫ９の２層（試料２）、16ＳＫ18の２層（試料３）、ＳＫ21の２層（試料４）、16ＳＫ38の２層（試料５）の５点であり、いずれも12世紀とされる土坑である。

３　寄生虫卵分析

（１）方法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

１）サンプルを採量する。

２）脱イオン水を加え撹拌する。

３）篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈澱法を施す。

４）25％フッ化水素酸を加え30分静置（２・３度混和）。

５）水洗後サンプルを２分する。

６）片方にアセトリシス処理を施す。

７）両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製する。

８）検鏡・計数を行う。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、２分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を３回繰り返して行った。

（２）結果

試料１、２、４は、試料（堆積物）１cc中1000個以上の寄生虫卵が検出され、試料３、５では1000個未満でやや少ない。各試料とも回虫卵、鞭虫卵が検出され、試料２からは肝吸虫卵が検出された。回虫卵が多い傾向にあり、鞭虫卵が続く。

表１　泉屋遺跡16次調査における寄生虫卵分析結果

分類群	(試料0.1cc中)	1	2	3	4	5
学名	和名	16SK6 2層	16SK9 2層	16SK18 2層	16SK21 2層	16SK38 2層
Helminth eggs	寄生虫卵					
Ascaris lumbricoides	回虫卵	652	160	50	363	3
Trichuris trichiura	鞭虫卵	60	117	21	314	17
Clonorchis sinensis	肝吸虫卵		2			
Total	計	712	279	71	677	20
	(１cc中に算定)	712	2790	710	6770	200
	明らかな消化残渣	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)

4　花粉分析

（１）方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

１）５％水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。

２）水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。

３）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。

４）水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：１濃硫酸のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す。

５）再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。

６）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレ　パラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、２分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を３回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村（1980）をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（−）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村（1974、1977）を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

（２）結果

１）分類群

出現した分類群は、樹木花粉24、樹木花粉と草本花粉を含むもの３、草本花粉23、シダ植物胞子２形態の計52である。これらの学名と和名および粒数を表１に示す。主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を示す。

〔樹木花粉〕

モミ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属－アサダ、クリ－シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、サンショウ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、アオイ科、グミ属、エ

表２　泉屋遺跡16次調査における花粉分析結果

学　名	和　名	1 16SK6 2層	2 16SK9 2層	3 16SK18 2層	4 16SK21 2層	5 16SK38 2層
Arboreal pollen	樹木花粉					
A bies	モミ属		1			
Pinus Subgen. Dibloxylon	マツ属複維管束亜属			1	1	
Pinus Subgen. Haploxylon	マツ属単維管束亜属			1		
Cryptomeria japoica	スギ	1	1	1	2	9
Juglans	クルミ属			1		
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ		1			1
Alnus	ハンノキ属	1		1	1	7
Betula	カバノキ属		2			1
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属－アサダ			1		2
Castanea crenata-astanopsis	クリ－シイ属	1			1	1
Fagus	ブナ属		2		2	4
Quercus gen.Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	2	3	5	8	7
Quercus en.Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属				1	3
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属－ケヤキ				2	3
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属－ムクノキ					1
Zanthoxylum	サンショウ属	1				
Acer	カエデ属				5	
Aesculus turbinata	トチノキ				1	1
Tilia	シナノキ属		1			
Malvaceae	アオイ科				1	
Elaeagnus	グミ属				1	
Styrax	エゴノキ属				1	
Ericaceae	ツツジ科				1	
Sanbucus-Vibumum	ニワトコ属・ガマズミ属			2	5	1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉					
Moraceae-Urticaceae	クワ科イラクサ科		18	112	5	53
Rosaceae	バラ科			1		
Leguninosae	マメ科				1	
Nonarboreal pollen	草本花粉					
Gramineae	イネ科	60	85	99	63	182
Oryza tupe	イネ属型	11	13	7	4	13
Cyperaceae	カヤツリグサ科	4	1	6		14
Monochoria	ミズアオイ属	1				
Polygonum sect.Persicaria	タデ属サナエタデ節	4	2	1	4	3
Fagopyrum	ソバ属	1	3	1	3	2
Chenopodiaceae-aranthaceae	アカザ科－ヒユ科	115	84	55	72	53
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	6	2	3	4
Ranunculus	キンポウゲ属				1	
Cruciferae	アブラナ科	25	201	64	196	37
Vicia	ソラマメ属		1		1	
Vigna	ササゲ属				1	
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属－フサモ属				3	
Umbelliferae	セリ科			2	1	1
Swertia-Tripterospermum-Gentiana	センブリ属－ツルリンドウ属	3	2	1	22	11
Labiatae	シソ科			1		
Solanaceae	ナス科	3	2			
Plantago	オオバコ属	2			1	
Actinostemma lobatum	ゴキヅル				1	
Lactucoideae	タンポポ亜科	1		1	2	1
Asteroideae	キク亜科			1	1	2
Xanthium	オナモミ属			1	5	
Artemisia	ヨモギ属	22	11	34	19	76
Fern spore	シダ植物胞子					
Monolate type spore	単条溝胞子	1	2	3	1	17
Trilate type spore	三条溝胞子	3	3	2		16
Atboreal pollen	樹木花粉	6	11	13	33	41
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	18	113	6	53
Nonarboreal pollen	草本花粉	253	411	276	403	399
Total pollen	花粉総数	259	440	402	442	493
	〃　（１cc中に算定）	12432	14080	32160	49504	6409
Unknown pollen	未同定花粉	2	0	0	5	6
Fern spore	シダ植物胞子	4	5	5	1	33

ゴノキ属、ツツジ科、ニワトコ属－ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、バラ科、マメ科

〔草本花粉〕

イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、ソラマメ属、ササゲ属、アリノトウグサ属－フサモ属、セリ科、センブリ属－ツルリンドウ属リンドウ属、シソ科、ナス科、オオバコ属、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

2）花粉群集の特徴

各試料ともイネ属型を含むイネ科、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科が多く、ヨモギ属が伴われる。アブラナ科は試料2、4で多く特徴的である。試料3、5はクワ科－イラクサ科の出現率が高い。他にソバ属、センブリ属－ツルリンドウ属－リンドウ属が出現する。樹木花粉は各試料とも極めて低率である。

5　種実同定

（1）方法

試料（堆積物）100ccを0.25㎜の篩を用いて水洗選別を行い、双眼実体顕微鏡下で観察した。同定は形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

（2）結果

1）分類群

樹木7、草本14の計21が同定された。学名、和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

〔樹木〕

a．クワ属　*Morus*　種子　クワ科

茶褐色で広倒卵形を呈し、基部に突起がある。表面はやや粗い。長さ1.8～2.2㎜、幅1.4～1.6㎜。

b．キイチゴ属　*Rubus*　核　バラ科

淡褐色でいびつな半円形を呈す。表面には大きな網目模様がある。長さ1.6～2.1㎜、幅0.9～1.1㎜。

c．ブドウ属　*Vitis*　種子　ブドウ科

黒褐色で倒卵形を呈す。腹面に「ハ」字状の孔が2つあり、背面には楕円形のカラザがある。長さ4.3～4.5㎜、幅2.5～3.3㎜。

d．マタタビ　*Actinidia polygama* Planch.　ex Maxim.　種子　マタタビ科

暗褐色ないしやや紫色を帯びる茶褐色で、楕円形を呈す。断面は両凸レンズ形、表面には穴が規則的に分布する。種皮はやや厚く堅い。長さ2.2～3.0㎜、幅1.3～1.6㎜。

e．グミ属　Elaeagnns　種子　グミ科

茶褐色で長楕円形を呈す。表面には縦方向に8本の筋が走る。長さ4.7～5.0㎜、幅2.6～3.5㎜。

f．ガマズミ属　*Viburnum*　核　スイカズラ科

茶褐色で楕円形を呈す。腹面に１本と背面に２本の溝が走り、下端に小さなへそがある。長さ1.6～2.0mm、幅1.1～1.3mm。

g．ニワトコ　*Sambucus sieboldiana* Blume ex graedn　種子　スイカズラ科

黄褐色～茶褐色で楕円形を呈す。一端にへそがある。表面には横方向の隆起がある。長さ2.4～2.6mm、幅1.5～1.7mm。

〔草本〕

h．ホタルイ属　*Scirpus*　果実　カヤツリグサ科

黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起がある。長さ1.7～1.8mm、幅1.9～2.0mm。

i．カヤツリグサ属　*Cyperus*　果実　カヤツリグサ科

淡褐色で狭倒卵形を呈す。表面はやや粗い。断面は三角形である。長さ1.0～1.2mm、幅0.5～0.6mm。

表３　泉屋遺跡16次調査における種実同定結果

分類群		(試料100cc中)	1	2	3	4	5
学　名	和　名	部位	16SK6 2層	16SK9 2層	16SK18 2層	16SK21 2層	16SK38 2層
arbor	樹木						
Morus	クワ属	種子	10	1			
Rubus	キイチゴ属	核	93	18	1	47	886
Vitis	ブドウ属	種子	6	10	1		1
Actinidia	マタタビ属	種子	107	77	14	12	1
Elaeagnns	グミ属	種子	17				
Viburnum	ガマズミ属	核	2				
Sambucus sieboldiana Blume ex Gruebn.	ニワトコ	核			5		
herb	草本						
Scirpus	ホタルイ属	果実	2		1		
Cyperus	カヤツリグサ属	果実			1		
Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	29	6	1	1	2
Aneilema keisak Hassk	イボクサ	種子	1				
Chenopodium	アカザ属	種子	1		2		
Amaranthus	ヒユ属	種子	1		6		
Caryophyllaceae	ナデシコ科	種子					
Duchesnea-Fragaria -Potentilla	ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属－キジムシロ属	種子			2		
Leonurus	メハジキ属	果実			1		
Perilla	シソ属	果実	17	13	2		
Solanum melongena L.	ナス	種子	173	36	264	11	30
Solanaceae	ナス科	種子	2	1	30	3	1
SEsamum indicum L.	ゴマ	種子		1	5	2	
Cucumis melo L.	ウリ類	種子	21	23	7	1	3
		破片	1	2	6		5
Total	合計		438	188	349	77	929

表４　泉屋遺跡16次調査　16ＳＫ９　２層ウリ類種子計測値

長さ（mm）				
6.4	6.1	7.7	6.5	6.6
8.3	6.0	6.3	5.1	6.8
6.9	5.3	6.8	7.3	6.9
5.1	6.0	6.7	6.7	6.6
6.9	6.8	6.2	平均値	6.5

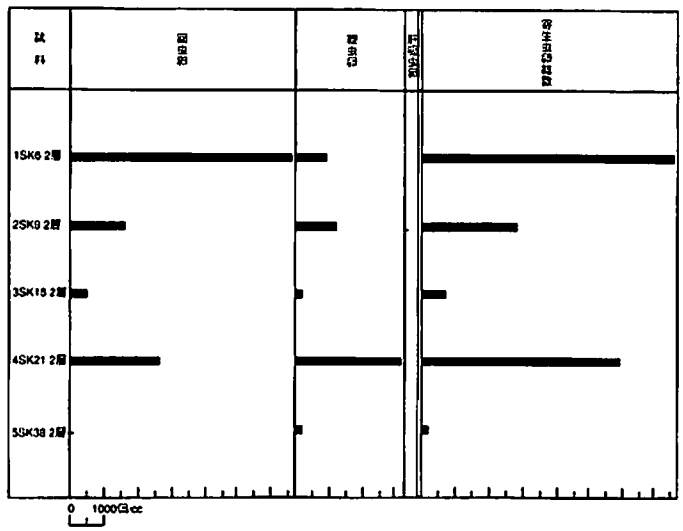


図１　泉屋遺跡16次調査における寄生虫卵ダイヤグラム

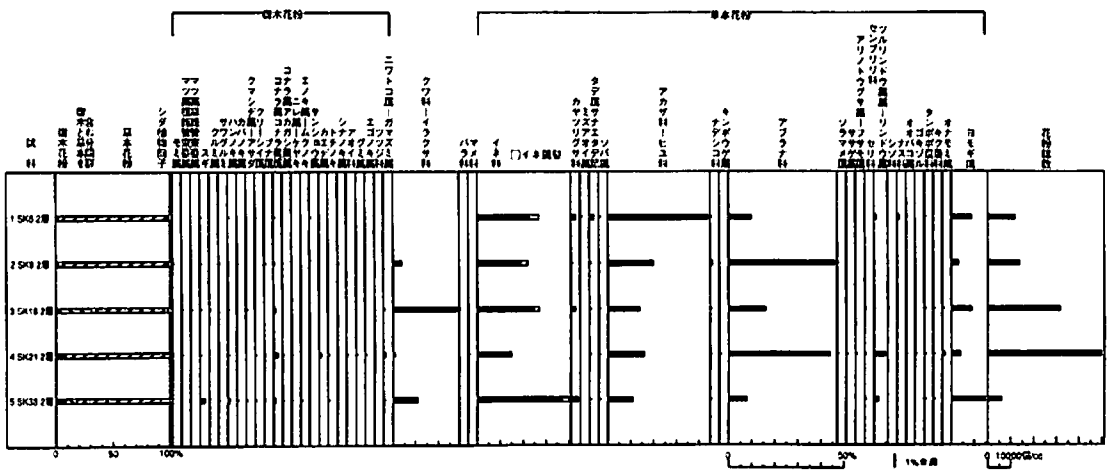


図２　泉屋遺跡16次調査における花粉ダイヤグラム（花粉総数が基数）

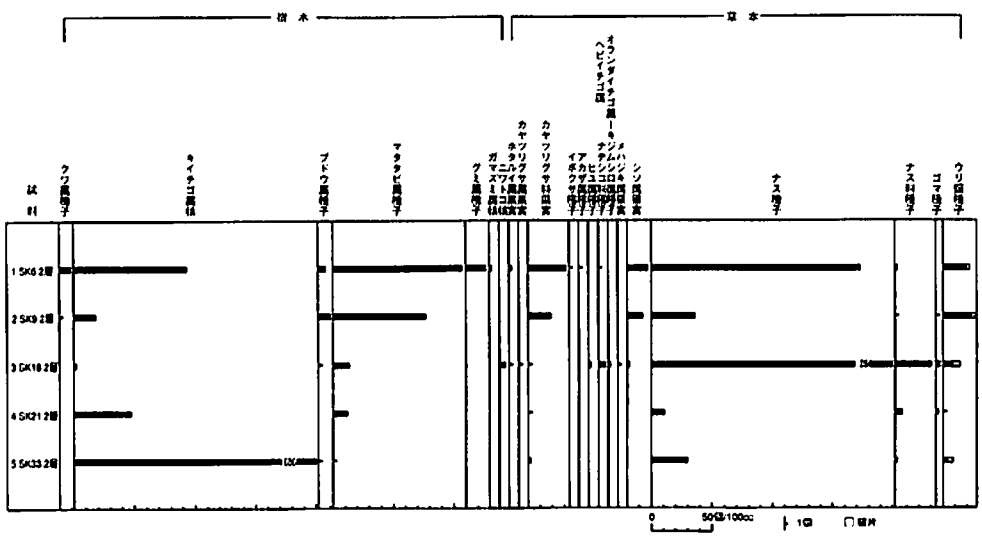


図３　泉屋遺跡16次調査における種実検出図（0.25mm篩 100 cc）

j．カヤツリグサ科　Cyperaseae　果実

黄褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。長さ1.3mm、幅1.0mm。

k．イボクサ　*Aneilema Keisak* Hassk.　種子　ツユクサ科

黒褐色で楕円形を呈す。腹部に一文字状のへそがあり、側面にくぼんだ発芽孔がある。長さ2.4mm、幅1.4mm。

l．アカザ属　*Chenopodium*　種子　アカザ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。径1.1mm。

m．ヒユ属　*Amaranthus*　種子　ヒユ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、1ヶ所が切れ込みヘソがある。断面は両凸レンズ形である。径1.1～1.2mm。

n．ナデシコ科　*Caryophyllaceae*　種子

黒色で円形を呈し、側面にへそがある。表面全体に突起がある。径0.6～1.0mm。

o．ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属－キジムシロ属

Duchesnea - Fragaria - Potentill　種子　バラ科

黄褐色で腎臓形を呈す。表面はやや粗い。長さ1.0mm、幅0.4mm。

p．シソ属　*Perilla*　果実　シソ科

茶褐色で球形を呈し、下端にへそがある。表面には大きい網目模様がある。径1.5～1.8mm。

q．メハジキ属　*Leonurus*　果実　シソ科

果実は淡褐色で三角状くさび形を呈し、3稜がある。上端は切形で三角形、下端のへそにむかって細くなる。長さ2.1mm、幅1.3mm。

r．ナス　*Solanum melongera* L.　種子　ナス科

黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端にくぼんだヘソがある。表面には複雑な網目模様がある。長さ2.5～3.0mm、幅2.8～2.9　。

s．ナス科　Solanaceae　種子

黄褐色で円形を呈す。表面にはやや大きい網目模様がある。長さ1.5～1.8mm、幅1.2～1.4mm。

t．ゴマ　*Sesamum indicum* L.　種子　ゴマ科

黒褐色で楕円形を呈し、上端がやや尖る。表面には微細な網目模様がある。長さ2.5～2.7mm、幅1.2～1.6mm。

u．ウリ類　*Cucumis melo* L.　種子　ウリ科

淡褐色～黄褐色である。楕円形を呈し、一端には「ハ」字状のへこみがある。

16ＳＫ９　２層の種子の長さについて計測を行い、表に示した。最大粒長は8.3mm、最小粒長は5.1mm、平均粒長は6.5mm。藤下（1992）の現生種子を基本とする分類では、長さ6.0　以下の小粒種子（雑草メロン型）、長さ6.1mm～8.0mmの中粒種子（マクワウリ・シロウリ型）、長さ8.1mm以上の大粒種子（モモルディカ型）に分類している。本試料を比定すると、雑草メロン型が５、マクワウリ・シロウリ型が17、モモルディカメロン型が１である。

２）種実遺体群の特徴

各試料とも食用となる植物の種実が多く、キイチゴ属、マタタビ属、ナス、ウリ類が主に検出された。キイチゴ属は試料１、５で多く、マタタビ属は試料１、２でやや多く、ナスは試料１、３で多い。クワ属、ブ

ドウ属、シソ属は試料１、２から検出され、グミ属は試料１、ゴマは試料２、３、４から検出される。

6　考察

（１）糞便およびトイレ遺構の可能性

寄生虫卵分析では、各試料から寄生虫卵が検出された。このうち、試料１、２、４では試料（堆積物）１cc中1000個を越える量である。花粉群集は、各試料とも草本花粉の占める割合が極めて高く、イネ属型を含むイネ科、アブラナ科、アカザ科－ヒユ科の食用または薬用とみられる植物の出現率が高い。また、明らかな栽培植物であるソバ属も出現するという特徴を示す。種実遺体群では、試料によって出現数の差異があるものの、キイチゴ属、マタタビ属、ナス、ウリ類などの食用となる果実の種実が中心に出現する。

以上のように、試料１（16ＳＫ６，２層）、試料２（16ＳＫ９，２層）、試料４（16ＳＫ21，２層）は、寄生虫卵が高密度に検出され、花粉群集と種実遺体群は食用と考えられる分類群を中心に構成されていることから、これらの堆積物は糞便を主に構成されているとみなされる。試料３（16ＳＫ18，２層）、試料５（16ＳＫ38，２層）では、寄生虫卵密度は低いが、花粉群集と種実遺体群は食用と考えられる分類群を中心に構成されているため、糞便の堆積を多く含むとみなされる。したがって、16ＳＫ６、16ＳＫ９、16ＳＫ18、16ＳＫ21、16ＳＫ38がトイレ遺構である蓋然性は高いと判断される。

（２）食生活と薬用植物について

寄生虫卵の構成では、各試料とも定住農耕生活によって蔓延する回虫卵、鞭虫卵の占める割合が高いことから、特に農作物が頻繁に食べられていたとみなされる。柳之御所遺跡などで検出される日本海裂頭条虫卵は検出されず、本遺跡ではサケ・マス類の摂食は一般的ではなかったとみなされる。泉屋遺跡15次調査においても日本海裂頭条虫卵が検出される遺構とそうでない遺構があることから、サケ・マス類の摂食にはなんらかの制限があったことが考えられる。

花粉では、イネ属型およびイネ科、アブラナ科、アカザ科－ヒユ科の花粉が多い。イネ科は穎の中に花粉が残存し果実に付着するため、これらは摂食されたコメや雑穀類からもたらされたものと考えられ、イネ科の穀類の摂食が示唆される。アブラナ科は、花芽を含めた野菜として摂食されたことが考えられる。アカザ科－ヒユ科も食用となるアカザやヒユの摂食が考えられる。ソバ属も果実に付着していた花粉と考えられ、ソバの摂食が推定される。センブリ属－ツルリンドウ属－リンドウ属は、薬用としてのセンブリ *Swertia japonica* Makino が考えられる。ヨモギ属も食用の可能性があるが、一般的に出現するため摂食されたものかはわからない。

種実ではキイチゴ属、マタタビ属、クワ属、ブドウ属、グミ属の樹木とナス、ウリ類、ゴマの農作物が検出され、これらが摂食されていたと考えられる。特にキイチゴ属、マタタビ属、ナスが多く認められる。

（３）試料における遺体群の差異について

試料３（16ＳＫ18，２層）、試料５（16ＳＫ38，２層）では寄生虫卵密度は低いが、花粉群集および種実遺体群集では食用となる分類群が主に構成される。これは堆積物に含まれる糞便の量の差あるいは宿主への寄生虫の寄生数の個体差を反映している可能性が考えられる。また、これらの試料でクワ科－イラクサ科やヨモギ属の花粉が他より多いため、周囲から供給された堆積物が多かったことも考えられる。

試料2（16ＳＫ9, 2層）、試料4（16ＳＫ21, 2層）ではアブラナ科の花粉が高率で、クワ科ーイラクサ科とヨモギ属は低率になる。種実では試料1（16ＳＫ6, 2層）、試料3（16ＳＫ18, 2層）、試料5（16ＳＫ38, 2層）でナスが多い。他に傾向を示さない分類群もあるが、アブラナ科の花粉は春を示唆し、クワ科ーイラクサ科、ヨモギ属の花粉とナスの種子は秋を示唆する。このことから、食物も季節性が反映されている可能性があり、試料2（16ＳＫ９, 2層）、4（16ＳＫ21, 2層）は春、試料1（16ＳＫ６, 2層）、3（16ＳＫ18, 2層）、5（16ＳＫ38, 2層）が秋を反映している可能性が示唆される。

参考文献

Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. Jounal of Archaeological Science, 19, p. 231-245.

金原正明・金原正子（1992）花粉分析および寄生虫．藤原京跡の便所遺構ー藤原京７条１坊ー，奈良国立文化財研究所，p. 14-15.

金子清俊・谷口博一（1987）線形動物・扁形動物．医動物学，新版臨床検査講座，8，医歯薬出版，p. 9-55.

中村純（1973）花粉分析．古今書院，p. 82-110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p. 248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集，60p.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，p. 187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p. 21-30.

笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.

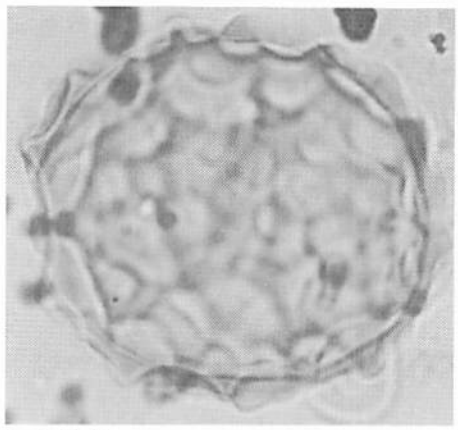
藤下典之 (1992) 出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡来、伝搬、利用について．考古学ジャーナル№354，ニュー・サイエンス社，p. 7-13.

松谷暁子（1983）エゴマ・シソ．縄文文化の研究第２巻，雄山閣出版株式会社，p. 50-62.

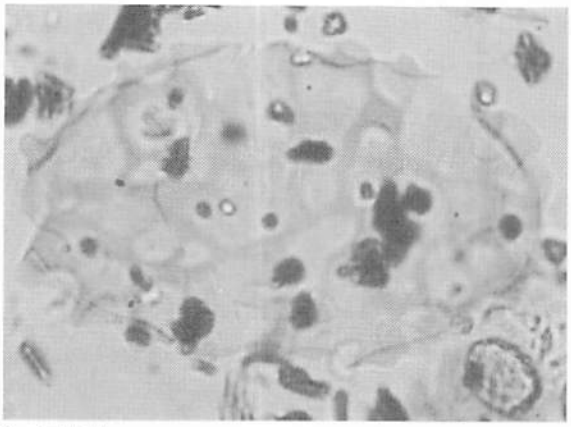
金原正明・金原正子ほか（1995）柳之御所跡の寄生虫卵・花粉・種実の同定分析．柳之御所跡ー関遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・36・41次発掘調査，岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集，p. 500-514.

古環境研究所分析報告（1996）泉屋遺跡15次調査におけるトイレ遺構分析．

泉屋遺跡16次調査の寄生虫卵・花粉・胞子遺体

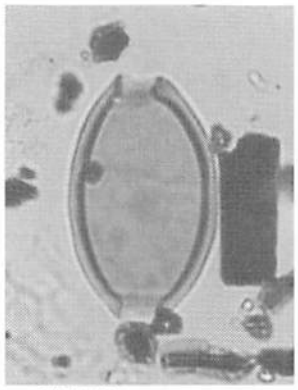


1　回虫卵



2　回虫卵

3　肝吸虫卵



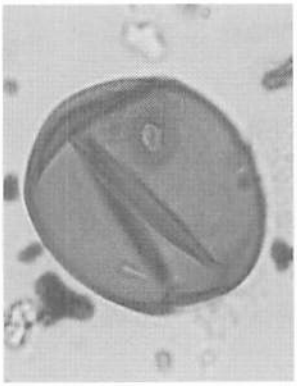
4　鞭虫卵

5　鞭虫卵

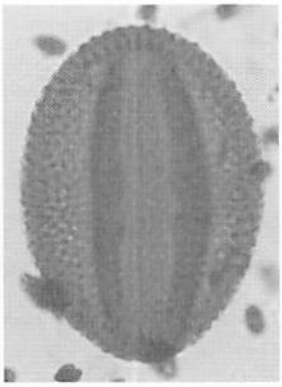
6　スギ

7　コナラ属コナラ亜属

8　グミ属



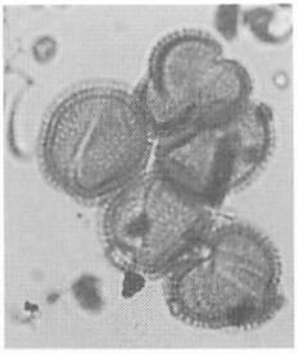
9　イネ属型



10　ソバ属

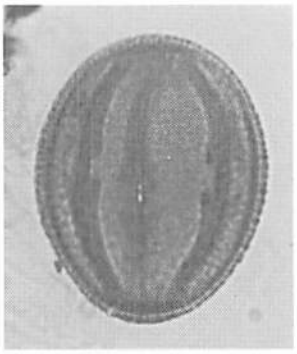
11　アカザ科―ヒユ科

12　アブラナ科



13　アブラナ科の集塊

14　ソラマメ属



15　センブリ属ツルリンドウ属
―リンドウ属

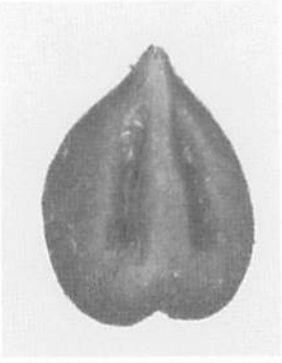
45μm

泉屋遺跡16次出土種実

1　クワ属種子　0.5mm

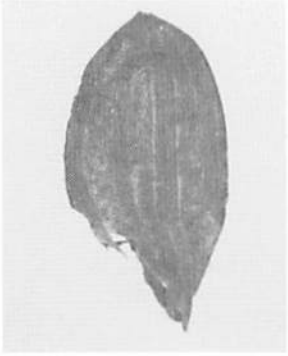
2　キイチゴ属種子　0.5mm

3a　ブドウ属種子



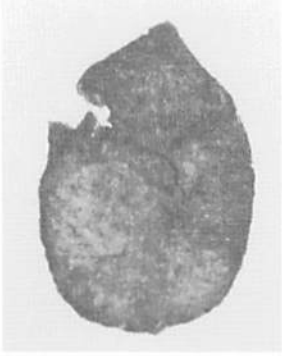
3b　同左　1mm

4　マタタビ属種子　0.5mm

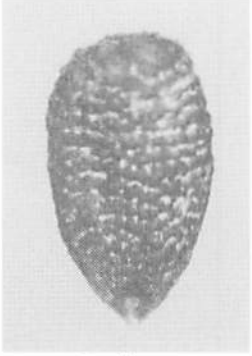


5　グミ属種子　1mm

6a　ガマズミ属核

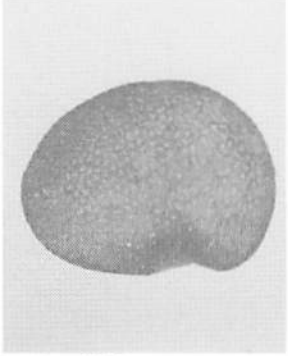


6b　同左　1mm

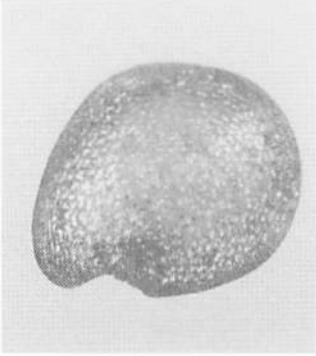


7　ニワトコ核　0.5mm

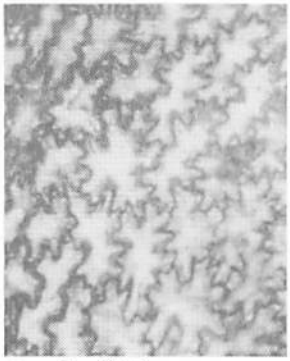
8　シソ属果実　0.5mm



9　ナス種子　0.5mm



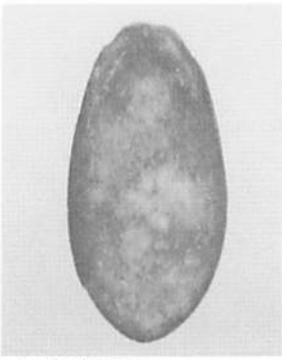
10　ナス種子　0.5mm



11　ナス種子　0.1mm

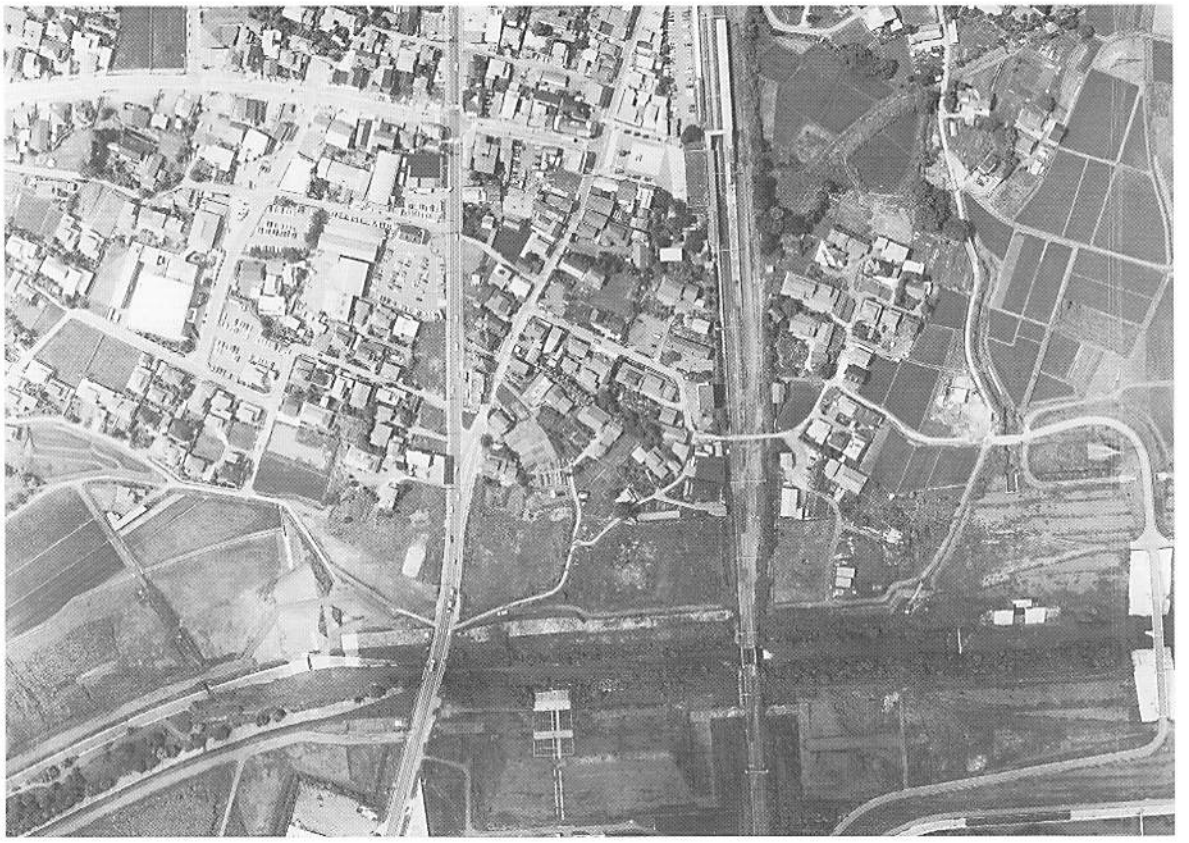
12　ゴマ種子　0.5mm

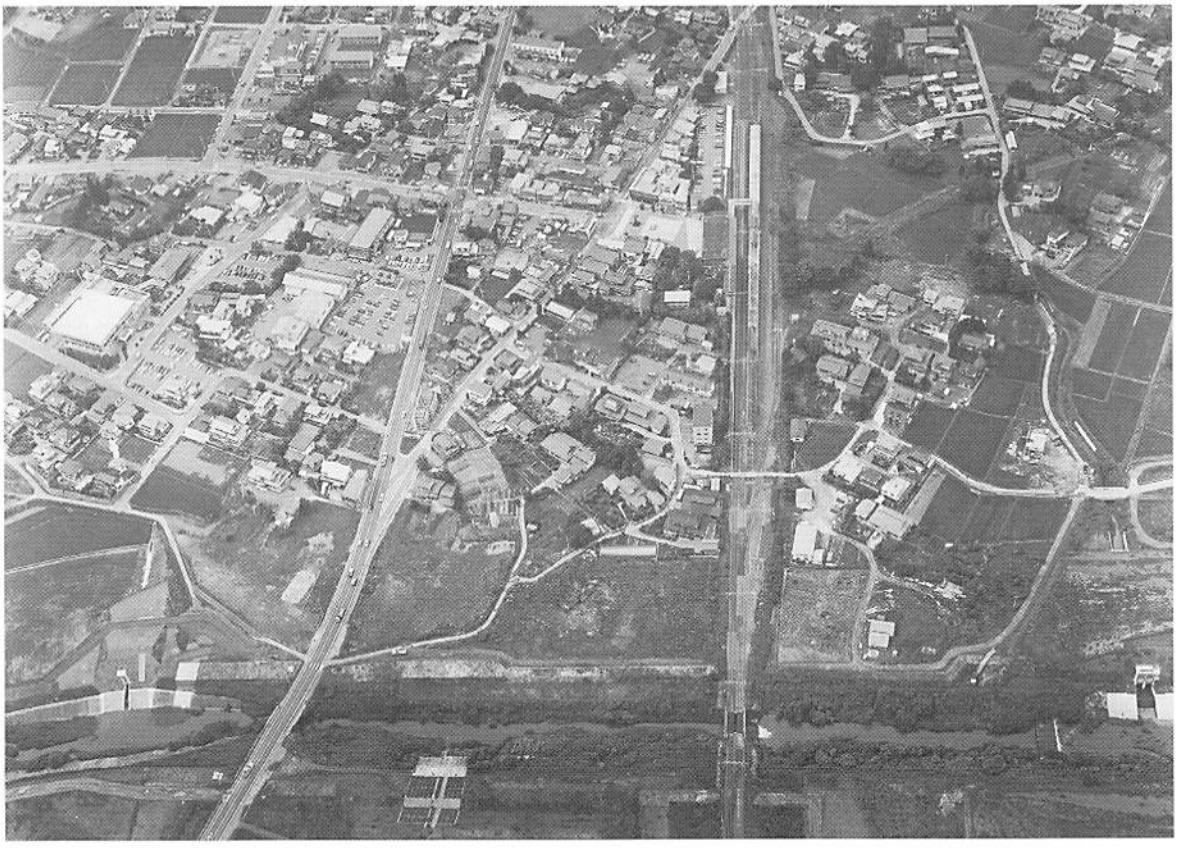
13　ウリ類種子　1mm



14　ウリ類種子　1mm

写 真 図 版

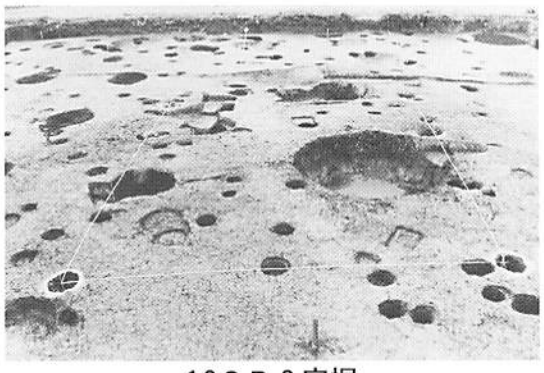




写真図版１　調査区遠景

写真図版２　調査区航空写真

16ＳＢ３完掘

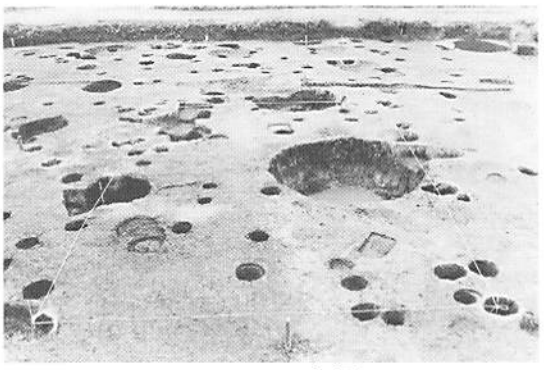


16ＳＢ３完掘

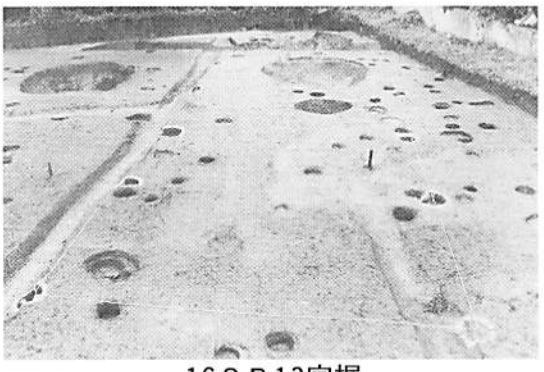
16ＳＢ７完掘

16ＳＢ16完掘

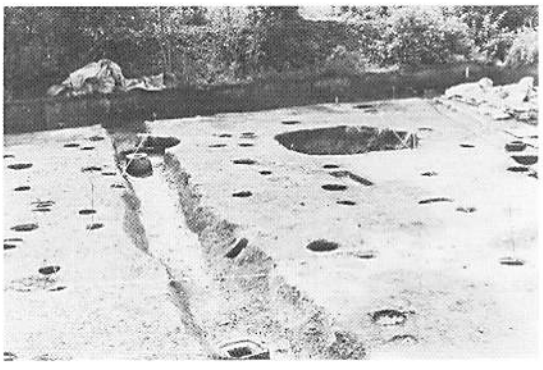
16ＳＢ６完掘



16ＳＢ８完掘



16ＳＢ13完掘

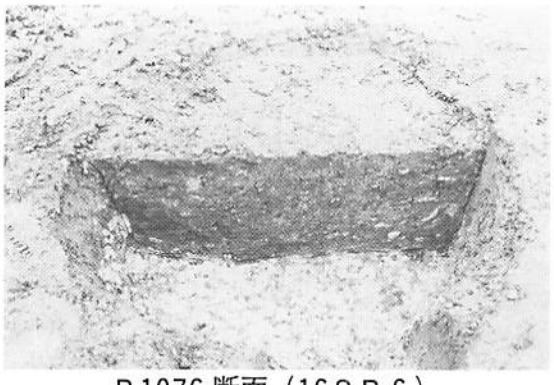


16ＳＢ17完掘

写真図版３　掘立柱建物①

P 1075 断面（16ＳＢ６）

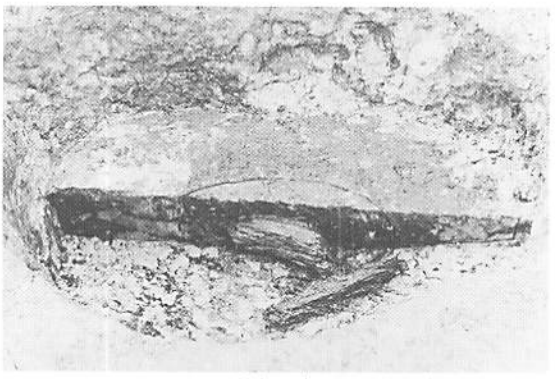
P 1075 完掘（16ＳＢ６）



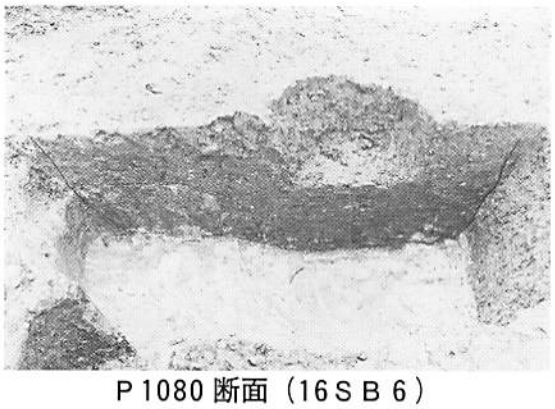
P 1076 断面（16ＳＢ６）

P 1076 完掘（16ＳＢ６）

P 1077 断面（16ＳＢ６）



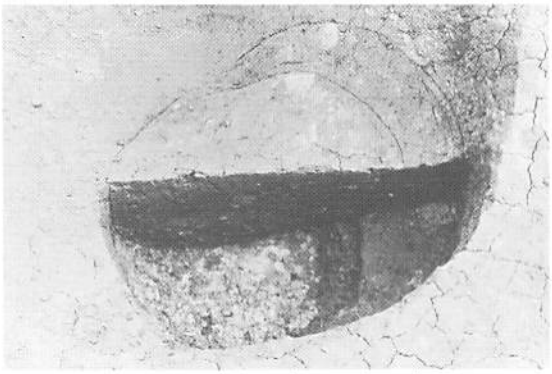
P 1077 の礎盤（16ＳＢ６）



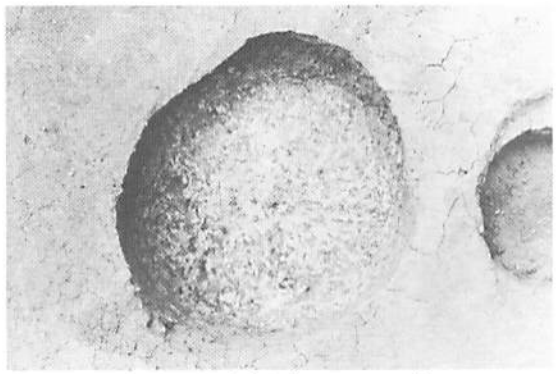
P 1080 断面（16ＳＢ６）

P 1080 断面（16ＳＢ６）

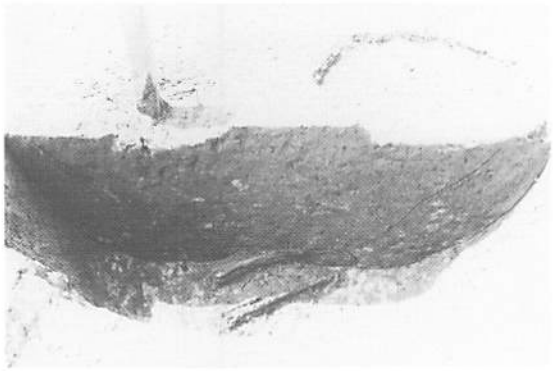
写真図版４　掘立柱建物②



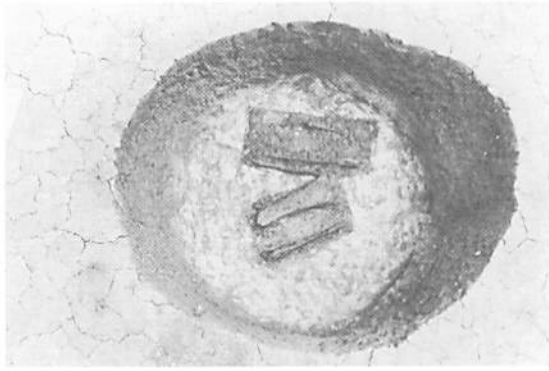
P 1085 断面（16ＳＢ６）



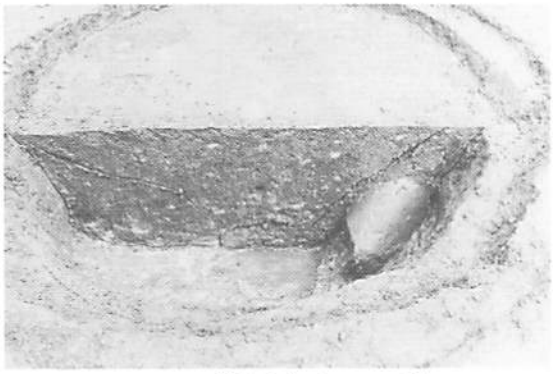
P 1085 完掘（16ＳＢ６）



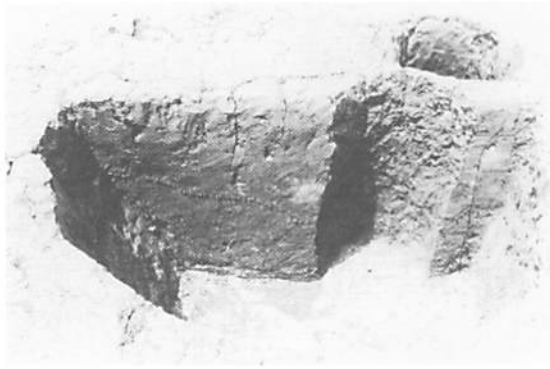
P 1088 断面（16ＳＢ６）



P 1088 完掘（16ＳＢ６）

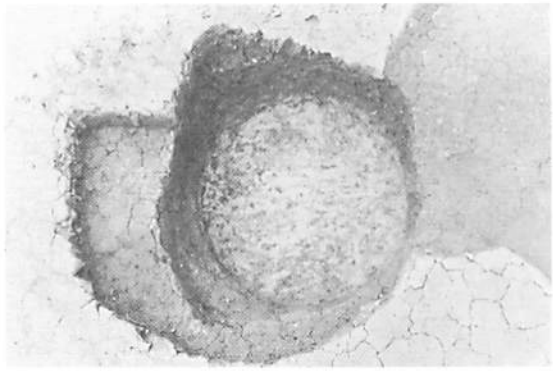


P 1087 断面（16ＳＢ６）



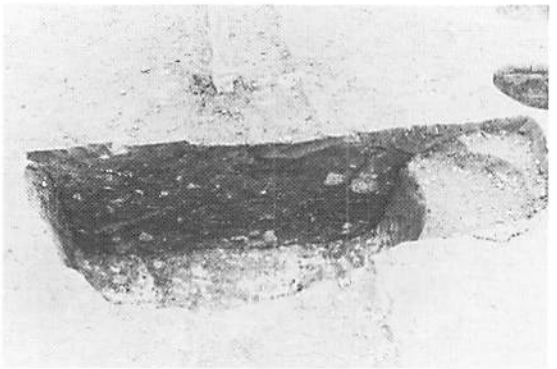
P 1089 断面（16ＳＢ６）

P 1090 断面（16ＳＢ６）

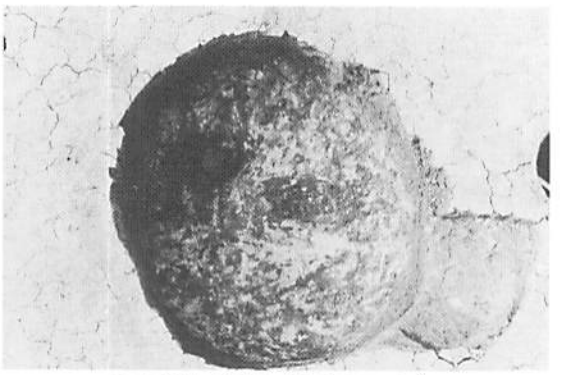


16ＳＢ1090 完掘（16ＳＢ６）

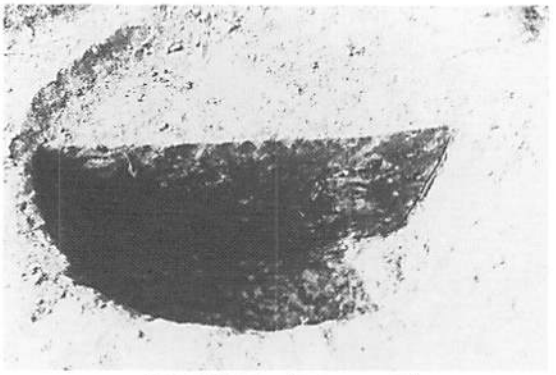
写真図版５　掘立柱建物③



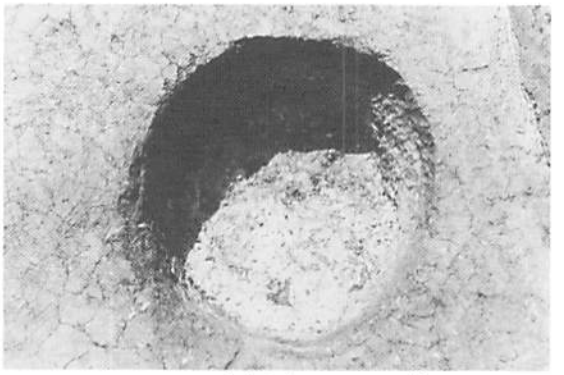
P 1091 断面（16ＳＢ６）



P 1091 完掘（16ＳＢ６）



P 1095 断面（16ＳＢ６）



P 1095 完掘（16ＳＢ６）

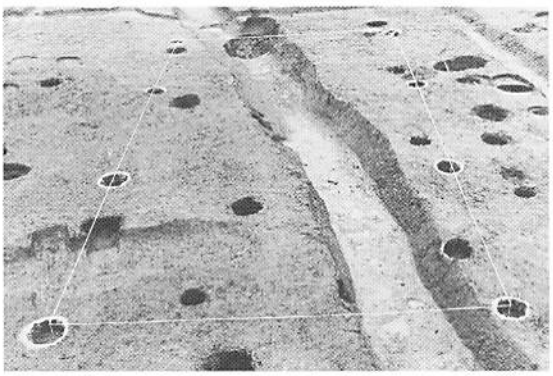
P 1096 断面（16ＳＢ６）

P 1096 完掘（16ＳＢ６）

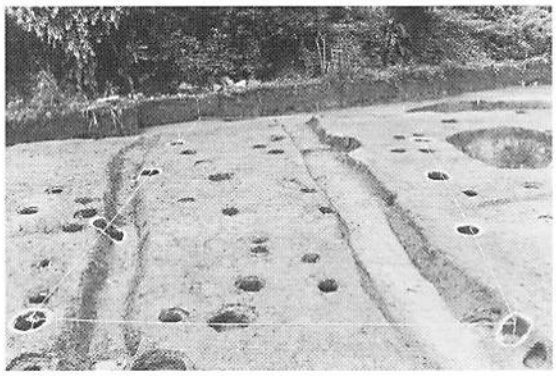
P 1103 断面（16ＳＢ６）

P 1112 断面（16ＳＢ６）

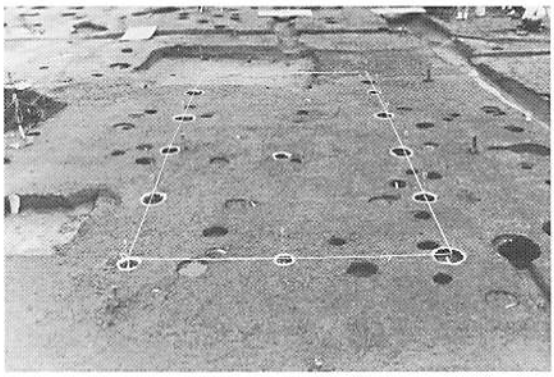
写真図版６　掘立柱建物④



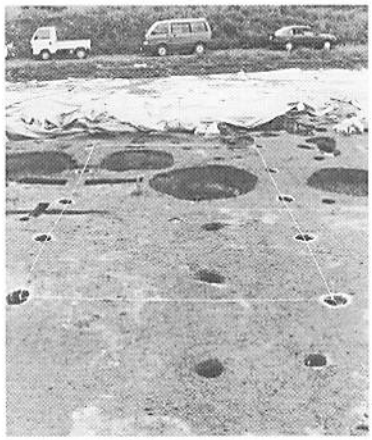
16ＳＢ18 完掘



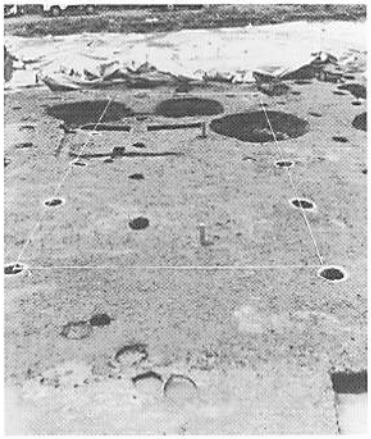
16ＳＢ19 完掘



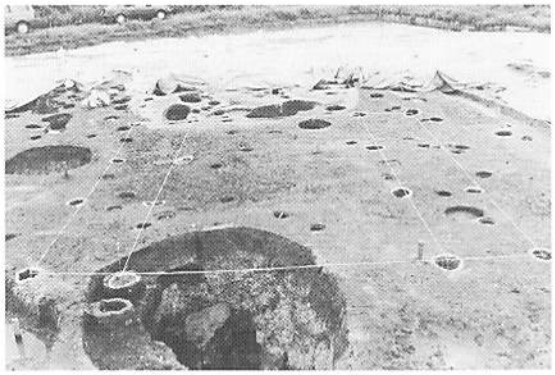
16ＳＢ21 完掘



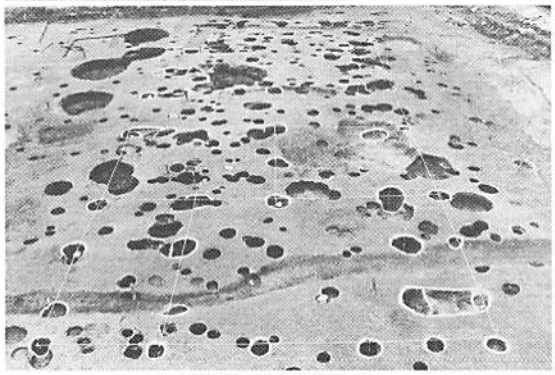
16ＳＢ22 完掘



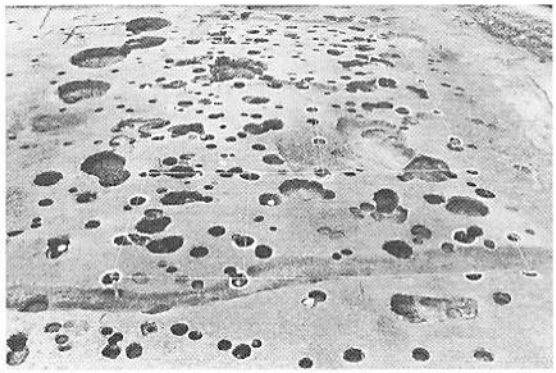
16ＳＢ18 完掘



16ＳＢ24 完掘

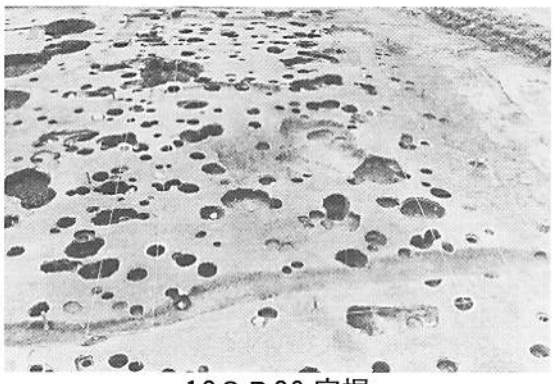


16ＳＢ28 完掘



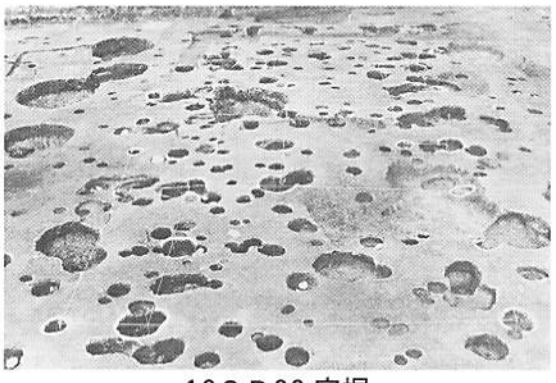
16ＳＢ29 完掘

写真図版７　掘立柱建物⑤

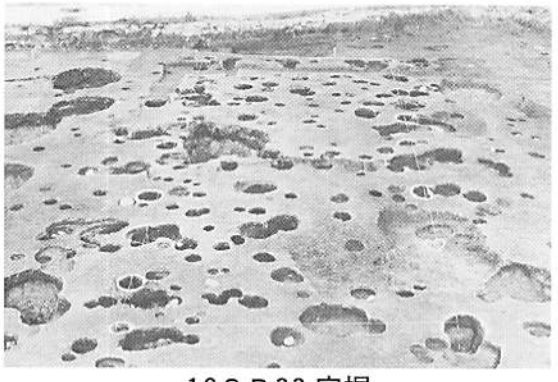


16ＳＢ30 完掘

16ＳＢ31 完掘



16ＳＢ32 完掘



16ＳＢ33 完掘

16ＳＢ34 完掘

16ＳＢ35 完掘

16ＳＢ36 完掘

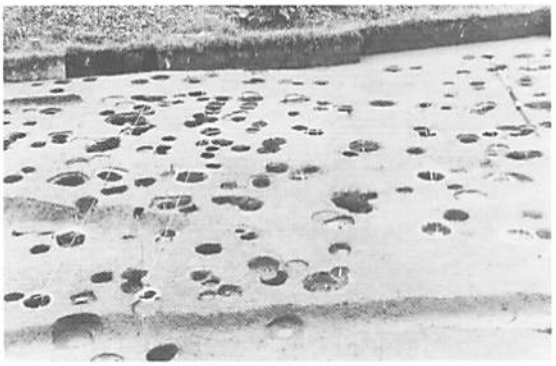
16ＳＢ30 完掘

写真図版８　掘立柱建物⑥

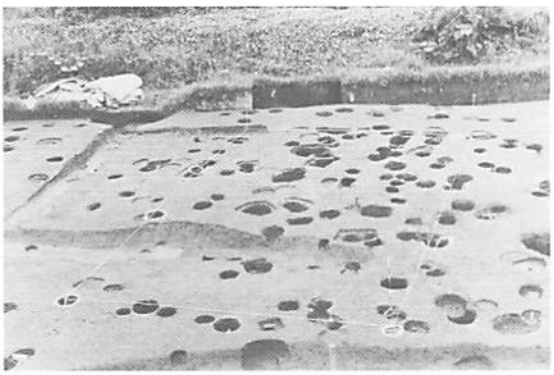
16ＳＢ39 完掘

16ＳＢ42 完掘

16ＳＢ43 完掘

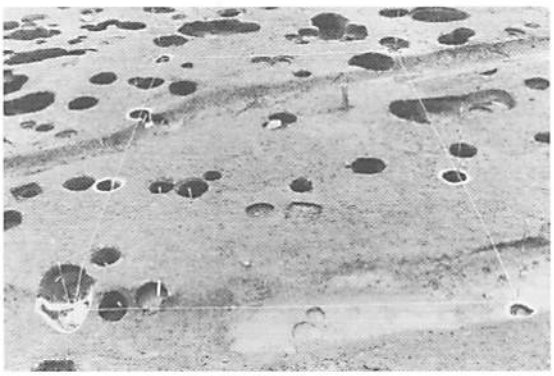


16ＳＢ46 完掘



16ＳＢ47 完掘

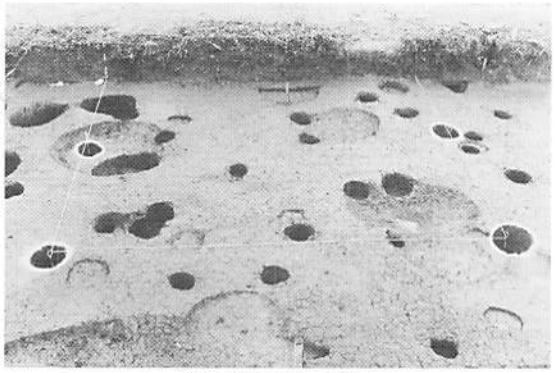
16ＳＢ53 完掘



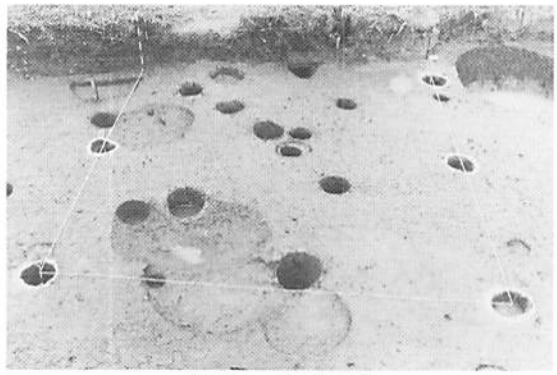
16ＳＢ54 完掘

16ＳＢ63 完掘

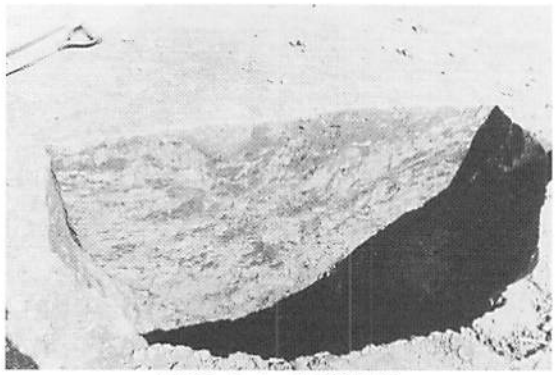
写真図版９　掘立柱建物⑦



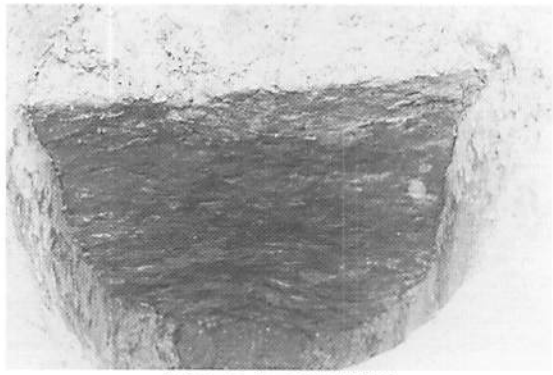
16ＳＢ64 完掘



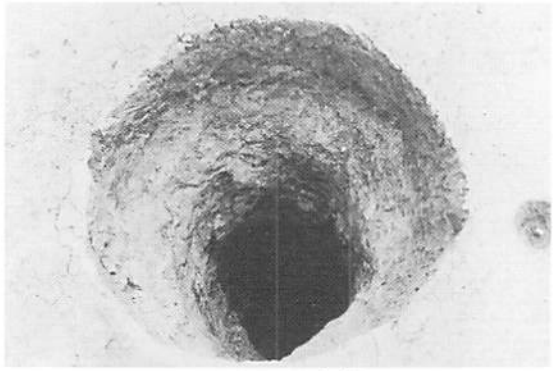
16ＳＢ65 完掘



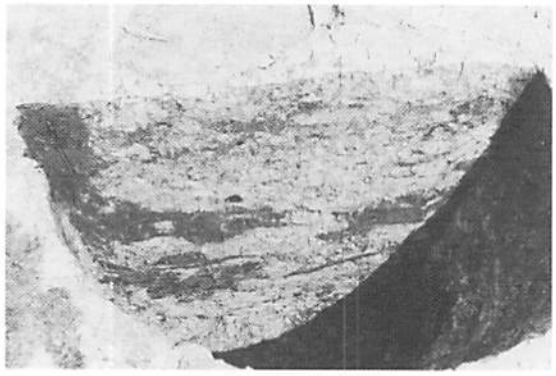
16ＳＥ１ 上部断面



16ＳＥ１ 下部断面

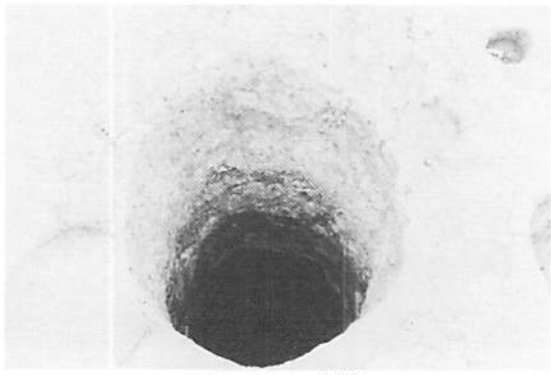


16ＳＥ１ 完掘



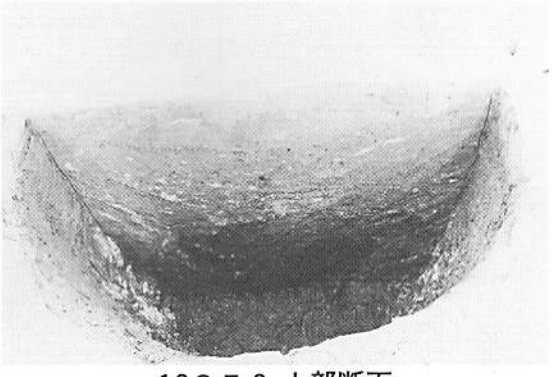
16ＳＥ２ 上部断面

16ＳＥ２ 下部断面

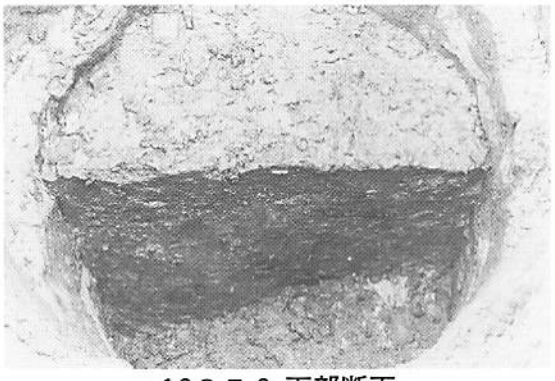


16ＳＥ２ 完掘

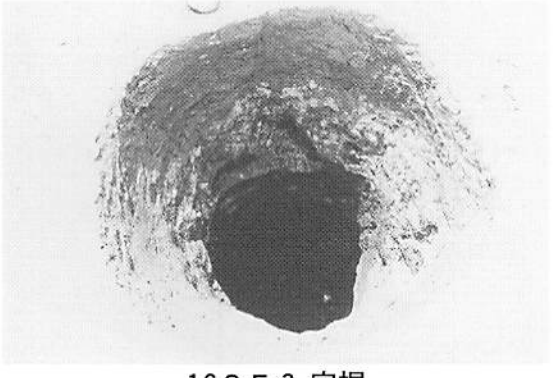
写真図版10　掘立柱建物⑧・井戸①



16ＳＥ３ 上部断面



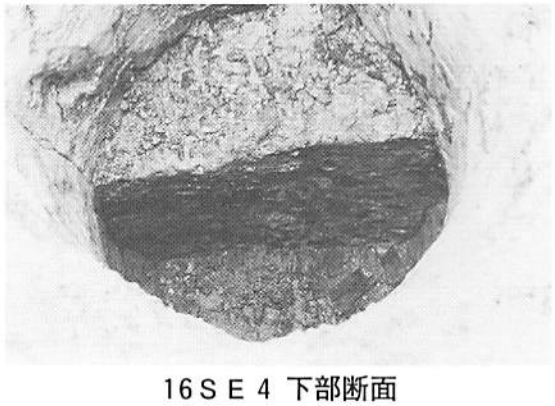
16ＳＥ２ 下部断面



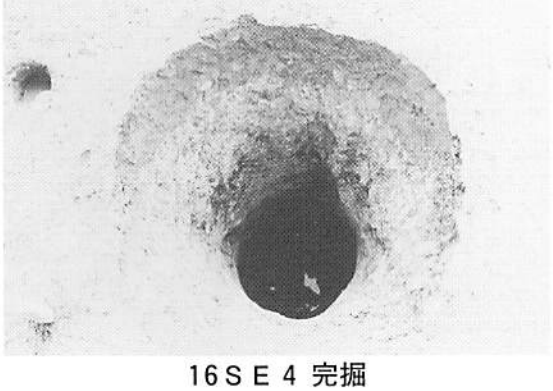
16ＳＥ３ 完掘

16ＳＥ４ 上部断面

16ＳＥ４ 中部断面



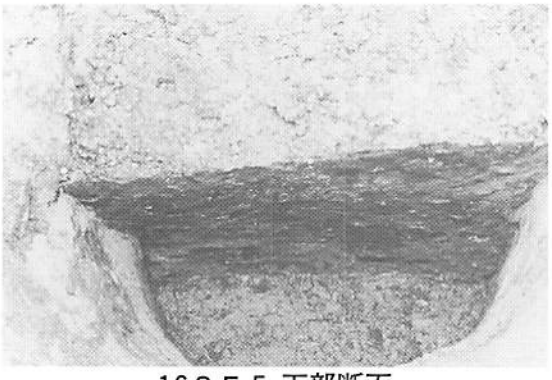
16ＳＥ４ 下部断面

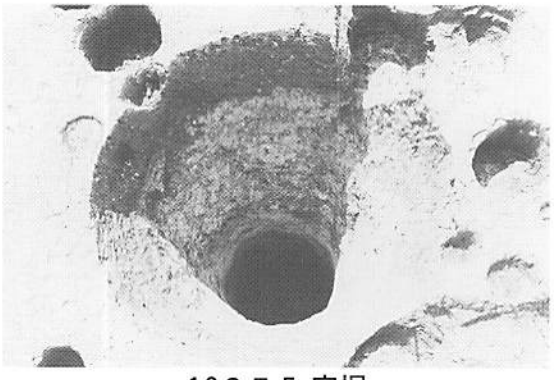


16ＳＥ４ 完掘

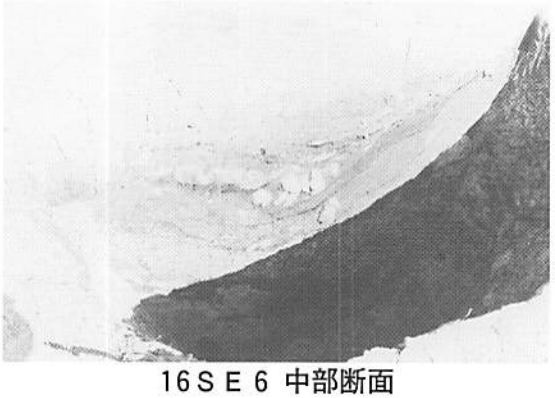
16ＳＥ５ 上部断面

写真図版11　井戸②

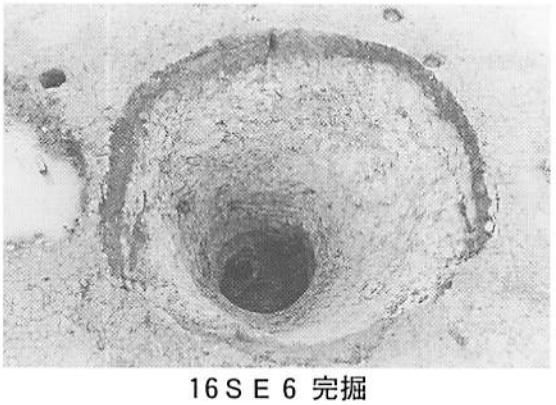

16ＳＥ５ 下部断面


16ＳＥ５ 完掘

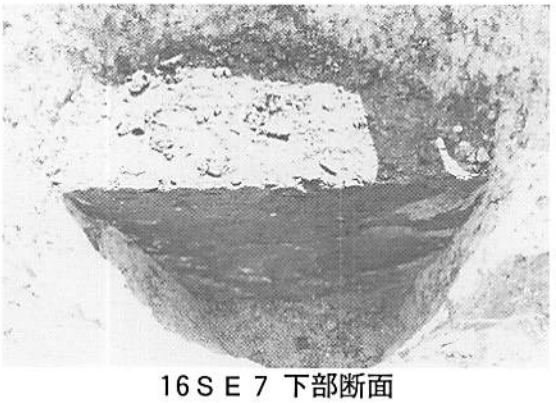
16ＳＥ６ 上部断面


16ＳＥ６ 中部断面

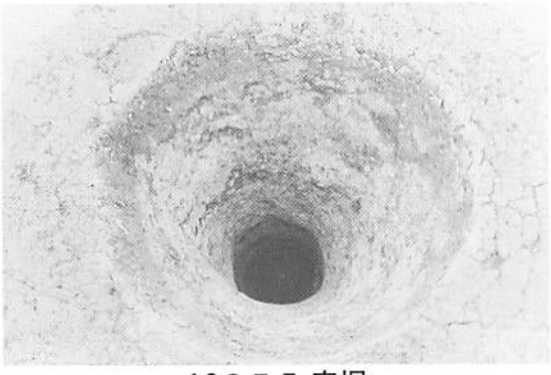
16ＳＥ６ 下部断面


16ＳＥ６ 完掘

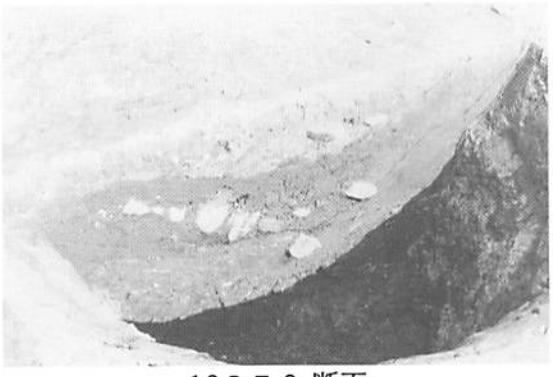
16ＳＥ７ 上部断面


16ＳＥ７ 下部断面

写真図版12　井戸③



16ＳＥ７ 完掘



16ＳＥ８ 断面

16ＳＥ８ 完掘

16ＳＥ９ 上部断面

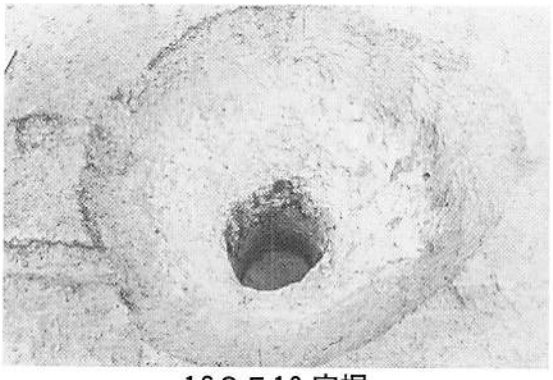
16ＳＥ９ 下部断面

16ＳＥ９ 完掘

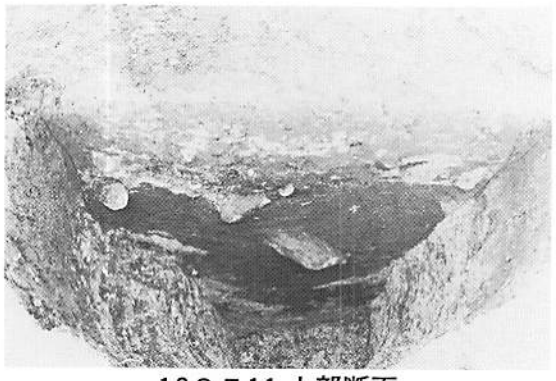
16ＳＥ10 上部断面

16ＳＥ10 下部断面

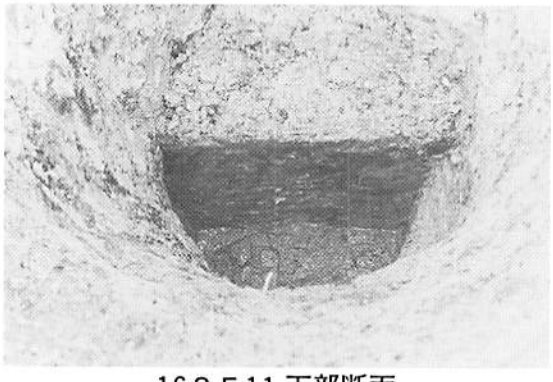
写真図版13　井戸④



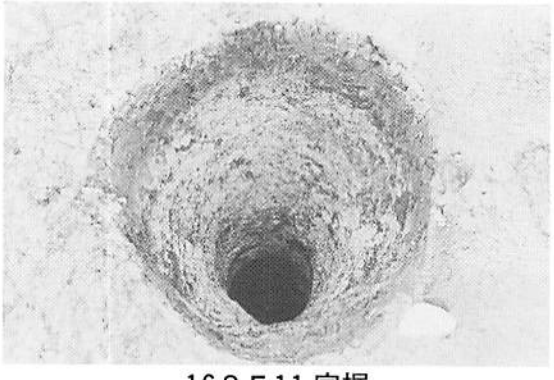
16ＳＥ10 完掘



16ＳＥ11 上部断面

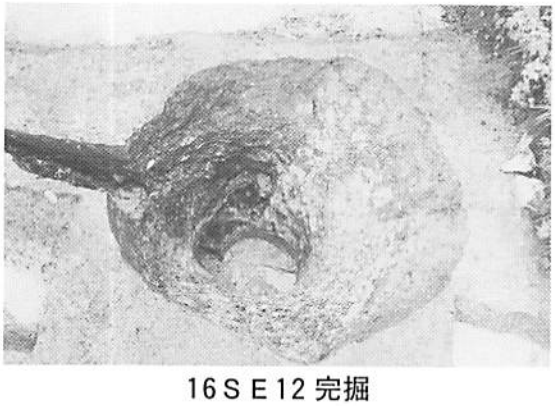


16ＳＥ11 下部断面



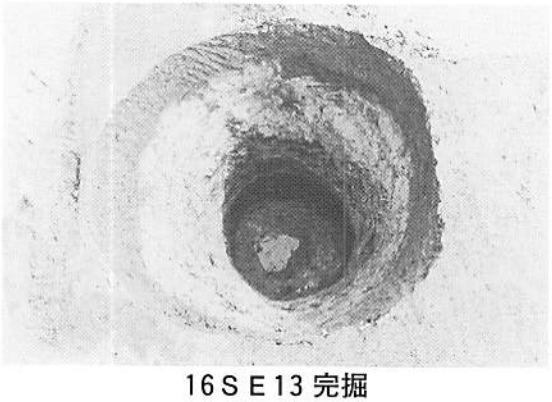
16ＳＥ11 完掘

16ＳＥ12 断面



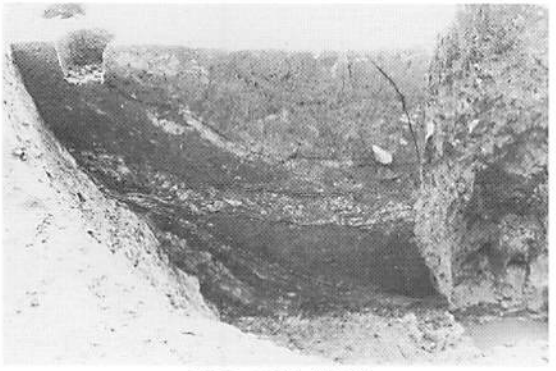
16ＳＥ12 完掘

16ＳＥ13 断面



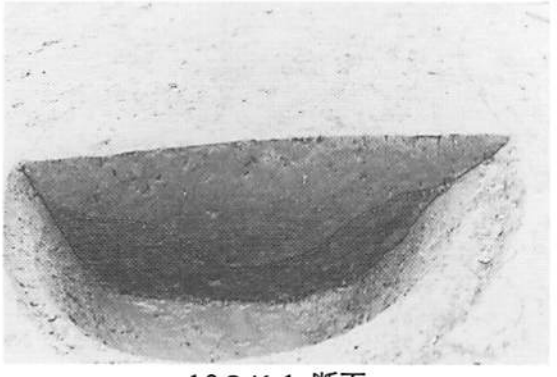
16ＳＥ13 完掘

写真図版14　井戸⑤

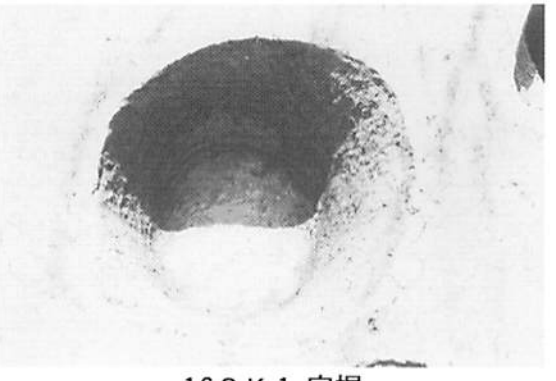


16ＳＥ14 断面

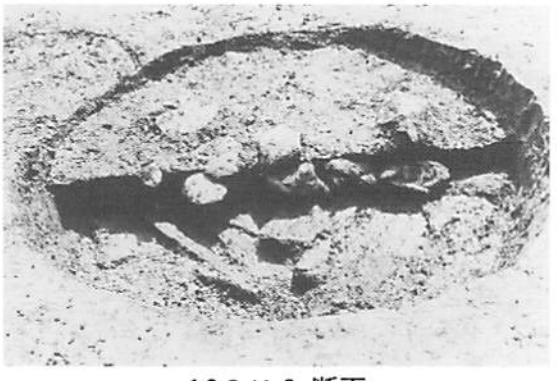
16ＳＥ14 完掘



16ＳＫ１ 断面

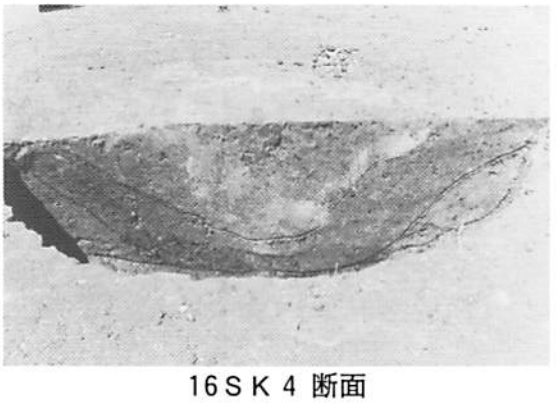


16ＳＫ１ 完掘

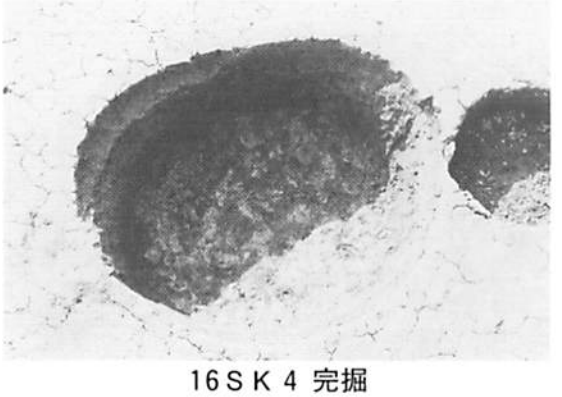


16ＳＫ３ 断面

16ＳＫ３ 完掘

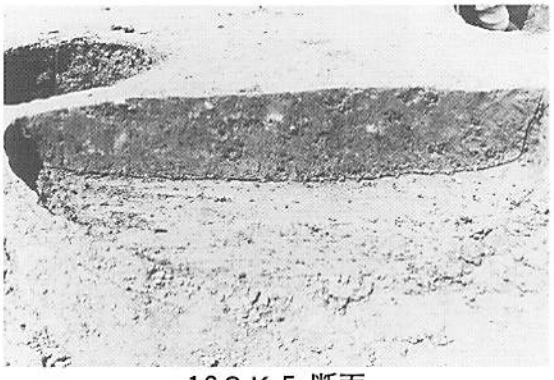


16ＳＫ４ 断面

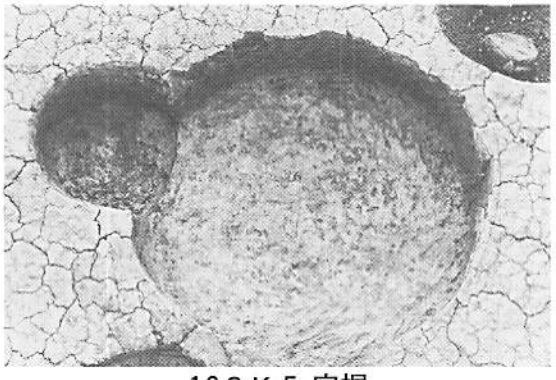


16ＳＫ４ 完掘

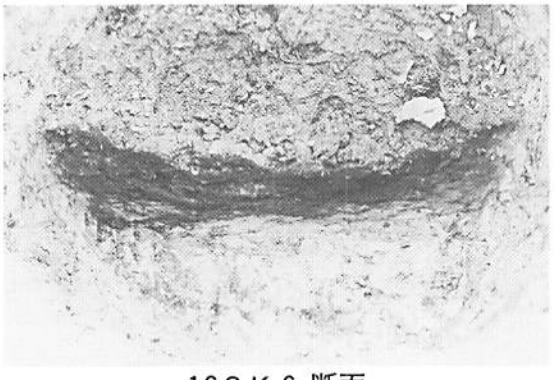
写真図版15　井戸⑥・土坑①



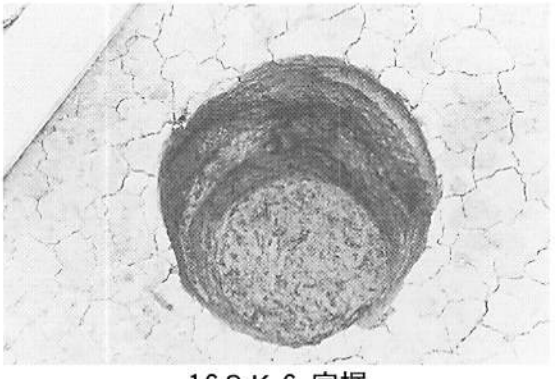
16ＳＫ５ 断面



16ＳＫ５ 完掘

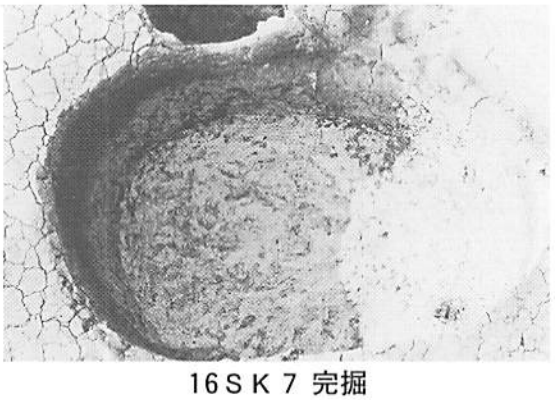


16ＳＫ６ 断面



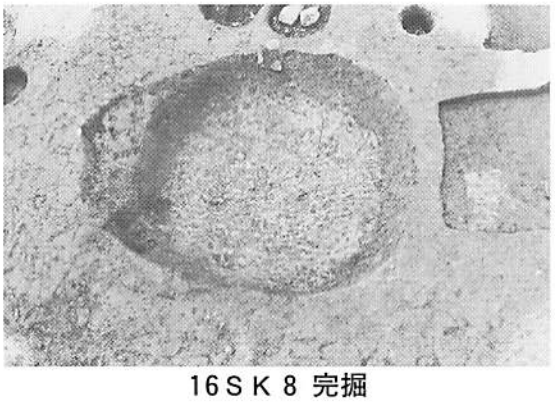
16ＳＫ６ 完掘

16ＳＫ７ 断面



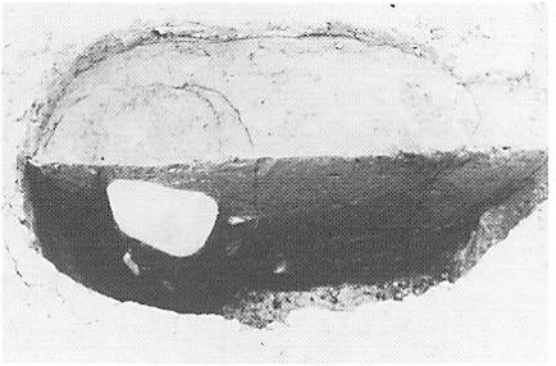
16ＳＫ７ 完掘

16ＳＫ８ 断面

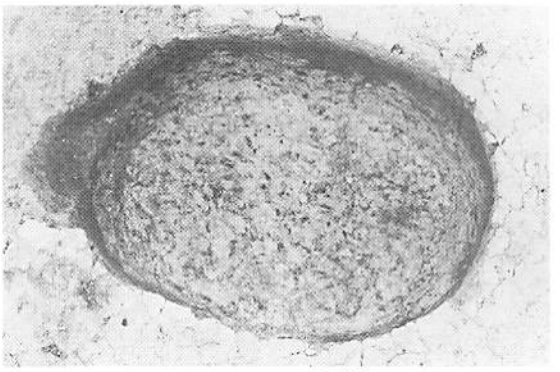


16ＳＫ８ 完掘

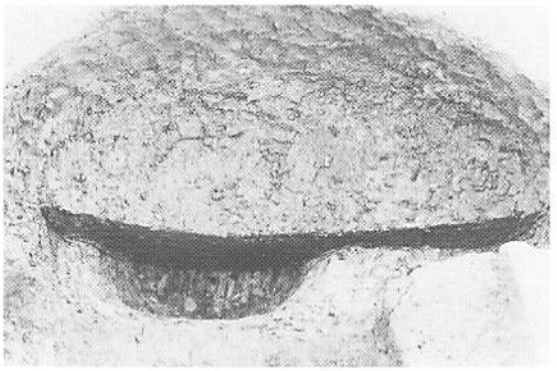
写真図版16　土坑②



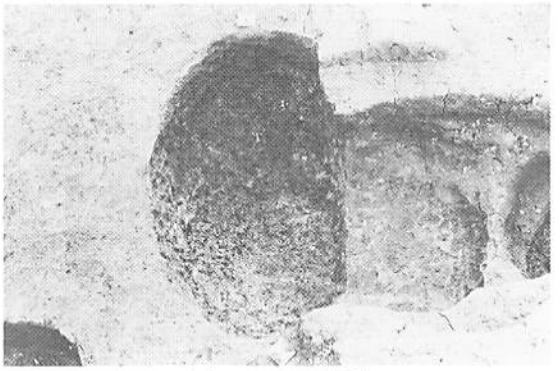
16ＳＫ９ 断面



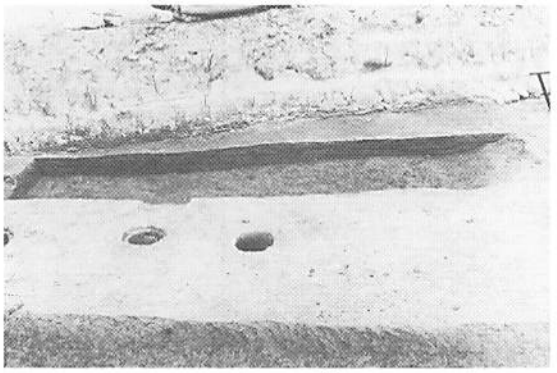
16ＳＫ９ 完掘



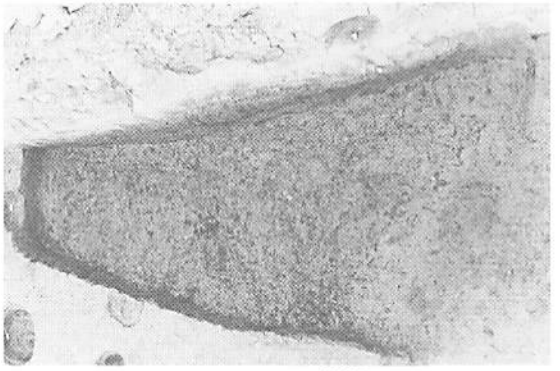
16ＳＫ10 断面



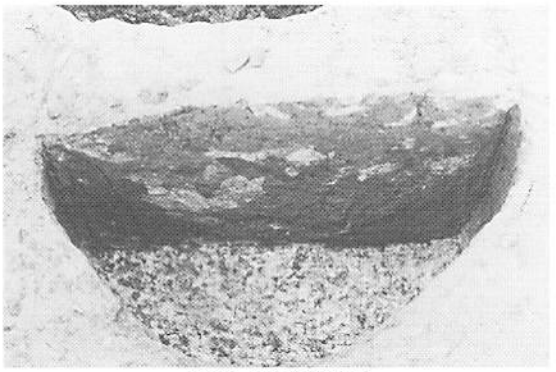
16ＳＫ10 完掘



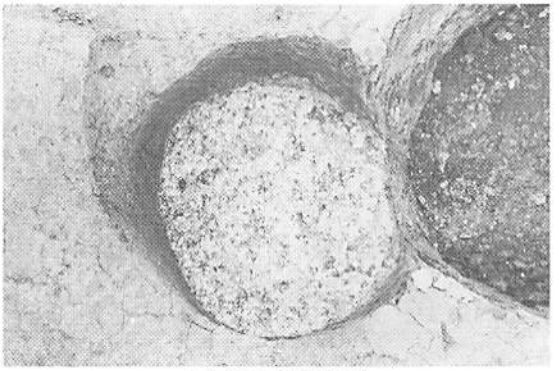
16ＳＫ11 断面



16ＳＫ11 完掘

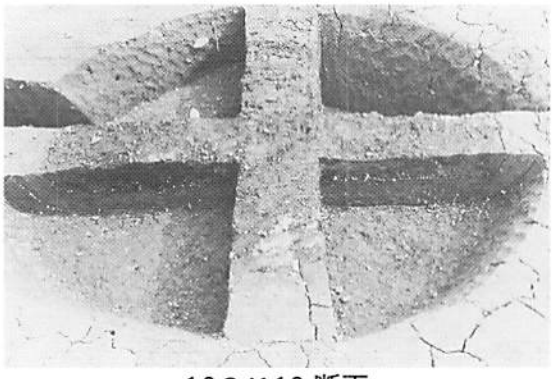


16ＳＫ12 断面

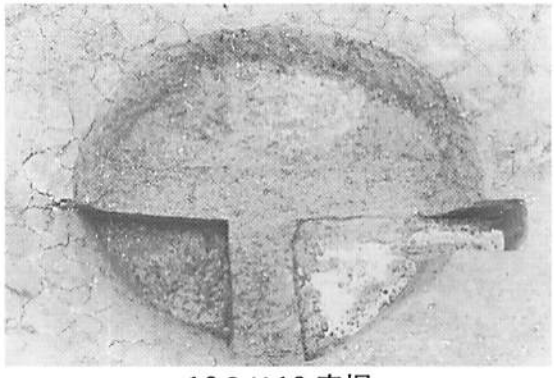


16ＳＫ12 完掘

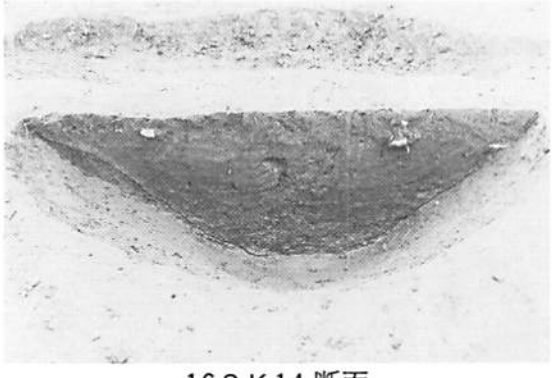
写真図版17　土坑③



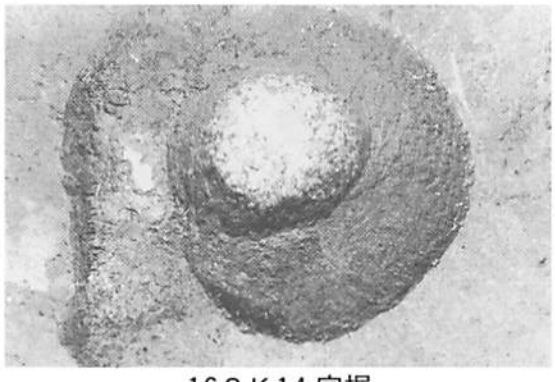
16ＳＫ13 断面



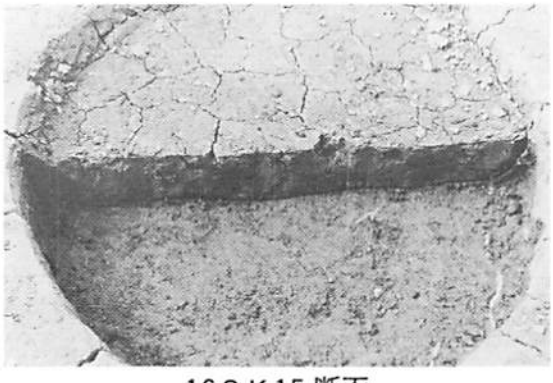
16ＳＫ13 完掘



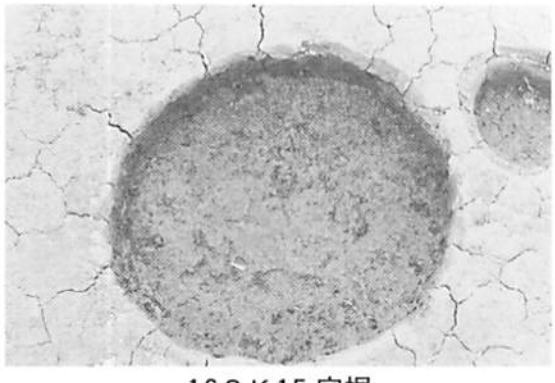
16ＳＫ14 断面



16ＳＫ14 完掘

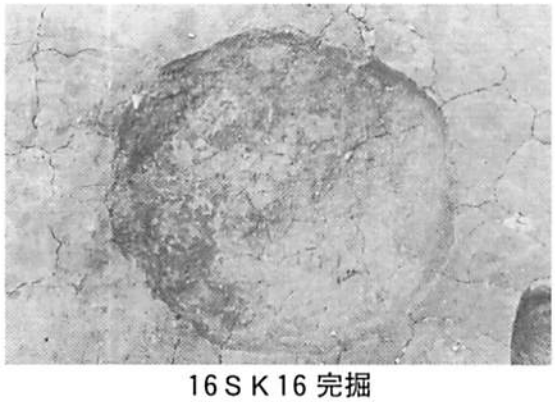


16ＳＫ15 断面



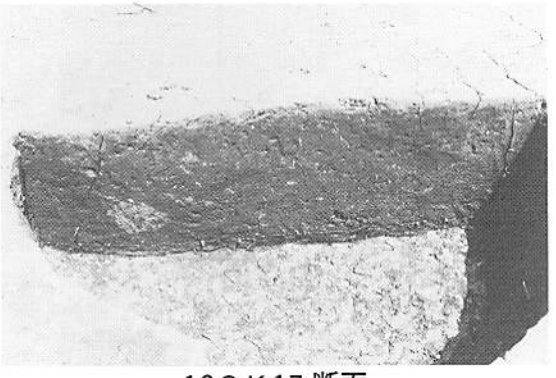
16ＳＫ15 完掘

16ＳＫ16 断面

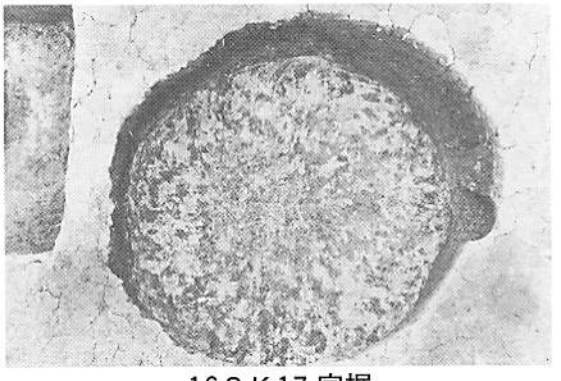


16ＳＫ16 完掘

写真図版18　土坑④



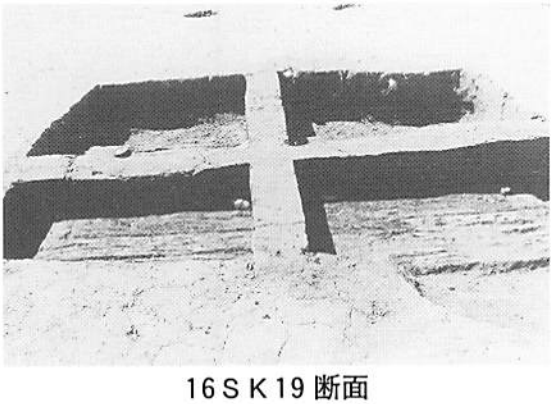
16ＳＫ17 断面



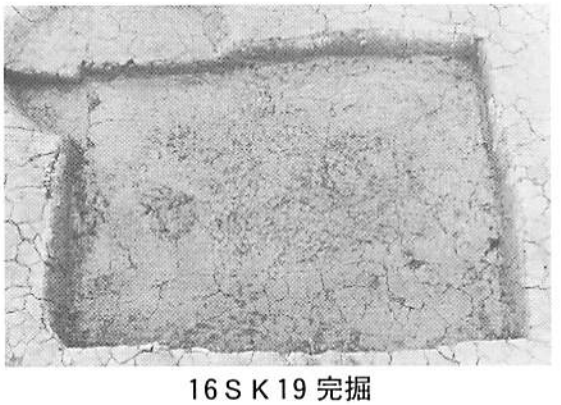
16ＳＫ17 完掘

16ＳＫ18 断面

16ＳＫ18 完掘



16ＳＫ19 断面

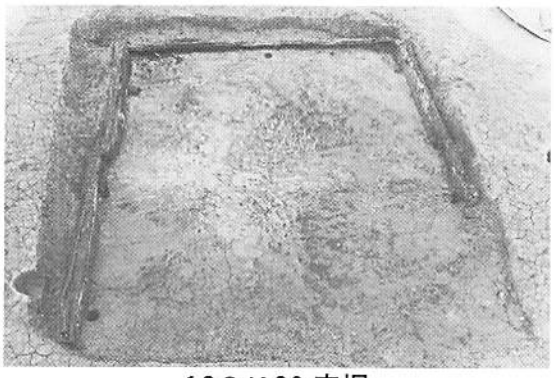


16ＳＫ19 完掘

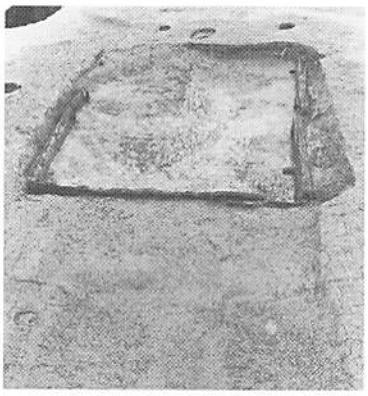
16ＳＫ20 断面

16ＳＫ20 断面

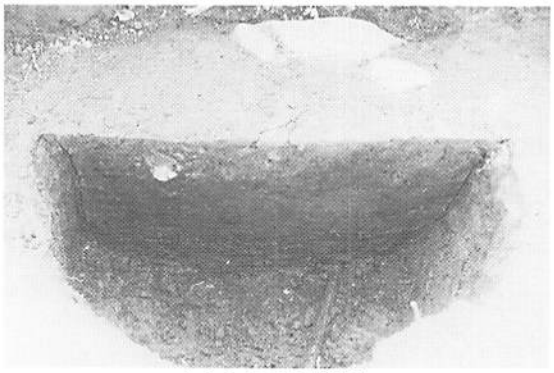
写真図版19　土坑⑤



16ＳＫ20 完掘

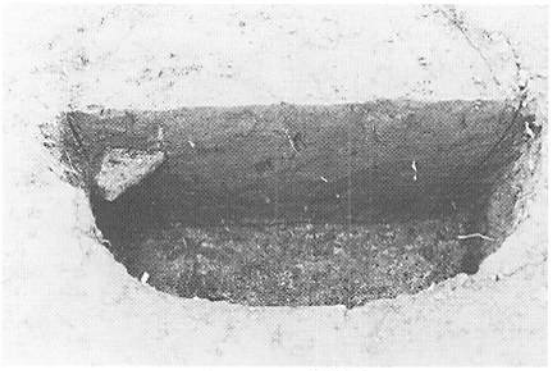


16ＳＫ20 完掘

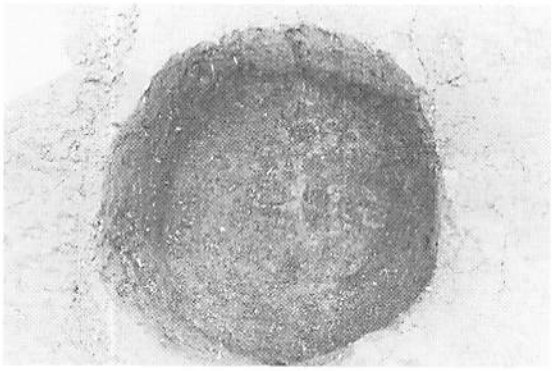


16ＳＫ21 断面

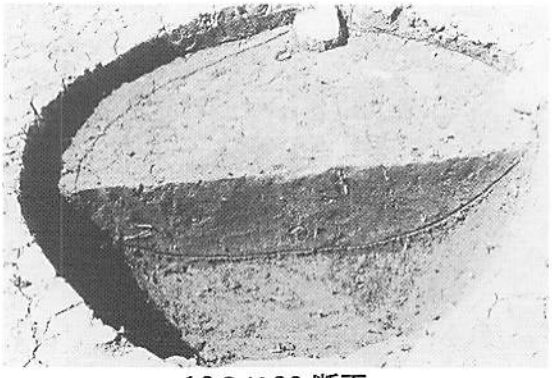
16ＳＫ21 完掘



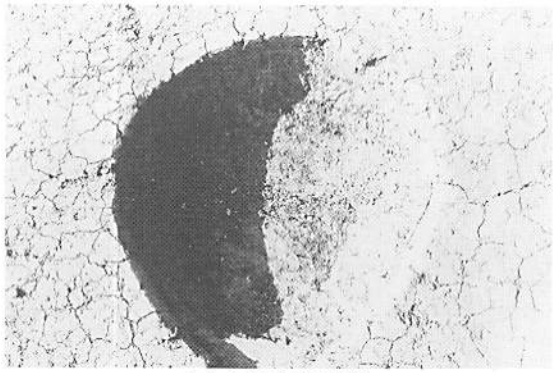
16ＳＫ22 断面



16ＳＫ22 完掘

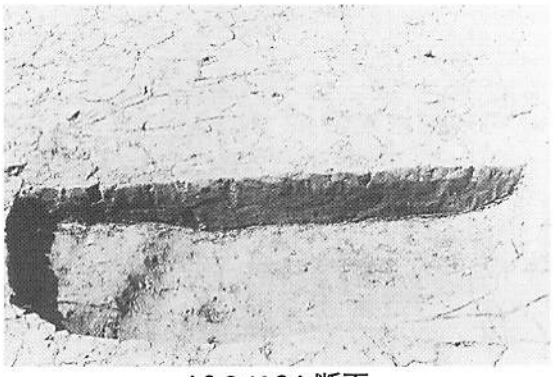


16ＳＫ23 断面

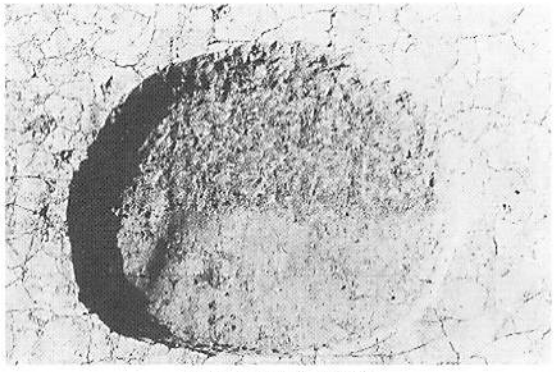


16ＳＫ23 完掘

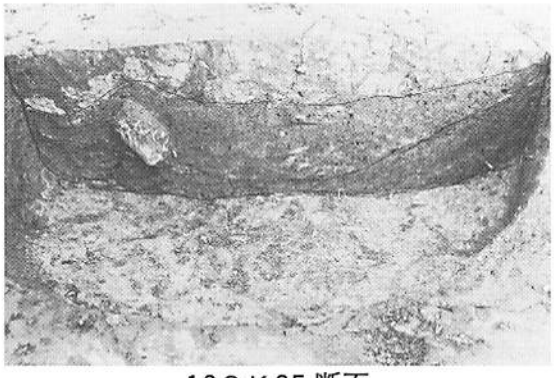
写真図版20　土坑⑥



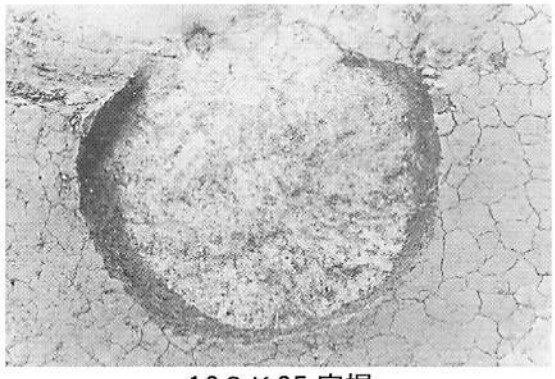
16ＳＫ24 断面



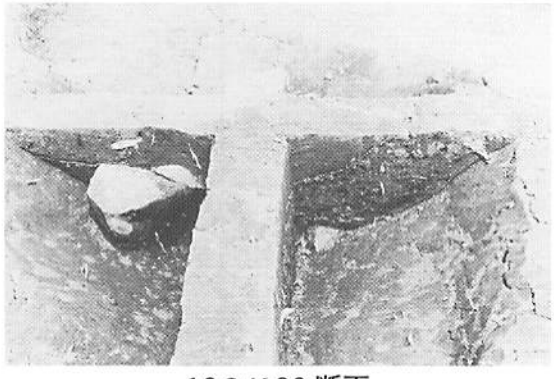
16ＳＫ24 完掘



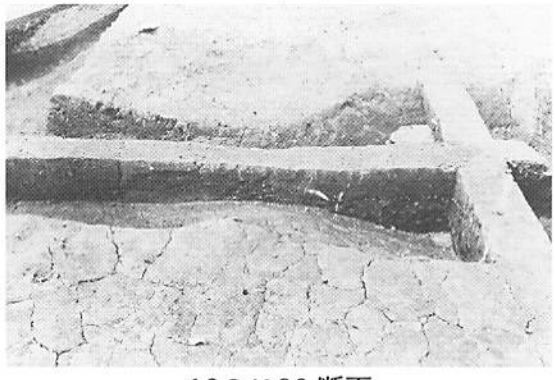
16ＳＫ25 断面



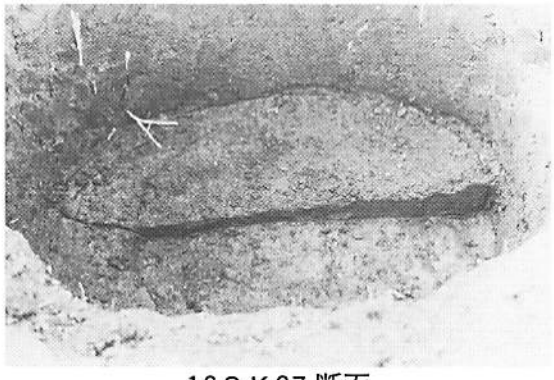
16ＳＫ25 完掘



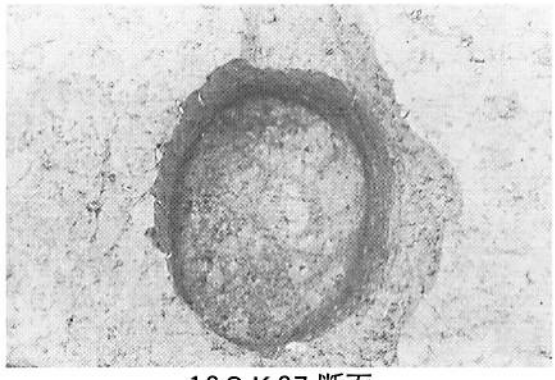
16ＳＫ26 断面



16ＳＫ26 断面

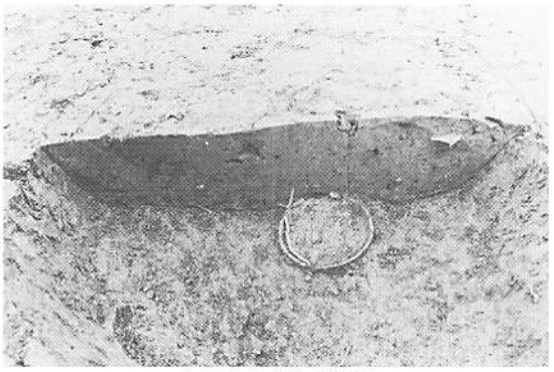


16ＳＫ27 断面

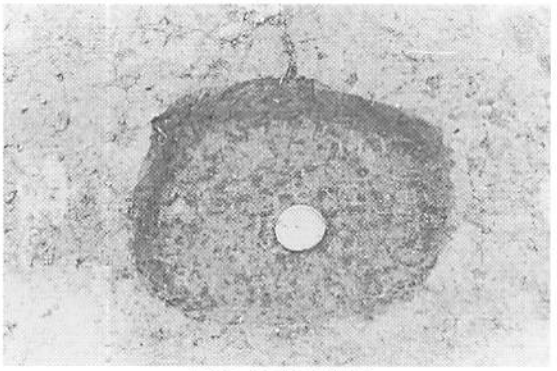


16ＳＫ27 断面

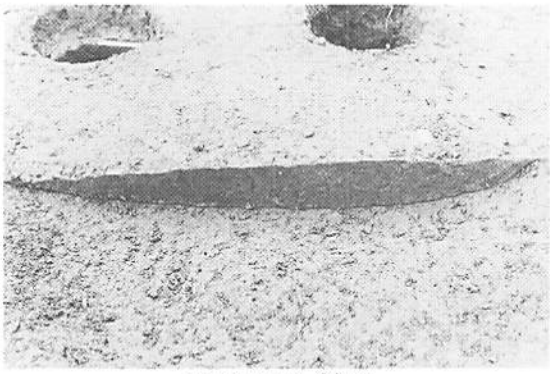
写真図版21　土坑⑦



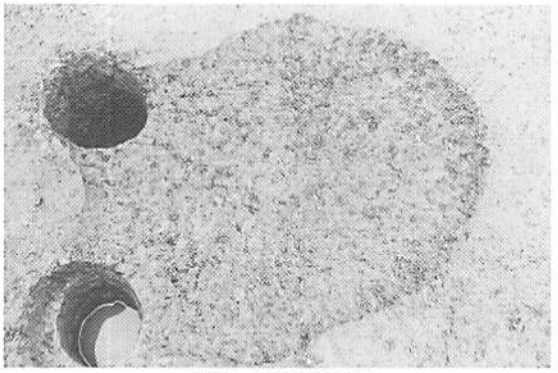
16ＳＫ28 断面



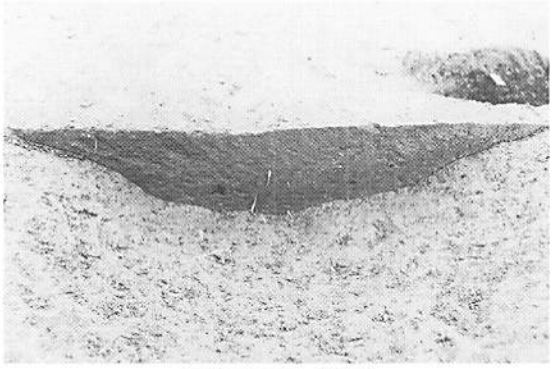
16ＳＫ28 完掘



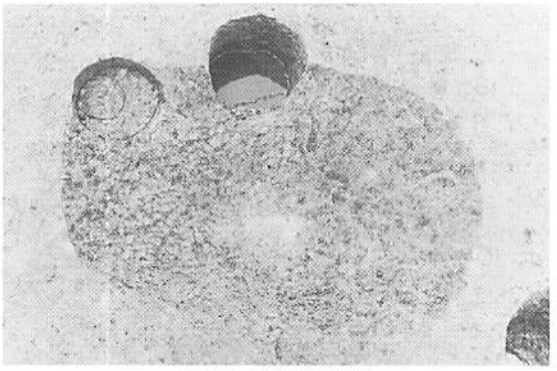
16ＳＫ29 断面



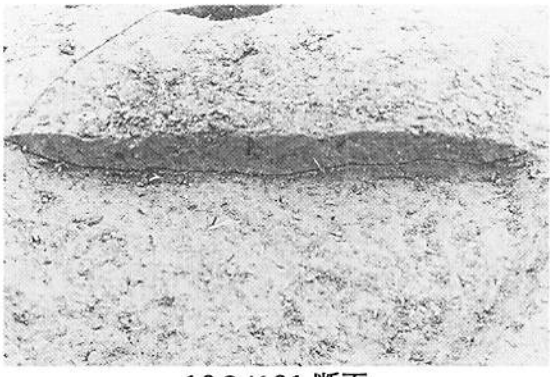
16ＳＫ29 完掘



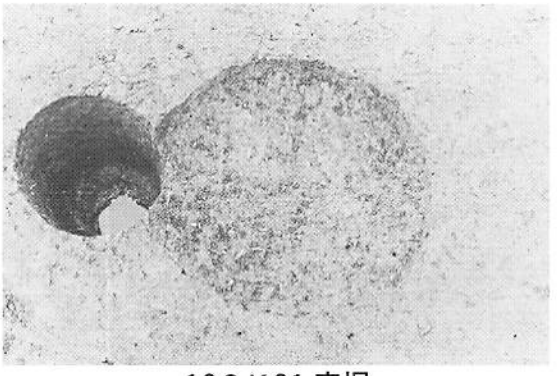
16ＳＫ30 断面



16ＳＫ30 完掘

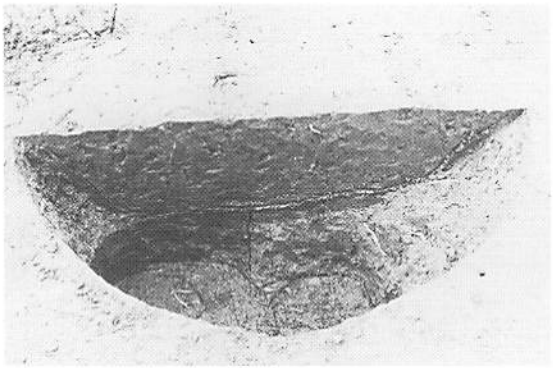


16ＳＫ31 断面

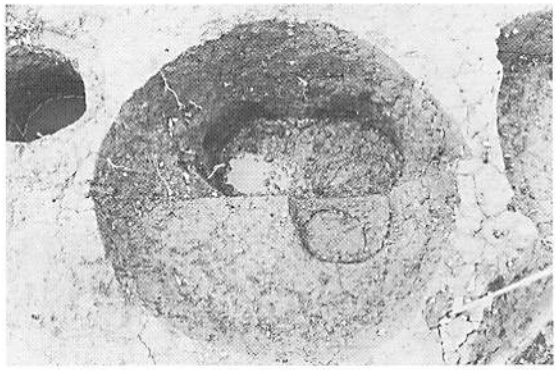


16ＳＫ31 完掘

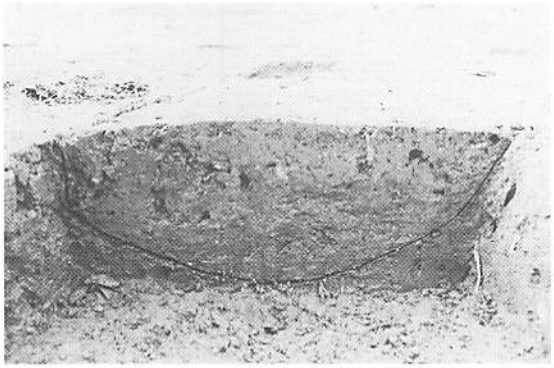
写真図版22　土坑⑧



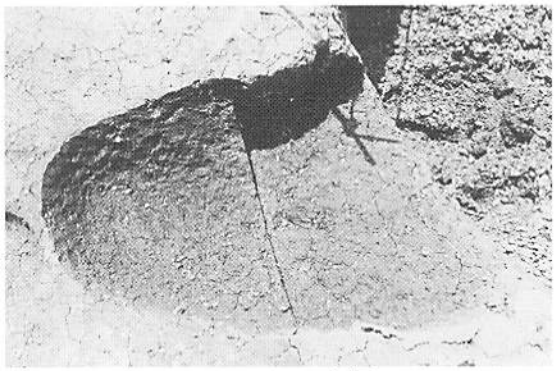
16ＳＫ32 断面



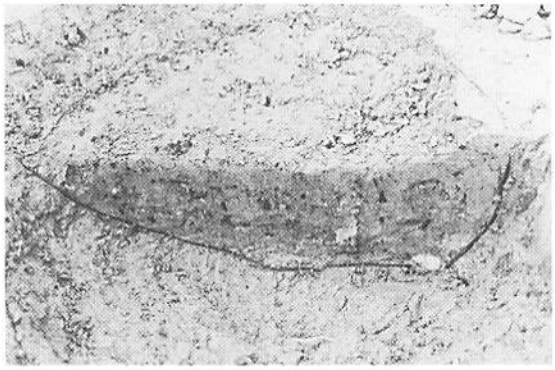
16ＳＫ32 完掘



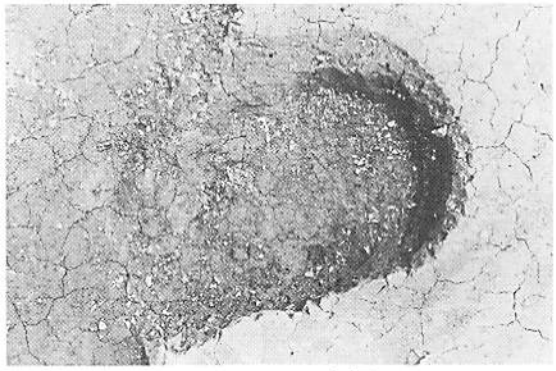
16ＳＫ33 断面



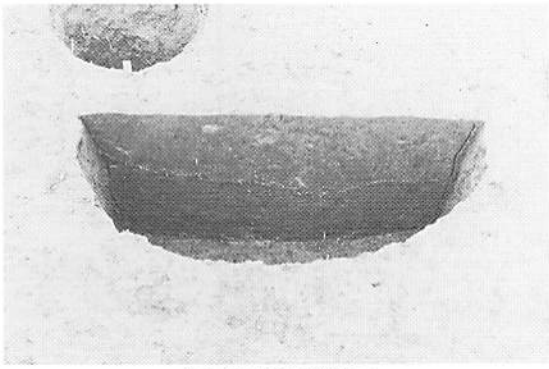
16ＳＫ33 完掘



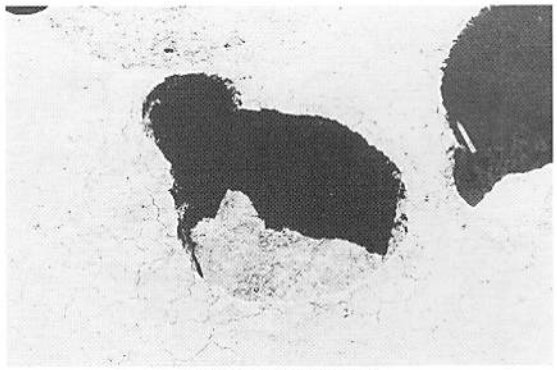
16ＳＫ34 断面



16ＳＫ34 完掘

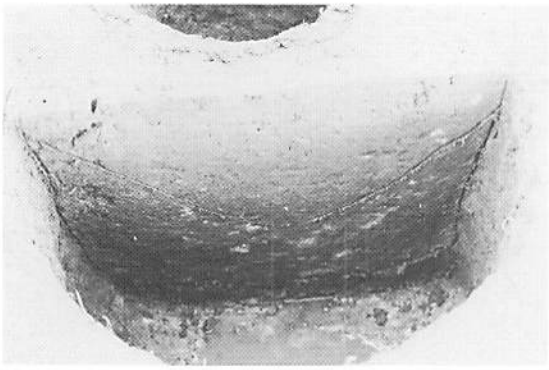


16ＳＫ35 断面

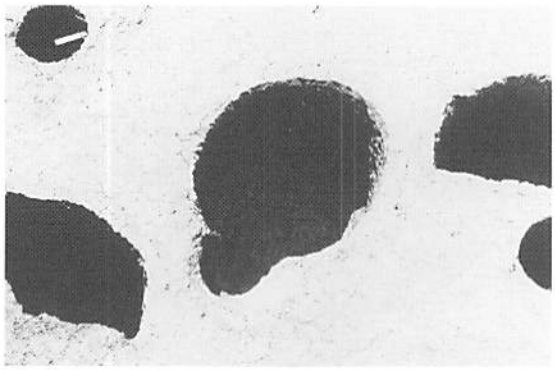


16ＳＫ35 完掘

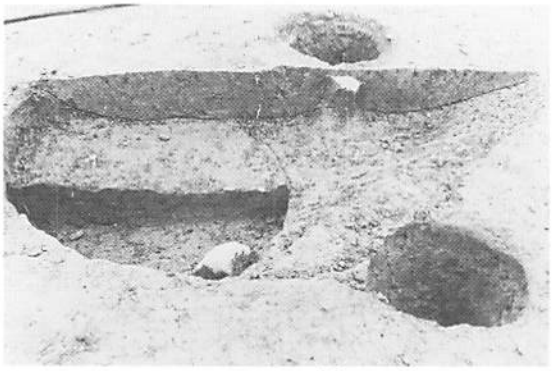
写真図版23　土坑⑨



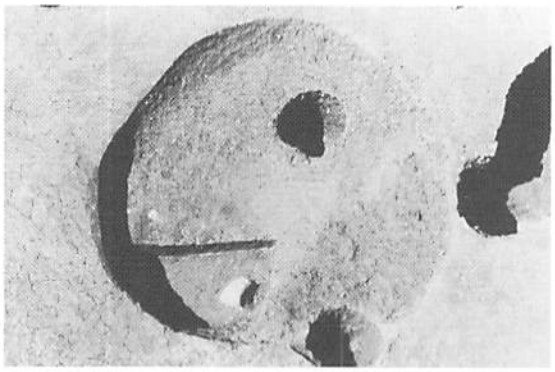
16ＳＫ36 断面



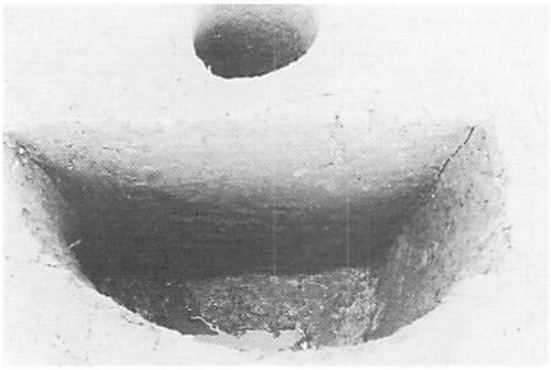
16ＳＫ36 完掘



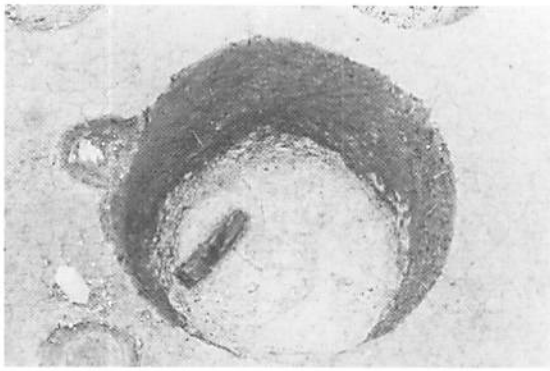
16ＳＫ37 断面



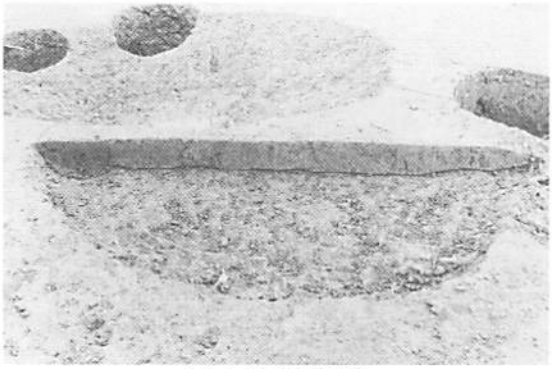
16ＳＫ37 完掘



16ＳＫ38 断面



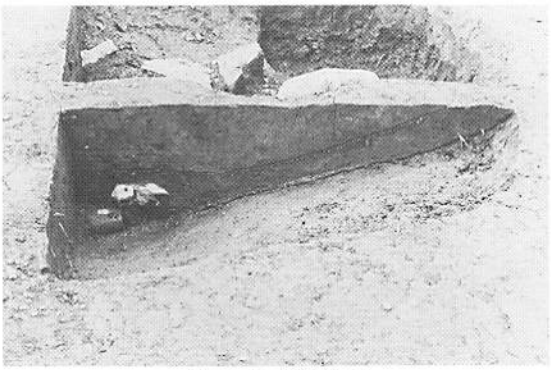
16ＳＫ38 完掘



16ＳＫ39 断面

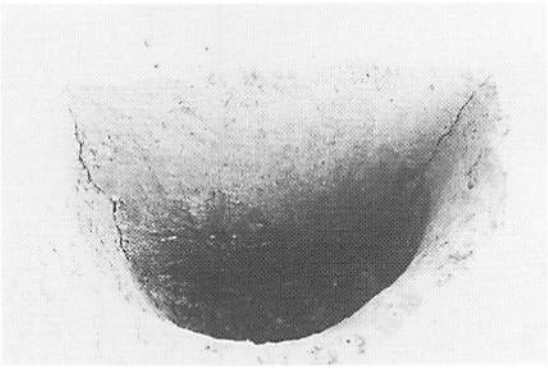
16ＳＫ39 完掘

写真図版24　土坑⑩

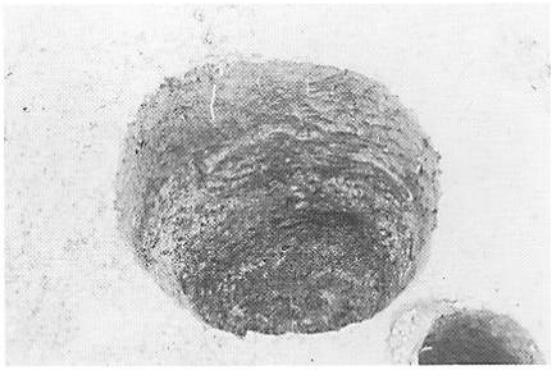


16ＳＫ40 断面

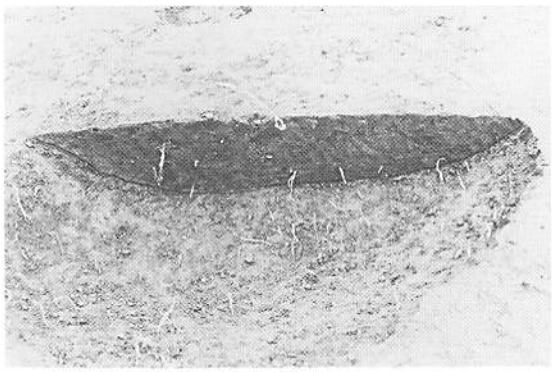
16ＳＫ40 完掘



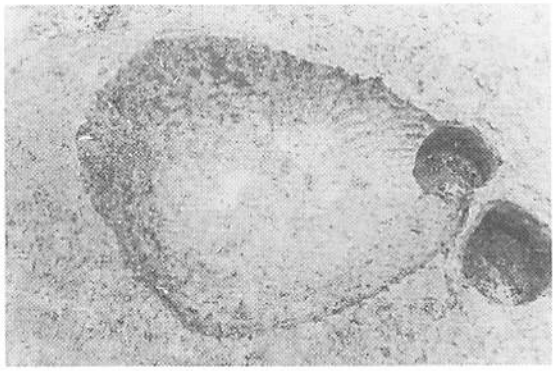
16ＳＫ41 断面



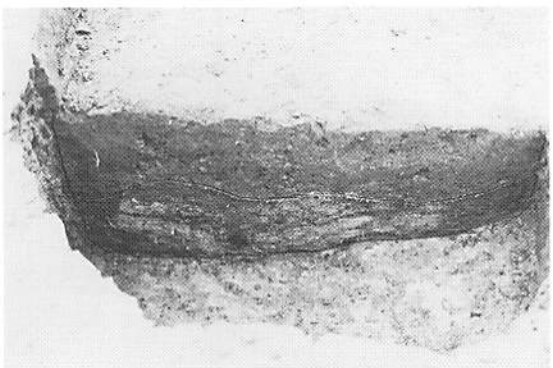
16ＳＫ41 完掘



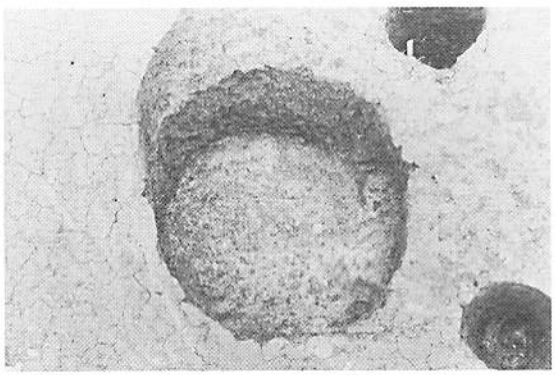
16ＳＫ42 断面



16ＳＫ42 完掘

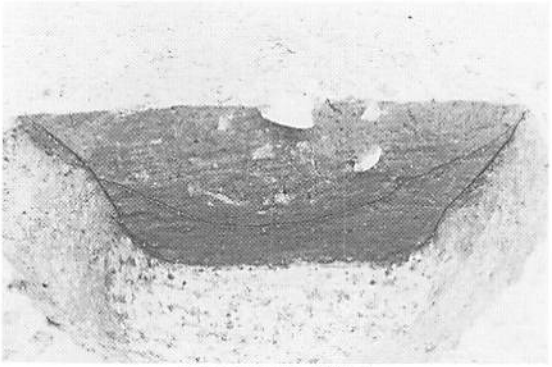


16ＳＫ43 断面

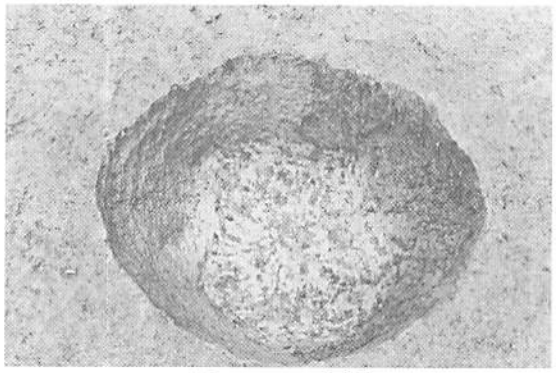


16ＳＫ43 完掘

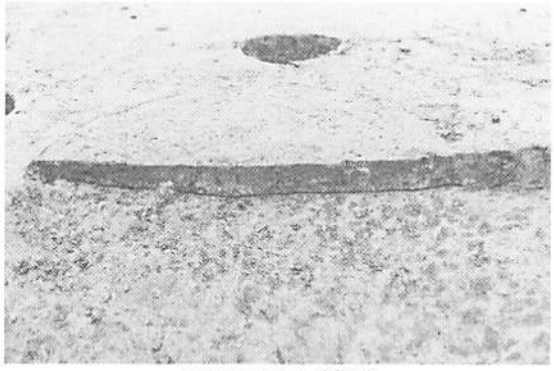
写真図版25　土坑⑪



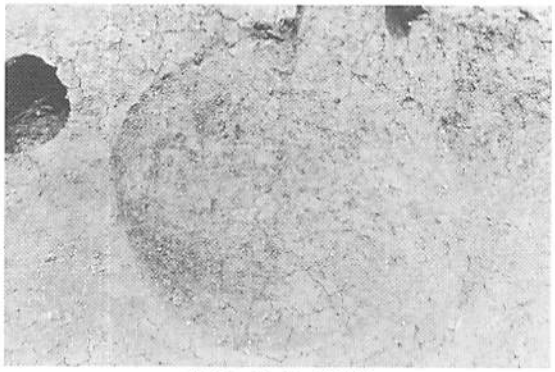
16ＳＫ44 断面



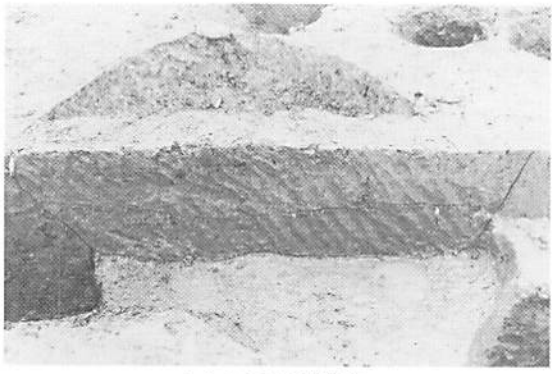
16ＳＫ44 完掘



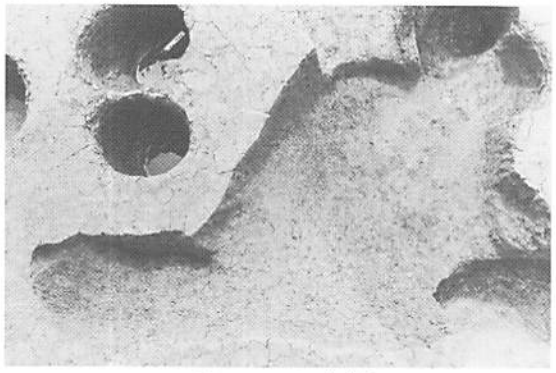
16ＳＫ48 断面



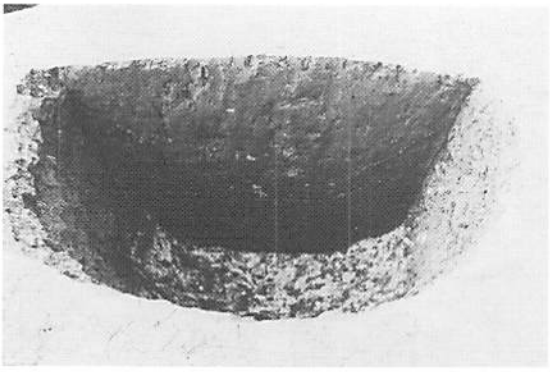
16ＳＫ48 完掘



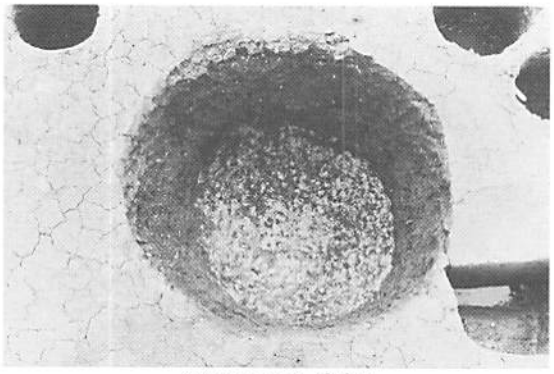
16ＳＫ50 断面



16ＳＫ50 完掘

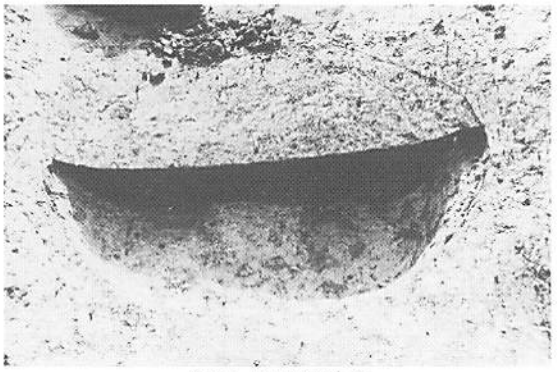


16ＳＫ53 断面

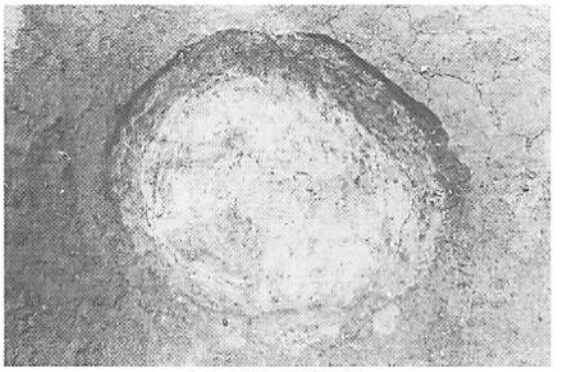


16ＳＫ53 完掘

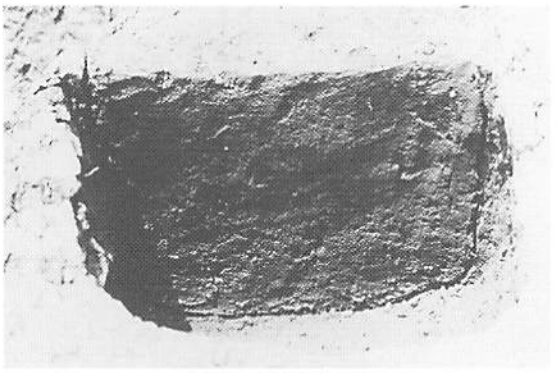
写真図版26　土坑⑫



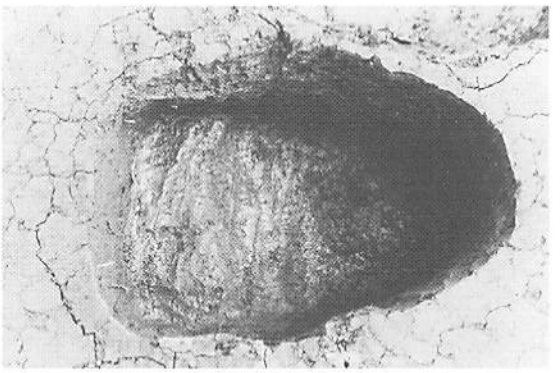
16ＳＫ55 断面



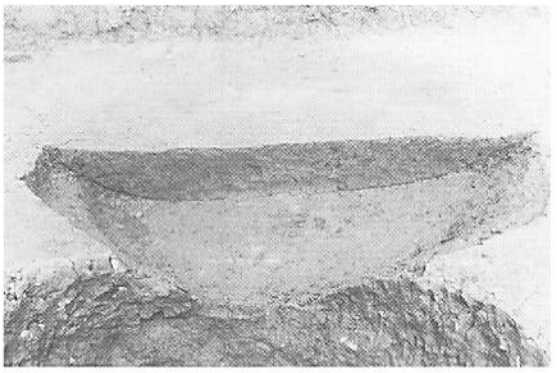
16ＳＫ55 完掘



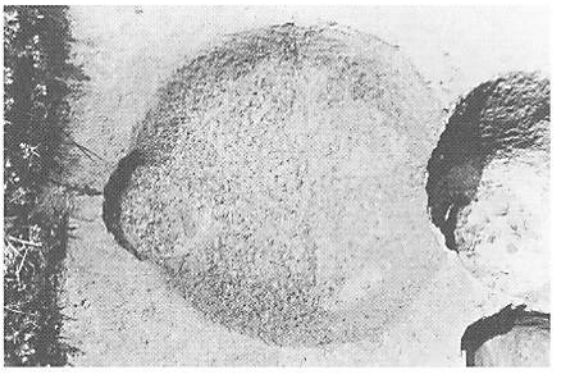
16ＳＫ56 断面



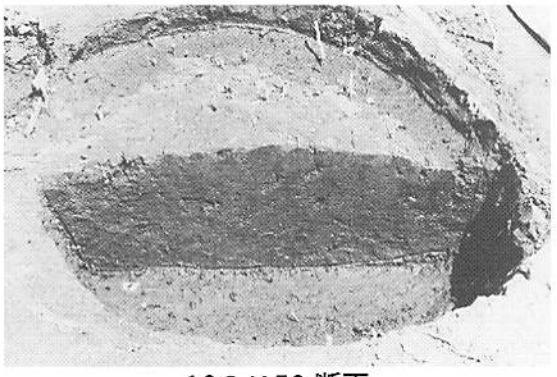
16ＳＫ56 完掘



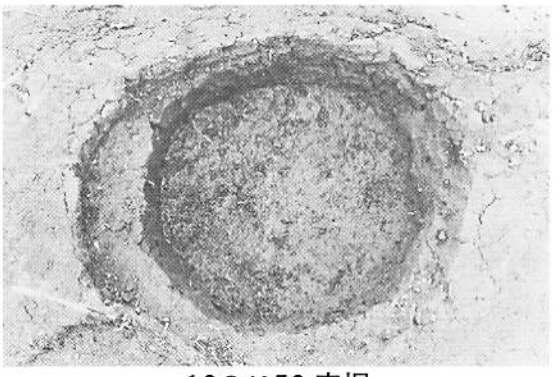
16ＳＫ57 断面



16ＳＫ57 完掘

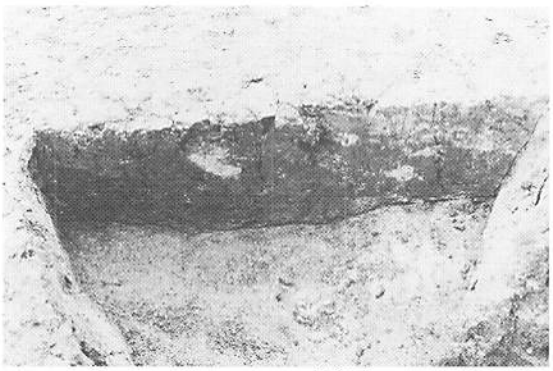


16ＳＫ58 断面

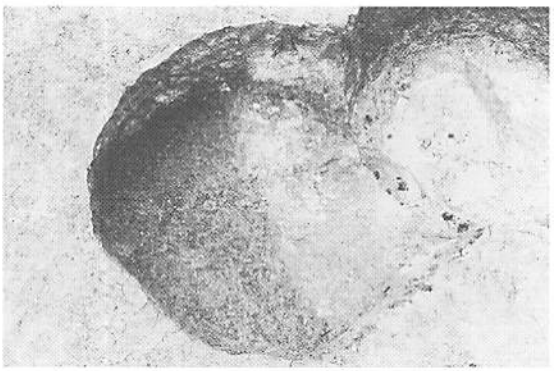


16ＳＫ58 完掘

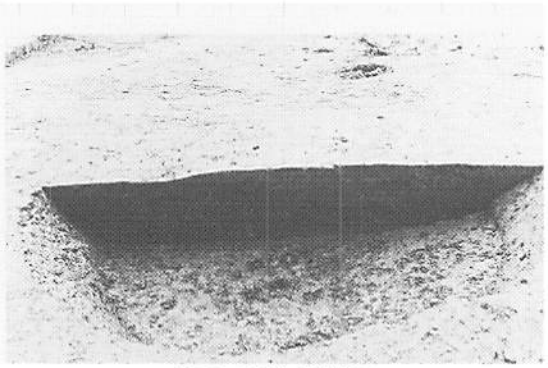
写真図版27　土坑⑬



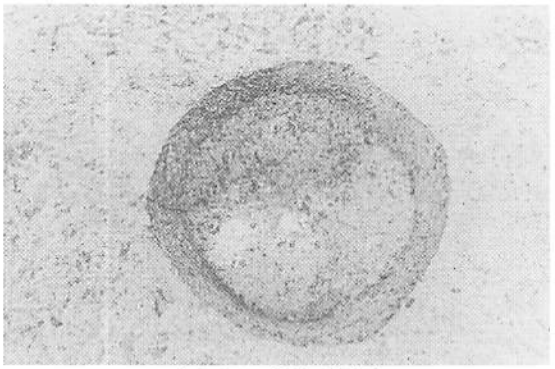
16ＳＫ59 断面



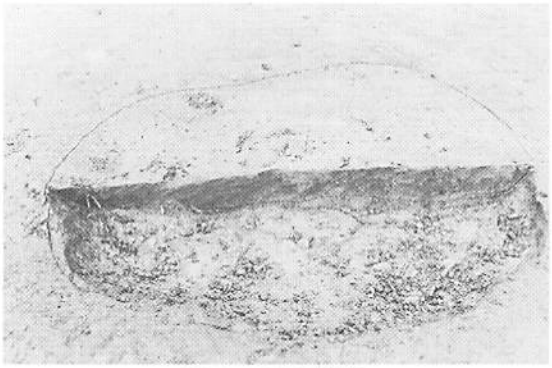
16ＳＫ59 完掘



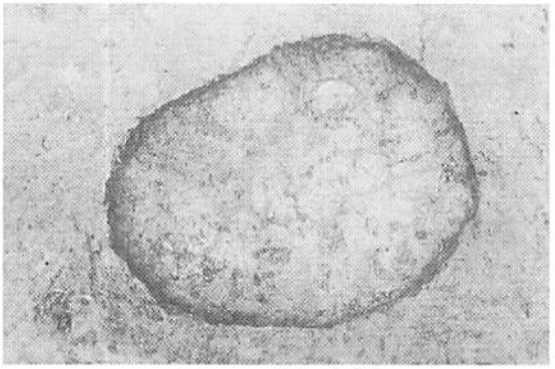
16ＳＫ101 断面



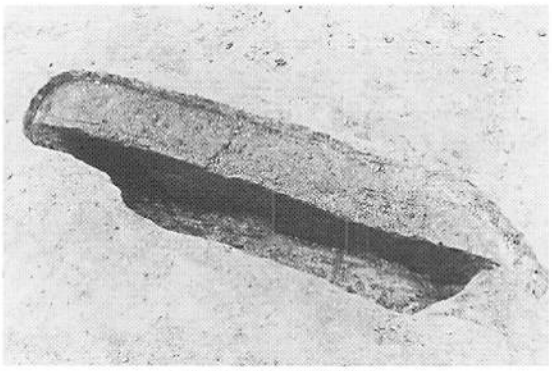
16ＳＫ101 完掘



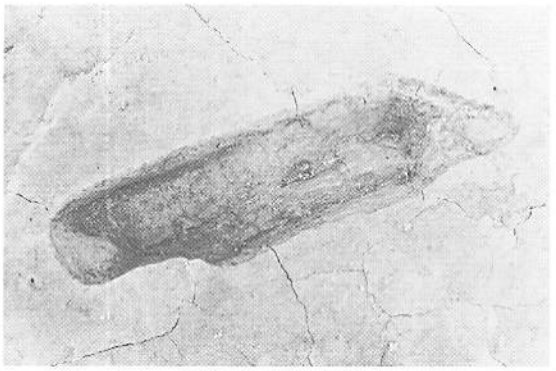
16ＳＫ102 断面



16ＳＫ102 完掘

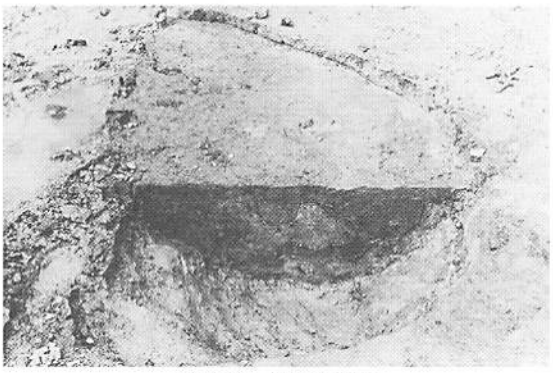


16ＳＫ103 断面

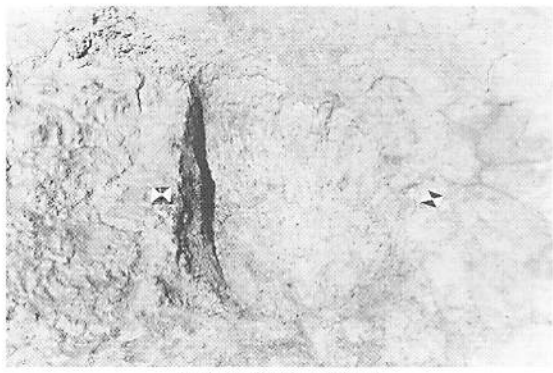


16ＳＫ103 完掘

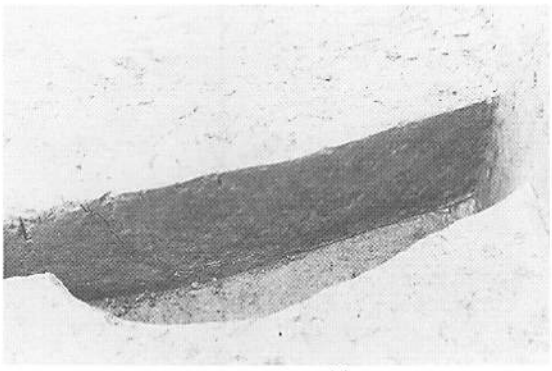
写真図版28　土坑⑭



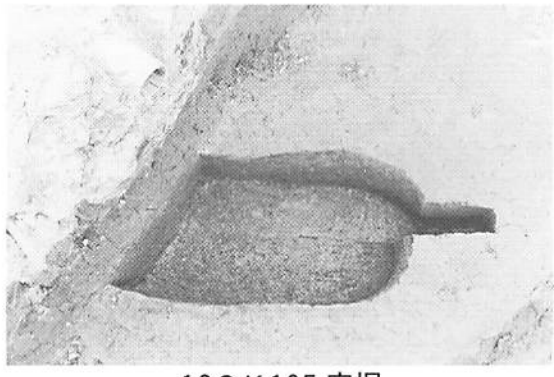
16ＳＫ104 断面



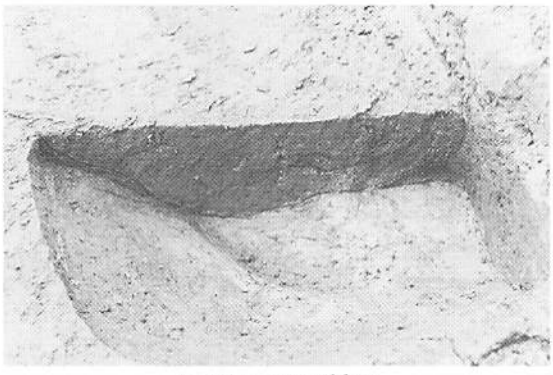
16ＳＫ104 断面



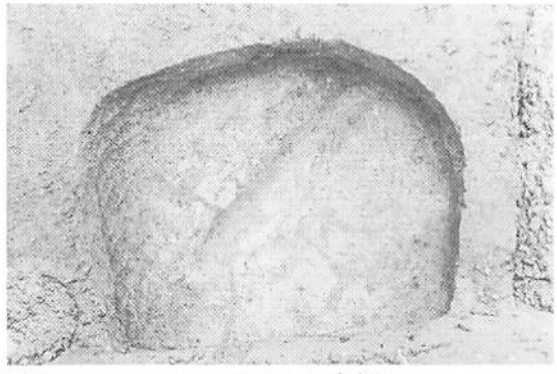
16ＳＫ105 断面



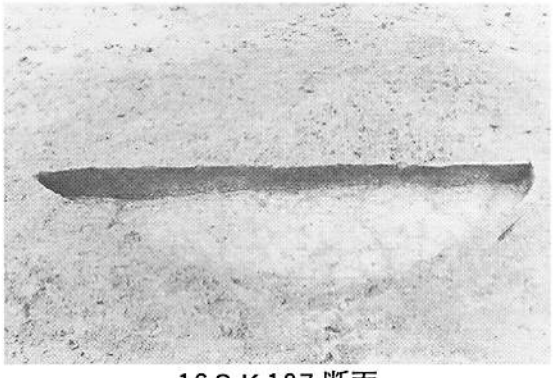
16ＳＫ105 完掘



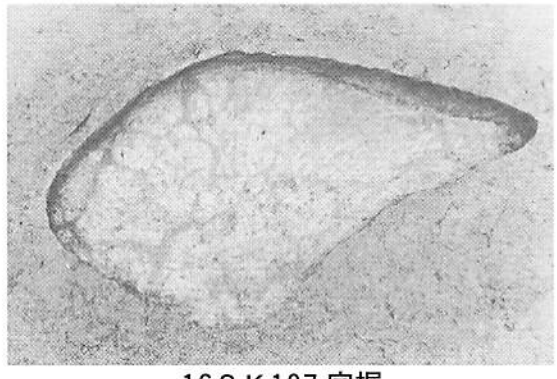
16ＳＫ106 断面



16ＳＫ106 完掘



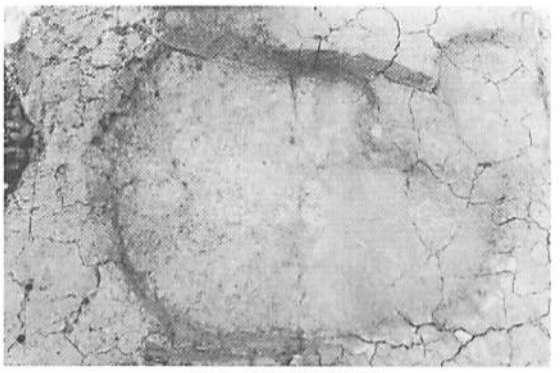
16ＳＫ107 断面



16ＳＫ107 完掘

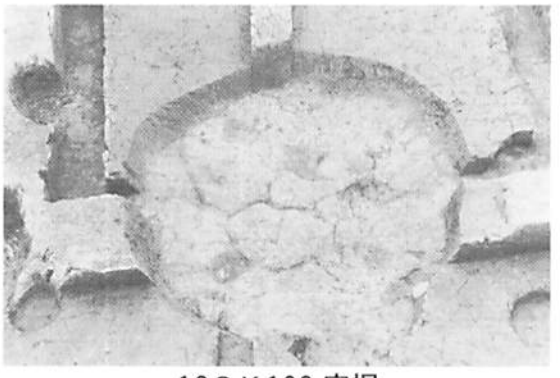
写真図版29　土坑⑮

16ＳＫ108 断面



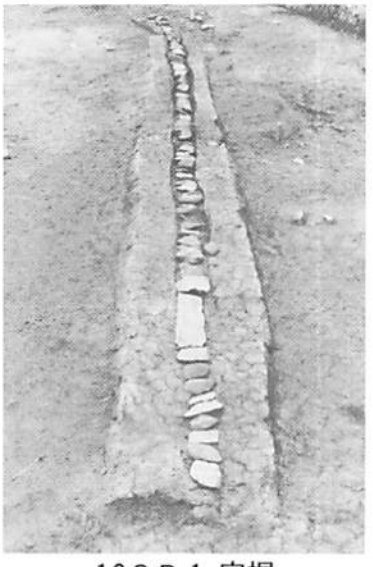
16ＳＫ108 完掘

16ＳＫ109 断面

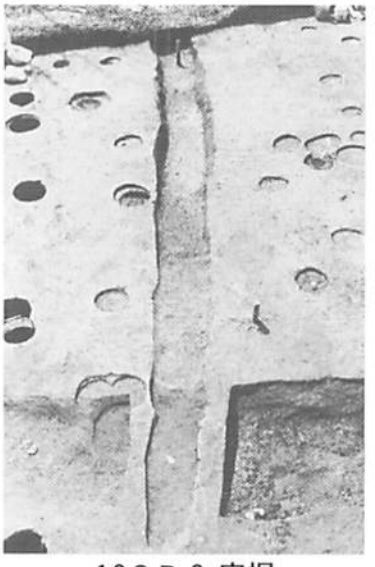


16ＳＫ109 完掘

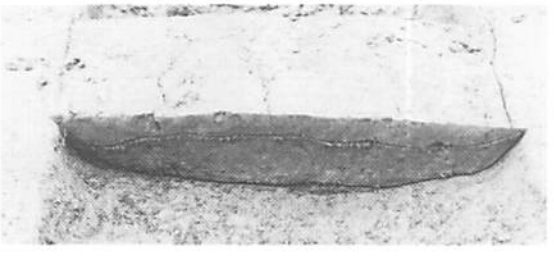
16ＳＤ１ 完掘



16ＳＤ１ 完掘

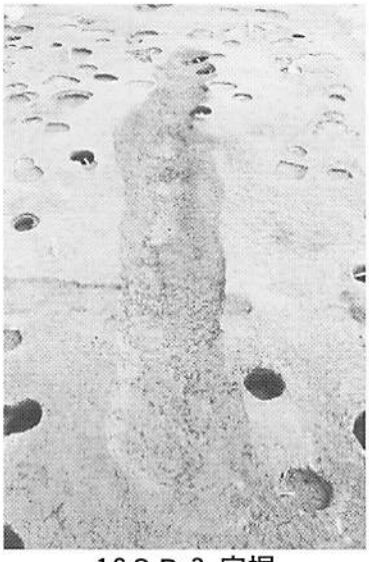


16ＳＤ２ 完掘

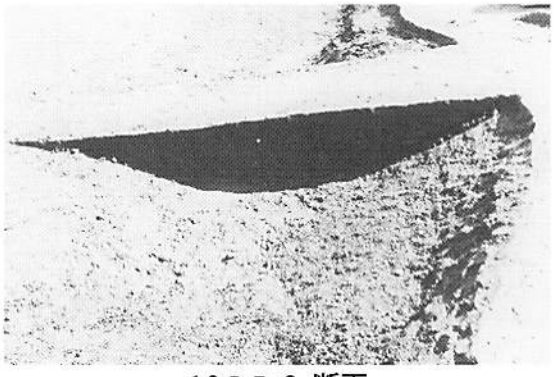


16ＳＤ２ 断面

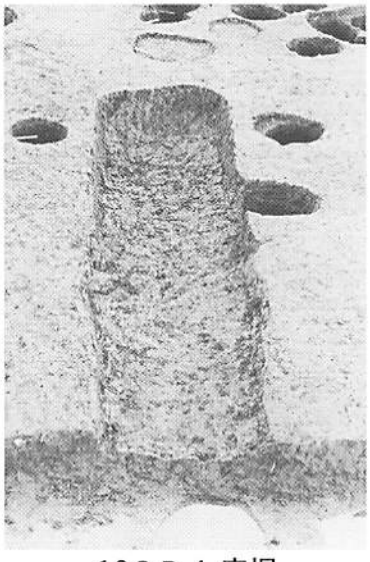
写真図版30　土坑⑯・溝①



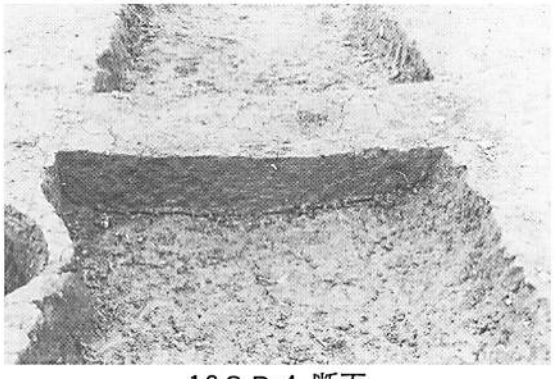
16ＳＤ３ 完掘



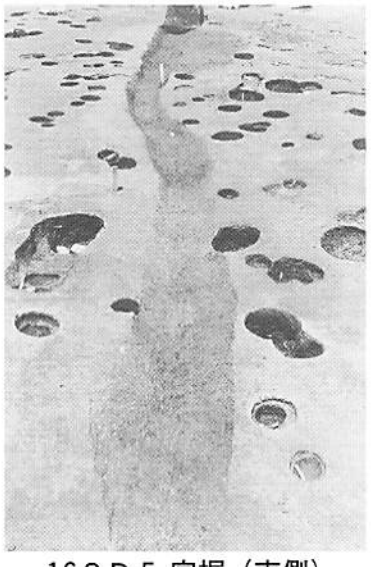
16ＳＤ３ 断面



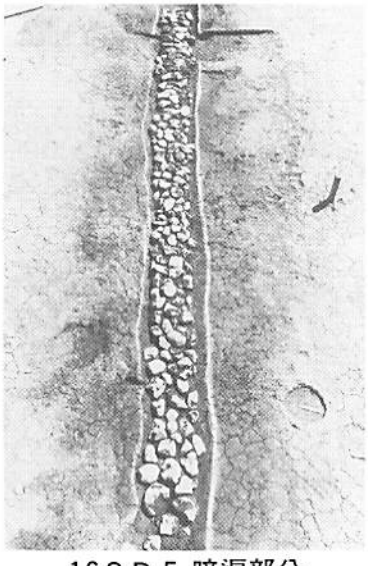
16ＳＤ４ 完掘



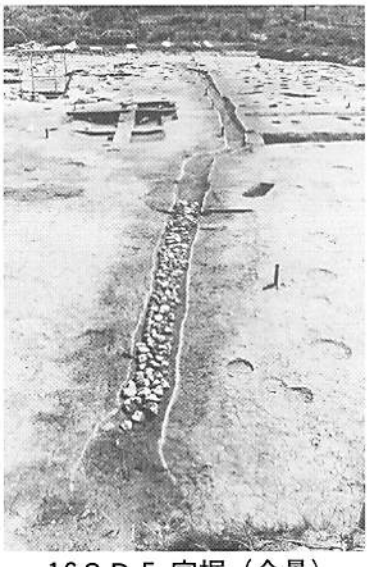
16ＳＤ４ 断面



16ＳＤ５ 完掘（南側）

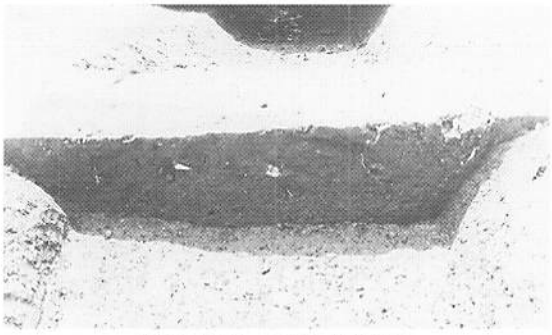


16ＳＤ５ 暗渠部分

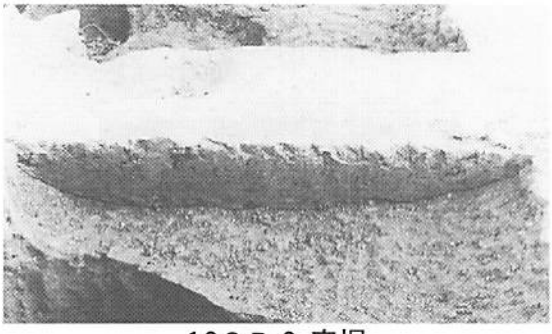


16ＳＤ５ 完掘（全景）

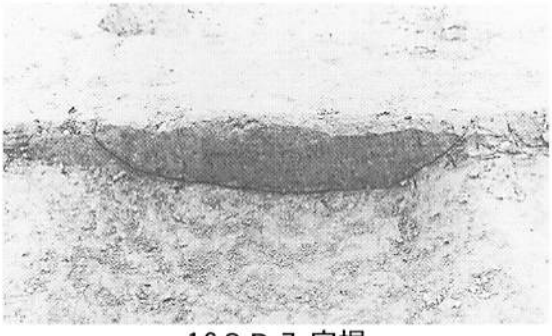
写真図版31　溝②



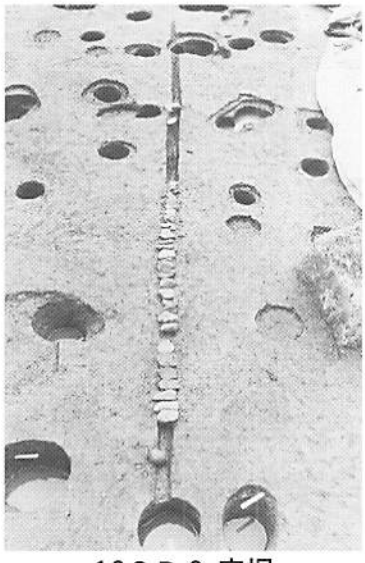
16ＳＤ５ 完掘（北側）



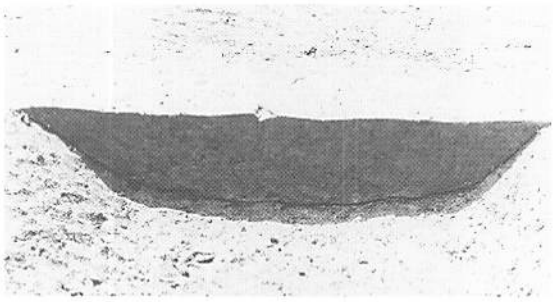
16ＳＤ６ 完掘



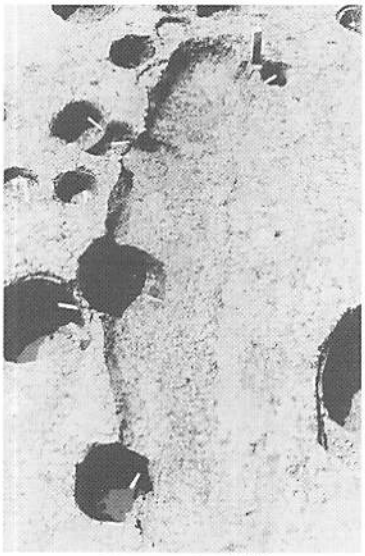
16ＳＤ７ 完掘



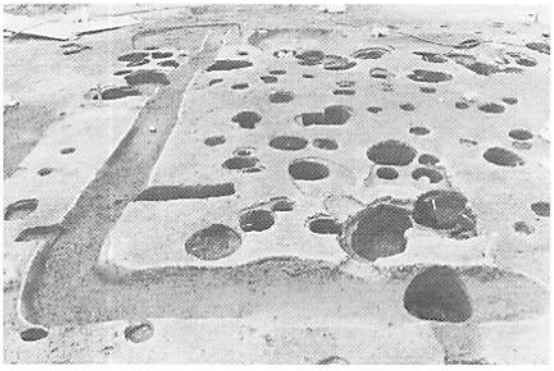
16ＳＤ８ 完掘



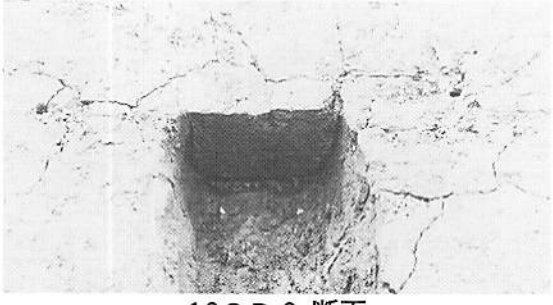
16ＳＤ５ 完掘（南側）



16ＳＤ６ 完掘

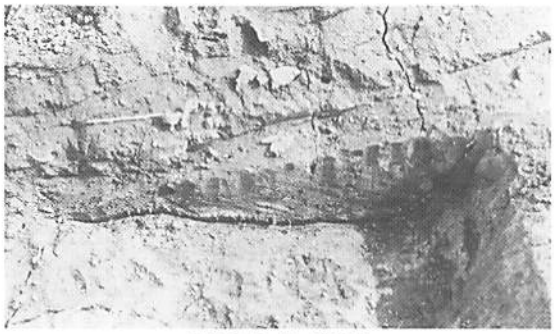


16ＳＤ７ 完掘

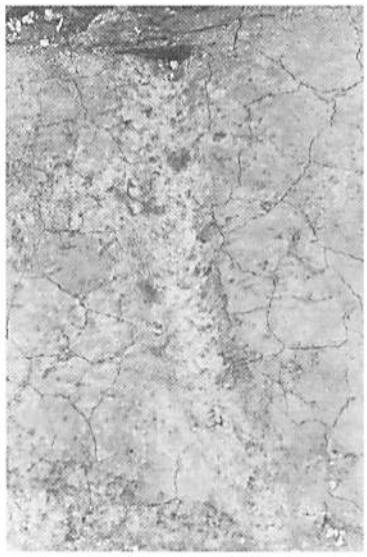


16ＳＤ８ 断面

写真図版32　溝③

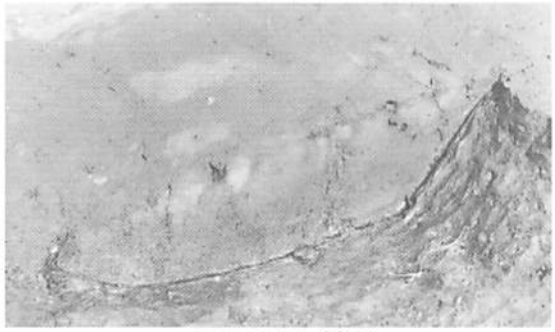


16ＳＤ９ 断面



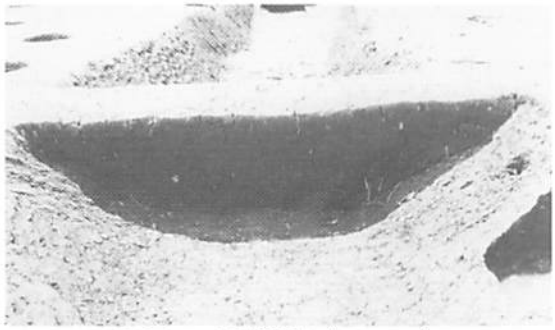
16ＳＤ９ 完掘

16ＳＤ10 完掘

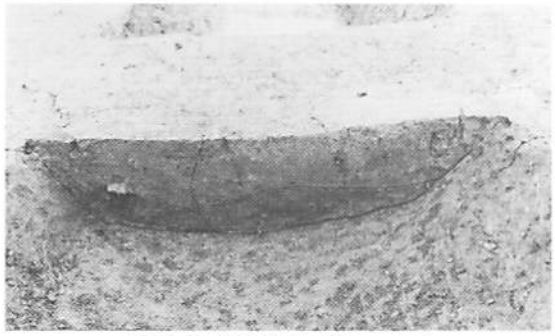


16ＳＤ10 断面

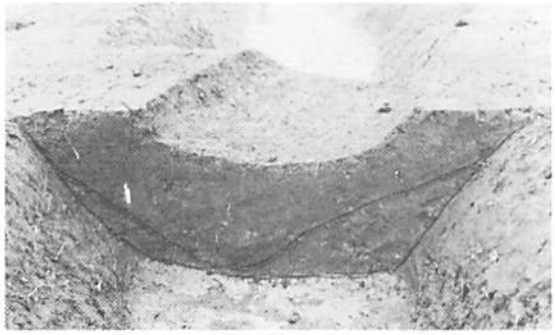
16ＳＤ11 断面



16ＳＤ12 断面（Ａ－Ｂ）

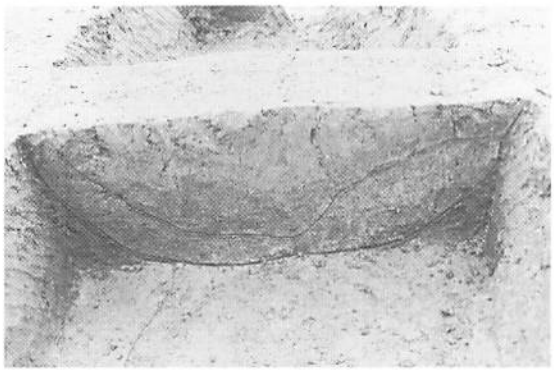


16ＳＤ12 断面（Ｃ－Ｄ）



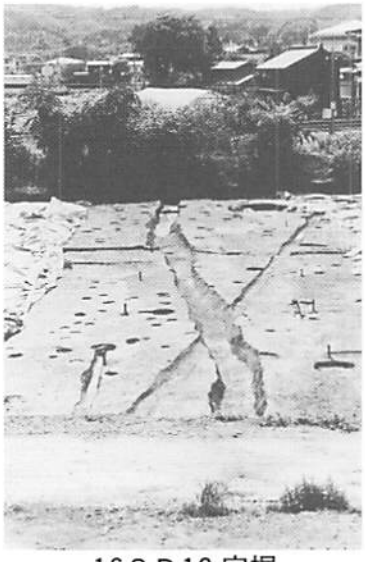
16ＳＤ12 断面（Ｅ－Ｆ）

写真図版33　溝④



16ＳＤ12 断面（G-H）

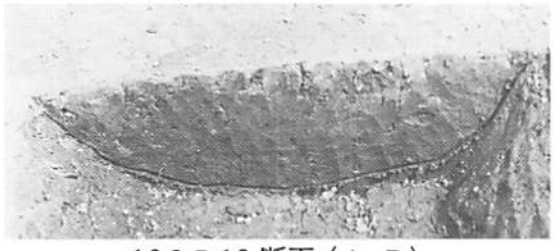
16ＳＤ12 完掘



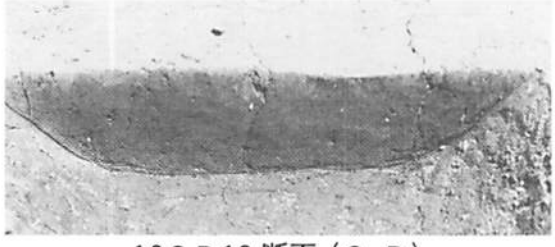
16ＳＤ12 完掘

16ＳＤ13 完掘

16ＳＤ13 完掘



16ＳＤ13 断面（A-B）

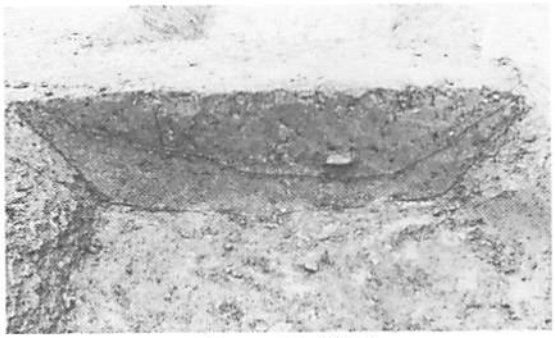


16ＳＤ13 断面（C-D）

16ＳＤ13 断面（E-F）

写真図版34　溝⑤

16ＳＤ14 断面

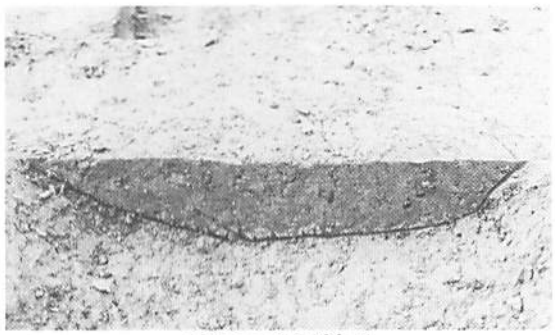


16ＳＤ15 断面

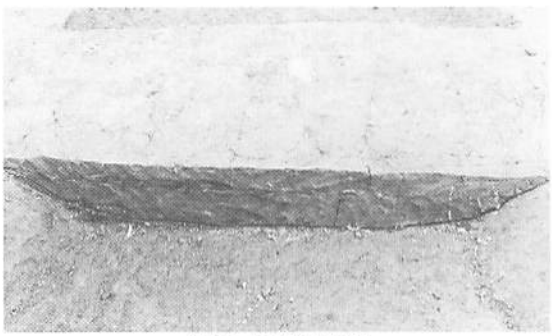
16ＳＤ14 完掘

16ＳＤ15 完掘

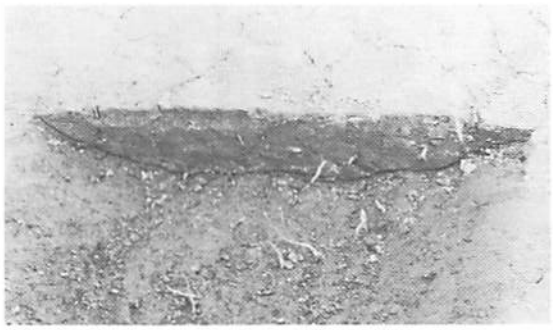
16ＳＤ16 完掘



16ＳＤ16 断面



16ＳＤ17 断面

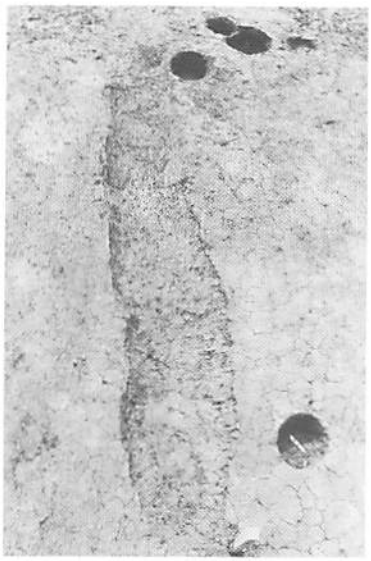


16ＳＤ18 断面

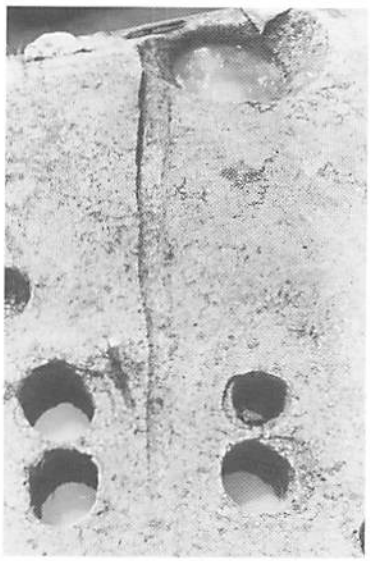
16ＳＤ19 断面

写真図版35　溝⑥

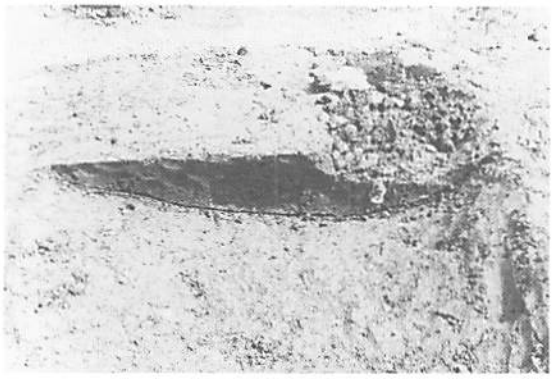
16ＳＤ17 完掘



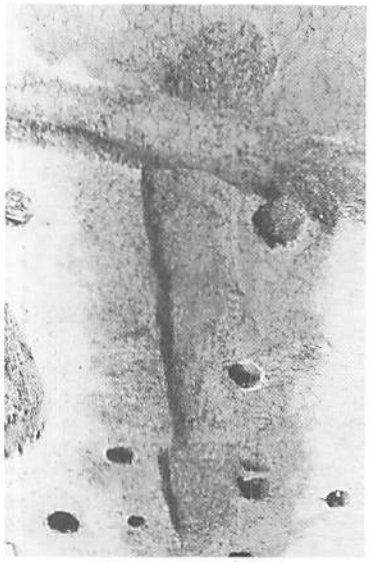
16ＳＤ18 完掘



16ＳＤ19 完掘

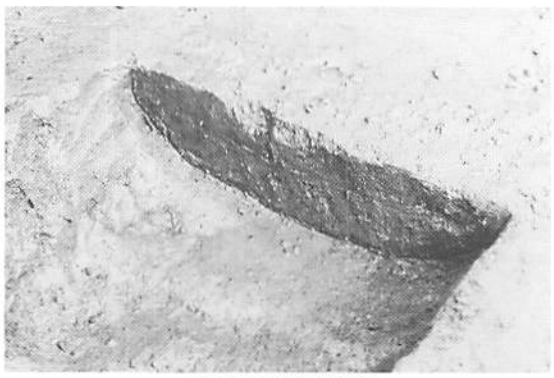


16ＳＤ20 断面



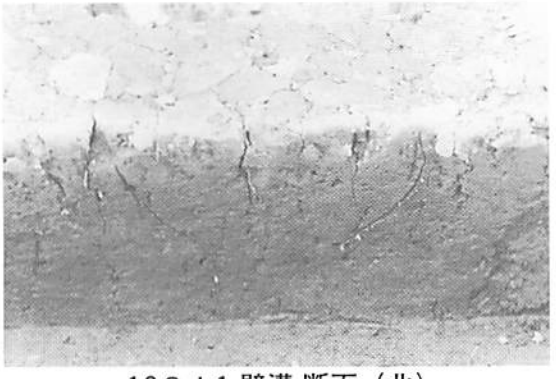
16ＳＤ20 完掘

16ＳＤ21 完掘



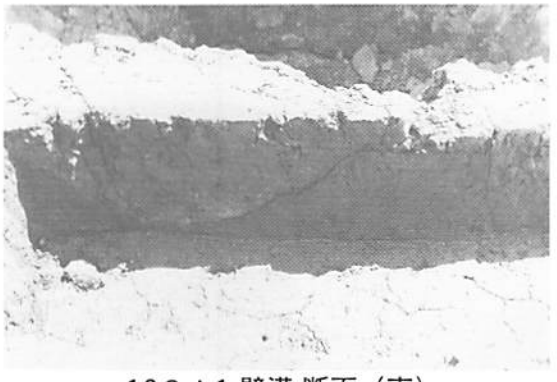
16ＳＤ21 断面

写真図版36　溝⑦



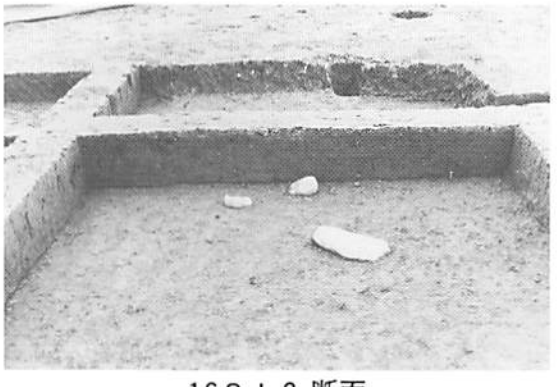
16ＳＩ１壁溝 断面（北）

16ＳＩ１壁溝 断面（南）

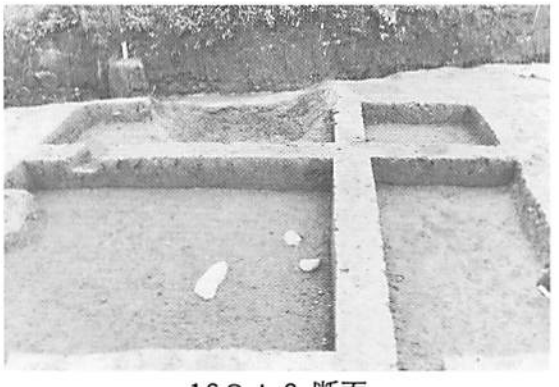


16ＳＩ１壁溝 断面（東）

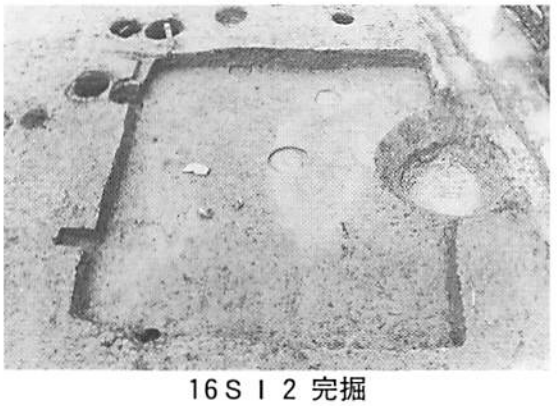
16ＳＩ１ 完掘



16ＳＩ２ 断面

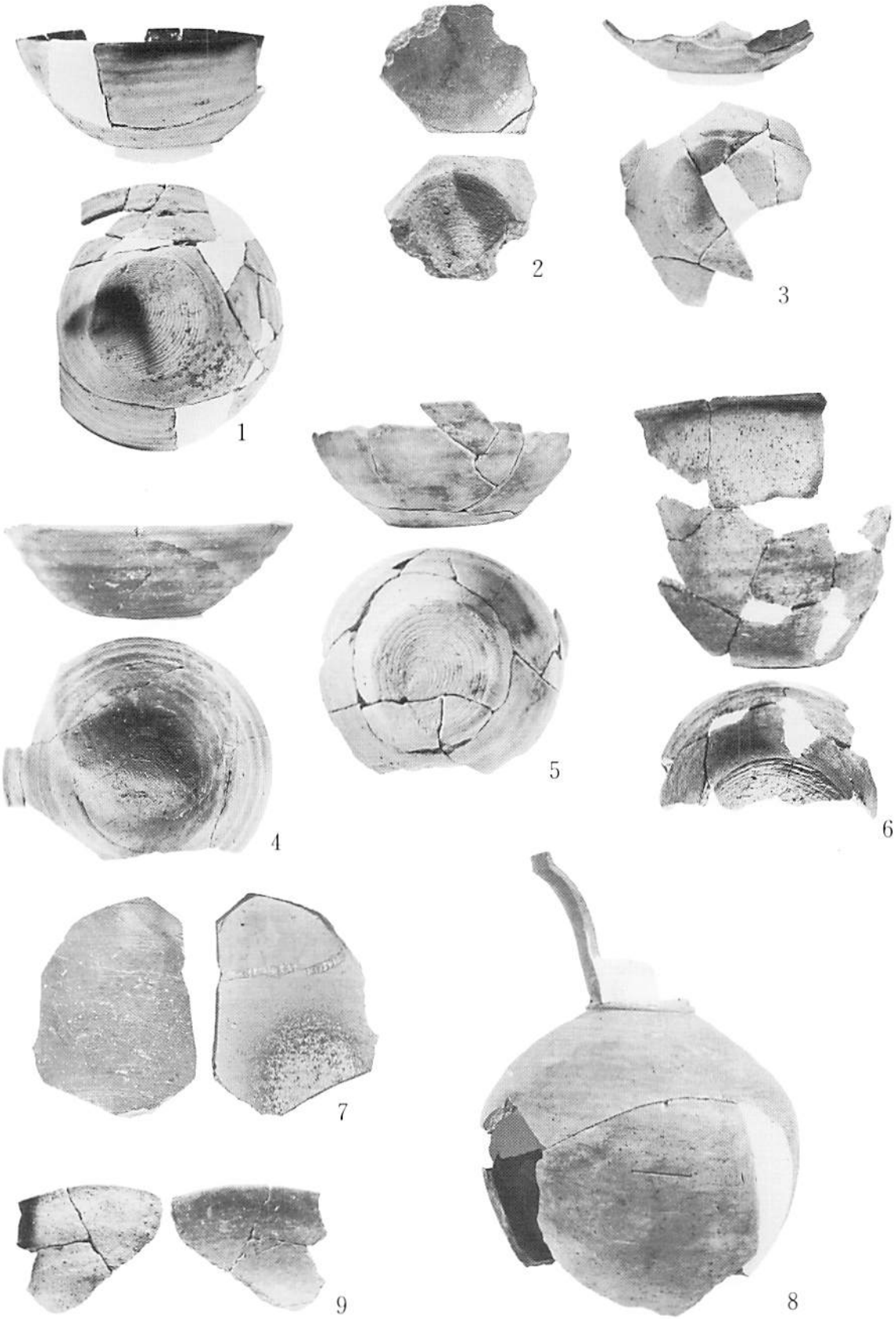


16ＳＩ２ 断面

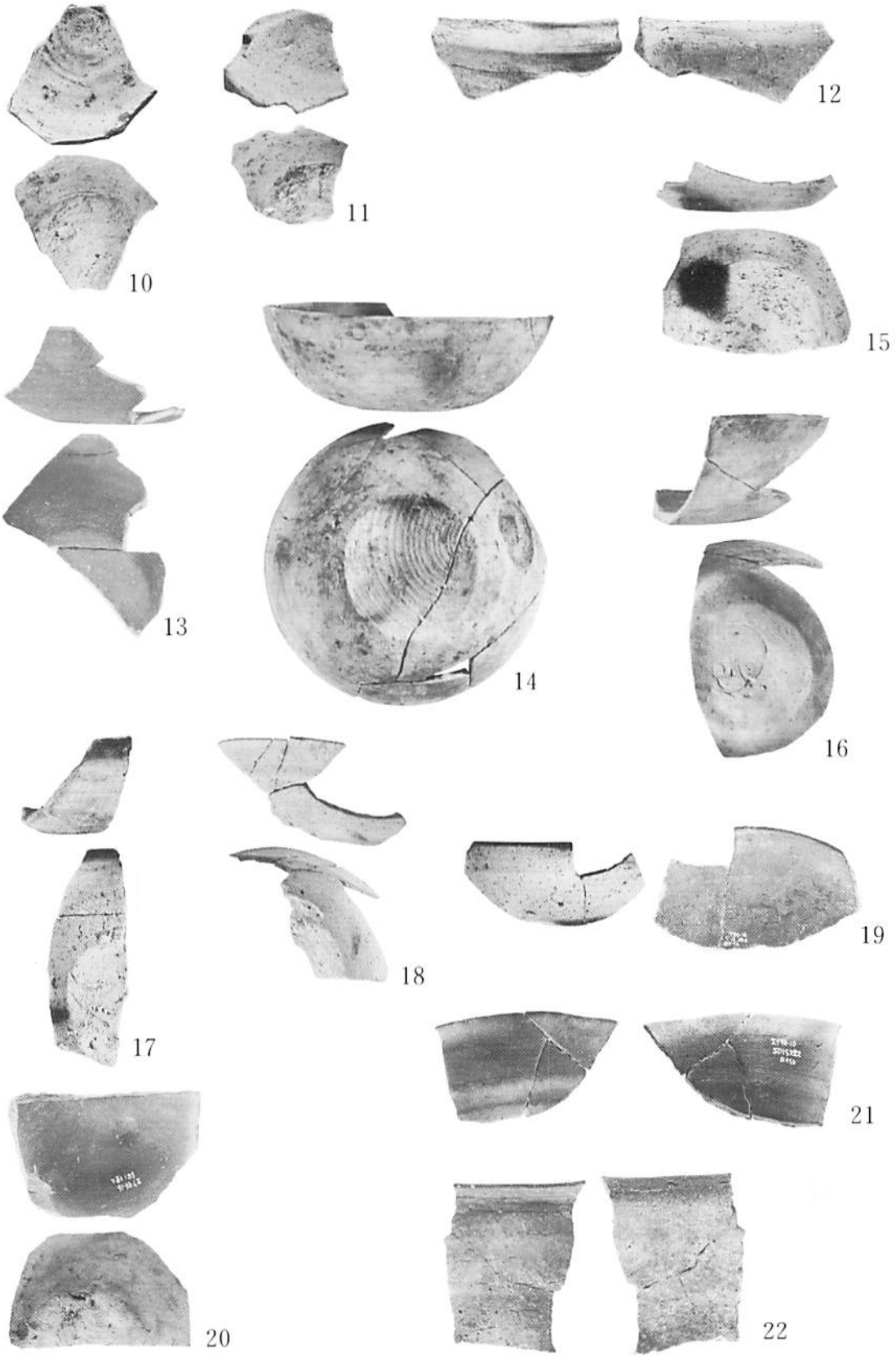


16ＳＩ２ 完掘

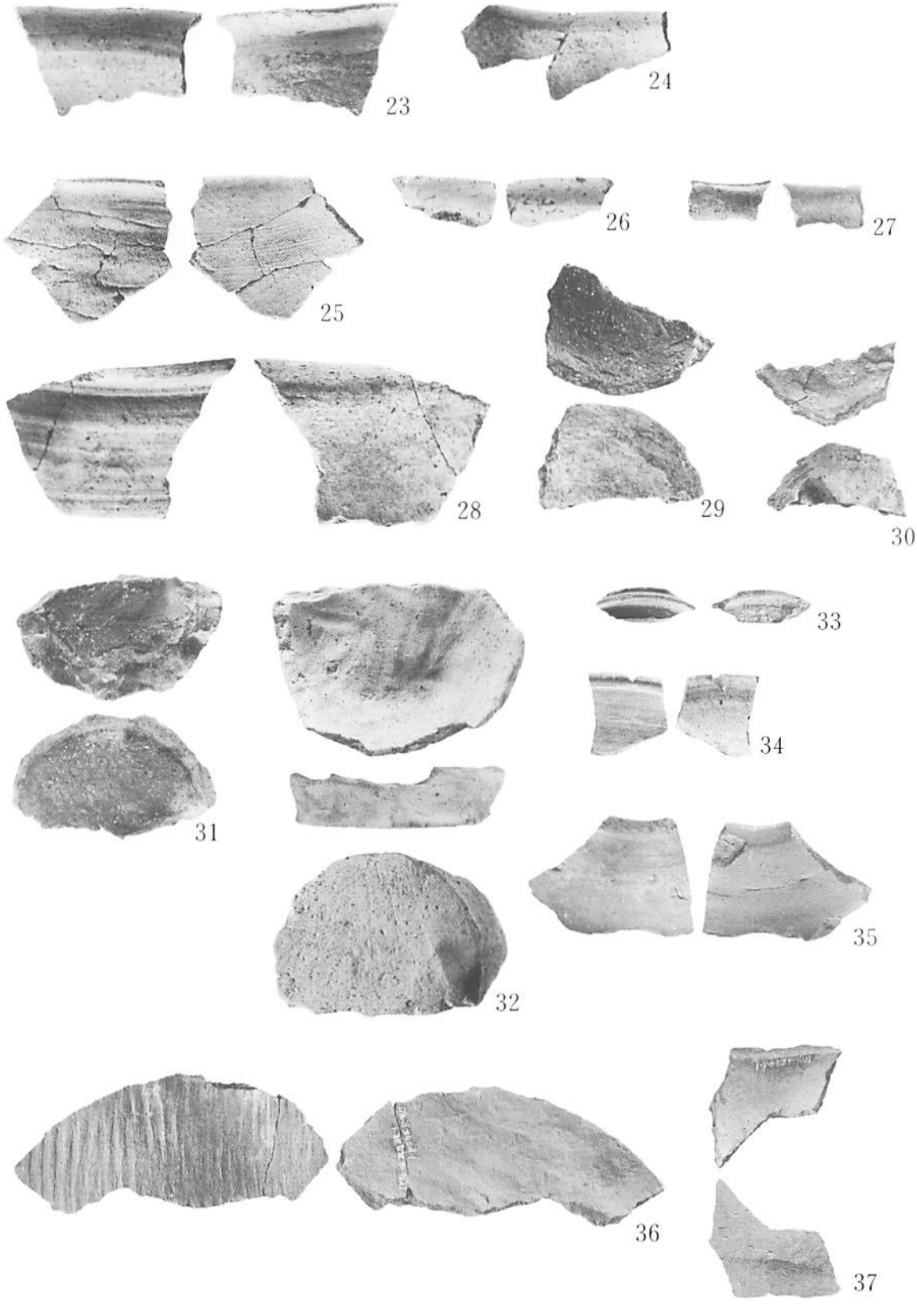
写真図版37　竪穴建物



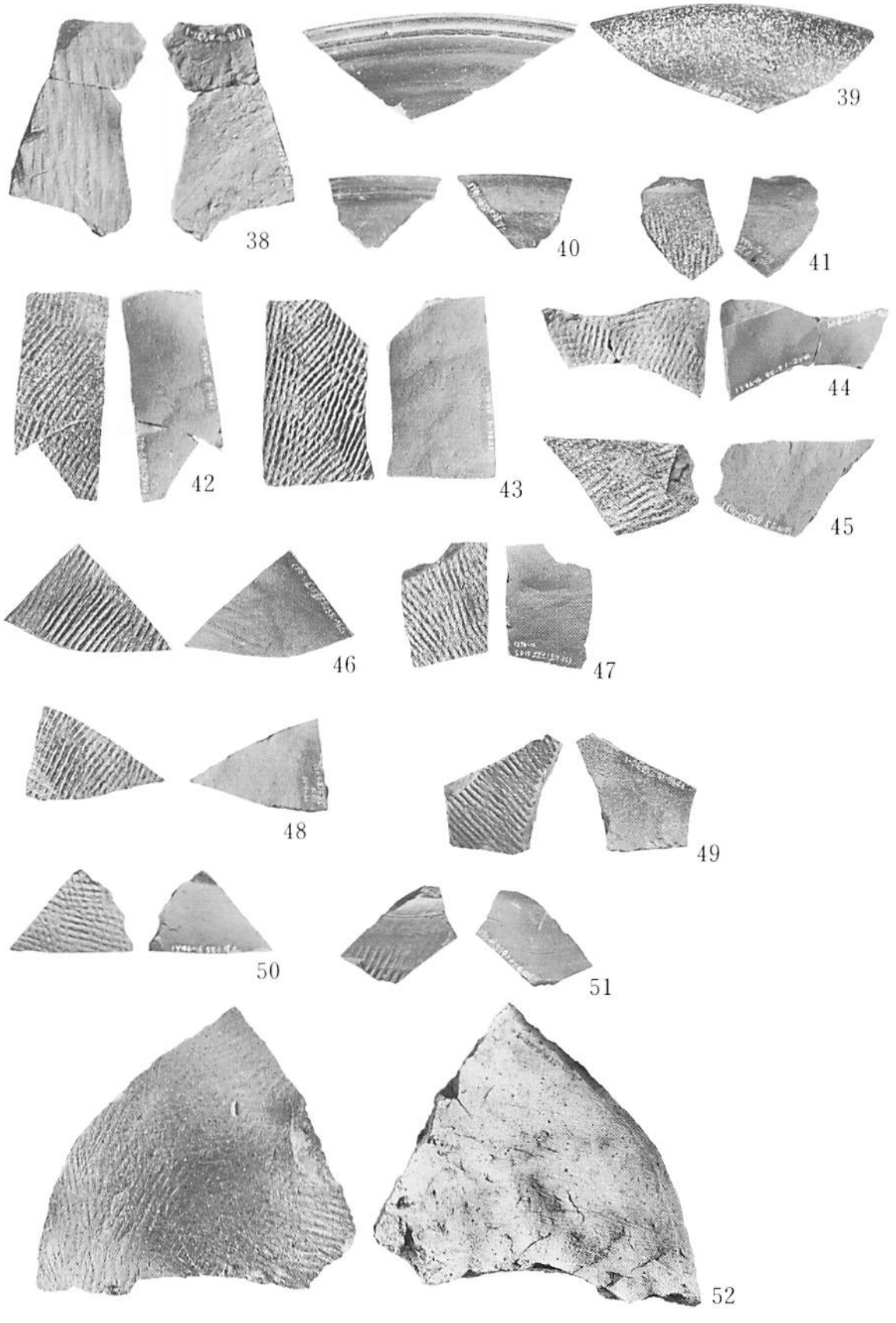
写真図版38　古代の土師器、須恵器①



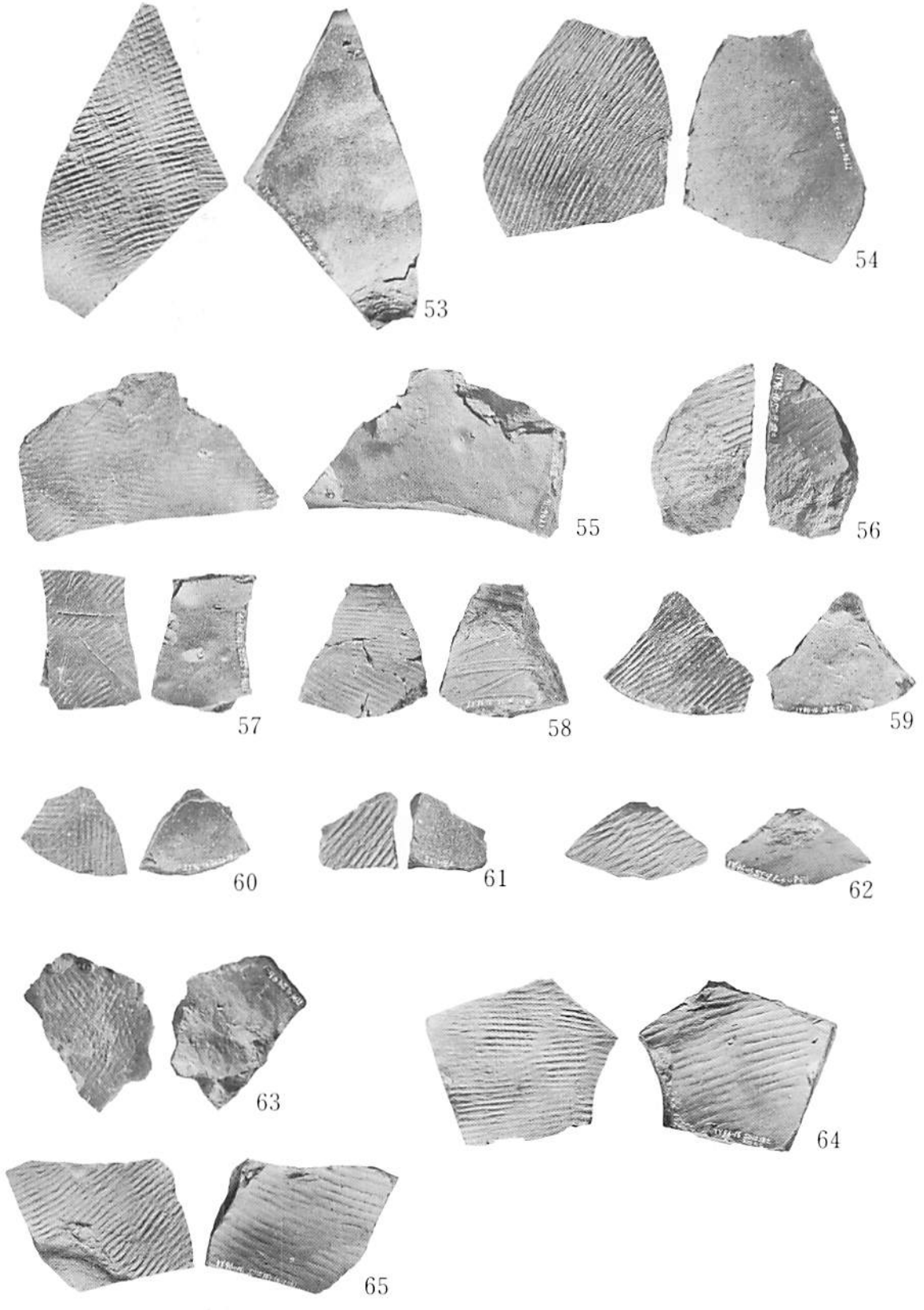
写真図版39　古代の土師器、須恵器②



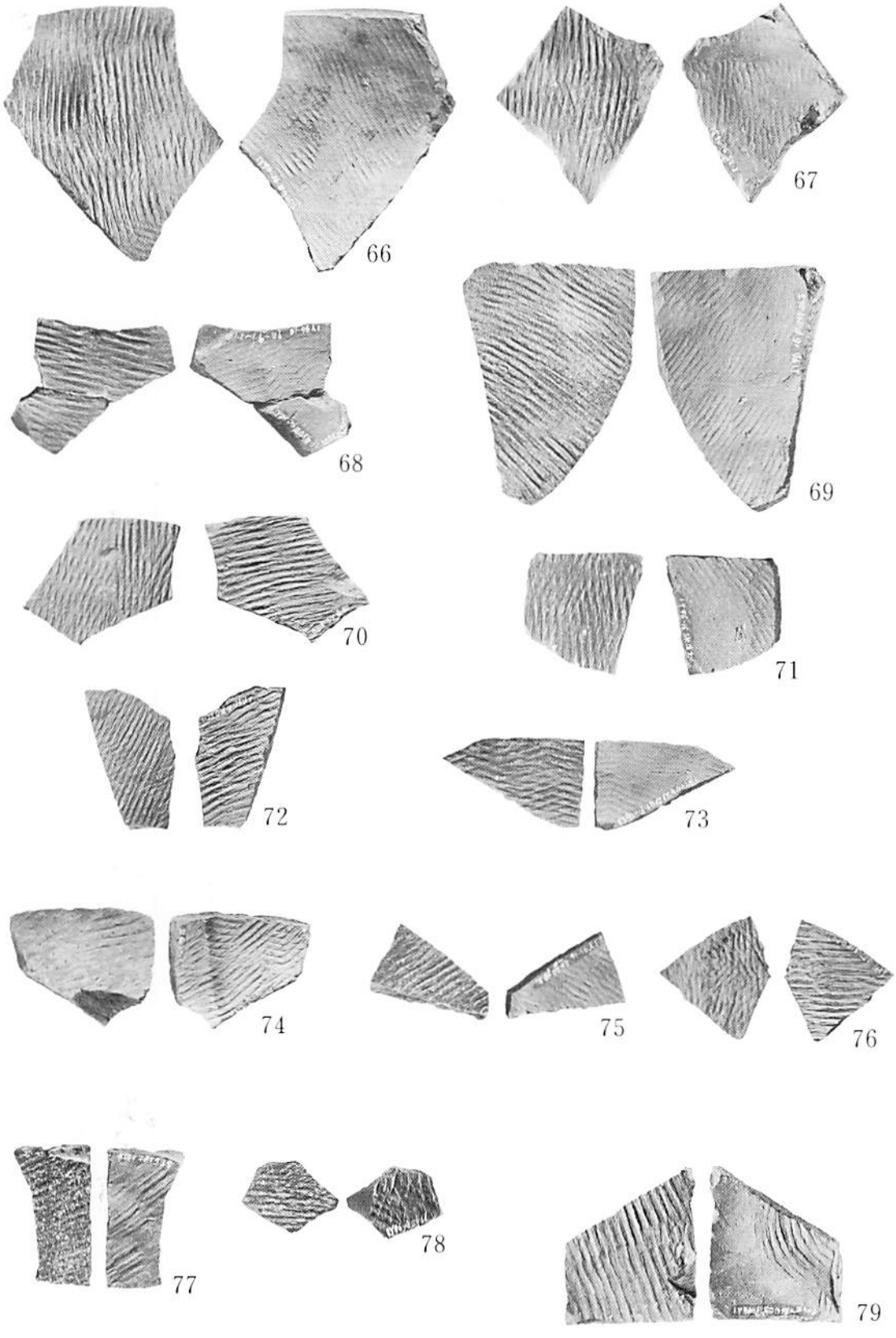
写真図版40　古代の土師器、須恵器③



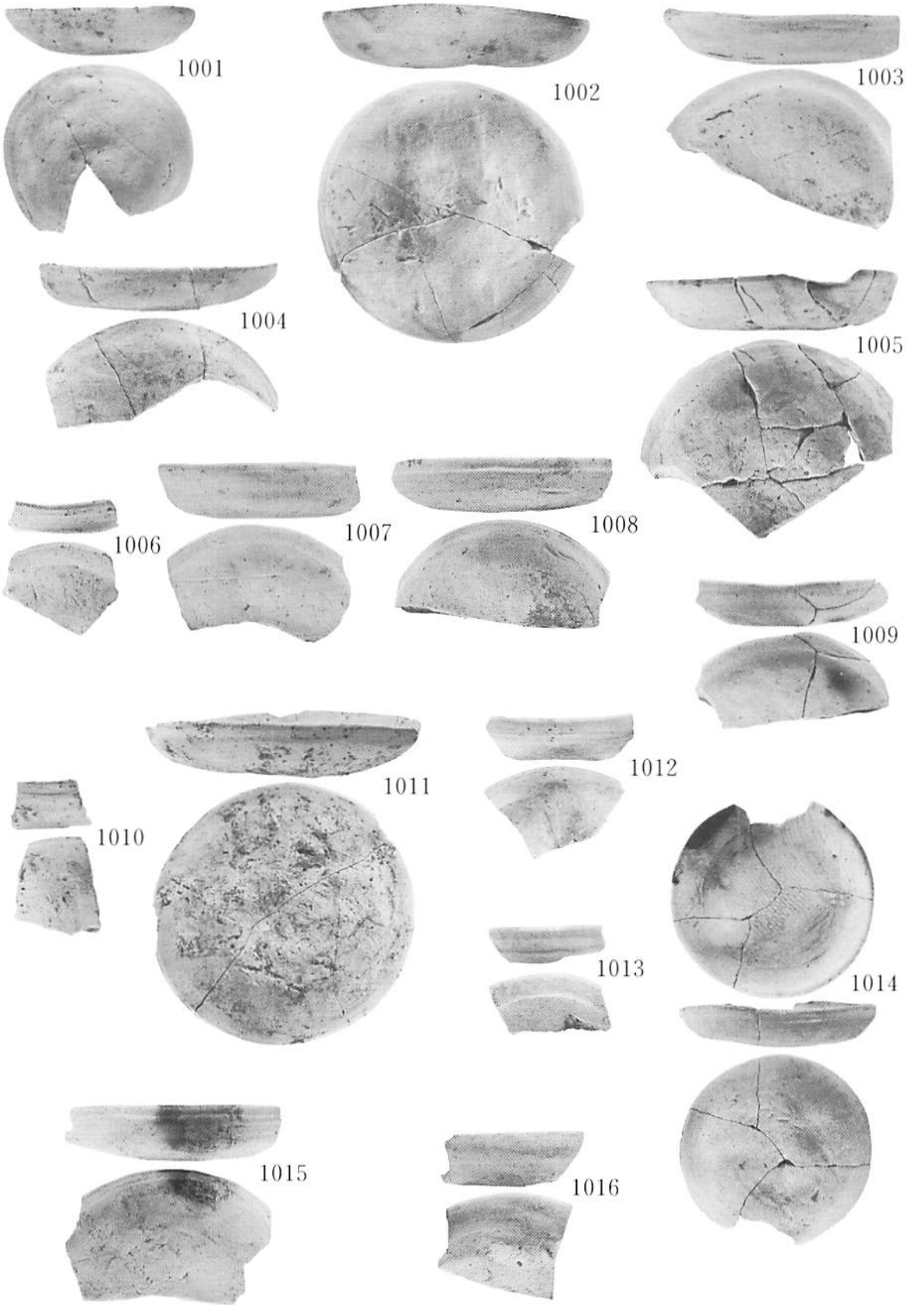
写真図版41　古代の土師器、須恵器④



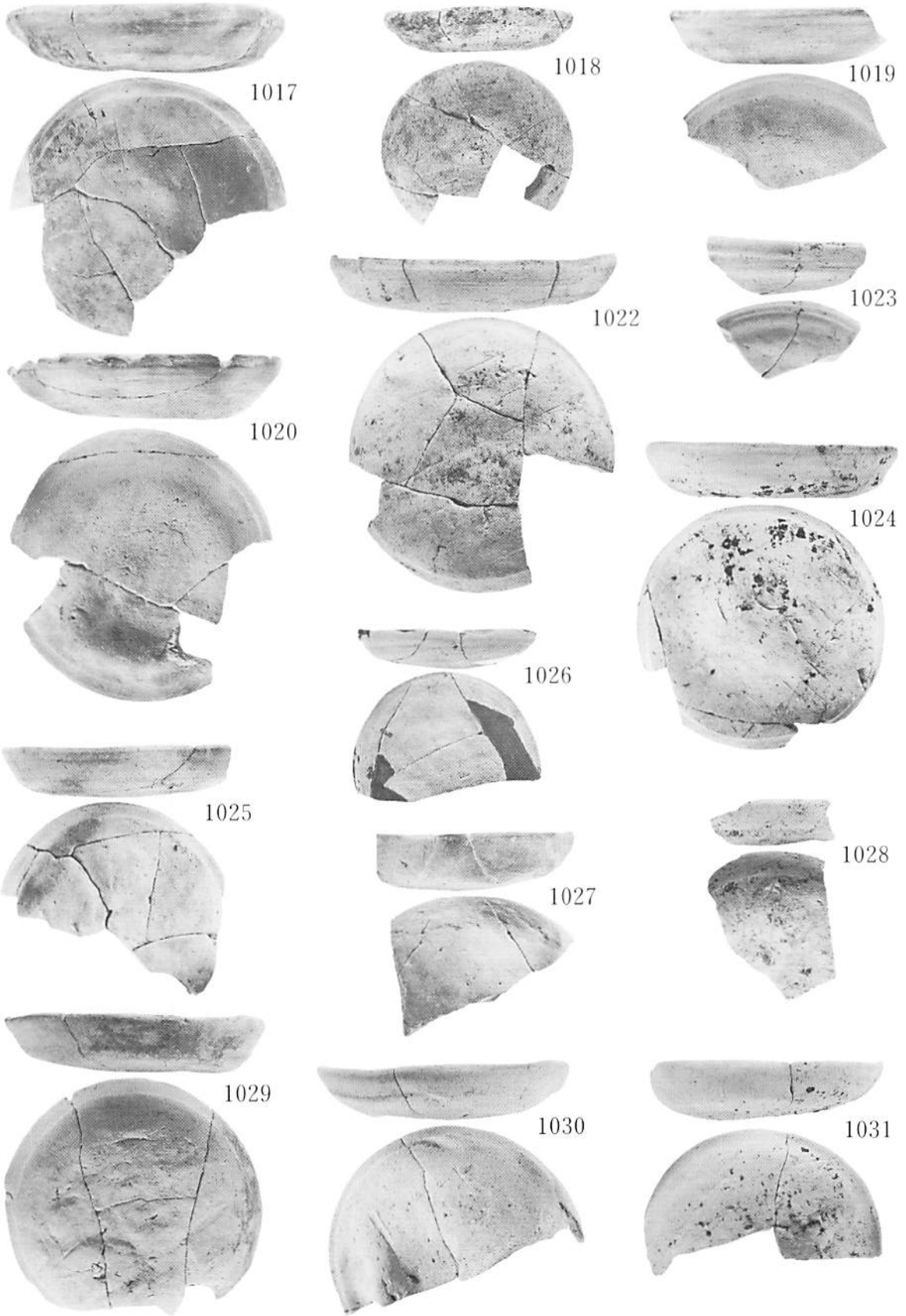
写真図版42　古代の土師器、須恵器⑤



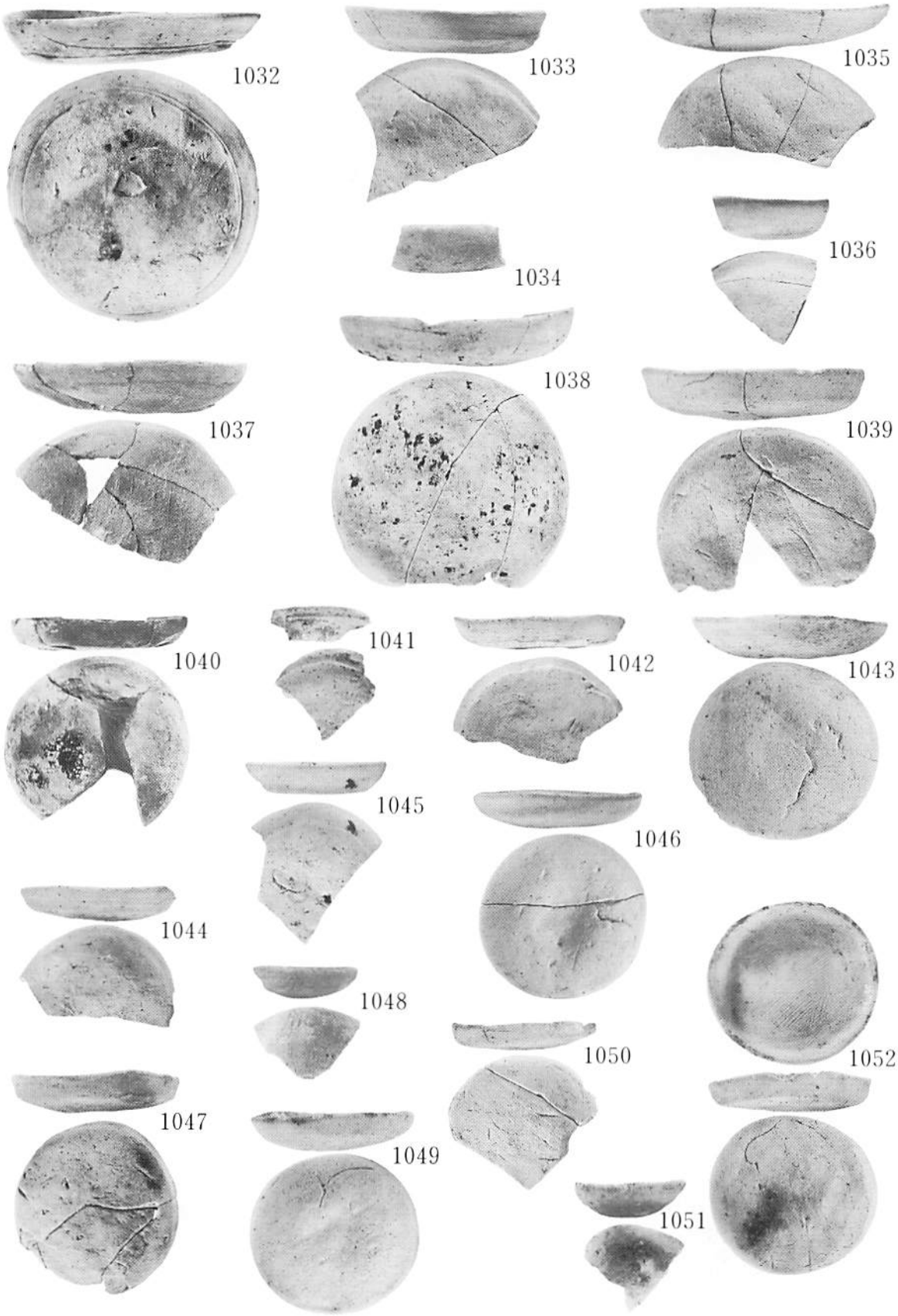
写真図版43　古代の土師器、須恵器⑥



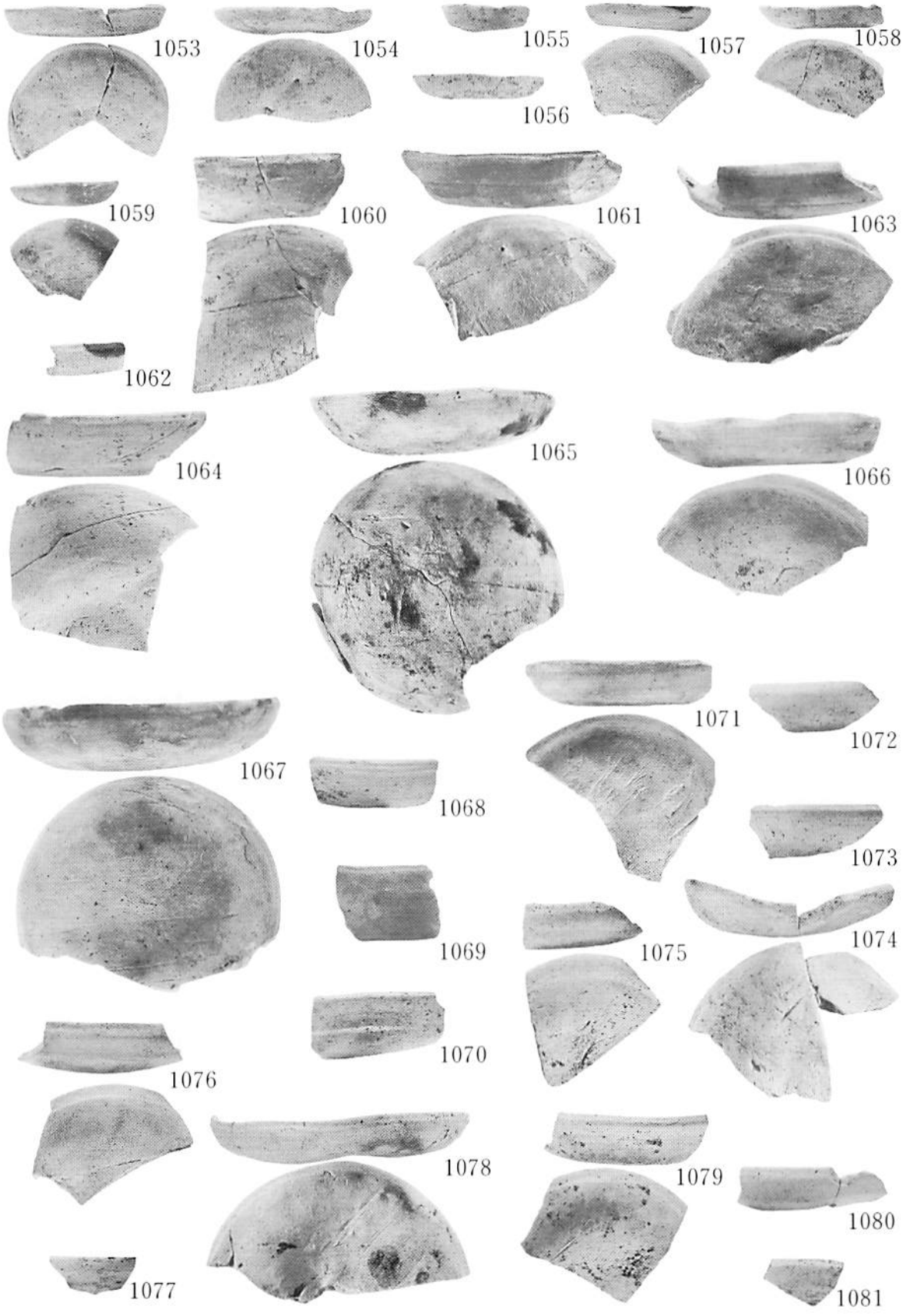
写真図版44　かわらけ①



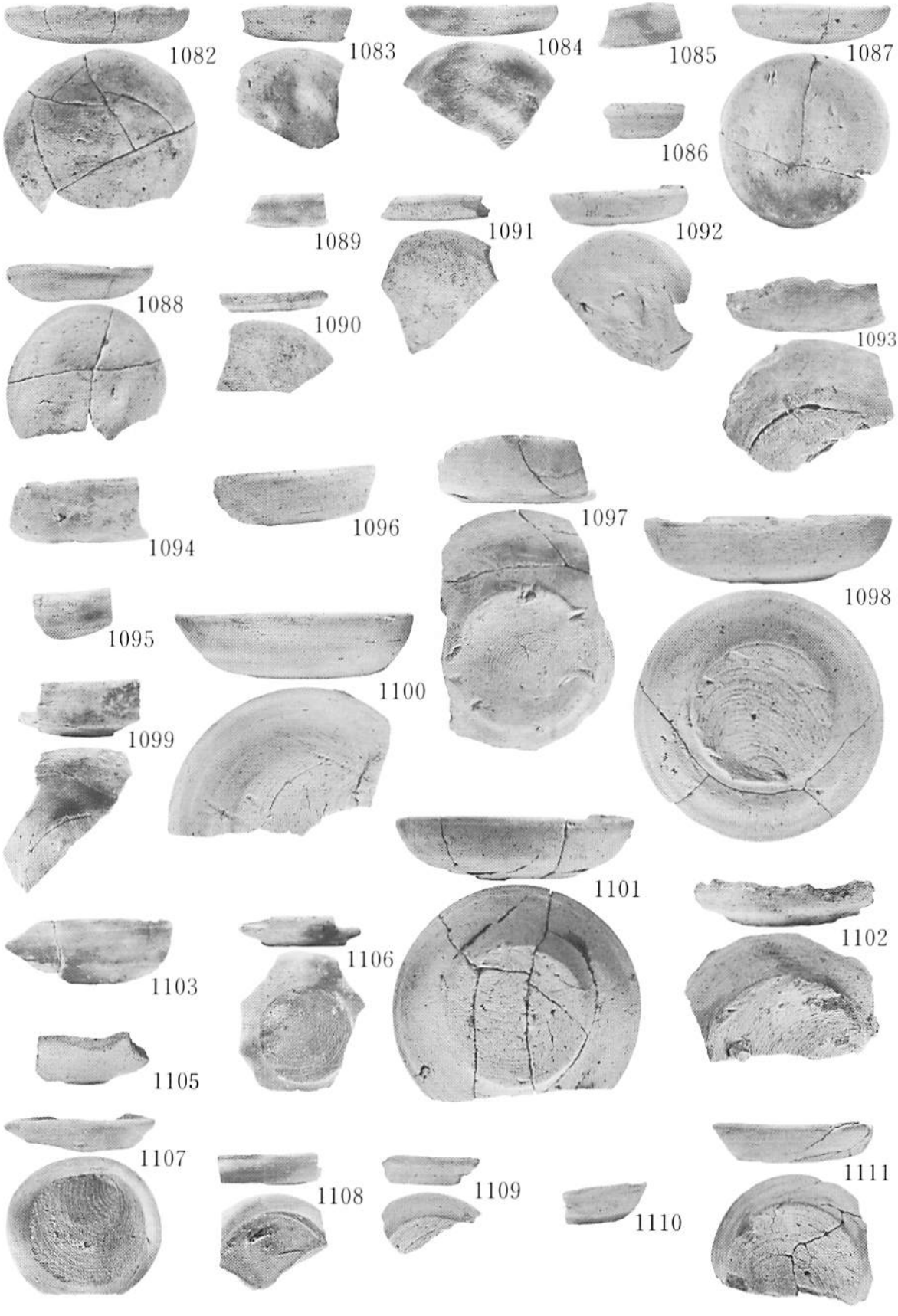
写真図版45　かわらけ②



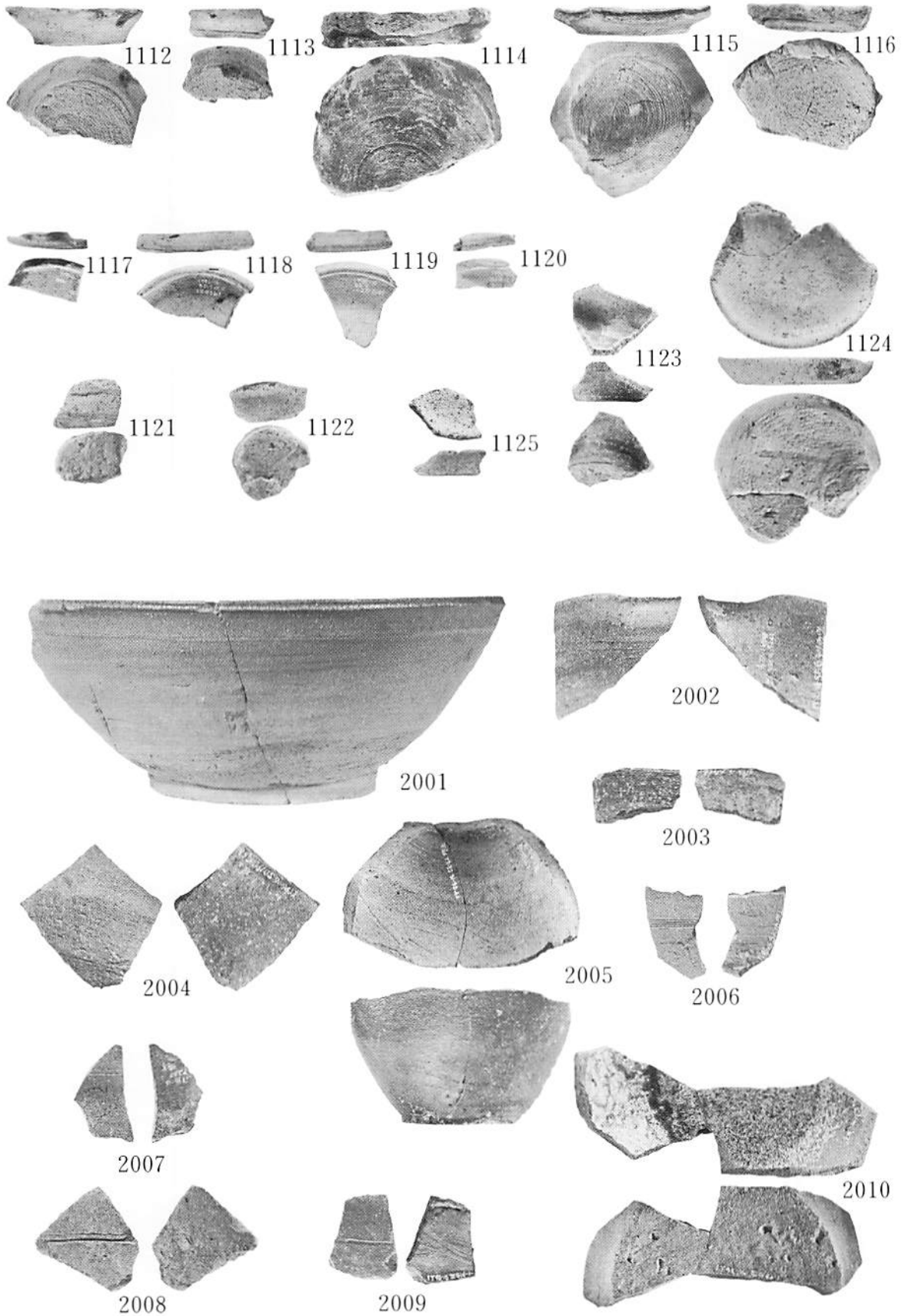
写真図版46　かわらけ③



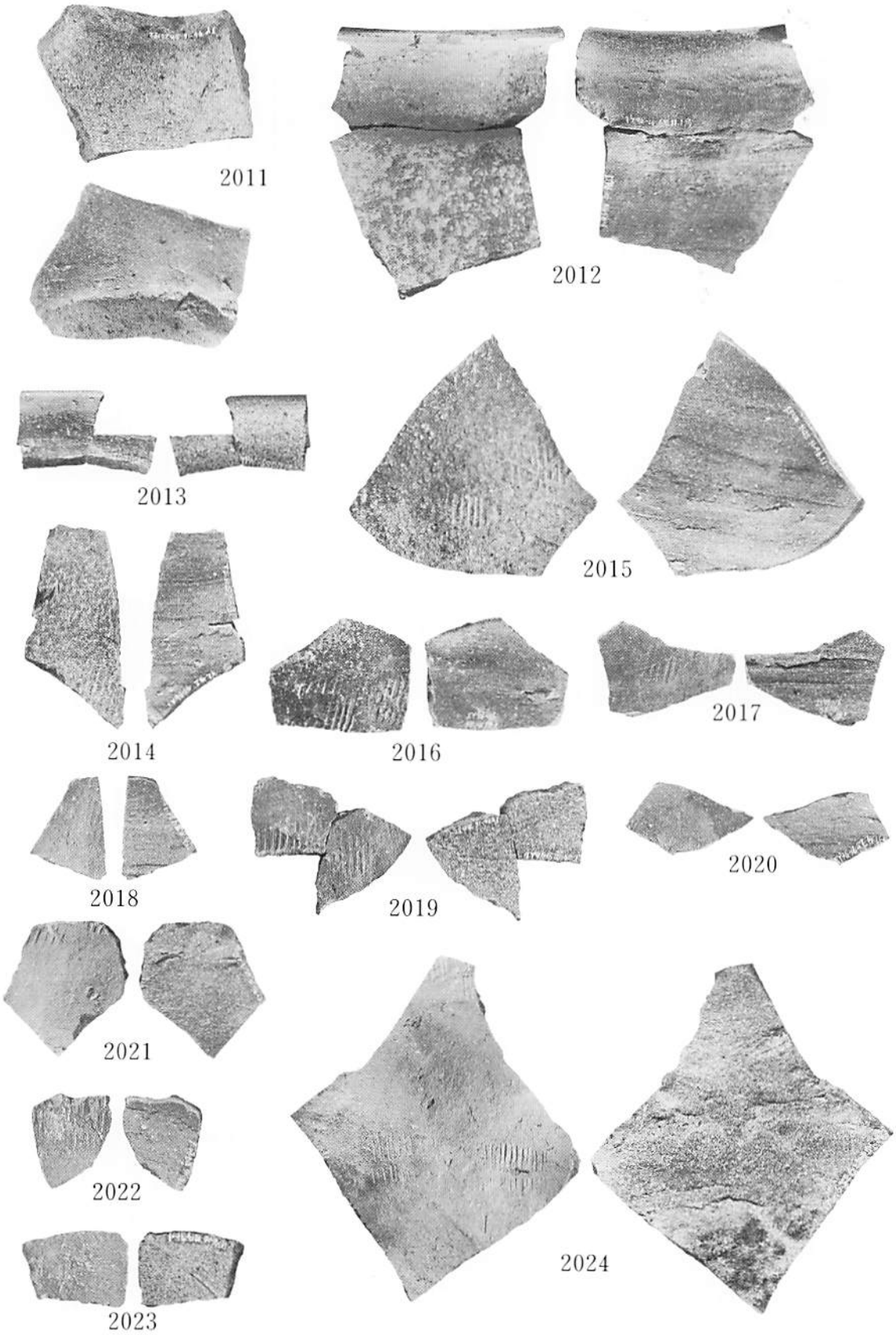
写真図版47　かわらけ④



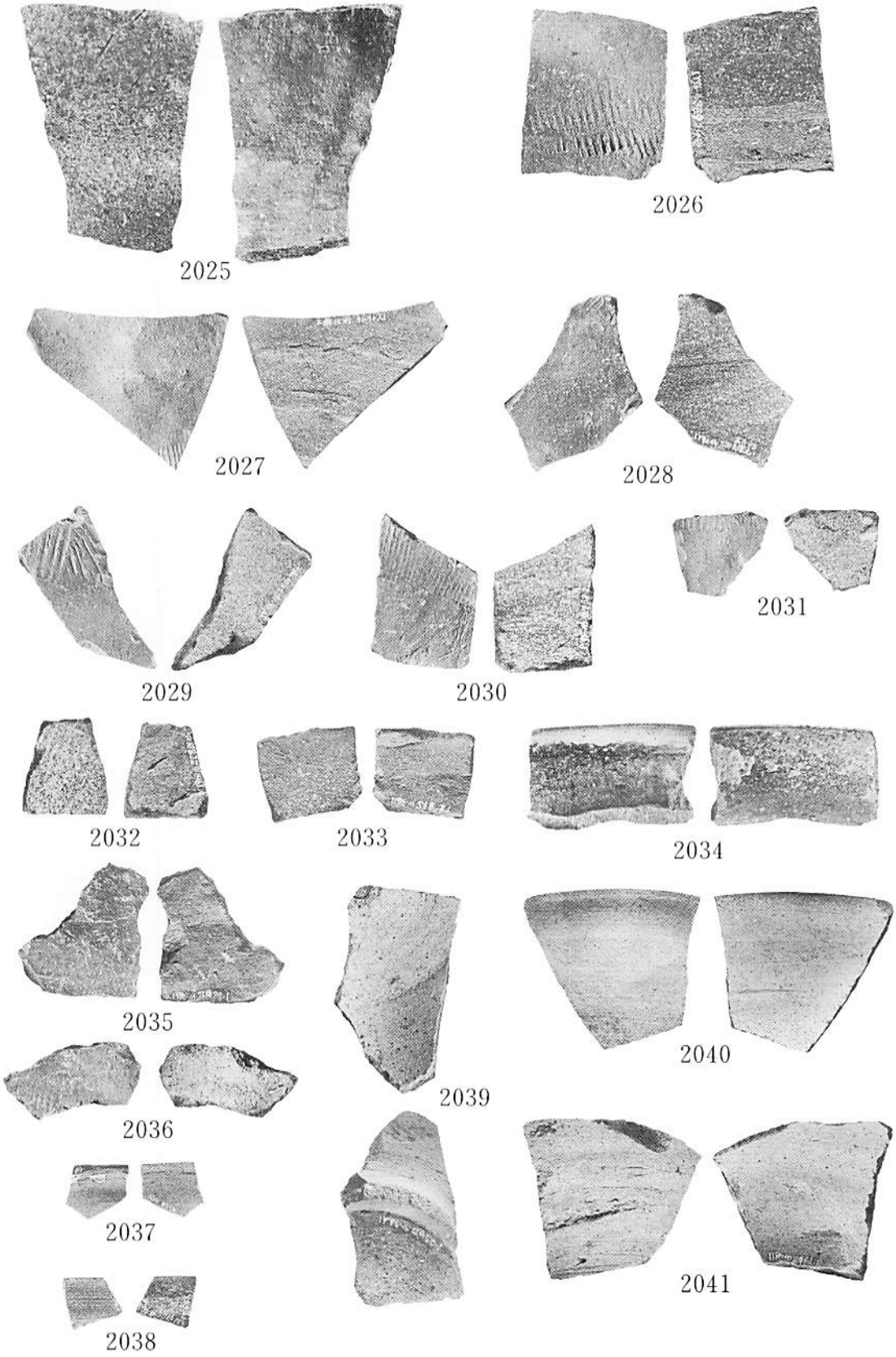
写真図版48　かわらけ⑤



写真図版49　かわらけ⑥・常滑産陶器①



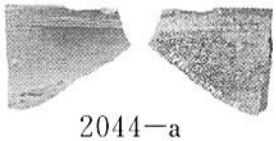
写真図版50　常滑産陶器②



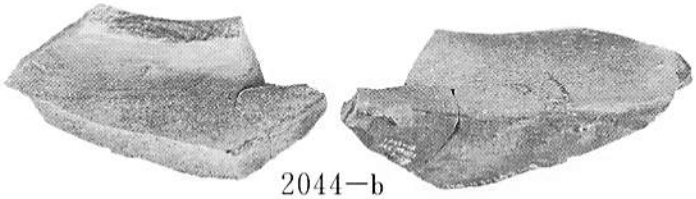
写真図版51　常滑産陶器③・渥美産陶器①

2042

2043

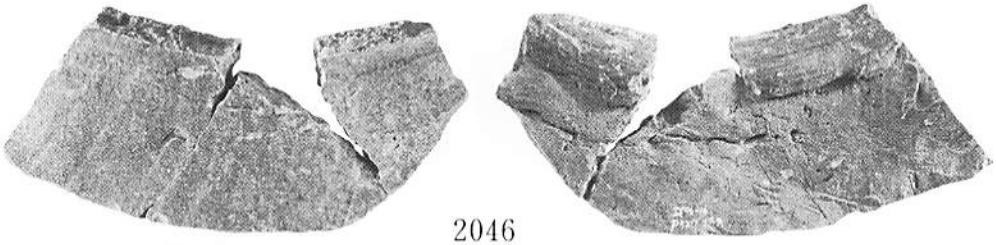


2044—a

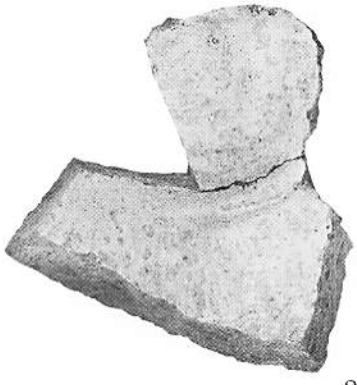


2044—b

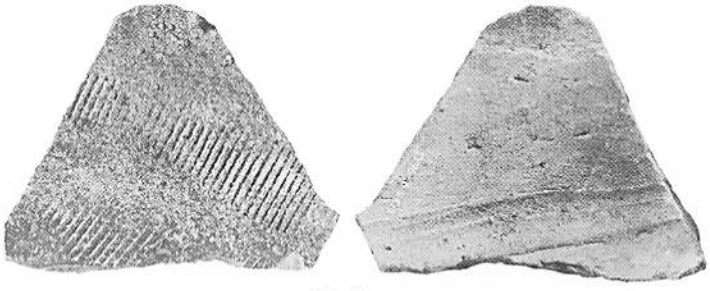
2045



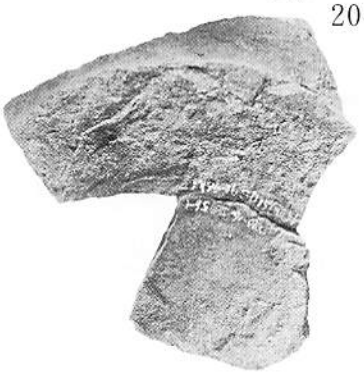
2046



2047

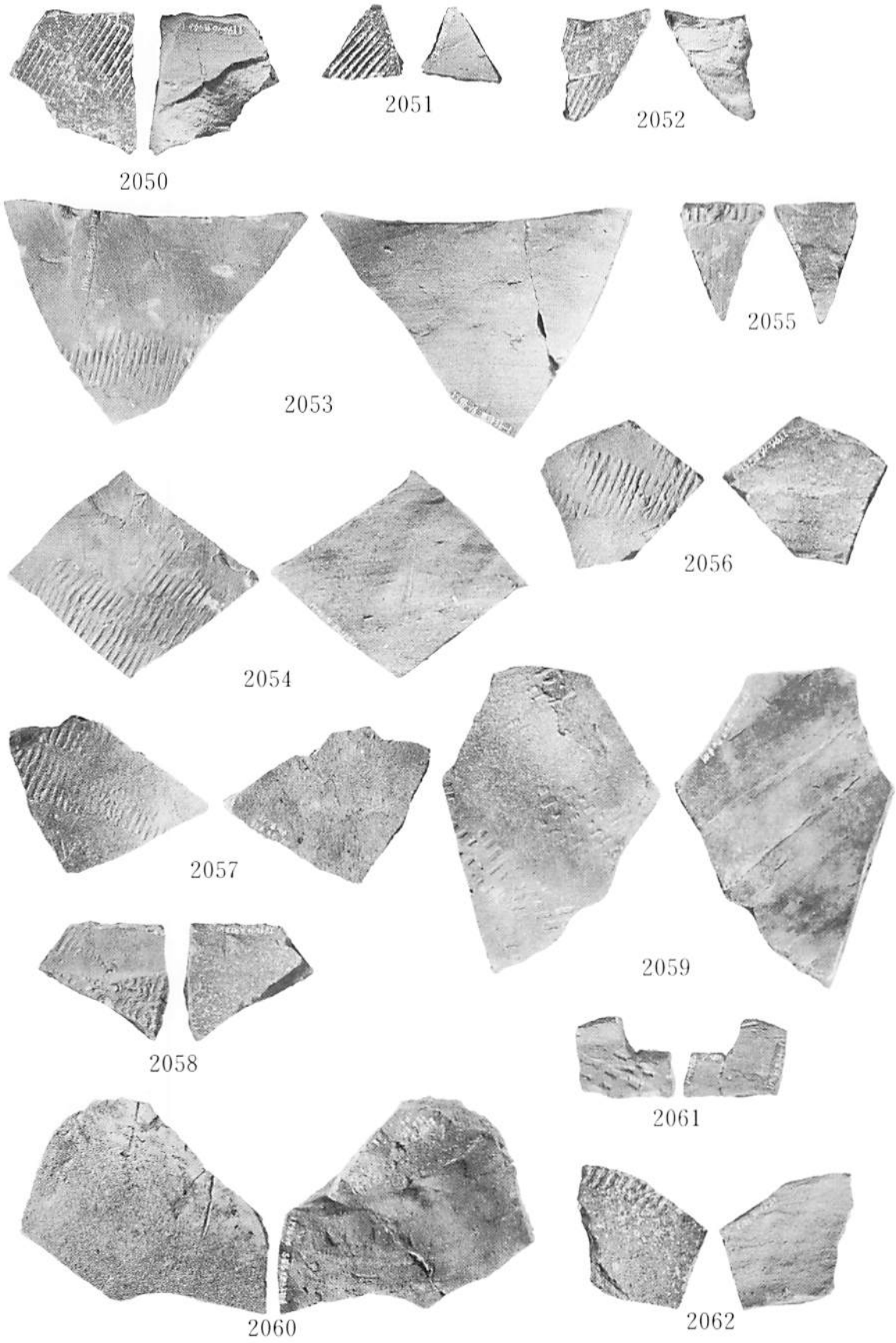


2048

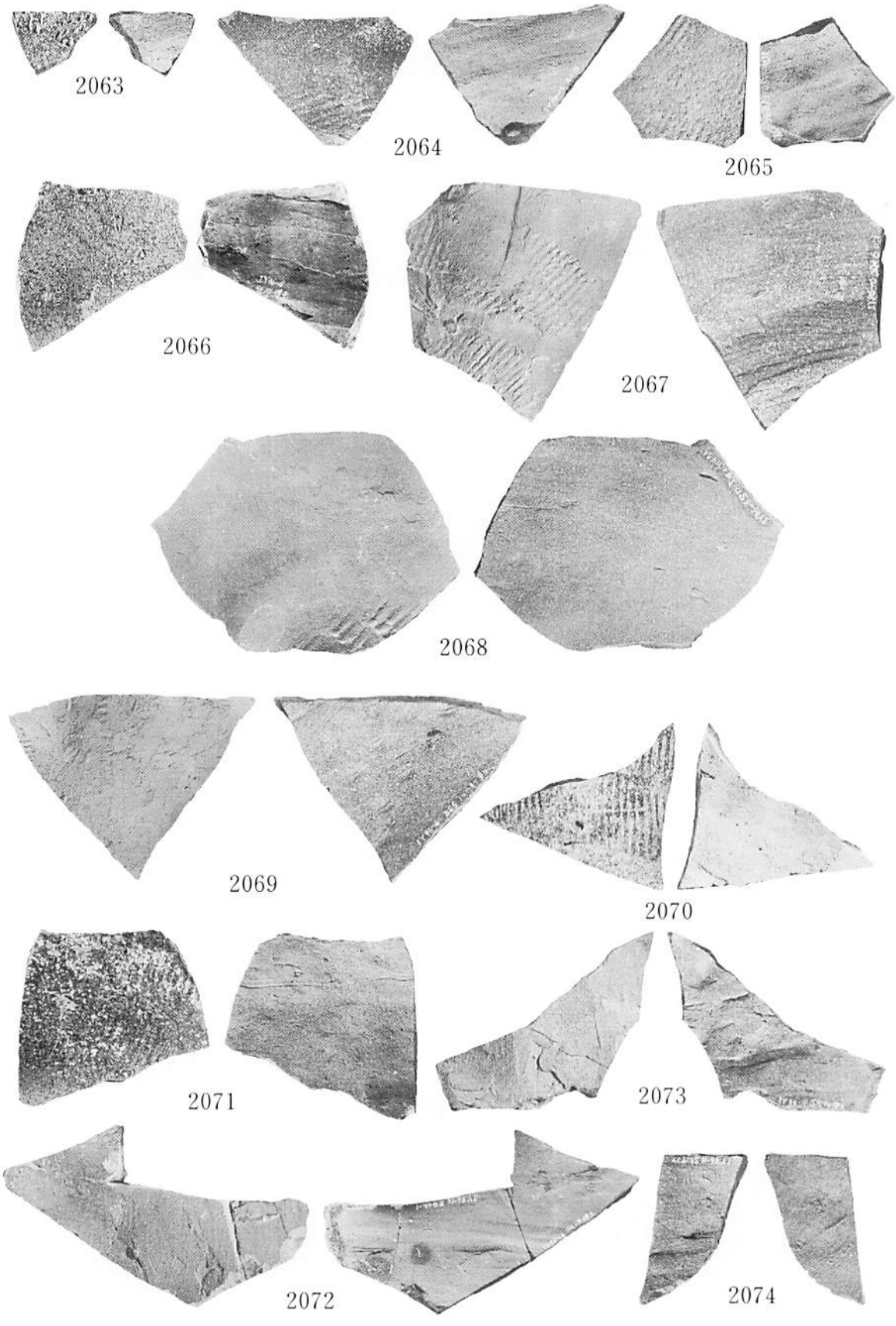


2049

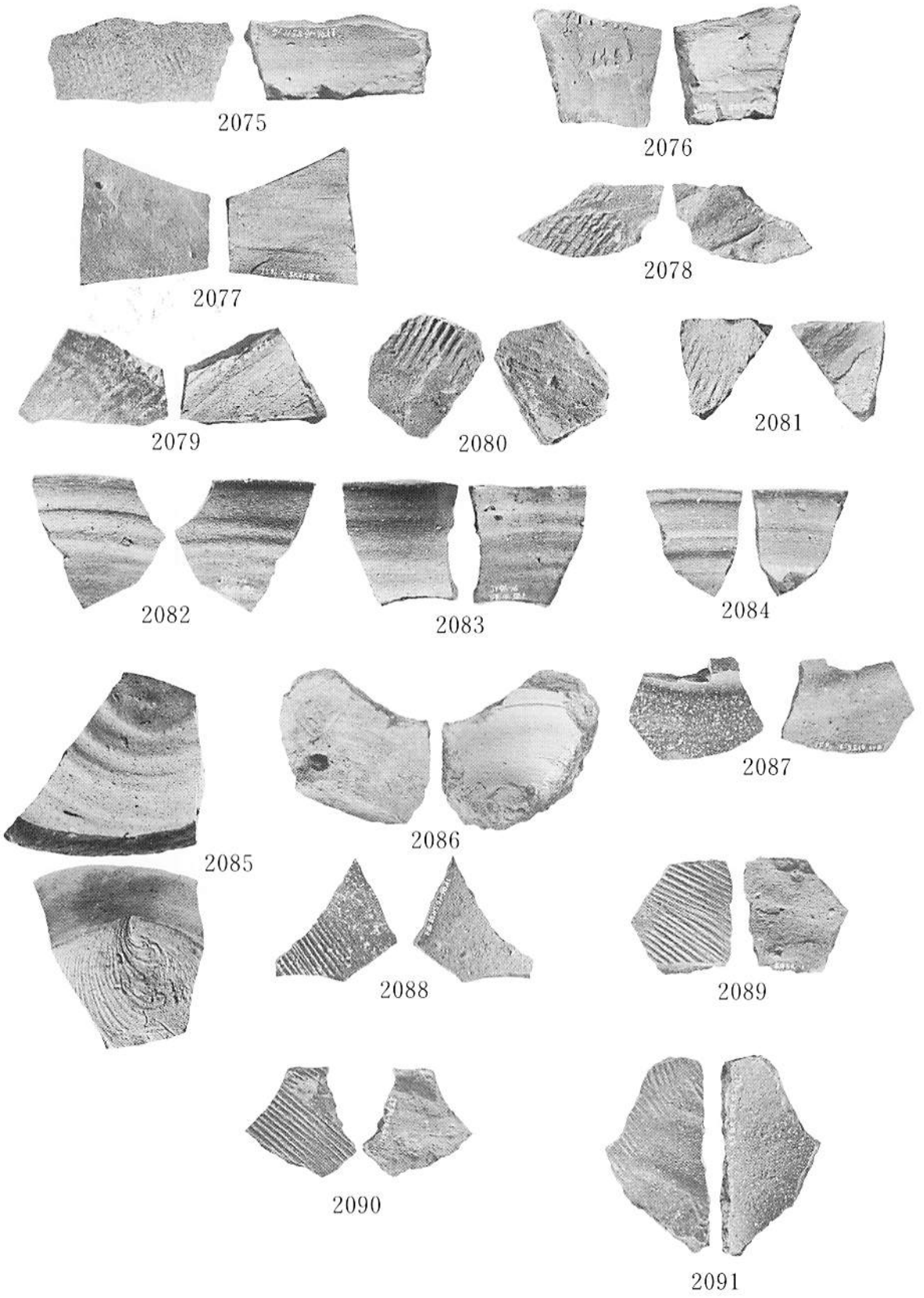
写真図版52　渥美産陶器②



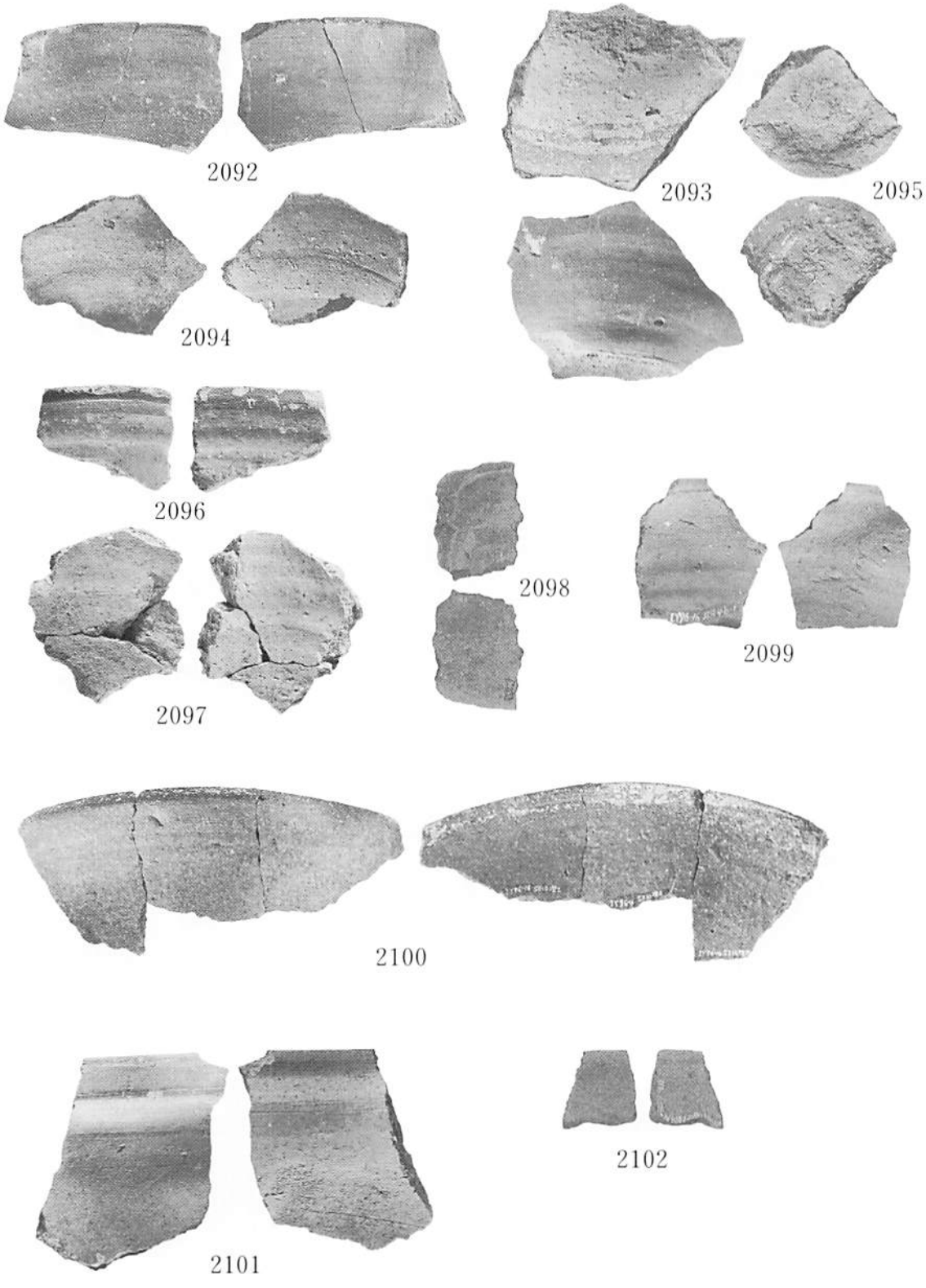
写真図版53　渥美産陶器③



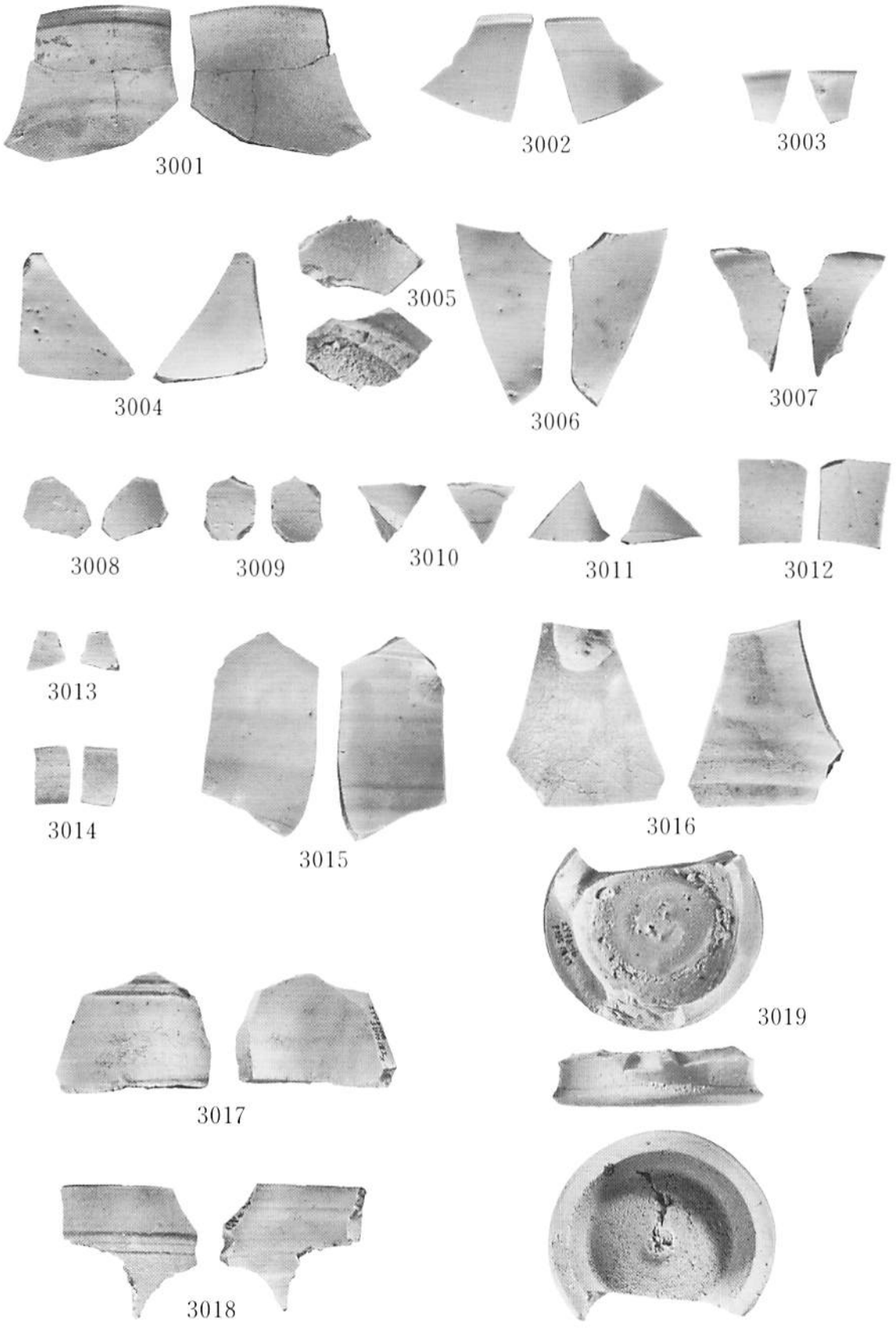
写真図版54　渥美産陶器④



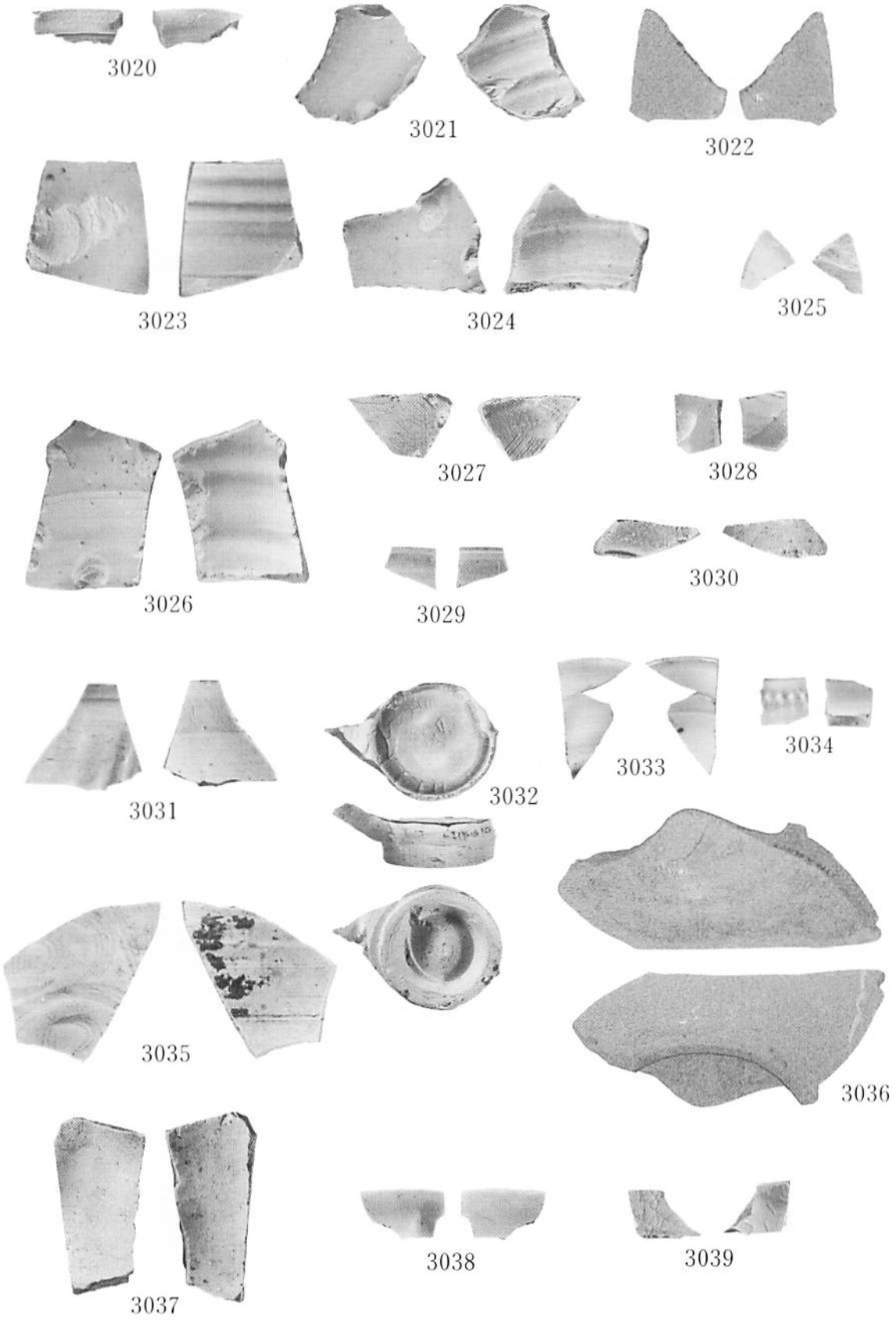
写真図版55　渥美産陶器⑤・須恵器系陶器



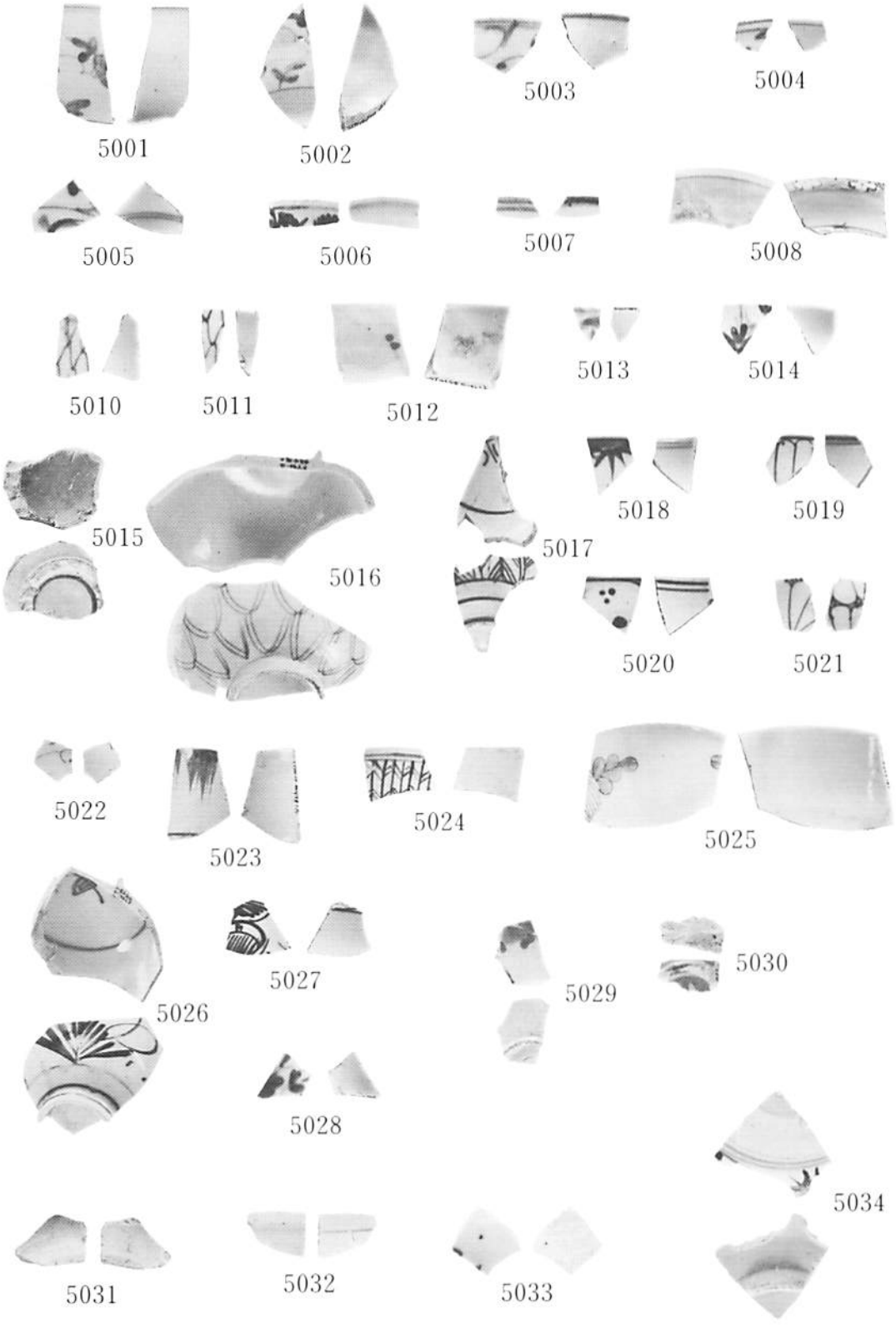
写真図版56　中世の瓷器系陶器



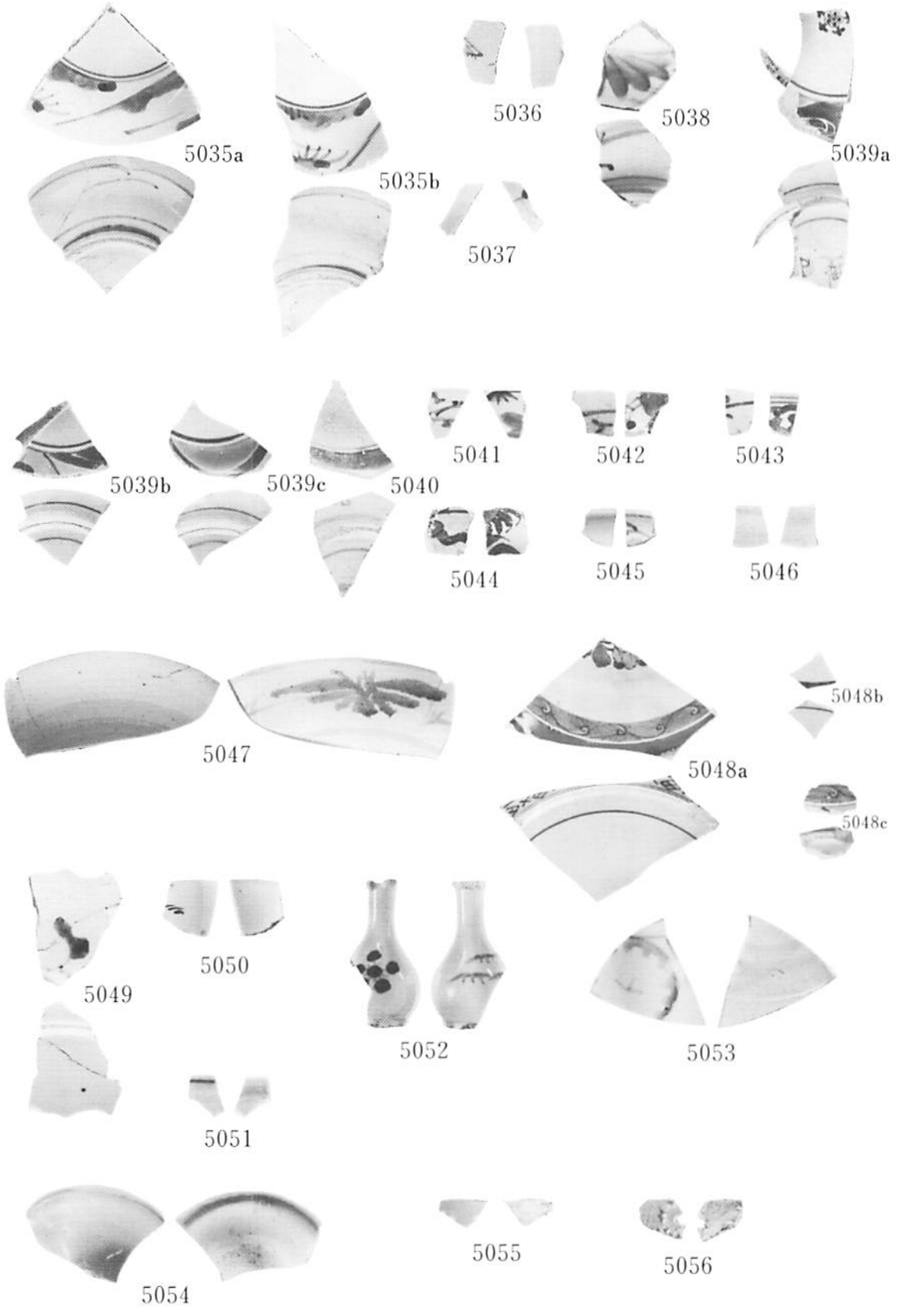
写真図版57　中国産磁器①



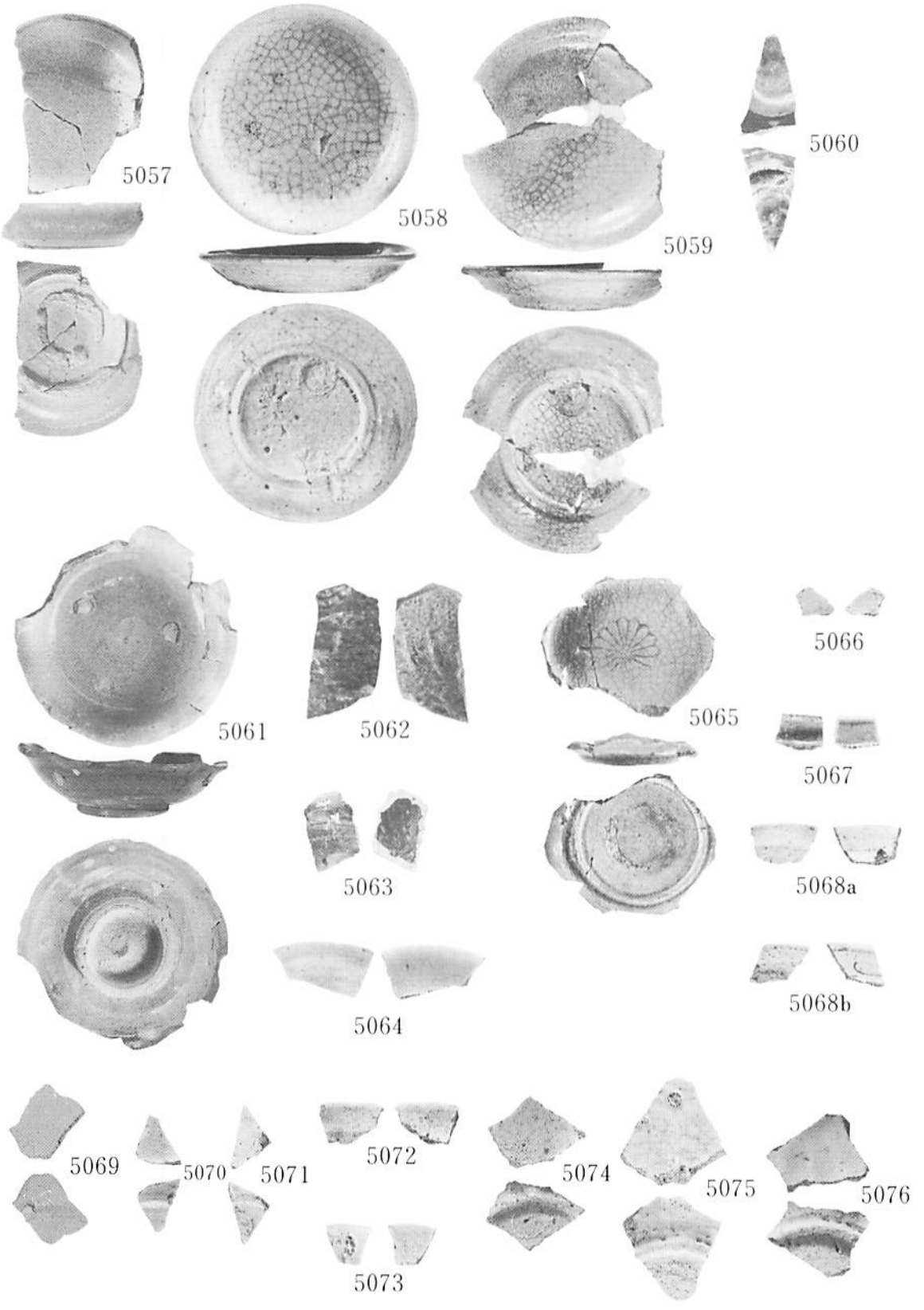
写真図版58　中国産磁器②



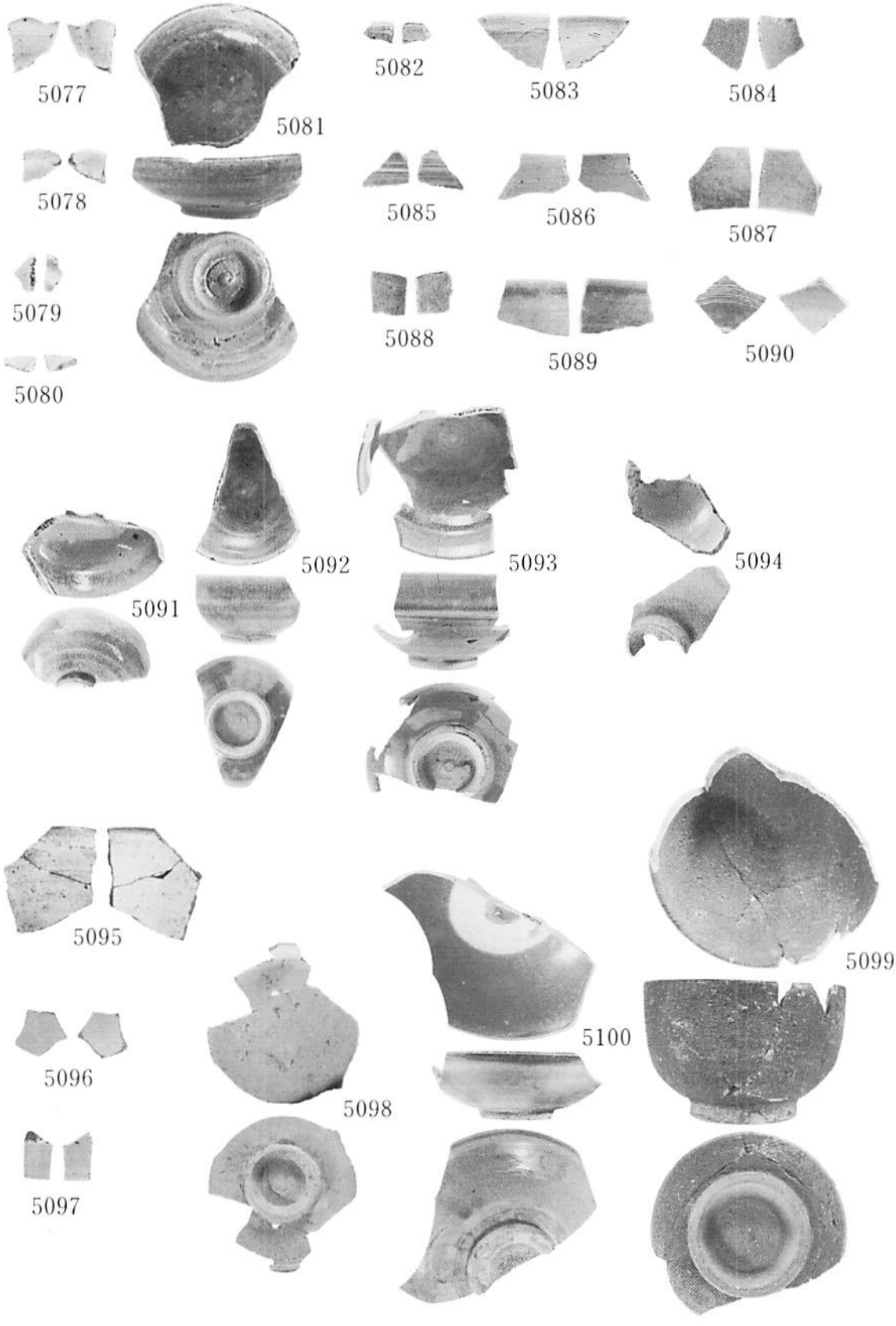
写真図版59　近世の磁器①



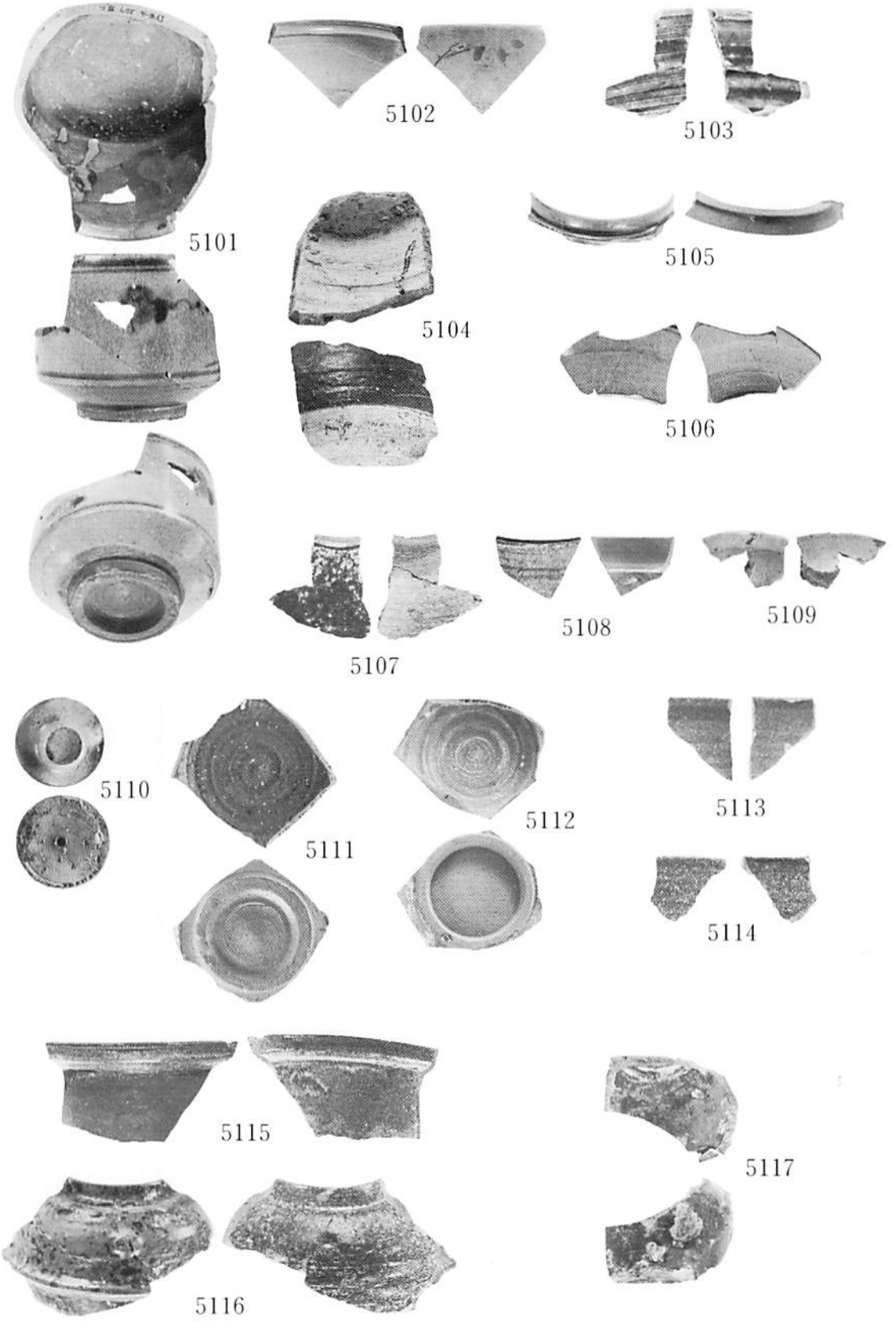
写真図版60　近世の磁器②



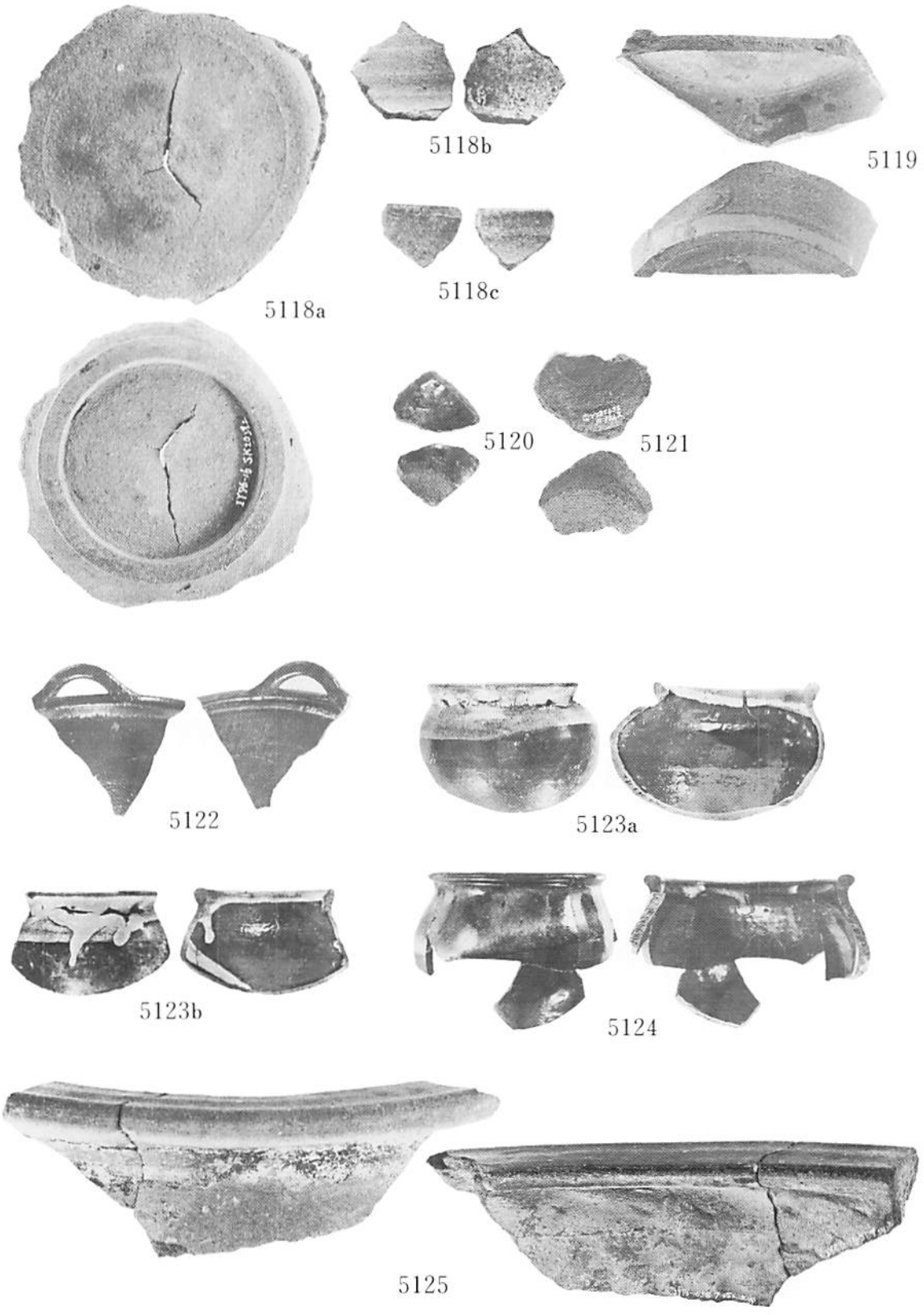
写真図版61　近世の陶器①



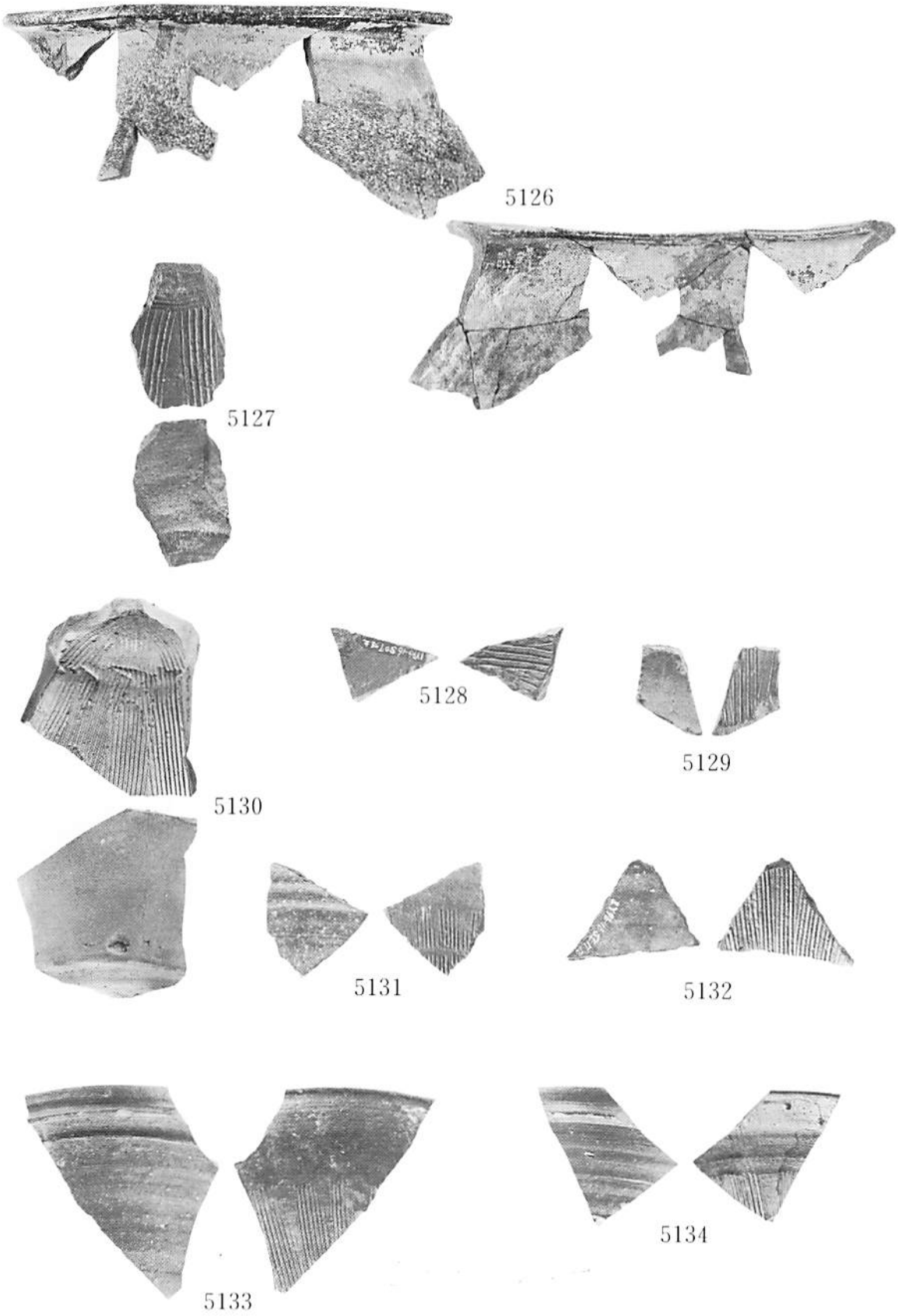
写真図版62　近世の陶器②



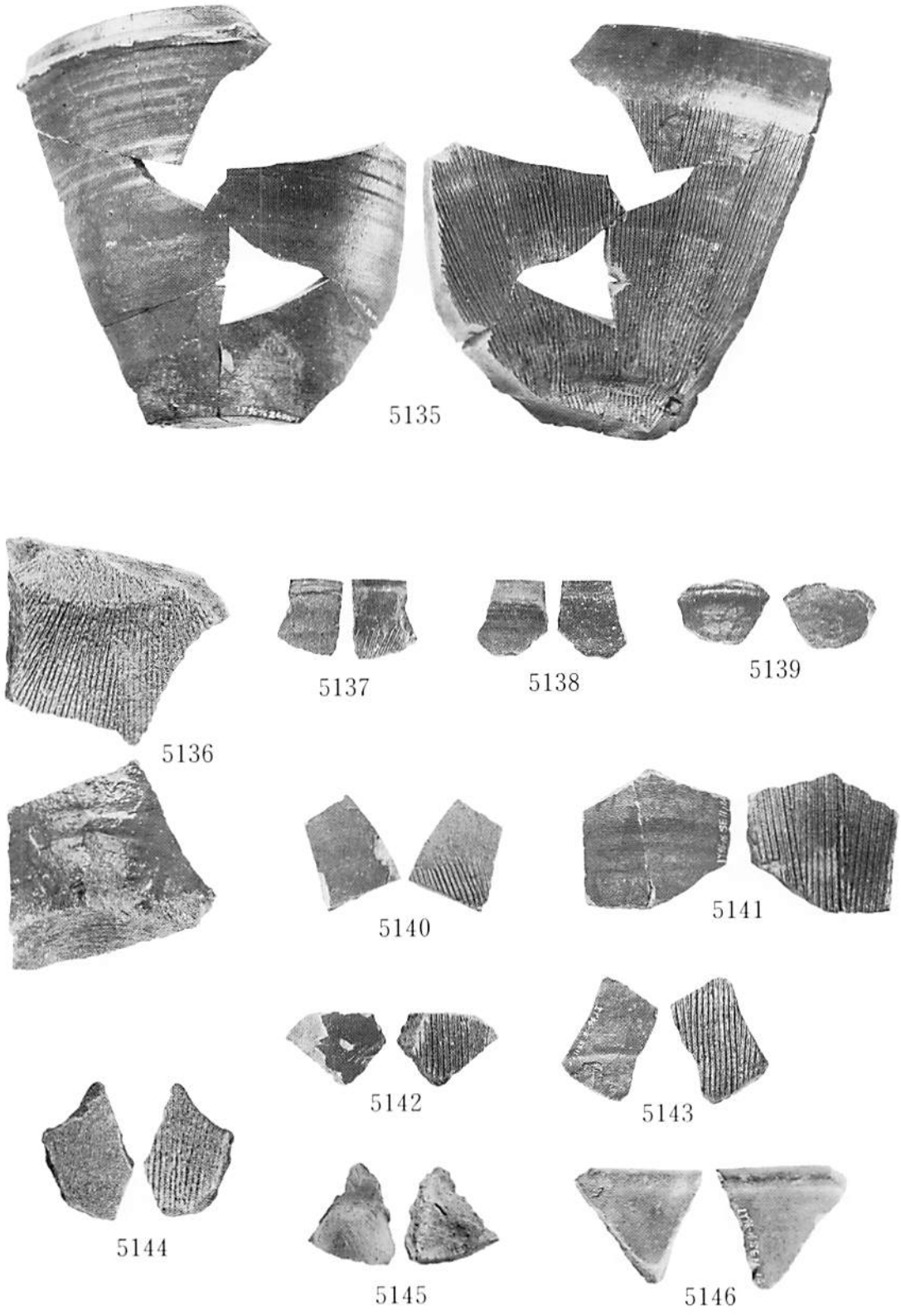
写真図版63　近世の陶器③



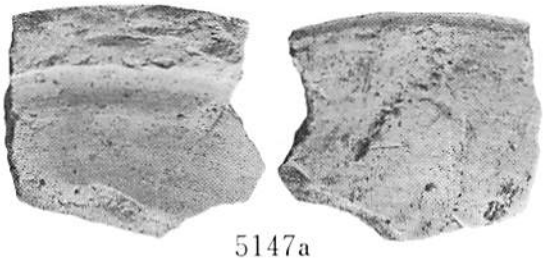
写真図版64　近世の陶器④



写真図版65　近世の陶器⑤

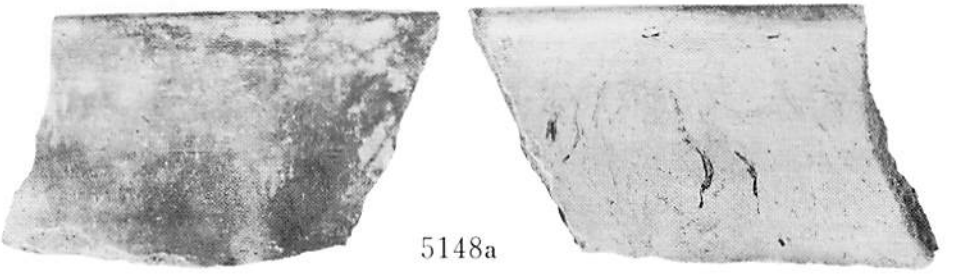


写真図版66　近世の陶器⑥



5147a

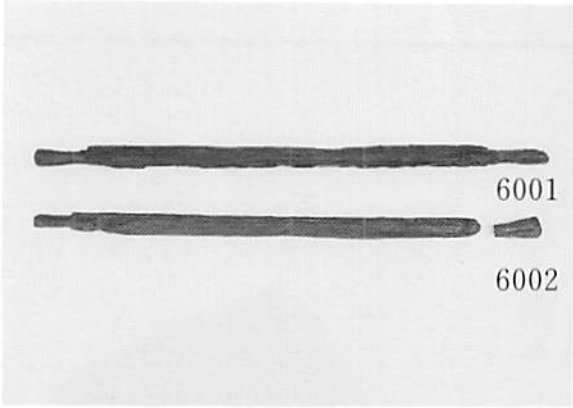
5147b

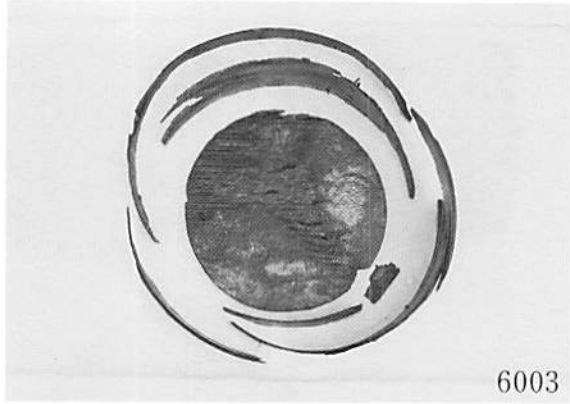


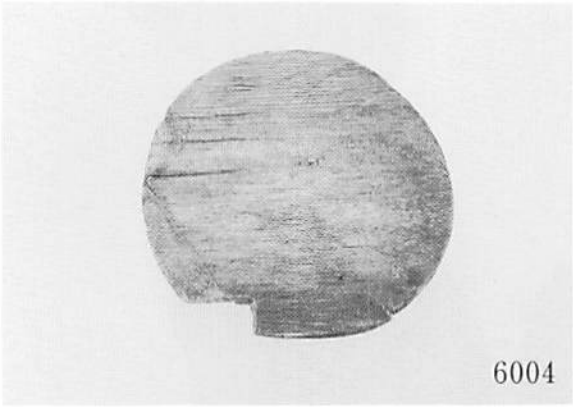
5148a

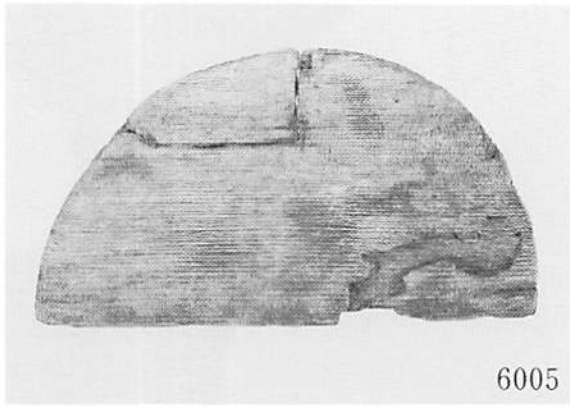
5148b

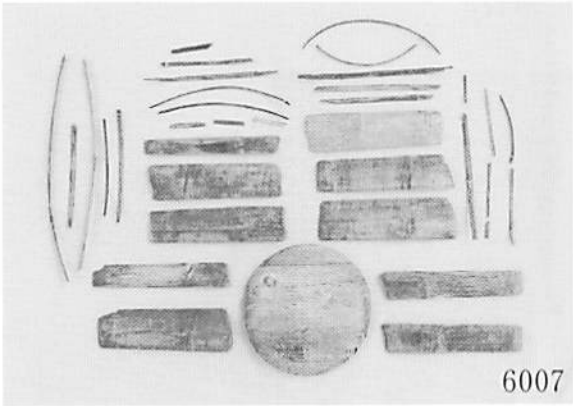
写真図版67　近世の陶器⑦

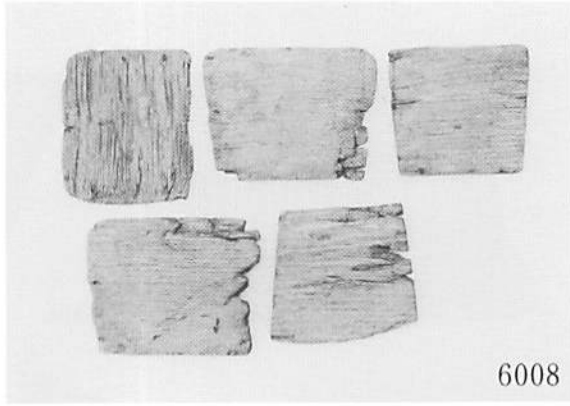


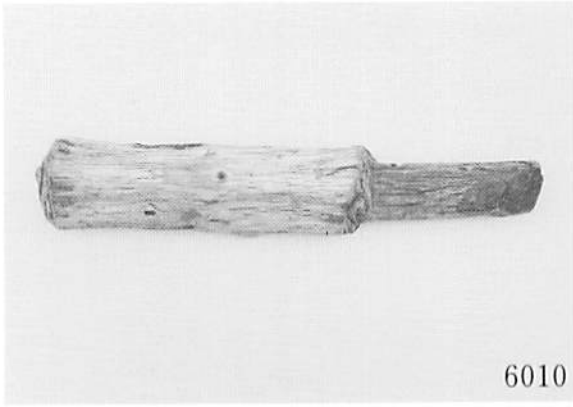


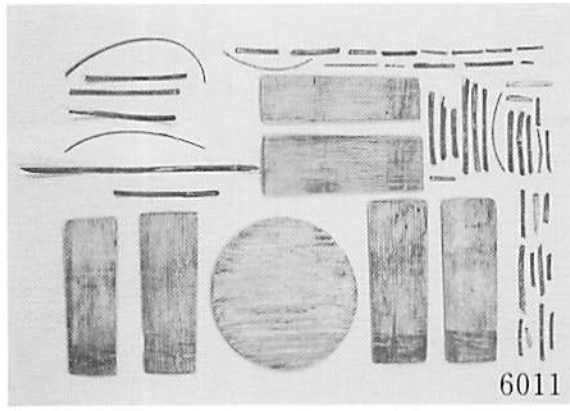












写真図版68　木製品

7001

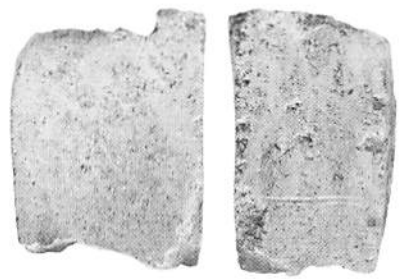
7002

7003

7004

7005

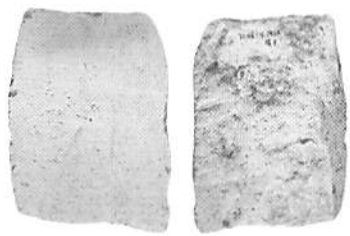
7006


7009

7007

7010

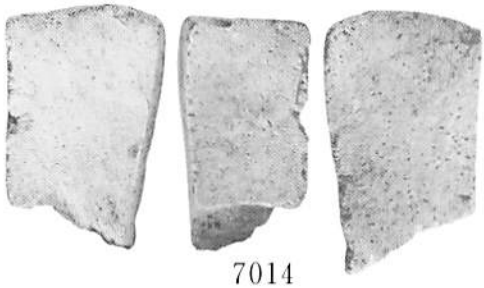
7011


7012

7008

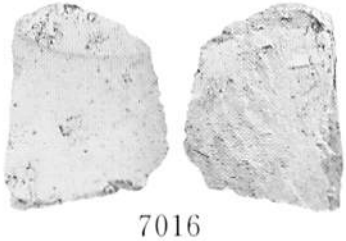
7013

写真図版69　石製品①



7014

7015



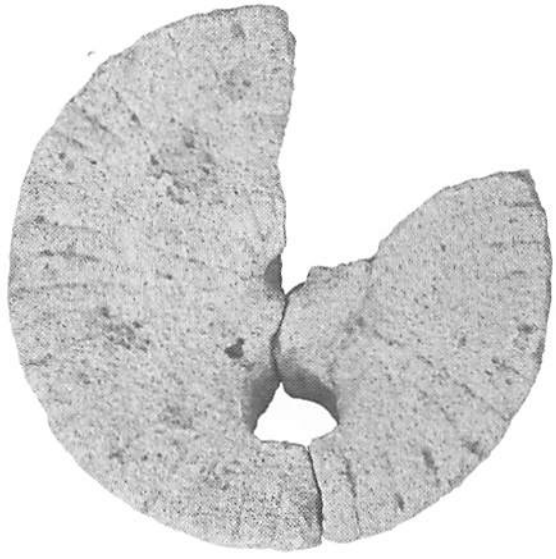
7016

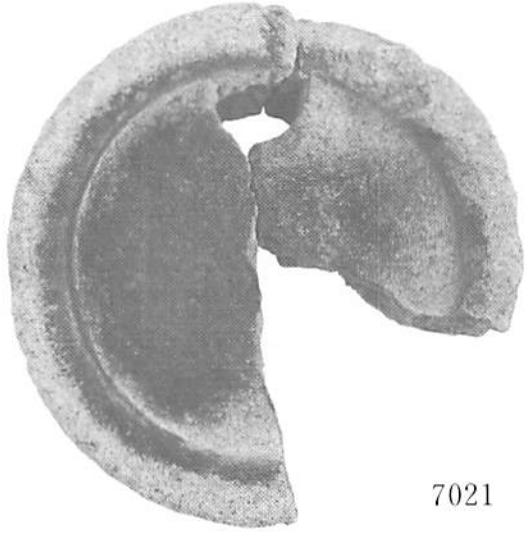
7017

7018

7019

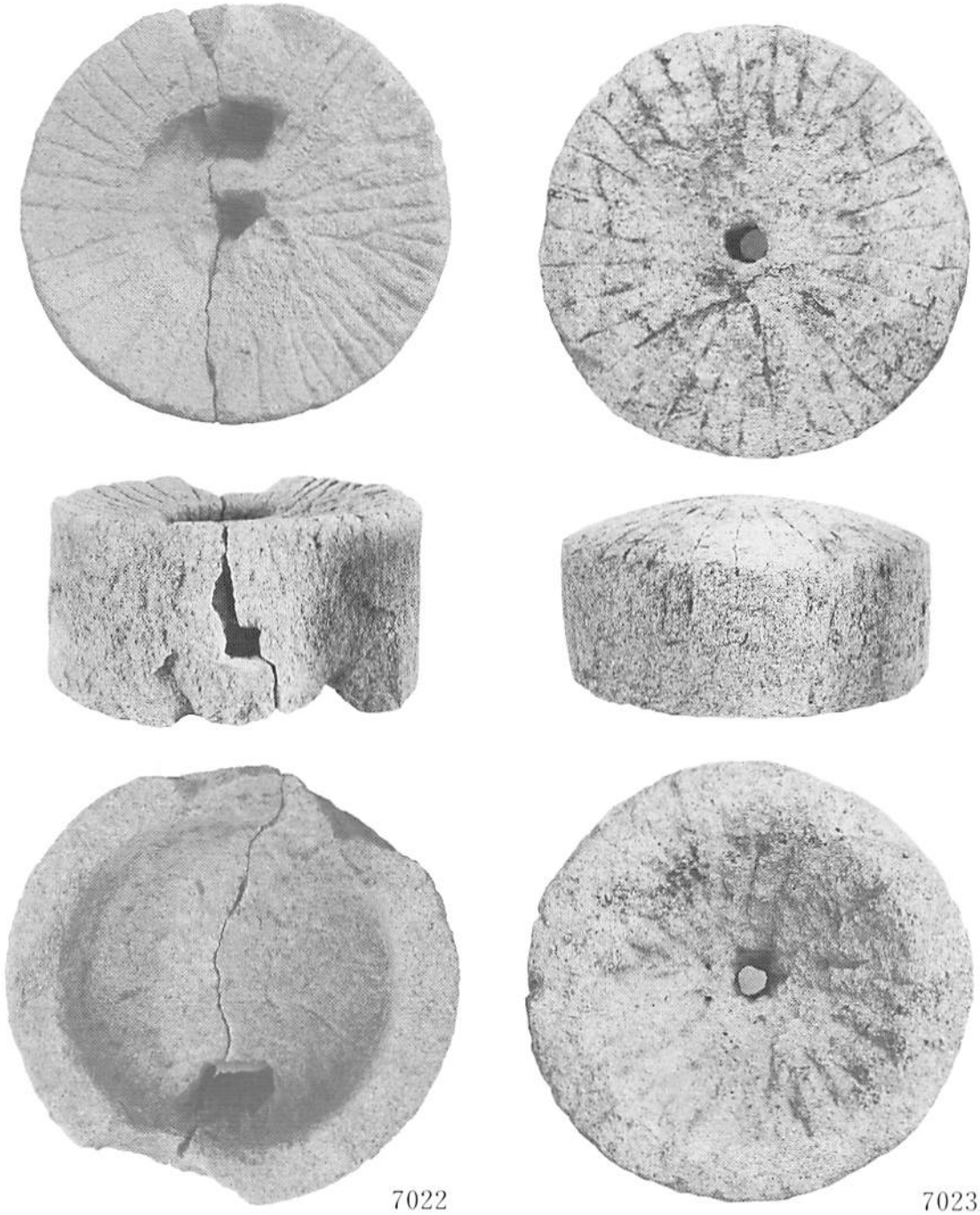
7020



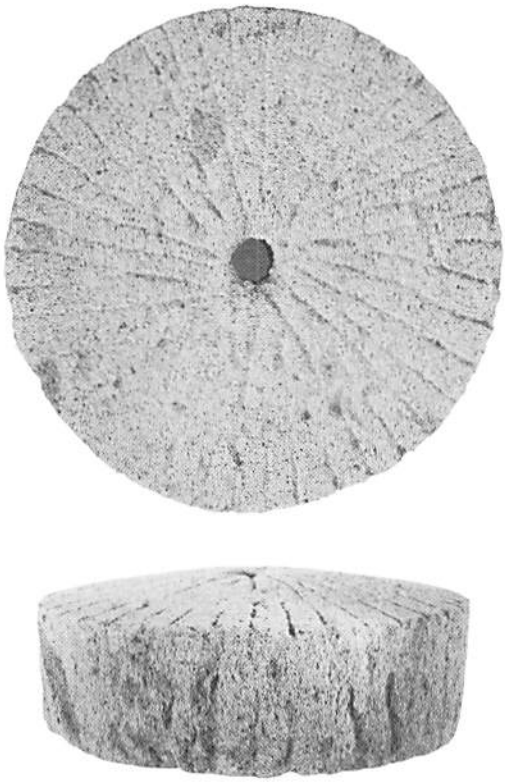


7021

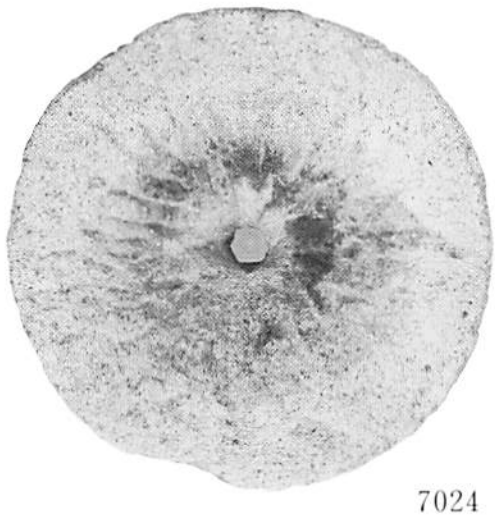
写真図版70　石製品②



写真図版71　石製品③



7025



7024

7026

写真図版72　石製品④

8001

8002

8003

8004

8005

8006

8007

8008

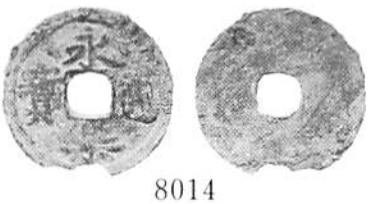
8009

8010

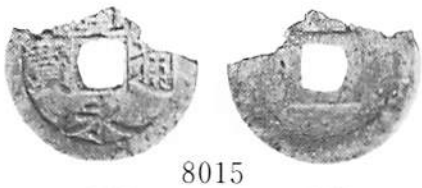
8011

8012

8013


8014

写真図版73　銭貨①


8015

8016

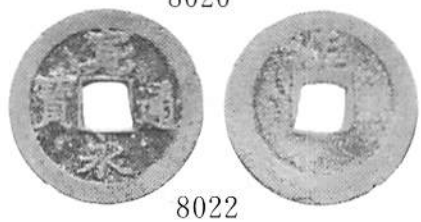
8017

8018

8019

8020

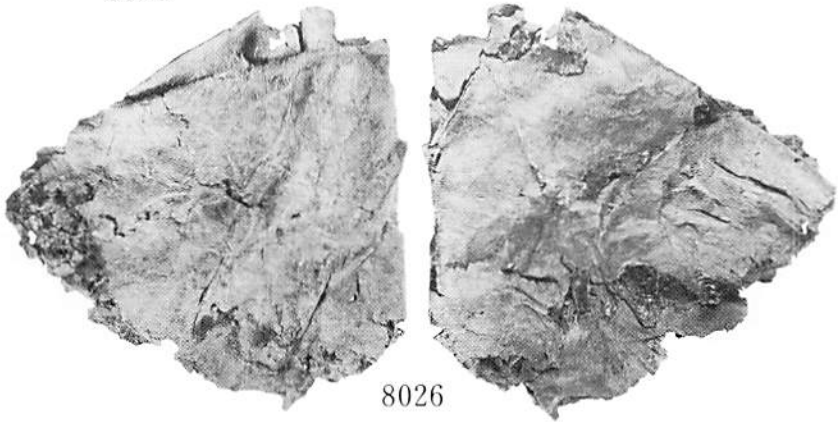
8021


8022

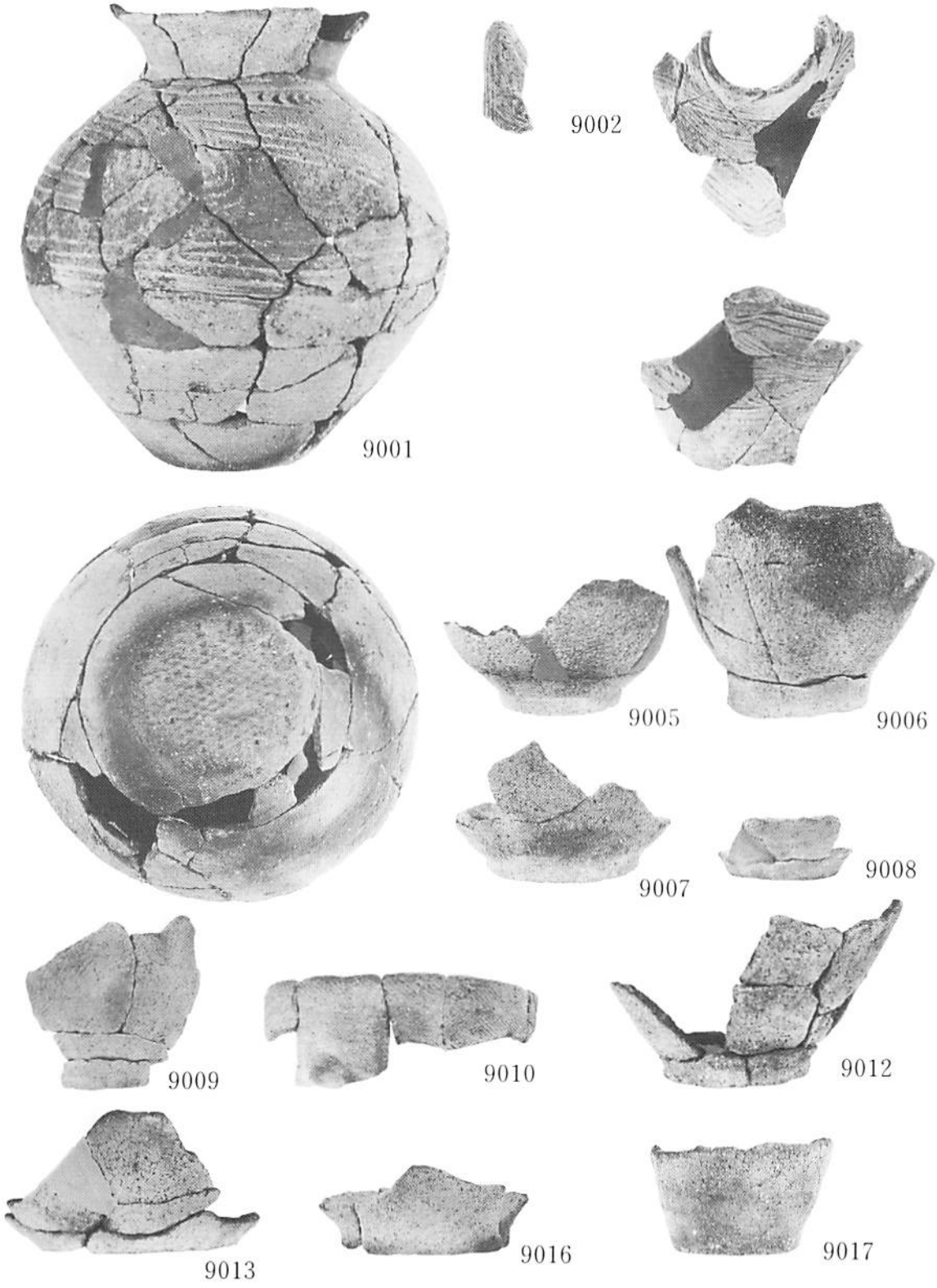
8023

8024

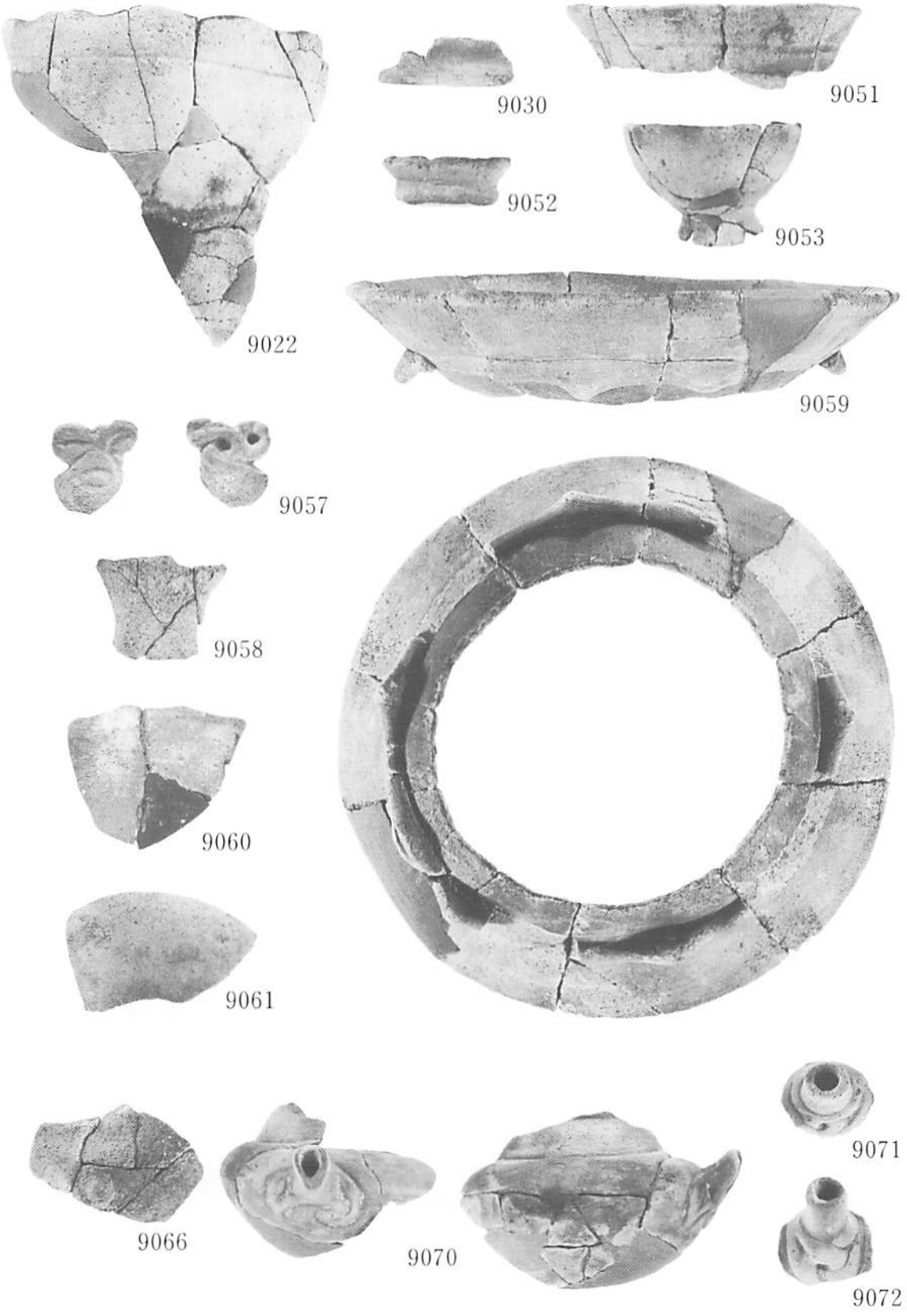
8025


8026

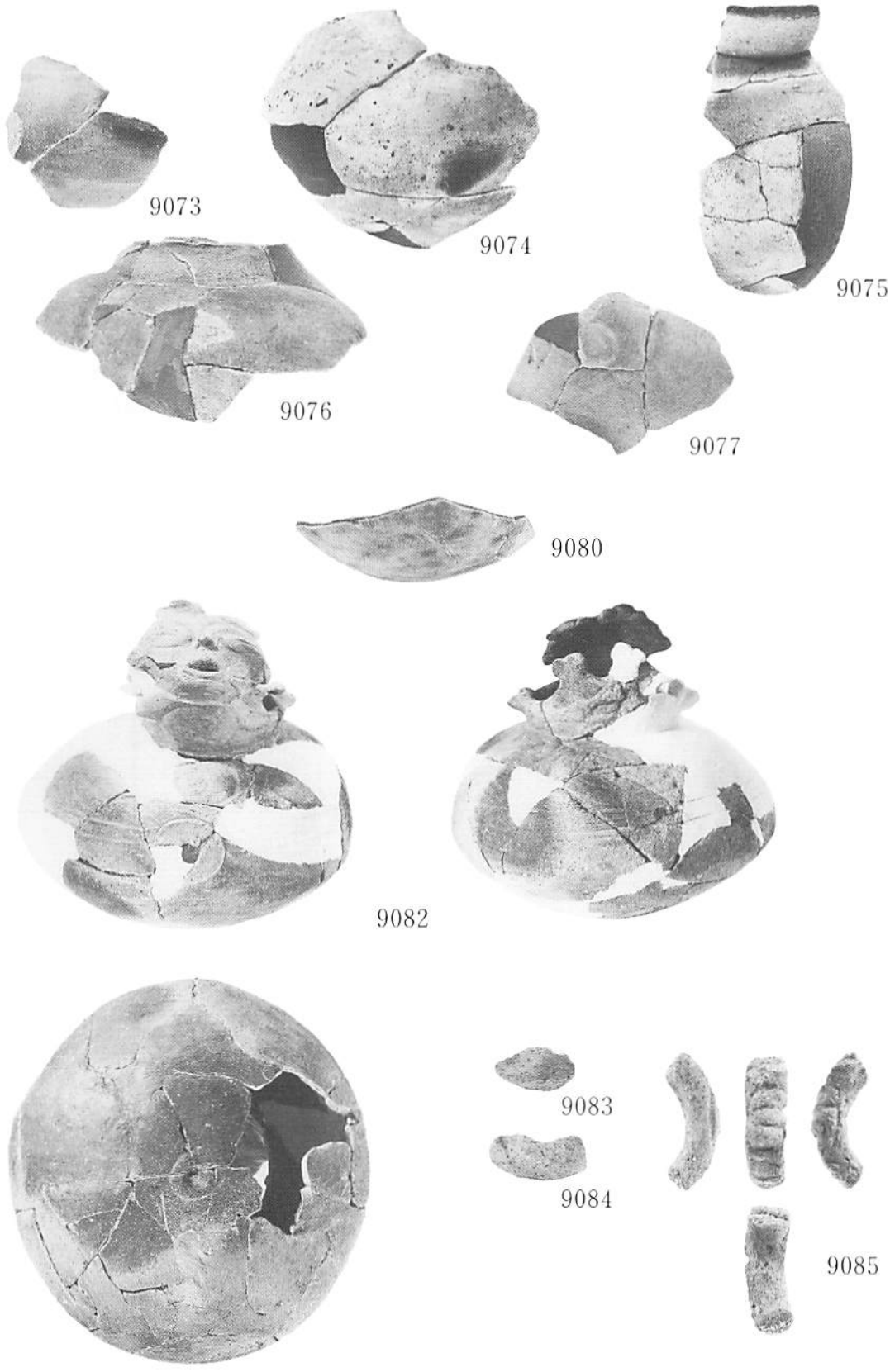
写真図版74　銭貨②



写真図版75　縄文時代の土器①

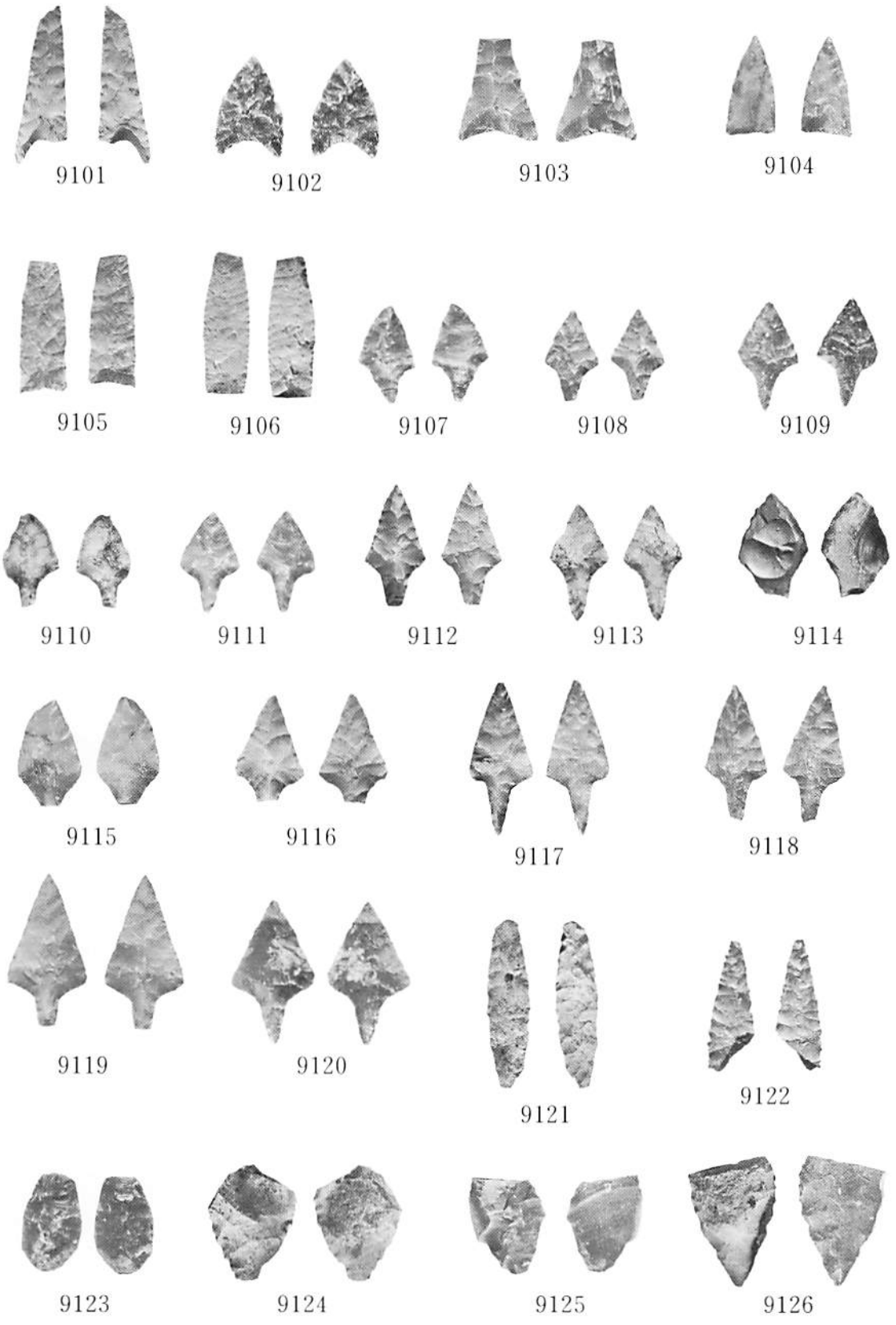


写真図版76　縄文時代の土器②

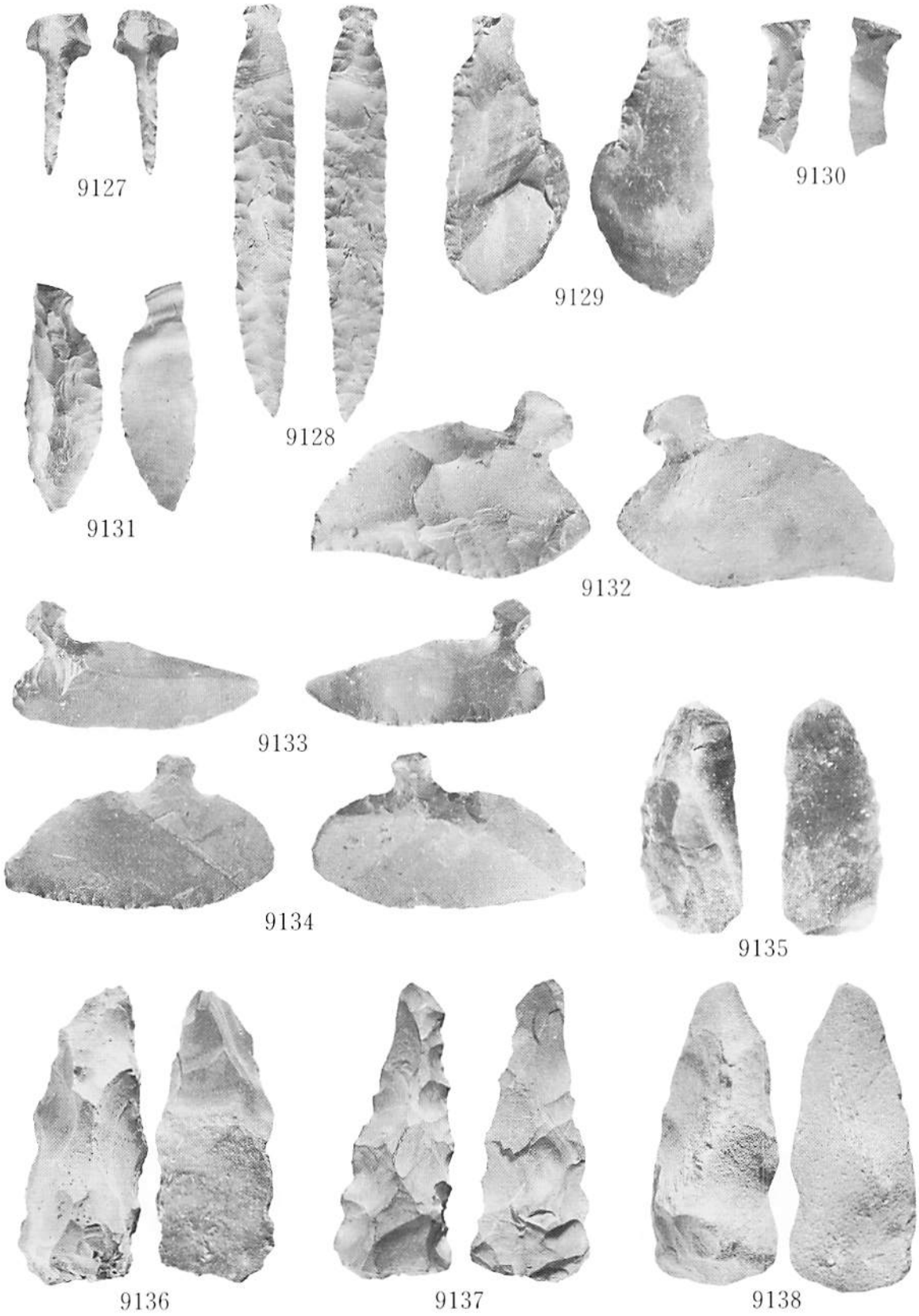


写真図版77　縄文時代の土器③

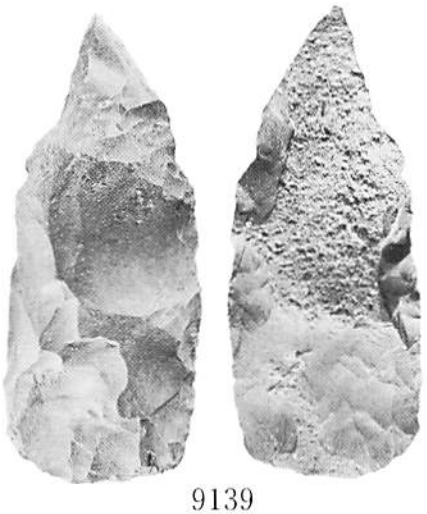
写真図版78　縄文時代の土器④



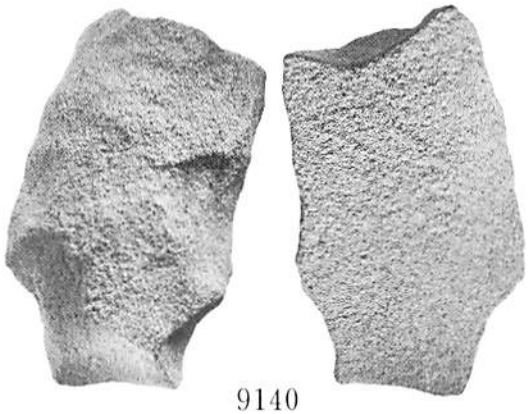
写真図版79　縄文時代の石器①



写真図版80　縄文時代の石器②



9139



9140

9141

9142

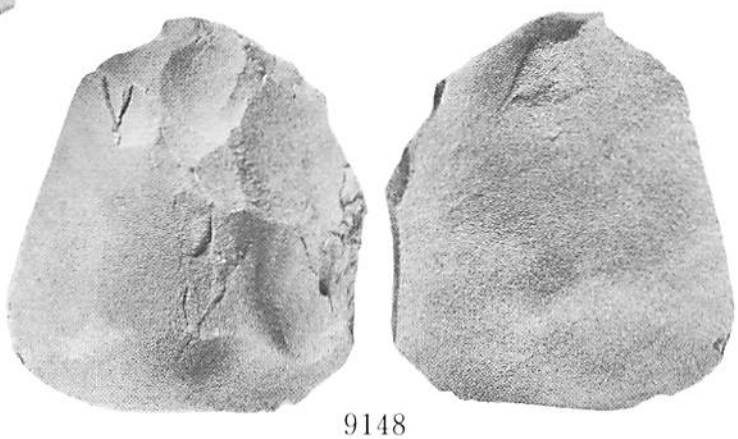
9143

9144

9145

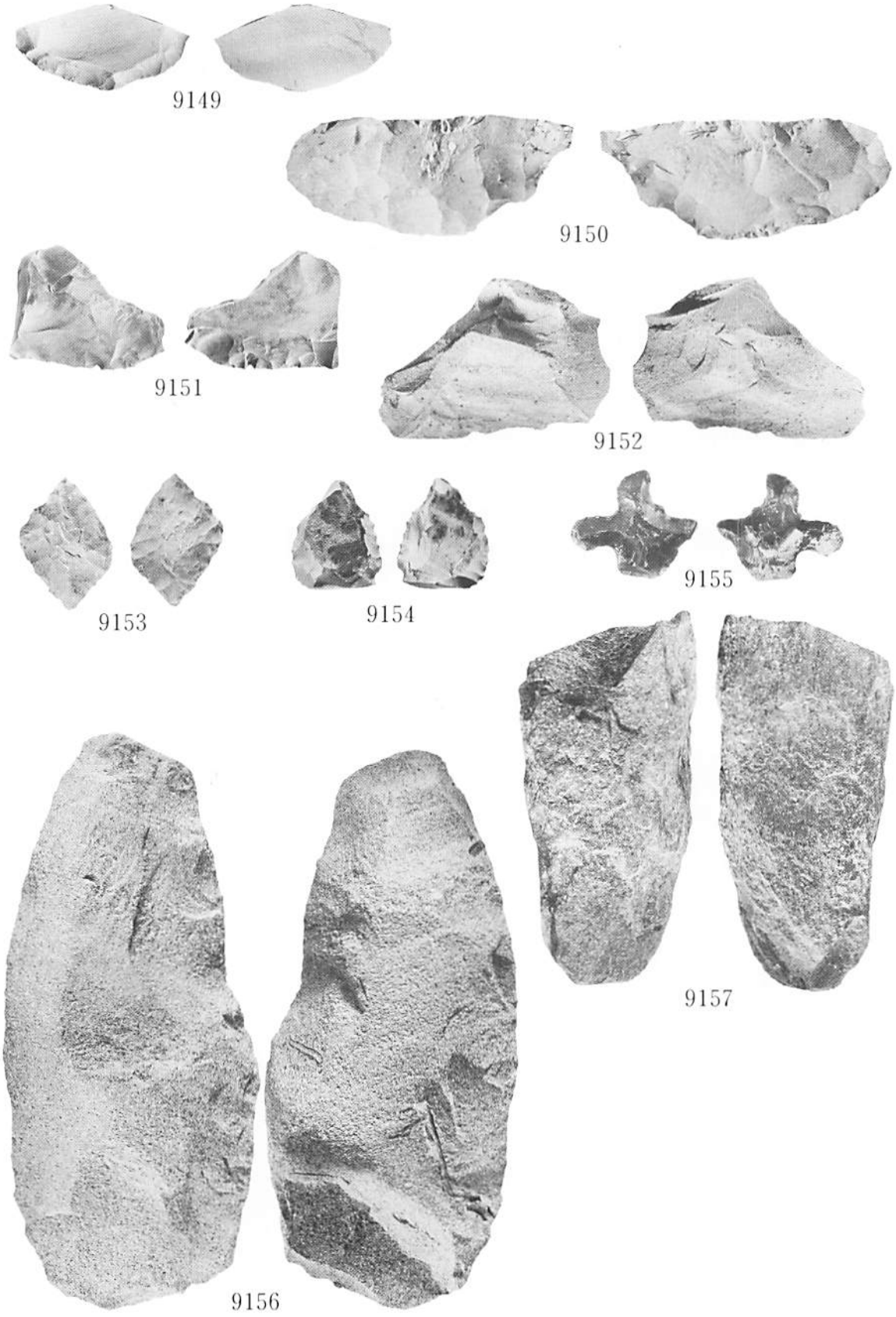
9146

9147

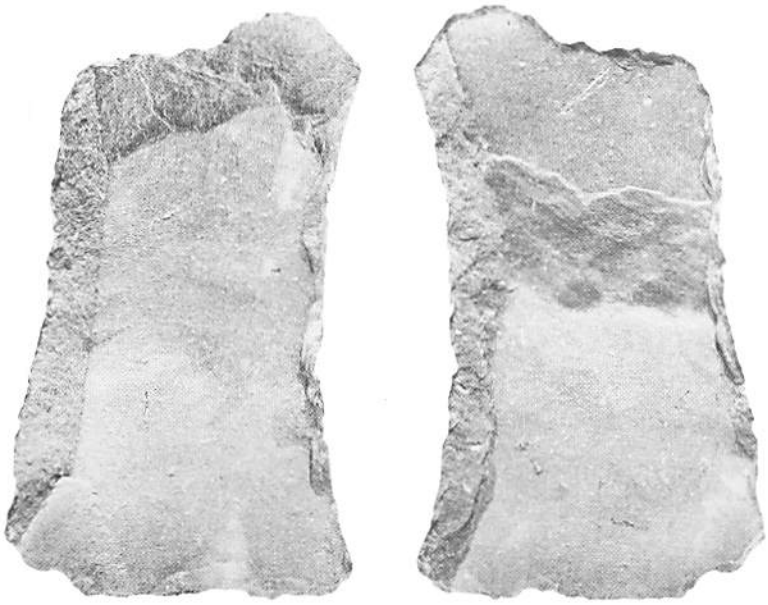


9148

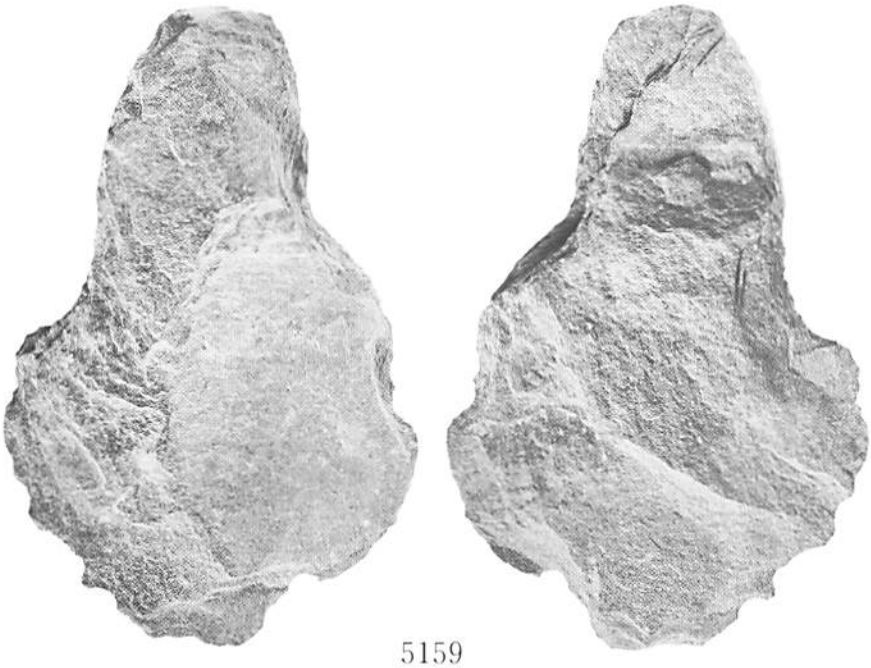
写真図版81　縄文時代の石器③



写真図版82　縄文時代の石器④



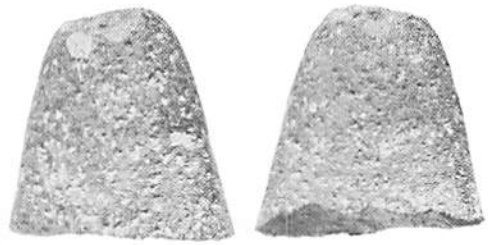
5158



5159

写真図版83　縄文時代の石器⑤

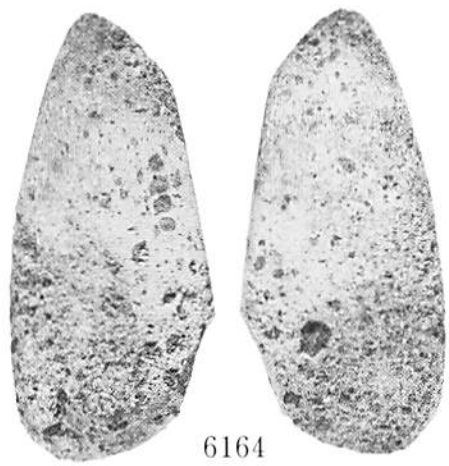
6160



6161

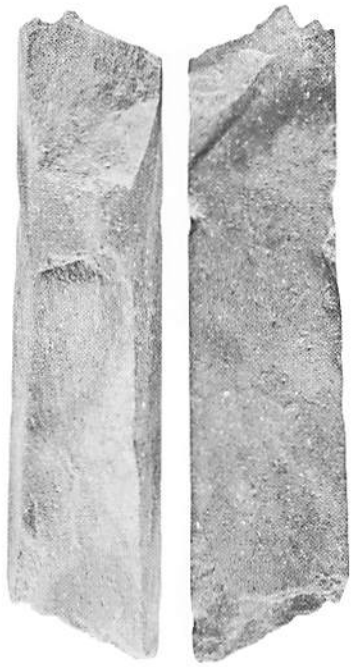
6162

6163



6164

写真図版84　縄文時代の石器⑥

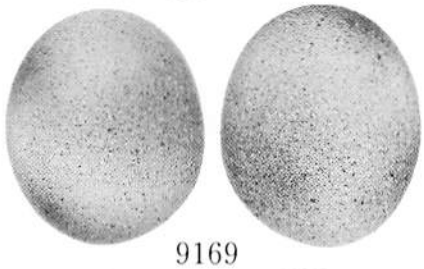


9165

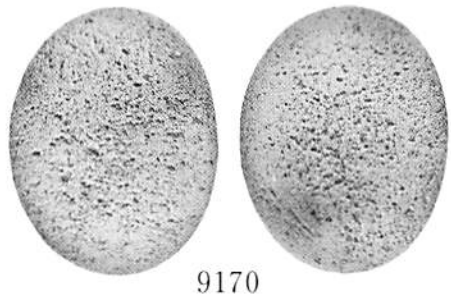
9166

9167

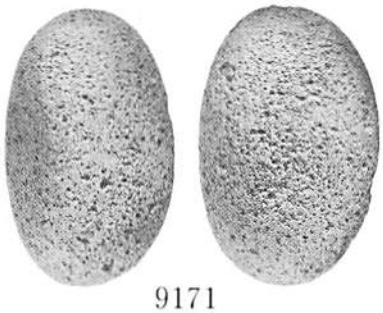
9168



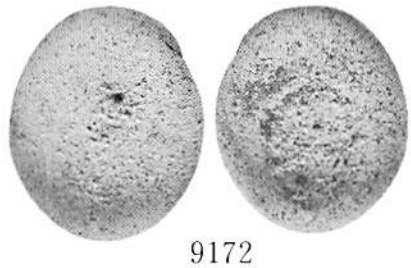
9169



9170

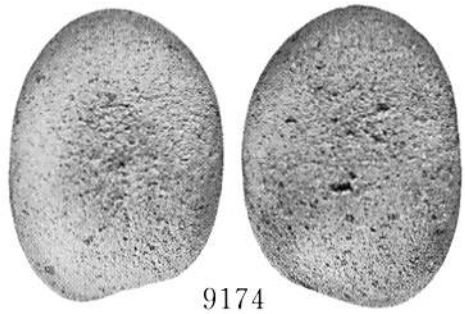


9171

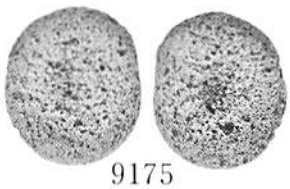


9172

9173

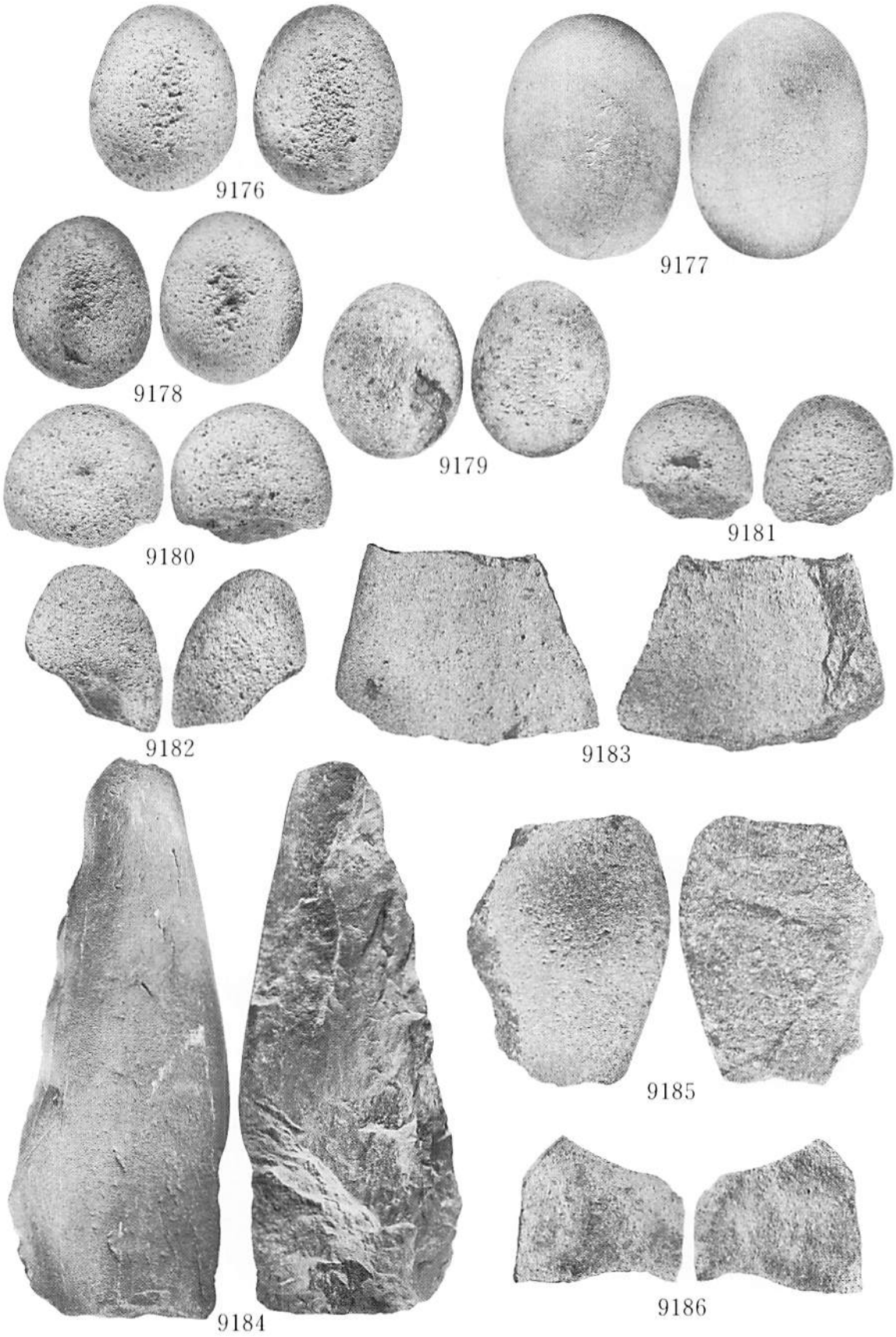


9174

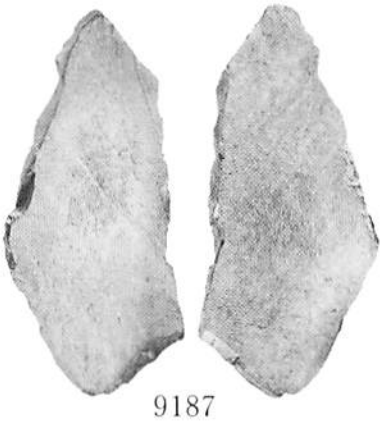


9175

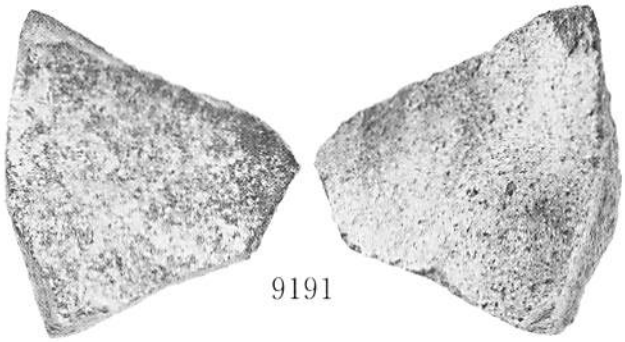
写真図版85　縄文時代の石器⑦



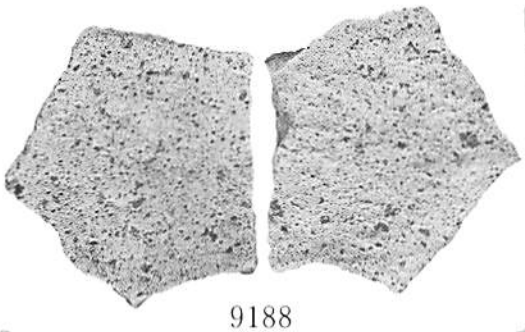
写真図版86　縄文時代の石器⑧



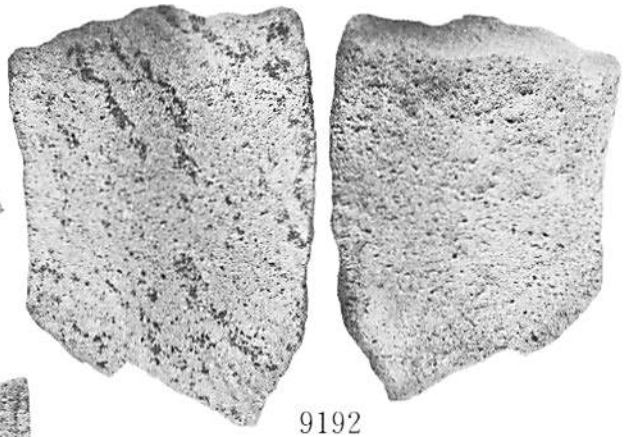
9187



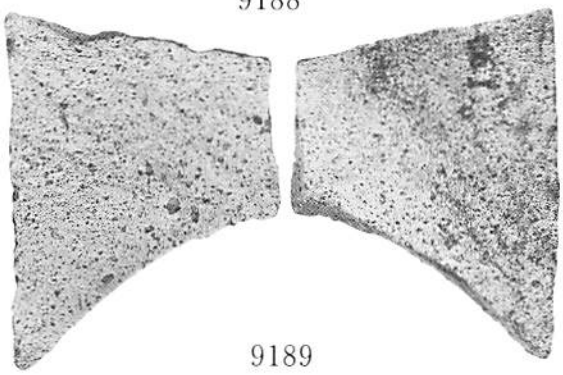
9191



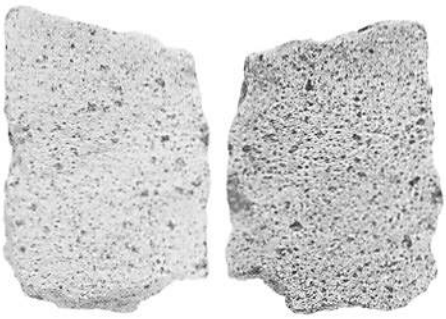
9188



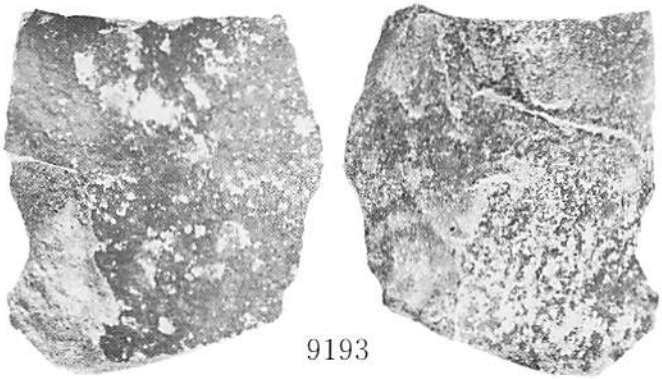
9192



9189



9190



9193

写真図版87　縄文時代の石器⑨

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第399集

泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書

一関遊水地事業関連遺跡発掘調査

（第１分冊）

印刷　平成15年３月20日
発行　平成15年３月25日

発　行　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒　020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185
電　話　(019)638－9001
印　刷　小松総合印刷株式会社
〒　020－0827　岩手県盛岡市鉈屋町15－４
電　話　(019)624－1374

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2003